

2019(令和元)年8月 実施

# 第48回

## 足立区政に関する世論調査

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／  
健康／スポーツ／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／  
「孤立ゼロプロジェクト」など／協働・協創／区の取り組み

2020(令和2)年2月



## はじめに

令和元年8月から9月にかけて実施した「第48回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。例年無作為に抽出した20歳以上の3千人の区民を対象にご協力をお願いしており、今回は1,590人（回収率53.0%）の方々からご回答いただきました。大変お忙しい中、誠にありがとうございました。

まちの変化に対して、また区が実施している様々な施策に対して、区民の皆様がどのように感じ、その感じ方が以前と比べてどのように変化しているのか、いないのかなど、皆様方の「思い」のありかを知る上で、本調査は非常に重要な役割を果たしています。足立区ではその「思い」こそ、未来の当区をより良い方向へと導く羅針盤ととらえ、大切にしているからです。

同じ質問に対しても、地域別・年齢別・居住年別、さらに今回の調査から加えたエリアデザイン別に微妙に回答の傾向が異なる場合も見受けられます。区民の価値観やニーズがこれまでにないほど複雑化・多様化している証しともいえます。限られた職員と財源を使って、何を優先することが区民の皆様の満足感や誇りにつながるのか、調査結果を分析し、今後の事業や予算の組み立てに最大限生かしてまいります。

皆様の「思い」を受け止めるために、本調査ばかりでなくメールや広聴ハガキによる「区民の声」をはじめ、様々なツールを用意しています。是非お声をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

令和2年2月

足立区長 近藤 やよい



# 目 次

<b>第 1 章 調査の概要</b> .....	1
1 調査の目的 .....	3
2 調査の内容 .....	3
3 調査の設計 .....	3
4 調査地域 .....	4
5 調査方法 .....	5
6 回収結果 .....	5
7 報告書の見方 .....	7
8 標本構成 .....	10
<b>第 2 章 調査結果の要約</b> .....	15
1 定住性 .....	17
2 大震災などの災害への備え .....	18
3 洪水対策 .....	20
4 区の情報発信のあり方 .....	21
5 健康 .....	22
6 スポーツ .....	24
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動 .....	26
8 環境・地域活動 .....	28
9 「孤立ゼロプロジェクト」など .....	29
10 協働・協創 .....	30
11 区の取り組み .....	31
<b>第 3 章 調査結果の分析</b> .....	39
1 定住性 .....	41
(1) 居住地域の評価 .....	43
(2) 居住地域評価の経年比較 .....	58
(3) 地域の暮らしやすさ .....	65
(4) 特に暮らしにくいと感ずること .....	71
(5) 定住意向 .....	75
2 大震災などの災害への備え .....	83
(1) 備蓄や防災用具などの用意 .....	85
(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 .....	89
(3) 備蓄量 .....	94
(4) 災害発生時の水や食料の確保 .....	100
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策 .....	103
(6) 対策をしていない理由 .....	106
(7) 地域の避難場所の認知 .....	109

(8) 避難場所の認知経路	111
(9) 大規模災害時の避難生活場所	113
(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	115
3 洪水対策	121
(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知	123
(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処	126
(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先	133
4 区の情報発信のあり方	137
(1) 区の情報の入手手段	139
(2) 必要とする区の情報	144
(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況	148
(4) 区の情報得られない理由	150
(5) 区の情報得られない理由の詳細	152
5 健康	153
(1) 区のキャッチフレーズの認知状況	155
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	157
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況	160
(4) 1日野菜350g以上の摂取	162
(5) 体調や習慣	164
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	169
(7) 自身の健康状態について	172
(8) がん検診制度の感想	175
(9) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況	177
6 スポーツ	179
(1) 日常的な運動・スポーツの実施状況	181
(2) 継続的に実施している運動・スポーツ	183
(3) 運動・スポーツを行っている場所	186
(4) 障がい者スポーツへの意識・行動	188
(5) スポーツボランティア活動への意識・行動	190
(6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること	192
(7) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無	195
(8) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動	197
(9) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ	200
(10) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	202
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	205
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	207
(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み	211
(3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況	215
(4) 治安が改善していることの認知	219
(5) 居住地域の治安状況	222

(6) 区内の治安が良いと感じる点	226
(7) 区内の治安が悪いと感じる点	229
(8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	233
(9) 駐車時の鍵かけ状況	237
8 環境・地域活動	243
(1) 環境のために心がけていること	245
(2) 「食品ロス」という言葉の認知	248
(3) 食品ロス削減のために心がけていること	250
(4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	252
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	259
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	261
(2) 「地域包括支援センター」の認知状況	264
(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	267
(4) 協力意向がある活動内容	270
(5) 「成年後見制度」の認知状況	272
10 協働・協創	275
(1) 「協創」の認知	277
(2) 協働・協創の実践	279
(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	280
11 区の取り組み	283
(1) 満足度と重要度	285
(2) 区政への区民意見の反映度	325
(3) 区に対する気持ち	328
(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）	351
(5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	355
(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	361
<b>第4章 使用した調査票</b>	<b>363</b>







# 第1章 調査の概要



## 1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

## 2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 協働・協創
- (11) 区の取り組み

## 3 調査の設計

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| (1) 調査地域     | 足立区全域               |
| (2) 調査対象     | 足立区在住の満20歳以上の個人     |
| (3) 標本数      | 3,000サンプル           |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間     | 令和元年8月1日(木)～9月6日(金) |
| (6) 調査機関     | (株) マーケティング・サービス    |

4 調査地域

図1 地域区分図

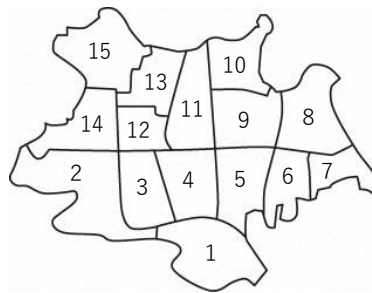


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地 区 町 丁 目 名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

## 5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）  
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

## 6 回収結果

- (1) 標本数 3,000票  
 (2) 有効回収数 1,590票 有効回収率 53.0%  
 (3) 回収不能数 1,410票 回収不能率 47.0%

- (4) 地域別回収結果

表2 調査地域別回収結果

地域名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	580,526	100.0%	3,000票	1,590票	53.0%
第1地域	66,138	11.4	339	194	57.2
第2地域	41,419	7.1	215	113	52.6
第3地域	34,541	5.9	179	100	55.9
第4地域	49,860	8.6	258	121	46.9
第5地域	52,669	9.1	273	127	46.5
第6地域	37,806	6.5	196	104	53.1
第7地域	27,895	4.8	144	73	50.7
第8地域	46,874	8.1	243	139	57.2
第9地域	37,850	6.5	196	114	58.2
第10地域	27,448	4.7	143	65	45.5
第11地域	47,566	8.2	246	132	53.7
第12地域	24,264	4.2	126	69	54.8
第13地域	28,421	4.9	147	85	57.8
第14地域	31,436	5.4	163	91	55.8
第15地域	26,339	4.5	132	62	47.0

(20歳以上人口は令和元年7月1日現在)

※ 有効回収数のうち1票は地域不明

## 第1章 調査の概要

### (5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,590票	53.0%
男性（計）	1,535	727	47.4
20 代	235	69	29.4
30 代	246	82	33.3
40 代	301	120	39.9
50 代	266	147	55.3
60 代	198	121	61.1
70歳以上	289	188	65.1
女性（計）	1,465	856	58.4
20 代	210	66	31.4
30 代	189	118	62.4
40 代	267	157	58.8
50 代	222	149	67.1
60 代	184	120	65.2
70歳以上	393	246	62.6
そ の 他		1	
無 回 答		6	

(注) この表での『その他』は、「性」の回答において、令和元年度より選択肢が新設追加された「その他」を選んだサンプルの数を掲載している。

(注) この表での『無回答』は「性」の回答がなかったサンプルの数を掲載している。なお、令和元年度調査では、「性」を回答していても「年代」を回答していないサンプルはみられなかった。

## 7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載とする。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問4の「あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか」という質問に対して、「当分は住みたい」と答えた人は、1,590人のうち43.0%であった。

回答者数が1,590人、回答の比率が40%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.46%であるから、「当分は住みたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の45.5%から40.5%であると推定できる。

### 〈標本誤差算出式〉

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

<p>b = 標本誤差  N = 母集団数 (足立区の20歳以上人口)  n = 比率算出の基数 (回答者数)  P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------

第1章 調査の概要

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,590	± 1.51	± 2.01	± 2.30	± 2.46	± 2.51
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,590	± 1.50	± 2.01	± 2.30	± 2.46	± 2.51
男性 (計)	727	± 2.23	± 2.97	± 3.40	± 3.63	± 3.71
20 代	69	± 7.22	± 9.63	±11.03	±11.80	±12.04
30 代	82	± 6.63	± 8.84	±10.12	±10.82	±11.04
40 代	120	± 5.48	± 7.30	± 8.37	± 8.94	± 9.13
50 代	147	± 4.95	± 6.60	± 7.56	± 8.08	± 8.25
60 代	121	± 5.46	± 7.27	± 8.33	± 8.91	± 9.09
70歳以上	188	± 4.38	± 5.84	± 6.68	± 7.15	± 7.29
女性 (計)	856	± 2.05	± 2.73	± 3.13	± 3.35	± 3.42
20 代	66	± 7.39	± 9.85	±11.28	±12.06	±12.31
30 代	118	± 5.52	± 7.37	± 8.44	± 9.02	± 9.21
40 代	157	± 4.79	± 6.39	± 7.32	± 7.82	± 7.98
50 代	149	± 4.92	± 6.55	± 7.51	± 8.03	± 8.19
60 代	120	± 5.48	± 7.30	± 8.37	± 8.94	± 9.13
70歳以上	246	± 3.83	± 5.10	± 5.84	± 6.25	± 6.38

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。



## (9) 分類した項目の定義

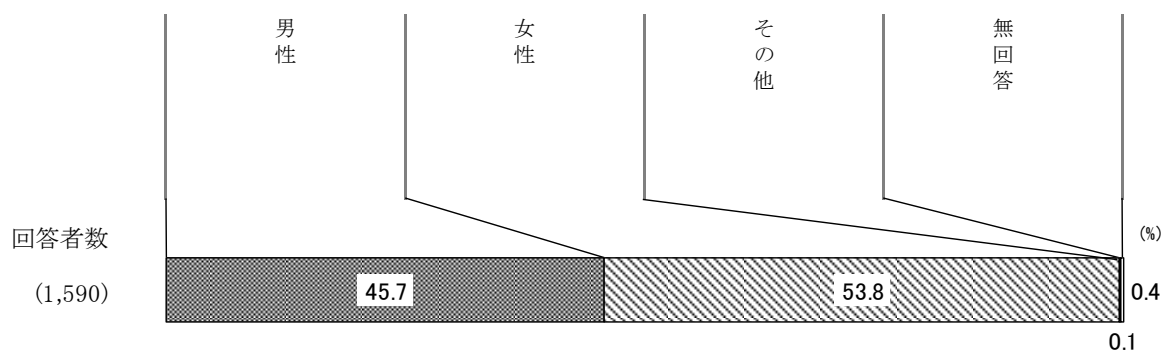
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地 域 別 …… (15カテゴリー)
- ② 性 別 …… (2カテゴリー) ※性別の「その他」は1サンプルだけ  
だったので表側から割愛
- ③ 性・年代別 …… (12カテゴリー)
- ④ ライフステージ別 …… (7カテゴリー)
  - ・ 独身期 40歳未満の独身者
  - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
  - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
    - (家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
    - (家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
  - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
  - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
  - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
    - (一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
    - (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
    - (その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
  - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
    - (壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
    - (壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別① …… (9カテゴリー)
- ⑥ エリアデザイン別② …… (2カテゴリー)
- ⑦ 住 居 形 態 別 …… (8カテゴリー)
- ⑧ 職 業 別 …… (8カテゴリー)
- ⑨ 就労(就学)場所別 …… (6カテゴリー)
- ⑩ 居 住 年 数 別 …… (6カテゴリー)

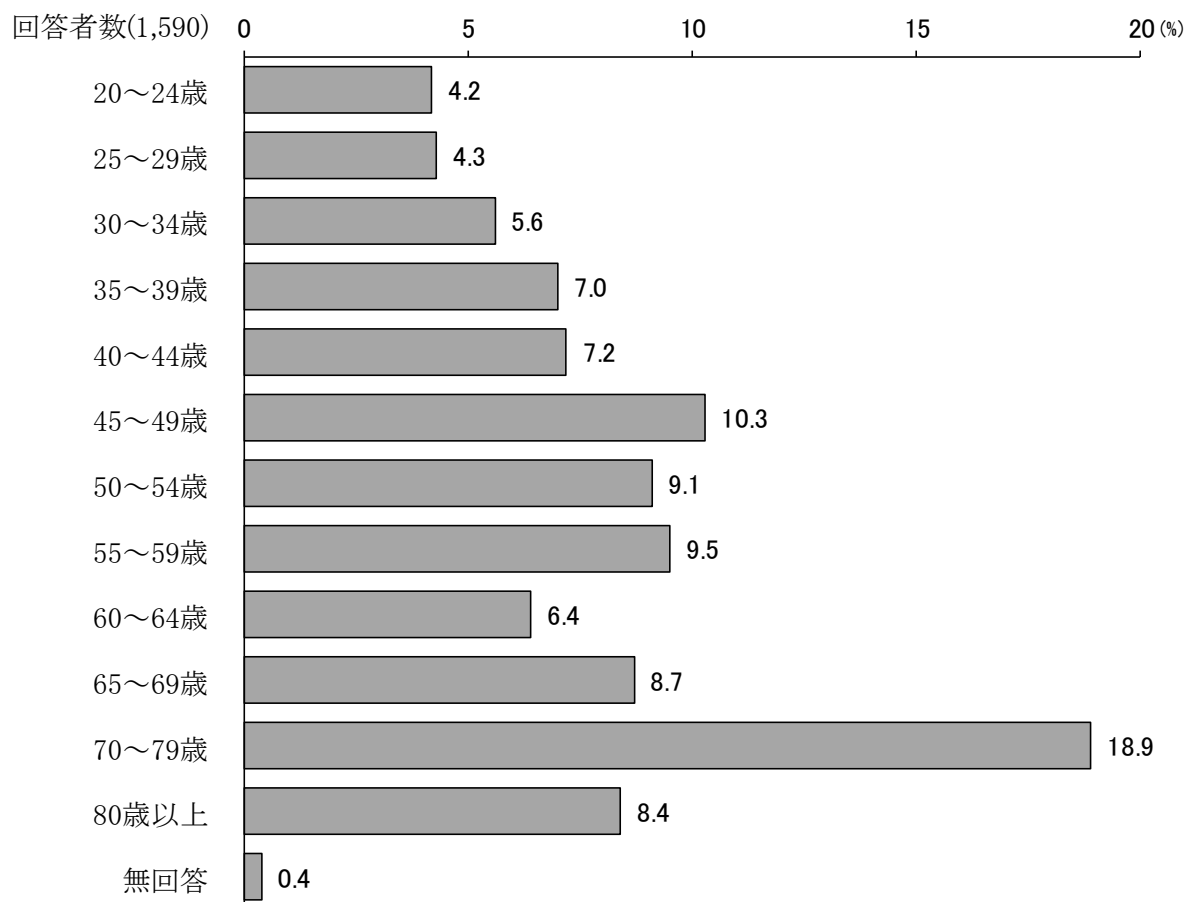
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

## 8 標本構成

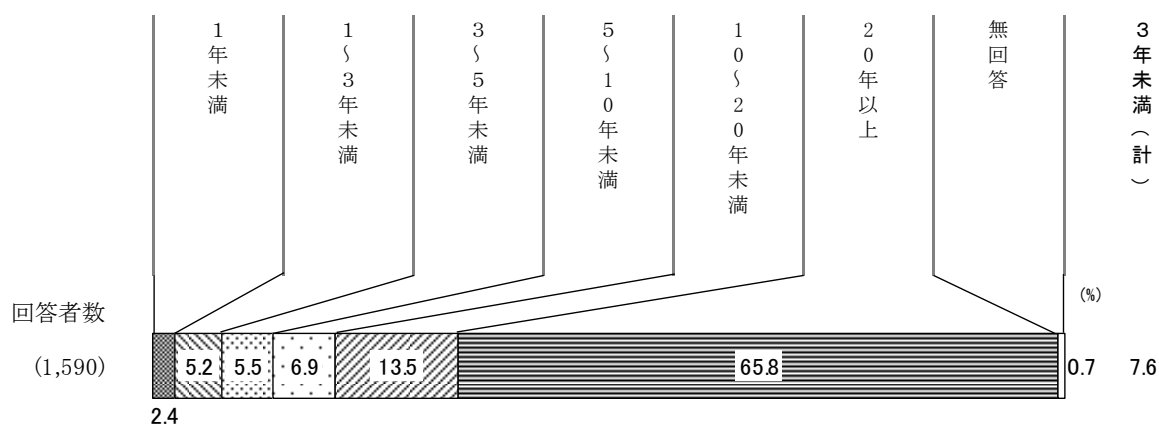
### F1 性別



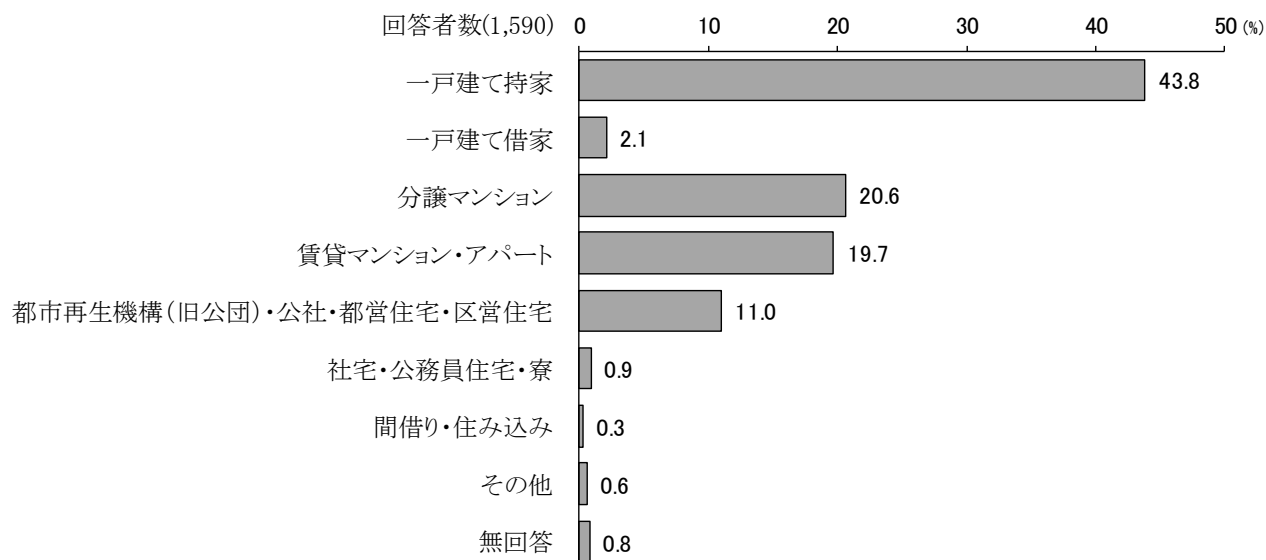
### F2 年齢



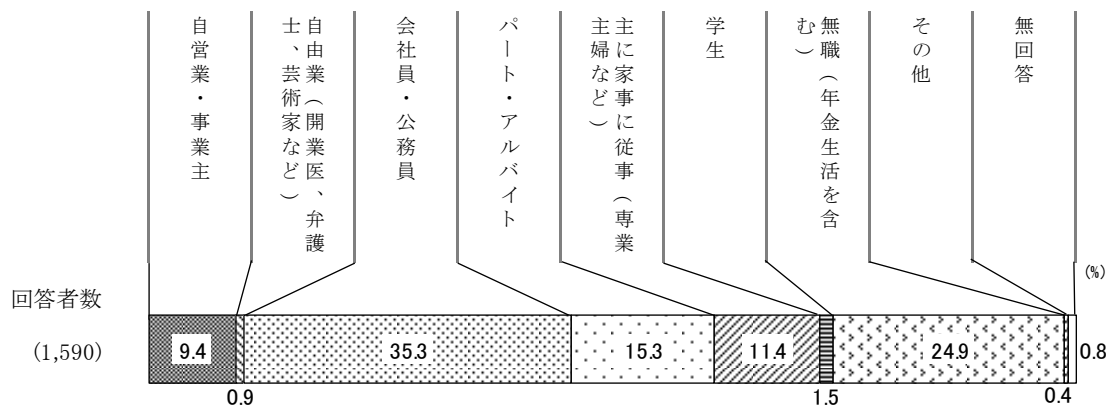
F 3 居住年数



F 4 住居形態

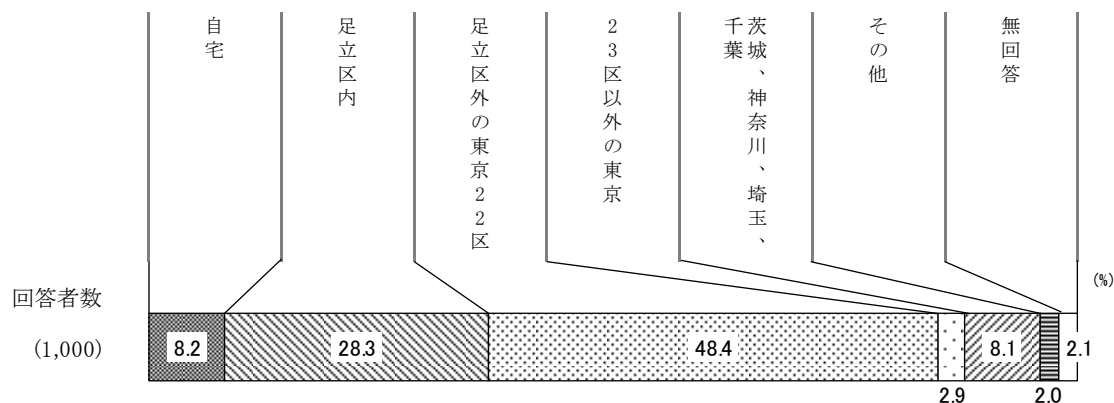


F 5 職業

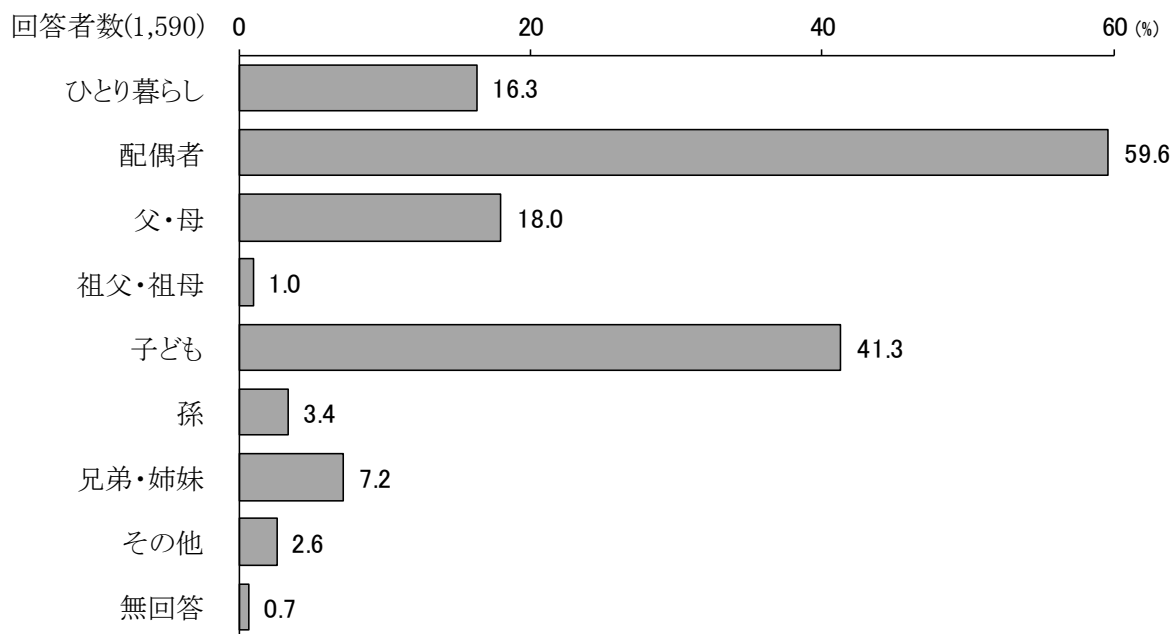


第1章 調査の概要

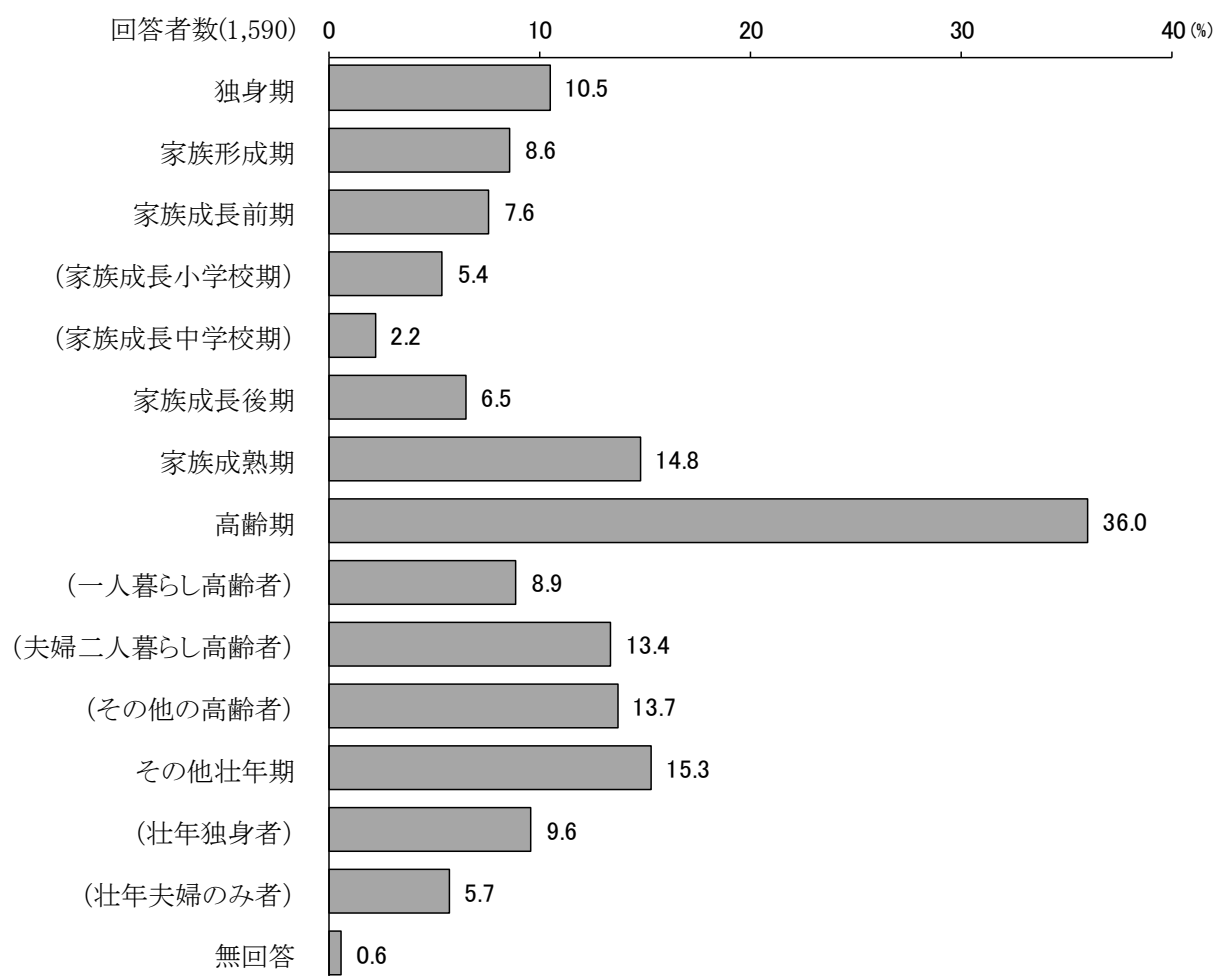
F 6 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】



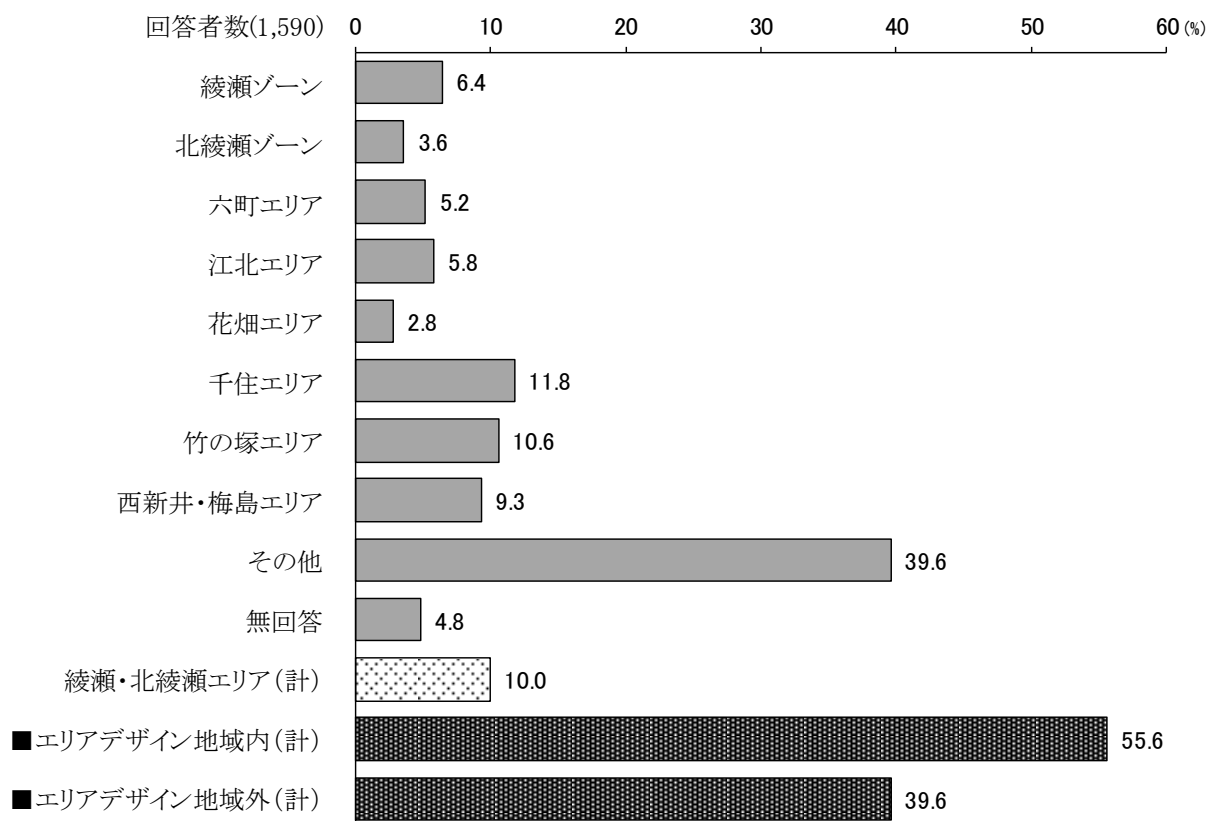
F 7 同居家族（複数回答）



## F8 ライフステージ



F9 エリアデザイン



## 第2章 調査結果の要約





## 1 定住性

### (1) 「普段の買い物が便利である」と感じている人は7割台半ば

居住地域の評価については、〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈子育て環境が整っている〉〈普段の買い物が便利である〉〈快適で安全なまちである〉の4項目で、肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が半数を超えて多く、高い評価となっている。

また、居住地域の状況について経年変化で聴取した設問では、〈ペットのふん〉と〈ごみやタバコのポイ捨て〉で【減っている】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）が半数前後を占めているが、〈ペットのふん〉では、【減っている】が前回の平成30年調査に比べて3.2ポイント減少している。

一方、居住地域の評価のうち、前回までの〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉から、今回〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉に表現をかえた項目の評価は、否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が、7割弱と多くなっており、引き続き、区民の交通マナー意識の向上が求められる。また、全体では肯定的評価がほぼ7割を占めた〈通勤や通学などの交通の便がよい〉を地域別にみると、第1地域と第6地域の両地域で9割弱と高い一方で、第8地域、第10地域、第14地域の計3地域では肯定的評価が5割以下にとどまり、地域差が顕著になっている。

### (2) 「暮らしやすい」は3年連続で8割強

地域の暮らしやすさへの評価をみると、【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は、全体で8割強と例年と同様の高い水準となっているが、これを地域別にみると、第2地域では6割台と低くなっている。

【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）と回答した人に、特に暮らしにくいと感じることを聴いた結果は、「交通の便の悪いこと」が4割台半ばで最も高く、これに「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割弱で続き、これまでの例年と同様に、上位となっている。

### (3) 定住意向がある人は、前回と同じく8割弱

【定住意向】（「ずっと住みたい」＋「当分は住みたい」）は8割弱と、例年と同様の高い水準を示しており、地域別にみても、全15地域で7割以上となっている。

居住地域の利便性や快適性、美化意識の向上は肯定的にとらえられ、全体としての暮らしやすさへの評価や定住意向は、高い水準を維持している。しかしながら、一部の地域では〈交通の便の悪さ〉が強く感じられており、それが暮らしやすさへの評価が低い水準にとどまっている要因のひとつと推察される。

### (4) 今後の課題

今後は、これらの地域差の解消を図るとともに、住民のマナー意識の啓発など、各種の取り組みを一層強化し、暮らしやすさへの評価をさらに向上させることによって、区民の定住意向をより強めていくことが必要となろう。

## 2 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約8年半が経過した令和元年調査時における、区民の防災意識や日頃の備えはどのようになっているのだろうか。

### (1) 家庭備蓄をしている人は3人に2人の割合

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は、今回は66.4%と、平成30年調査結果（67.1%）とほぼ同レベルの数値となっているものの、震災半年後の平成23年調査結果（73.6%）に比べて低い水準にとどまっている。

このように、震災直後に比べて、区民の防災への意識が低い状況は続いており、日頃からの区民の防災意識を高めていく取り組みの必要性は変わっていない。

### (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容として、「水」が9割弱、「食料」が8割

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「食料」「あかり」が8割弱から9割弱と高くなっているのに対して、「医薬品」は4割強、「簡易トイレ」や「救急セット」などは2割台にとどまっており、備蓄内容に大きな差がある状況に変化はみられない。

また、水と食料の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が「水」で4割強、「食料」で5割弱と多くなっているのに対し、「1週間分以上」は「水」が1割強、「食料」が1割弱にとどまっている。

この結果は、例年の調査結果とほぼ同様であり、今後も、医薬品やトイレをはじめとして、備蓄内容をより充実させるとともに、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に少しでも近づくよう、区民の取り組みを促進していくことが重要である。

さらに、災害時の水や食料の確保について、「考えていない」という人がほぼ4割を占めている。また、今回からの新設選択肢である「避難所でもらう」（21.5%）が「通常どおりスーパーなどで購入する」（21.1%）と並んで2割強みられる。

このように、震災直後に比べて、区民の防災への危機意識が低下しつつある様子が引き続き窺えるため、日頃から災害への備えをしてもらうよう、今後も継続的に啓発していくことが重要である。

### (3) 転倒・落下・移動防止対策をしている家具類は少ない・対策を行っていないが7割

家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は26.7%と、前回（28.0%）とほぼ同様となっており、平成25年以降7年間に亘って3割弱のまま推移している。

また、全体の7割を占める【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人たちのその理由としては、例年同様「面倒である」が3割弱と最も高くなっており、引き続き家具類の転倒・落下・移動の危険性を区民に啓発していく必要がある。

### (4) 地域の避難場所を知っている人は前回同様5割台半ば

今回の調査でも、地域の避難場所の認知状況を聴取しているが、前回同様、「知っている」は5割台半ばで、「なんとなく見当がつく」が3割強、「知らない」が1割強となっていることから、引き続き、「あだち防災マップ&ガイド」や「あだち広報」、スマートフォン対応アプリ「足立区防災ナビ」等のさまざまな情報媒体を活用して、区民の避難場所の認知度をさらに向上させていく必要がある。

**(5) 大地震の際の防災対策で区に力を入れてほしいこととして、「衛生対策の充実」「水・食料の備蓄対策」「ライフライン確保」が6割前後で上位**

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」「水・食料の備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」の3項目が、いずれも6割弱から6割強に達し、上位3位を占めるという回答傾向に今回も変化はみられず、今後もこれらの分野への取り組みを推進する必要がある。

**(6) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が3年続けて5割台半ば**

区民の半数以上が、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として「避難所」を想定していることを踏まえて、避難所における良好な生活環境の確保に力を入れていくことも重要である。

### 3 洪水対策

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがある人は8割弱で、4年続けて確実に上昇

『足立区洪水ハザードマップ』を【見たことがある】（「見て、自宅周辺の状況を理解した」＋「見たが、内容までは覚えていない」）は今回78.6%と、前回の68.8%より9.8ポイントも増加して、初めて聴取した平成27年の52.8%以降、各年順調に伸びている。しかし、「そのような地図は見たことがない」という人もまだ2割近くみられ、今後も、このマップの存在を広く区民に周知して、起こり得る水害を理解してもらうことが重要である。

(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処として、「区から避難勧告・指示が発令されたとき」に避難をする人が8割弱で最も多い

河川がはん濫し、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合の対処について、「避難する」の割合が高い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が77.9%と最も高く、以下〈近所の人々が避難をしているのを見たとき〉で55.7%、〈自宅付近が浸水したとき〉で52.4%、〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉で33.6%、〈足立区に大雨・洪水警報が出されたとき〉で22.4%の順で続いている。各項目について「避難する」と回答した人の割合を、前回の平成30年調査の結果と比較すると、各項目ともに±2.0ポイント未満の増減にとどまり、ほとんど変化はみられない。

(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先として、「近くの学校や公共施設」と「自宅の高層階（3階以上）」がそれぞれ2割台半ば

荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されるが、その場合の最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が26.7%、「自宅の高層階（3階以上）」が25.1%と、それぞれ2割台後半で上位となっており、平成27年以降の各年の調査結果と比べても大きな変化はみられない。一方で、「区外の親戚や知人の家」や「区外の浸水しない高台など」に避難すると答えた人はともに3%未満と少ない。

(4) 今後の課題

今後も、『足立区洪水ハザードマップ』の認知度と内容理解の一層の向上を図るとともに、荒川の大規模水害から命を守るための広域避難など、洪水が迫っている場合に区民が適切に対処できるよう、幅広い支援を行っていくことが課題である。

## 4 区の情報発信のあり方

### (1) 区の情報入手手段として、「あだち広報」が7割強で変わらず首位

区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が今回71.1%と、平成25年の調査結果(79.7%)からはやや漸減傾向にあるものの、依然として高い水準を維持してトップにある。一方、今回次点の「インターネット(区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック)」の比率は、平成25年の24.2%から年々上昇して今回は33.4%と、「ときめき」(31.9%)や「町会・自治会の掲示板・回覧板」(30.4%)を上回る結果となっている。性・年代別にみると、「あだち広報」および「ときめき」や「町会・自治会の掲示板・回覧板」の紙媒体は、男女ともに60代以上の高齢層で高くなっているのに対して、「インターネット(区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック)」は、男女ともに30代と40代で多く利用されている。

こうした状況を踏まえて、今後も「あだち広報」や「ときめき」「町会・自治会の掲示板・回覧板」のような紙媒体の重要性を認識し、その内容の一層の充実を図るとともに、インターネットを利用して自ら積極的に情報を得ようとする区民に対し、適切な情報を発信していくことが必要である。

### (2) 必要とする区の情報として、「健康と福祉」と「災害や気象」が6割前後で上位

区が発信する必要がある情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」(62.5%)と「災害や気象に関する情報」(59.8%)が6割前後で上位2項目となっており、以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」が50.9%で続き、概ね例年と同様な結果となっている。この結果を性・年代別にみると、「災害や気象に関する情報」が女性の40代から60代の中高年3年代層とともに7割前後に達して高く、「出産や育児、就学に関する情報」が男女ともに30代で5割台半ばと高くなっている。

### (3) 必要な時に必要とする区の情報「得られている」が前回同様7割強

こうした情報が「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)は、今回71.9%で、経年比較でみると、平成25年の60.5%から10ポイント以上増加している。一方、【得られない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は、平成25年の17.3%から、今回11.7%と漸減する傾向にあり、これらの結果から、区民への情報提供は、徐々にではあるが確実に進んでいる様子が窺える。

しかしながら、依然として区民の1割強は、必要なときに区の情報【得られない】と答えており、その主な理由としては、「情報が探しにくい」と「情報の探し方がわからない」の2項目がそれぞれ3割前後で多くなっている。

### (4) 今後の課題

今後も、区からの情報が必要な時に【得られている】という層を増やし、【得られない】という層を減らしていくためには、多角的かつ効果的に行政情報を届けることが求められる。

なお、「区の情報に関心が無い」と答えた人も少数(4.1%)ながら存在するため、このような区民にどのように関心をもってもらえるかも今後の課題となろう。

## 5 健康

### (1) 区のキャッチフレーズを「知っている」は4割弱

『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が11.3%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(26.7%)を合わせた【知っている】は38.0%で、「知らない(初めて聞いた)」が59.2%となっている。経年でみると、今回の【知っている】(38.0%)は、平成28年調査の30.6%からは7.4ポイント増加しており、健康な生活を送るうえでの野菜摂取の重要性についての認識は区民の間に徐々に浸透してきている様子が窺える。

しかしながら、性・年代別にみると、【知っている】は、女性の30代と40代及び70歳以上ではそれぞれ5割前後と高い一方で、男性の20代から50代の若中年層および女性の20代では1割台半ばから3割未満と低くなっている。このように、区民の認知度には性別、年代による差があることから、区のキャッチフレーズの周知活動を一層推進していくことが重要である。

### (2) 糖尿病の進行による病気や障がいと思うものとして、「失明」と「足の壊疽」が6割台半ばで上位

糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいだと思うものについては、ここ数年の回答傾向と同様に、今回も「失明」「足の壊疽(えそ)」「口の渇き」「人工透析」などが高くなっているものの、「神経障がい(手足のしびれ)」や「網膜症」のような《重篤な合併症の兆候》を示すものについては、依然として3割前後にとどまっている。

### (3) 野菜から「食べている」人は7割弱

糖尿病の予防には、“食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である”と言われていたのに対し、「(野菜から)食べている」という人は67.2%を占めているが、経年でみると平成28年の64.7%からほぼ横ばい状態となっている。

また、野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされているが、実際に【できている】(「できている」+「だいたいできている」)は、今回42.4%で前回より2.7ポイント増加しているものの、平成25年以降各年4割前後と大きな変化はみられない。

今後も、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについて、継続して区民の理解を深めていくとともに、あらゆる性別、年代の区民に対し、糖尿病予防における野菜摂取の重要性を一層周知していくことが重要である。

### (4) 自分は「健康である」と自認している人は3人に2人の割合

今回の令和元年調査より4段階評定で聴取した「自身の健康状態」の結果をみると、「健康な方だと思う」(62.1%)が6割強を占めて多く、これに「非常に健康だと思う」(4.2%)を合わせた【健康である】が66.4%と6割台半ばを占めている。一方、【健康でない】(「あまり健康ではない」+「健康ではない」)と感じている人は、31.6%と3割を超えており、性・年代別では、男性30代が4割を超えるのを筆頭に、全年代で男性の方が女性より高い。

また、健康維持のために実行している、心がけていることとしては、平成25年以降、「毎年健康診断を受けている」と「毎日朝ごはんを食べている」がともに6割台半ばで高くなっている。今後も、健康づくりのために、区民に対して、食生活の改善、運動の実践、各種健診・検診の受診等に取り組んでいくよう促していくことが必要である。

なお、平成25年から30年まで経過的にみると、喫煙率が減少し、運動習慣がない人の割合も減少、一方、主観的な健康観は上昇し、健診受診率は高まっている。あだちベジタベライフの

取組みが、こうした生活習慣等に良い影響を与えていると思われる。

**(5) がん検診制度の感想として、「忙しくて、平日は受けられない」が2割台半ばで最多も、感想は多岐にわたる**

区民のがん検診についての意識をみると、「忙しくて、平日は受けられない」が23.7%、「自分が対象かどうかわからない」が18.1%、「がん検診を申し込む手続きが面倒である」が17.5%で例年同様上位となっており、区のがん検診を実施する上で、さまざまな課題があることがわかる。今後も引き続き、区民のがん検診を受けやすい環境を整備し、受診率の向上を図っていくことが重要である。

**(6) 「ゲートキーパー」という言葉を「知らない（初めて聞いた）」が8割台半ば**

令和元年調査から聴取した「ゲートキーパー」という言葉の認知状況は、「内容まで知っている」が2.5%、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が11.6%で、これらを合わせた【知っている】は14.1%にとどまり、「知らない（初めて聞いた）」(83.5%)が8割以上を占めて多い。

## 6 スポーツ

### (1) 日常的に運動・スポーツは「していない」という人が4割強

日常的な運動・スポーツの実施状況を見ると、「30分以上の運動を週2回以上」(18.0%)が2割弱で、以下「年に数回(時間は問わない)」までを含めた【運動している】(56.2%)は5割台半ばに達するものの、「運動・スポーツはしていない」(42.1%)も4割強を占めており、ほぼ前回までと同じような回答分布となっている。性・年代別にみると、「30分以上の運動を週2回以上」している人は、男女ともに60代と70歳以上の高齢計4層で、それぞれ2割台とやや高くなっている。

### (2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が4割台半ばで突出

【運動している】と回答した人に、継続的に実施している運動・スポーツを聞いた結果は、「ウォーキング」が46.2%で最も高く、続いて「健康体操(エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど)」(21.9%)と「筋力トレーニング」(20.8%)が2割強で並んで上位となっている。

この結果を、性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の60代と70歳以上でともに6割台後半と高く、「健康体操」は女性の20代で4割弱と最も高いものの、50代以上の女性高齢3年代層もそれぞれ3割前後で続き、「筋力トレーニング」は男性の20代と30代でともに約5割と高くなっている。また、運動・スポーツの実施場所については、「自宅周辺」(41.7%)と「自宅」(28.5%)が上位となっている。

これらの結果から、男女ともに高齢層を中核に、若年層も加わって、継続的かつ定期的な運動の重要性がより強く認識されるようになり、自宅を含む周辺地域で気軽にできる運動が好まれる傾向にあると推察される。

### (3) 障がい者スポーツへの意識・行動として、「観戦してみたい」が2割強

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が1年後に近づき、パラリンピックが注目されている中で、障がい者スポーツについて、どのようなことをしてみたいかを聞いた結果は、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい(テレビやインターネットでの観戦を含む)」と回答した人が22.4%で最も高いものの、「特にない」(48.6%)と「わからない」(18.7%)もそれぞれ多い。

また、スポーツボランティア活動について、どのようなことをしてみたいかを聞いた結果では、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」(8.3%)と「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」(6.2%)が上位にあがるものの、いずれの項目も少数にとどまり、「特にない」が61.0%と6割を超えて多く、「わからない」(18.3%)も2割弱となっている。

### (4) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があることとして、「交通網・交通インフラの整備」が2割強で最多も、「特にない」が4割弱に達する

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があることでは、「交通網・交通インフラの整備」が23.0%で最も高く、以下「会場外での観戦(パブリックビューイングなど)」(13.6%)「会場での応援活動」(12.3%)の順で続いている。一方、「特にない」は38.3%となっている。



**(5) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動について、始めたい活動がある人は1割台半ばみられるも、「ない」人が7割台半ばと多数**

オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無について、「ある」と回答した人は、前回より3.0ポイント減の16.2%と1割台半ばで、「今までの活動を継続」と回答した人は前回とほぼ同じ5.7%となっている。一方、新たに始めたい活動は「ない」と回答した人が、前回より3.5ポイント増の74.3%で7割台半ばを占めている。性・年代別にみると、「ある」との回答は、男性では40代で2割強、女性では3割強の20代を筆頭に、40代と50代もそれぞれ3割弱と高くなっており、女性の若年層と男女の中年層で活動への意欲が高まっている様子が窺える。

新たに始めたい活動が「ある」、または「今までの活動を継続」と回答した人に、その活動の内容を聴いたところ、「スポーツをする・スポーツを観戦する」が69.8%で最も高く、「ボランティア活動」と「文化活動をする・伝統文化などを観る」(各22.4%)、「語学(英語等)」(20.4%)がそれぞれ2割から2割強で並んでいる。

新たに始めたい活動が「ない」と回答した、全体の7割台半ばを占める人たちに、どのようなきっかけがあれば初めてみようと思うか聴いたところ、「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」(9.7%)、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」(8.0%)「外国人との交流」(7.0%)がそれぞれ1割弱となっている。一方、「始めようとは思わない」が7割強を占めて多くなっている。

今後は、障がいの有無に関係なく、だれもが気軽に運動・スポーツができる環境をさらに充実させていくとともに、間近に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、あらゆる年代の区民の興味や関心を引き出すようなイベントの開催や情報の発信など、区の取り組みを一層促進させ、大会後のレガシーに繋がるような施策を展開していくことが必要であろう。

**(6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度は「現行のまま継続すべき」が4割台半ばで主流**

足立区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度(高齢者免除制度)については、34.9%が何らかの制度改正を望んでいるものの、「現行のまま継続すべき」が43.8%で、これまでと同様に、最も高くなっている。

## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

### (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を知っている人が半数近く

足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）が今回46.6%と、前回より2.8ポイント増加して、ピークだった平成28年調査の47.6%に近づいているが、依然として地域や性・年代で差が大きい。

なお、「知っていて、活動を実践している」区民は、一部の地域と性・年代層で1割前後とやや高めながら、全体では最近4年間ともに5.0%以下となっている。また、今回も前回までと同様、今後の参加意向が各項目にわたって総じて低めなのを踏まえると、これまで以上に、この取り組みへの認知と理解を広めていくとともに、区民の活動への参加を促進していくことが必要である。

### (2) 「花のビュー坊プレート」「ビュー坊のガーデンピック」の認知状況は3割程度

『花のビュー坊プレート』と『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況については、「すでに使用している」は2.0%と0.9%で、ともに極めて少数のままで、【知っている】（「すでに使用している」＋「見たことがあり、名称なども知っている」「見たことはあるが、名称などは知らなかった」＋「名称などは知っているが、見たことはない」）でみても、31.1%と28.6%でともに3割前後にとどまり、区民への認知度は依然として低いままとなっている。

### (3) 治安が改善していることを「知っている」が4割弱

足立区内の刑法犯認知件数がピーク時から1万件以上減少していることを「知っている」人は38.4%と4割弱で、同じ設問文であった前回と比較すると、2.4ポイント増加している。（設問文に一部変更があったので、平成29年以前との経年比較は行っていない）

### (4) 居住地域の治安状況が「良い」と感じている人は58.3%で、平成23年以降最も高い

居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が今回58.3%と、前回の53.4%を4.9ポイント上回り、直近3年間は53～54%レベルで安定的に推移していた状況を更新して、区民の体感治安は一定の良好レベルから更に向上した様子が窺える。しかし、治安状況に対する評価には地域差がみられるほか、20代の男女や50代女性では【悪い】との評価も4割前後と多めで、今後も、地域や性別、年代にかかわらずすべての区民が安心して生活できるよう、ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロール等に取り組んでいく必要がある。

治安が【良い】と評価した人のその理由としては、過去6年間の調査結果と同様に「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が48.0%で最も高いが、6年続けて漸減傾向にあり、代わりに次点の「防犯カメラが増えたことで、安心感がるから」が3割台半ばまで伸びている。

また、治安対策として区に力を入れてほしいことについても、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が今回56.0%と、平成25年以降続けてトップを維持しており、防犯カメラに対する区民の期待は極めて高い。以下「安全に配慮した道路、公園の整備」と「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」もともに4割前後で続き、これまで同様高くなっている。

一方、治安が【悪い】と感じる人のその理由では、今回も「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が50.4%で突出しているが、前回の56.9%と比べると6.5ポイント減少し、2年続けての減少となっている。

前述したように、居住地域の治安状況が【良い】と評価する区民は6割近くまで達して、治安改善への区の取り組みは着実に成果をあげていると考えられるが、治安が【悪い】という人も26.4%と2割台半ばみられ、20代の男女や50代女性を中核に、依然として悪いと評価されている面もある。

#### (5) 今後の課題

今後も引き続き足立区を安心安全な街にしていくために、防犯カメラや街路灯の設置促進などの取り組みに力を入れていくとともに、治安向上に資する施策などを通じて、区民の協力も得ながら官民が一緒に力を携えて、足立区を安心安全な街に協創していくことが重要である。

## 8 環境・地域活動

### (1) 環境のために心がけていることは「ごみと資源の分別」が8割台半ば

環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」が、今回も86.3%と最も高く、平成23年以降各年僅かな増減はあるものの、8割台半ばで推移しており、《ごみの分別》が区民の間にほぼ定着したことがわかる。また、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」も今回56.5%で、ここ数年5割を超えて次点となっているが、今回3位の「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は今回50.3%で、前回の45.8%より4.5ポイント増加しているものの、平成23年以降のここ9年間の経年でみると漸減傾向にある。

### (2) 9割弱の人が「食品ロス」という言葉を知っており、認知者が心がけていることでは「残さず食べる」が7割台半ば

前回から聴取している「食品ロス」という言葉の認知は、「知っている」が87.4%で、前回の76.8%より10.6ポイント増加して、9割弱に達しており、前は目立っていた性・年代別の認知率の格差も小さくなる傾向がみられ、「食品ロス」という言葉が区民に浸透してきている様子がみられる。なお、知っていると回答した人に“食品ロス削減のために心がけていること”を聴いた結果は、「残さず食べるようにしている」が75.7%で最も高く、「外食時に食べられる分だけを注文する」が57.5%で続き、これらの結果に、前回からの変動はほとんどみられず、項目ごとの性・年代別の大きな格差もみられない。

### (3) この1年間に参加した活動と今後の参加意向として、「区が主催する各種のイベントや催し物」が2割程度で最多

この1年間に参加した活動をみると、具体的な活動内容としては、ここ数年と同様に「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、今回も17.9%で最も高く、これに「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(15.9%)と「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(13.7%)がともに1割台半ばの僅差で並んで続き上位となっている。一方、「特に参加していない」は今回45.5%と、前回より1.8ポイント増加して、4割台半ばとなっている。

なお、今後の活動への参加意向をみても、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」(21.3%)が2割強で最も高く、これに「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(17.6%)が2割弱で続いているものの、「特にない」(34.3%)と「無回答」(16.9%)が合わせて半数以上を占めるなど、この1年間に参加した活動の結果とほぼ同様の回答傾向が示されている。

## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

### (1) 「孤立ゼロプロジェクト」を「知っている」は3割弱で、「知らない（初めて聞いた）」が7割弱

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っていて、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）は今回29.2%で、前回の平成30年調査の28.2%とほとんど変わらず、平成25年以降、各年3割前後で推移して横ばい状態が続いている。【知っている】は、地域別では第4地域と第13地域でともに3割台半ばとやや高い一方、第6地域では2割強と低めで、性・年代別では男女ともに高齢層ほど高くなる傾向がみられるなど、地域や年代によって認知度に差がみられる。

### (2) 「地域包括支援センター」を「知っている」は5割台半ば

「地域包括支援センター」の認知状況については、【知っている】（「知っていて、業務内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」）が今回56.3%で、前回の53.6%から2.7ポイント増加して、経年でみるとここ数年の漸増傾向を維持している。

### (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に「協力したい」は2割弱

高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は今回18.6%と、前回の17.5%より微増しているものの、経年では平成25年以降各年2割弱で横ばい状態にある。性・年代別でみると、【協力したい】が2割を超えているのは、男性の60代、70歳以上と女性の50代、60代、70歳以上の計5年代層のみで、男性の30代や女性の30代と40代では「協力したいが、時間などに余裕がない」という回答が、それぞれ4割台半ばを占めて多くなっている。

### (4) 協力意向がある活動内容は「ちょっとした気づかいの活動」が5割強、「調査する活動」が4割強

協力意向のある人では、その活動内容として、これまで同様「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が最も高いが、今回は53.0%と前回(56.2%)より3.2ポイント減少しており、次点の『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動は今回41.2%で、前回(40.8%)とほぼ同率となっている。

### (5) 「成年後見制度」を「知っている」は6割弱

今回聴取した「成年後見制度」の認知状況については、【知っている】（「内容まで知っている」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）が58.7%で6割弱になっており、その認知度は、男性の60代と女性の50代でともに7割弱と高く、男性40代と女性60代もともに6割台半ばでやや高い一方、男女20代ではともに3割台にとどまり、その認知率には年代差がみられる結果となっている。

### (6) 今後の課題

地域包括支援センターの認知度は、漸増傾向を維持して5割台半ばに達しており、成年後見制度の認知度も6割弱あるものの、孤立ゼロプロジェクトの認知度は、最近3年間は3割に届かずに伸びはみられず、高齢者の孤立防止・見守り活動への協力意向も、平成25年以降2割弱で推移してあまり変化はみられない。地域福祉を推進する上で、これらの取り組みは極めて重要な役割を果たすものであり、今後も、区民の事業に対する認知度の向上に継続的に強く取り組むとともに、活動への積極的な参加を促進していくことに資する環境の整備や参加へのハードルを下げる工夫などが必要である。

## 10 協働・協創

### (1) 「協創」の認知度は少しずつ増加

「協創」について3年目の聴取となる今回、「知っている」は3.7%で、これに「聞いたことはある」(11.4%)を合わせた【知っている】は15.2%で、前回(13.2%)より2.0ポイント増加している。一方、「知らない」は今回81.7%で、こちらも前回(84.3%)からは微減しており、「協創」という言葉・内容についての区民の認知度は少しずつではあるが増加している。今後も引き続き、この考え方について広く区民の周知を図っていくことが必要である。

### (2) 「関心はあるが、特に活動していない」が6割台半ば

全体の約15%に相当する「協創」を知っていると回答した人の協働・協創の実践状況を見ると、今回は、「すでに、活動を実践している」が23.7%で前回(32.8%)より9.1ポイント減、「関心はあるが、特に活動していない」が64.4%で前回(55.2%)より9.2ポイント増、「関心がない」が11.9%で前回(10.3%)とほぼ同率となっており、“協働・協創に関心あり”の人の割合(88.1%)は前回(88.0%)と変わらないものの、活動を実践している人は減少しており、協働・協創に関する活動のハードルが高く思われているのか検証する必要がある。

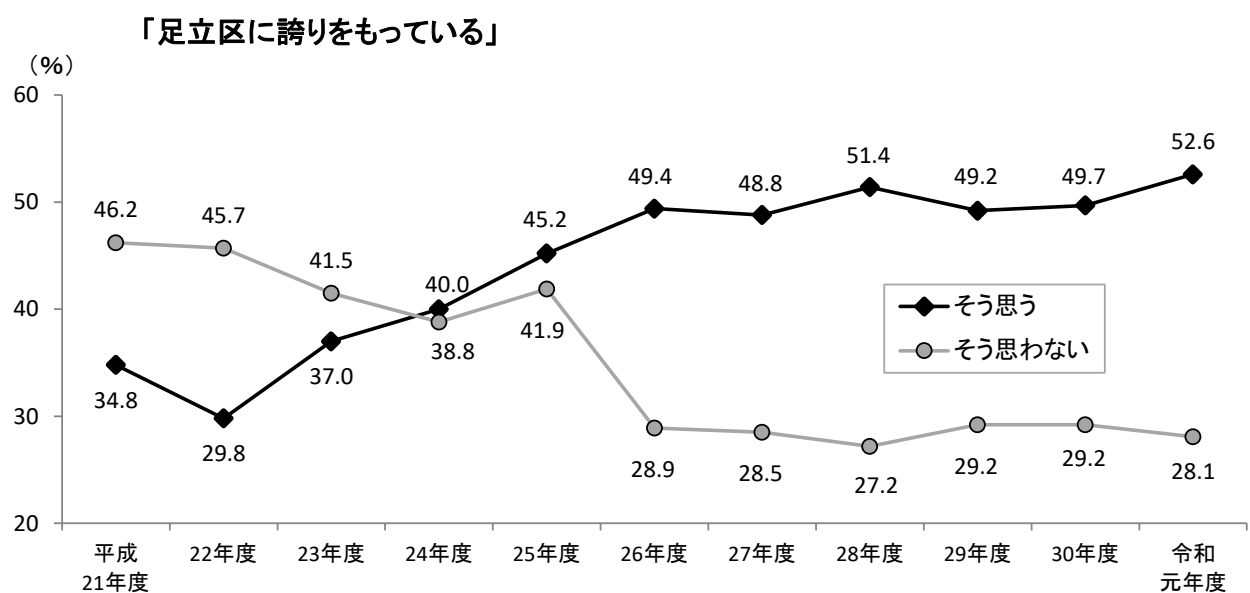
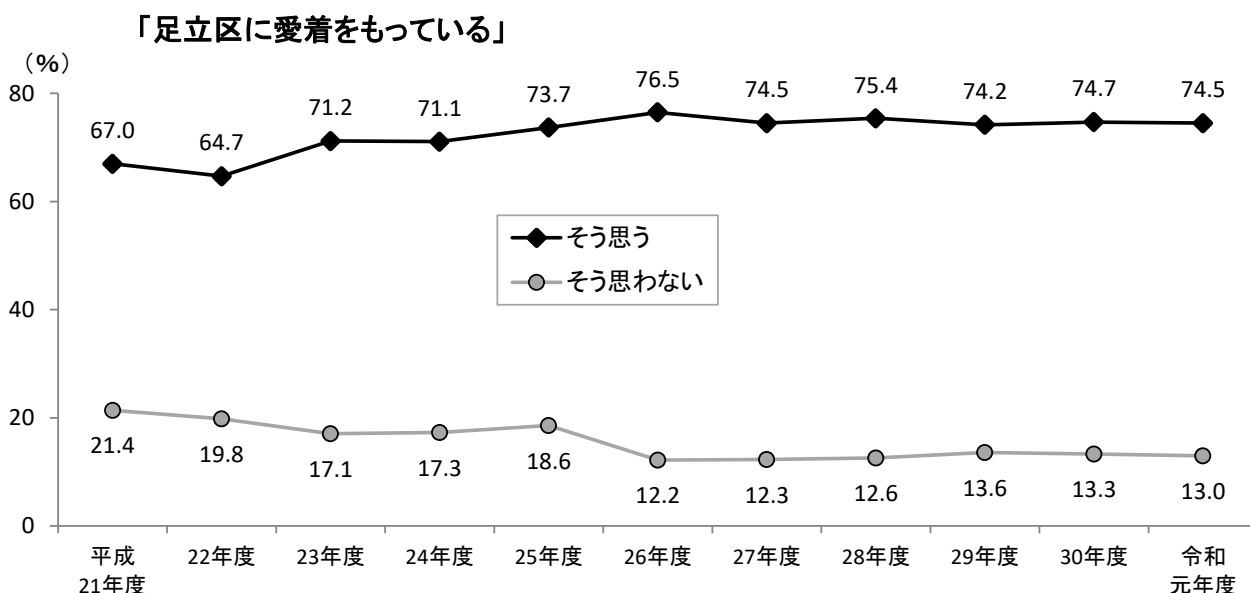
### (3) 協働や協創により事業が進んでいると感じている人が初めて2割を超える

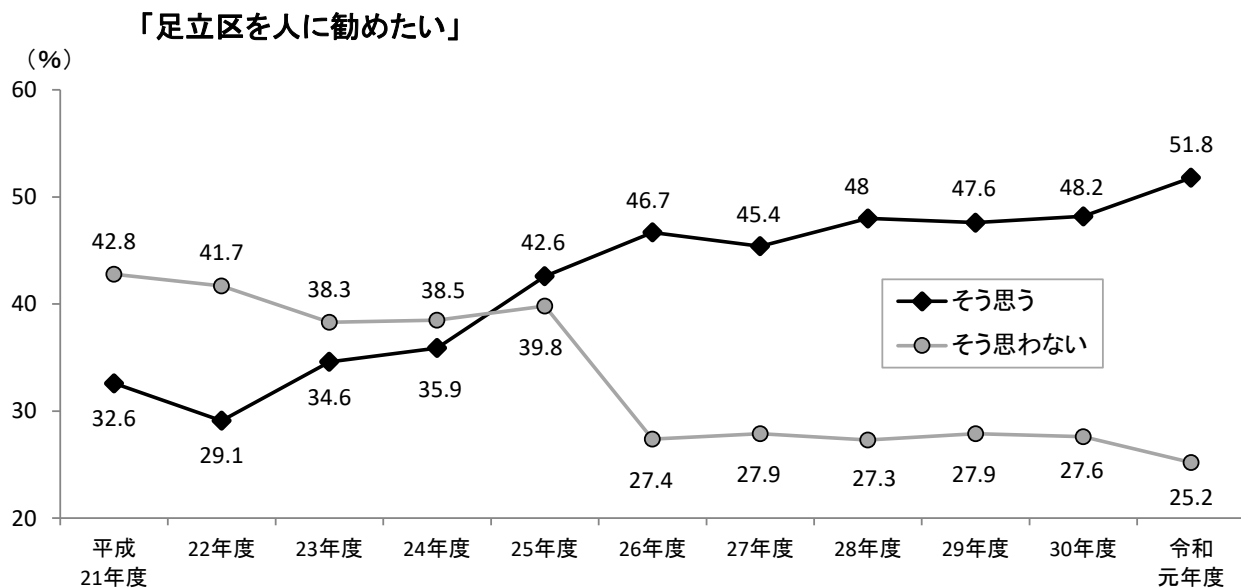
「協働・協創による事業が進んでいると思うか」については、今回、【そう思う】(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が22.1%と、前回(16.5%)より5.6ポイント増加して、初めて2割を超えて、【そう思わない】(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)の17.9%を上回って、【そう思う】という人の方が多くなっている。ただし、「わからない」という回答も54.8%で依然として5割台半ばと多いことから、協働・協創による事業の内容等を、「わからない」と答えた区民へ具体的に示して可視化することにより、認知を高めしていくことが必要である。

## 11 区の取り組み

(1) 「足立区に愛着をもっている」と「足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する」がともに7割台半ば

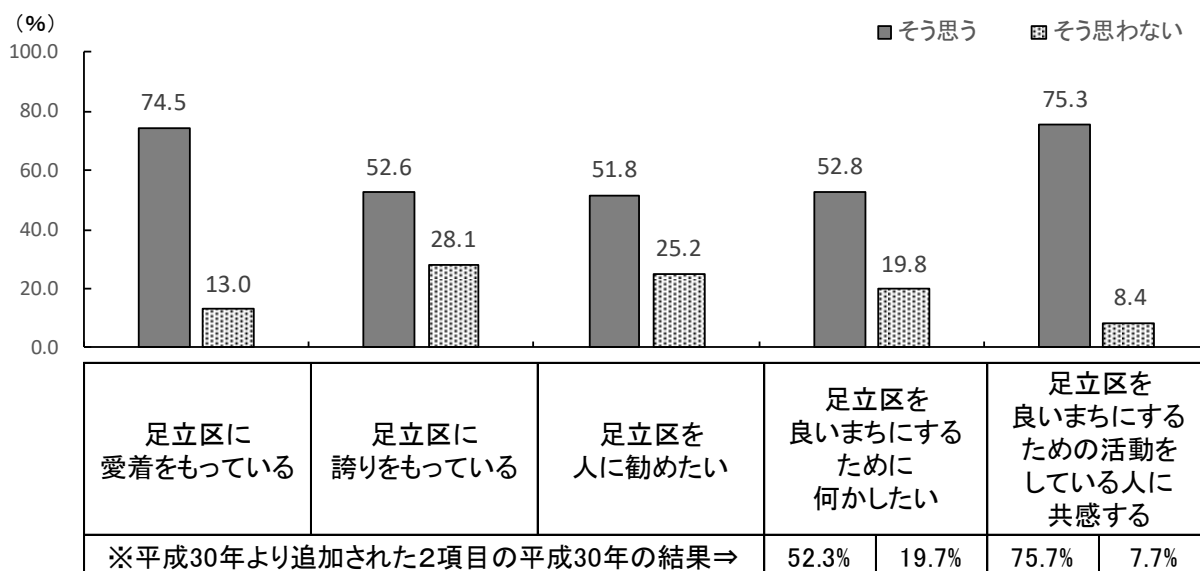
平成21年調査から今回の令和元年調査まで11年に亘って経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【**そう思う**】(「**そう思う**」+「**どちらかといえば**そう思う****」)の比率でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は74.5%、〈足立区に誇りをもっている〉は52.6%、〈足立区を人に勧めたい〉は51.8%となっている。今回は、〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉の2項目が比率を伸ばして、それぞれ初めて半数を超えた上に、〈足立区に愛着をもっている〉も7割台半ばの比率を維持しており、区に対する愛着が、区民に広く根付いてきて、さらに醸成されていることを示す結果となっている。





また、前回の平成30年調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目も、【そう思う】がそれぞれ52.8%と75.3%で、前年と同じレベル（52.3%と75.7%）にあり、前述の3項目に並ぶ高い水準となっている。さらに、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思っている人は、男性では50代を、女性では40代を筆頭にしながらも、前回同様、男女ともそれぞれ大きな年代差はみられていない。これらの結果から、“愛着のある足立区をさらに誇りを持てる良いまちにするために何かしたい”と考えている区民が半数以上に達していることは、これまでの区の様々な取り組みと区民や様々な団体、民間事業者の活動が相乗効果を発揮し、一定以上の成果を示している結果の反映ととらえることが出来よう。

回答者数(1,590)





前回から追加された項目のひとつである〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と、〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉、および〈区政満足度〉の5項目との関係を、下記のクロス集計表で確認すると、これらの5項目で【**そう思う**】と回答している人では、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と思う人がそれぞれ多くなっていることがわかる。中でも、〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の3項目では、いずれも7割前後と高い水準に達していることから、今後も引き続き、区民が“人に勧めたい”と思う、“誇りがもてる”ような区にしていくことで、足立区のために活動したいと考える人がさらに増えていくものと推察される。

		足立区を良いまちにするために何かしたい		
		回答者数	そう思う(計)	そう思わない(計)
<b>全 体</b>		1590	52.8	19.8
足立区に愛着をもっている	そう思う(計)	1185	<b>63.4</b>	16.0
	そう思わない(計)	207	27.1	<b>54.6</b>
足立区に誇りをもっている	そう思う(計)	837	<b>69.7</b>	12.5
	そう思わない(計)	446	41.7	<b>41.3</b>
足立区を人に勧めたい	そう思う(計)	823	<b>71.9</b>	14.2
	そう思わない(計)	400	39.8	<b>42.0</b>
足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する	そう思う(計)	1198	<b>67.5</b>	15.5
	そう思わない(計)	133	12.8	<b>78.9</b>
区政満足度	満足(計)	988	<b>62.2</b>	16.7
	不満(計)	346	43.1	<b>32.1</b>

(%)

※ 濃いグレーに白字：全体に比べて10ポイント以上高い

※ 薄いグレーに黒字：全体に比べて5ポイント以上高い

### (2) 区政に対する満足層は6割強で、2割強の満足でない層を大きく上回る

地域の暮らしやすさへの評価や定住意向については、すでに一定のレベルに達して、今回も安定的に推移しており、区政全体に対する満足度も【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が62.1%と、現行と同じ聴取方法となった平成25年以降最高だった平成29年（61.5%）を僅かに上回る高い評価を得ている。

なお、今回調査においても、平成28年以降の3年間と同様に、区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細は299頁を参照のこと）してみると、足立区の場合、“重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が平均値より低い”分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野が、「交通対策」「防災対策」「治安対策」「高齢者支援」「障がい者支援」「行政改革」であるとの結果は、「都市開発」がこのゾーンから抜けたのを除くと、平成28年から平成30年の最近3年間とほとんど変わっていない。

しかし、平成29年以降の3年間は、多くの分野において【満足層】（「満足」＋「やや満足」）が、平成28年以前の調査結果を上回っており、「子育て支援」「学校教育対策」「高齢者支援」「低所得者対策」「資源環境対策」「防災対策」「行政改革」などの満足度の高まりが、最近3年間の区政全体への評価の向上につながっていると思われる。

また、区政全体に対する満足度と、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」「足立区を良いまちにするために何かしたい」といった区への思いとの間には正の相関も認められる。

### (3) 今後の課題

今後も、「交通対策」「防災対策」「治安対策」「高齢者支援」「障がい者支援」「行政改革」などの区の重点的課題の解決に、行政と区民、関係機関が連携し、総合的かつ効果的な取り組みを推進することによって、区民の区政全体への満足度の向上を継続し、足立区を、すべての区民が愛着と誇りをもって、より良いまちにするために何かしたいと思える「まち」に発展させていくことが求められよう。

区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

1 足立区に愛着をもっている

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
	76.5	74.5	75.4	74.2	74.7	74.5

(%)

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	77.0	82.0	66.7	68.4	74.6	72.5
30代	77.2	67.3	67.7	74.5	65.1	69.5
40代	76.6	76.5	74.8	75.7	77.5	71.7
50代	80.6	73.0	82.1	82.9	76.0	81.6
60代	76.6	77.7	82.6	69.3	81.4	76.9
70代以上	85.9	76.0	82.4	81.6	76.9	74.5

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	67.1	67.5	66.3	72.5	64.9	59.1
30代	77.6	69.0	66.7	66.9	74.5	73.7
40代	71.4	75.1	73.5	73.5	71.0	72.0
50代	68.7	74.7	75.7	74.0	74.7	79.2
60代	76.9	77.1	73.9	77.3	72.0	80.0
70代以上	76.5	76.5	80.0	74.6	78.1	73.2

2 足立区に誇りをもっている

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
	49.4	48.8	51.4	49.2	49.7	52.6

(%)

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	44.3	54.1	44.9	36.8	50.8	40.6
30代	47.5	37.6	47.5	42.9	31.4	42.7
40代	50.6	48.8	51.9	54.9	51.2	52.5
50代	50.4	47.6	52.7	57.7	51.9	60.5
60代	51.5	52.2	59.7	46.0	54.3	58.7
70代以上	65.9	63.0	68.2	59.9	62.3	62.8

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	35.4	37.7	33.7	34.8	33.8	40.9
30代	38.8	40.1	41.5	34.7	41.8	43.2
40代	42.3	42.8	42.7	47.1	36.6	43.9
50代	38.1	39.9	45.1	41.6	48.8	51.0
60代	50.0	51.4	50.3	58.2	44.8	54.2
70代以上	57.3	57.7	60.0	55.5	63.9	57.3

3 足立区を人に勧めたい

全体	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
	46.7	45.4	48.0	47.6	48.2	51.8

(%)

男性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	62.3	44.3	43.6	42.1	59.3	46.4
30代	49.5	36.6	48.5	49.0	47.7	62.2
40代	49.4	51.2	55.6	56.9	51.9	55.0
50代	48.2	49.2	50.9	52.0	53.5	57.8
60代	46.1	48.9	54.2	38.0	50.4	49.6
70代以上	55.1	54.0	59.1	55.3	53.8	53.2

女性	平成26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
20代	39.2	32.5	41.6	43.5	36.4	43.9
30代	42.5	41.5	40.0	42.4	48.2	53.4
40代	43.9	41.3	42.7	47.6	37.2	52.2
50代	40.3	39.9	47.9	42.2	47.5	55.0
60代	42.9	45.7	43.0	53.2	44.8	49.2
70代以上	46.3	50.0	49.0	47.3	49.8	45.1

4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成 30年	令和 元年	(%)
	52.3	52.8	

男性	平成 30年	令和 元年
20代	45.8	39.1
30代	52.3	56.1
40代	60.5	57.5
50代	57.4	58.5
60代	46.5	47.9
70代以上	53.8	56.9

女性	平成 30年	令和 元年
20代	41.6	39.4
30代	54.5	51.7
40代	52.5	63.7
50代	52.5	60.4
60代	59.4	45.8
70代以上	48.5	45.1

5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

全体	平成 30年	令和 元年	(%)
	75.7	75.3	

男性	平成 30年	令和 元年
20代	64.4	59.4
30代	76.7	79.3
40代	76.7	80.0
50代	78.3	80.3
60代	75.2	72.7
70代以上	74.5	72.9

女性	平成 30年	令和 元年
20代	61.0	66.7
30代	79.1	71.2
40代	80.3	80.3
50代	79.0	83.2
60代	82.5	75.0
70代以上	71.7	72.8

## 区政満足度の分析 経年比較／暮らしやすさ／定住意向／情報の入手／治安

全体	平成 26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年
満足	53.2	53.3	57.7	61.5	60.0	62.1
不満足	27.6	27.4	25.6	24.0	23.9	21.8

(%)

## 1 地域の暮らしやすさと区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
暮らしやすい	4.7	15.0	2.5	0.7	4.3
どちらかといえば暮らしやすい	2.6	32.6	10.7	1.1	7.7
どちらかといえば暮らしにくい	0.3	5.4	4.5	1.0	3.1
暮らしにくい	0.2	0.4	0.6	0.6	0.1

## 2 定住意向と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ずっと住み続けたい	4.6	19.8	4.5	0.5	6.4
当分は住み続けたい	2.3	25.5	8.2	1.1	5.8
区外に転出したい	0.4	2.7	2.4	0.8	0.9
わからない	0.6	5.6	3.2	0.9	2.4

## 3 必要な時に必要とする区の情報の入手状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
十分に得られている	1.3	1.9	0.3	0.1	0.4
ある程度得られている	5.8	40.5	11.4	1.1	9.1
得られないことが多い	0.1	4.4	2.7	0.9	1.9
まったく得られない	0.0	0.6	0.5	0.3	0.4
必要と思ったことがない	0.3	4.3	2.5	0.4	1.4
区の情報に関心がない	0.4	1.8	0.6	0.6	0.8

## 4 居住地域の治安状況と区政満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
良い	2.6	4.7	0.4	0.1	1.4
どちらかといえば良い	3.8	30.1	6.6	0.9	7.6
どちらかといえば悪い	0.8	11.4	6.9	0.9	2.1
悪い	0.2	1.4	1.4	0.9	0.4
わからない	0.4	5.8	2.8	0.4	3.4



## 第3章 調査結果の分析





# 1 定住性

- 
- (1) 居住地域の評価
  - (2) 居住地域評価の経年比較
  - (3) 地域の暮らしやすさ
  - (4) 特に暮らしにくいと感じること
  - (5) 定住意向
-



# 1 定住性

## (1) 居住地域の評価

■ 〈 普段の買い物が便利である 〉と感じている人は7割台半ば

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか  
(〇はそれぞれ1つずつ)。

図1-1-1-① 経年比較／居住地域の評価

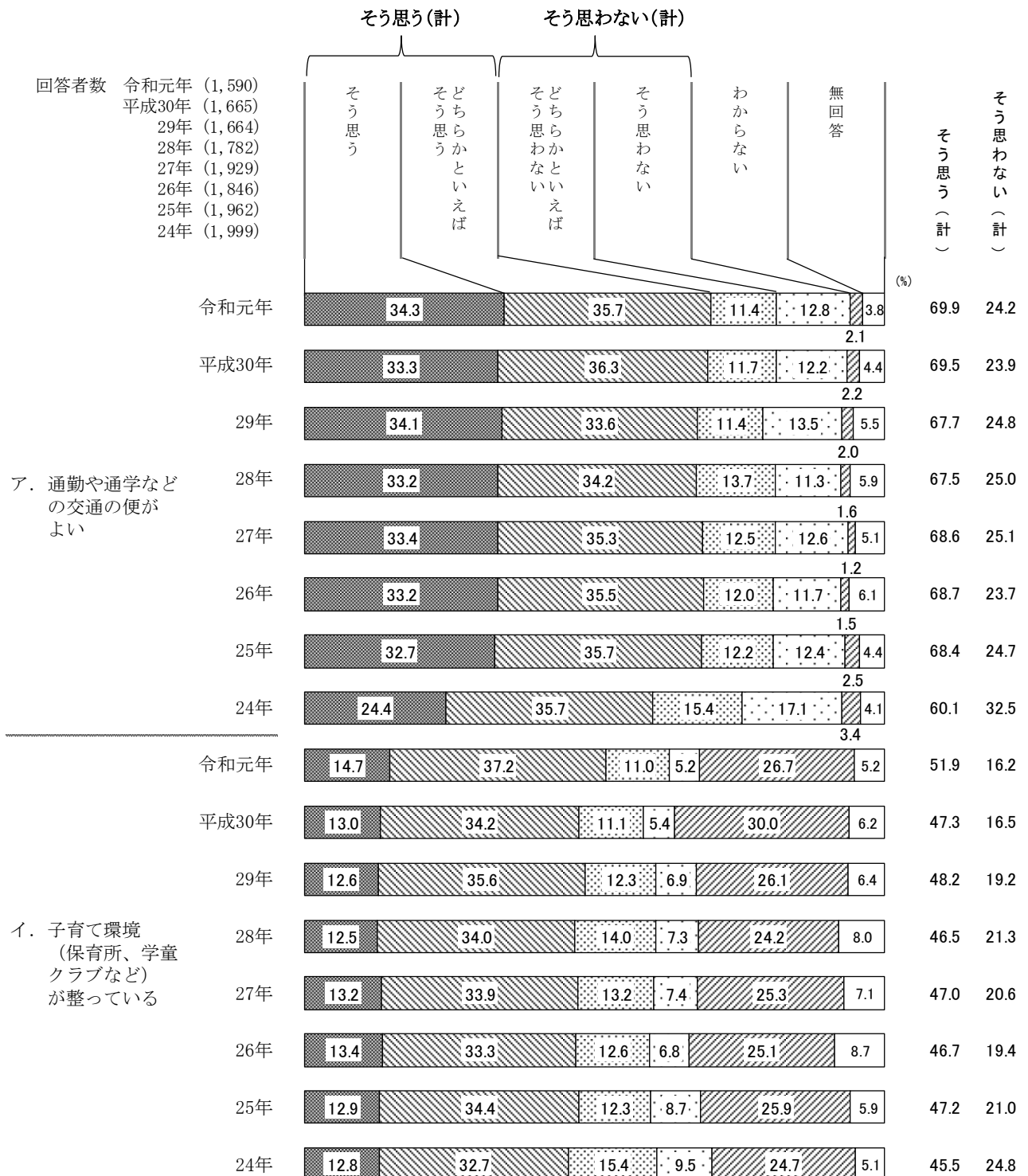


図1-1-1-② 経年比較／居住地の評価

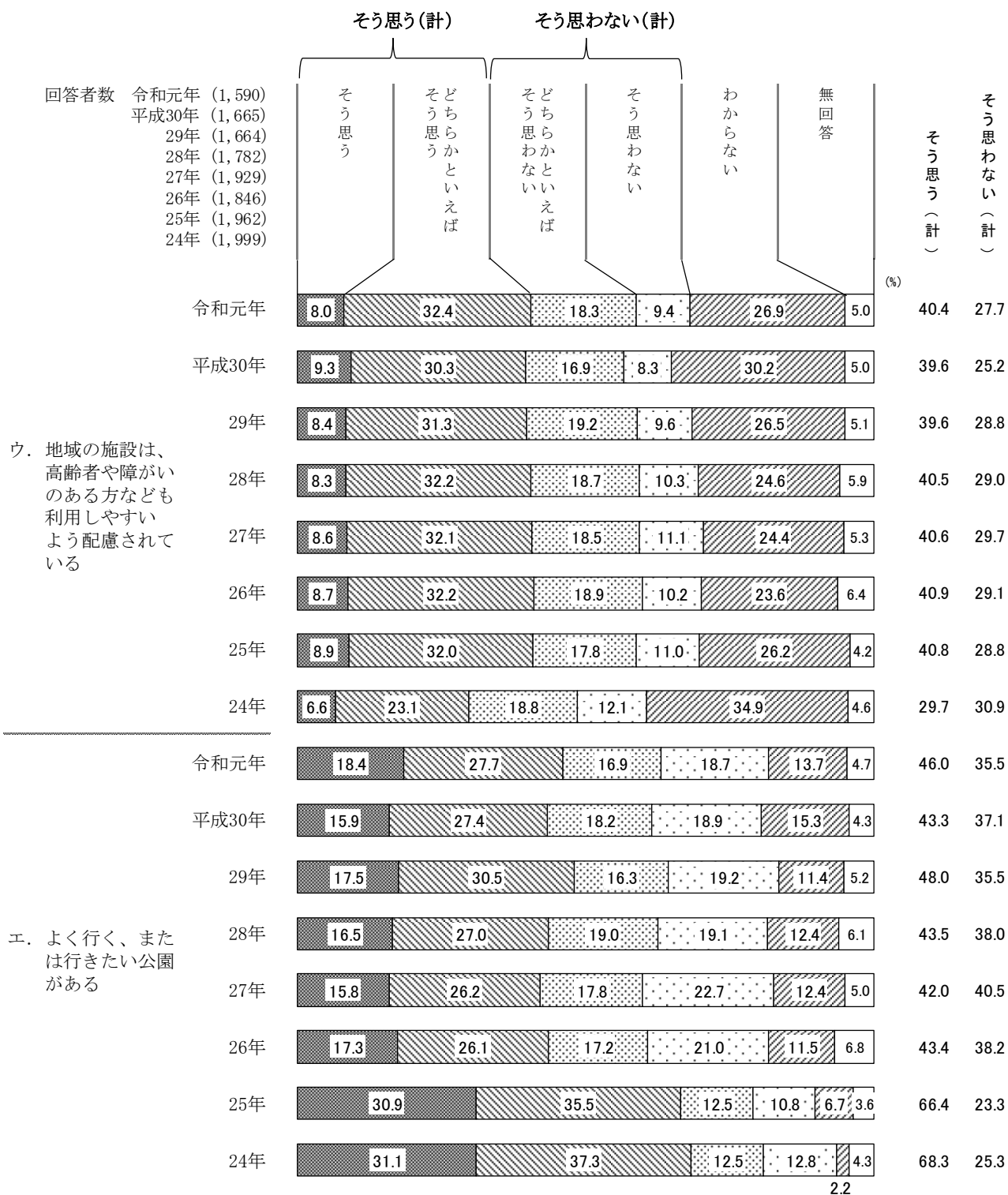


図1-1-1-③ 経年比較／居住地域の評価

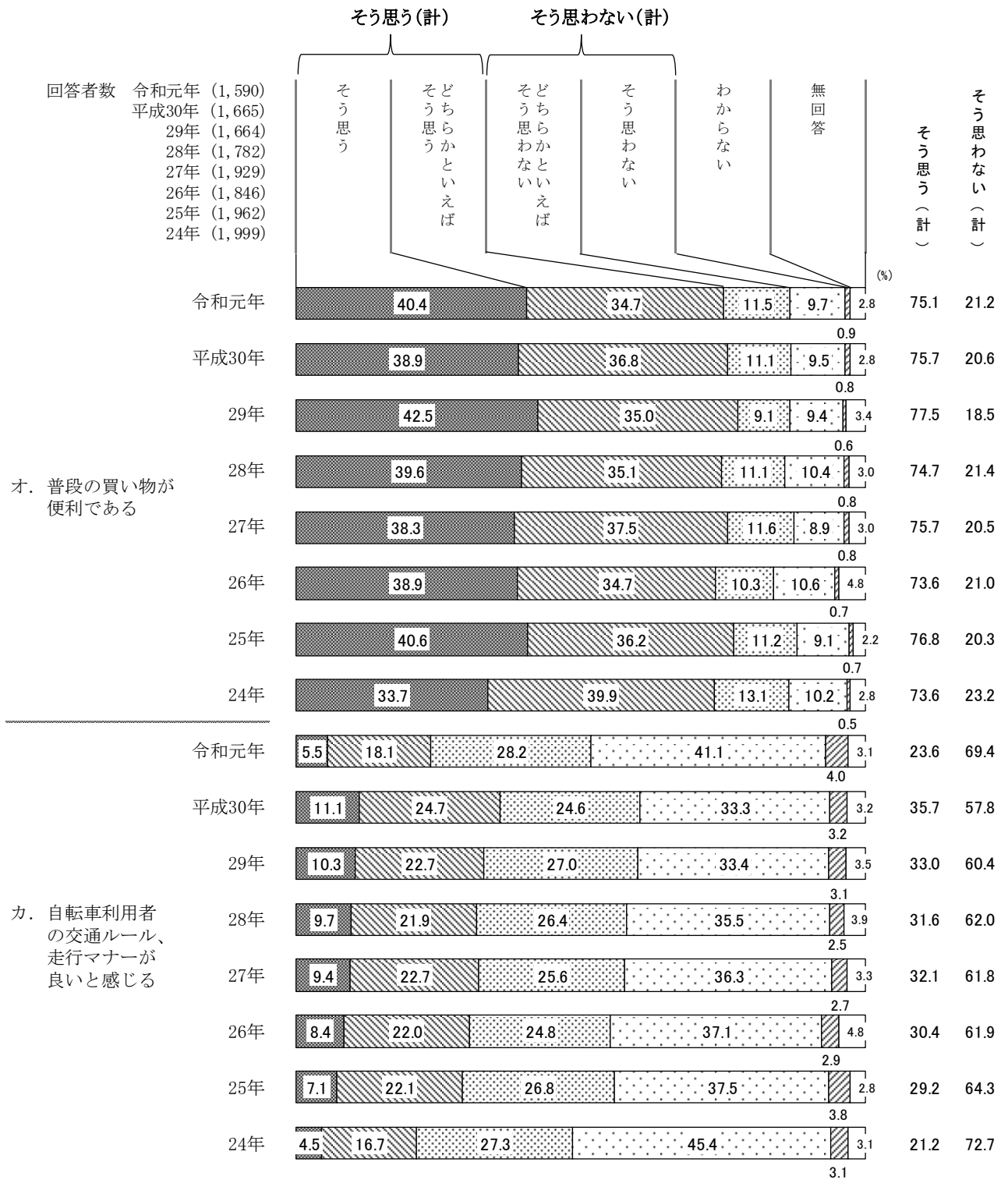
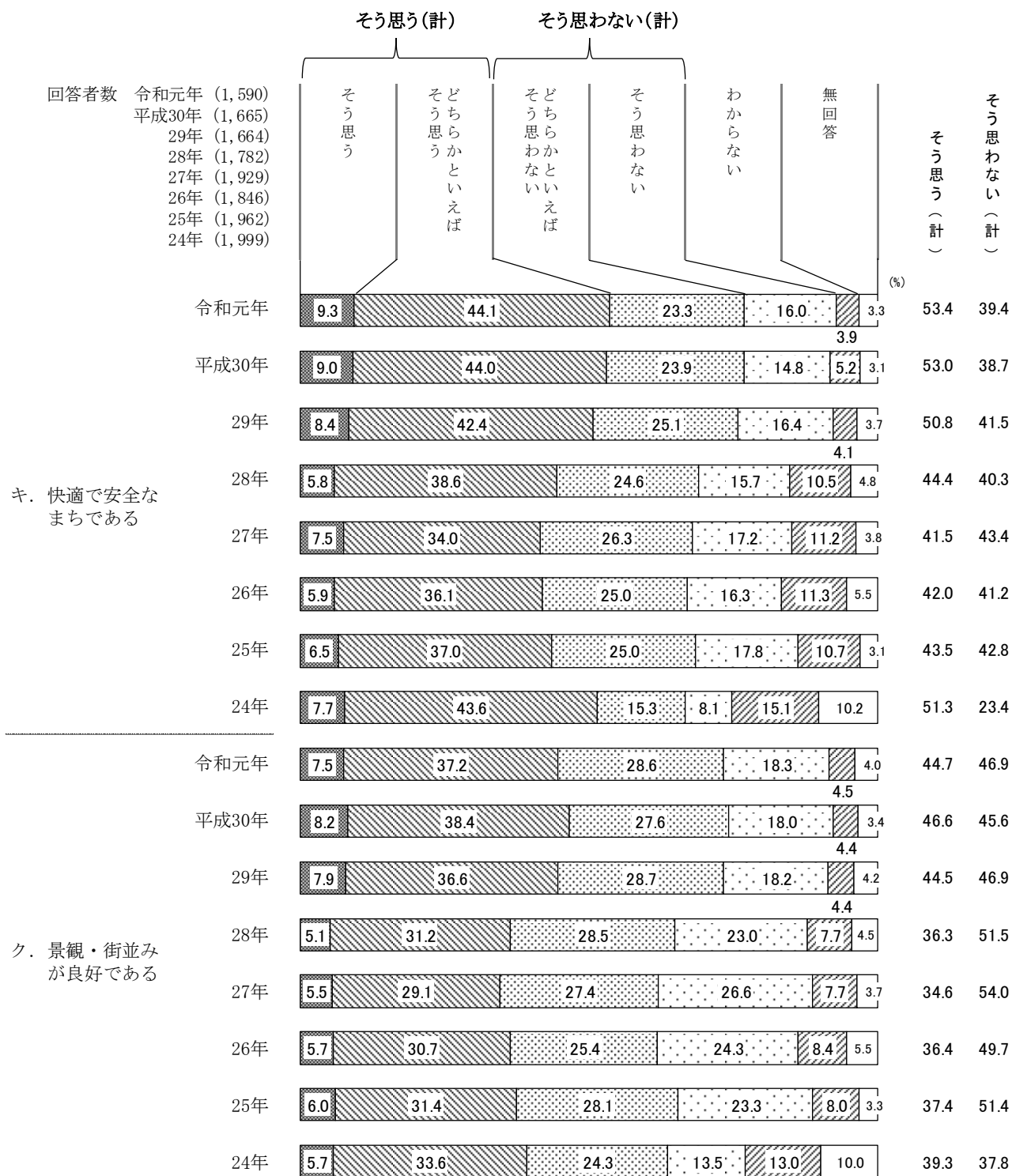
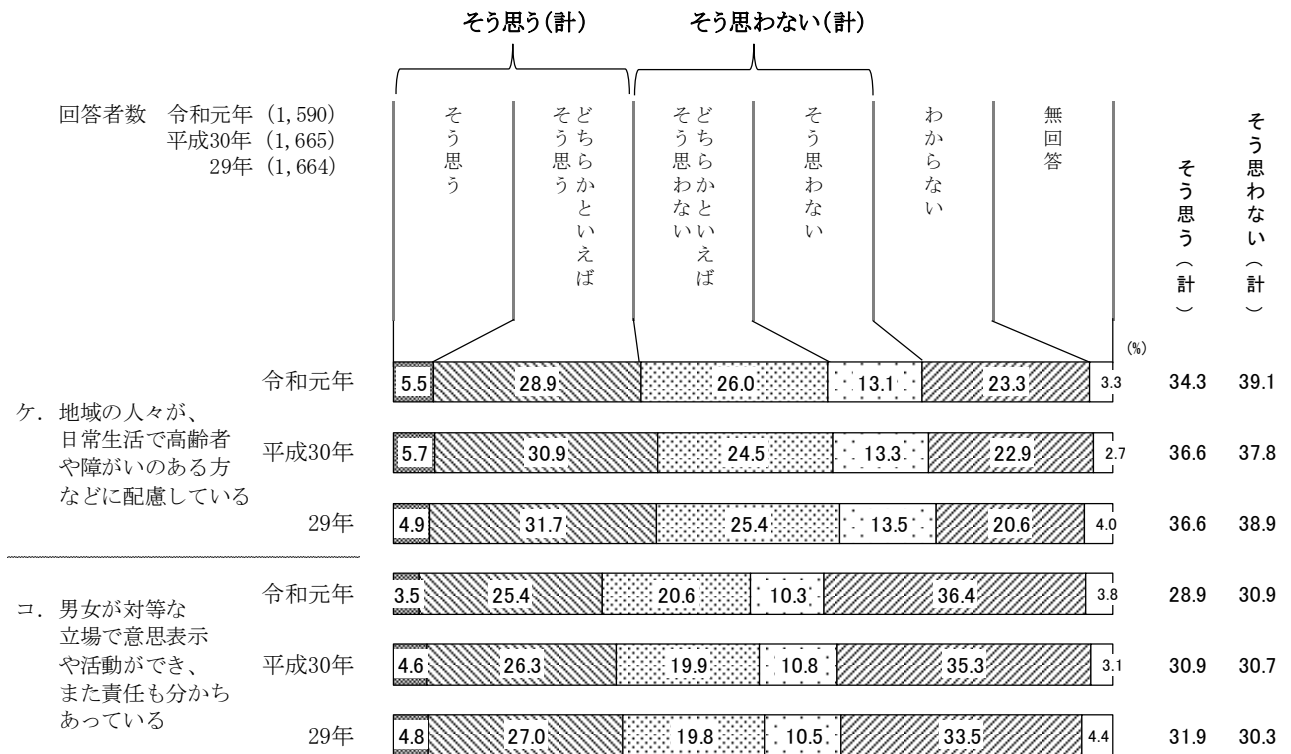


図1-1-1-④ 経年比較／居住地域の評価



※ ウは、平成24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえた。  
 ※ エは、平成25年度「利用しやすい公園がある」から表現をかえた。  
 ※ カは、令和元年度「自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている」から表現をかえた。  
 ※ キは、平成28年度「快適で安全なまちづくりが進められている」から表現をかえた。  
 ※ クは、平成28年度「景観・街並みが魅力的になってきている」から表現をかえた。

図1-1-1-⑤ 経年比較／居住地域の評価



住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が75.1%で最も高く、以下〈通勤や通学などの交通の便がよい〉69.9%、〈快適で安全なまちである〉53.4%の順となっている。

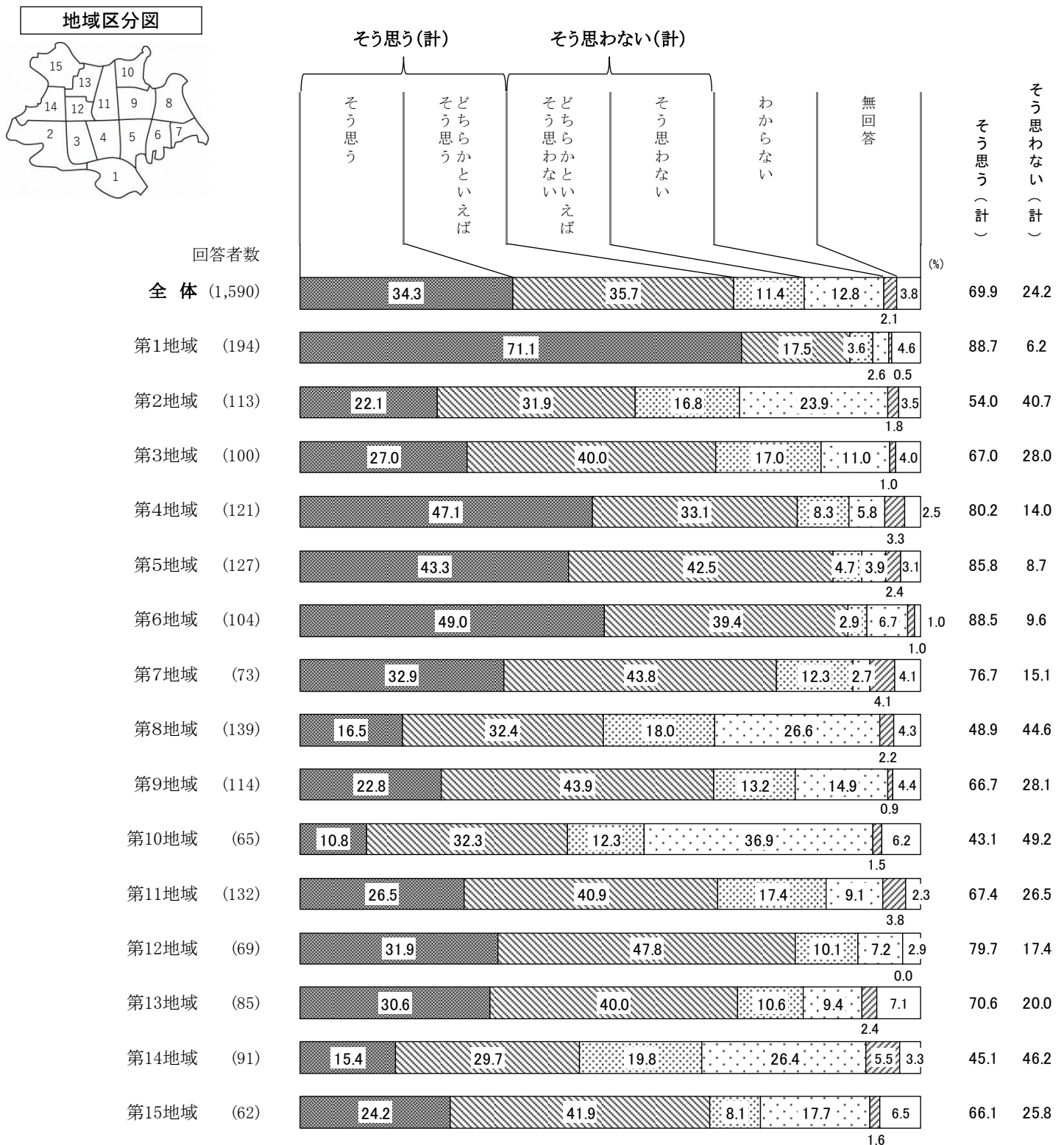
経年で比較すると、今回の調査では、10項目のうち5項目で【そう思う】が平成30年調査に比べて増加するものの、同数の5項目で【そう思う】が減少しており、中でも、令和元年調査において、これまでの〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉から〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉に表現を変えた項目で【そう思う】が平成30年の35.7%から今回23.6%と大きく減少している。

第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

次に、各項目について、地域別でみた。

〈通勤や通学などの交通の便がよい〉について、【そう思う】は第1地域が88.7%と最も高く、次いで第6地域が88.5%となっている。一方、【そう思わない】は第10地域で49.2%と高く、これに第14地域が46.2%で次いでいる。

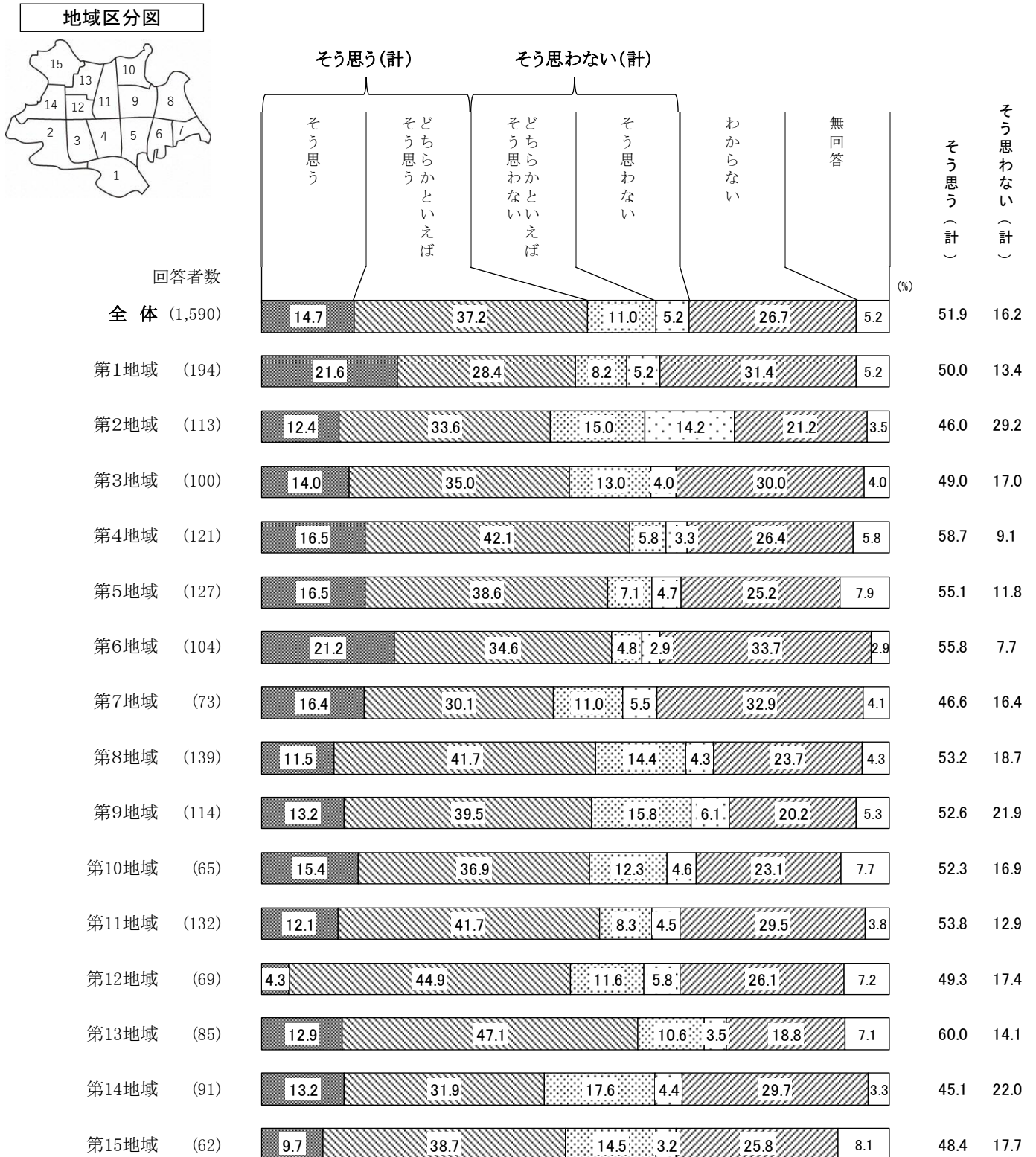
図1-1-2-① 地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便がよい





〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【**そう思う**】は第13地域で60.0%と最も高く、次いで第4地域が58.7%となっている。一方、【**そう思わない**】は第2地域で29.2%と最も高く、第14地域と第9地域でも2割を超えて高くなっている。

図1-1-2-② 地域別／居住地域の評価／子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている

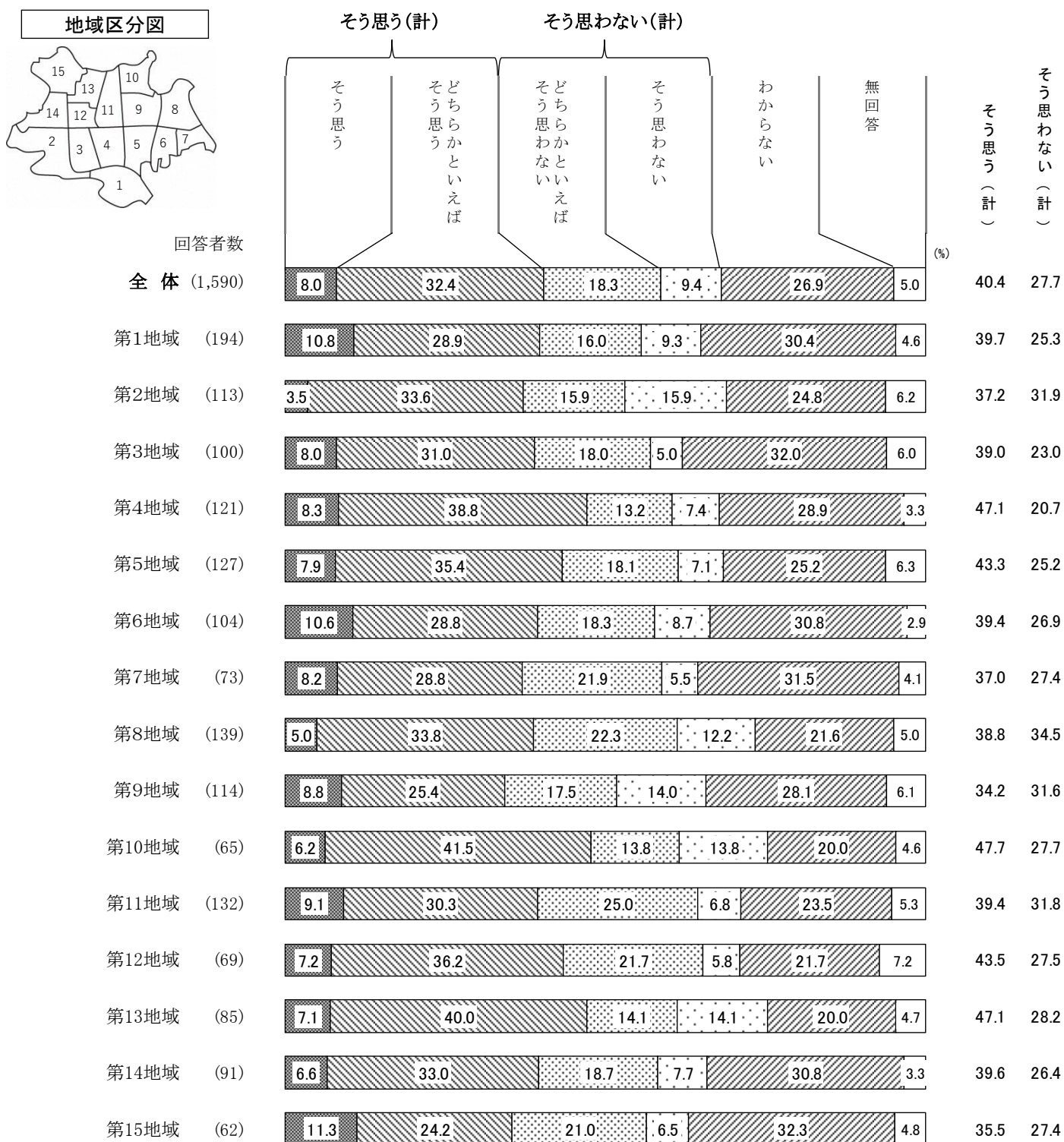


第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【**そう思う**】は第10地域が47.7%で最も高く、これに第4地域と第13地域が各47.1%の僅差で続いている。一方、【**そう思わない**】は第8地域で34.5%と最も高くなっている。

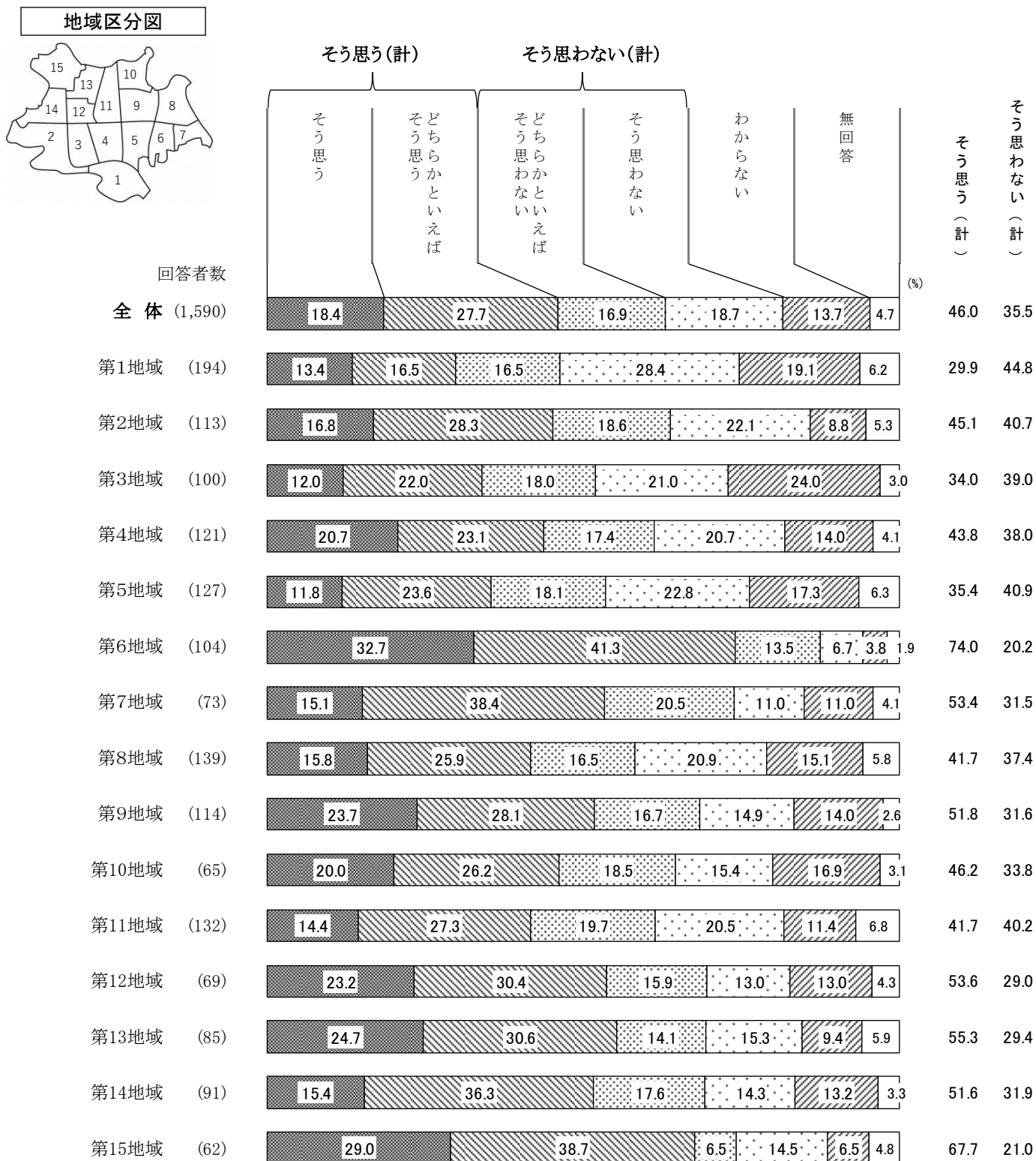
図1-1-2-③ 地域別／居住地域の評価

／地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



〈よく行く、または行きたい公園がある〉について、【**そう思う**】は第6地域で74.0%と最も高く、次いで第15地域で67.7%となっている。一方、【**そう思わない**】は第1地域で44.8%と最も高く、第2地域、第5地域、第11地域でも4割を超えて高くなっている。

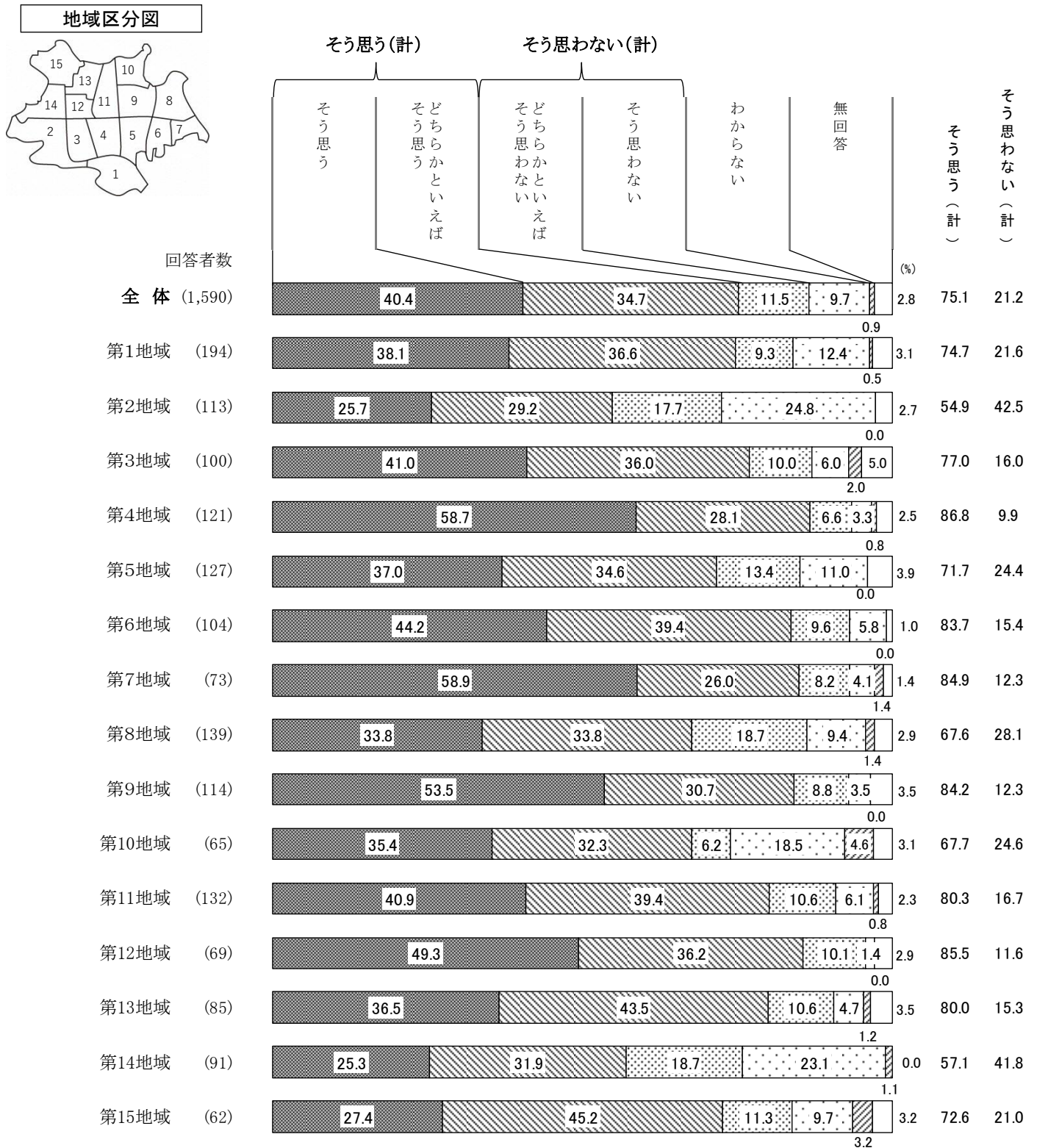
図1-1-2-④ 地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

〈普段の買い物が便利である〉について、【**そう思う**】は第4地域が86.8%で最も高く、これに第12地域が85.5%で続き、以下、第6地域、第7地域、第9地域も各8割台半ばと高くなっている。一方、【**そう思わない**】は第2地域で42.5%と最も高く、次いで第14地域が41.8%となっている。

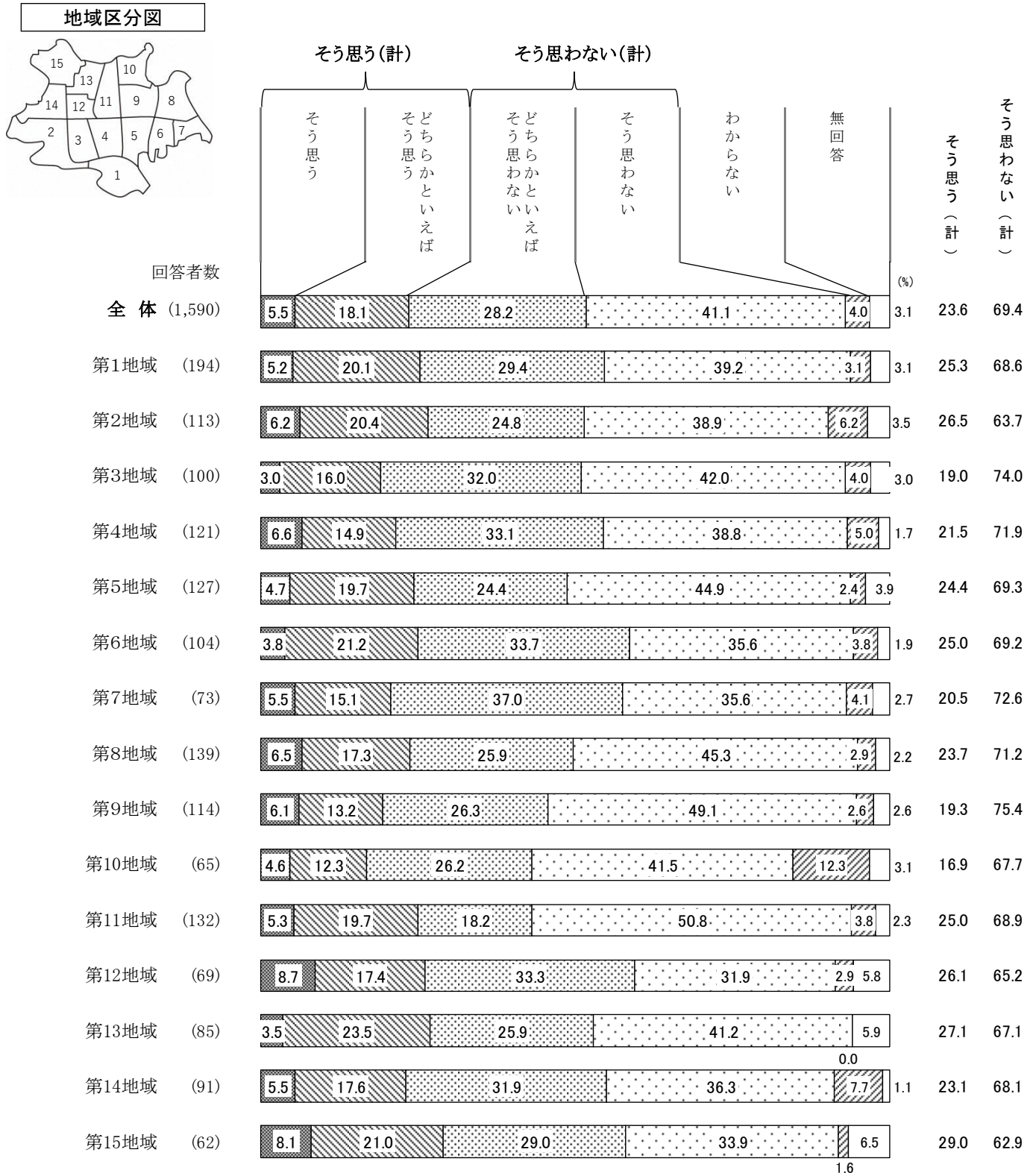
図1-1-2-⑤ 地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



〈 自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる 〉について、【そう思う】は第15地域で29.0%と最も高く、次いで第13地域が27.1%となっている。一方、【そう思わない】は第9地域で75.4%と最も高く、次いで第3地域が74.0%で続くが、第4地域、第7地域、第8地域でも7割を超えて高くなっている。

図1-1-2-⑥ 地域別／居住地域の評価

／自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる

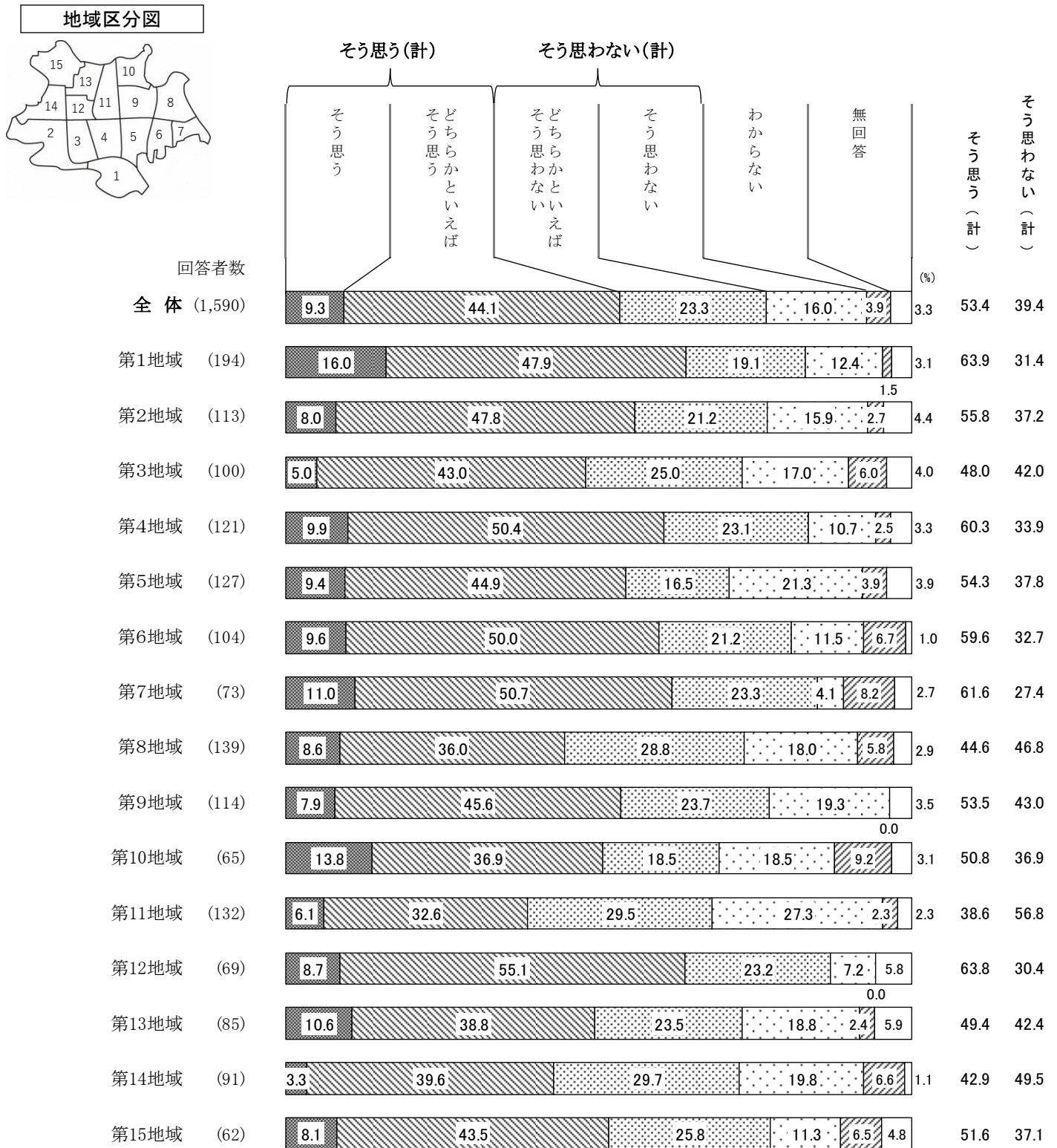




第3章 調査結果の分析〈定住性〉

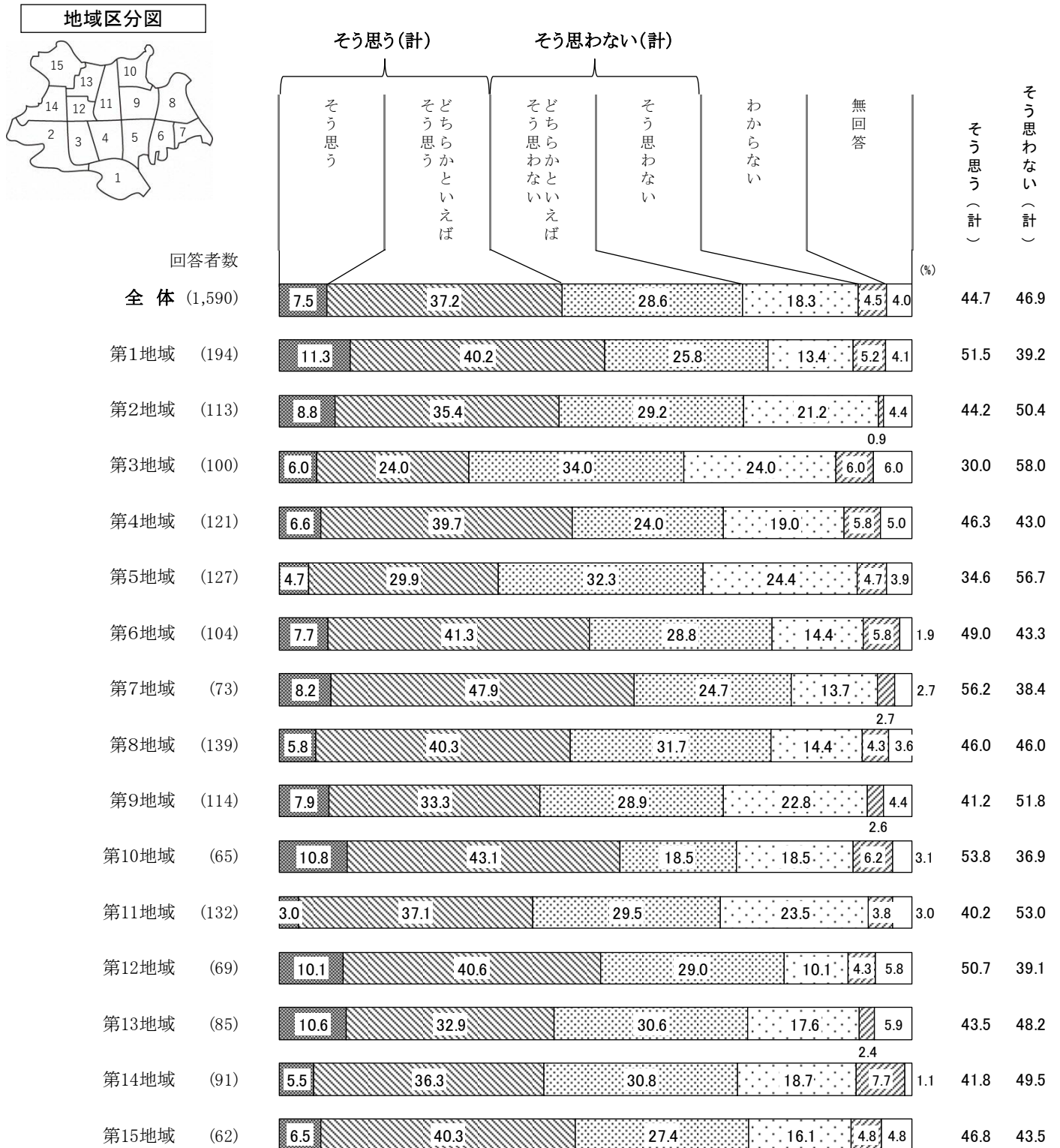
〈快適で安全なまちである〉について、【そう思う】は第1地域で63.9%と最も高く、次いで第12地域が僅差の63.8%で続くほか、第4地域と第7地域でも6割台と高くなっている。一方、【そう思わない】は第11地域で56.8%と最も高く、次いで第14地域が49.5%で高くなっている。

図1-1-2-⑦ 地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである



〈景観・街並みが良好である〉について、【**そう思う**】は第7地域で56.2%と最も高く、次いで第10地域が53.8%となっている。一方、【**そう思わない**】は第3地域で58.0%と最も高く、次いで第5地域で56.7%となっている。

図1-1-2-⑧ 地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である

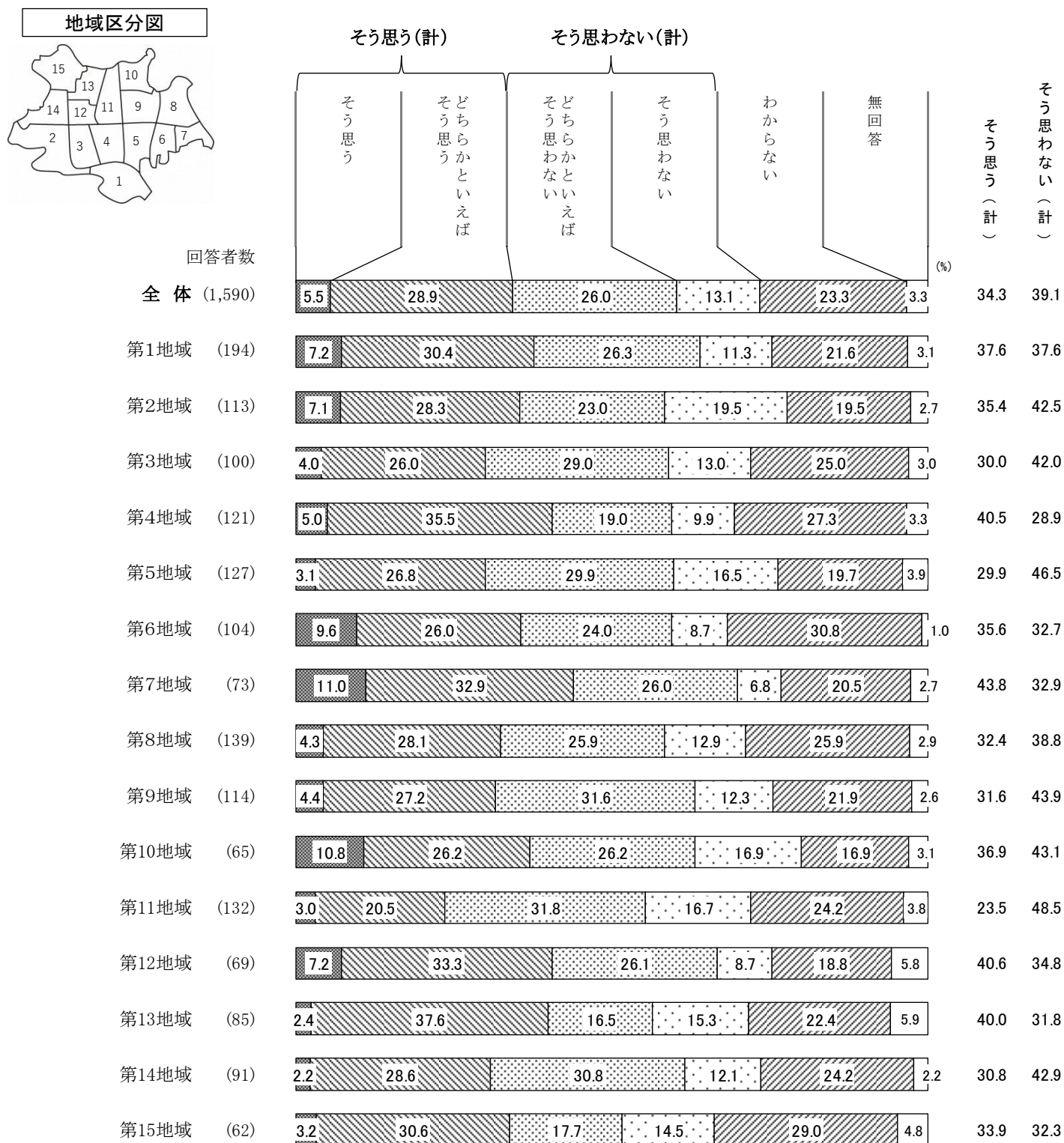


第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉について、【そう思う】は第7地域が43.8%と最も高く、これに第4地域、第12地域、第13地域が4割台が続いている。一方、【そう思わない】は第11地域で48.5%と最も高く、第5地域が46.5%で続いている。

図1-1-2-⑨ 地域別／居住地域の評価

／地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している

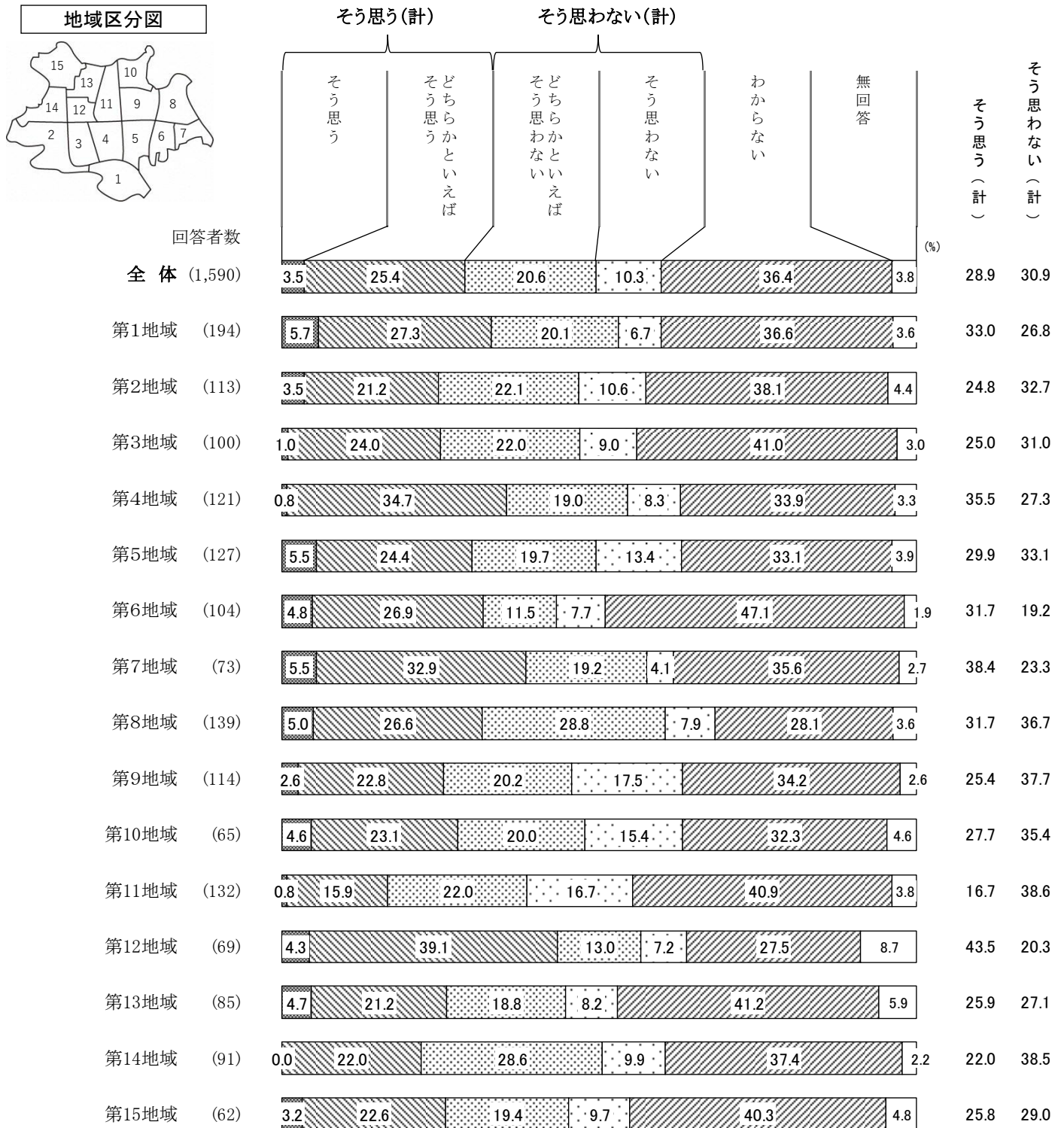




〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉について、【**そう思う**】は第12地域で43.5%と最も高く、第7地域が38.4%が続いている。一方、【**そう思わない**】は第11地域で38.6%と最も高く、次いで第14地域が僅差の38.5%が続いている。

図1-1-2-⑩ 地域別／居住地域の評価

／男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている



(2) 居住地域評価の経年比較

■ 〈ごみやタバコのポイ捨て〉及び〈ペットのふん〉で【減っている】がともに5割前後

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのように感じていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

図1-2-1-① 経年比較／居住地域評価

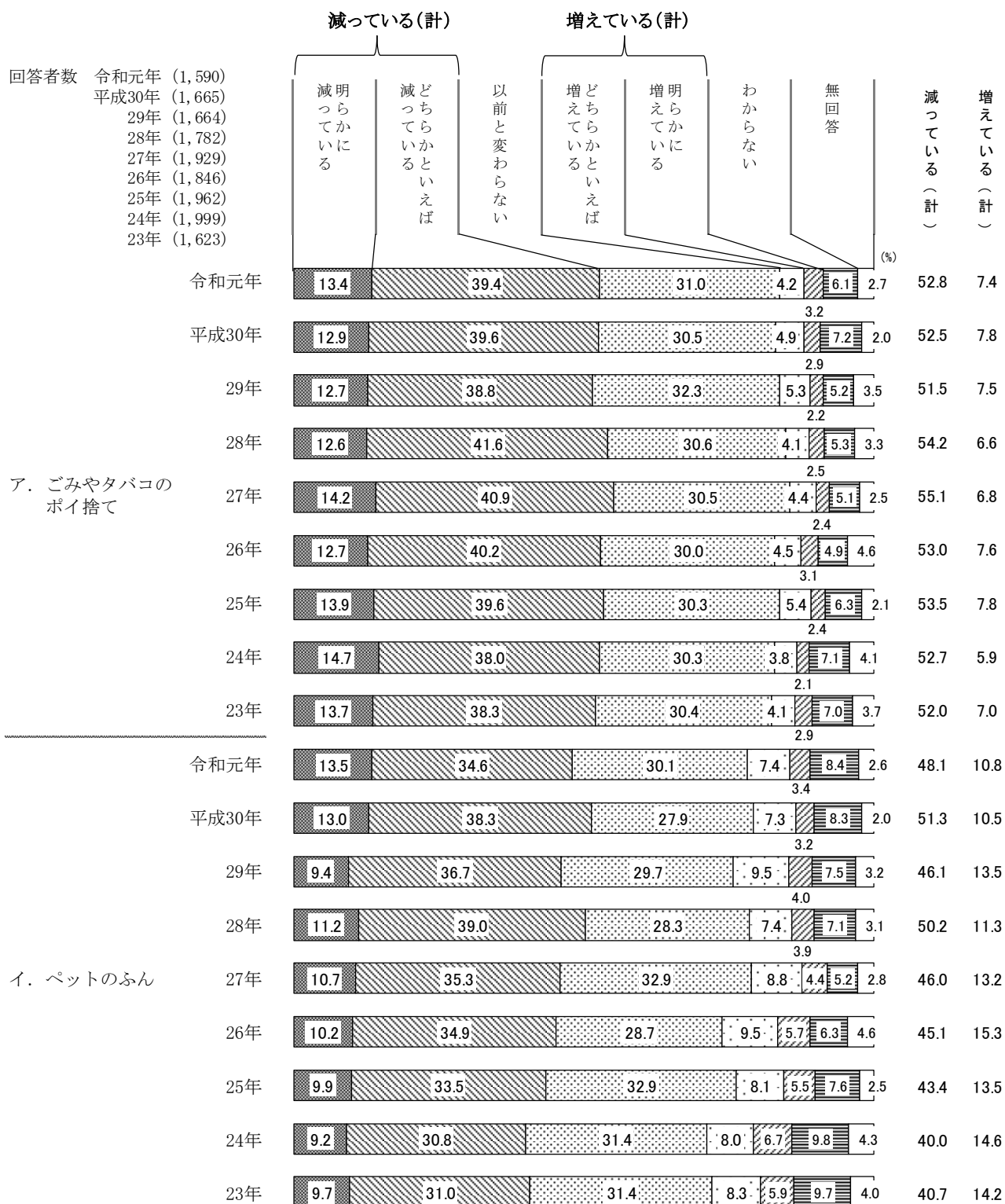
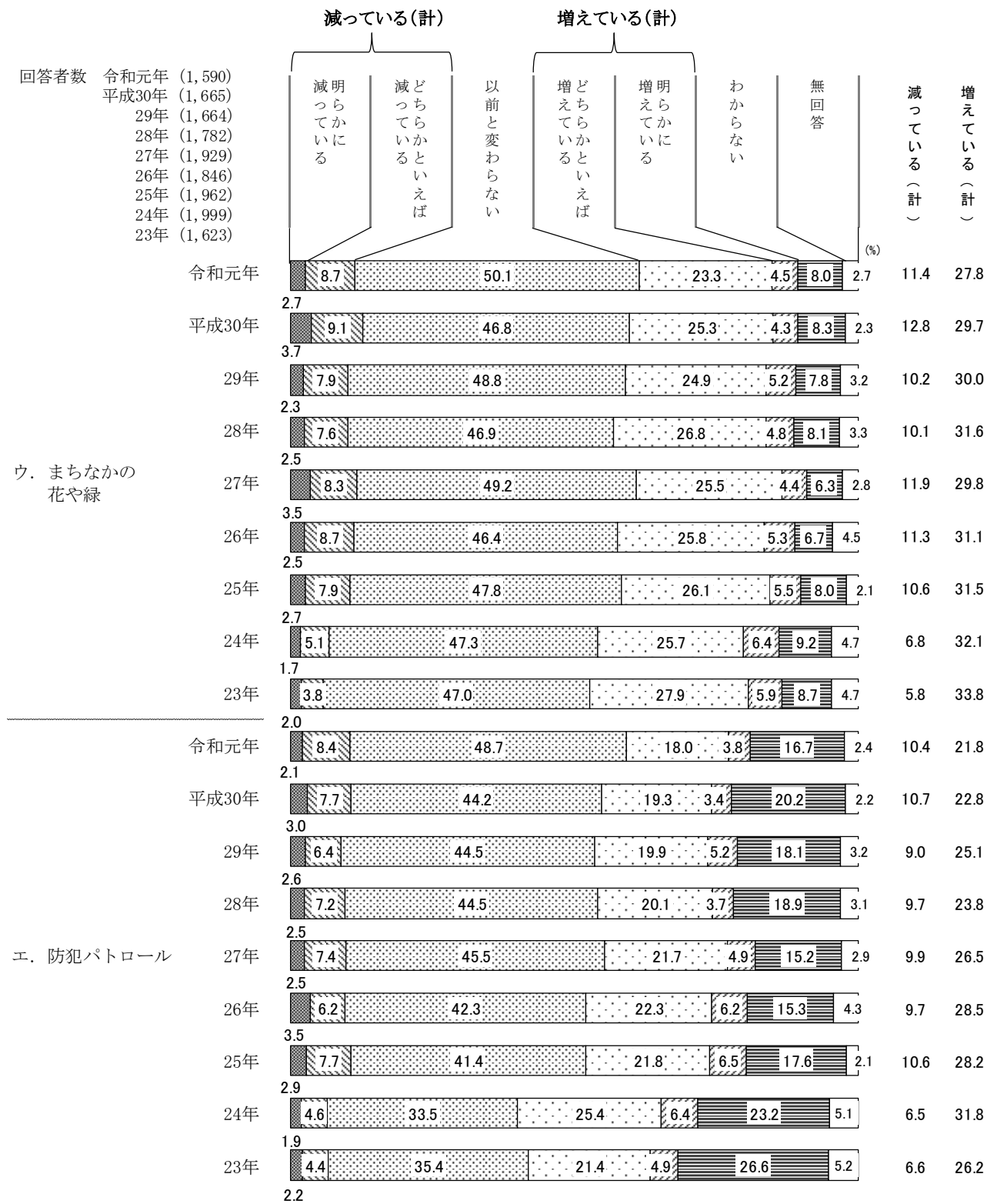


図1-2-1-② 経年比較／居住地域評価



### 第3章 調査結果の分析〈定住性〉

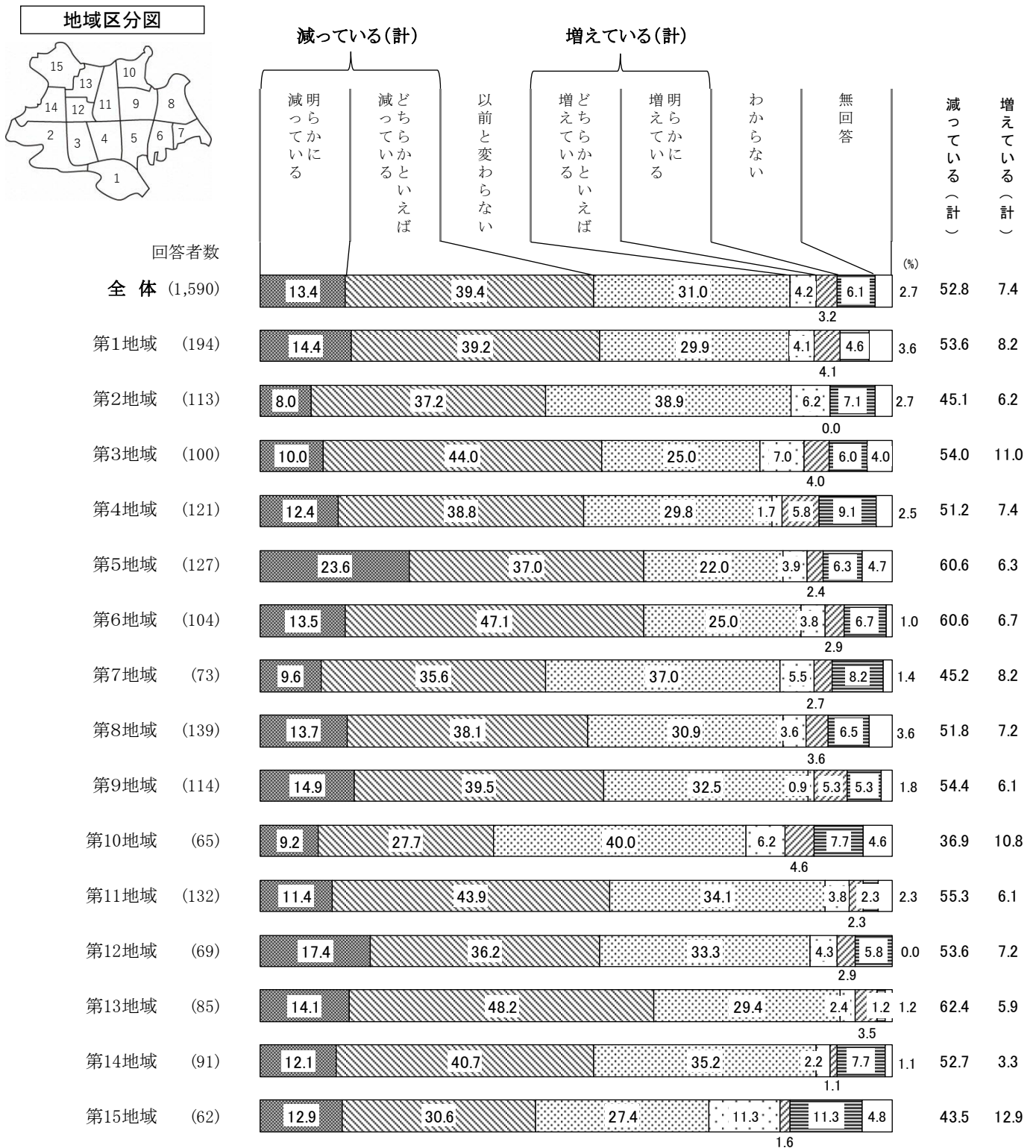
お住まいの地域の状況について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた【減っている】の高い順にみると、〈ごみやタバコのポイ捨て〉が52.8%で最も高く、次いで〈ペットのふん〉が48.1%となって、ともに5割前後に達している。一方、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた【増えている】の高い順にみると、〈まちなかの花や緑〉が27.8%で最も高く、次いで〈防犯パトロール〉が21.8%となっている。

経年で比較すると、〈ペットのふん〉について【減っている】が今回48.1%と前回の平成30年調査の51.3%より3.2ポイント減少しているが、〈ごみやタバコのポイ捨て〉では【減っている】が僅かながら増加している。一方、〈まちなかの花や緑〉について【増えている】が今回27.8%と前回の29.7%より1.9ポイント減少し、〈防犯パトロール〉も【増えている】が前回より微減している。

各項目について、地域別でみた。

〈ごみやタバコのポイ捨て〉について、【減っている】は第13地域で62.4%と最も高く、次いで第5地域と第6地域でも6割台と高くなっている。一方、【増えている】は第15地域で12.9%と最も高く、第3地域と第10地域でそれぞれ10%台となっている。

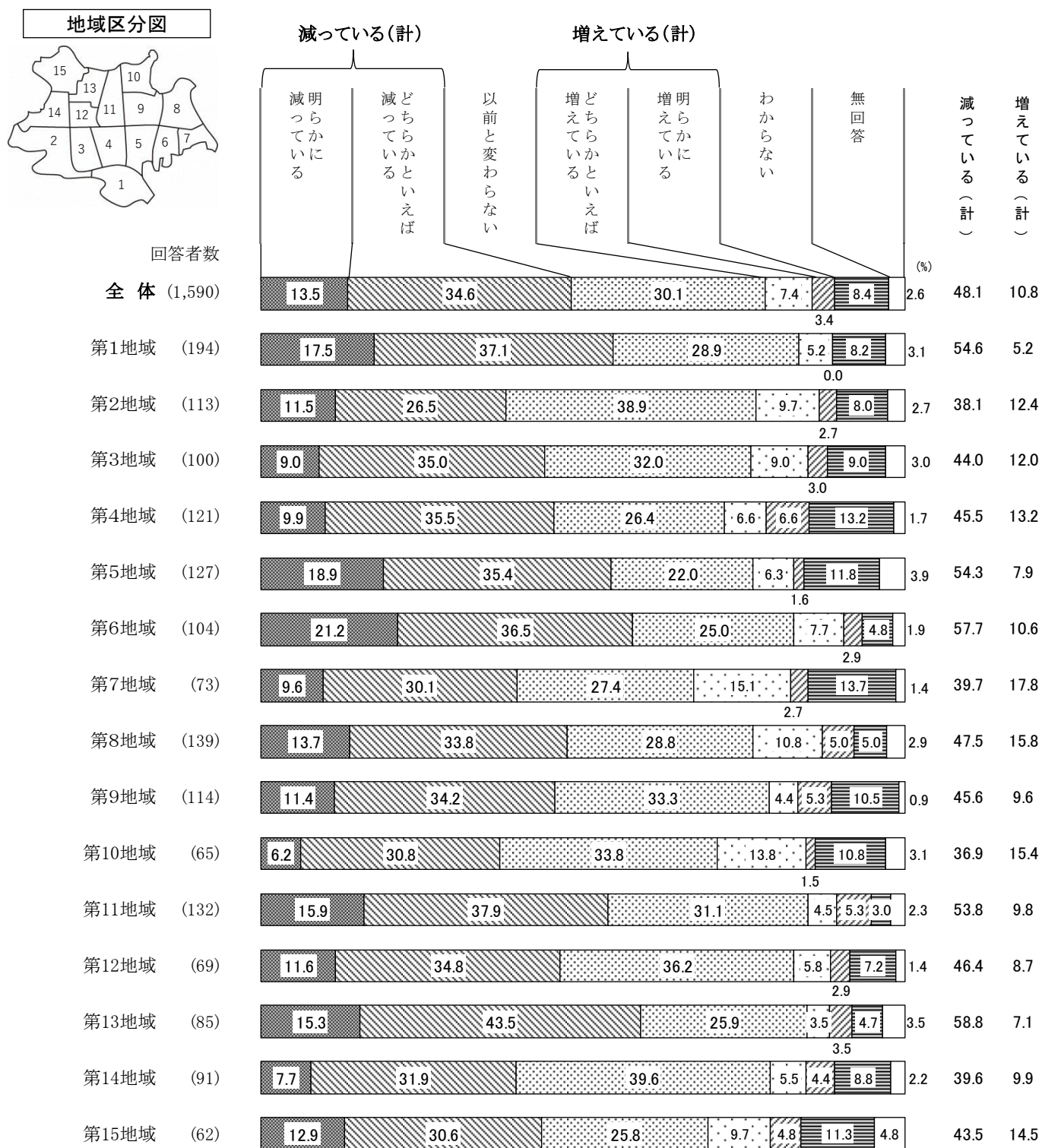
図1-2-2-① 地域別／ごみやタバコのポイ捨て



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

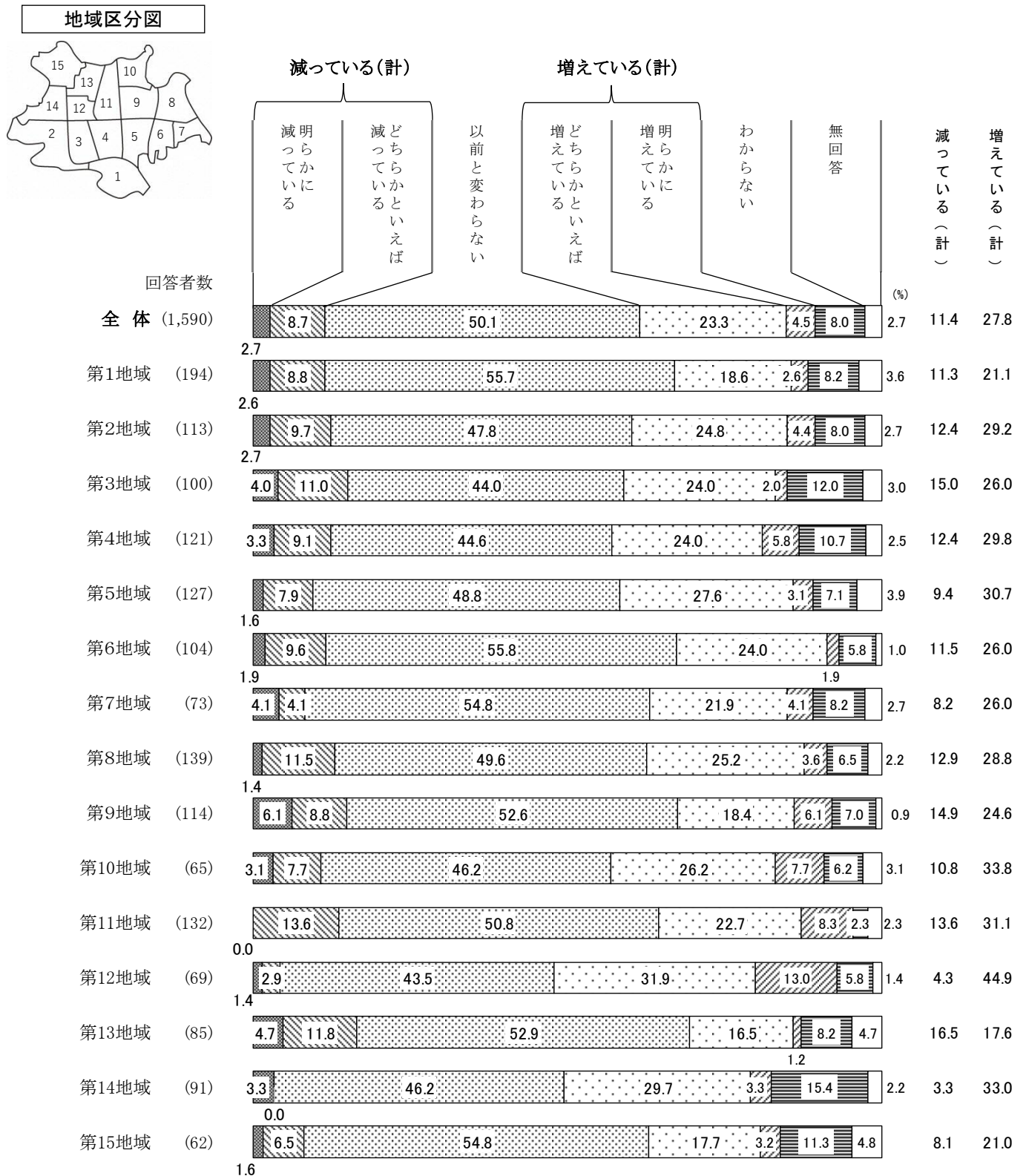
〈ペットのふん〉について、【減っている】は第13地域が58.8%と最も高く、次いで第6地域が57.7%で続いている。一方、【増えている】は第7地域で17.8%と最も高く、第8地域、第10地域、第15地域でもそれぞれ1割台半ばと高くなっている。

図1-2-2-② 地域別／ペットのふん



〈まちなかの花や緑〉について、【増えている】は第12地域で44.9%と最も高く、第10地域と第14地域でそれぞれ3割強と、他の地区より高くなっている。一方、【減っている】については、第3地域、第9地域、第13地域でそれぞれ1割台半ば以上と高くなっている。

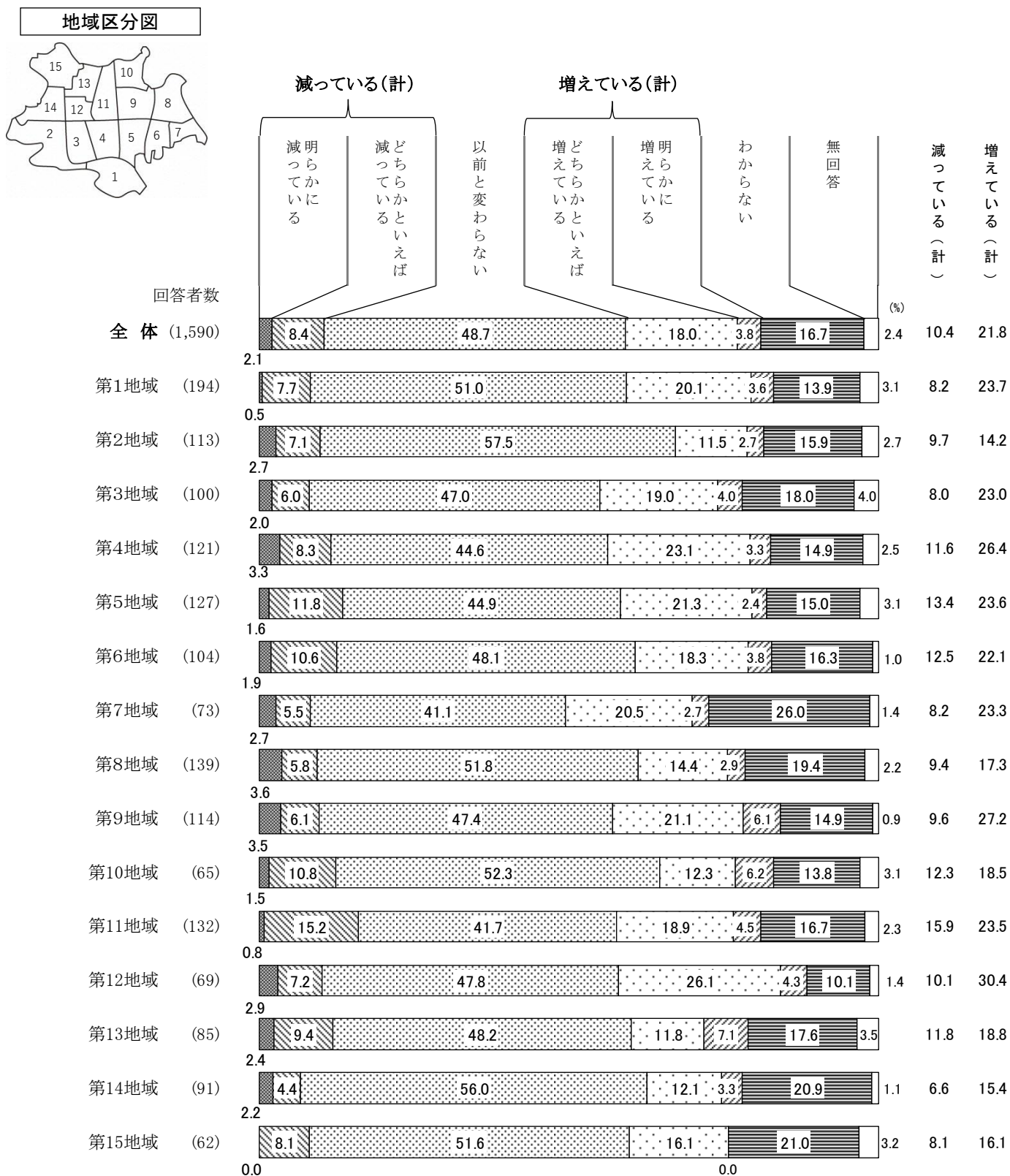
図1-2-2-③ 地域別／まちなかの花や緑



第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

〈防犯パトロール〉について、【増えている】は第12地域が30.4%と最も高く、これに第4地域と第9地域が2割台半ば以上で続いている。一方、【減っている】は第11地域で15.9%と最も高くなっている。

図1-2-2-④ 地域別／防犯パトロール





(3) 地域の暮らしやすさ

■ 【暮らしやすい】は3年続けて8割を超えている

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（〇は1つだけ）。

図1-3-1-① 経年比較／地域の暮らしやすさ

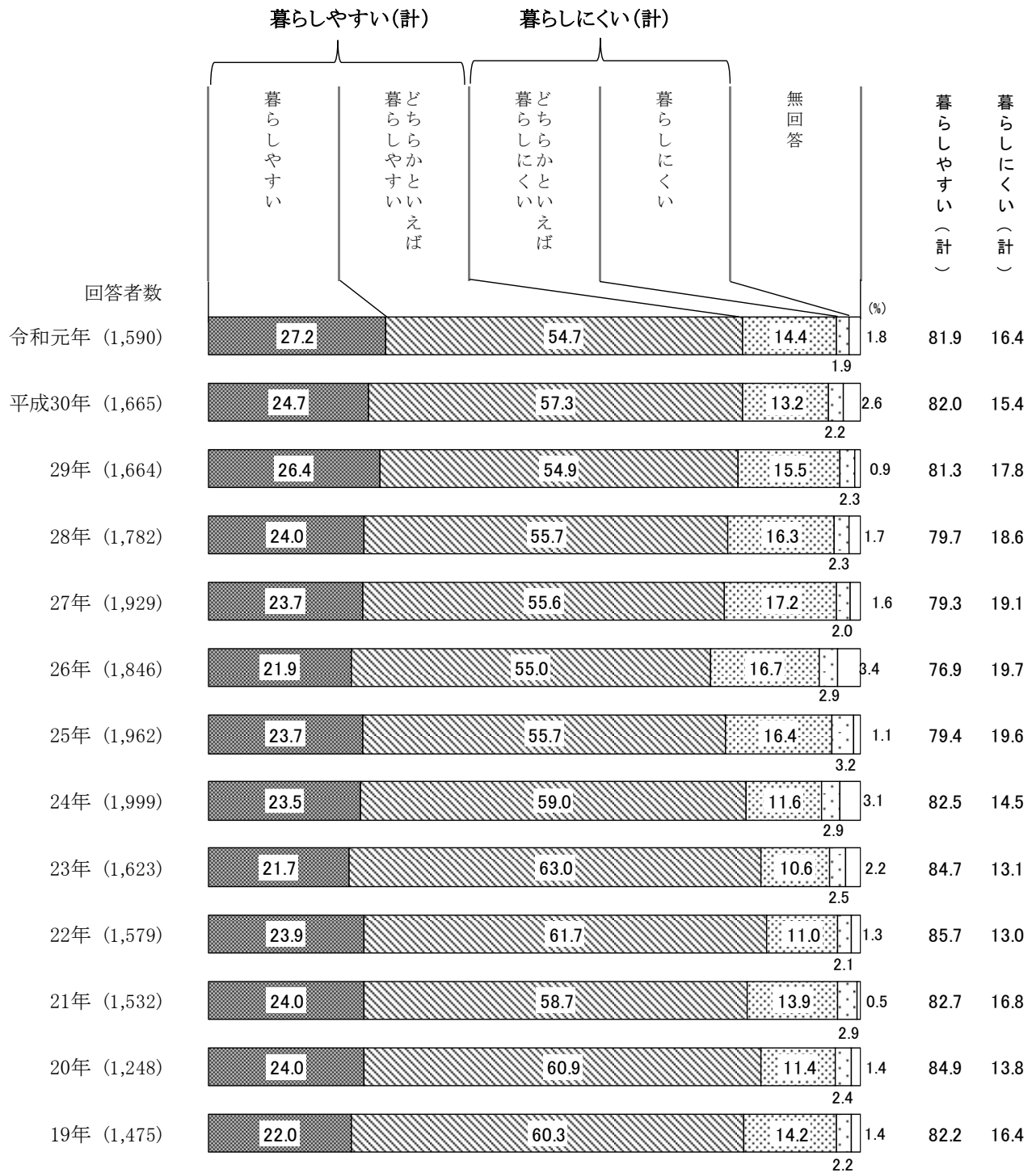
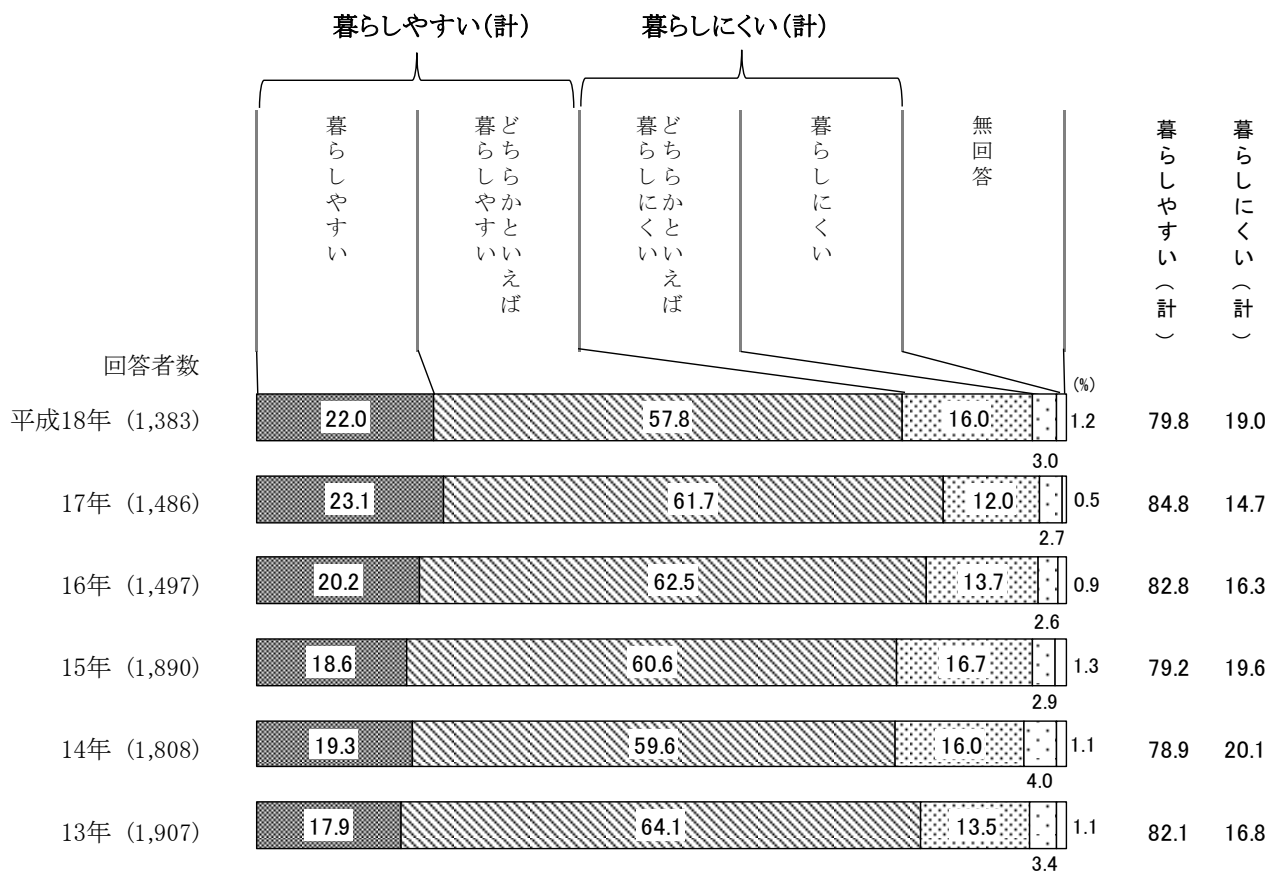


図1-3-1-② 経年比較/地域の暮らしやすさ

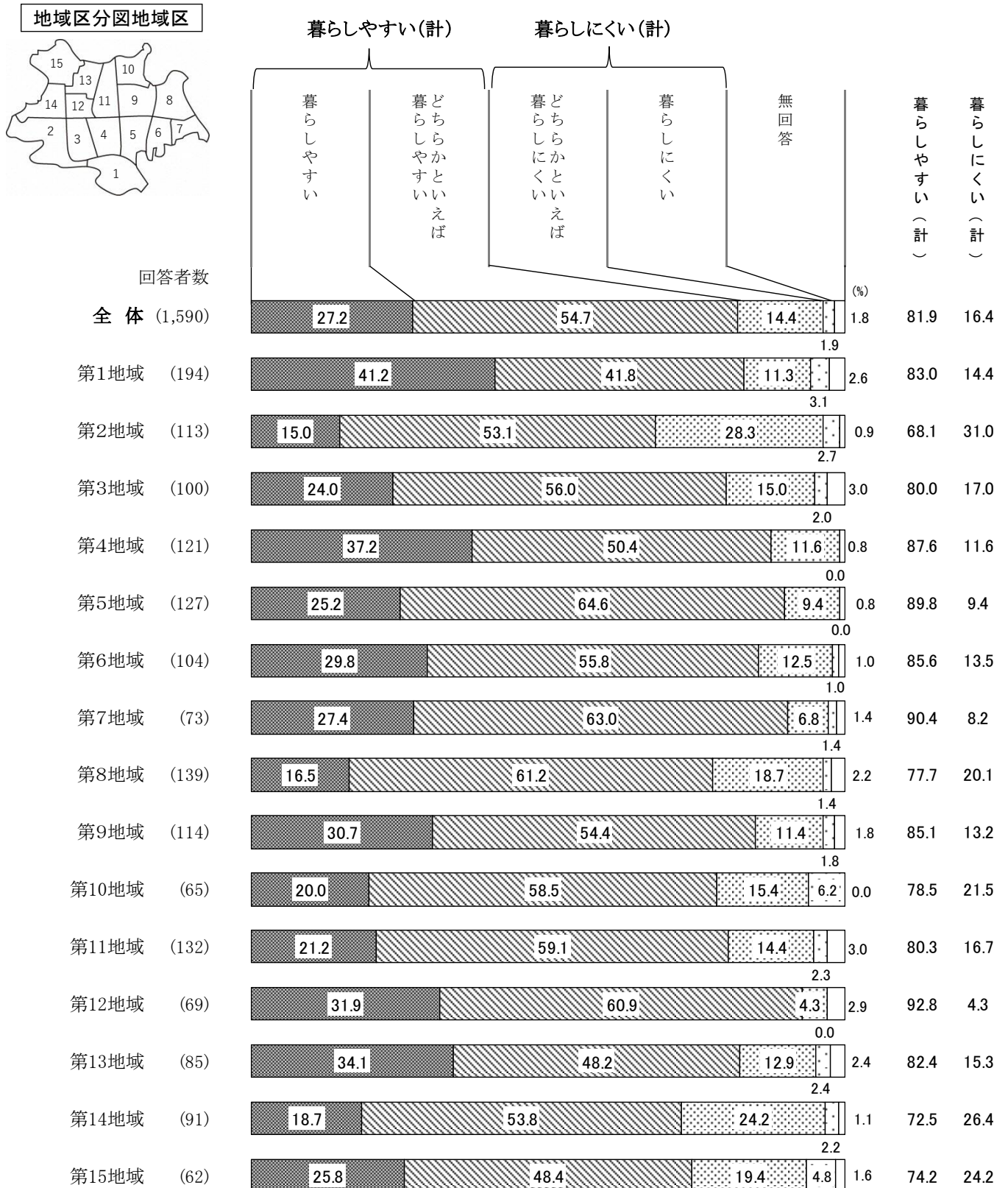


地域の暮らしやすさについて、「暮らしやすい」は27.2%で、「どちらかといえば暮らしやすい」(54.7%)を合わせた【暮らしやすい】は8割強を占めている。一方、「暮らしにくい」は1.9%で、「どちらかといえば暮らしにくい」(14.4%)を合わせた【暮らしにくい】は1割台半ばである。

経年でみると、【暮らしやすい】は、平成22年の85.7%を頂点として以降4年続けて漸減傾向にあったが、平成27年調査で79.3%と増加に転じ、今回調査でも前回の平成30年調査(82.0%)とほぼ同じの81.9%と、平成29年以降3年続けて8割を超えている。一方、「暮らしにくい」と「どちらかといえば暮らしにくい」を合わせた【暮らしにくい】は、今回の調査では16.4%と、前回の平成30年調査(15.4%)に比べると1.0ポイント増加しているものの、平成25年～平成29年の5年間と比べると引き続き低めにとどまる傾向が継続している。

地域別でみると、【暮らしやすい】は第12地域で92.8%と最も高く、次いで第7地域（90.4%）と第5地域（89.8%）が9割前後で続いている。一方、【暮らしにくい】は第2地域（31.0%）で3割を超えており、他の地域より高くなっている。

図1-3-2 地域別／地域の暮らしやすさ



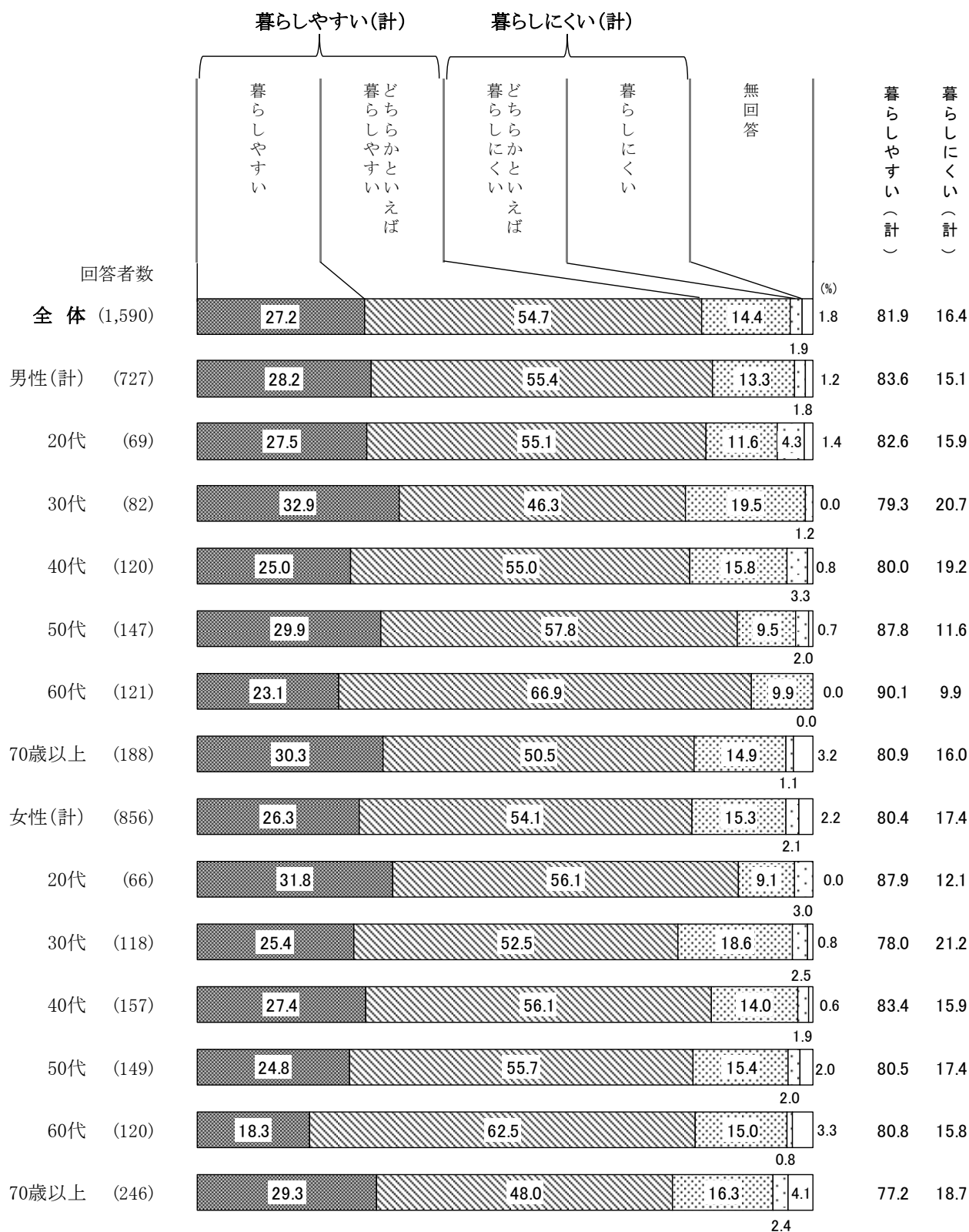
第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

性別でみると【暮らしやすい】は、男性83.6%、女性80.4%となっている。

性・年代別でみると、男性では60代で【暮らしやすい】が90.1%と9割に達して高い。

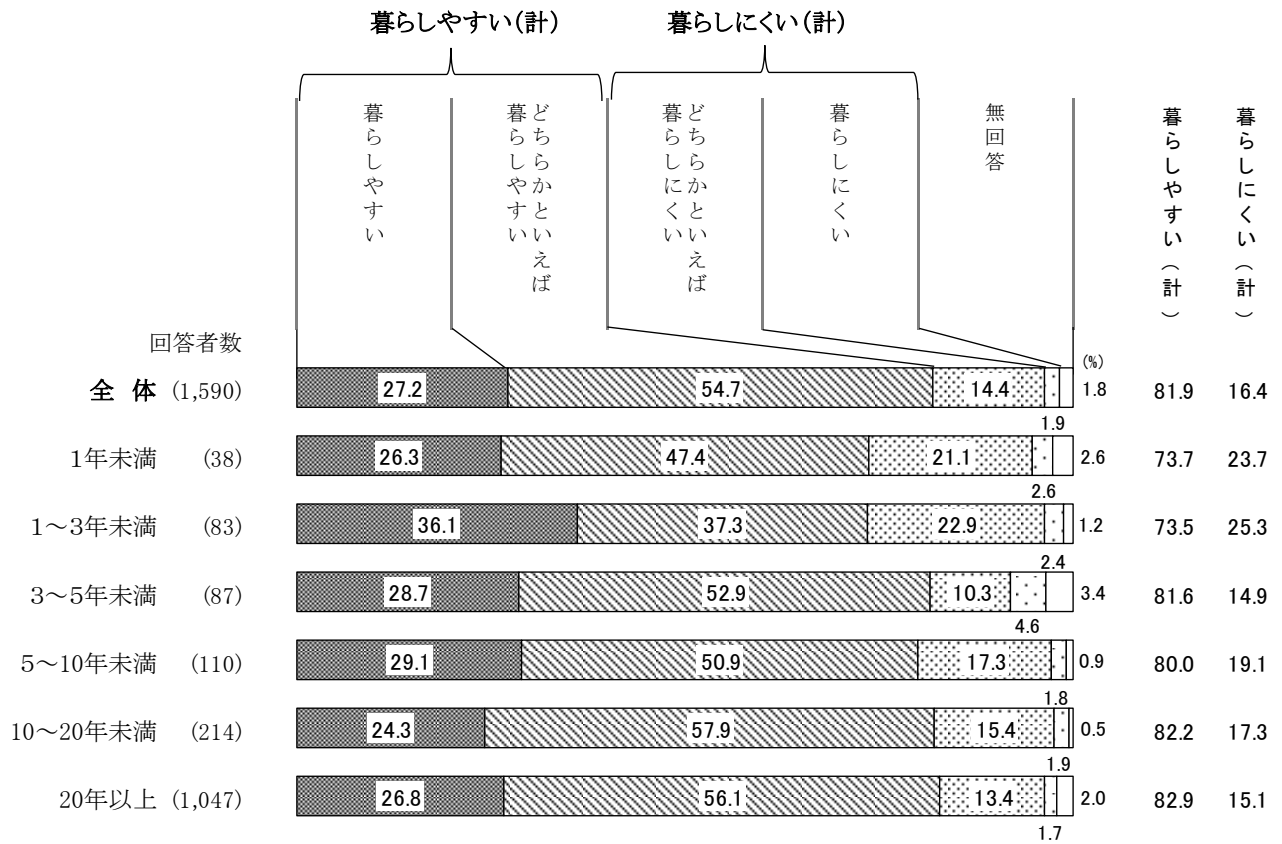
女性では、【暮らしやすい】は20代で87.9%と最も高く、【暮らしにくい】は30代で21.2%と最も高くなっている。

図1-3-3 性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



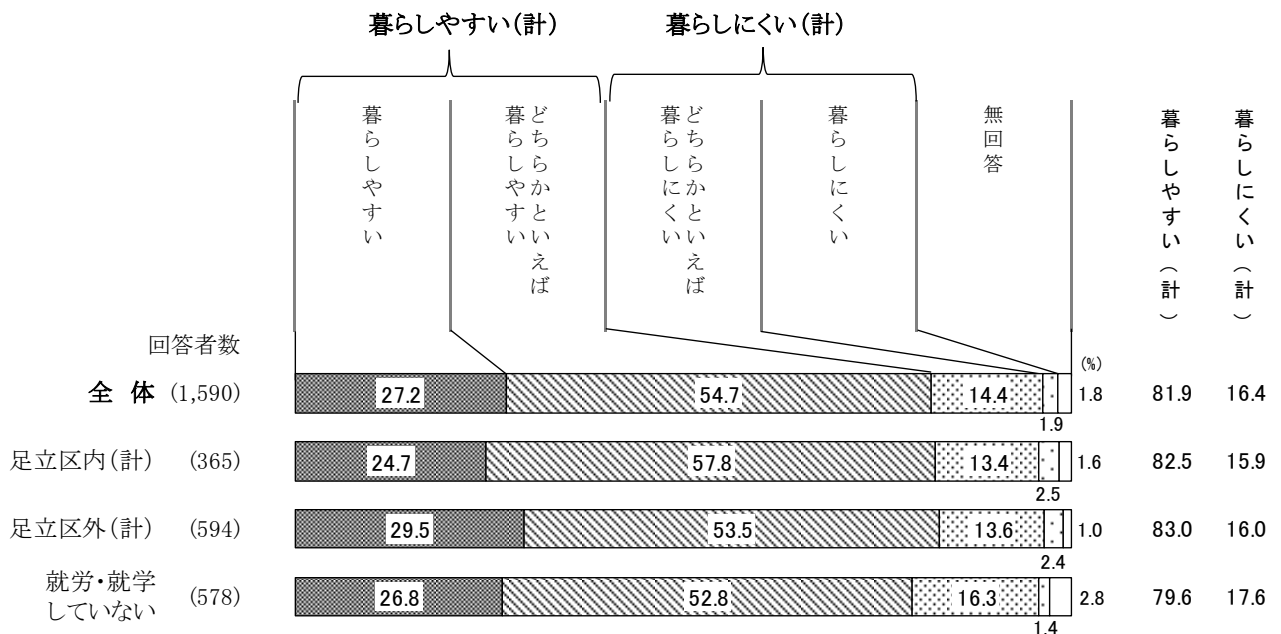
居住年数別でみると、「1年未満」と「1～3年未満」の両層で【暮らしやすい】が7割前半となっており、他の層と比べると低い傾向がみられる。

図1-3-4 居住年数別／地域の暮らしやすさ



就労・就学場所別にみると、いずれの層でも【暮らしやすい】が8割前後と大きな違いはみられない。

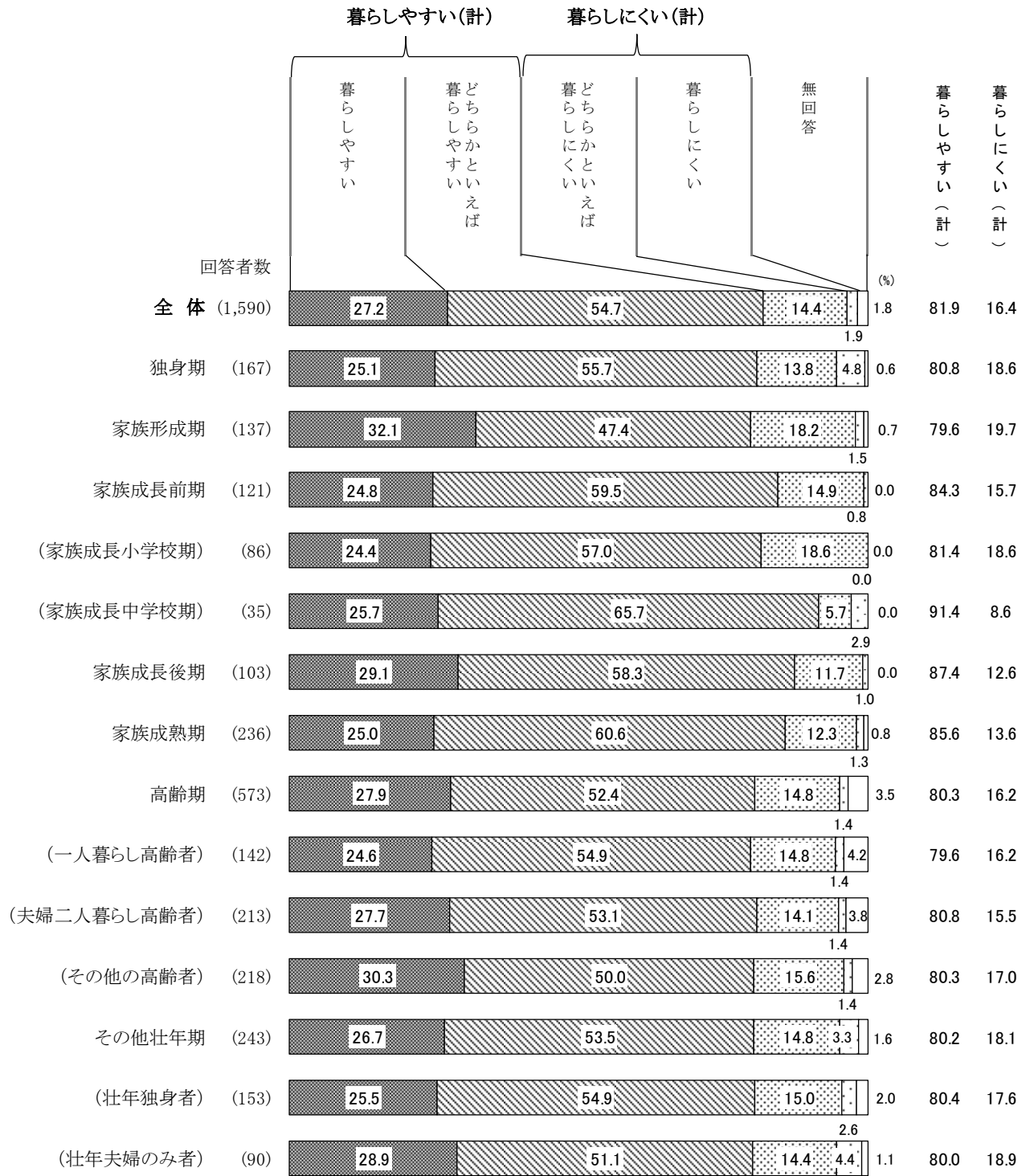
図1-3-5 就労・就学場所別／地域の暮らしやすさ



第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

ライフステージ別で見ると、いずれのステージでも【暮らしやすい】が8割弱から9割弱と大きな違いはみられないが、中では家族成長後期が87.4%で最も高い。

図1-3-6 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ



(4) 特に暮らしにくいと感じること

■ “交通の便の悪さ”が4割台半ばで最多、“マナーやルールへの意識の低さ”が4割弱

問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に  
問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか (〇は3つまで)。

図1-4-1-① 経年比較/特に暮らしにくいと感じること

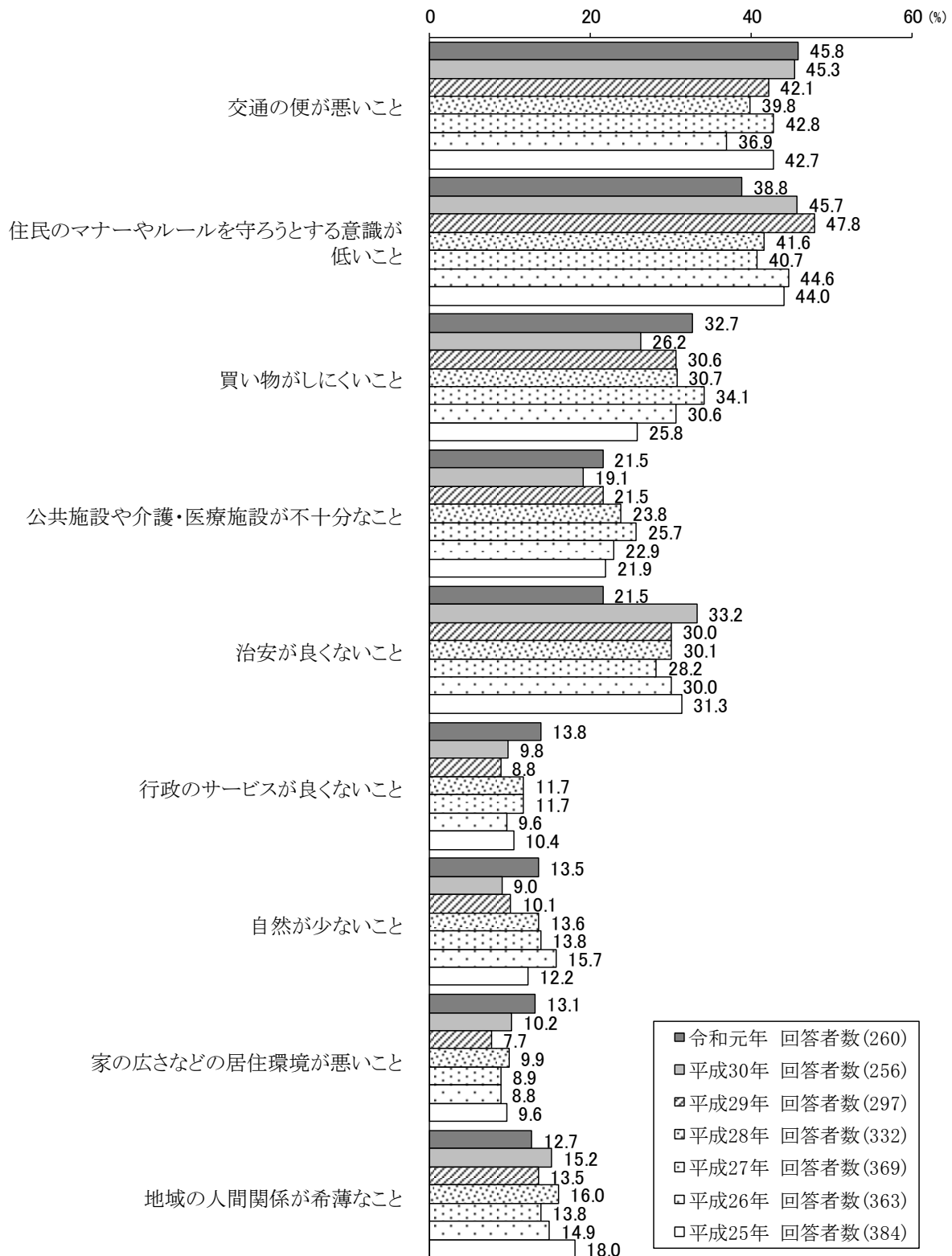
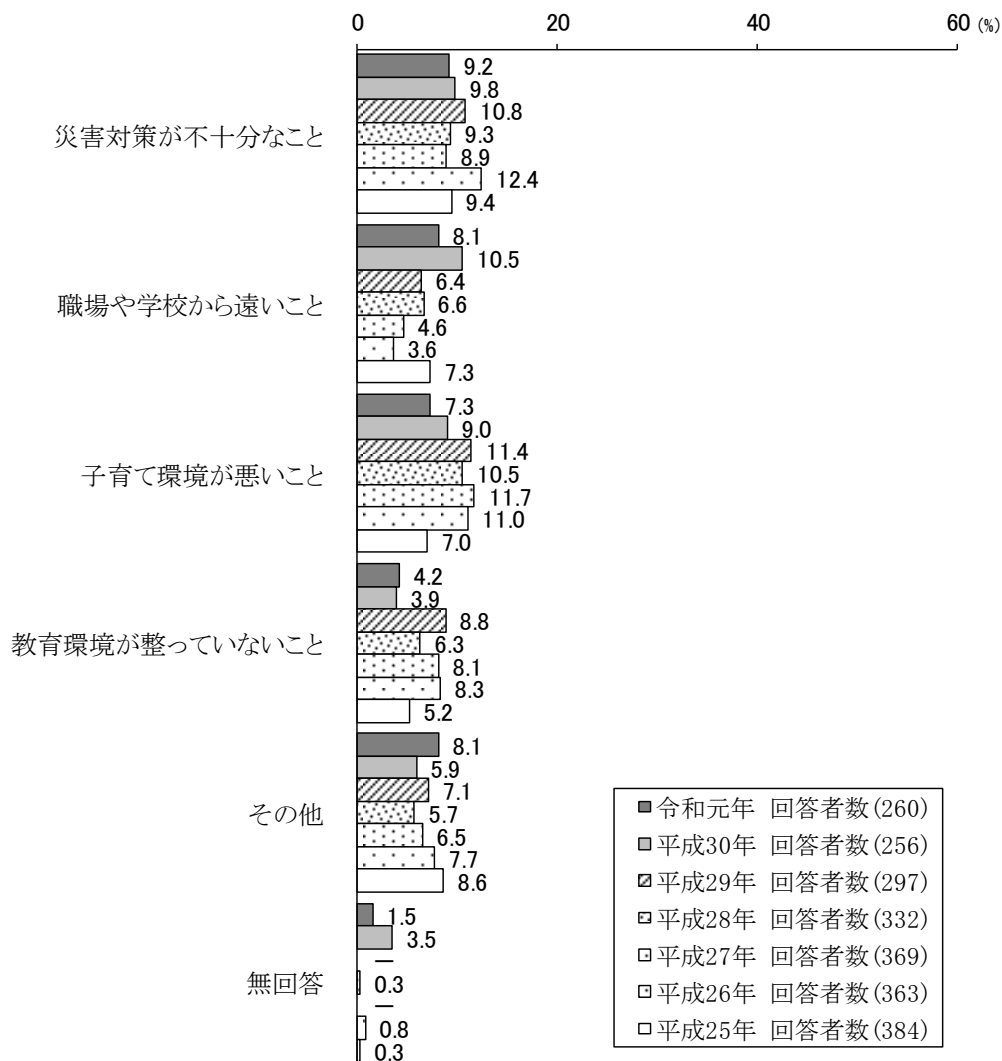


図1-4-1-② 経年比較／特に暮らしにくいと感じること



【暮らしにくい】という人に、その理由を聞いたところ、「交通の便が悪いこと」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、次いで「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」(38.8%)が4割弱で続き、「買い物がしにくいこと」(32.7%)も3割強と高くなっている。

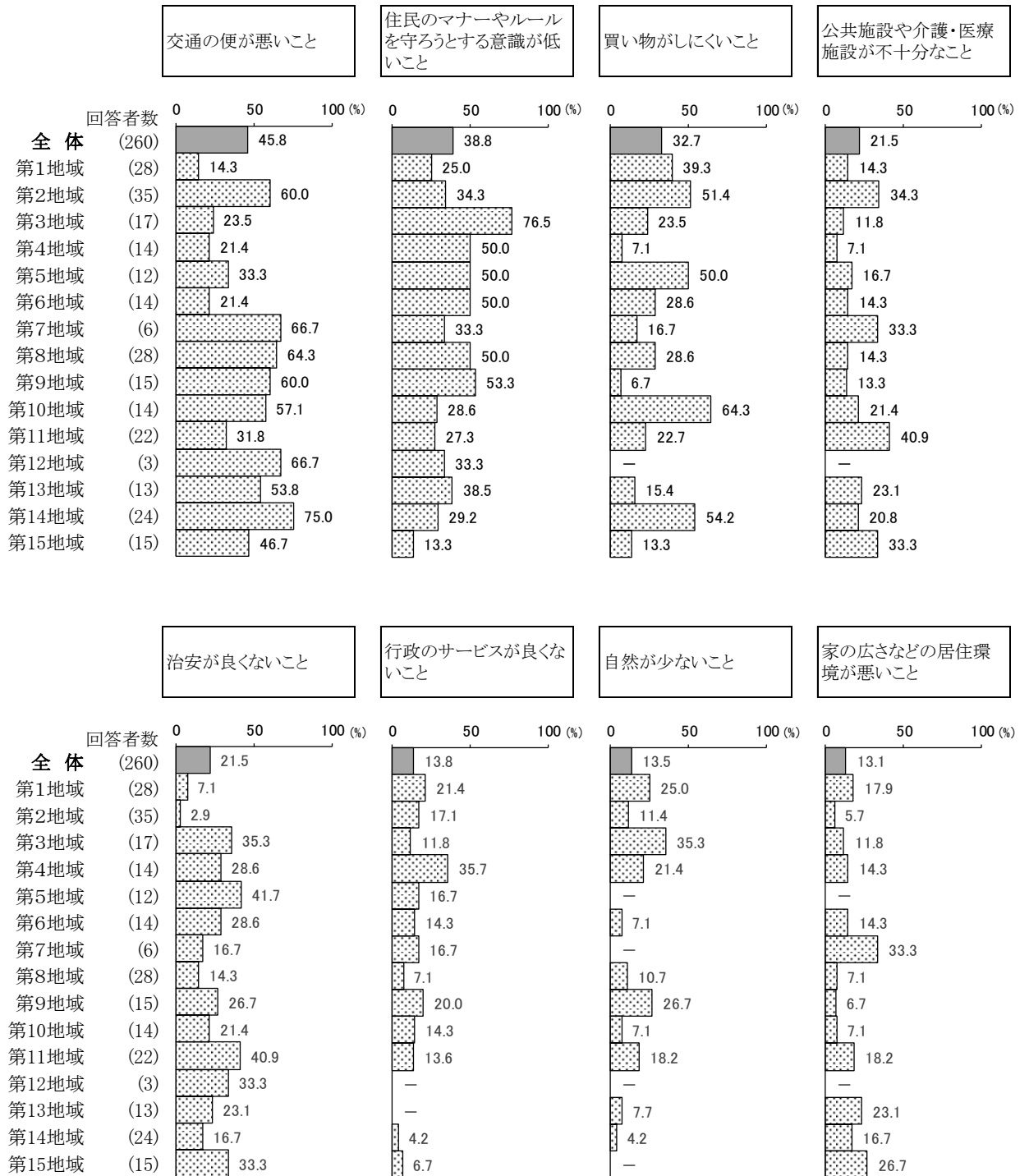
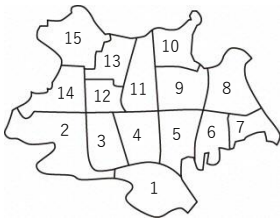
上位項目について経年でみると、平成30年調査に比べて、「交通の便が悪いこと」はほぼ同率ながら、次点の「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」と同率4位の「治安が良くないこと」はともに前回より10ポイント前後も減少しているのに対し、3位の「買い物がしにくいこと」は前回の26.2%から今回32.7%と6.5ポイント増加している。

地域別でみると、地域によって回答者数が少ないところがあることから参考値にとどめる必要があるものの、「交通の便が悪いこと」は第14地域で7割台半ば、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は第3地域で7割台半ば、「買い物がしにくいこと」は第10地域が6割台半ばで、それぞれ全地域中最も高くなっている。



図1-4-2 地域別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

地域区分図

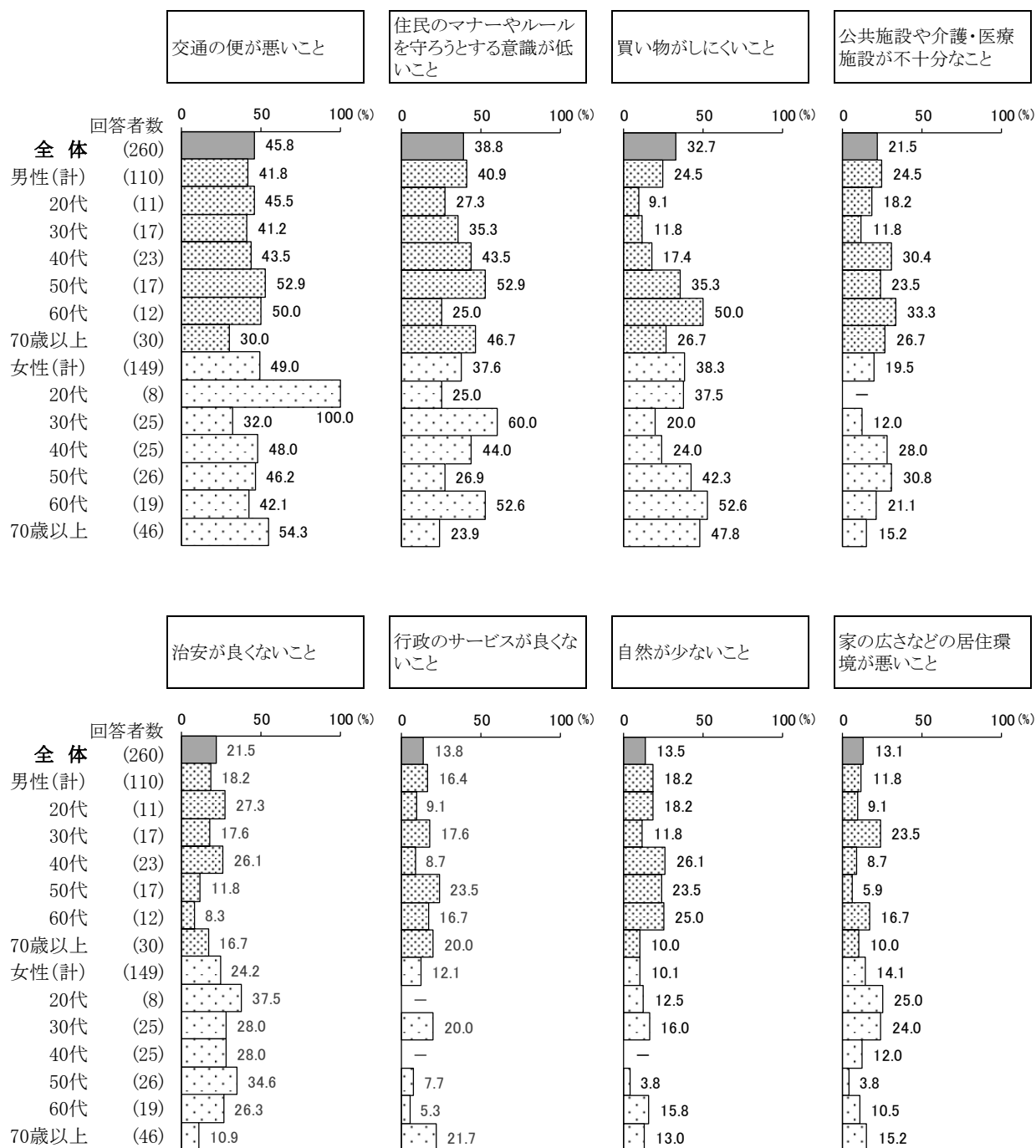


第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

性別でみると、「交通の便が悪いこと」と「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」では男女で大きな違いはみられない。なお、「買い物がしにくいこと」では女性が38.3%と男性（24.5%）を上回っている。

性・年代別でみると、サンプル数が少ない層が多いことからあくまで参考値ながら、男女ともに60代で「買い物がしにくいこと」が他の年代に比べて高くなっている。また、女性20代ではサンプル数が8名ながら「交通の便が悪いこと」が100%で特に高い。

図1-4-3 性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

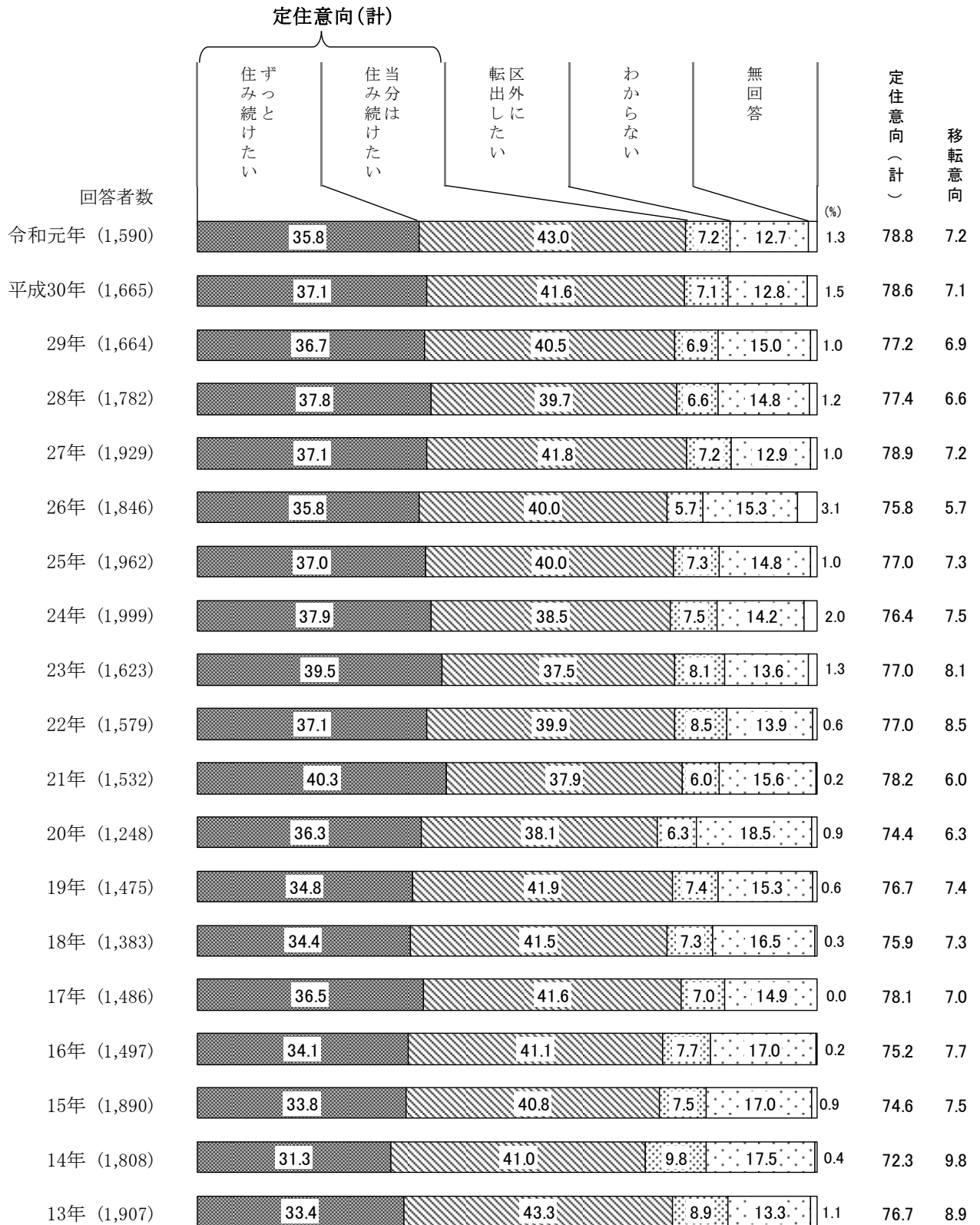


(5) 定住意向

■ 【定住意向】がある人は、前回と同じく8割弱

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（○は1つだけ）。

図1-5-1 経年比較／定住意向



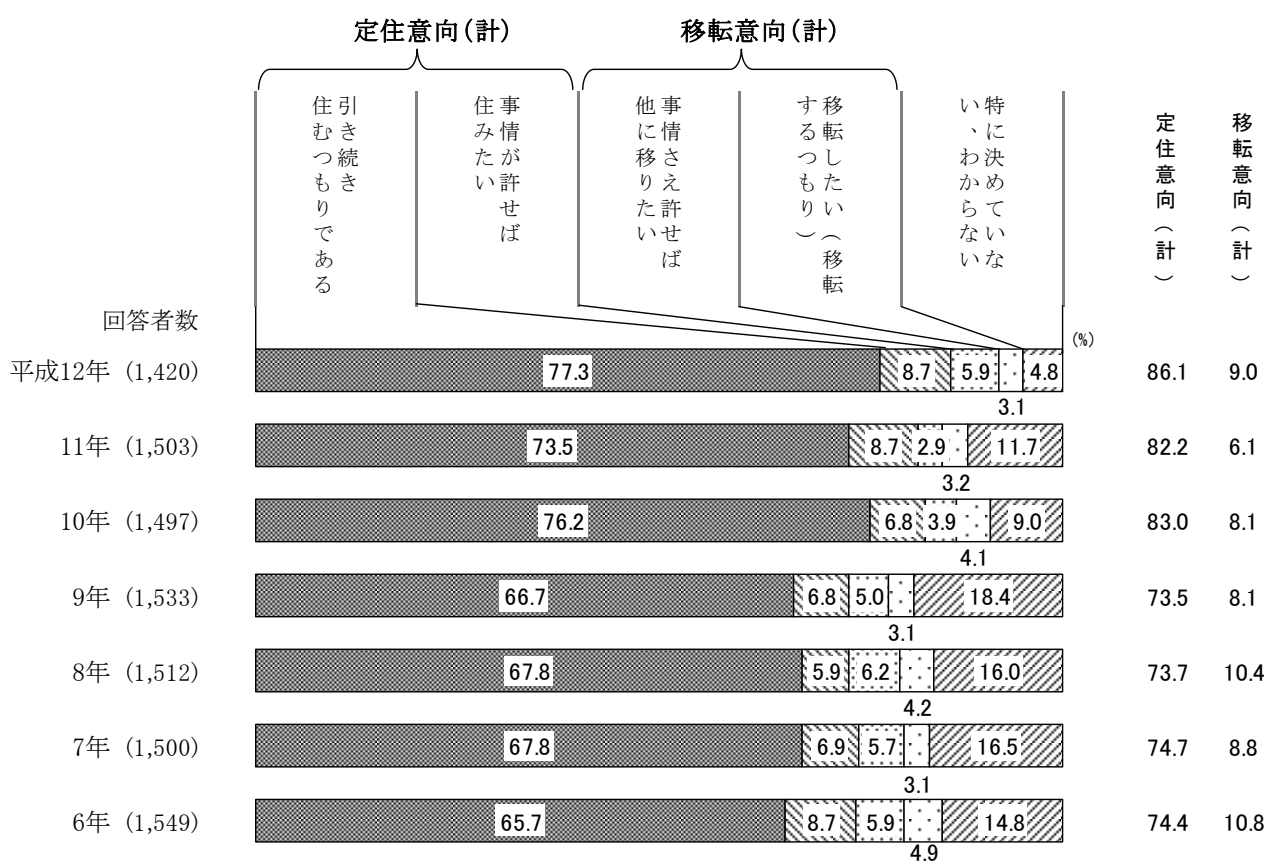
### 第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

足立区への定住意向をみると、「ずっと住み続けたい」は35.8%で、「当分は住み続けたい」(43.0%)を合わせた【定住意向】は78.8%と8割弱を占めている。一方、「区外に転出したい」は7.2%と1割未満である。

経年でみると、現行の選択肢となった平成13年以降、大きな変動はみられないが、今回の【定住意向】は78.8%と、平成30年(78.6%)とほぼ同レベルとなっている。

#### 参考／定住・移転意向の推移

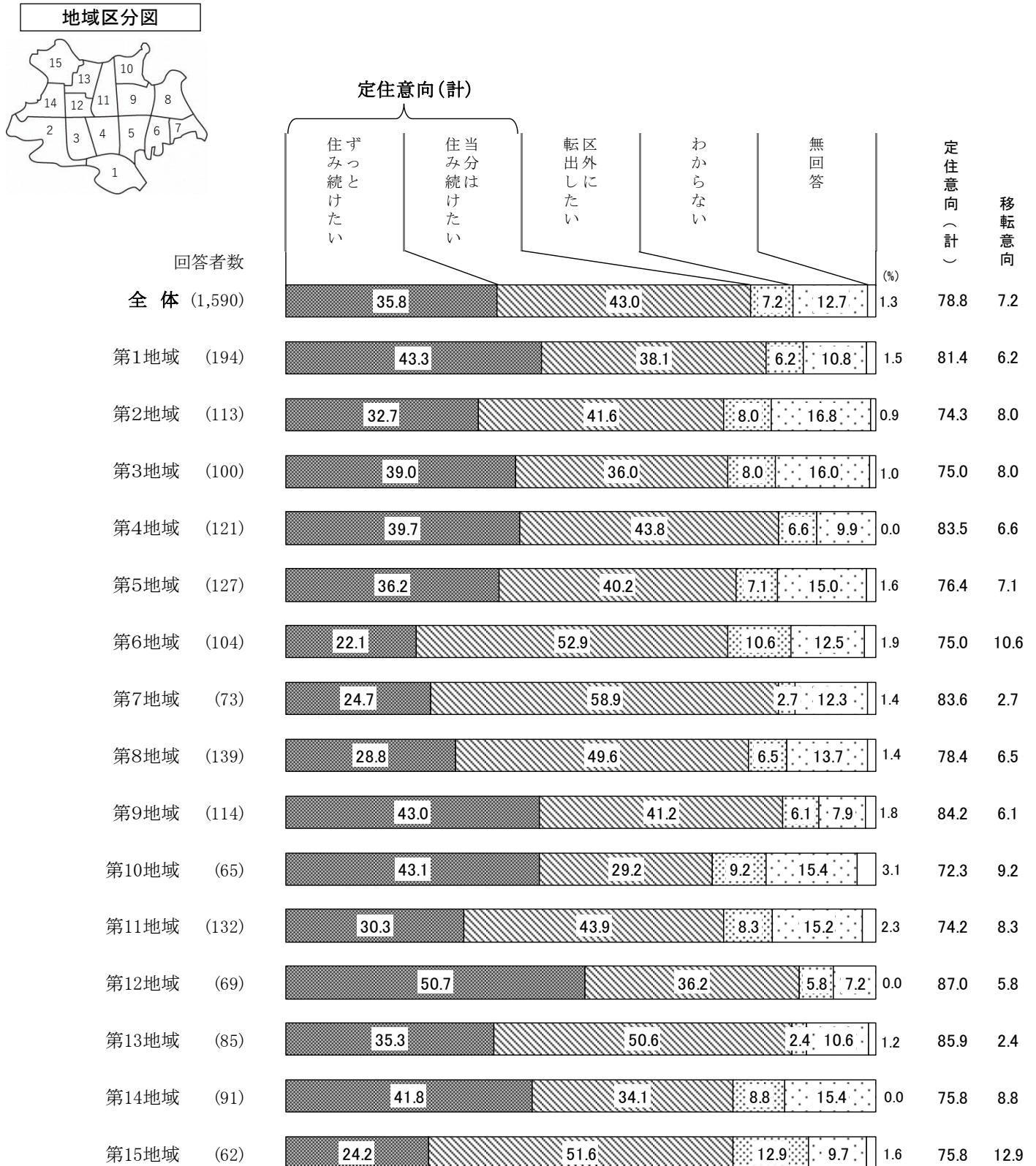
問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つにお答えください。  
(○は1つ)



※ 平成12年度までと平成13年度以降では、調査方法（平成12年度までは訪問面接法、平成13年度以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域別でみると、【定住意向】は第12地域で87.0%と最も高く、以下、第13地域（85.9%）、第9地域（84.2%）の順となっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は第15地域で12.9%と最も高い。

図1-5-2 地域別／定住意向

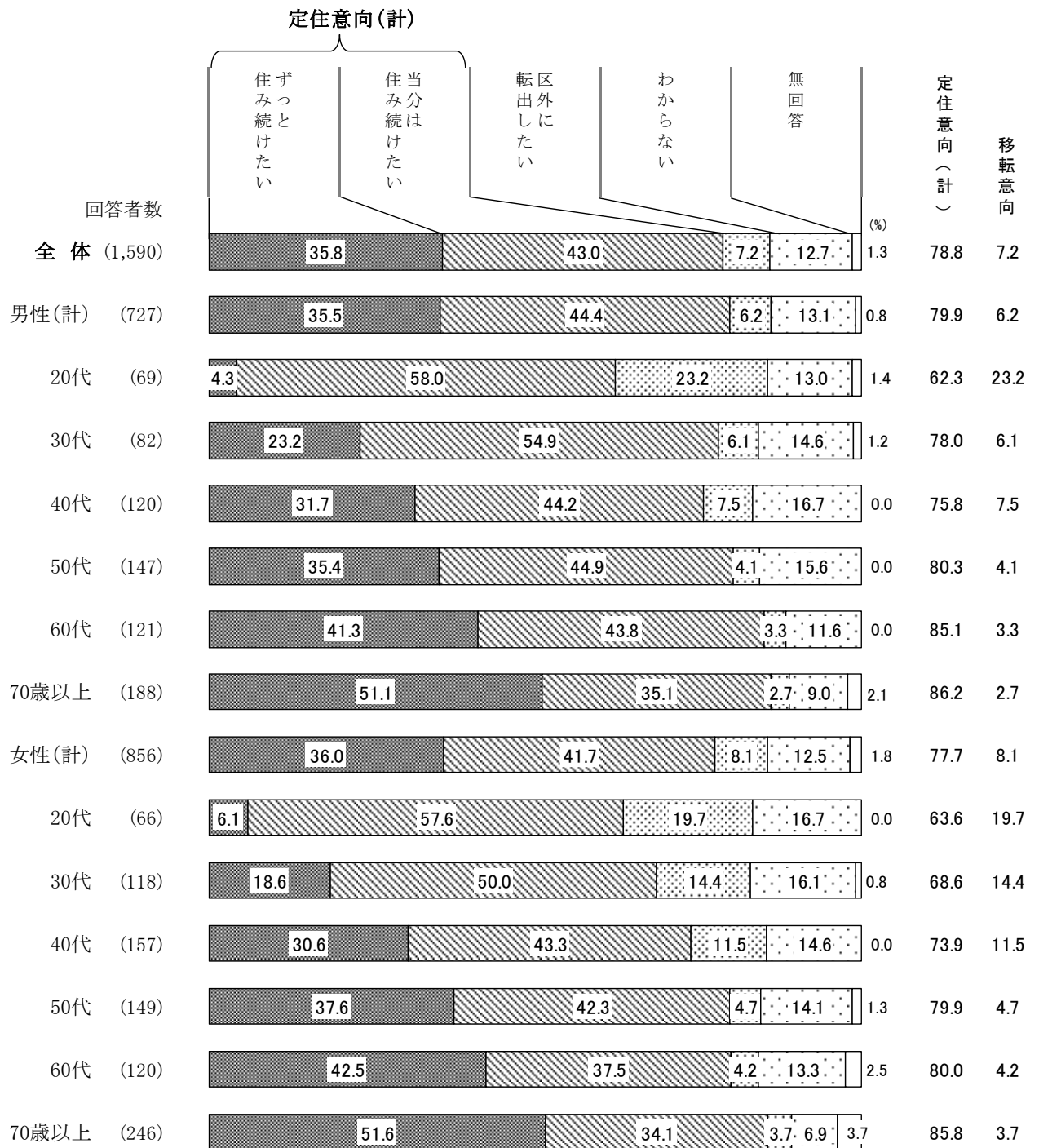


第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

性別でみると、【定住意向】は、男性79.9%、女性77.7%となっている。

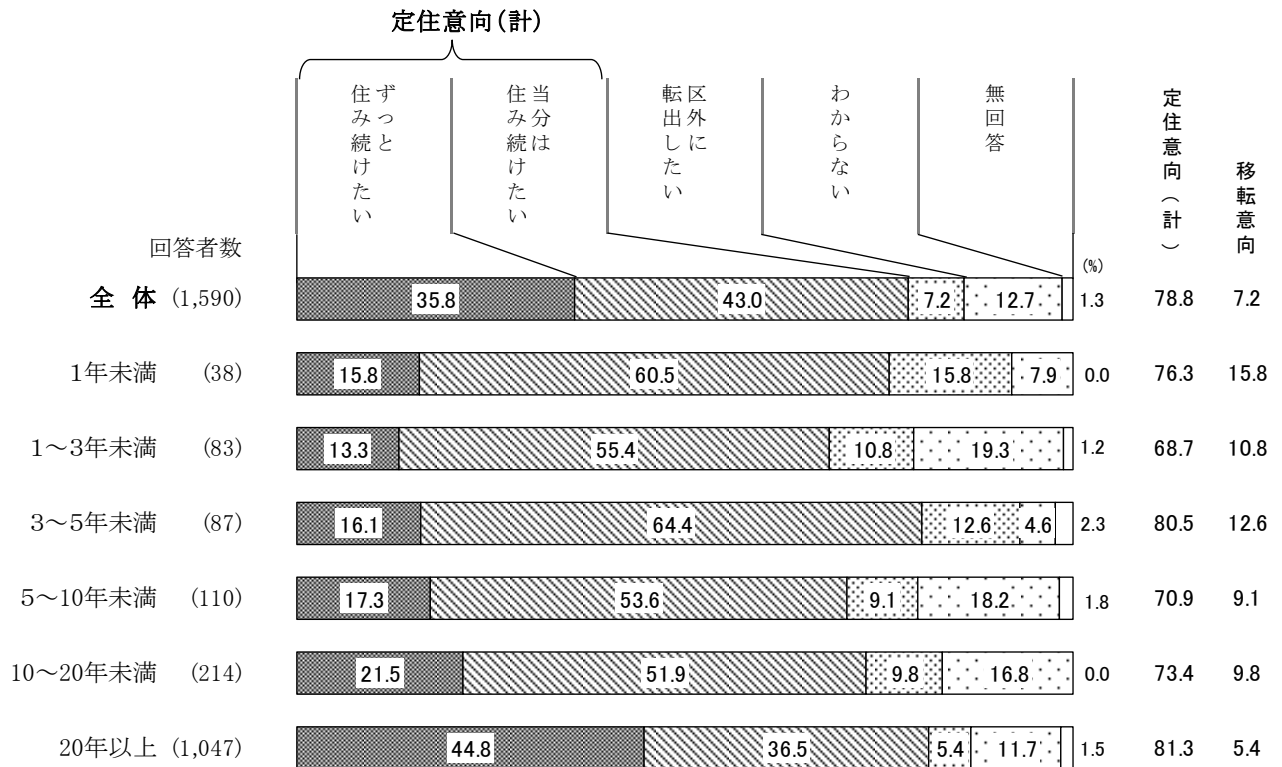
性・年代別でみると、男性、女性ともに【定住意向】は70歳以上（男性86.2%、女性85.8%）で他の年代に比べて高く、20代（男性62.3%、女性63.6%）で低くなっている。

図1-5-3 性別、性・年代別／定住意向



居住年数別で見ると、【定住意向】は3～5年未満（80.5%）と20年以上（81.3%）の両層で8割を超えて高く、1～3年未満（68.7%）と5～10年未満（70.9%）の両層で7割前後と低くなっており、居住年数の長短による一定の傾向はみられない。

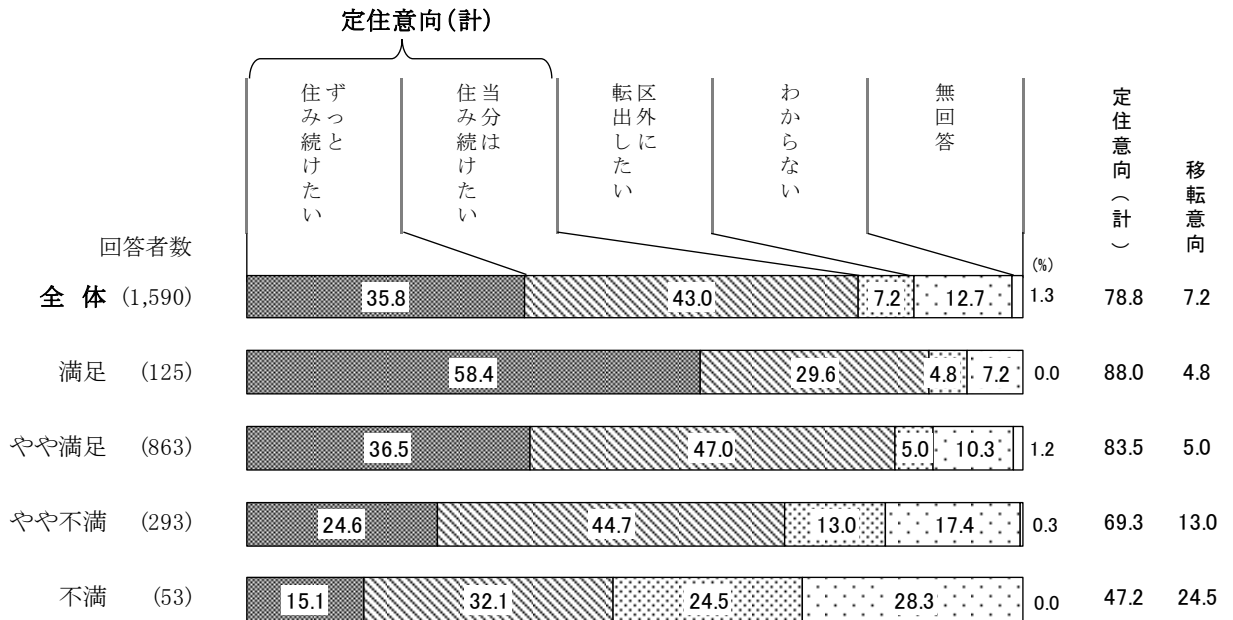
図1-5-4 居住年数別／定住意向



第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

区政への満足度別にみると、満足度が高くなるにつれて【定住意向】は高くなり、満足という層では88.0%と9割弱となっている。

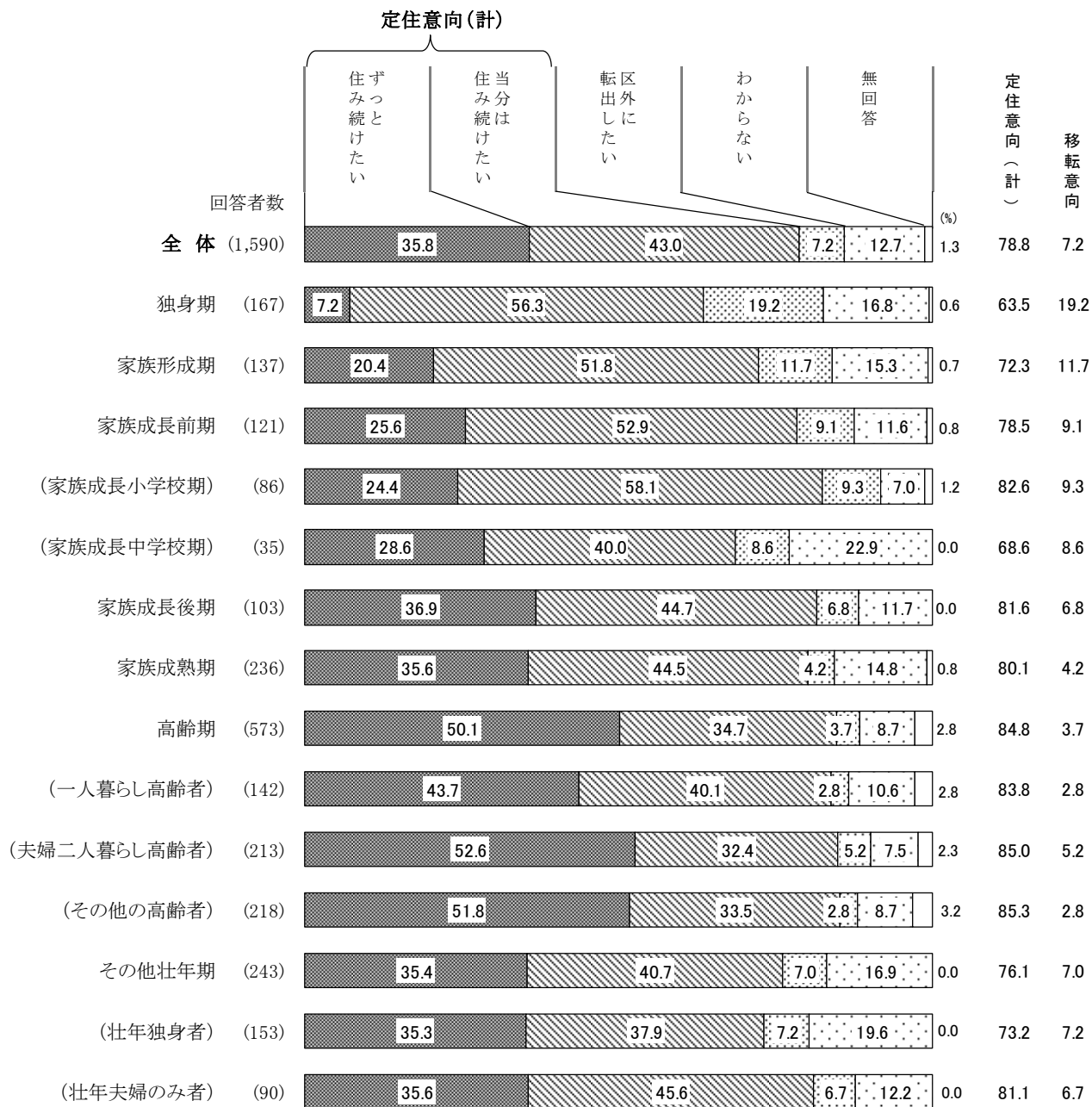
図1-5-5 区政満足度別／定住意向





ライフステージ別で見ると、【定住意向】は高齢期で84.8%と最も高く、家族成長後期（81.6%）と家族成熟期（80.1%）の両層も8割台となっている。

図1-5-6 ライフステージ別/定住意向





## 2 大震災などの災害への備え

- 
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
  - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
  - (3) 備蓄量
  - (4) 災害発生時の水や食料の確保
  - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
  - (6) 対策をしていない理由
  - (7) 地域の避難場所の認知
  - (8) 避難場所の認知経路
  - (9) 大規模災害時の避難生活場所
  - (10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-



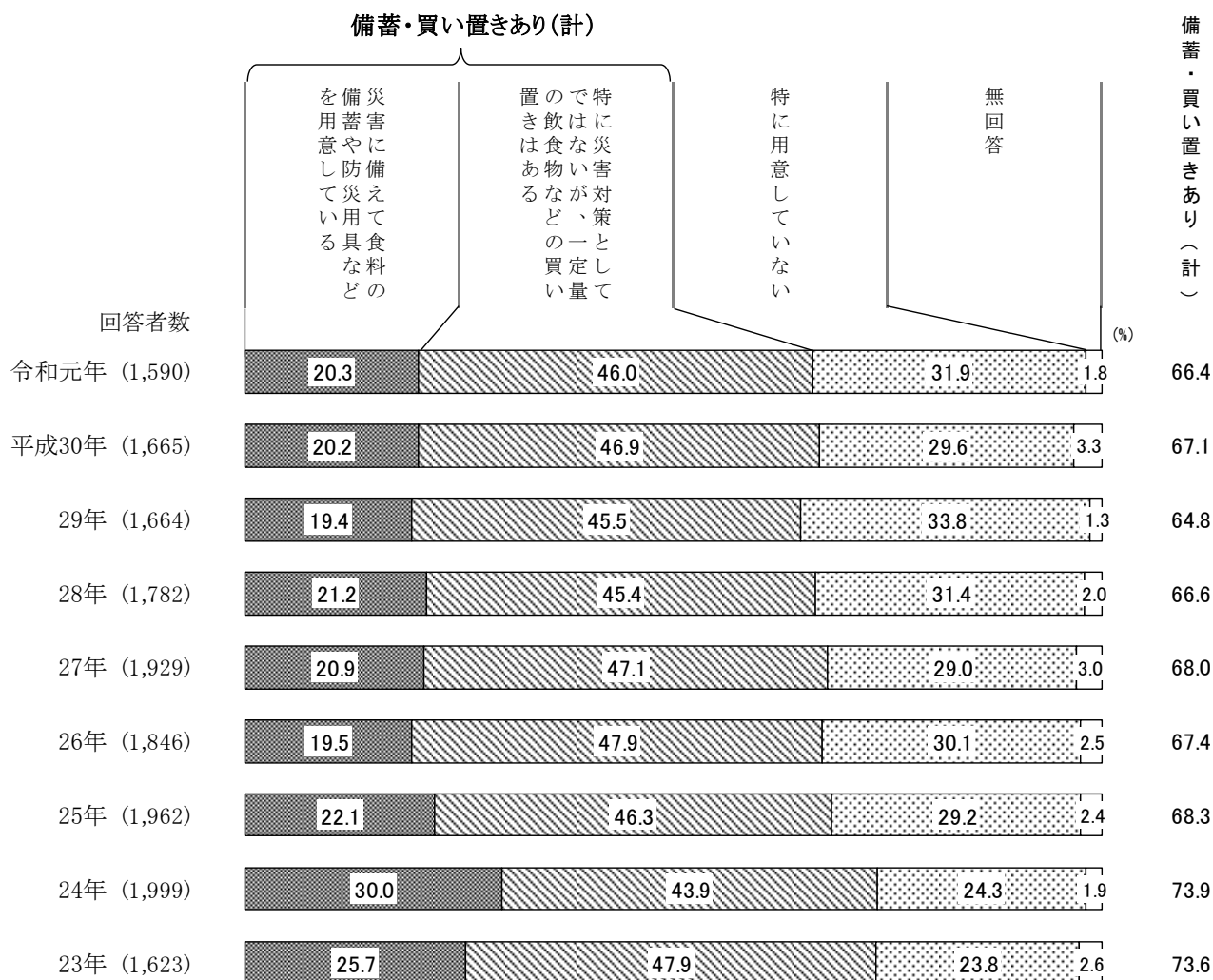
## 2 大震災などの災害への備え

### (1) 備蓄や防災用具などの用意

#### ■ 備蓄・買い置きを用意している人は、3人に2人の割合

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が20.3%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が46.0%で、両者を合わせた【備蓄・買い置きあり】は66.4%となっている。一方、「特に用意していない」は31.9%となっている。

経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」と「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」を合わせた【備蓄・買い置きあり】は今回66.4%と、平成30年調査（67.1%）に比べて0.7ポイントながら僅かに減少している。

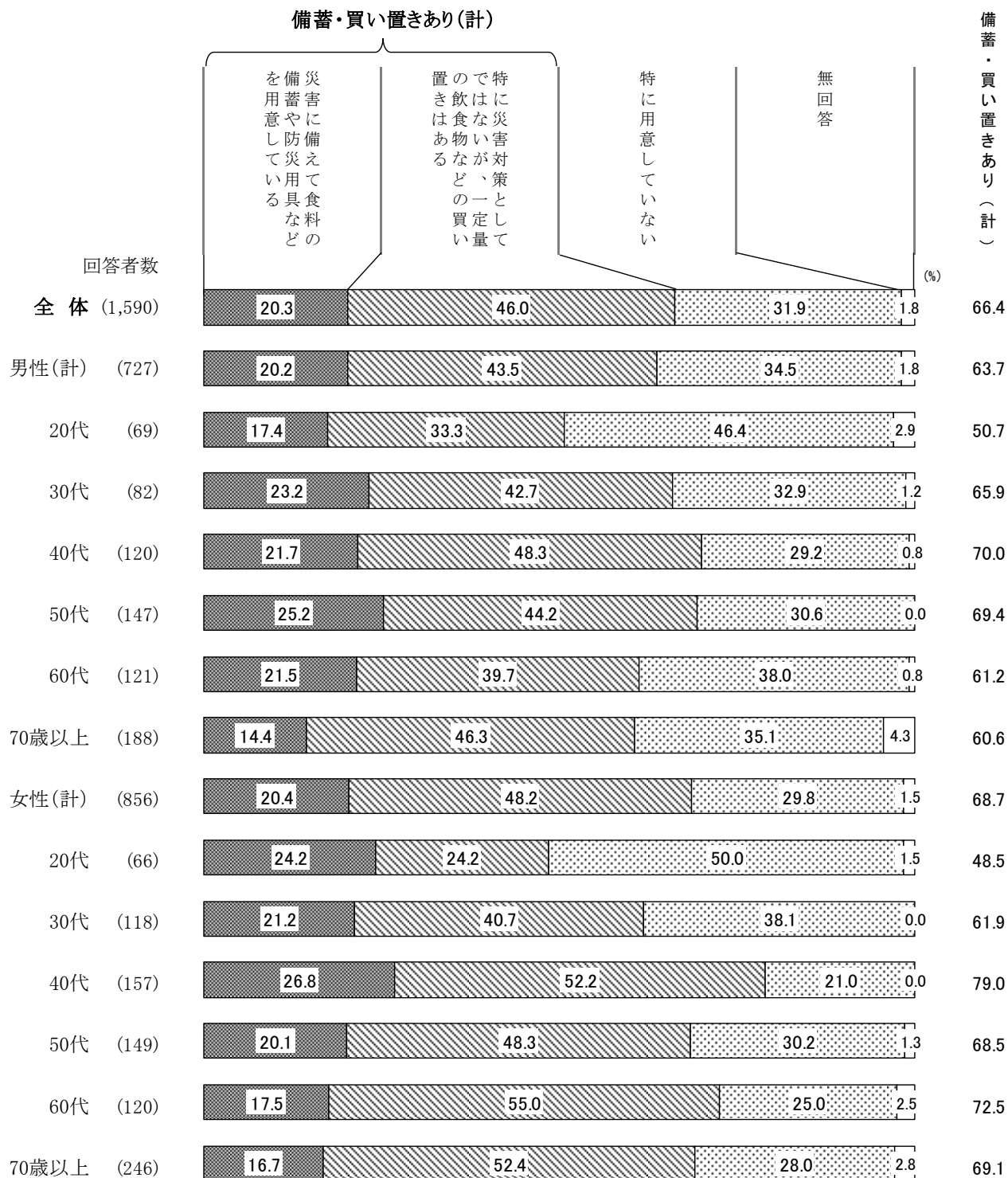
第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

性別でみると、女性では【備蓄・買い置きあり】が68.7%と、男性（63.7%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代で「特に用意していない」が46.4%と高くなっている。

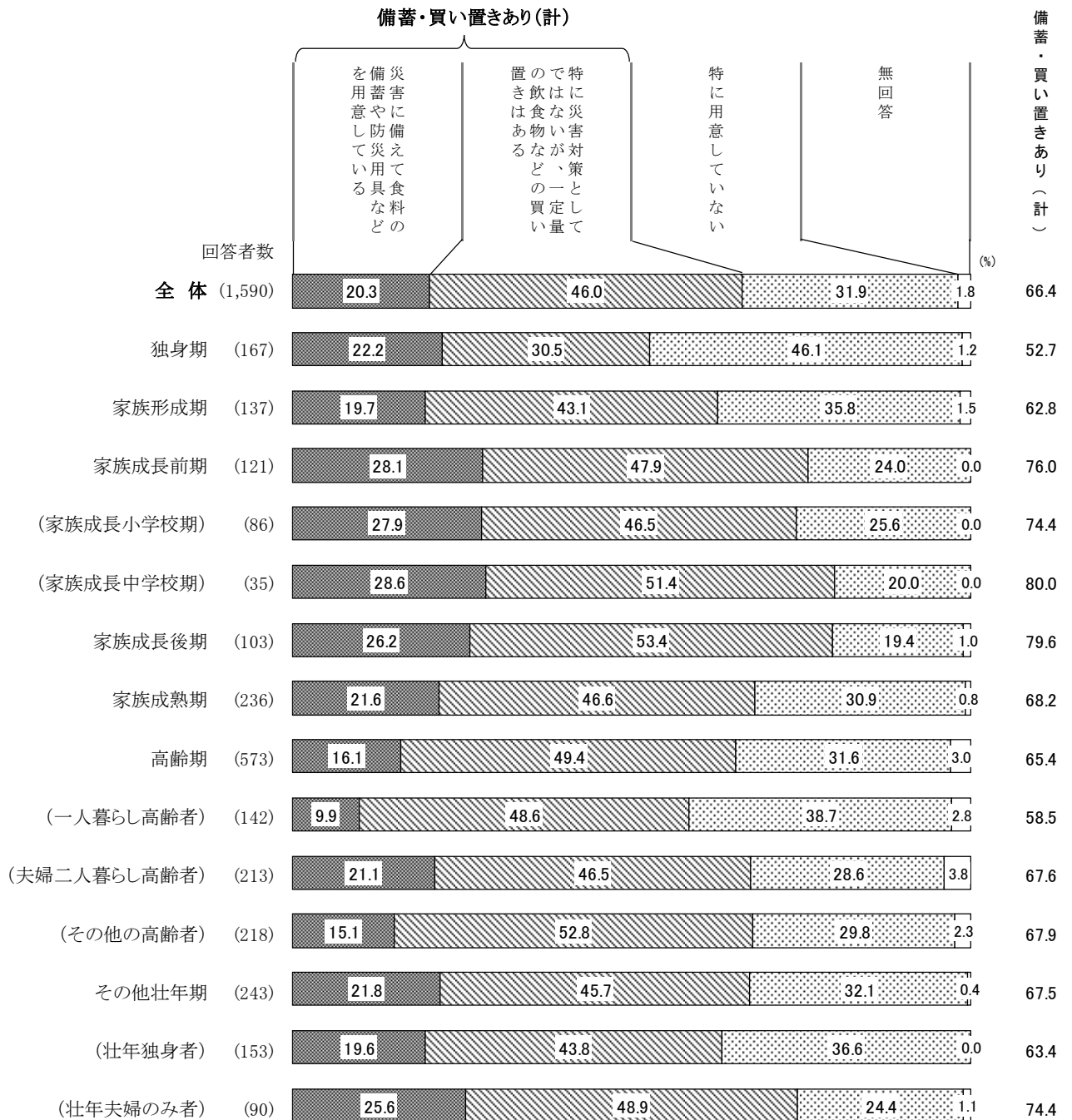
女性では、40代で【備蓄・買い置きあり】が79.0%と高くなっている。一方、20代で「特に用意していない」が50.0%と他の年代に比べて高くなっている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は家族成長後期で79.6%と最も高く、家族成長前期（76.0%）がこれに続くが、独身期では52.7%で最も低くなっている。

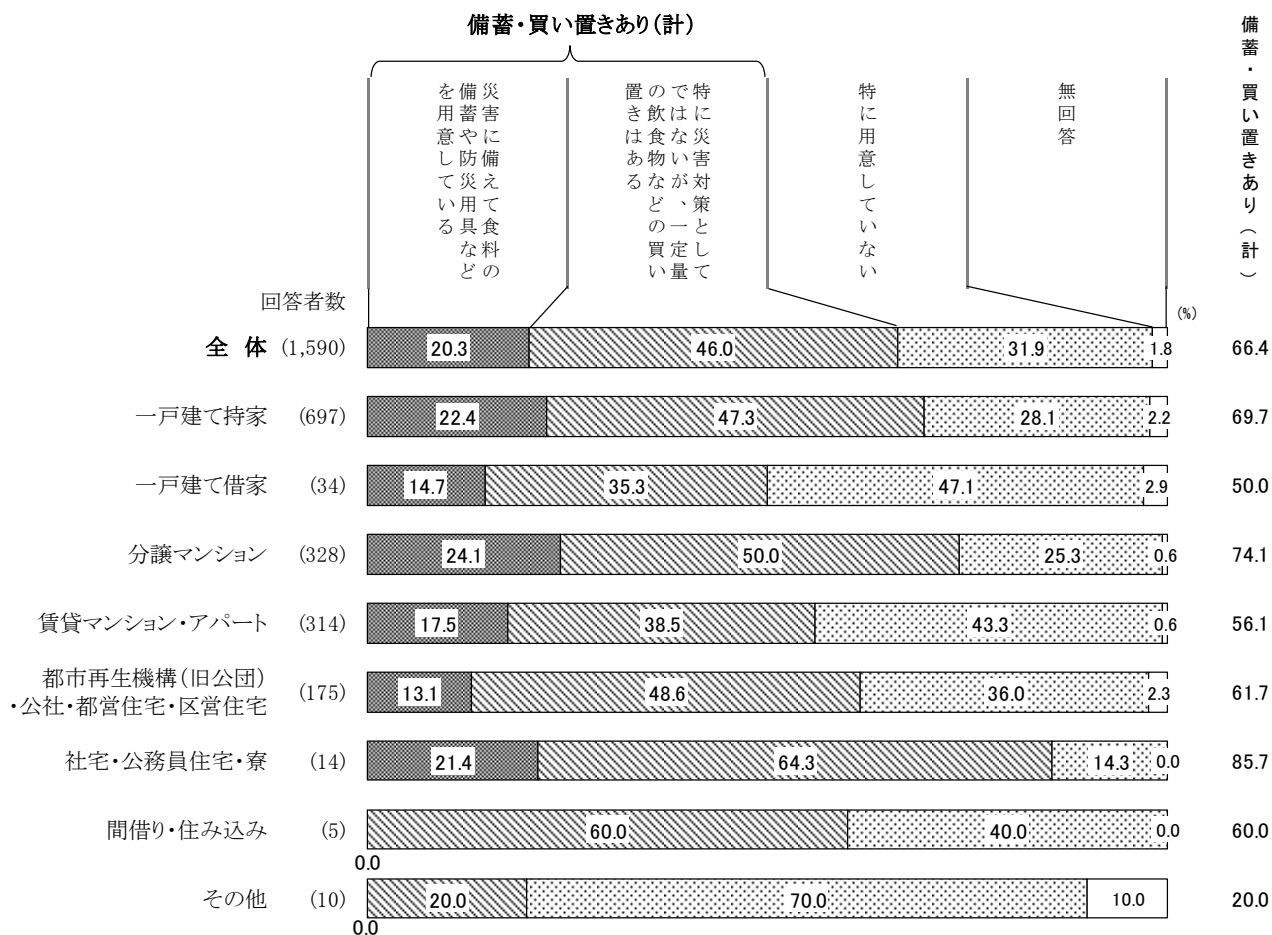
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、分譲マンションでは【備蓄・買い置きあり】が74.1%と、他の住居形態に比べて高くなっている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは「特に用意していない」がそれぞれ47.1%、43.3%と高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※ 「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。



(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■ 「水」が9割弱、「食料」が8割、「あかり」が7割台後半で上位

問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に  
 問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください  
 (〇はあてはまるものすべて)。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

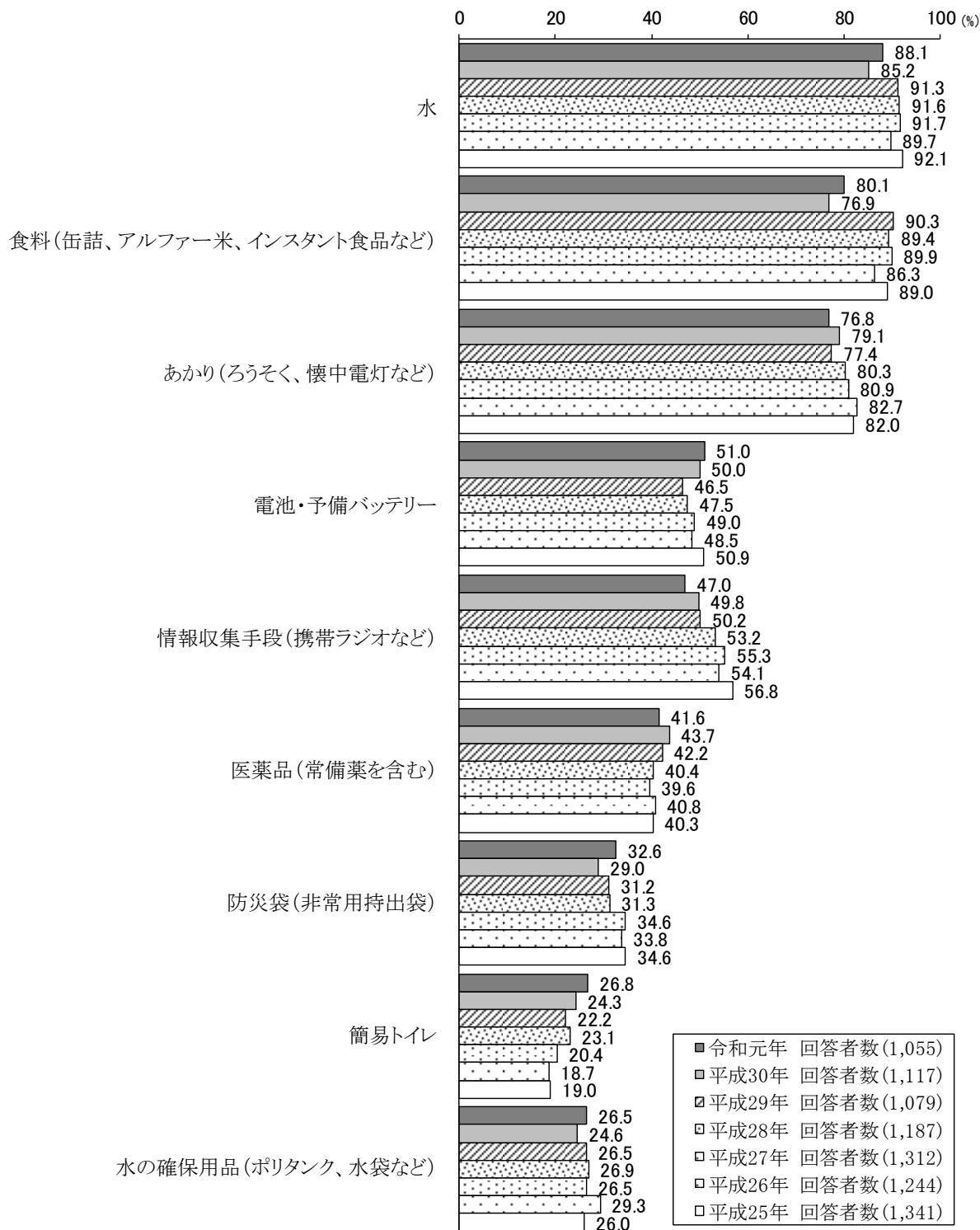
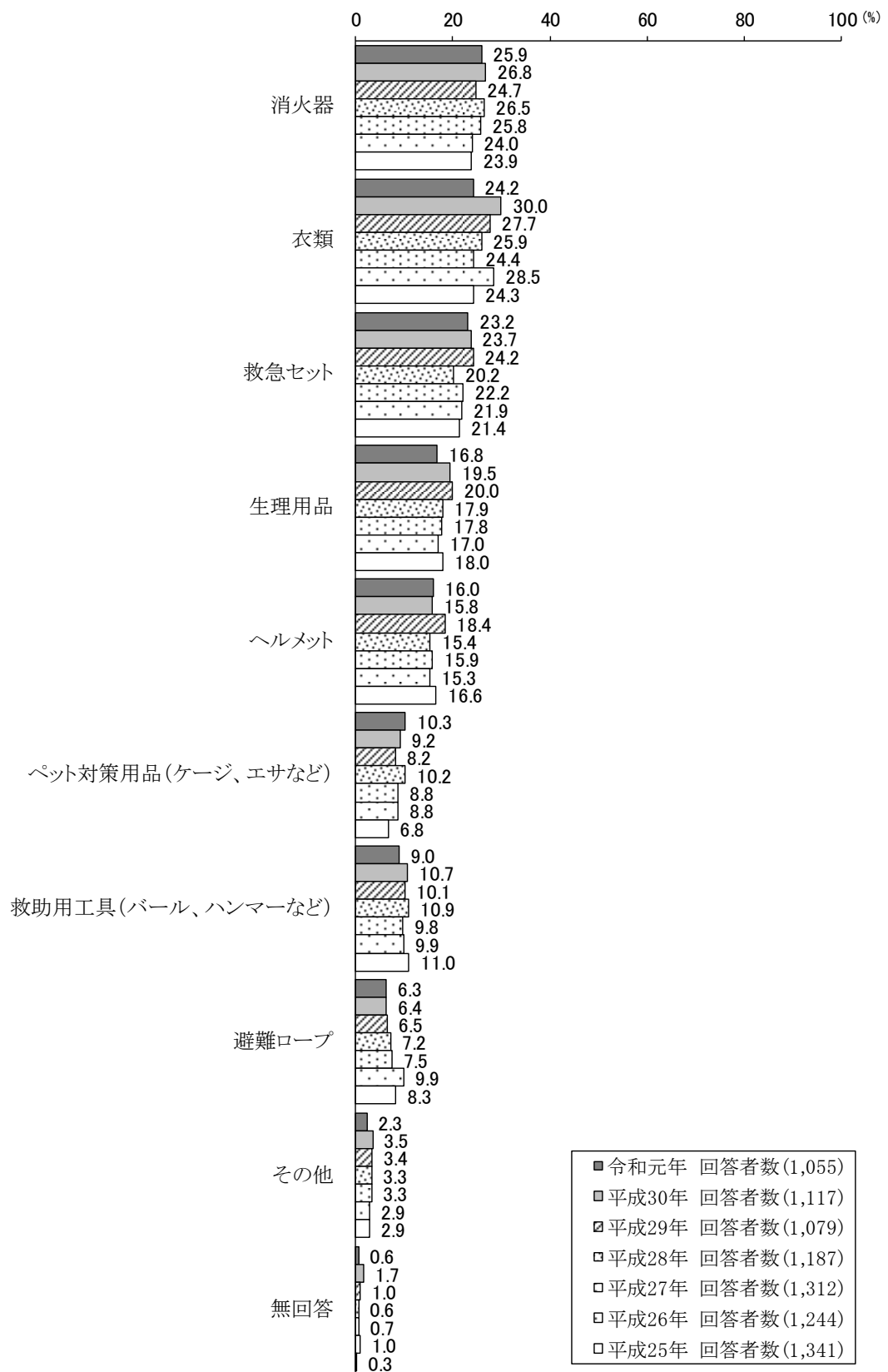


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聴いたところ、「水」が88.1%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（80.1%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（76.8%）の順となっている。

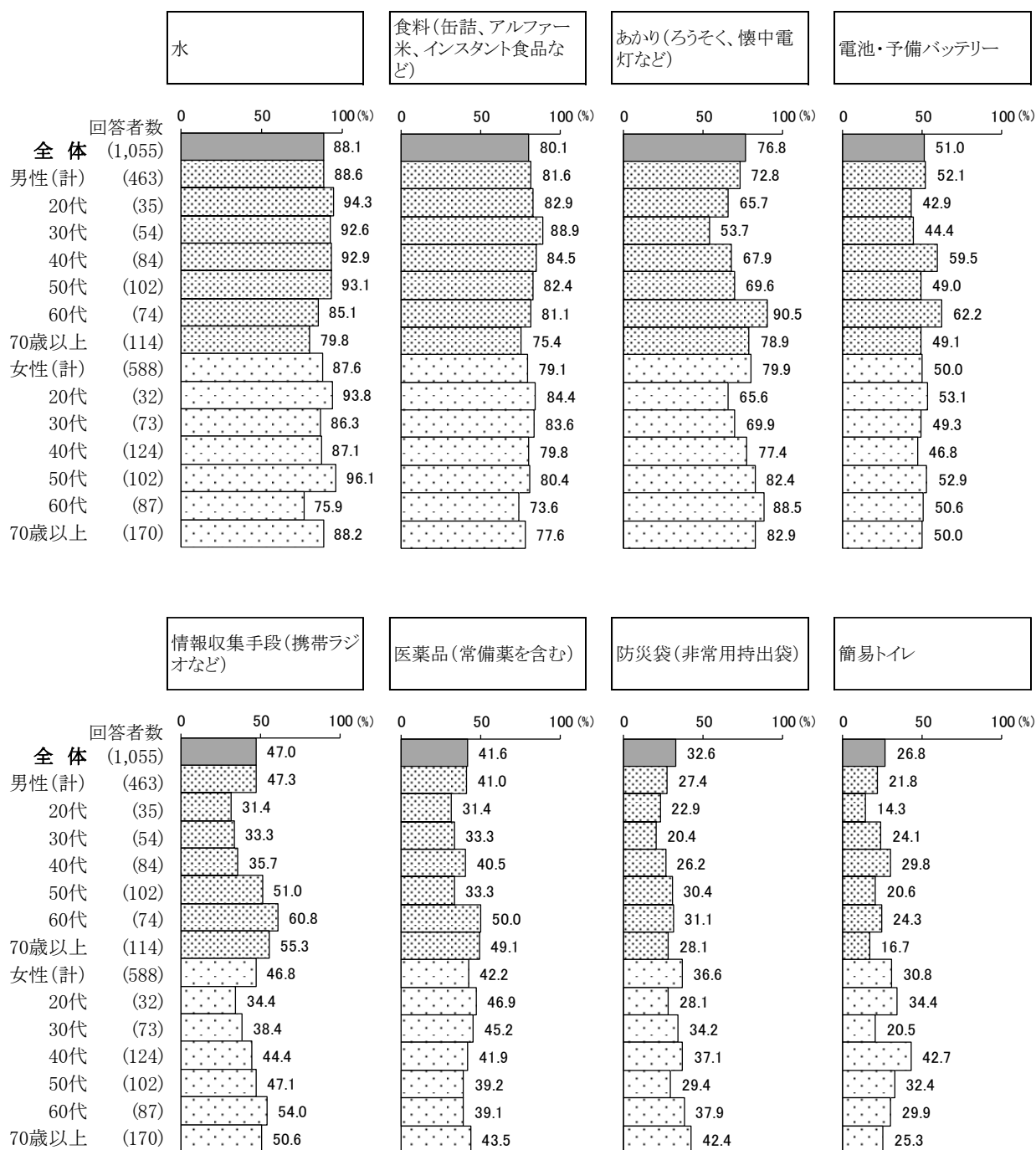
経年でみると、平成25年から前回平成30年までの調査と同様に、「水」「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」が上位3項目に挙げられるものの、今回の調査では「水」（88.1%）は前回に比べて2.9ポイント増加、前回減少幅の大きかった「食料」（80.1%）は前回より3.2ポイント増加して、前回より2.3ポイント減少した「あかり」（76.8%）を上回っており、「食料」は前回の3位から順位を1つ上げて、平成29年以前の2位に順位を戻している。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

上位項目を中心に、性別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」では男女で大きな違いはみられないが「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」では女性（79.9%）の方が男性（72.8%）より高くなっている。

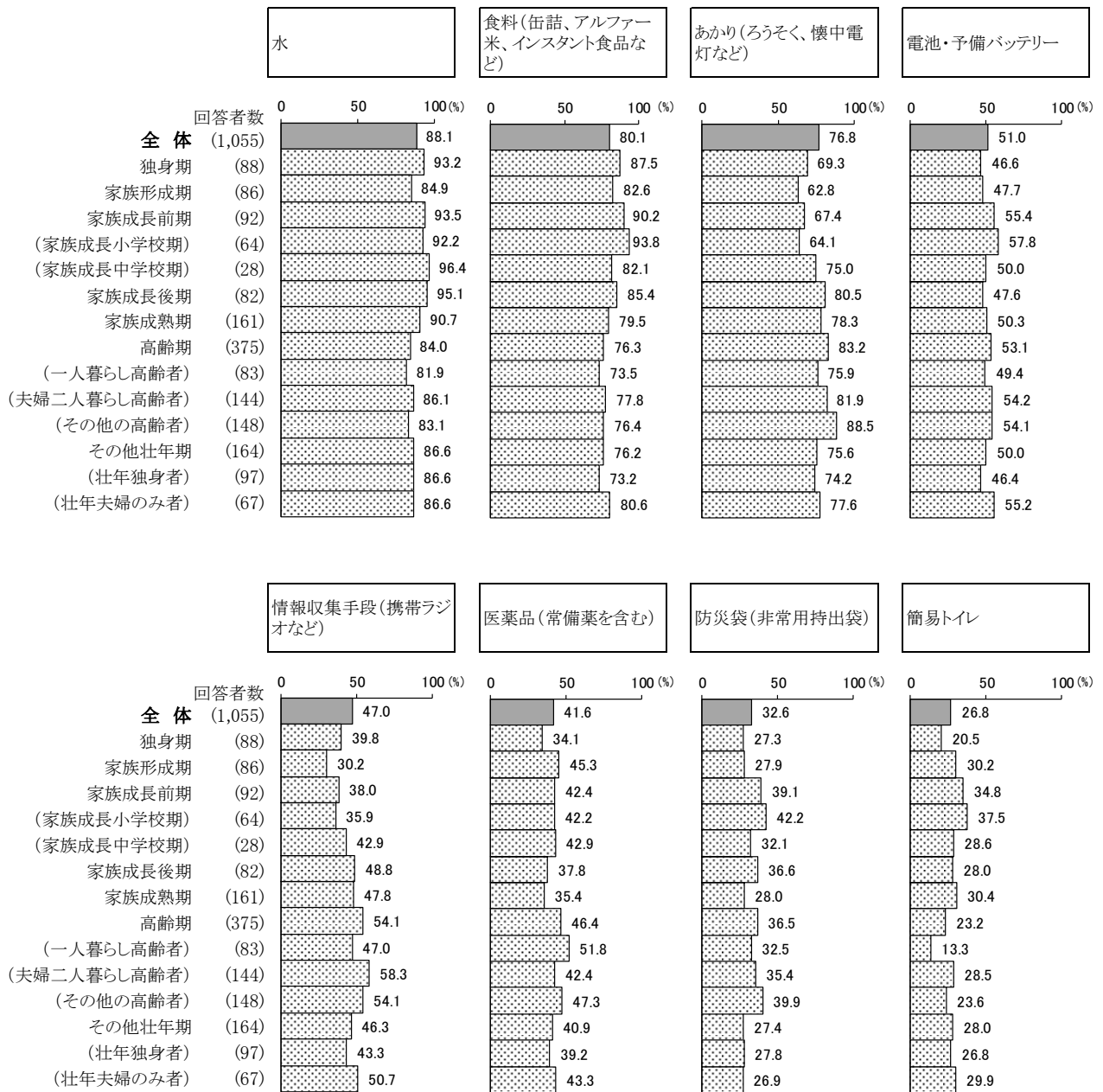
性・年代別でみると、男性では、「水」は20代から50代までの各年代で9割を超えて高く、「食料」は30代で9割弱と最も高くなっている。一方、60代は「あかり」「電池・予備バッテリー」「情報収集手段（携帯ラジオなど）」などで高い。女性では、「水」で50代が9割台半ばに達して最も高く、「あかり」は60代で9割弱と高くなっている。

図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別で見ると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は家族成長前期と家族成長後期の両層で全体に比べて高く、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」と「情報収集手段（携帯ラジオなど）」は高齢期で高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目

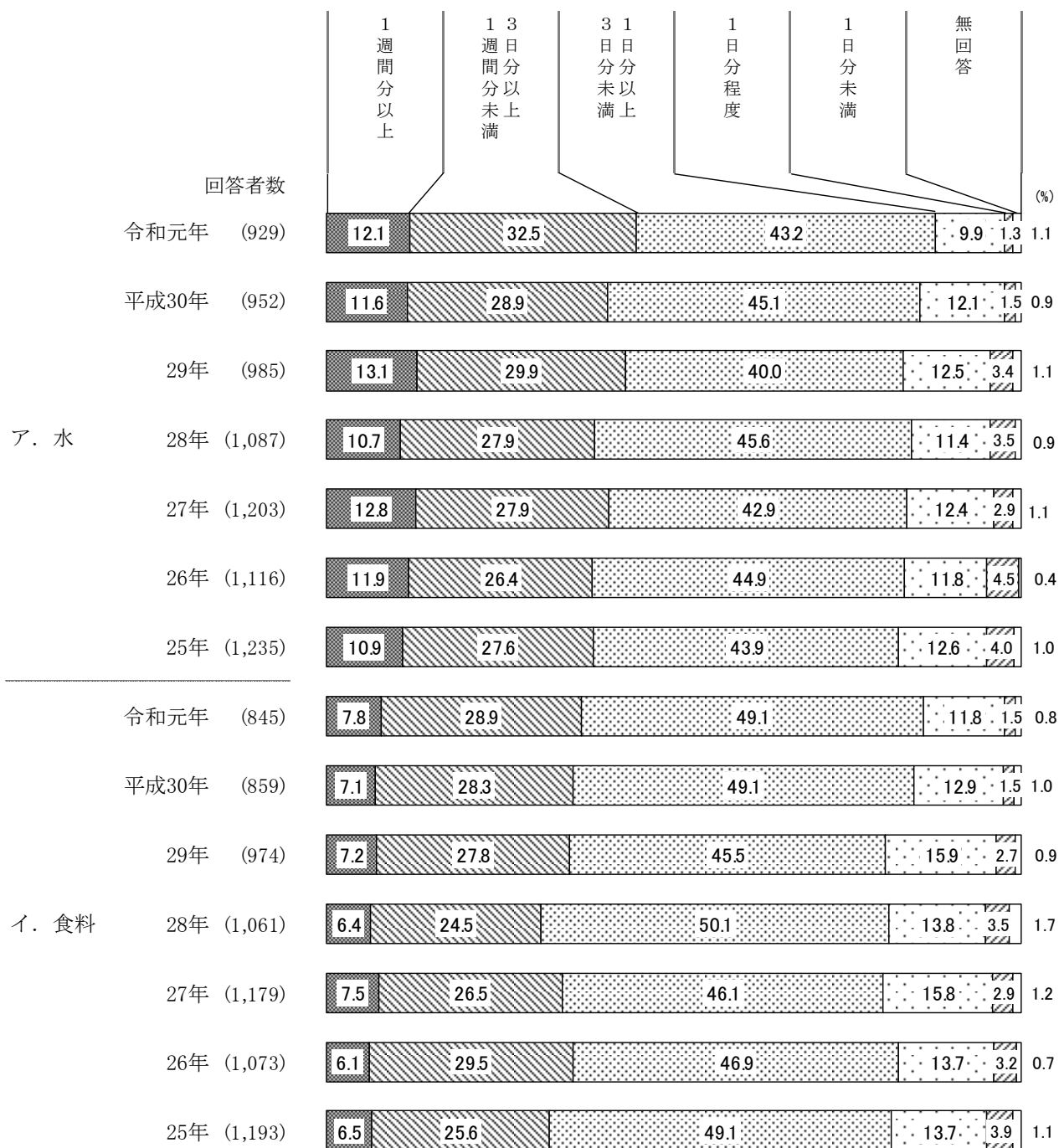


(3) 備蓄量

■ 備蓄ありの人の中で、3日以上の備蓄ありは、〈水〉で4割台半ば、〈食料〉で3割台半ば

問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に  
 問5-1-1 あなたのご家庭では、「水」と「食料」の備蓄の量はどれくらいありますか。  
 「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です  
 (〇はそれぞれ1つずつ)。  
 ※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図2-3-1 経年比較／備蓄量



「水」か「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」を備蓄している人に、それぞれの備蓄量を聞いたところ、〈水〉については「1日分以上3日分未満」が43.2%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」（32.5%）となっている。

一方、〈食料〉については「1日分以上3日分未満」が49.1%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」（28.9%）となっている。

経年でみると、「1日分以上3日分未満」は、〈食料〉では前回と同率で変わらず、〈水〉では前回に比べて1.9ポイント減少している。一方、「1週間分以上」と「3日分以上1週間分未満」を合わせた3日分以上の備蓄を持つ人は、〈水〉では前回より4.1ポイント増加し、〈食料〉でも1.3ポイントと僅かながら増加となっている。

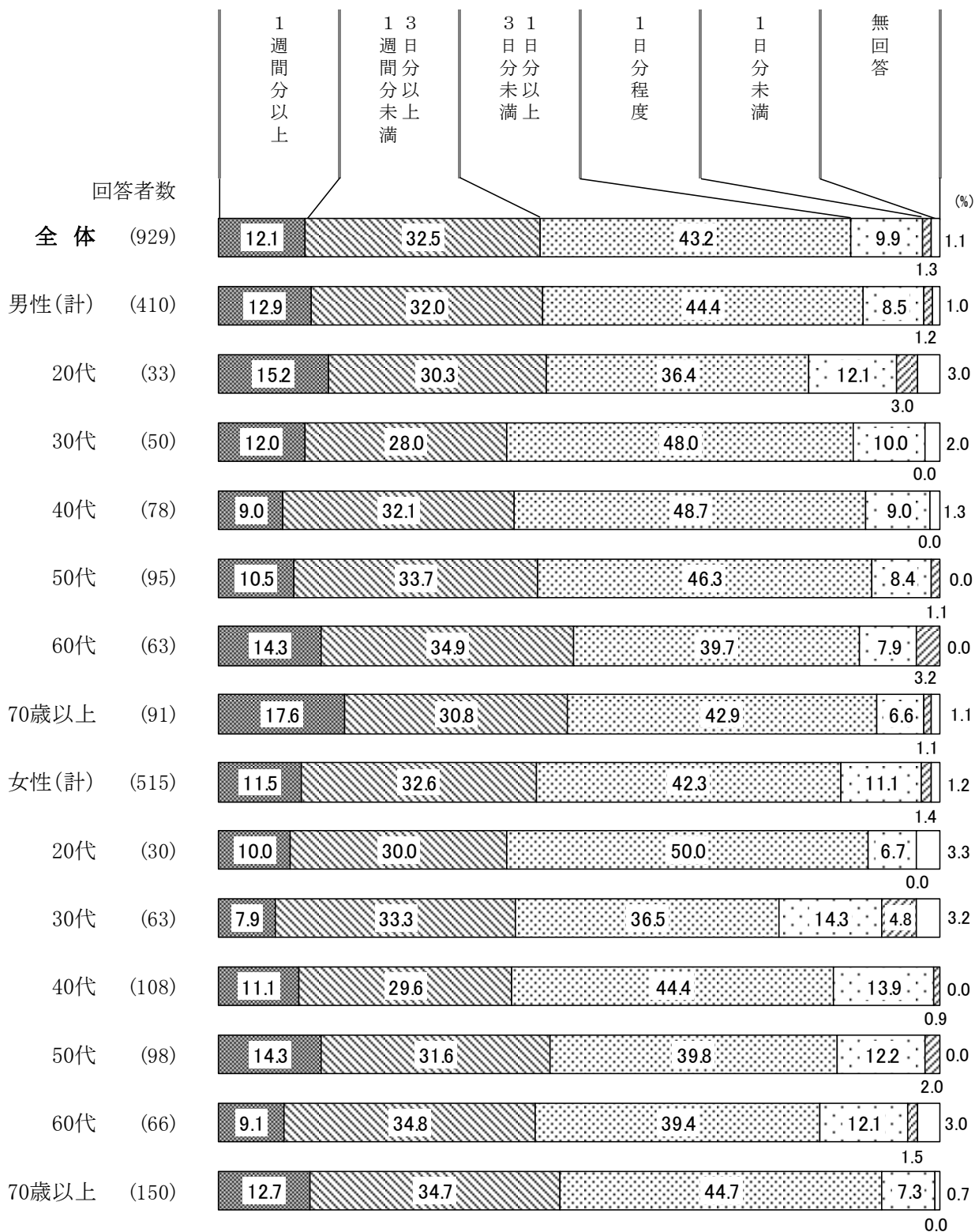
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

水の備蓄量を性別で見ると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別で見ると、男性では、30代から50代の3年代層で「1日分以上3日分未満」がそれぞれ4割台後半で多く、3日分以上の備蓄を持つ人の割合を上回っている。

女性では、20代と40代を除く他の4年代層で3日分以上の備蓄を持つ人の割合が「1日分以上3日分未満」を上回って多くなっている。

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水

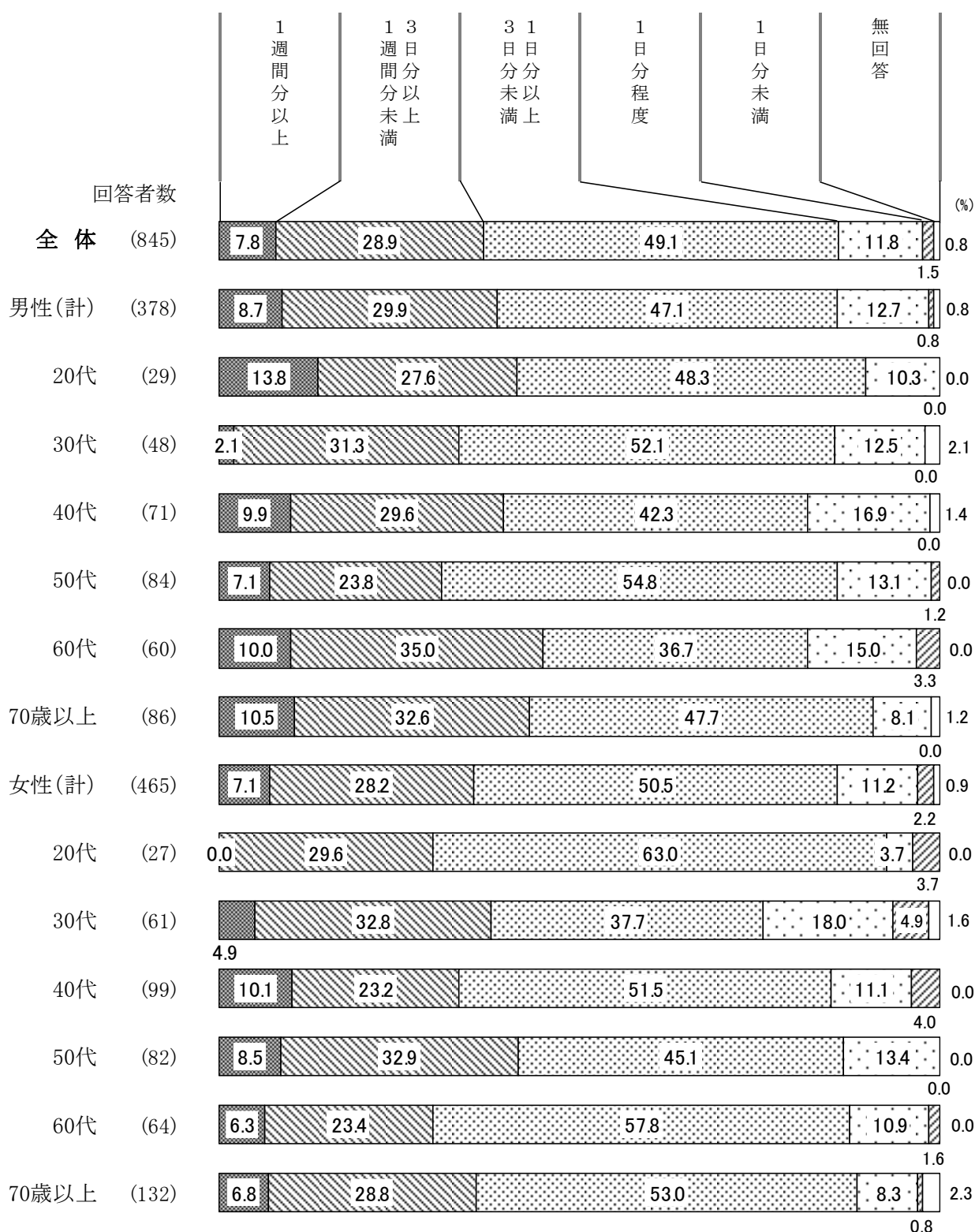




食料の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男女とも、全年代で「1日分以上3日分未満」が最も多くなっているが、男性の60代では3割台半ばで、3日分以上の備蓄を持つ人の割合の方が高くなっている。

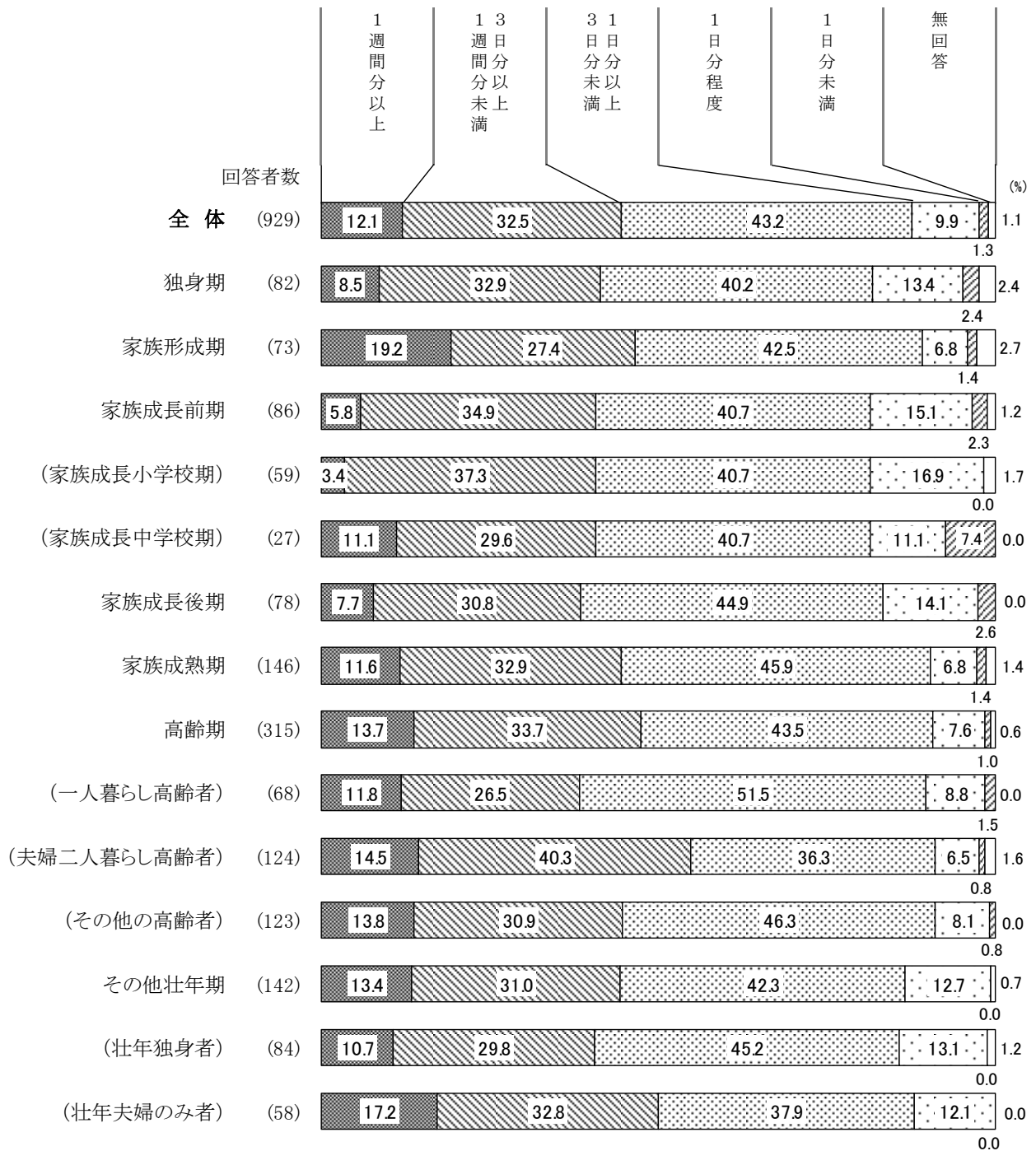
図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

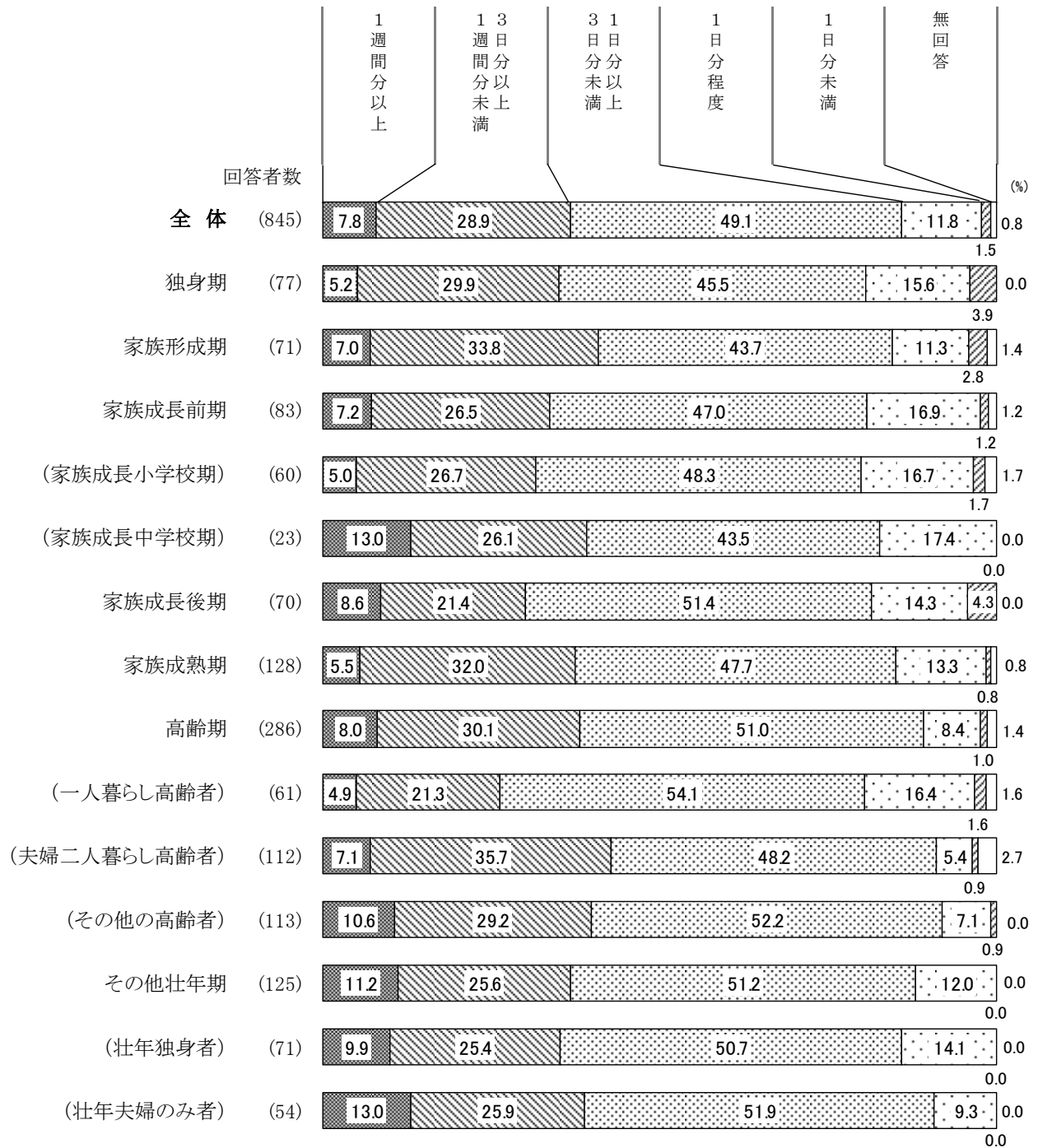
水の備蓄量をライフステージ別で見ると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



食料の備蓄量をライフステージ別にみると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



(4) 災害発生時の水や食料の確保

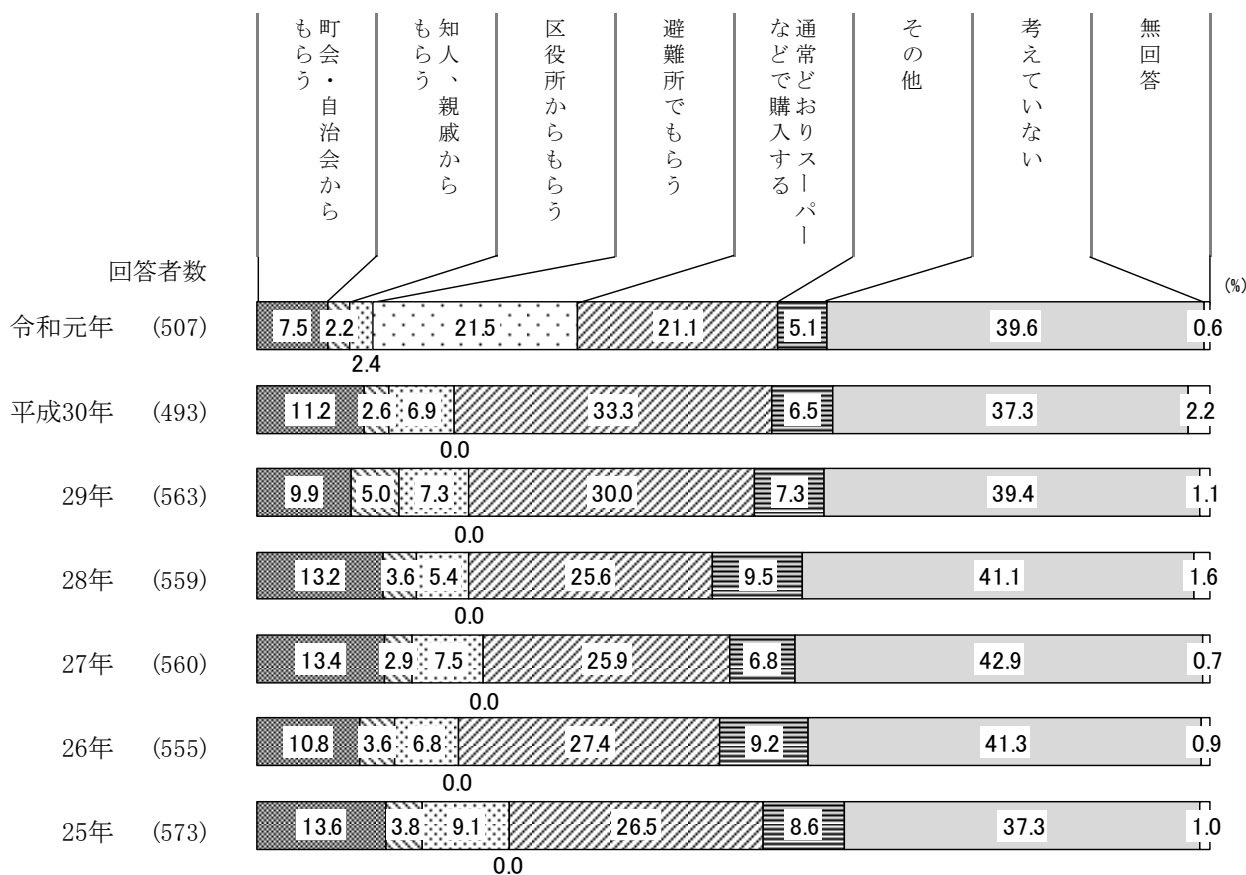
■ 「考えていない」が4割弱で最多だが「避難所でもらう」と「スーパー等で購入」も2割強

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか

(○は1つだけ)。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



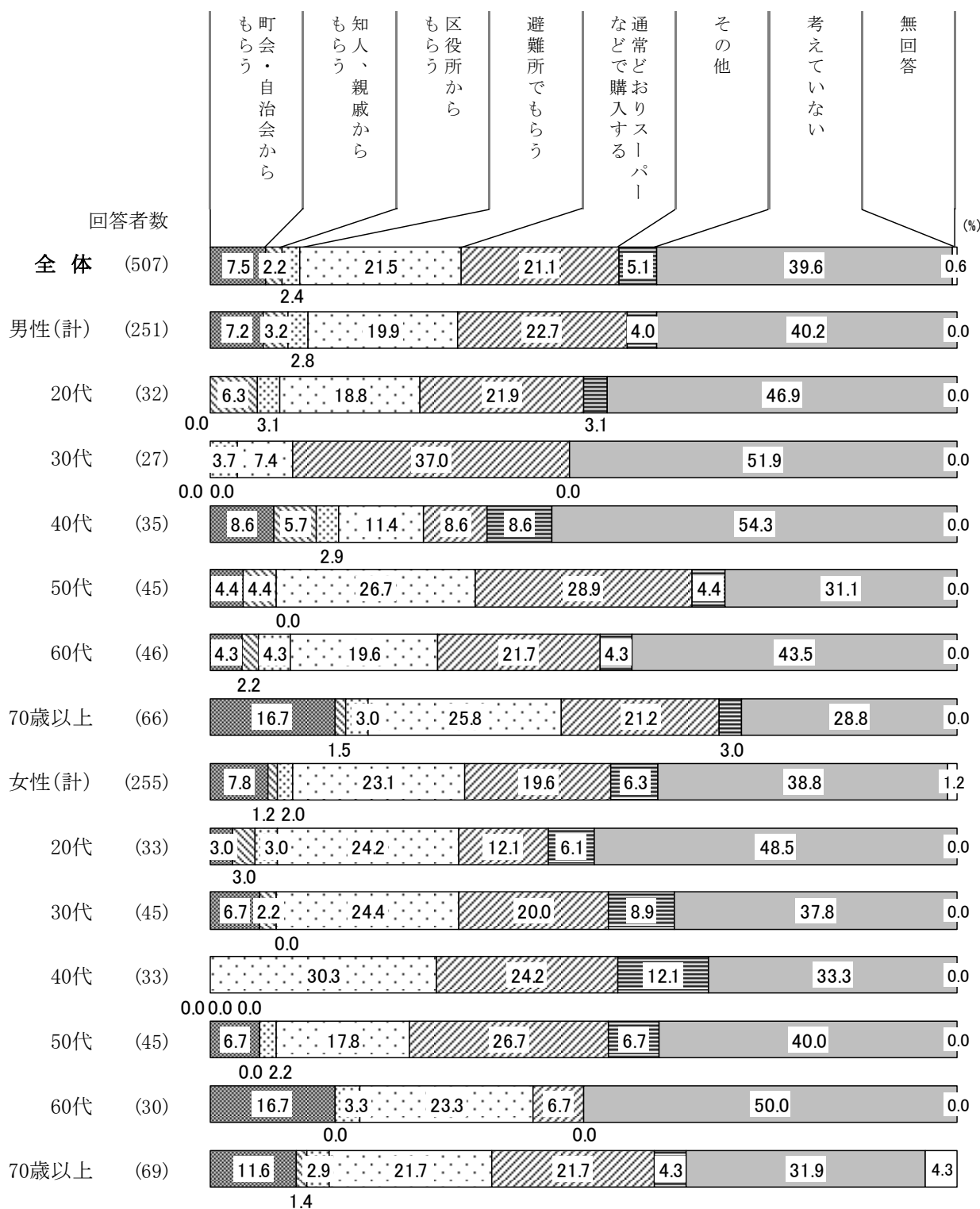
【備蓄・買い置きをしていない】という人に、災害発生時の水や食糧の確保について聞いたところ、今回調査から追加された新設項目の「避難所でもらう」(21.5%)と「通常どおりスーパーなどで購入する」(21.1%)の2項目がともに2割強で並んで多くなっており、次いで「町会・自治会からもらう」(7.5%)が1割弱となっている。一方、「考えていない」が39.6%で4割弱を占めている。

経年でみると、新設の「避難所でもらう」が2割強を占めている影響を受けて、前回に比べて「通常どおりスーパーなどで購入する」が12.2ポイント減少し、「町会・自治会からもらう」と「区役所からもらう」もそれぞれ4ポイント程度減少しているが、「考えていない」は前回より微増している。

性別でみると、男女で大きな違いはみられないが、新設の「避難所でもらう」は男性（19.9%）より女性（23.1%）の方が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の30代で「通常どおりスーパーなどで購入する」（37.0%）が高く、新設の「避難所でもらう」は女性の40代（30.3%）と男性の50代（26.7%）と70歳以上（25.8%）でそれぞれ高くなっている。

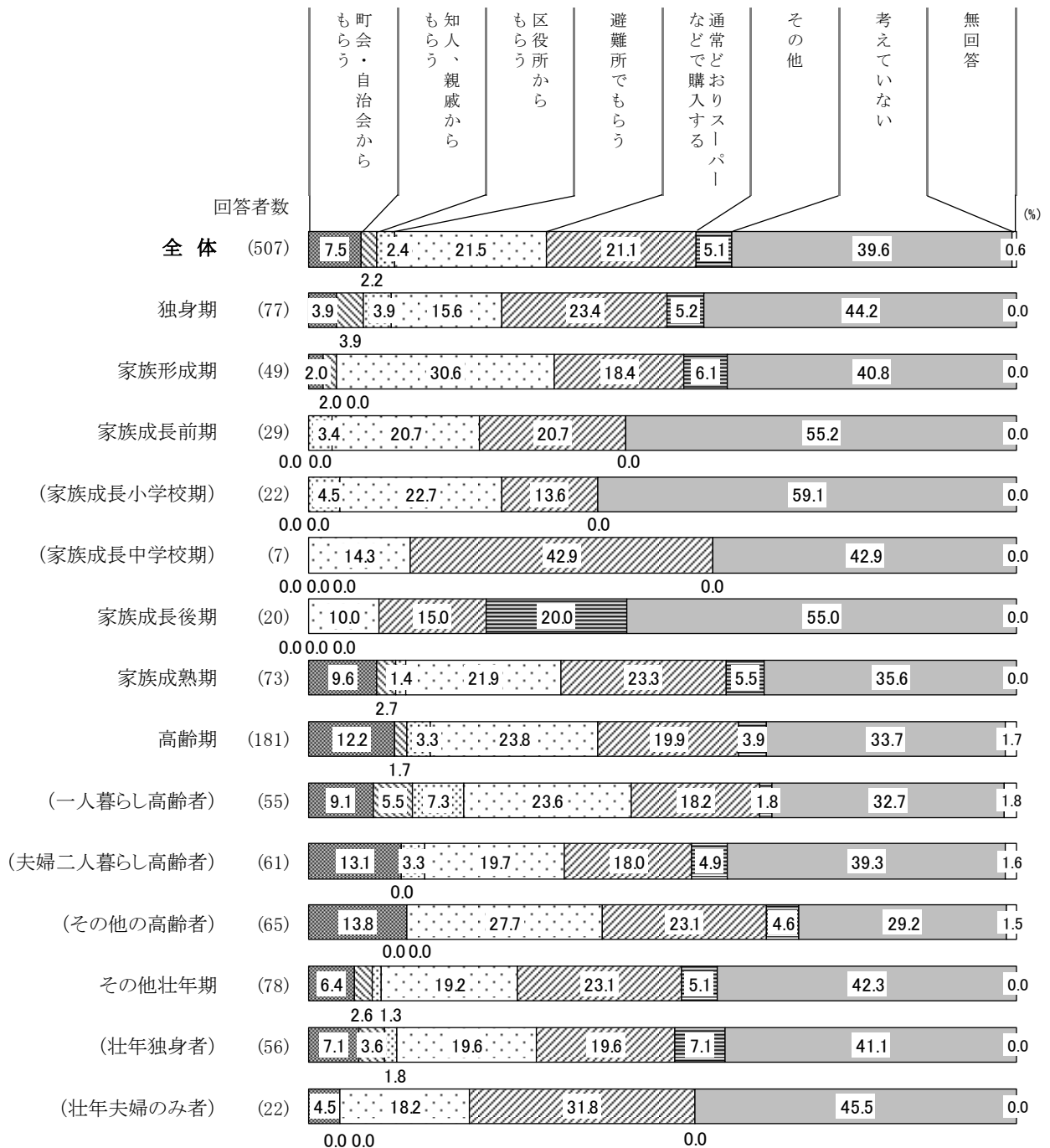
図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

ライフステージ別で見ると、家族成長前期と家族成長後期で「考えていない」がともに5割台半ばと高く、新設の「避難所でもらう」は家族形成期で3割を超えて高くなっている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保

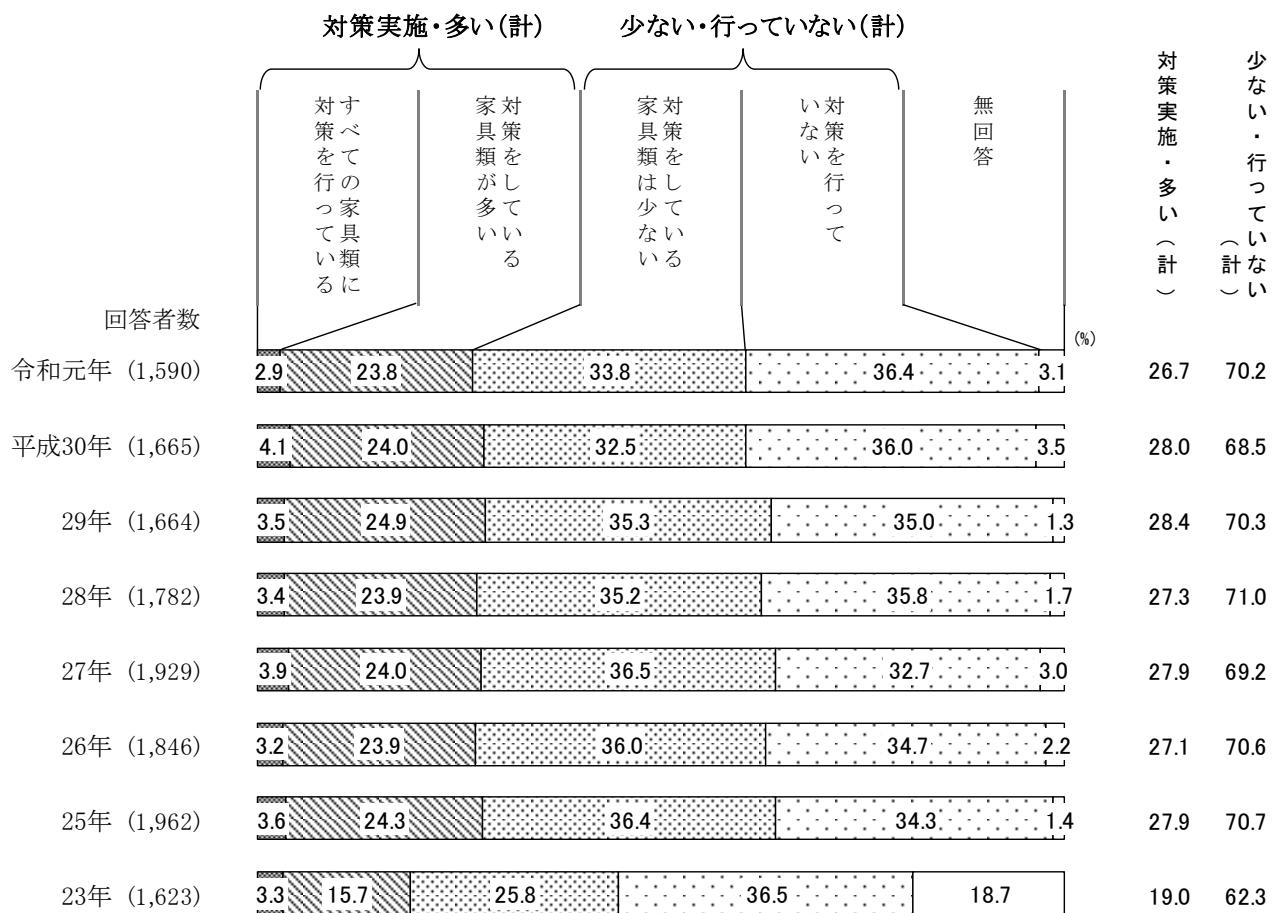


(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策は少ない・行っていない人が7割

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか(○は1つだけ)。  
 ※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較/家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は2.9%で、これに「対策をしている家具類が多い」の23.8%を合わせた【対策実施・多い】は26.7%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は33.8%、「対策を行っていない」は36.4%で、両者を合わせた【少ない・行っていない】は70.2%となっている。

経年でみると、【対策実施・多い】は、平成25年以降各年2割台後半で横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】は、平成25年以降各年7割前後でほぼ横ばいながら、今回の調査では前回に比べて僅かに増加している。

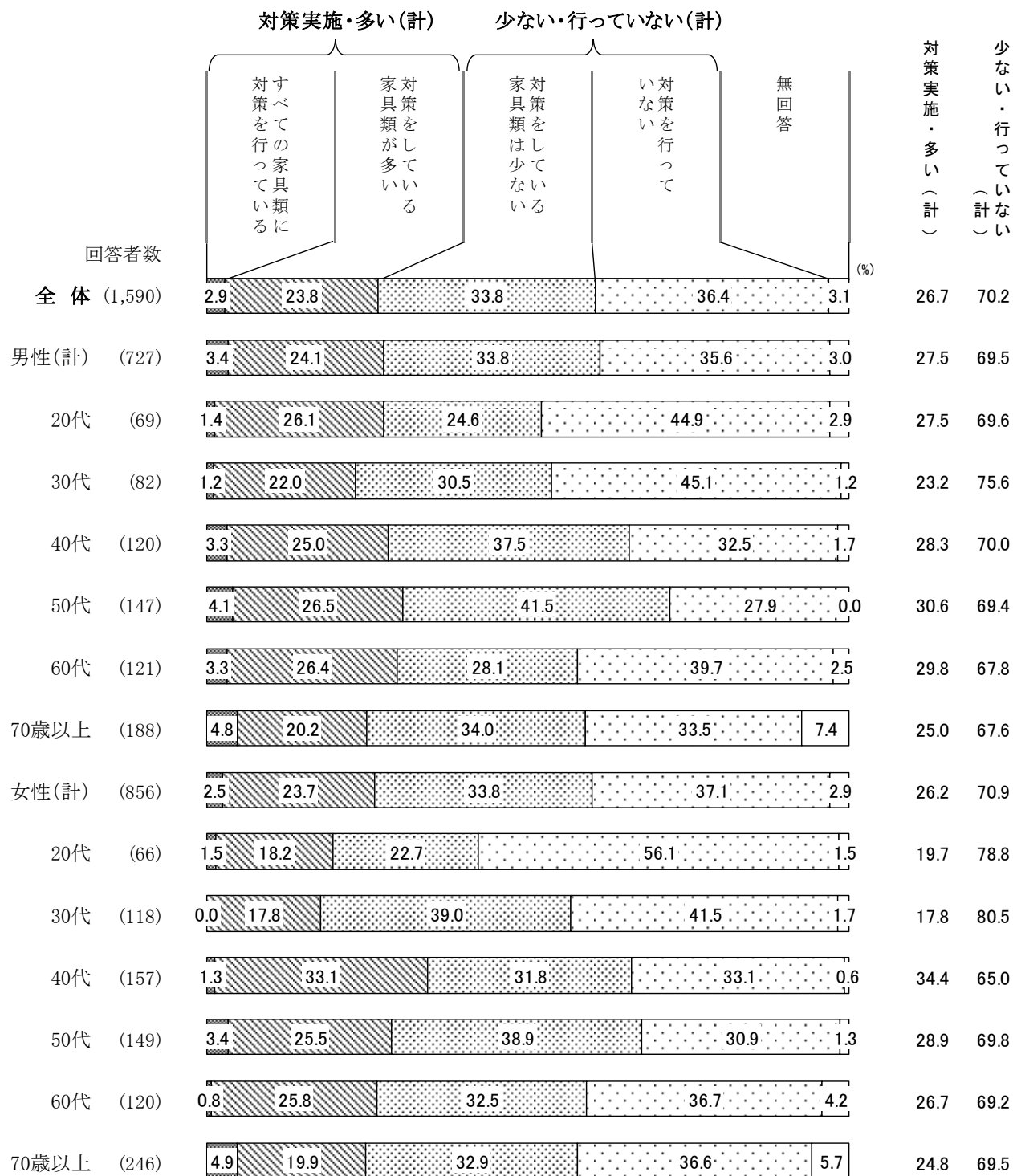
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、50代で【対策実施・多い】が3割台と高くなっている一方、30代では【少ない・行っていない】が7割台半ばで高くなっている。

女性では、40代で【対策実施・多い】が3割台半ばと高くなっている一方、30代で【少ない・行っていない】が8割を超えて高くなっている。

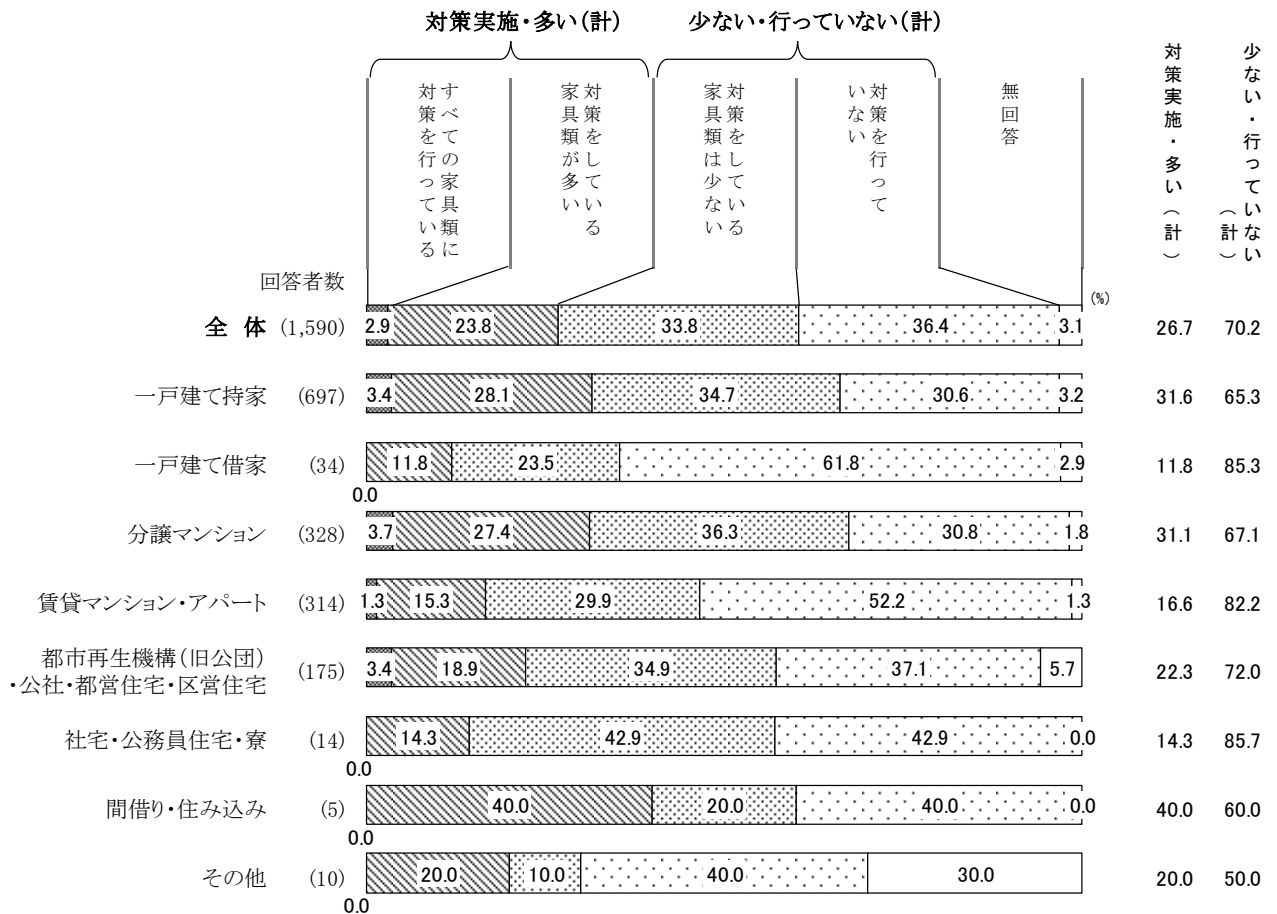
図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策





住居形態別で見ると、一戸建て持家と分譲マンションでは【対策実施・多い】がそれぞれ31.6%、31.1%と3割を超えて高くなっている。一方、一戸建て借家と賃貸マンション・アパートでは【少ない・行っていない】がそれぞれ85.3%、82.2%と高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※ 「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」は、サンプル数が少ないため参考値。

(6) 対策をしていない理由

■ 「面倒である」が3割弱で最も高いのは変わらず

問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方に

問7-1 どのような理由からですか (〇はあてはまるものすべて)。

図2-6-1-① 経年比較/対策をしていない理由

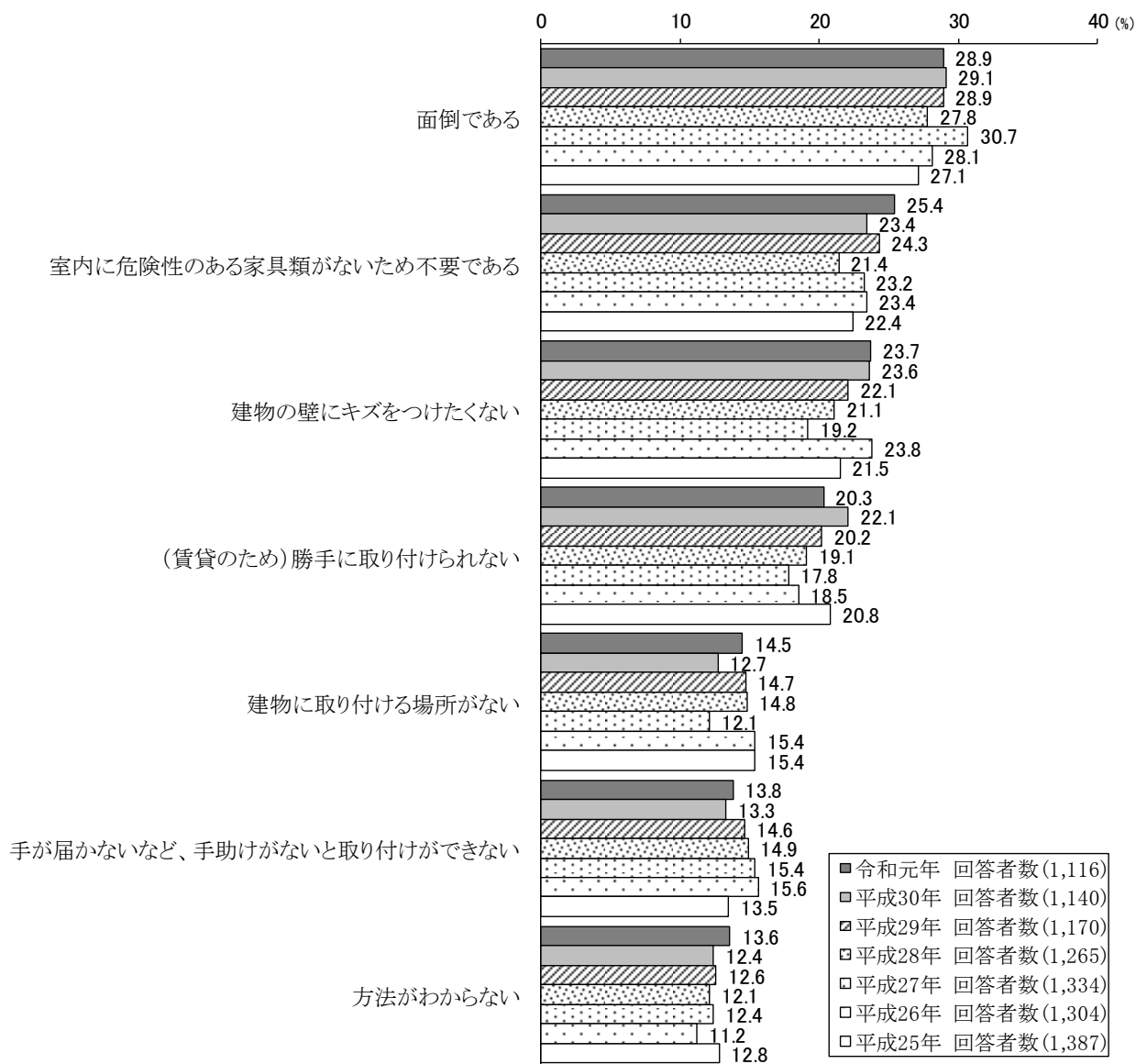
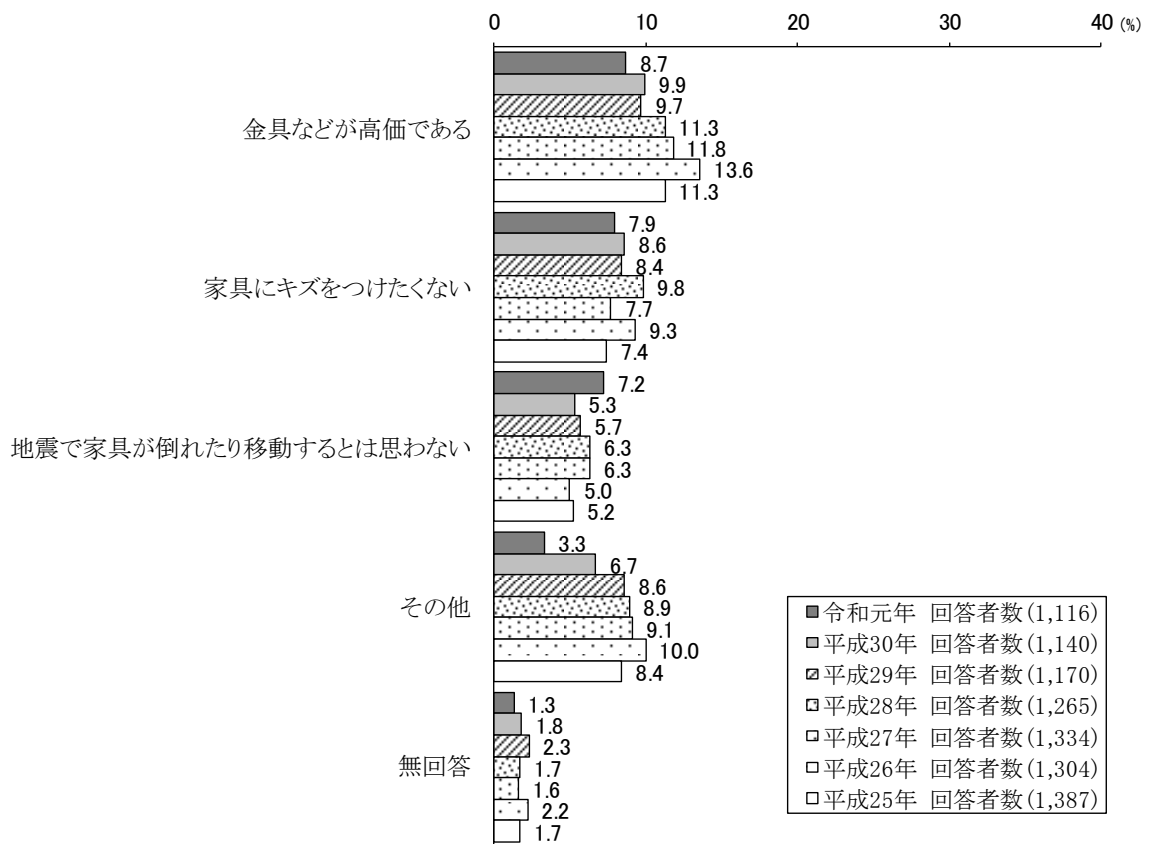


図2-6-1-② 経年比較／対策をしていない理由



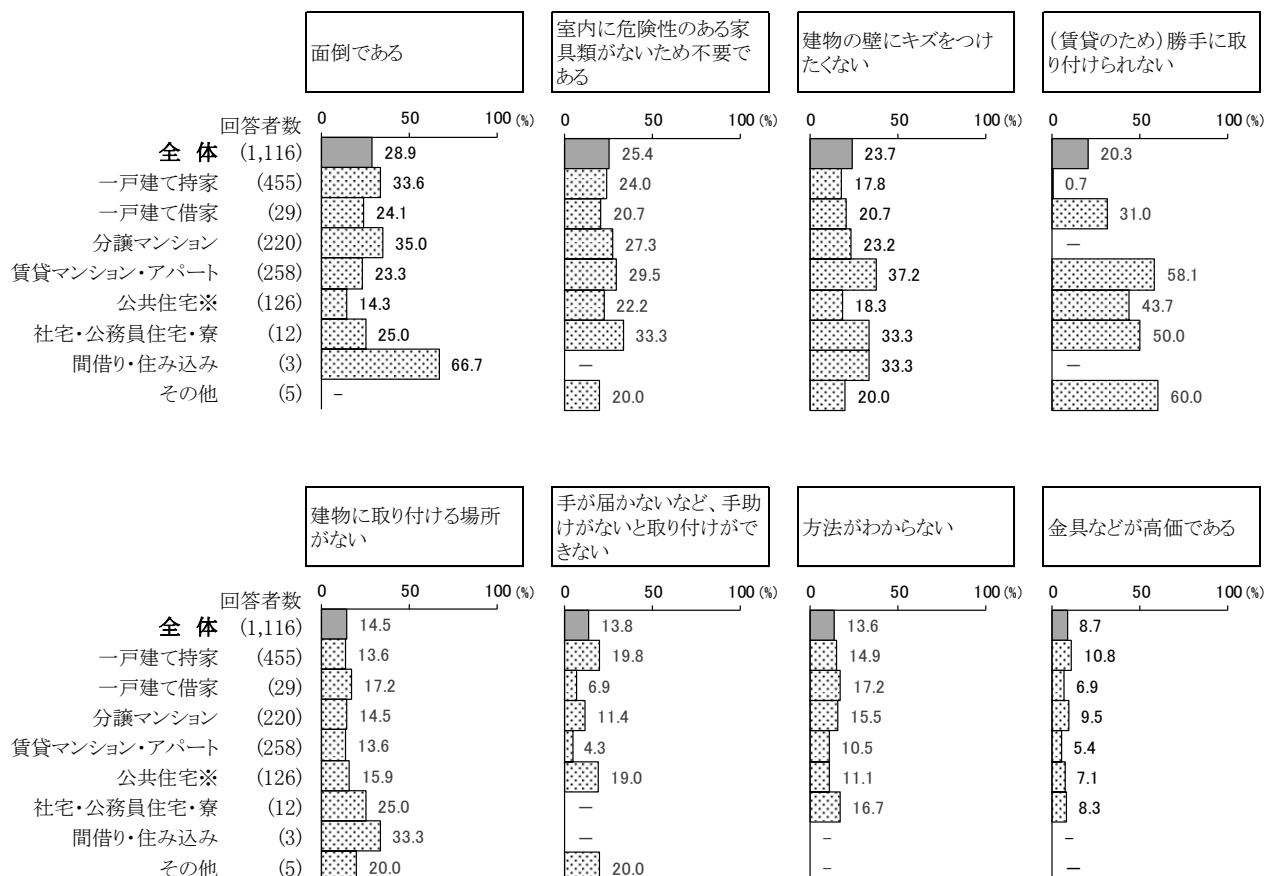
家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聞いたところ、「面倒である」が28.9%で最も高く、以下「室内に危険性のある家具類がないため不要である」(25.4%)、「建物の壁にキズをつけたくない」(23.7%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(20.3%)の順となっている。

経年でみると、上位項目の数値に大きな変動はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、「面倒である」は分譲マンション（35.0%）と一戸建て持家で（33.6%）で高くなっている。一方、賃貸マンション・アパートでは「建物の壁にキズをつけたくない」（37.2%）と「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（58.1%）が高くなっている。なお、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」は一戸建て借家（31.0%）と公共住宅※（43.7%）でも高くなっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



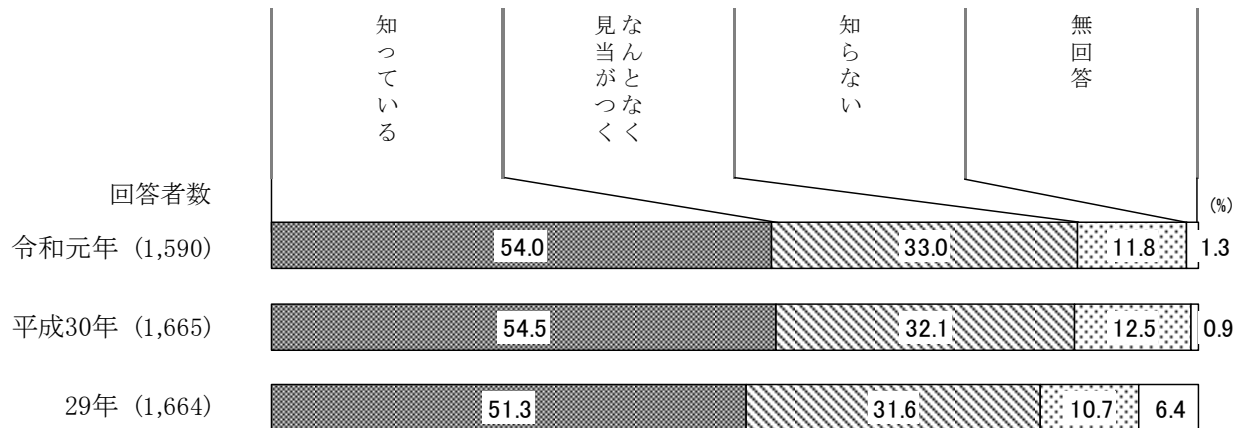
※ 「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

(7) 地域の避難場所の認知

■ 「知っている」が前回同様5割台半ば

問8 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は1つだけ）。

図2-7-1 経年比較／地域の避難場所の認知



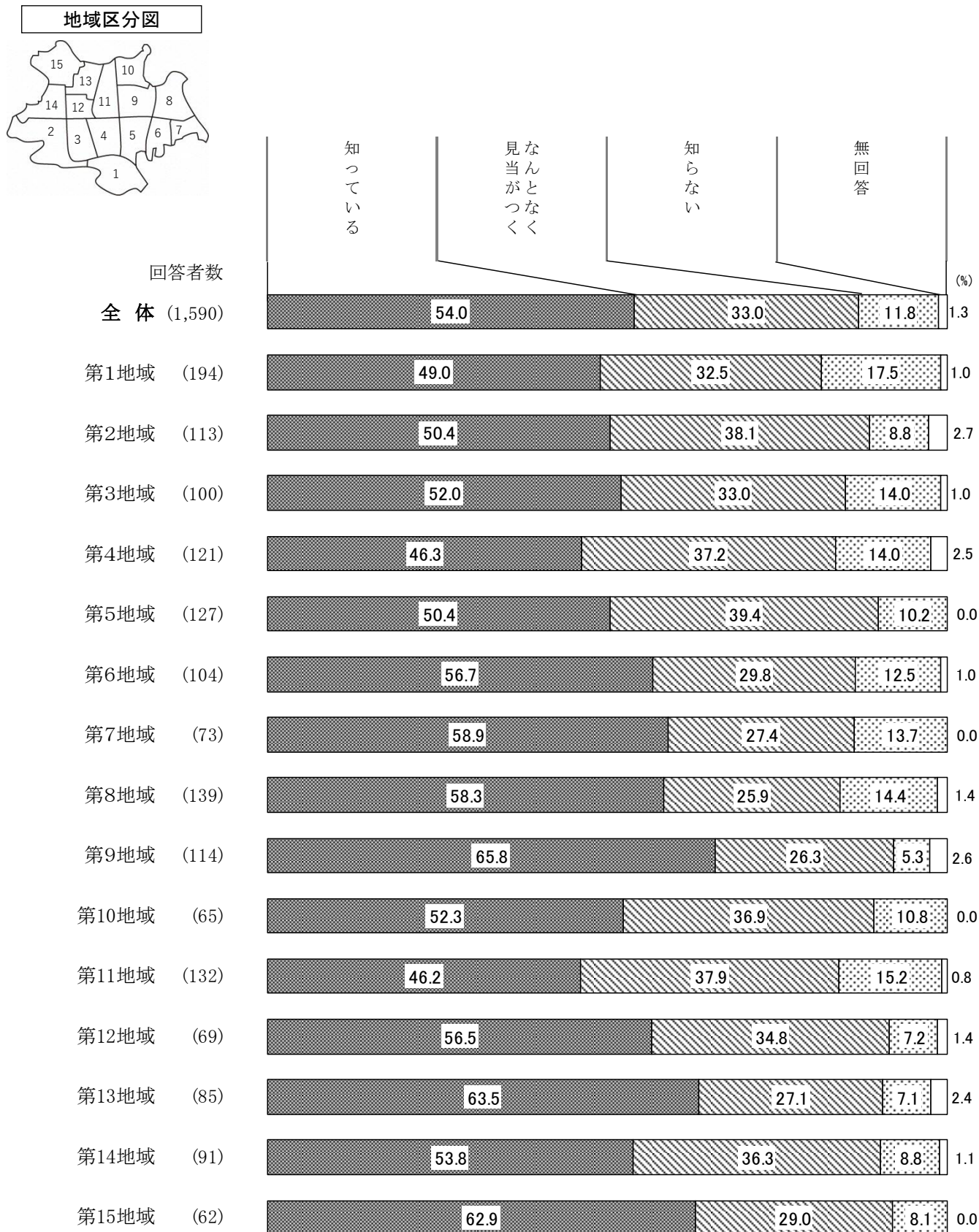
地域の避難場所の認知状況を見ると、「知っている」が54.0%、「なんとなく見当がつく」が33.0%となっている。一方、「知らない」は11.8%となっている。

経年でみても、ほぼ前回と同じ回答分布となっており、違いはみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

地域別でみると、「知っている」は第9地域、第13地域、第15地域でそれぞれ6割を超えて、他の地域より高くなっている。

図2-7-2 地域別／地域の避難場所の認知



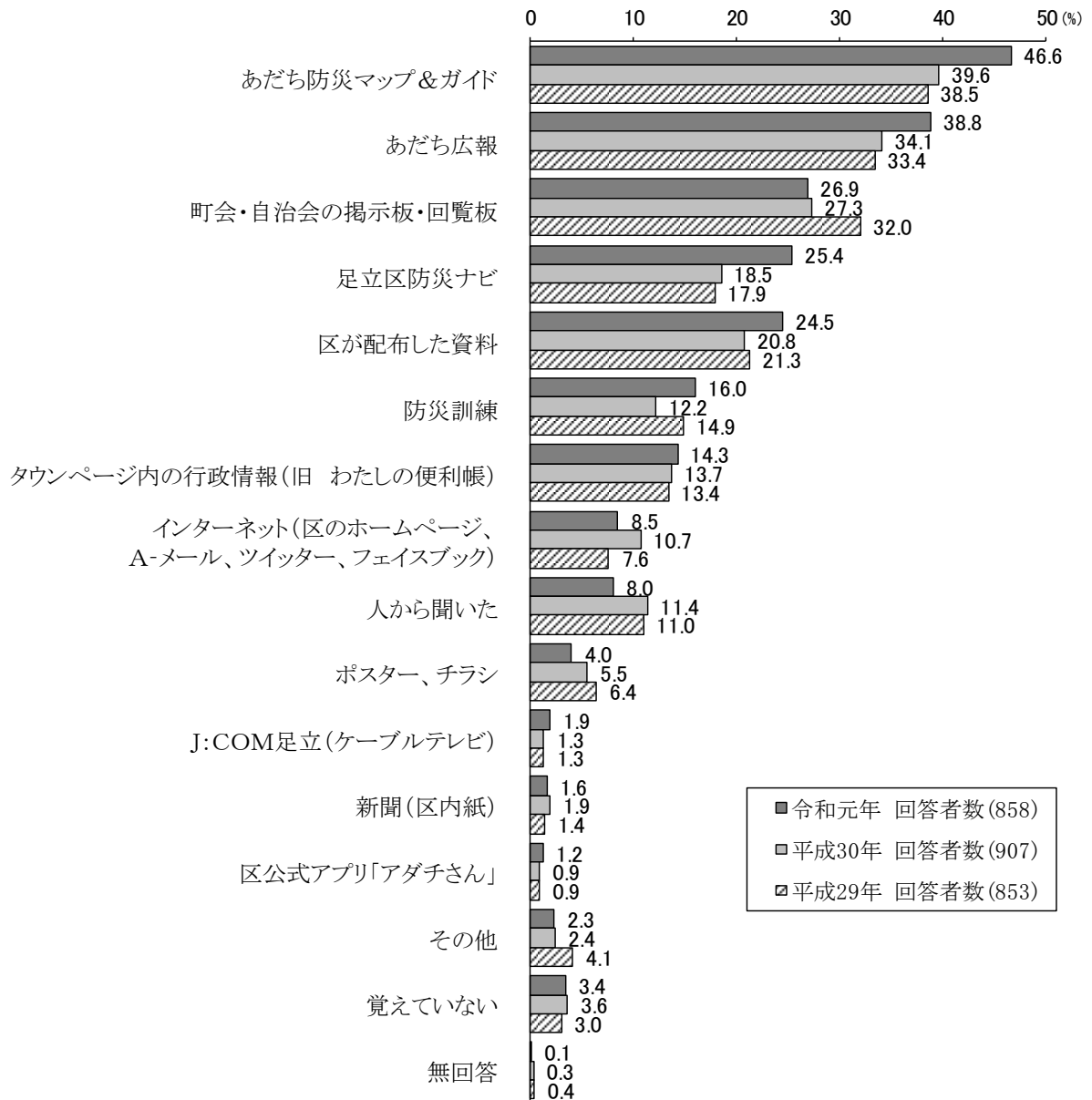
(8) 避難場所の認知経路

■ “防災マップ&ガイド”が5割弱と最も高く“広報”が4割弱で次点

問8で「1. 知っている」とお答えの方に

問8-1 避難場所をどのように知りましたか (〇はあてはまるものすべて)。

図2-8-1 経年比較/避難場所の認知経路



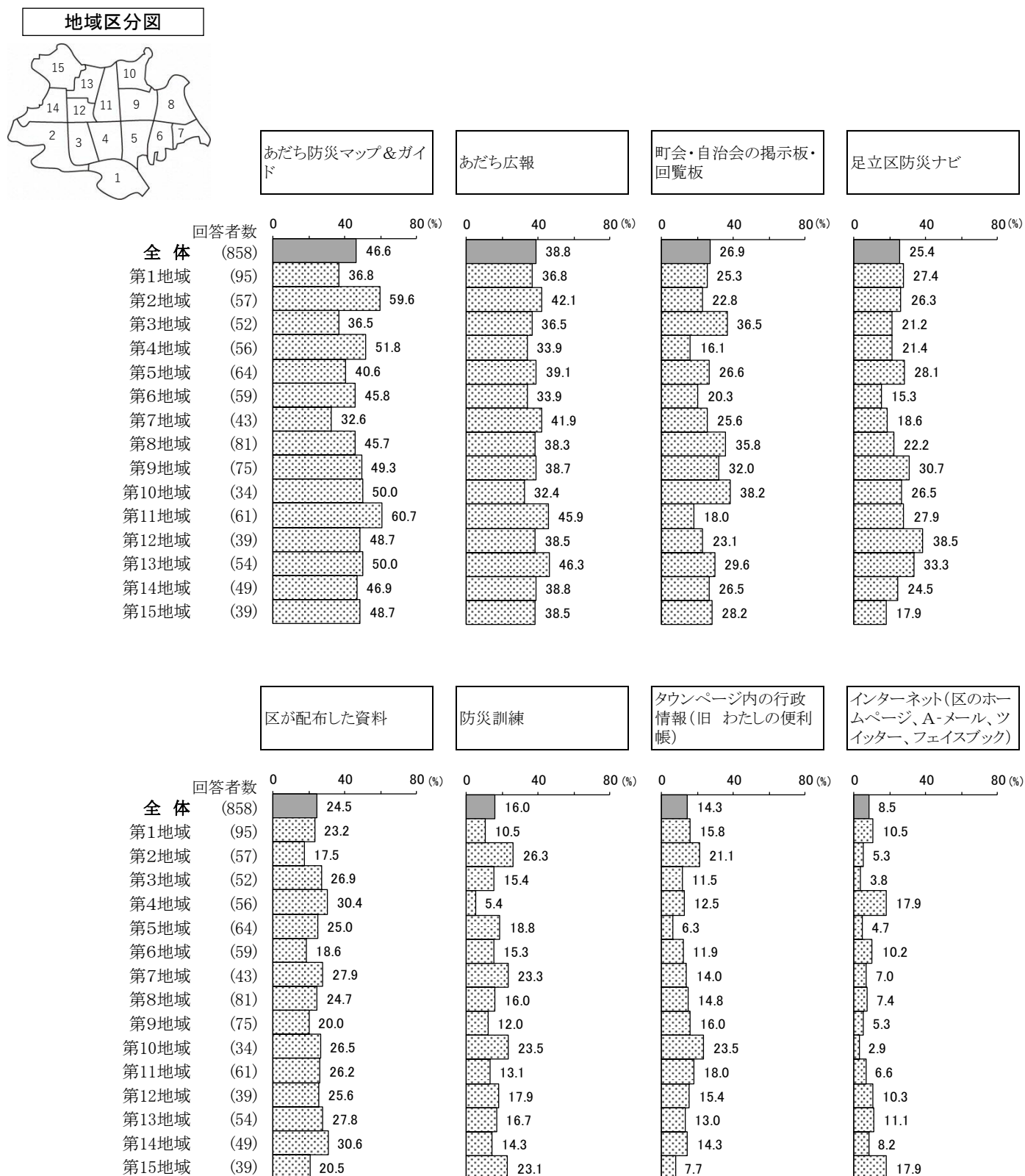
地域の避難場所を認知している人について、その認知経路をみると、「あだち防災マップ&ガイド」が46.6%で最も高く、以下「あだち広報」(38.8%)、「町会・自治会掲示板・回覧板」(26.9%)、「足立区防災ナビ」(25.4%)の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位に大きな変動はみられないが、前回に比べて「あだち防災マップ&ガイド」は7.0ポイント増加し、「足立防災ナビ」も6.9ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

地域別でみると、「あだち防災マップ&ガイド」は第2地域と第11地域で6割前後と高く、「あだち広報」は第11地域と第13地域で4割台半ばと高くなっている。なお、「町会・自治会掲示板・回覧板」は第3地域、第8地域、第10地域でそれぞれ3割台後半と高くなっている。

図2-8-2 地域別/避難場所の認知経路/上位8項目



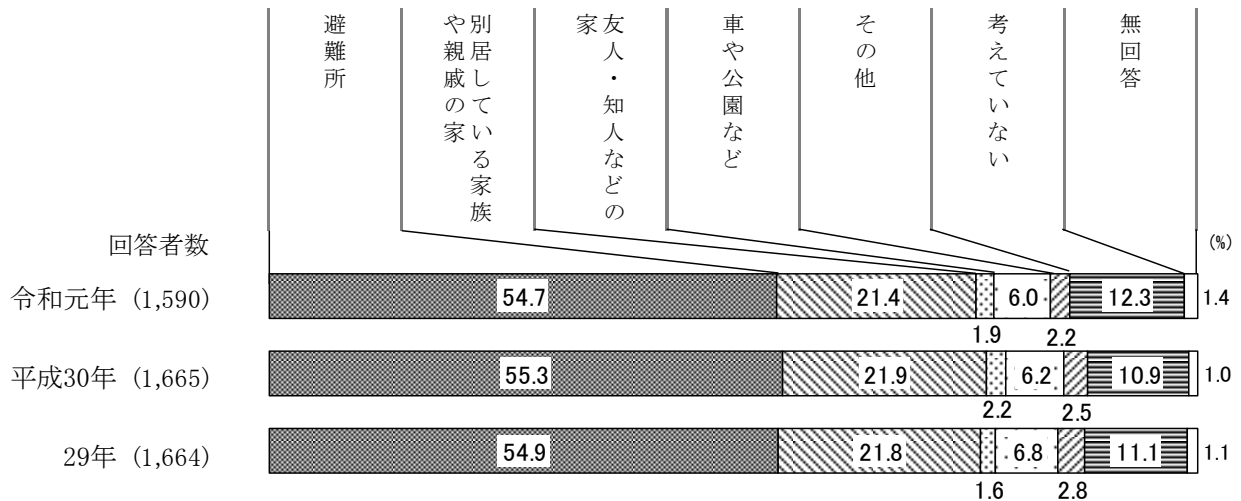


(9) 大規模災害時の避難生活場所

■ 「避難所」が3年続けて5割台半ばを占める

問9 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

図2-9-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所



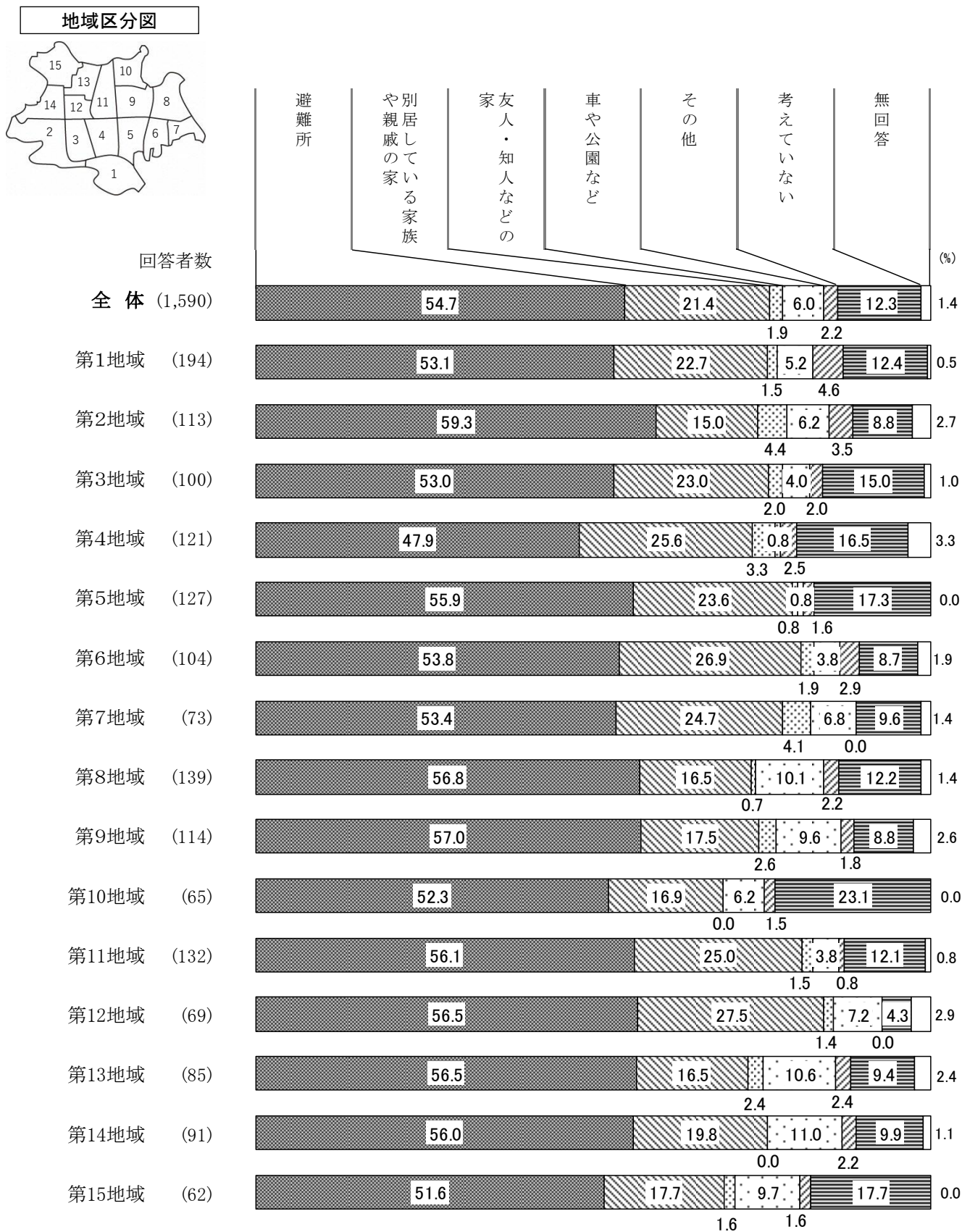
大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が54.7%で最も多く、次いで「別居している家族や親戚の家」が21.4%となっている。

経年でみるも、前々回、前回とほぼ同じ分布で、各年ほとんど変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

地域別でみると、地域別の大きな違いはみられず、「避難所」がほとんど地域で5割台で中核となっているが、その中では第2地域（59.3%）が最も高く、第4地域（47.9%）だけが5割を下回って低くなっている。

図2-9-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所



(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実” “水・食料の備蓄充実” “ライフライン確保” が6割前後で上位

問10 あなたが大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

図2-10-1-① 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

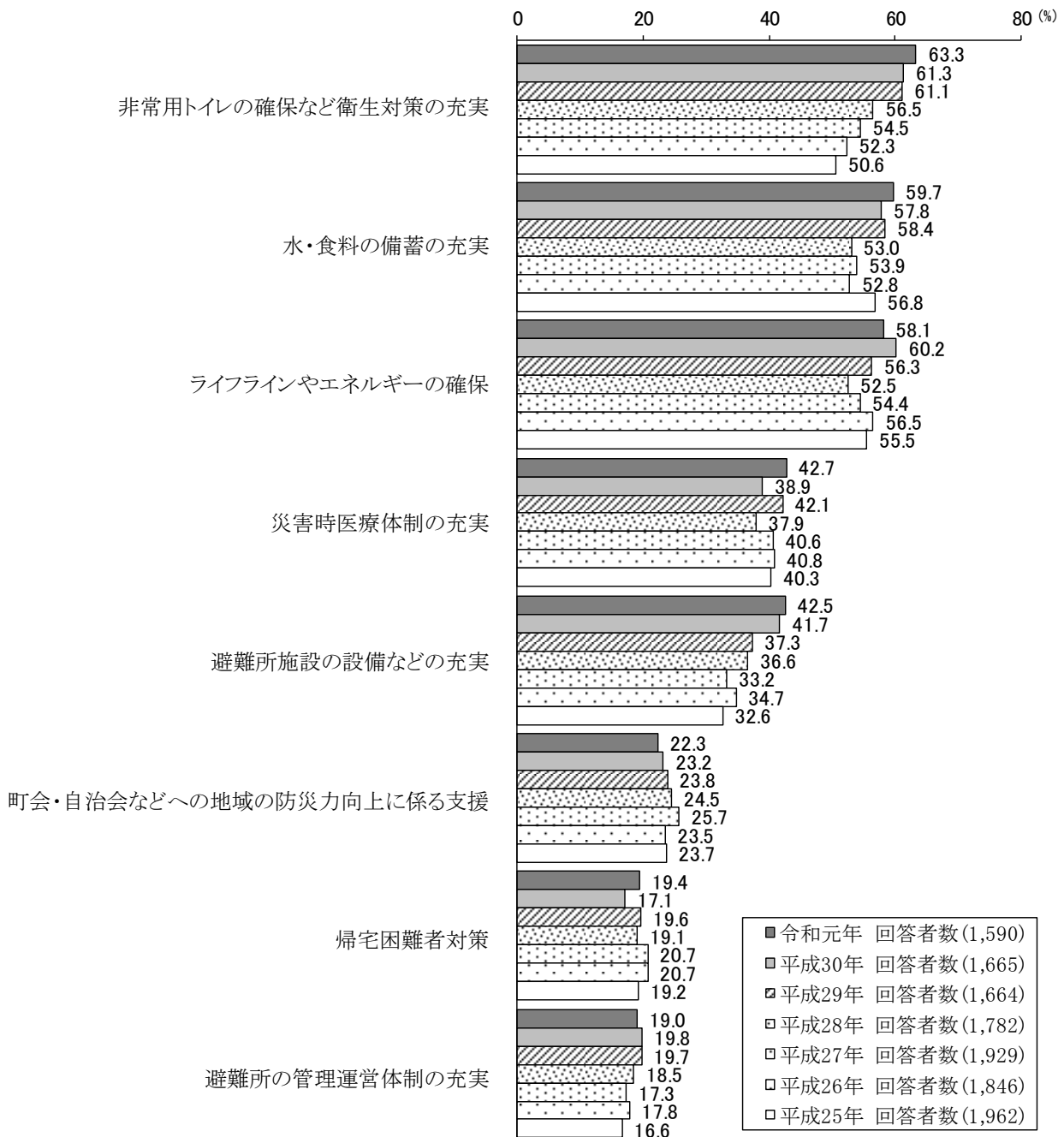


図2-10-1-② 経年比較/大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

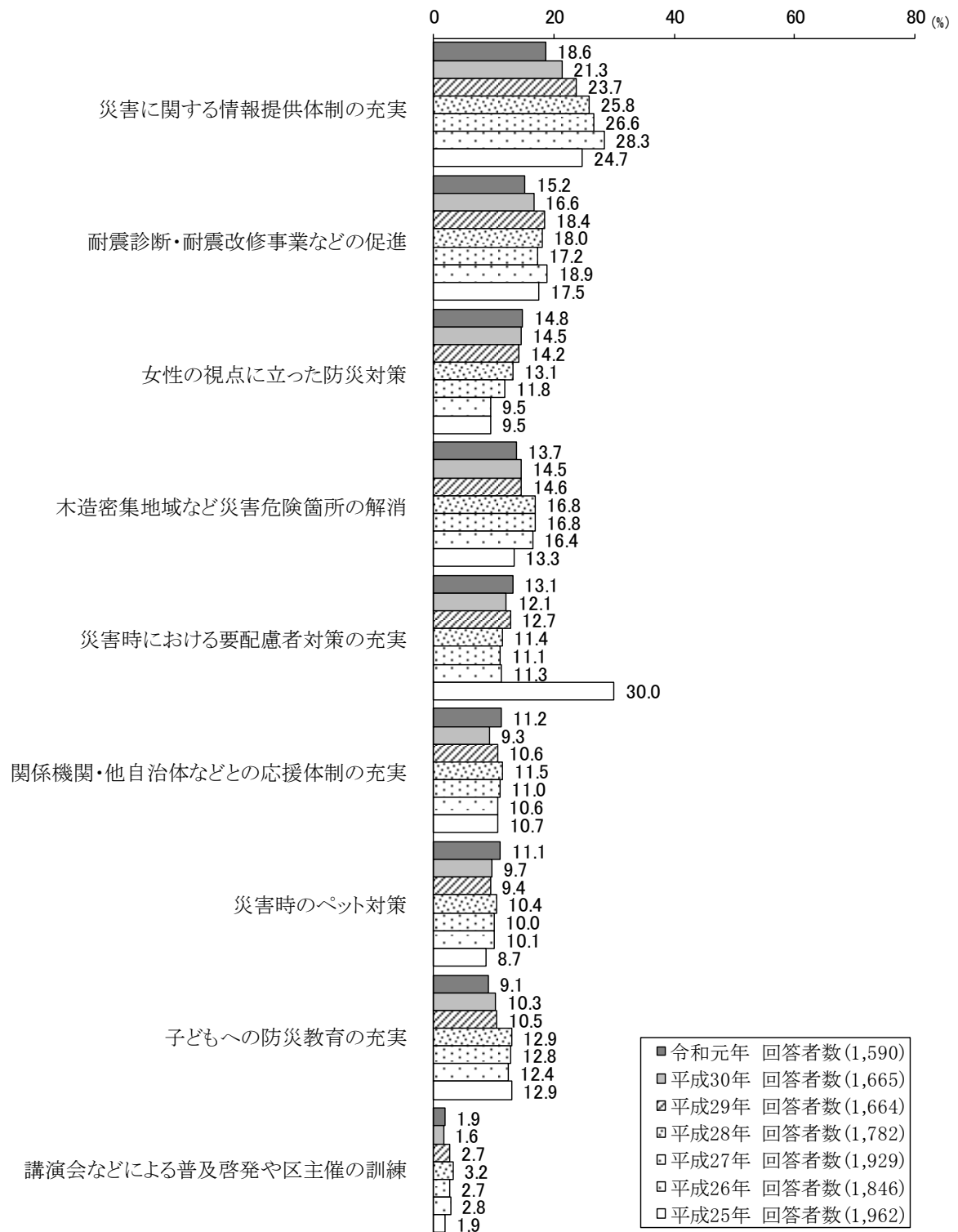
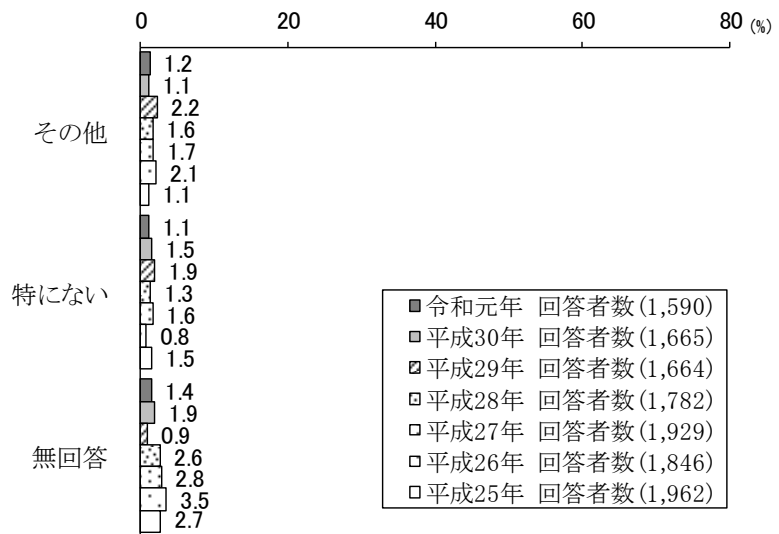


図2-10-1-③ 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※ 「水・食料の備蓄の充実」は、平成25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

「災害時における要配慮者対策の充実」は、平成25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(63.3%)、「水・食料の備蓄の充実」(59.7%)、「ライフラインやエネルギーの確保」(58.1%)の3項目が6割前後に達して、とくに高くなっている。

経年でみると、上位3項目に回答が集中する傾向に大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

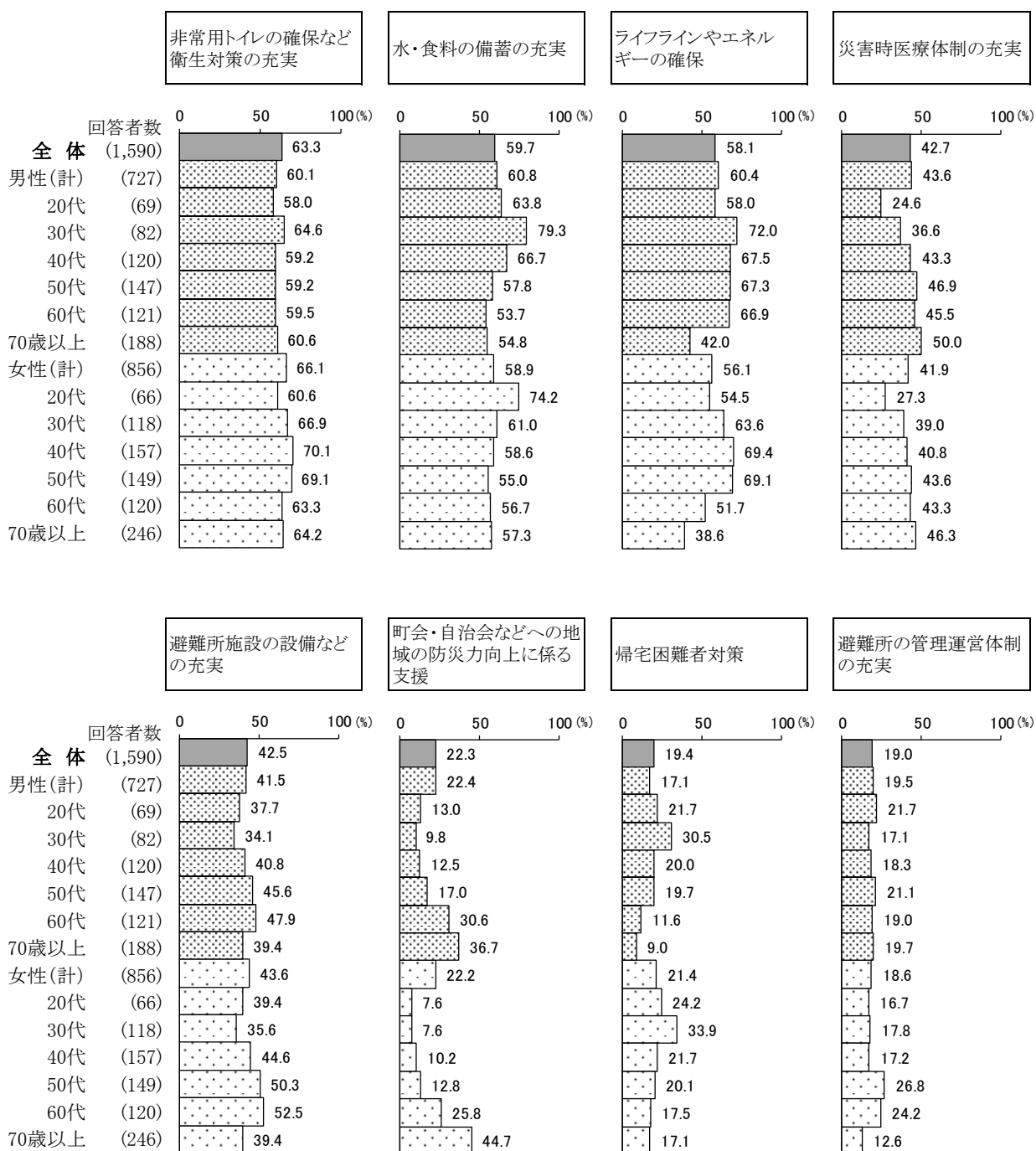
性別で見ると、女性では「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が66.1%と、男性（60.1%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、30代で「水・食料の備蓄の充実」（79.3%）と「ライフラインやエネルギーの確保」（72.0%）が他の年代に比べて高い。

女性では、「水・食料の備蓄の充実」が20代で7割台半ばと他の年代より高く、「ライフラインやエネルギーの確保」は40代と50代で7割弱と高くなっている。

図2-10-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

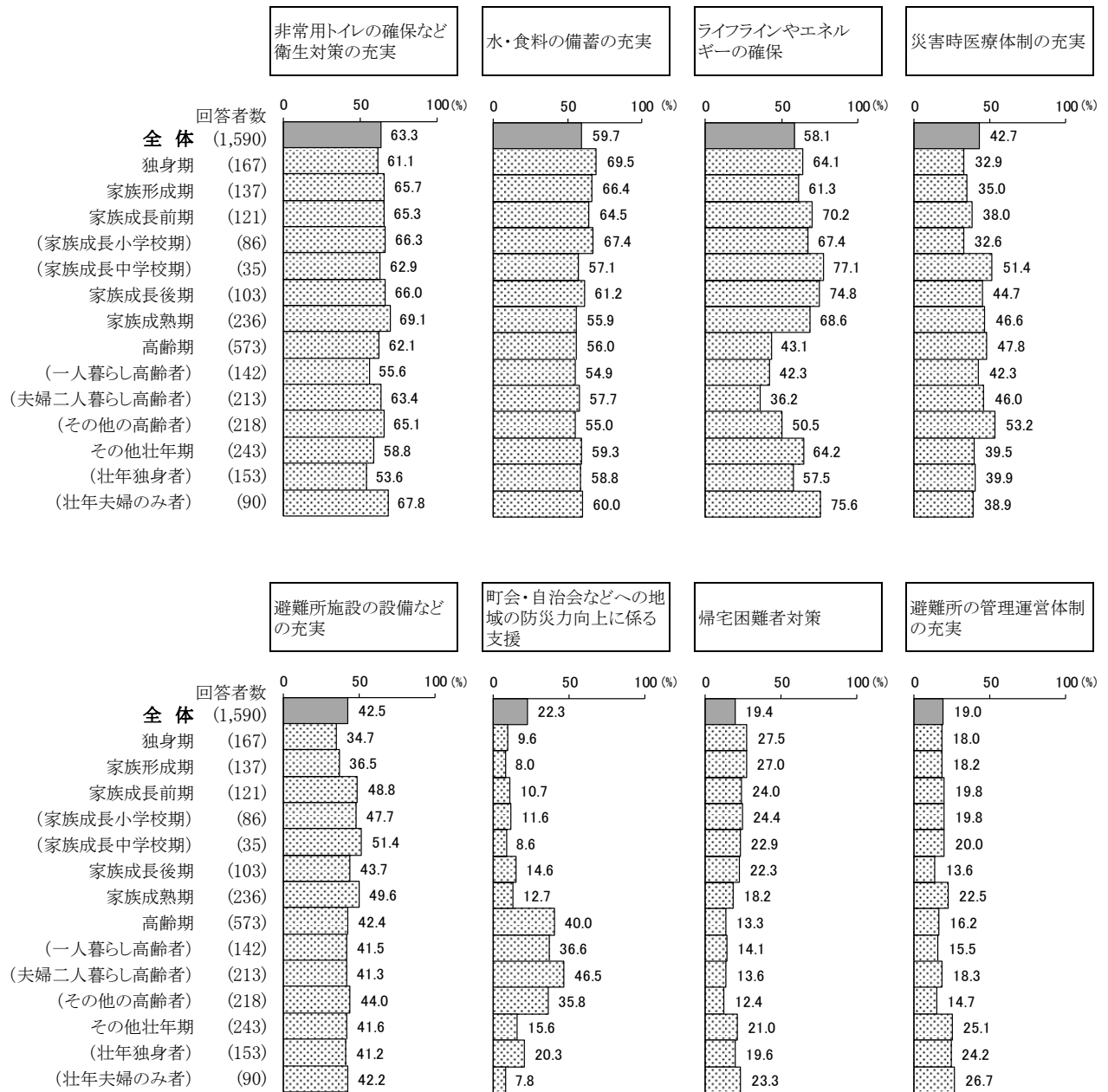
／上位8項目



ライフステージ別で見ると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は家族成熟期が7割弱で最も高く、「水・食料の備蓄の充実」は独身期で、「ライフラインやエネルギーの確保」は家族成長後期で、それぞれ高くなっている。

図2-10-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目







### 3 洪水対策

- 
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
  - (2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
  - (3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先
-



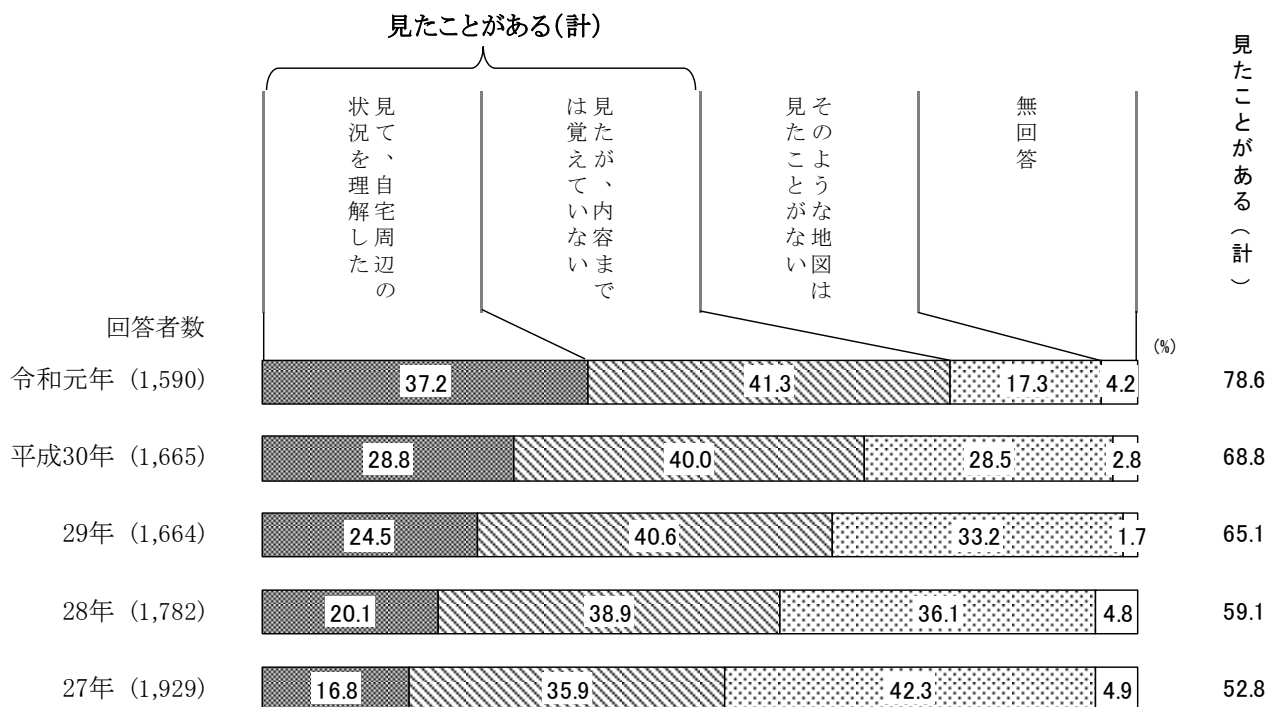
### 3 洪水対策

#### (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■ 【見たことがある】は8割弱となり、4年続けて確実に上昇

問11 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 経年比較／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



※ 「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度は「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

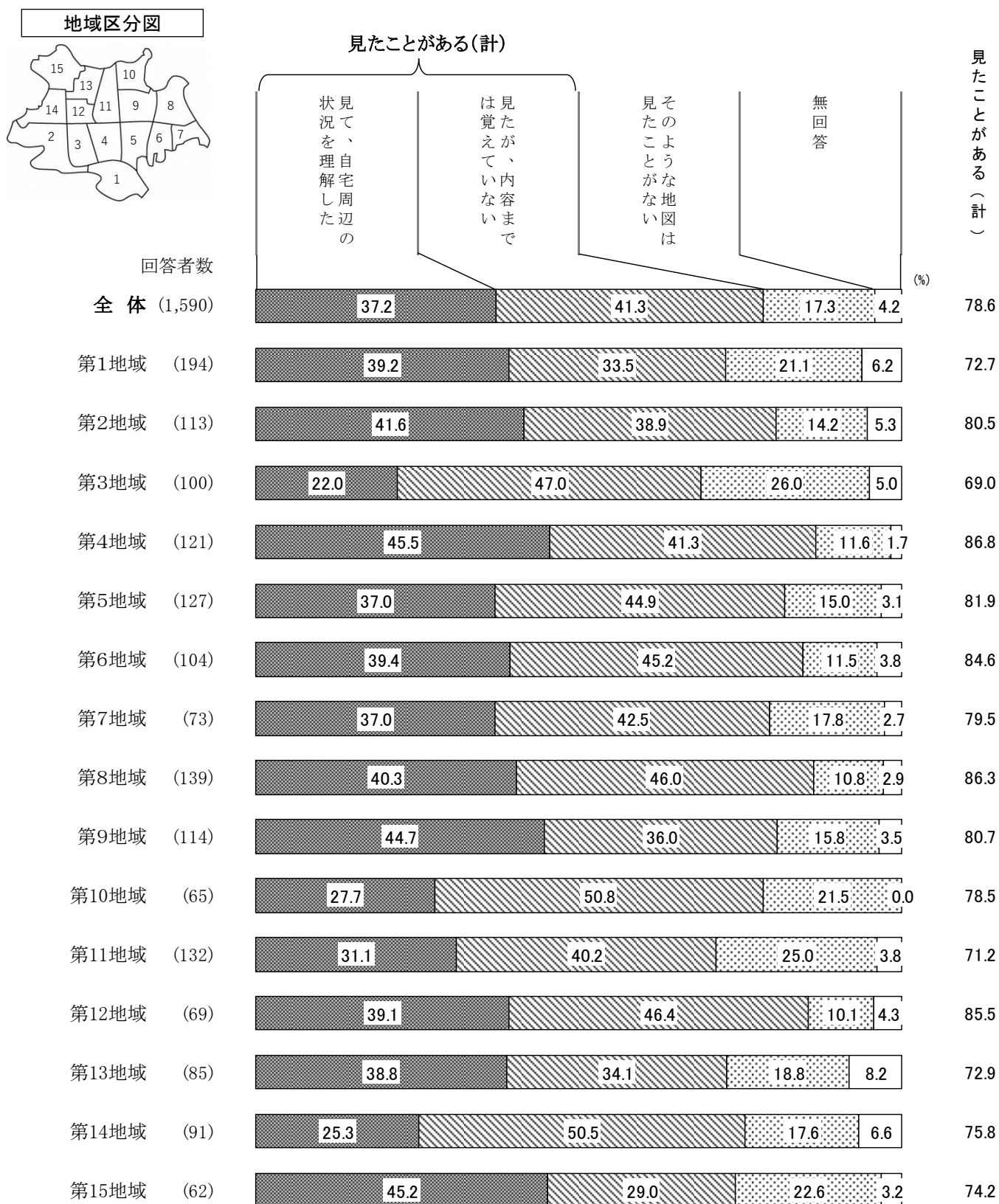
『足立区洪水ハザードマップ』で「見て、自宅周辺の状況を理解した」が37.2%で、これに「見たが、内容までは覚えていない」(41.3%)を合わせた【見たことがある】は78.6%と8割弱を占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は17.3%となっている。

経年でみると、【見たことがある】は、平成27年の52.8%から年々増加しており、令和元年の今回は、前回より9.8ポイント増加して、78.6%となっている。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

地域別でみると、【見たことがある】は第4地域で86.8%と最も高く、次いで第6地域、第8地域、第12地域が8割台半ば以上で高くなっている。

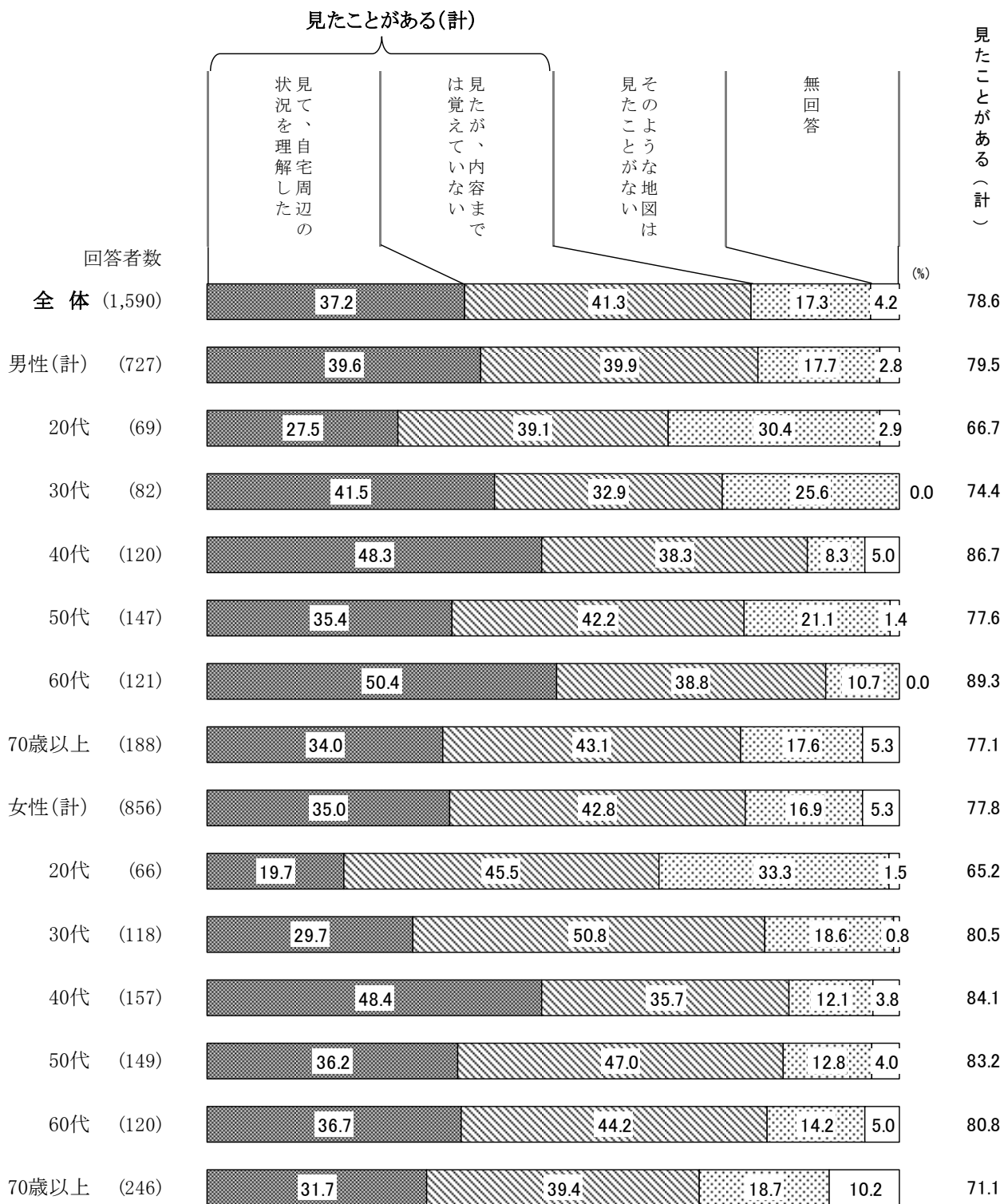
図3-1-2 地域別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



性別でみると、【見たことがある】について大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、【見たことがある】は、男性では、60代（89.3%）と40代（86.7%）で高く、女性では、40代（84.1%）と50代（83.2%）で高くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■ 〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は「避難する」が8割弱

問12 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか  
(○はそれぞれ1つずつ)。

図3-2-1-① 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処

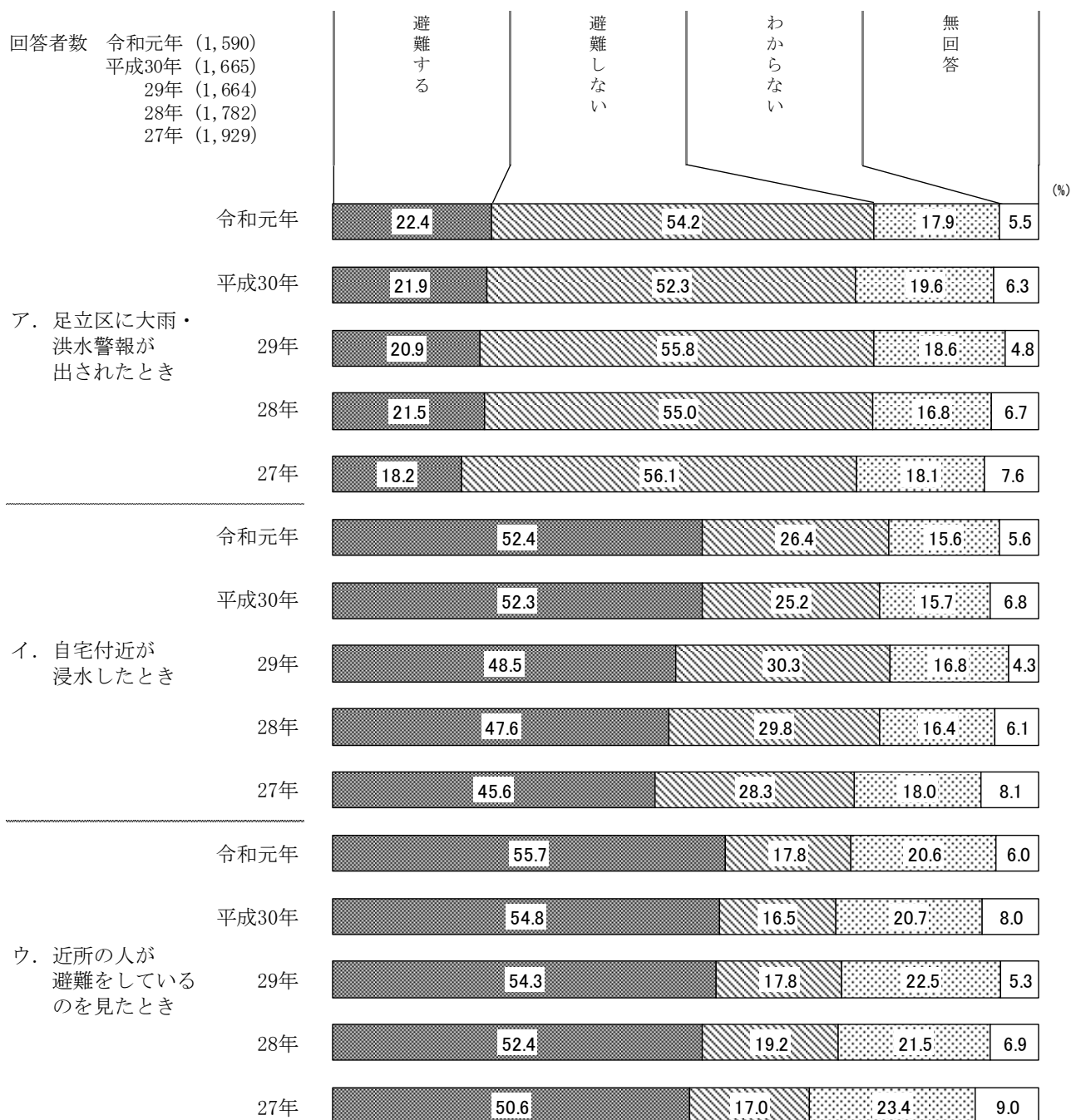
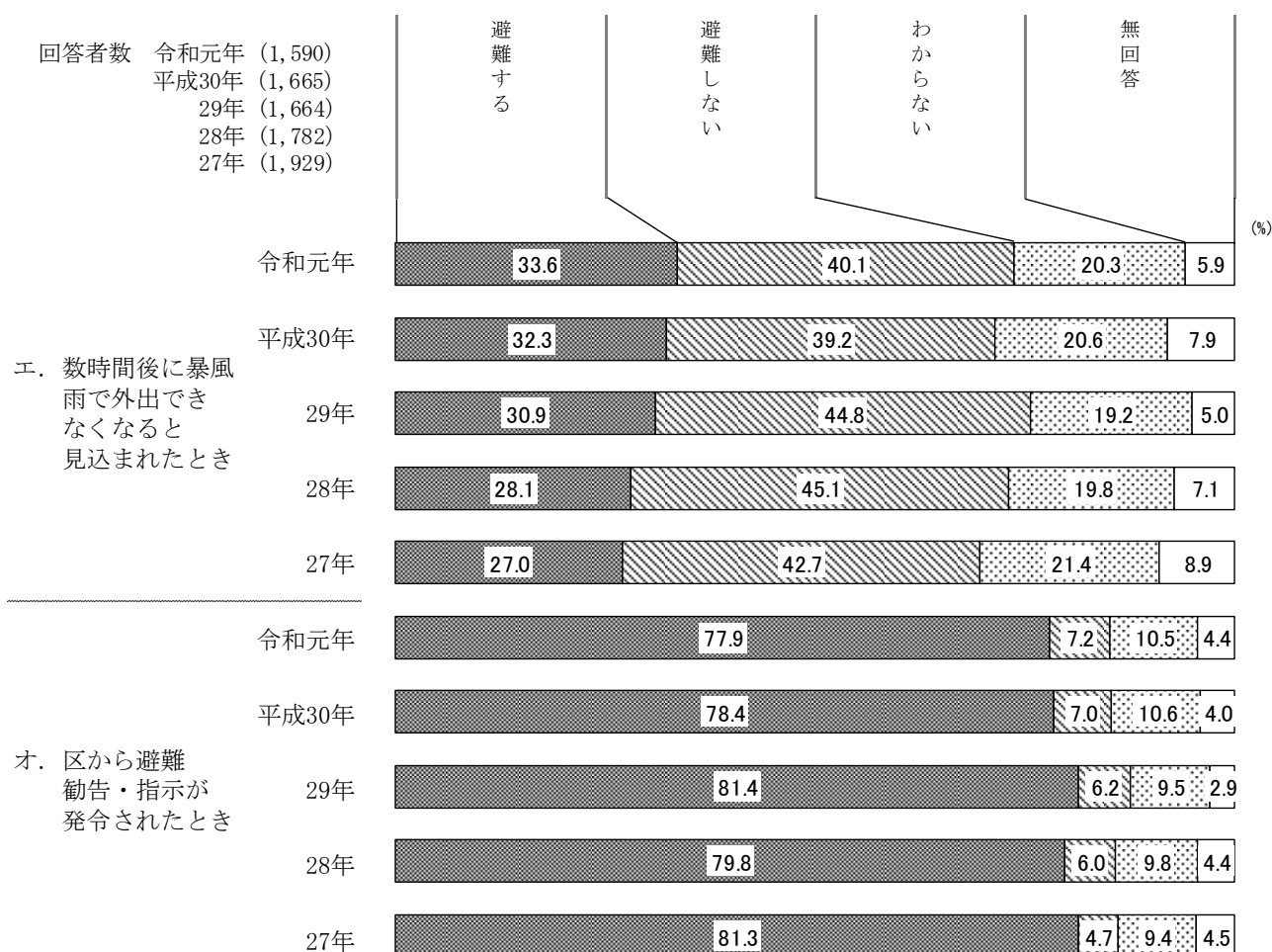


図3-2-1-② 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかを聴いた。

「避難する」が多い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が77.9%で最も高く、以下〈近所の人が見ているのを見たとき〉(55.7%)、〈自宅付近が浸水したとき〉(52.4%)の順で続いている。

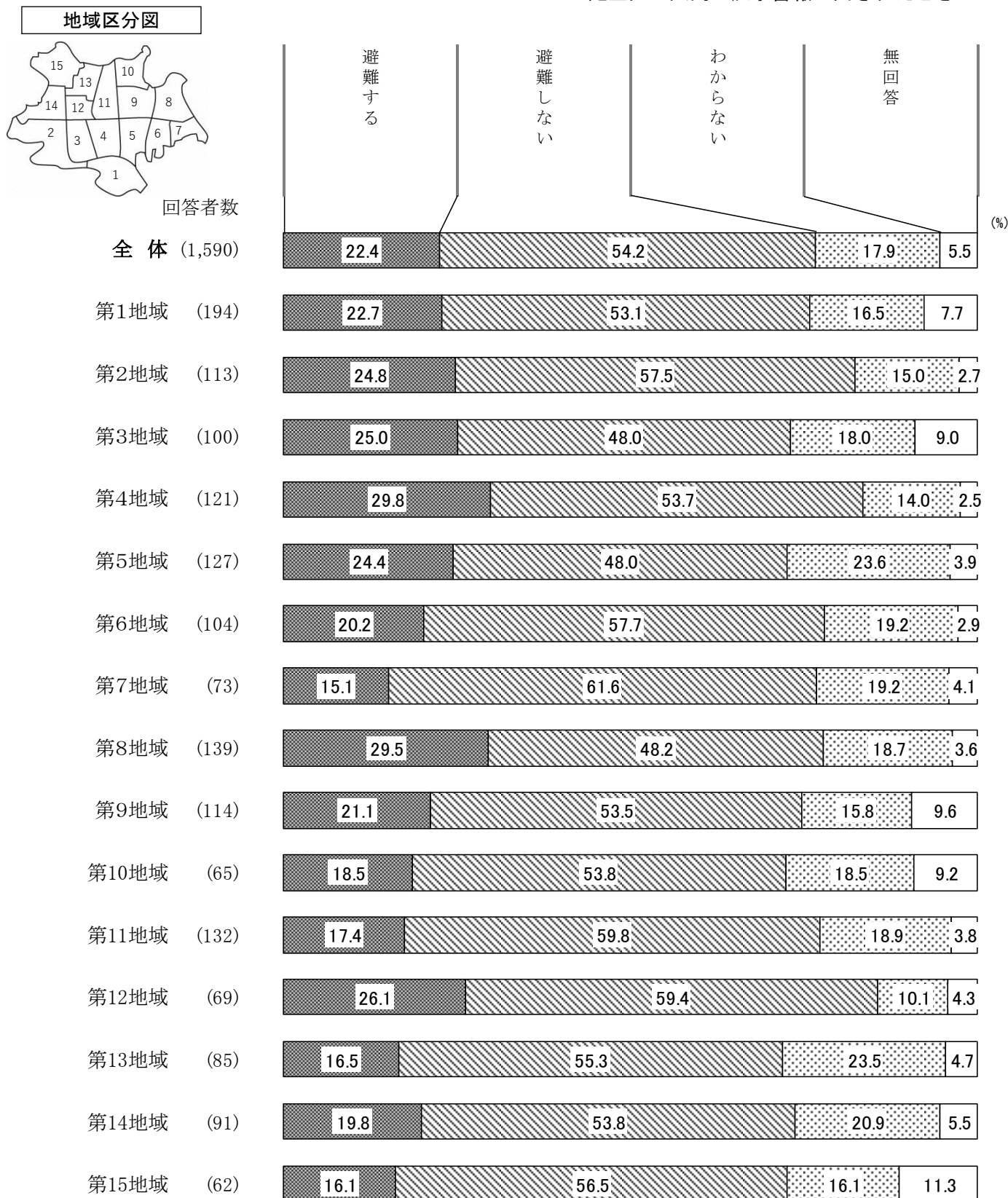
経年でみると、今回の令和元年調査では、「避難する」と回答した人の割合が〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉以外の項目で、平成30年調査に比べてそれぞれ僅かずつ増加しており、この傾向は前回と同様となっている。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について、地域別でみると、「避難しない」が第7地域では6割を超えて最も高くなっており、これに第11地域と第12地域が6割弱で続き、他の地域より高くなっている。

図3-2-2-① 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

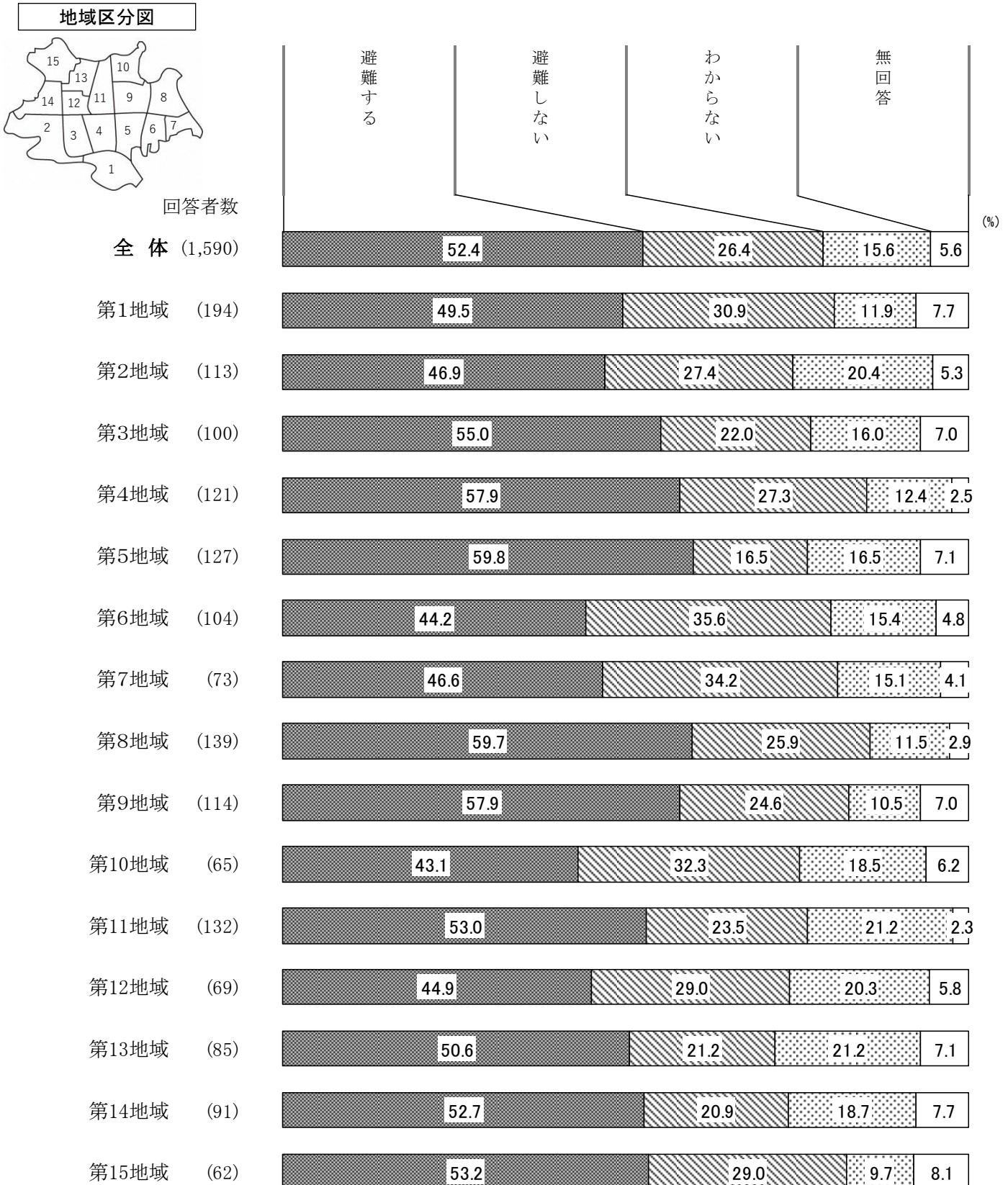
／足立区に大雨・洪水警報が出されたとき





〈自宅付近が浸水したとき〉について、地域別でみると、第4地域、第5地域、第8地域、第9地域では「避難する」が6割弱に達して他の地域より高くなっている。一方、第6地域と第7地域では「避難しない」がそれぞれ3割台半ばと高くなっている。

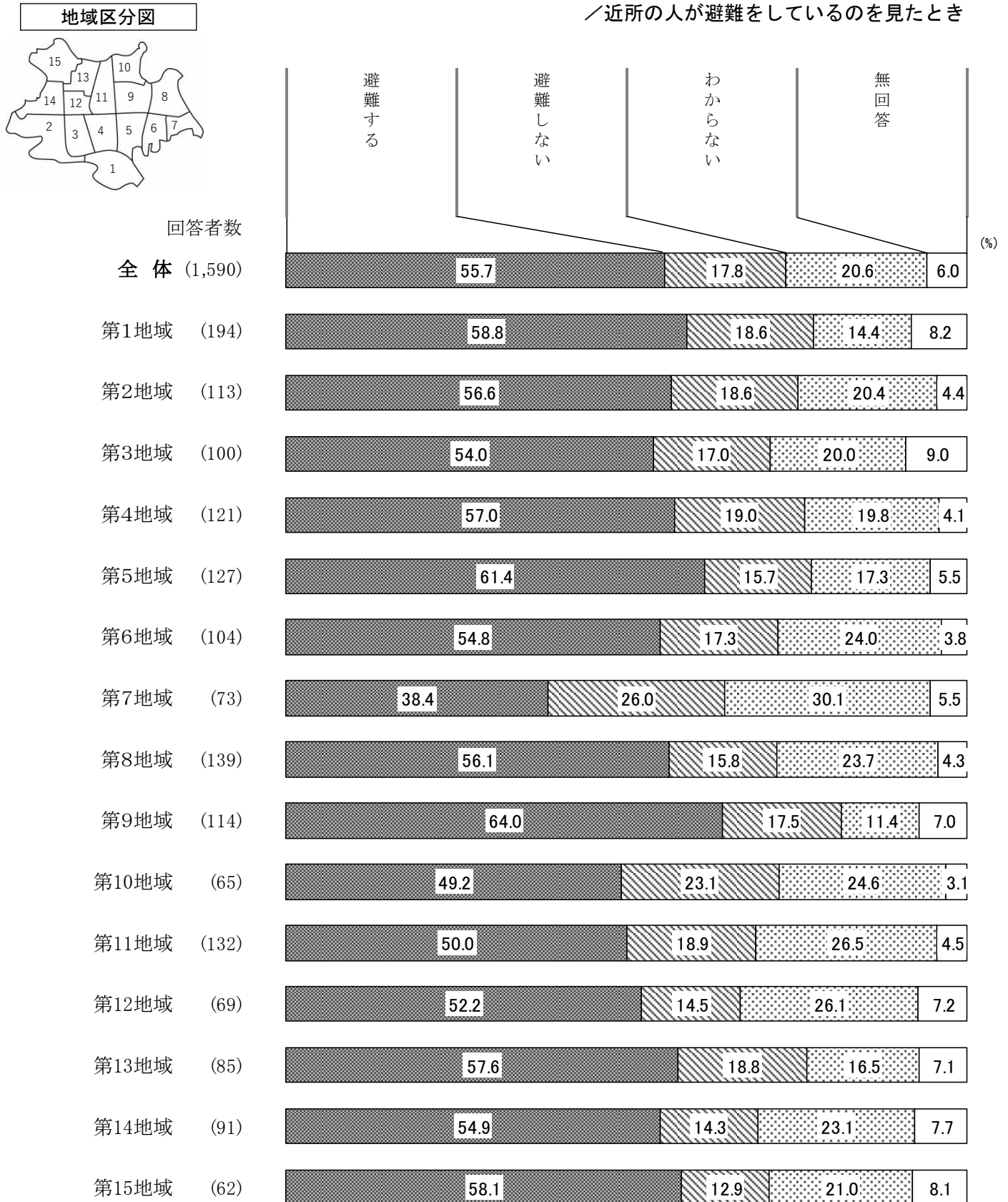
図3-2-2-② 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処／自宅付近が浸水したとき



第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

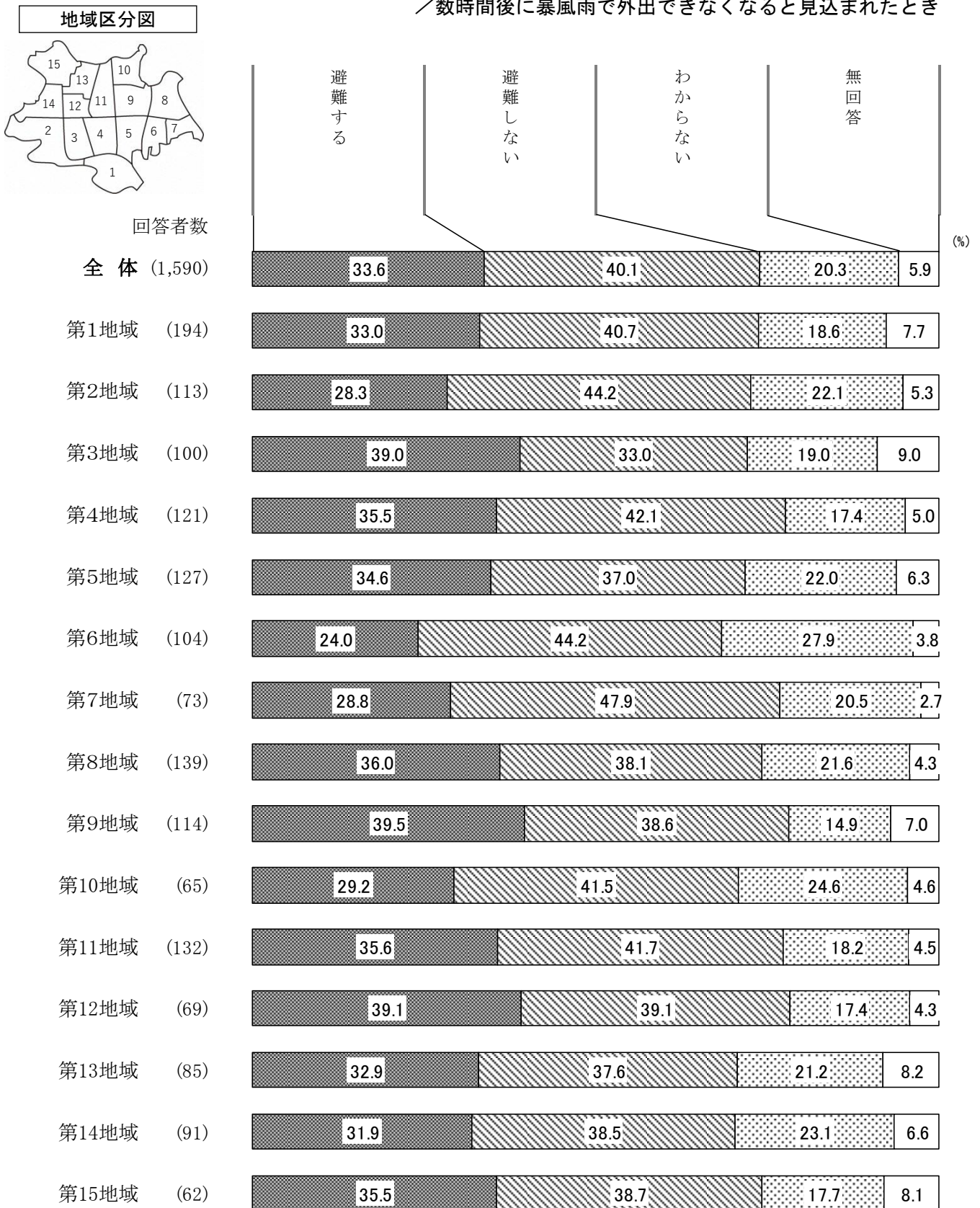
〈近所の人が避難をしているのを見たとき〉について、地域別でみると、第9地域は「避難する」が6割台半ばと他の地域より高くなっている。一方、第7地域では「避難しない」が2割台半ばと高くなっている。

図3-2-2-③ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処



〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉について、地域別にみると、「避難する」は第3地域、第9地域、第12地域でそれぞれ4割弱と高くなっている。

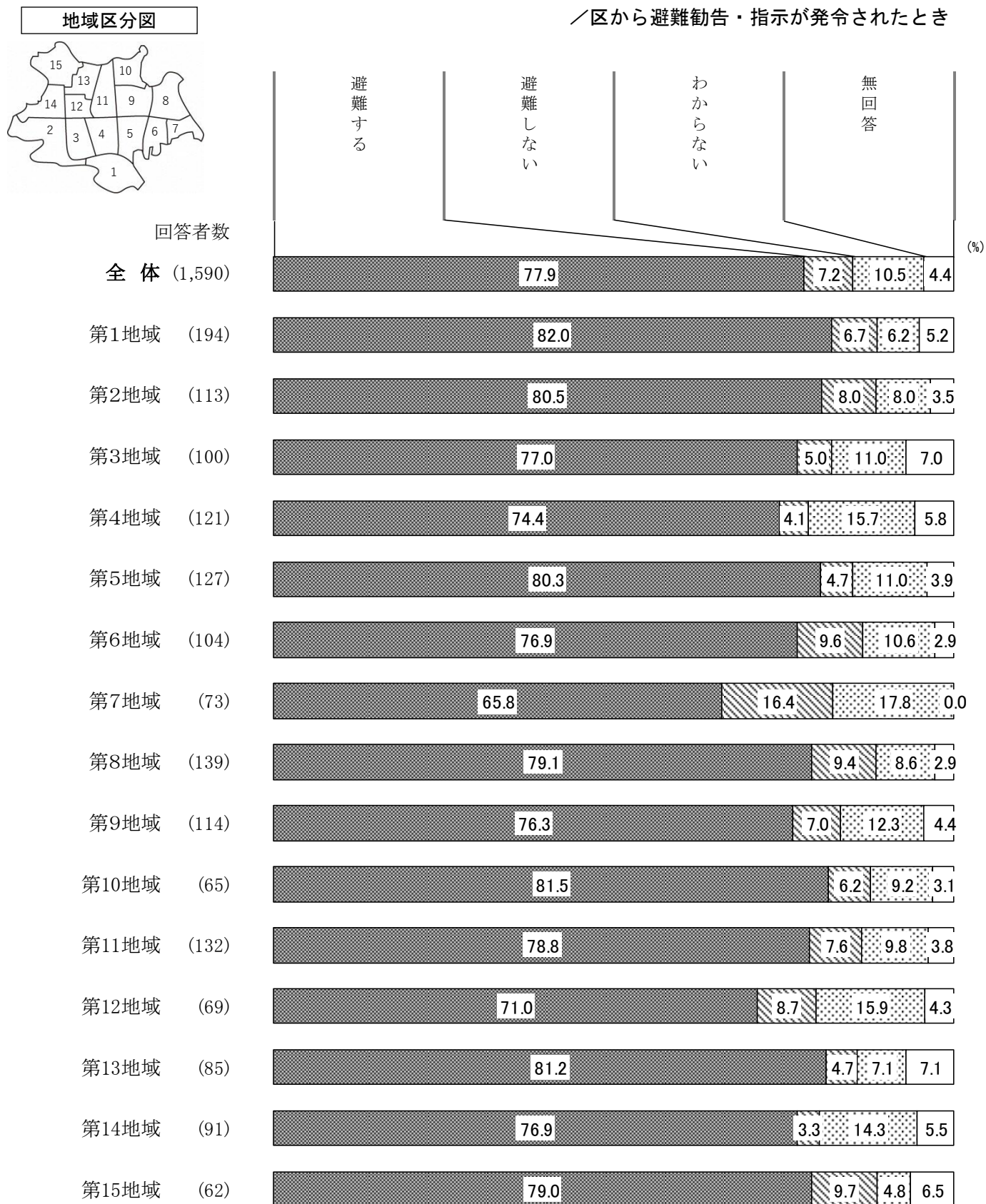
図3-2-2-④ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処



第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈区から避難勧告・指示が発令された時〉について、地域別でみると、「避難する」は第1地域、第2地域、第5地域、第10地域、第13地域でそれぞれ8割を超えて高くなっている。一方、第7地域では「避難しない」が1割台半ばと高くなっている。

図3-2-2-⑤ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

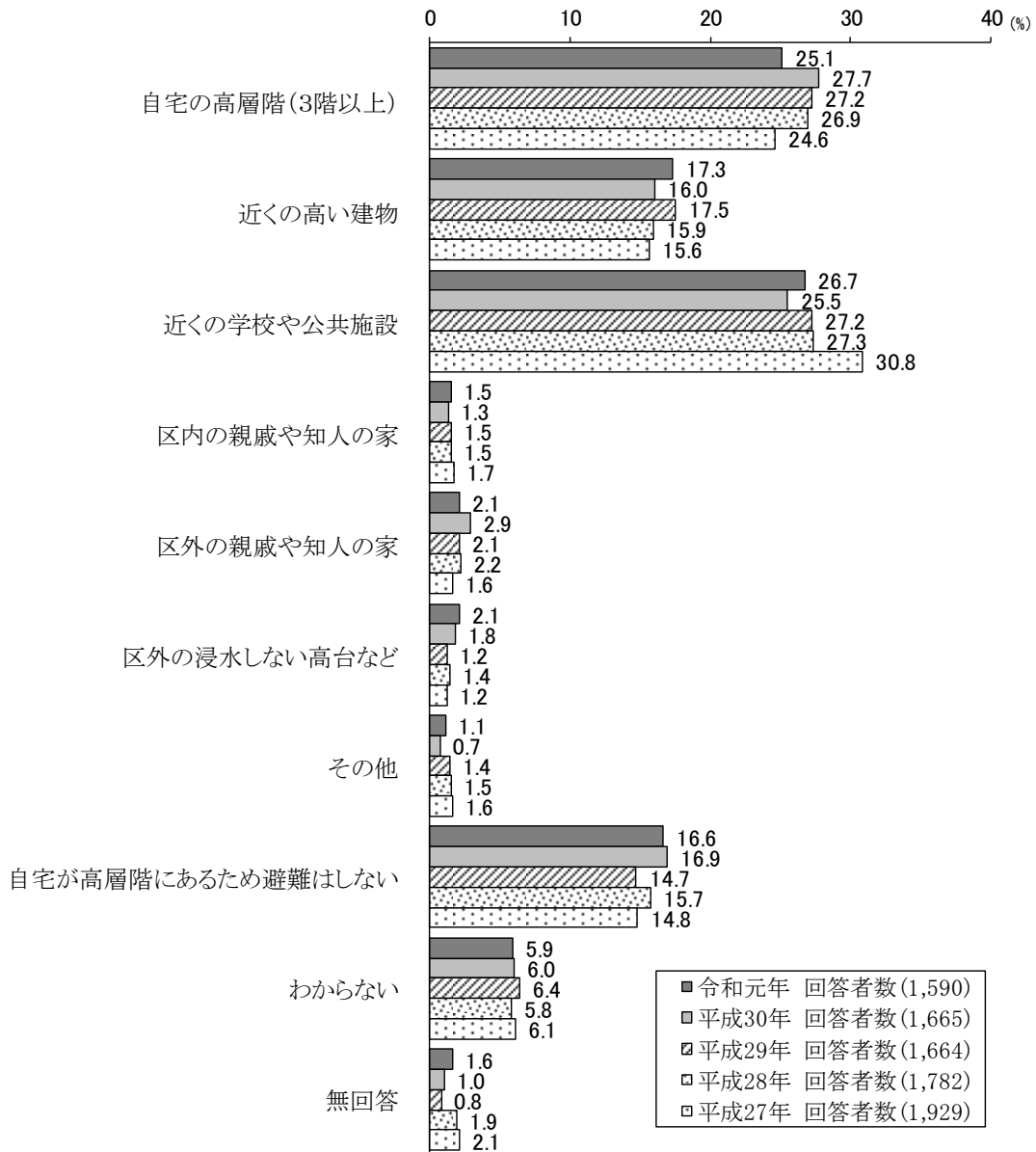


(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先

■ 「近くの学校や公共施設」と「自宅の高層階（3階以上）」がそれぞれ2割台半ば以上

問13 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは**最初**にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

図3-3-1 経年比較／荒川がはん濫した際の最初の避難先



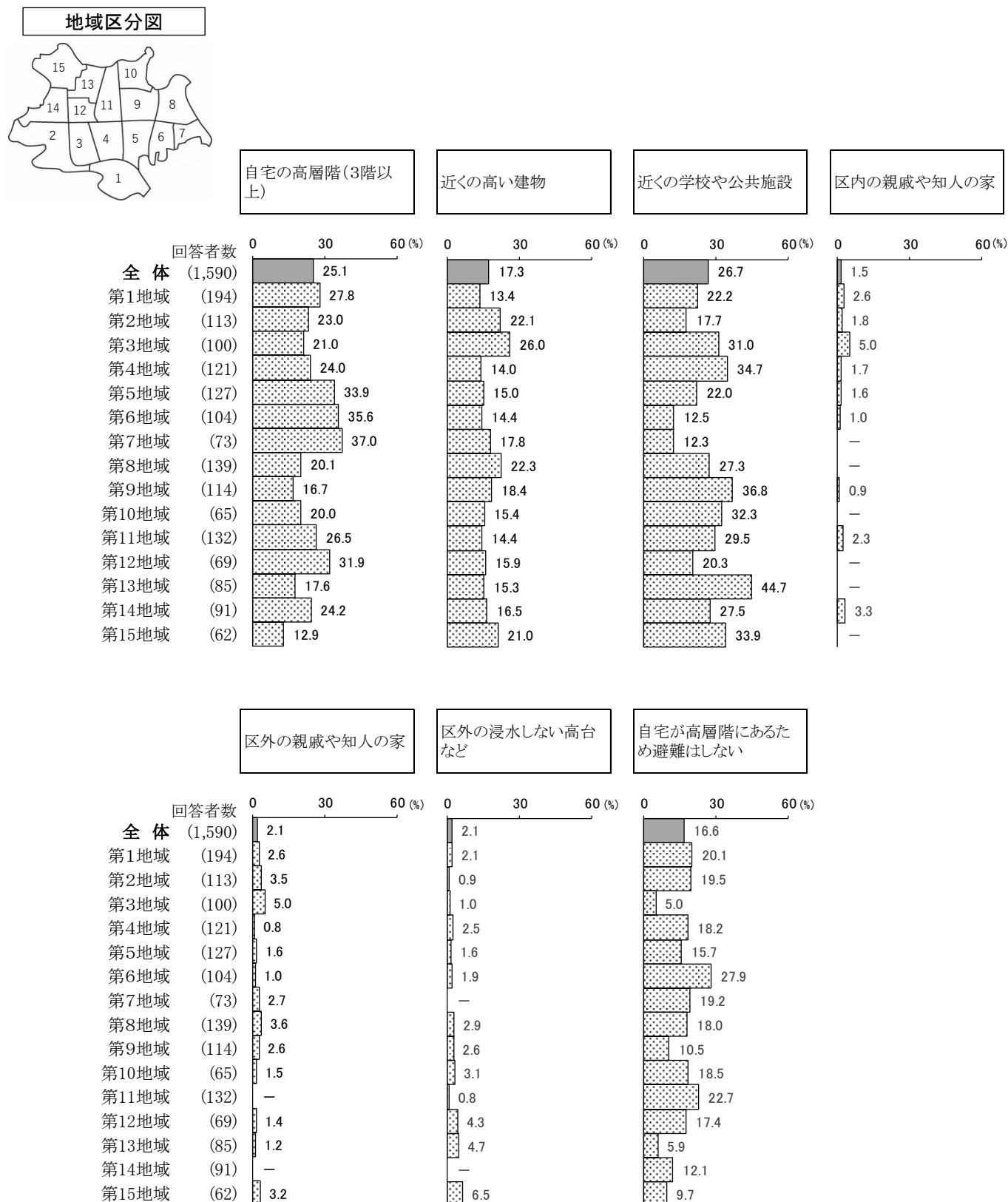
荒川がはん濫したときの最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が26.7%と最も多く、以下「自宅の高層階（3階以上）」（25.1%）、「近くの高い建物」（17.3%）の順となっている。一方、「自宅が高層階にあるため避難しない」は16.6%となっている。

経年でみると、今回の調査では「近くの学校や公共施設」と「自宅の高層階（3階以上）」がともに2割台半ば以上、「自宅が高層階にあるため避難はしない」が1割台半ば以上で、前回からの大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

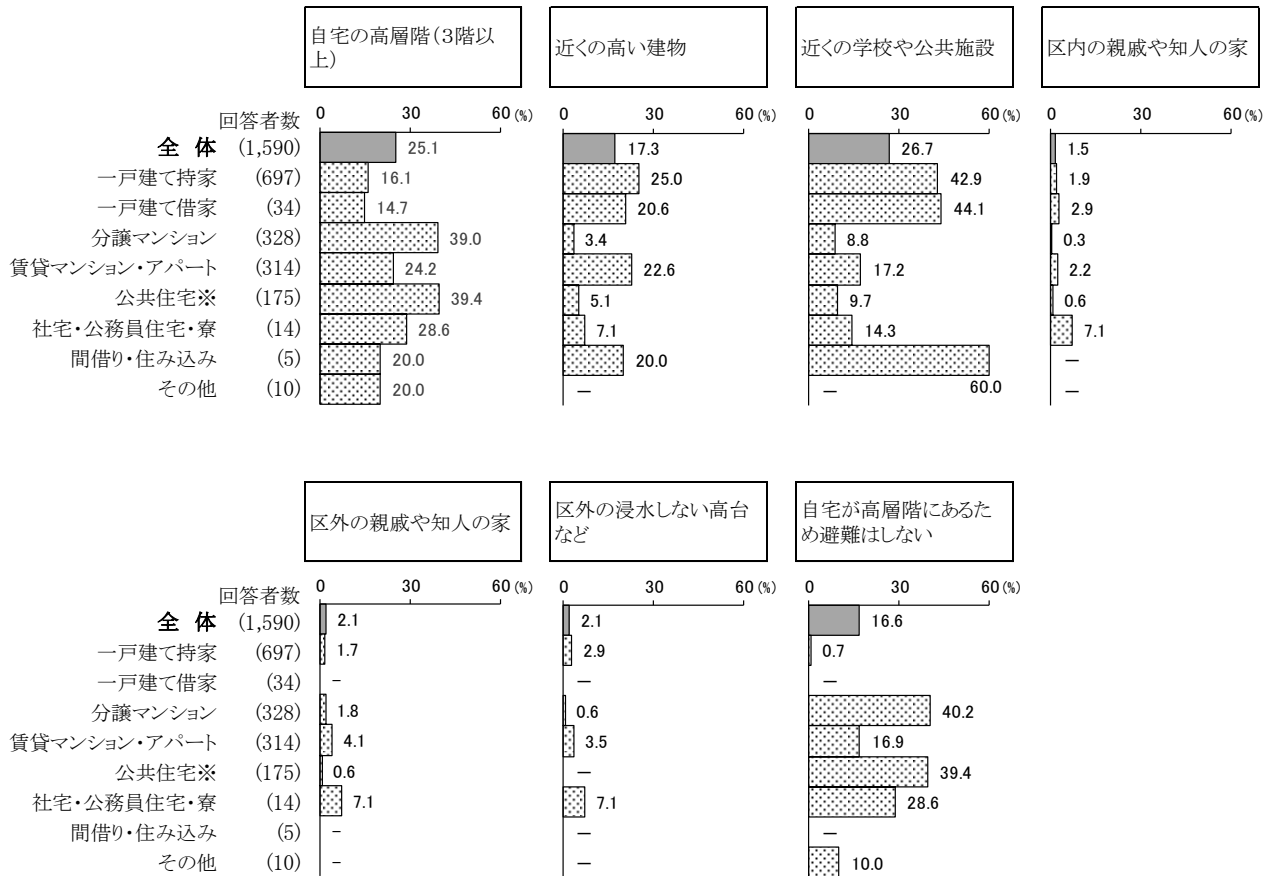
地域別でみると、「自宅の高層階（3階以上）」は第5地域、第6地域、第7地域でそれぞれ3割台半ば程度と高く、「近くの学校や公共施設」は第13地域で4割台半ばととくに高くなっている。なお、「自宅が高層階にあるため避難はしない」は第6地域で3割弱と最も高くなっている。

図3-3-2 地域別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



住居形態別でみると、一戸建て持家と一戸建て借家では「近くの学校や公共施設」がそれぞれ4割強～半ばで高く、分譲マンションと公共住宅※ではともに「自宅の高層階（3階以上）」と「自宅が高層階にあるため避難はしない」がそれぞれ4割前後で高くなっている。

図3-3-3 住居形態別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



※ 「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

※ 「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値とする。





## 4 区の情報発信のあり方

- 
- (1) 区の情報入手手段
  - (2) 必要とする区の情報
  - (3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況
  - (4) 区の情報得られない理由
  - (5) 区の情報得られない理由の詳細
-



## 4 区の情報発信のあり方

### (1) 区の情報入手手段

■ 「あだち広報」が7割強で変わらず首位、「インターネット」も漸増を続け今回は次点に

問14 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか  
(〇はあてはまるものすべて)。

図4-1-1-1-① 経年比較/区の情報入手手段

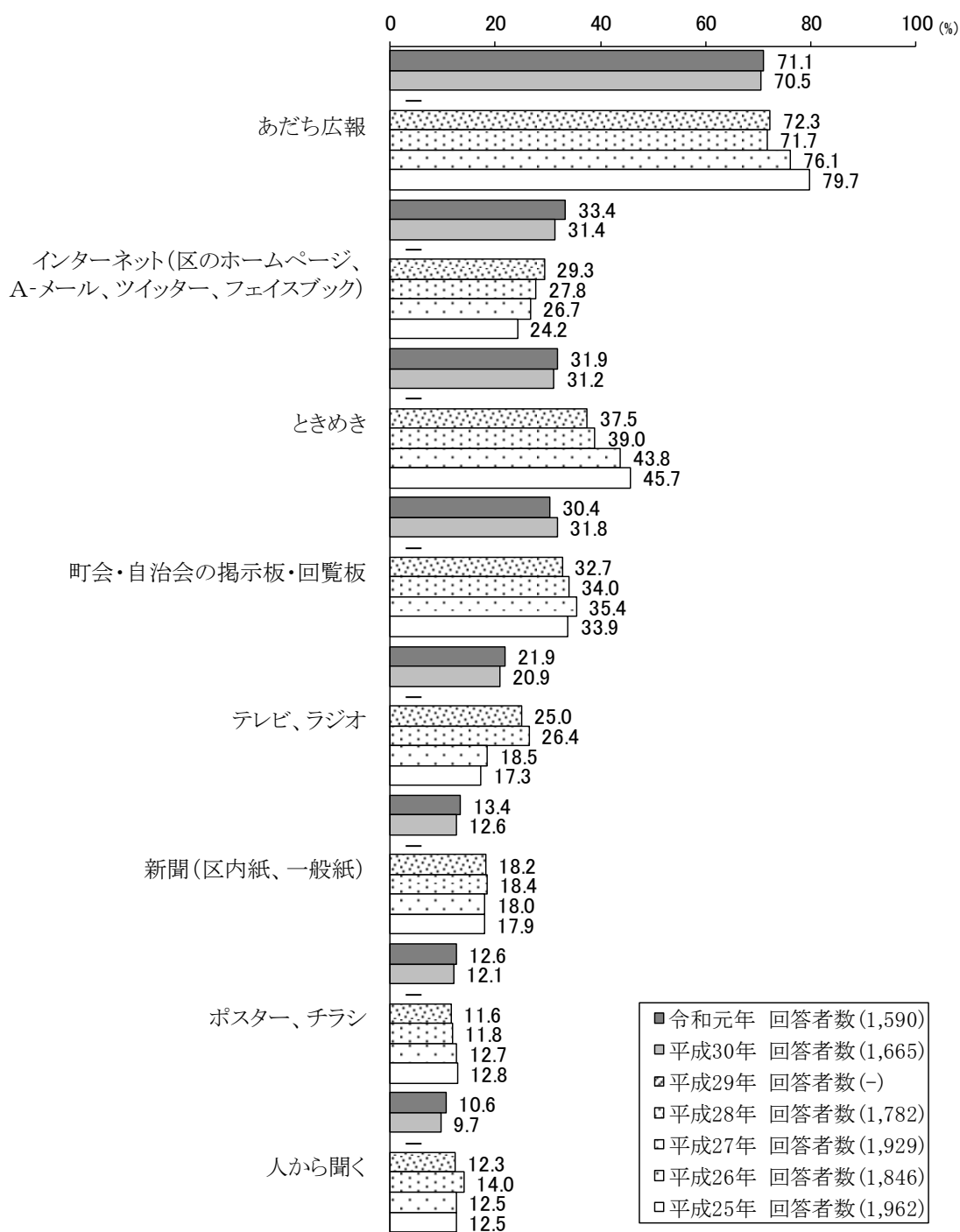
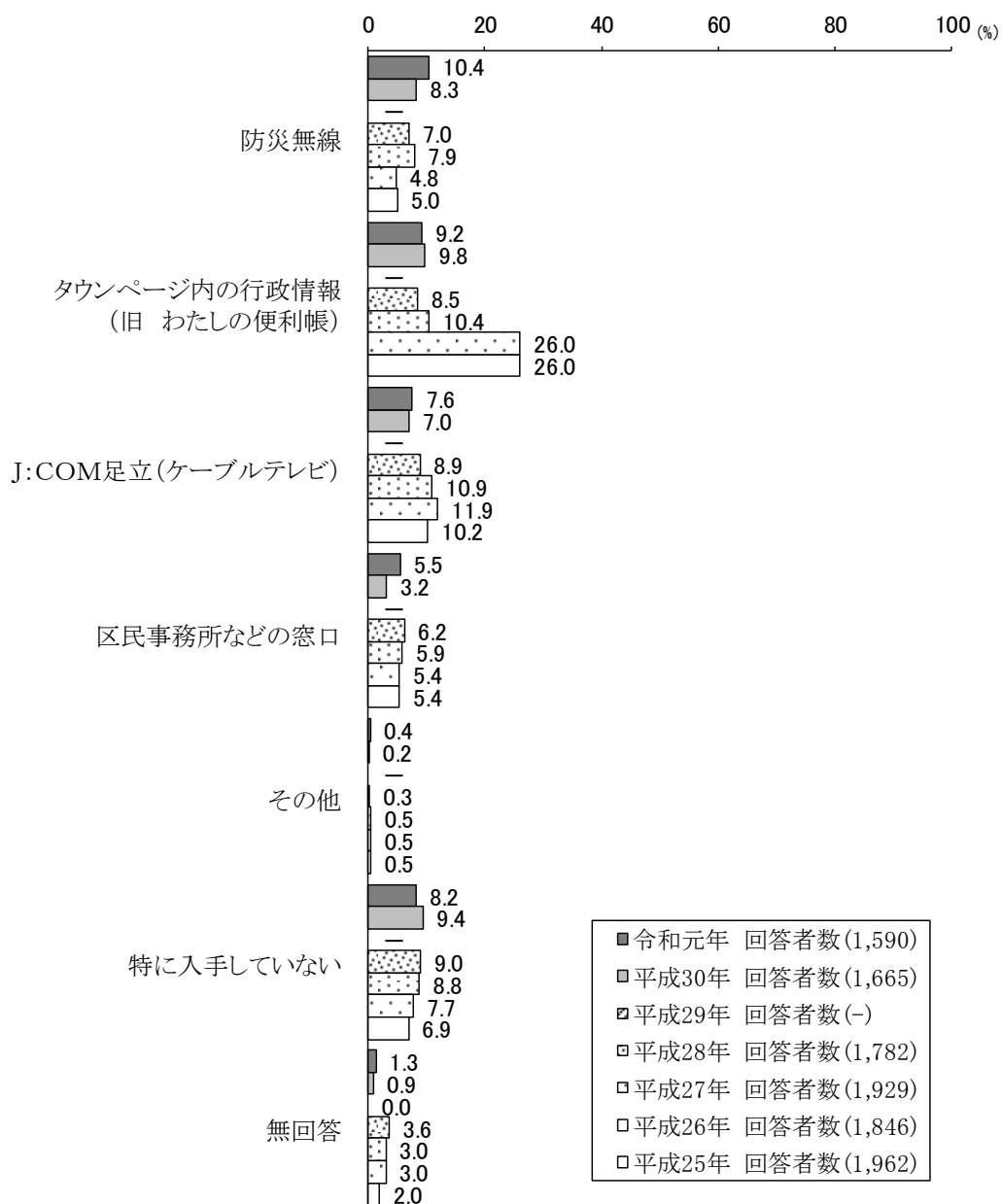


図4-1-1-② 経年比較／区の情報入手手段



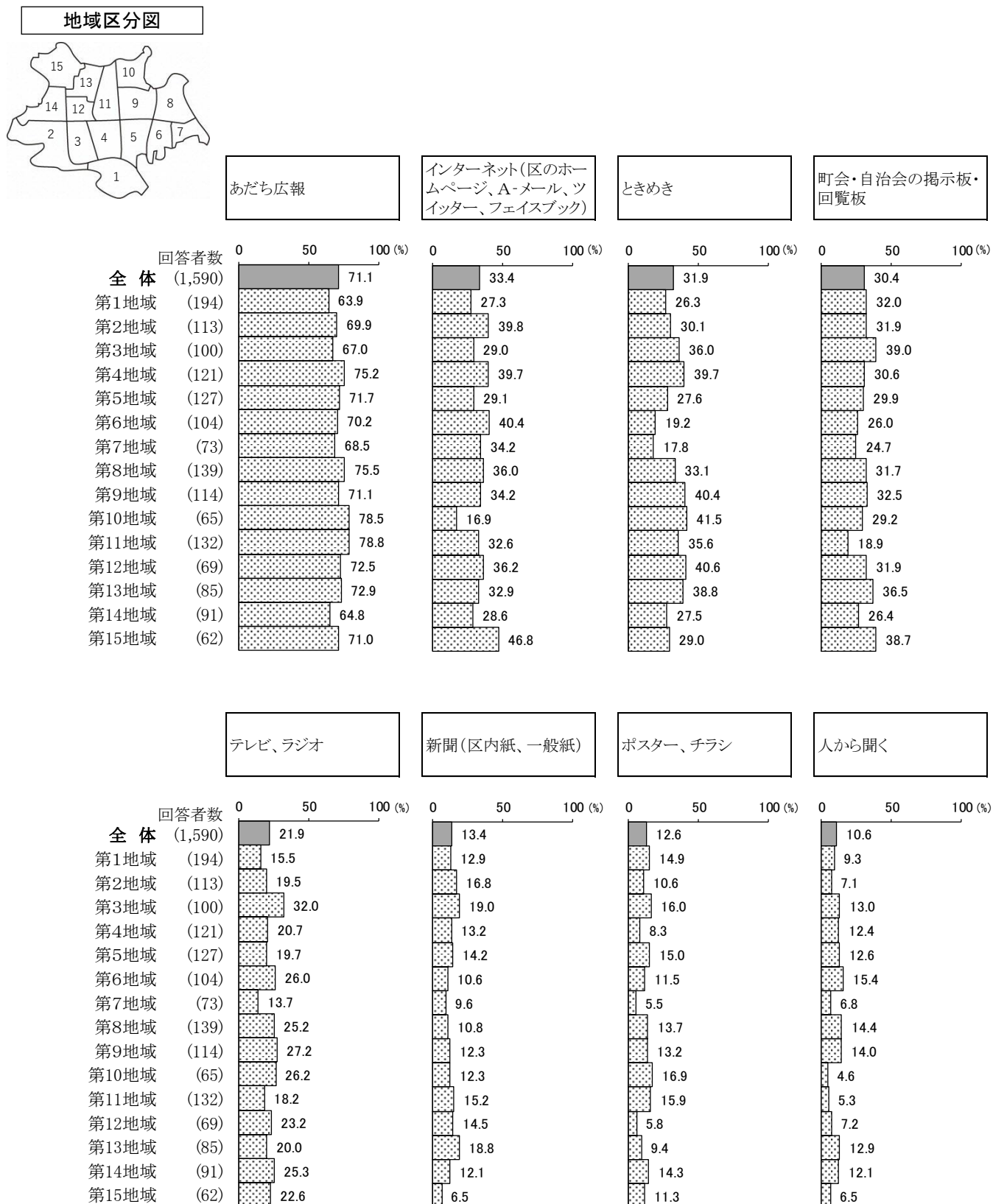
※ 本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。

足立区に関する情報の入手媒体としては、「あだち広報」が71.1%で最も高く、以下「インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）」(33.4%)、「ときめき」(31.9%)「町会・自治会掲示板・回覧板」(30.4%)の順となっている。

経年でみると、「あだち広報」は平成27年調査以降はほぼ横ばいで、今回3位の「ときめき」と4位の「町会・自治会掲示板・回覧板」がともに平成26年以降漸減・横ばい傾向にある中で、「インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）」は平成25年の24.2%から各年漸増傾向にあり、今回は前回より2.0ポイント増加の33.4%となって、「あだち広報」に次ぐ2位となっている。

地域別でみると、「あだち広報」は第10地域と第11地域でともに8割弱で、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」は第15地域で5割弱で、「町会・自治会の掲示板・回覧板」は第3地域と第15地域でともに4割弱で、それぞれ高くなっている。

図4-1-2 地域別／区の情報入手手段／上位8項目



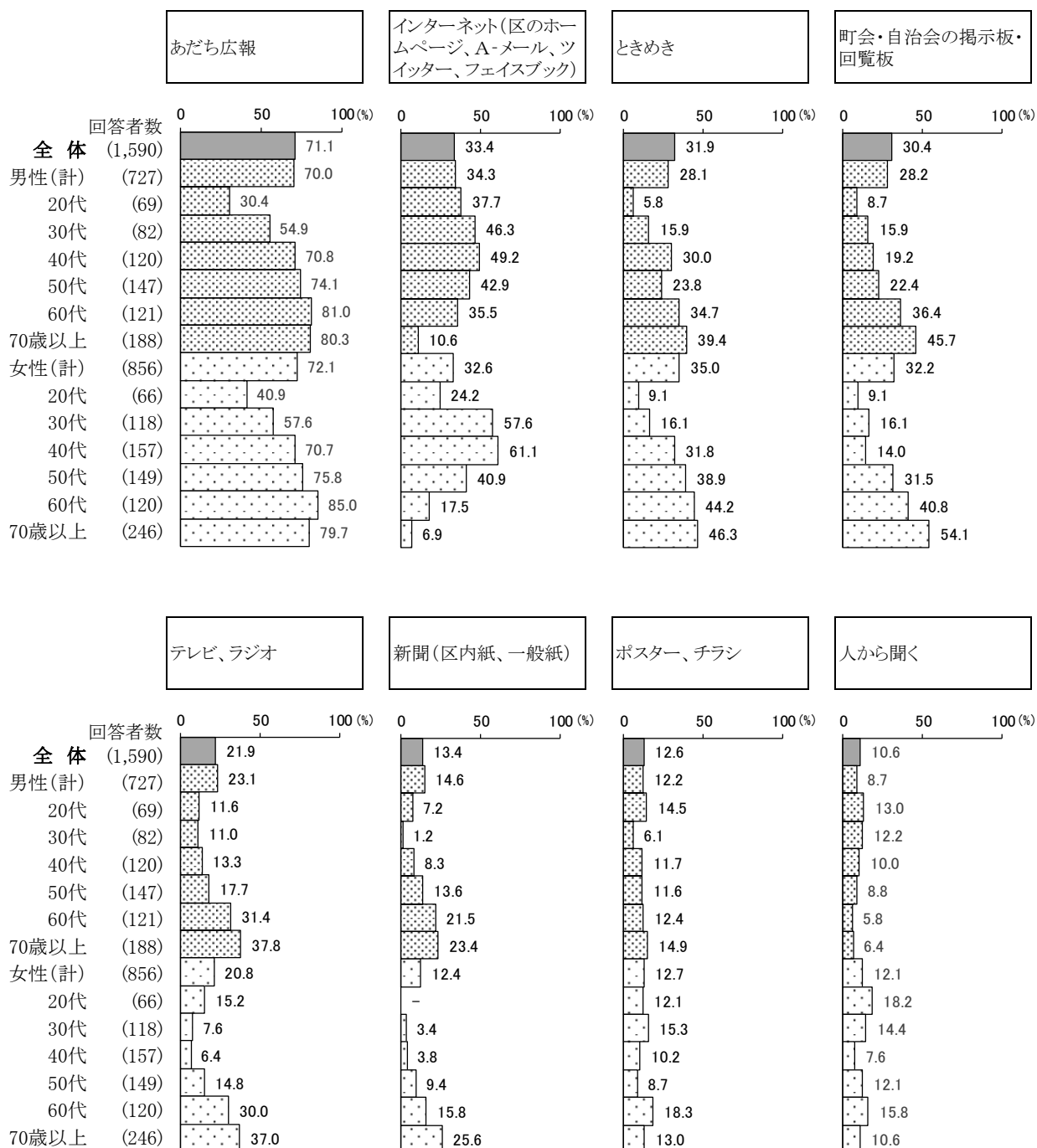
### 第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別で見ると、「ときめき」と「町会・自治体の掲示板・回覧板」で女性の方が5ポイント前後高いのを除くと、大きな男女差はみられない。

性・年代別で見ると、男性では、60代と70歳以上の両層で「あだち広報」「ときめき」「町会・自治体の掲示板・回覧板」のいずれもが他の年代層より高いが、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」は40代の49.2%を筆頭に30代から50代の3年代層とともに4割台と高くなっている。

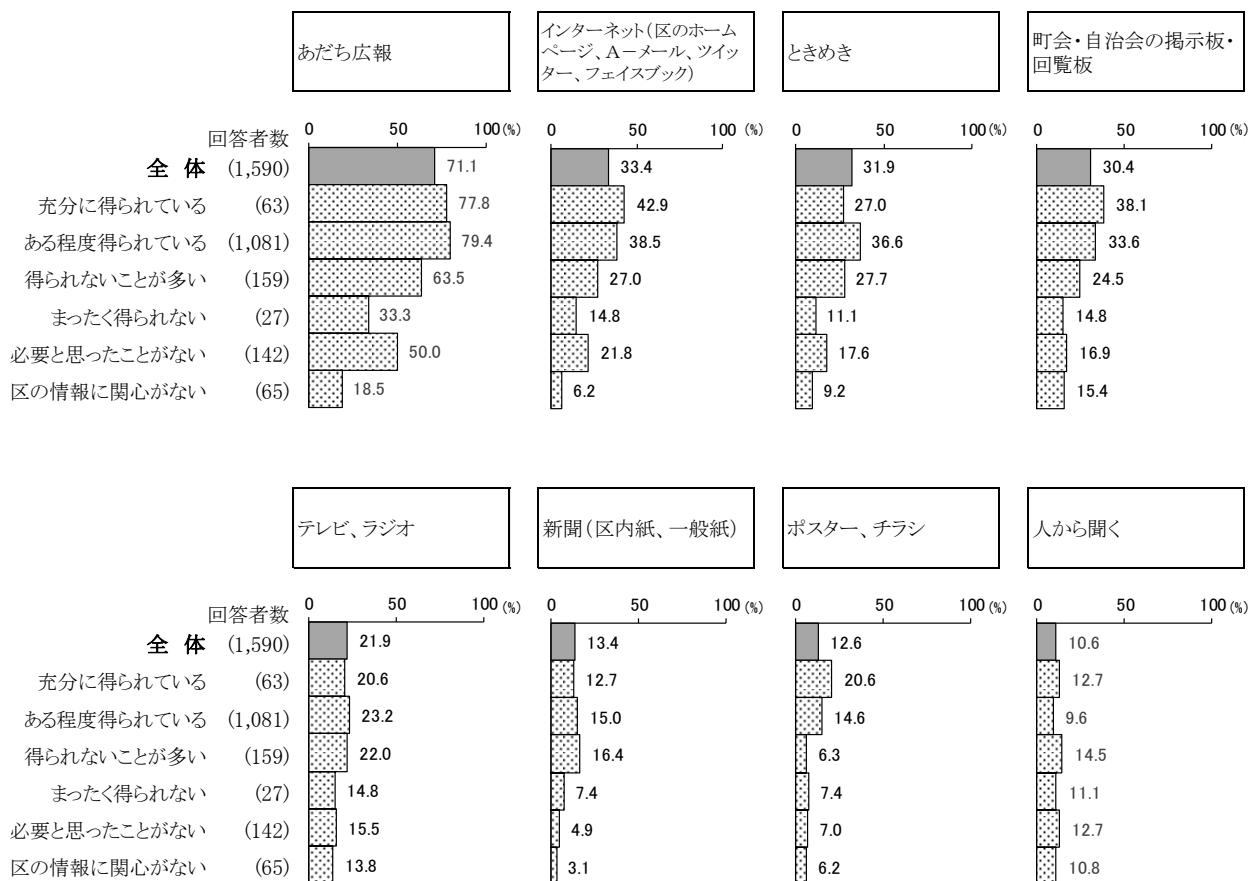
女性の場合、「あだち広報」「ときめき」「町会・自治体の掲示板・回覧板」はそれぞれ加齢とともに高まる傾向を示している。一方、「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」は30代と40代の両層で6割前後ととくに高くなっている。

図4-1-3 性別、性・年代別／区の情報入手手段／上位8項目



必要な時に必要とする区の情報入手状況別にみると、上位の「あだち広報」「インターネット（区のホームページ、Aメール、ツイッター、フェイスブック）」「ときめき」「町会・自治会の掲示板・回覧板」では、情報が得られている層ほどそれぞれの割合も高まる傾向を示している。

図4-1-4 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／区の情報入手手段／上位8項目



(2) 必要とする区の情報

■ “健康や福祉”と“災害や気象”がともに6割前後で上位

問15 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか

(○はあてはまるものすべて)。

図4-2-1-① 経年比較/必要とする区の情報

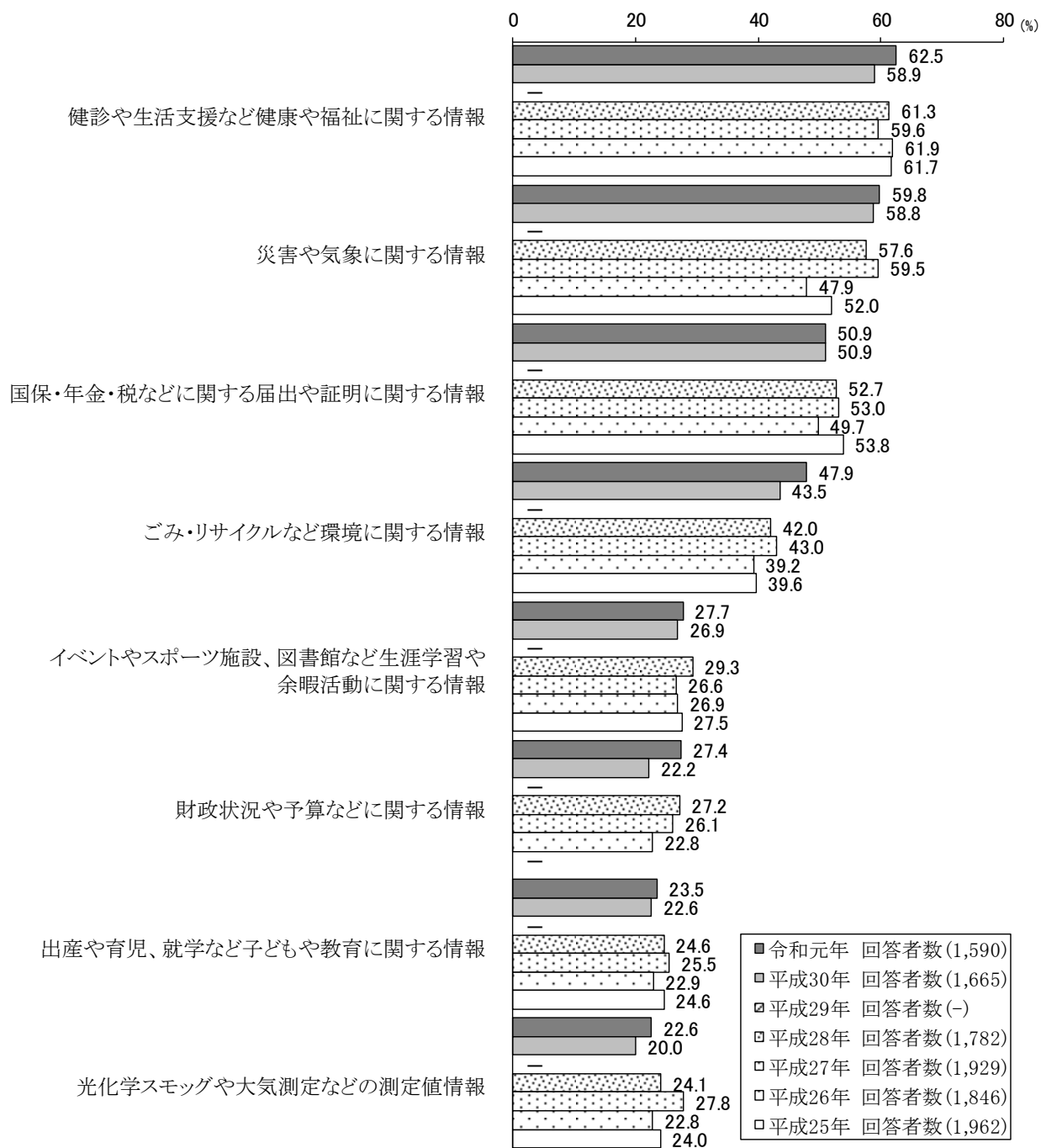
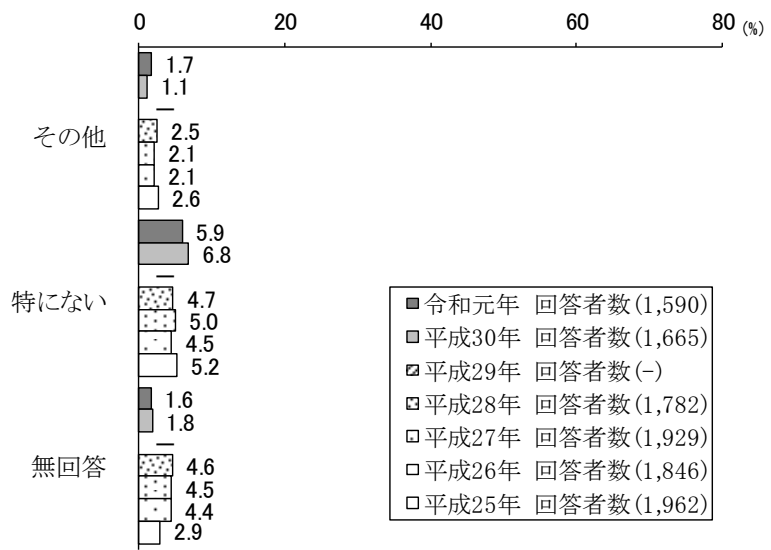




図4-2-1-② 経年比較／必要とする区の情報



※ 本設問は、平成25年度以降聴取しているが、平成29年度では聴取していない。

※ 「財政状況や予算などに関する情報」は、平成26年度新設。

必要とする区の情報としては、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が62.5%で最も高く、「災害や気象に関する情報」(59.8%)がほぼ6割で続き次点に入る。以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(50.9%)、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(47.9%)の順で続いている。

経年でみると、上位項目について、順位、比率に大きな変動はみられないが、第1位の「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」と第4位の「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」の2項目は、前回よりそれぞれ4ポイント前後比率が増加している。

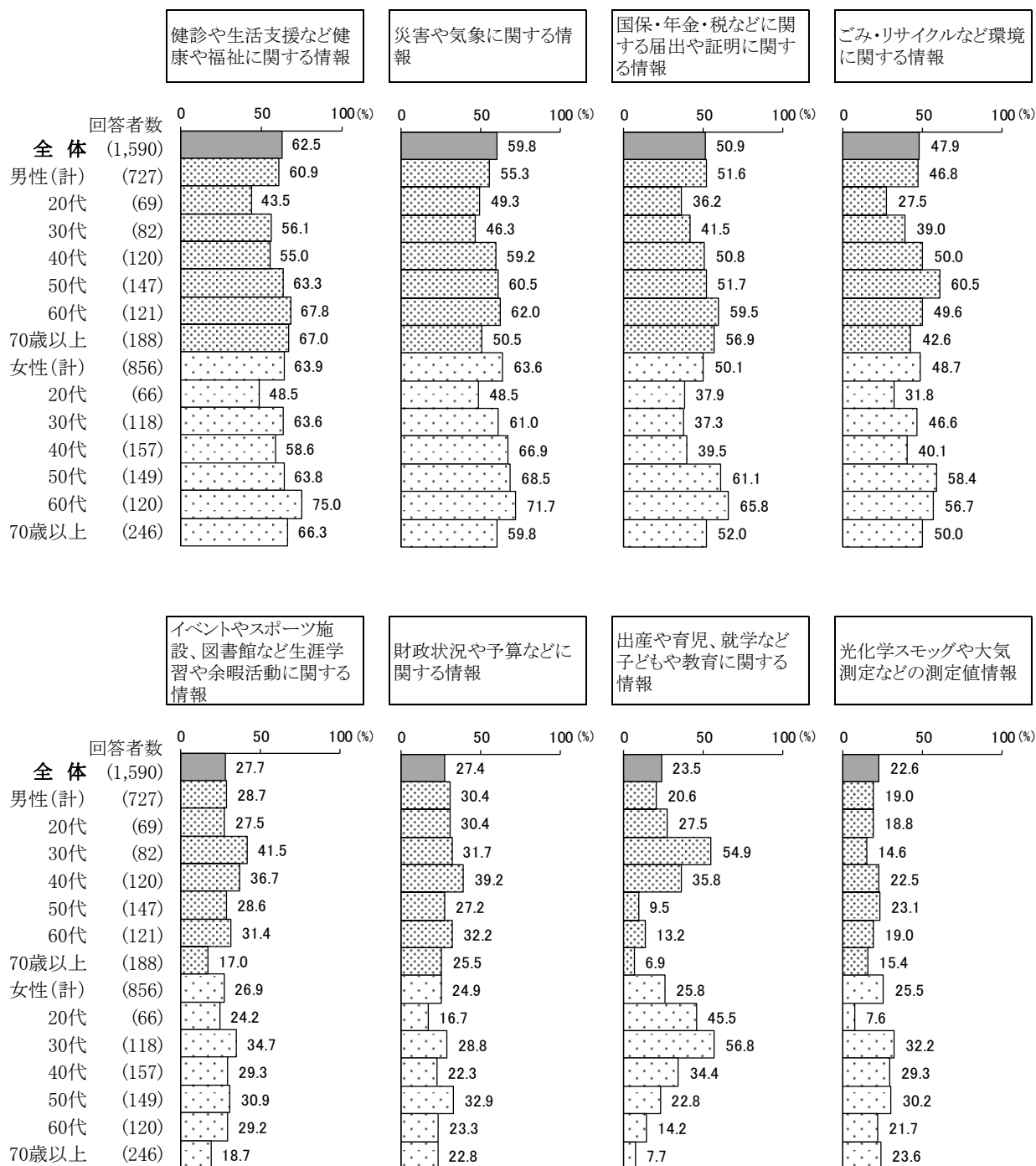
### 第3章 調査結果の分析 〈 区の情報発信のあり方 〉

性別でみると、「災害や気象に関する情報」は男性（55.3%）より女性（63.6%）で高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は60代と70歳以上でともに7割弱と、「災害や気象に関する情報」は40代から60代の3年代層で6割前後と、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」は50代で6割強と、それぞれ他の年代より高くなっている。

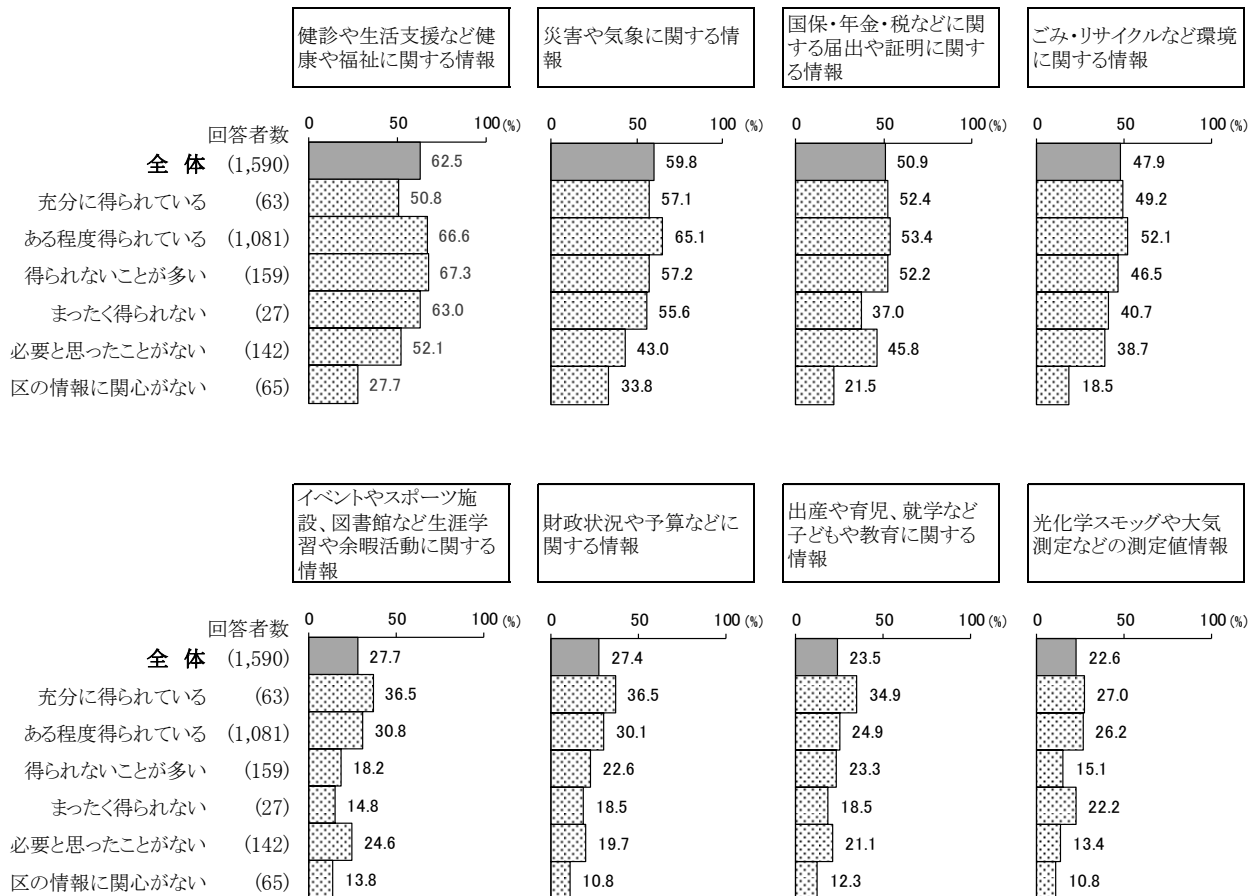
女性では、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」「災害や気象に関する情報」「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」の上位3項目はいずれも60代が最も高くなっている。なお、「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」は男女ともに30代で5割台半ばから6割弱に達して、ともに他の年代に比べ高くなっている。

図4-2-2 性別、性・年代別／必要とする区の情報／上位8項目



必要な時に必要とする区の情報入手状況別でみると、各項目に亘って、〈区の情報に関心がない〉という層で比率が低くなっているのを除くと、〈十分に得られている〉から〈まったく得られない〉の4層で大きな比率の差はみられず、区の情報入手程度による情報の必要性に大きな違いはみられない結果となっている。

図4-2-3 必要な時に必要とする区の情報入手状況別／必要とする区の情報／上位8項目

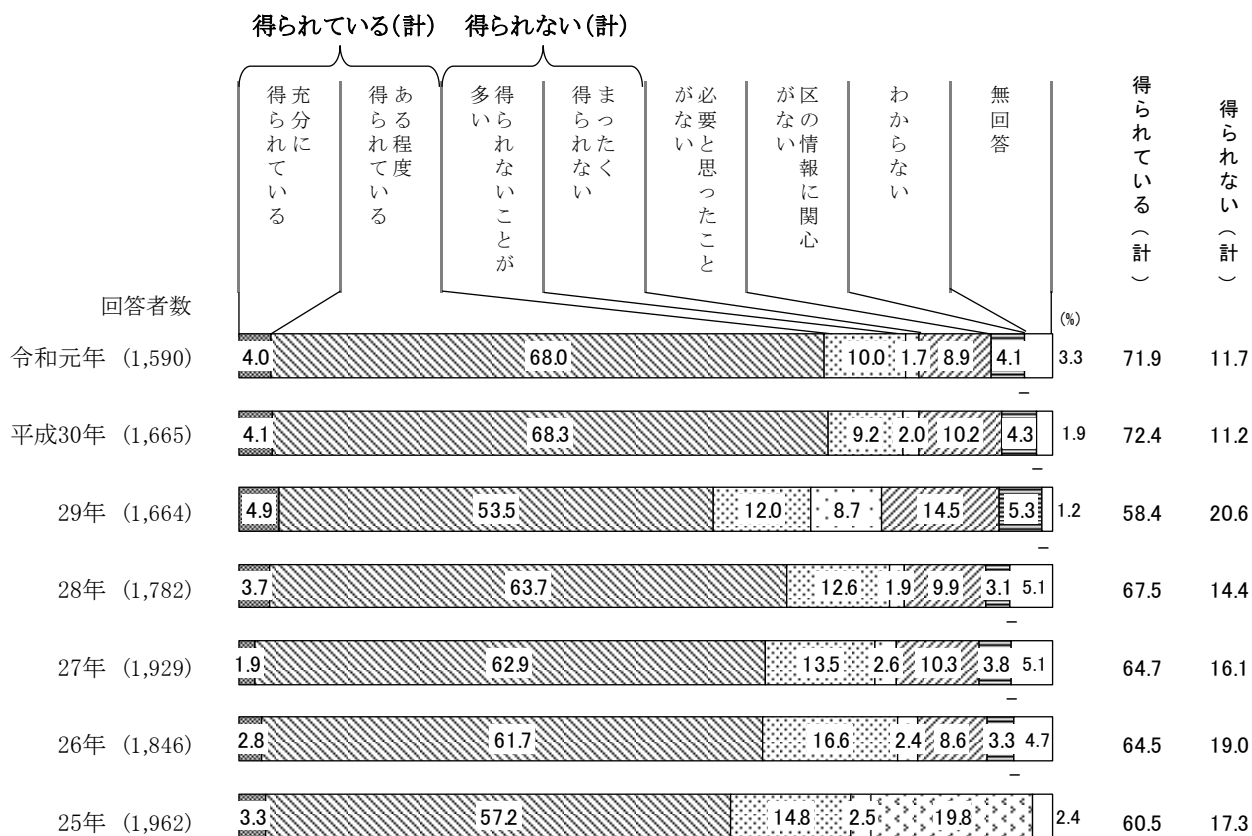


(3) 必要な時に必要とする区の情報入手状況

■ 必要なときに【得られている】は、前回同様7割強

問16 あなたは、必要な時に必要とする区の情報を得られていますか（○は1つだけ）。

図4-3-1 経年比較／必要な時に必要とする区の情報入手状況



- ※ 「必要と思ったことがない」「区の情報に関心がない」は、平成26年度新設。
- ※ 「わからない」は、平成26年度から削除。
- ※ 平成29年度調査では、本設問の前の問である〈区の情報入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

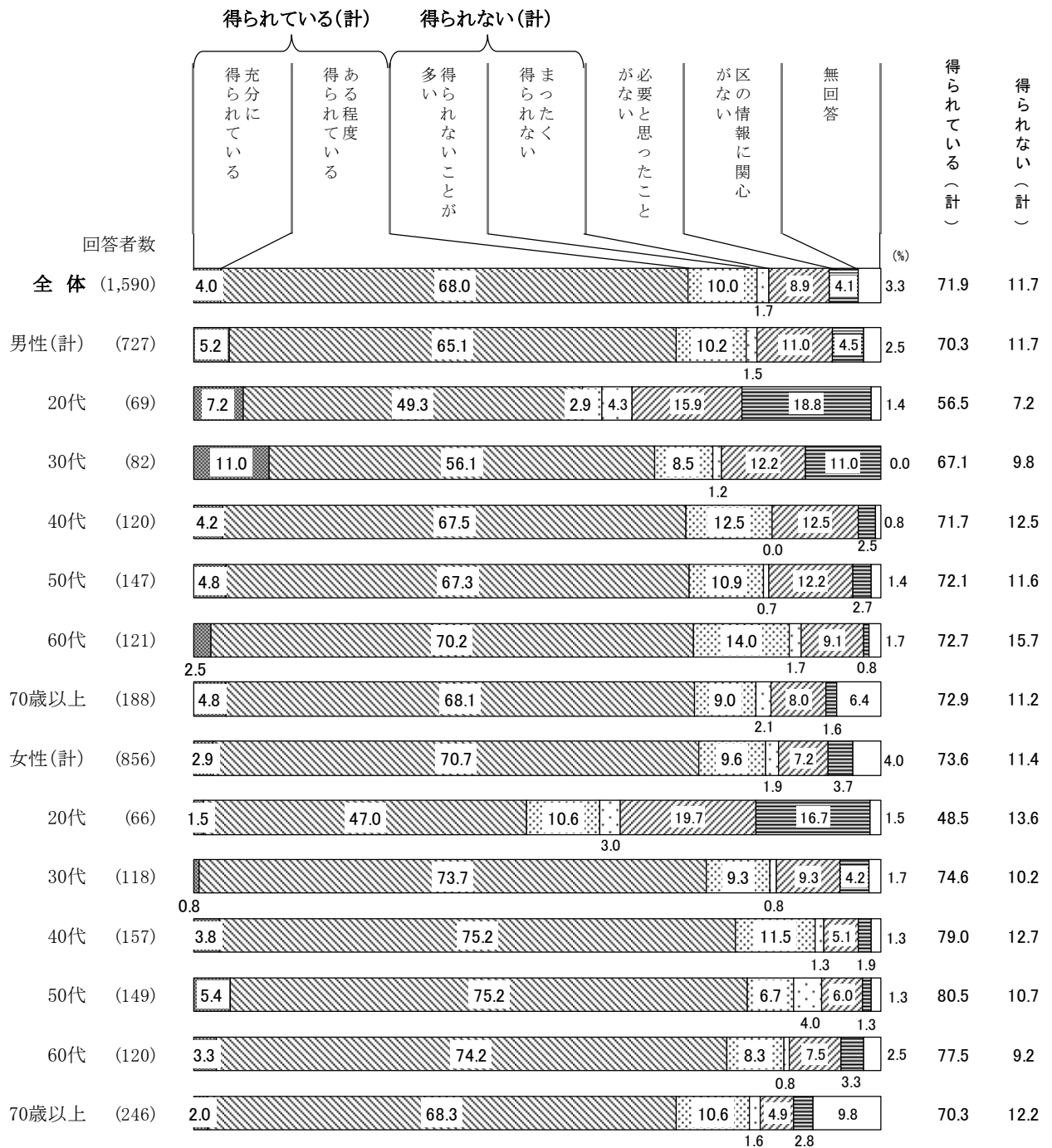
必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が4.0%で、これに「ある程度得られている」の68.0%を合わせた【得られている】は71.9%となっている。一方、「得られないことが多い」は10.0%、「まったく得られない」は1.7%となっている。

経年でみると、平成29年を除き平成25年から前回の平成30年まで漸増傾向を続けて、前回7割を超えた【得られている】は、今回71.9%でほぼ前回（72.4%）と同レベルとなっている。

性別でみると、【得られている】は男性70.3%、女性73.6%となっている。

性・年代別でみると、【得られている】は、男性では40代以上の各年代で7割強で並んで高めとなっており、女性では40代から60代の3年代層でそれぞれ8割前後と他の年代より高くなっている。

図4-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況

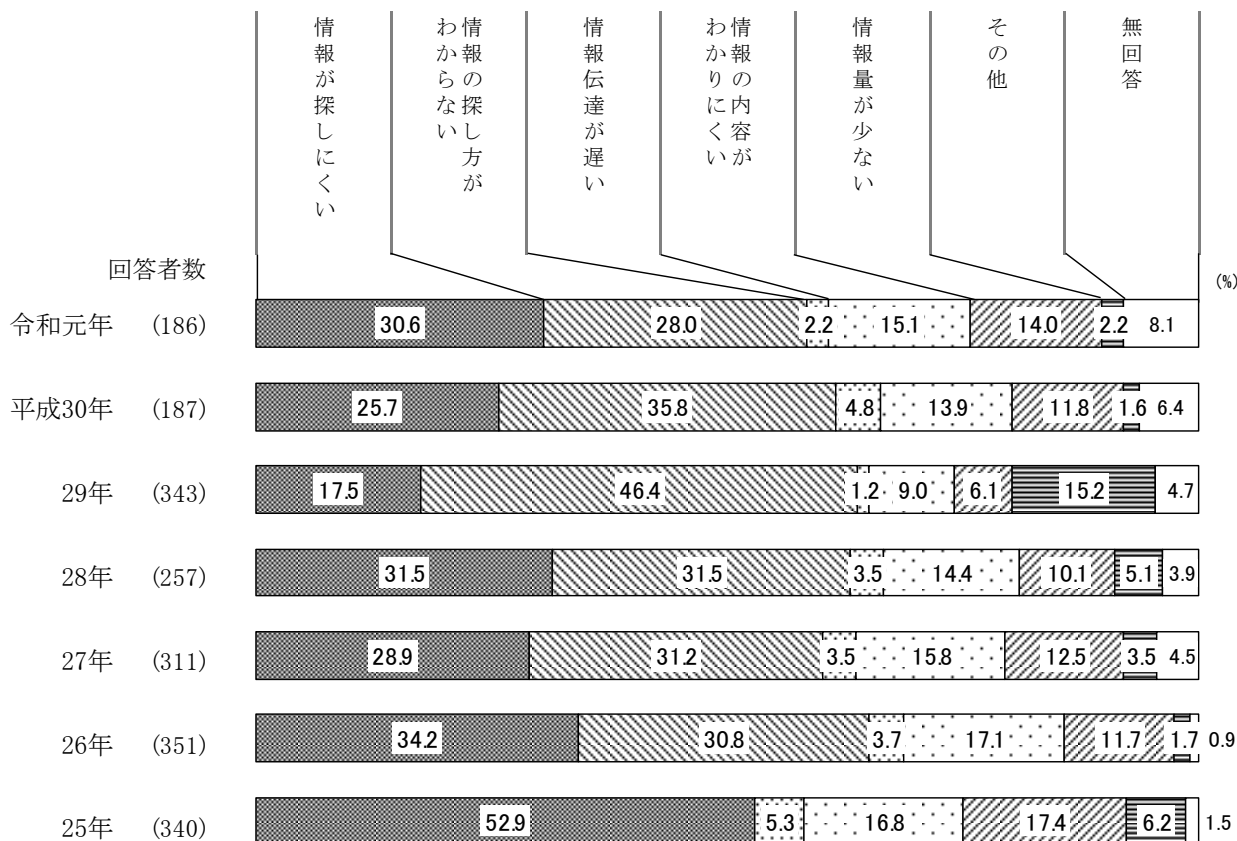


(4) 区の情報 that 得られない理由

■ “情報が探しにくい” が、前回より増えて3割強で最多に

問16で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に  
問16-1 主にどのような理由からですか (○は1つだけ)。

図4-4-1 経年比較/区の情報 that 得られない理由



※ 「情報の探し方がわからない」は、平成26年度新設。

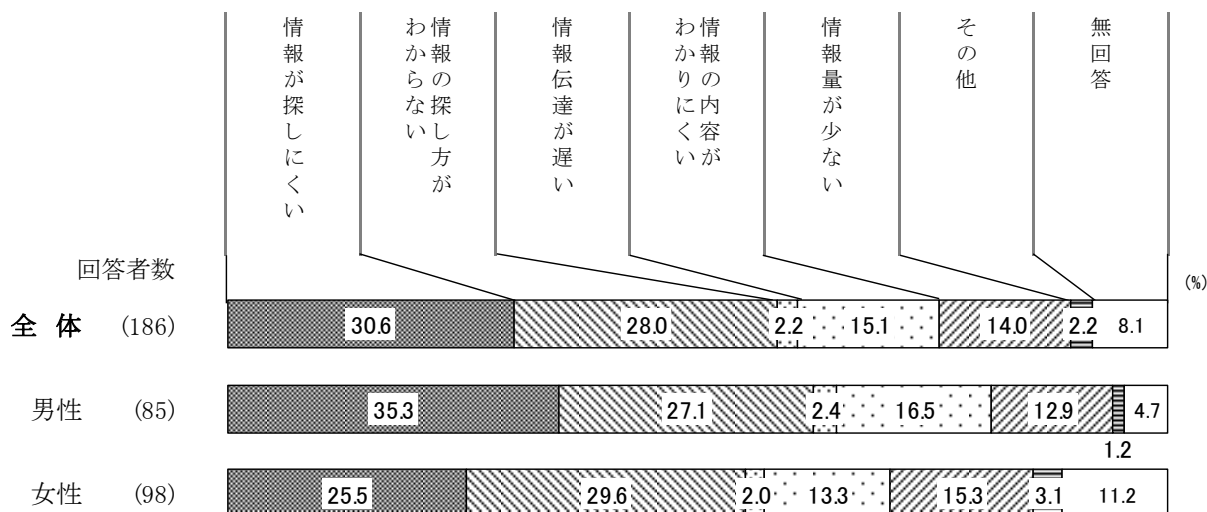
※ 平成29年度調査では、本設問の前の問である〈区の情報 of 入手手段〉および〈必要とする区の情報〉を聴取していないため、経年比較では平成29年度の結果との比較は行わない。

区の情報 that 【得られない】という人に、その理由を聴いたところ、「情報が探しにくい」が30.6%と最も多く、次いで「情報の探し方がわからない」が28.0%となっている。

経年でみて、前回の平成30年と今回の令和元年の結果を比較すると、平成30年には3割台半ばを占めていた「情報の探し方がわからない」は減少して今回は3割弱となり、一方、平成30年には2割台半ばだった「情報が探しにくい」が増加して今回は3割台に達しており、今回の調査ではこの両項目の割合が3割前後で拮抗し、平成27年や平成28年に類似した分布結果となっている。

性別で見ると、「情報が探しにくい」は男性35.3%、女性25.5%と男性の方が9.8ポイント高くなっているが、「情報の探し方がわからない」には大きな男女差はみられない。

図4-4-2 性別／区の情報が見られない理由



(5) 区の情報 that 得られない理由の詳細

問16で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に  
問16-2 問16-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報 (47名の回答)	件数
読みづらい、わかりづらいから	15
内容が少ない、薄いから	10
関心がない、見る機会が少ないから	8
発行回数が少ない、発行日等がわからないから	6
その他	10

区ホームページ (57名の回答)	件数
探しにくい、わかりづらいから	27
パソコンを使わない、使えないから	9
見ない、あまり見ないから	8
情報が不足しているから	6
インターネットを使用できる環境がないから、インターネットは使わない	3
その他	4

その他 (16名の回答)	件数
情報をみつけられない、入手方法がわからないから	5
放送が聞こえないから	4
インターネットで探せない、探しにくいから	3
その他	4



## 5 健康

- 
- (1) 区のキャッチフレーズの認知状況
  - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
  - (3) 野菜から食べ始めることの実践状況
  - (4) 1日野菜350g以上の摂取
  - (5) 体調や習慣
  - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
  - (7) 自身の健康状態について
  - (8) がん検診制度の感想
  - (9) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況
-



## 5 健康

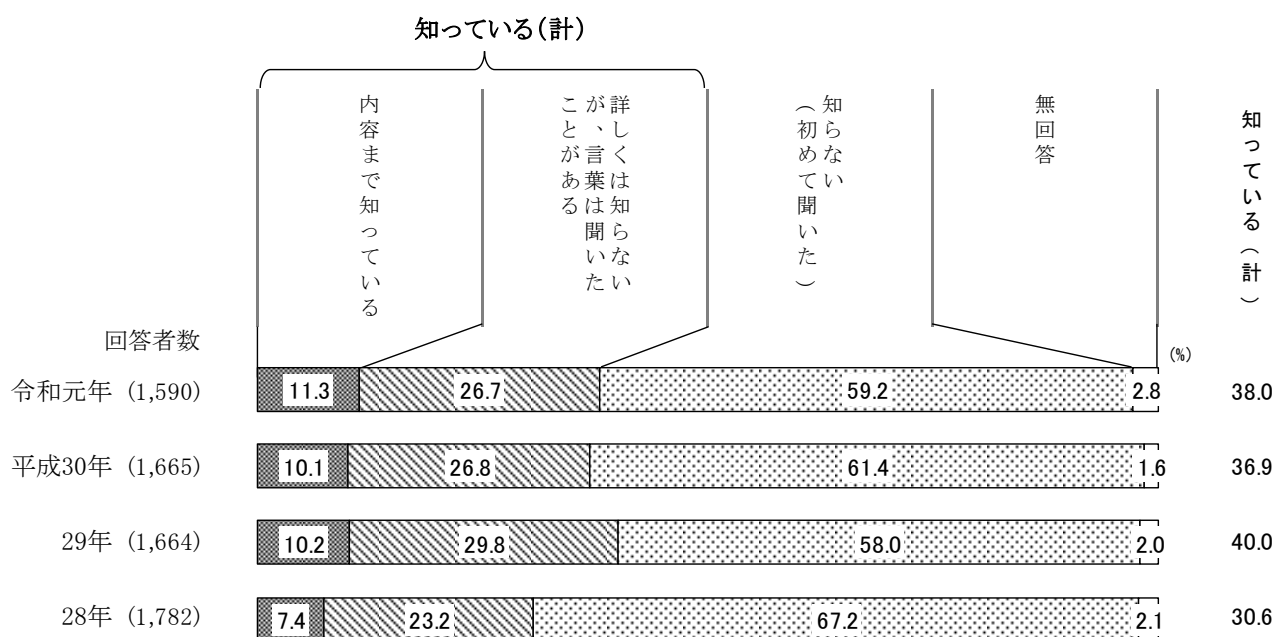
### (1) 区のキャッチフレーズの認知状況

#### ■ 【知っている】は4割弱

問17 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

図5-1-1 経年比較／区のキャッチフレーズの認知状況



『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」は11.3%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」(26.7%)を合わせた【知っている】は38.0%となっている。一方、「知らない」は59.2%となっている。

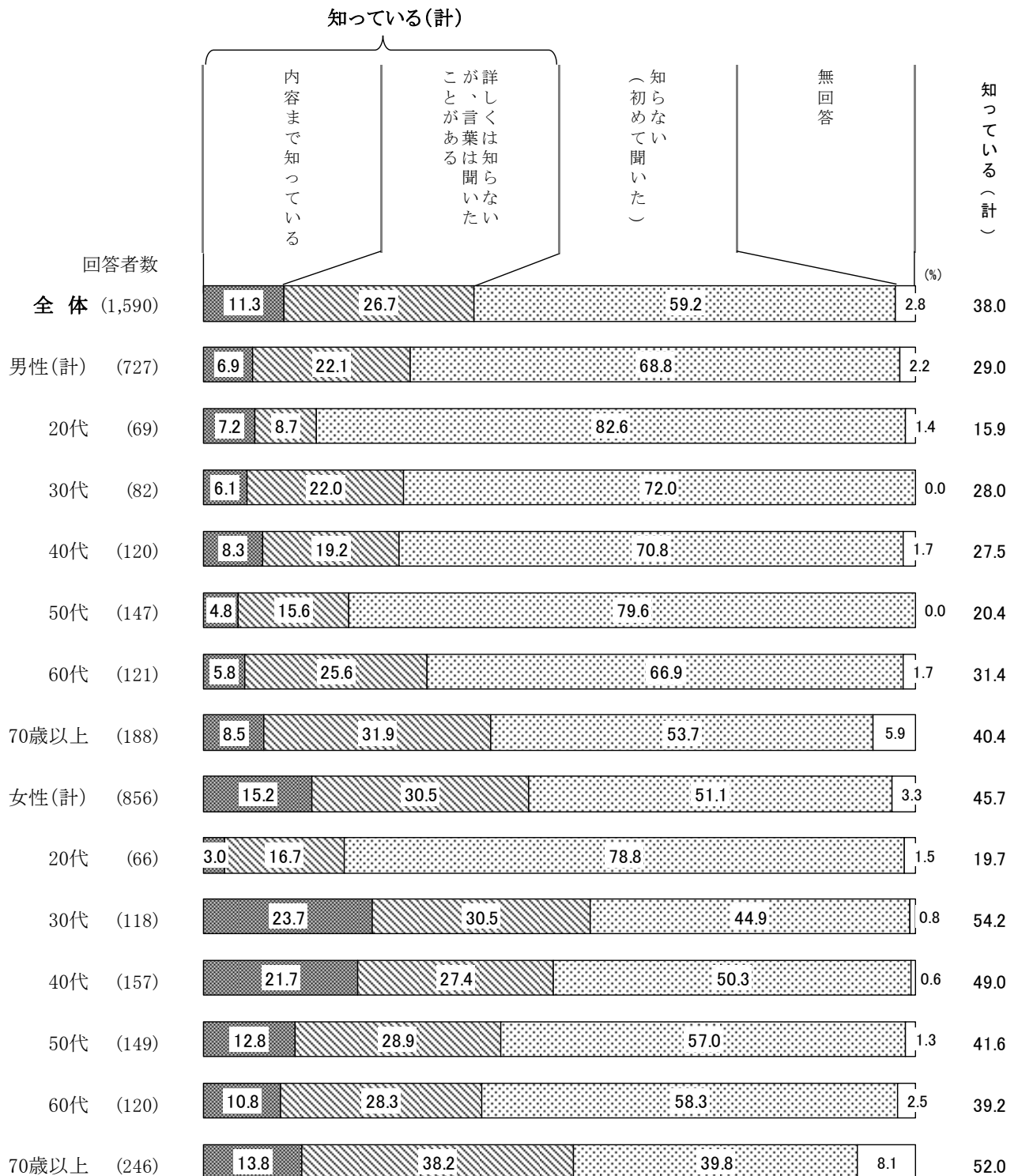
経年でみると、【知っている】は、平成30年の36.9%から今回38.0%へと1.1ポイント増加しているが、これまで最高の平成29年の40.0%には届いていない。

第3章 調査結果の分析〈健康〉

性別でみると、【知っている】は女性で45.7%と、男性（29.0%）を大きく上回っている。

性・年代別でみると、男性では、【知っている】は70歳以上で4割を超えて高く、女性では、30代と70歳以上で【知っている】が5割を超えて高くなっている。一方、20代での【知っている】は男女ともに2割を下回って低くなっている。

図5-1-2 性別、性・年代別／区のキャッチフレーズの認知状況



(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

■ 「失明」と「足の壊疽(えそ)」がともに6割台半ばで上位

問18 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか(○はあてはまるものすべて)。

図5-2-1-① 経年比較/糖尿病の進行による病気や障がいの認識

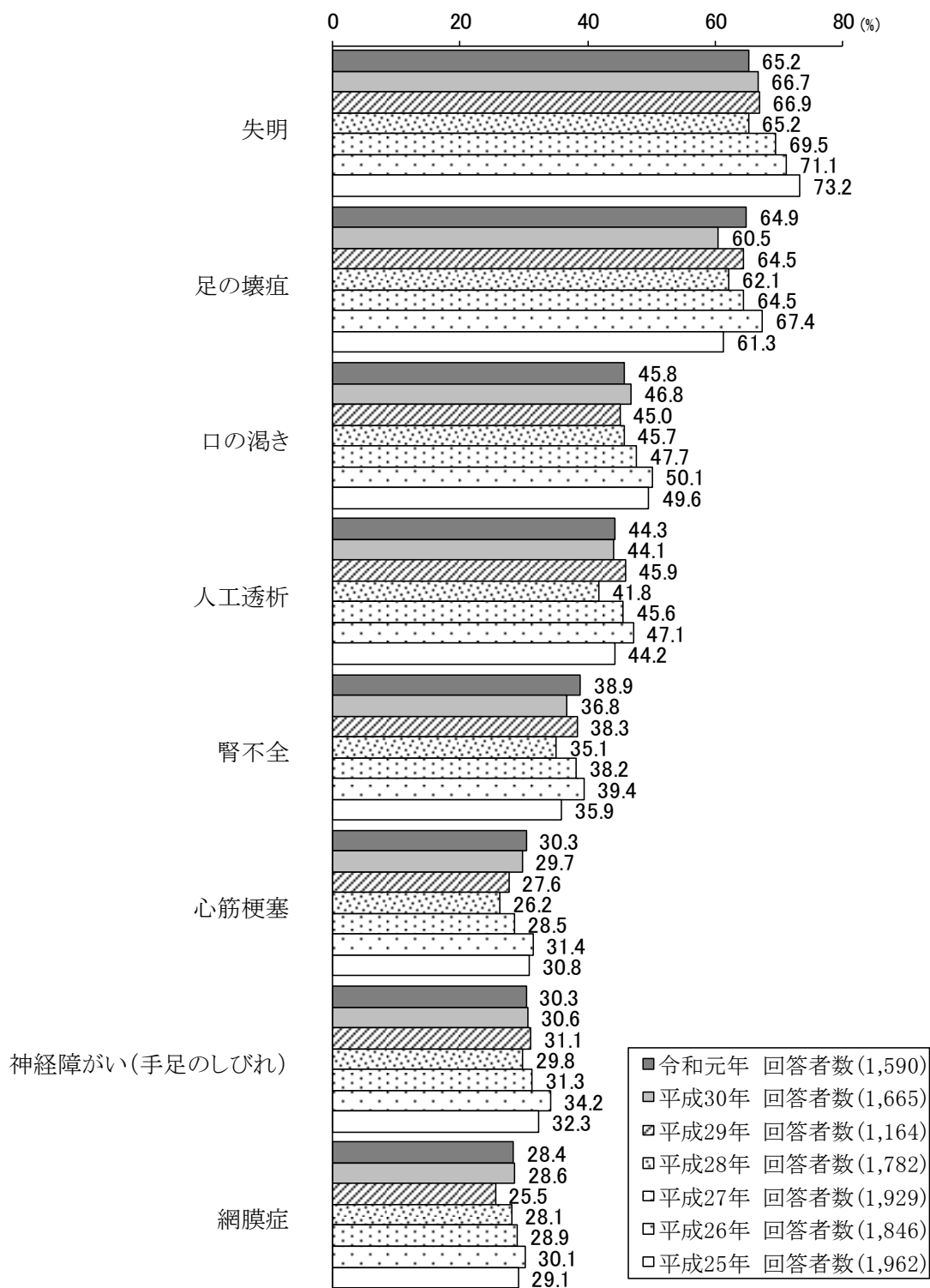
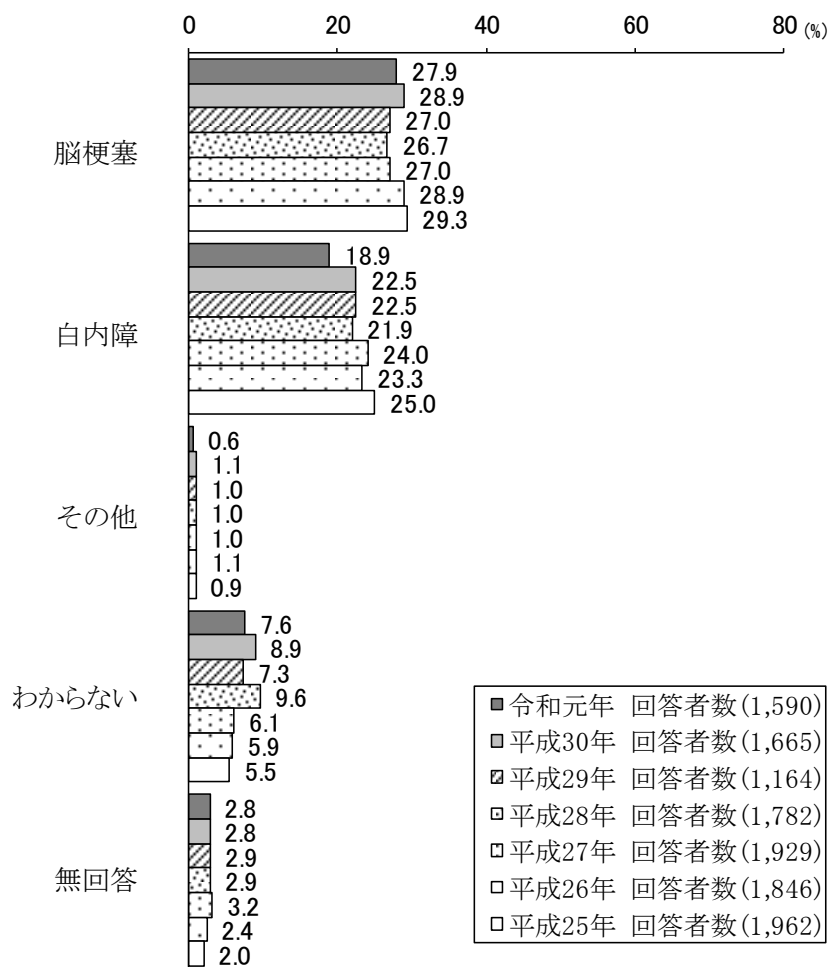


図5-2-1-② 経年比較／糖尿病の進行による病気や障がいの認識



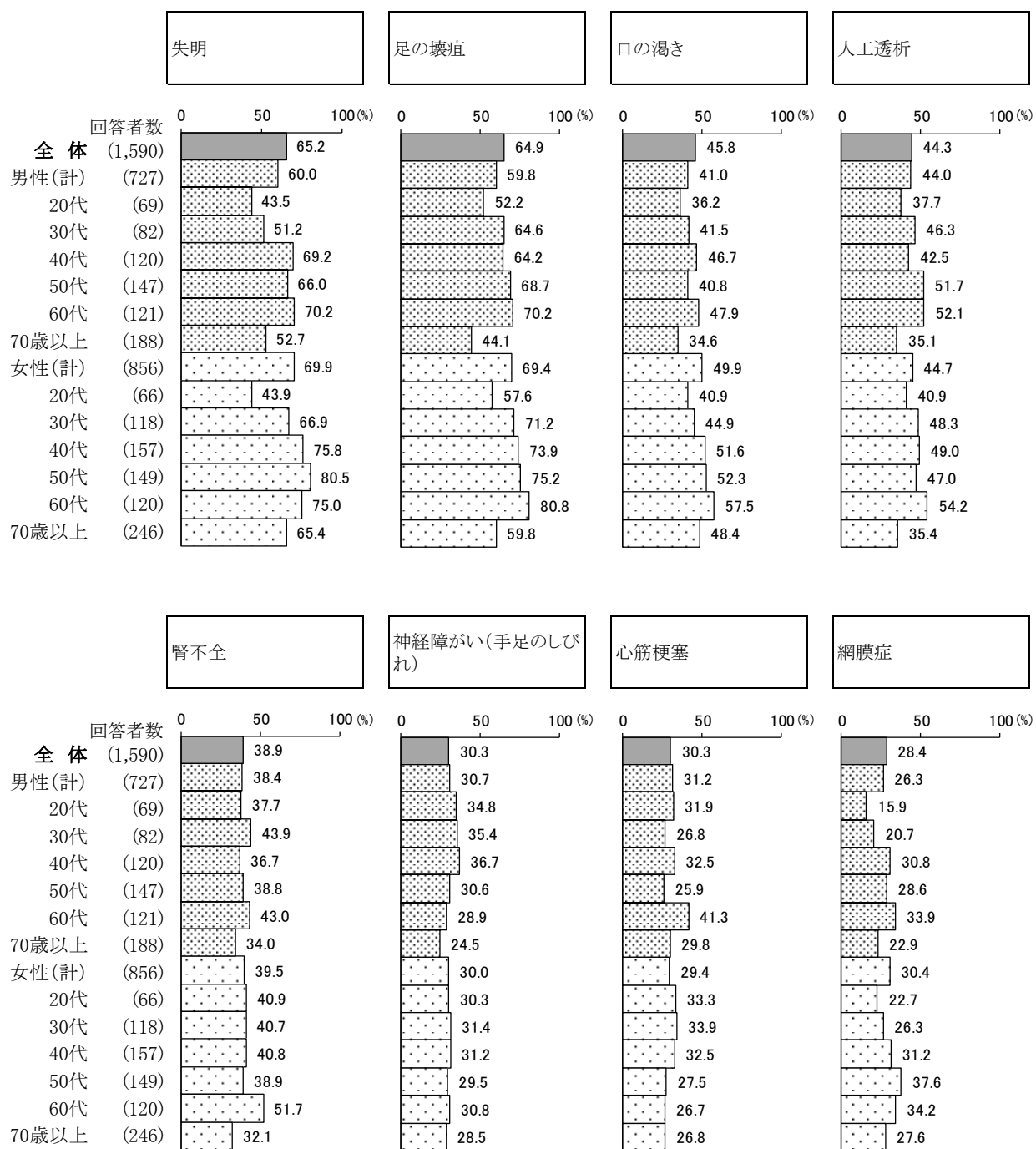
糖尿病が進行すると現れると思う病気や障がいとしては、「失明」が65.2%で最も高いが、僅差で「足の壊疽（えそ）」（64.9%）が続き、以下、「口の渇き」（45.8%）、「人工透析」（44.3%）、「腎不全」（38.9%）の順となっている。

経年でみると、数値に多少の増減はあるものの、上位項目の順位に前回からの変動はみられない。

性別でみると、上位3項目の「失明」、「足の壊疽（えそ）」、「口の渇き」はいずれも男性より女性の方が7～10ポイント程度上回っており、性差が大きくなっている。

性・年代別でみると、「失明」、「足の壊疽（えそ）」、「口の渇き」などの上位項目は、男女ともに、40代～60代の3年代層で他の年代に比べて高くなっている。

図5-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目



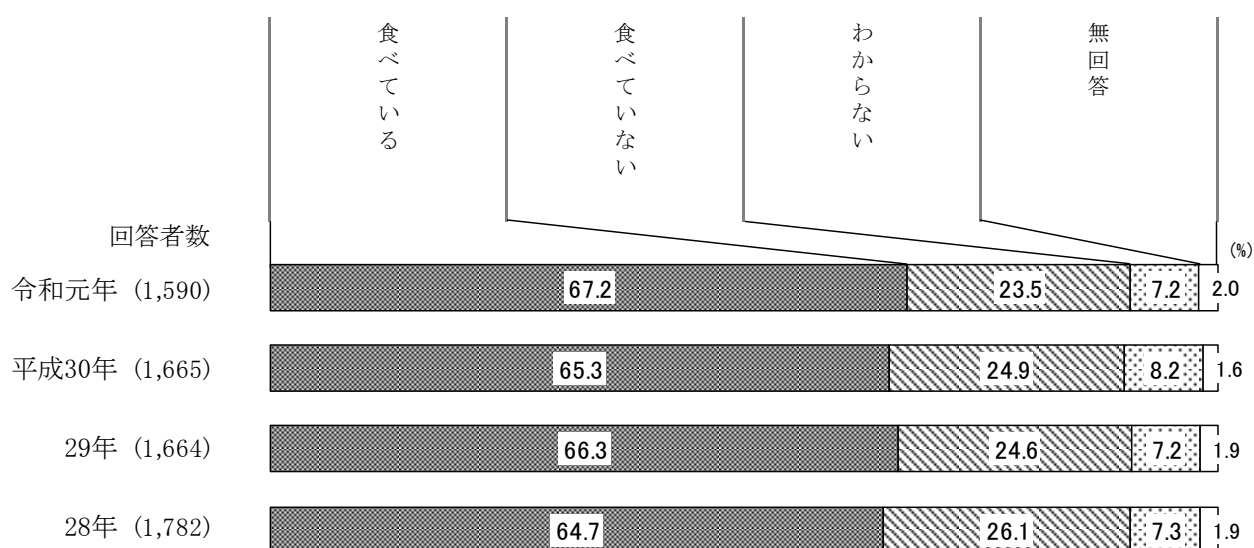
(3) 野菜から食べ始めることの実践状況

■ 「食べている」が前回より微増して7割弱に

問19 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

図5-3-1 経年比較／野菜から食べ始めることの実践状況



野菜から「食べている」は67.2%を占めている。一方、「食べていない」は23.5%となっている。

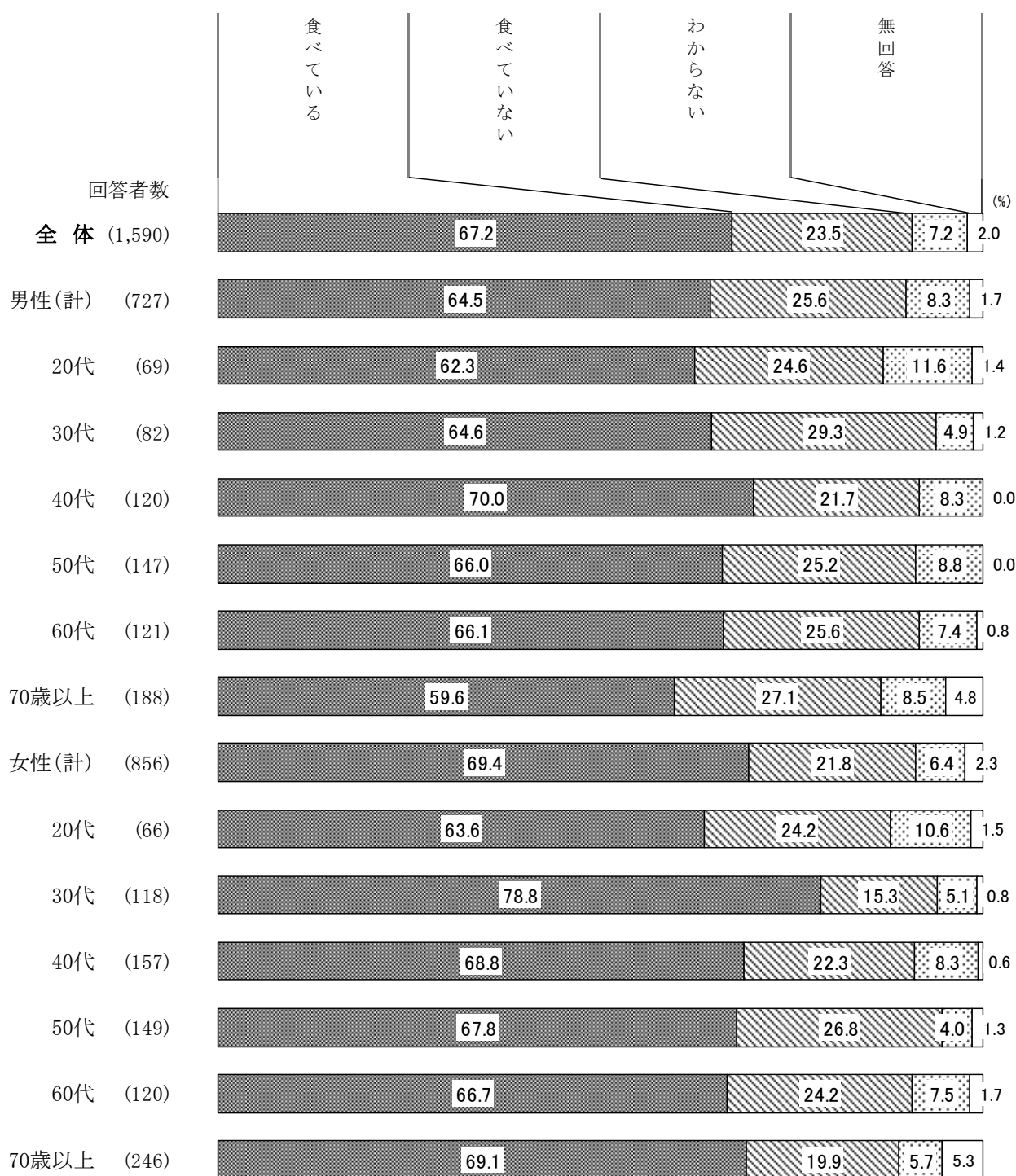
経年でみると、いずれの選択肢も比率に大きな変化はみられないが、「食べている」は前回より微増しており、逆に「食べていない」は前回より僅かに減少している。



性別でみると、女性では「食べている」が69.4%と、男性（64.5%）を上回っている。

性・年代別でみると、「食べている」は、男性では40代で70.0%と最も高く、女性では30代で78.8%と8割弱を占めて最も高くなっている。

図5-3-2 性別、性・年代別／野菜から食べ始めることの実践状況



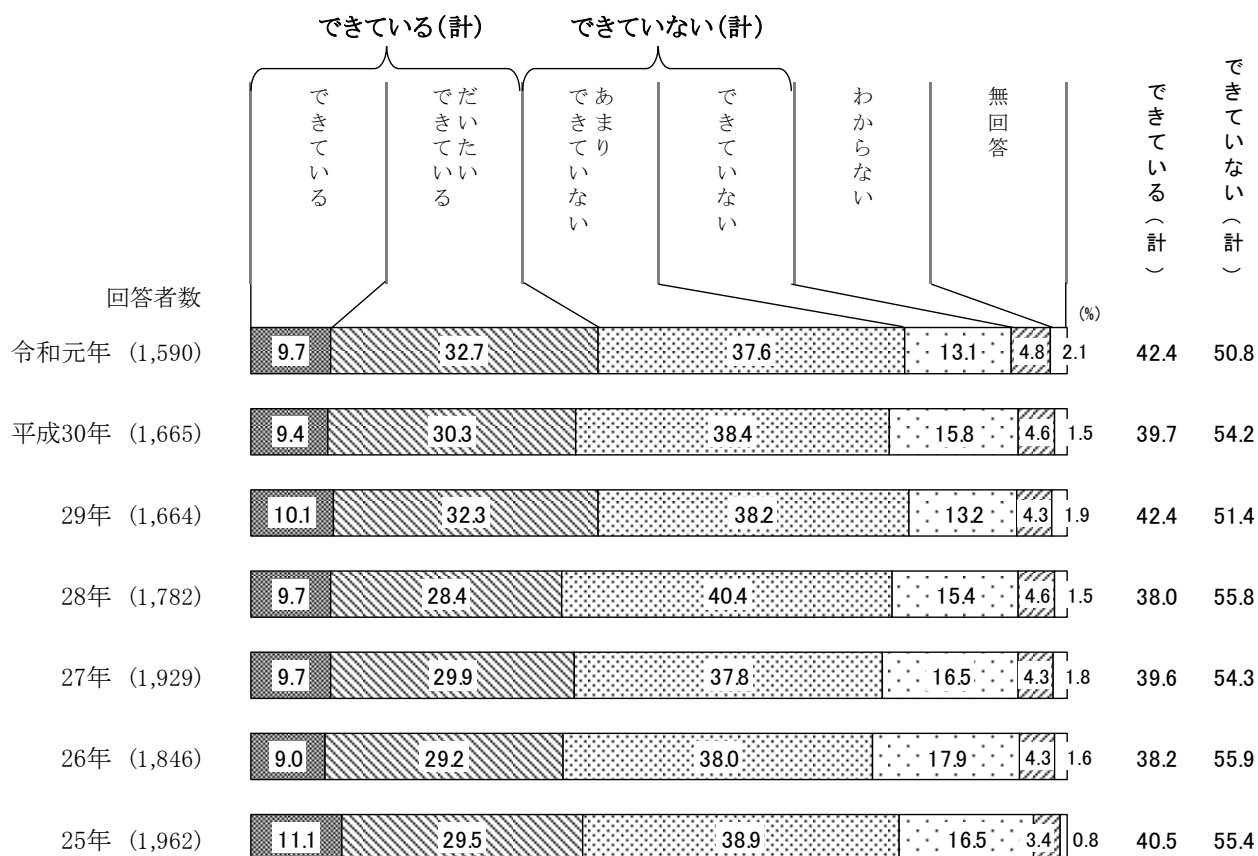
(4) 1日野菜350g以上の摂取

■ 【できている】人は4割強で、【できていない】人が5割強

問20 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

図5-4-1 経年比較／1日野菜350g以上の摂取

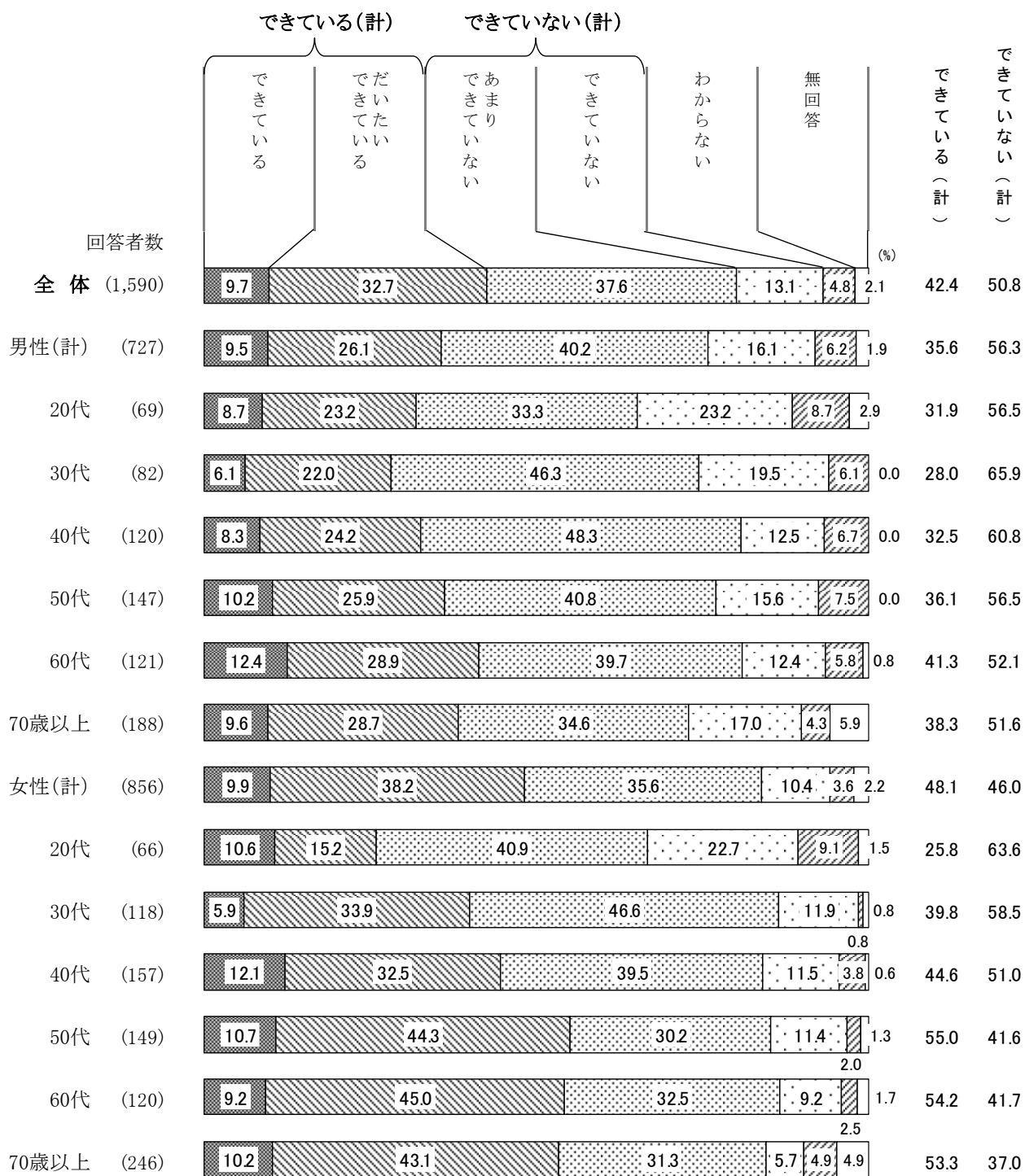


毎日350g以上の野菜の摂取については、「できている」が9.7%で、これに「だいたいできている」の32.7%を合わせた【できている】は42.4%となっている。一方、「あまりできていない」(37.6%)と「できていない」(13.1%)を合わせた【できていない】は50.8%となっている。

経年でみると、回答分布に大きな変化はみられないが、【できている】は、平成30年にやや減少したものの、今回は42.4%と前回より2.7ポイント増加し、逆に【できていない】は今回50.8%と前回より3.4ポイント減少して、平成25年以降の7年間の中で最も低くなっている。

性別で見ると、【できている】は、女性が48.1%と男性（35.6%）を大きく上回っている。  
 性・年代別で見ると、男性では、60代で【できている】が4割強と高くなっている。  
 女性では、50代、60代、70歳以上の3年代増で【できている】がそれぞれ5割強から5割台半ばを占めて、40代以下の各年代層より高くなっている。

図5-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取



(5) 体調や習慣

■ 〈身近に安心して受診できる医療機関あり〉という人は6割台半ば

問21 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください

(○はそれぞれ1つずつ)。

図5-5-1-① 経年比較/体調や習慣

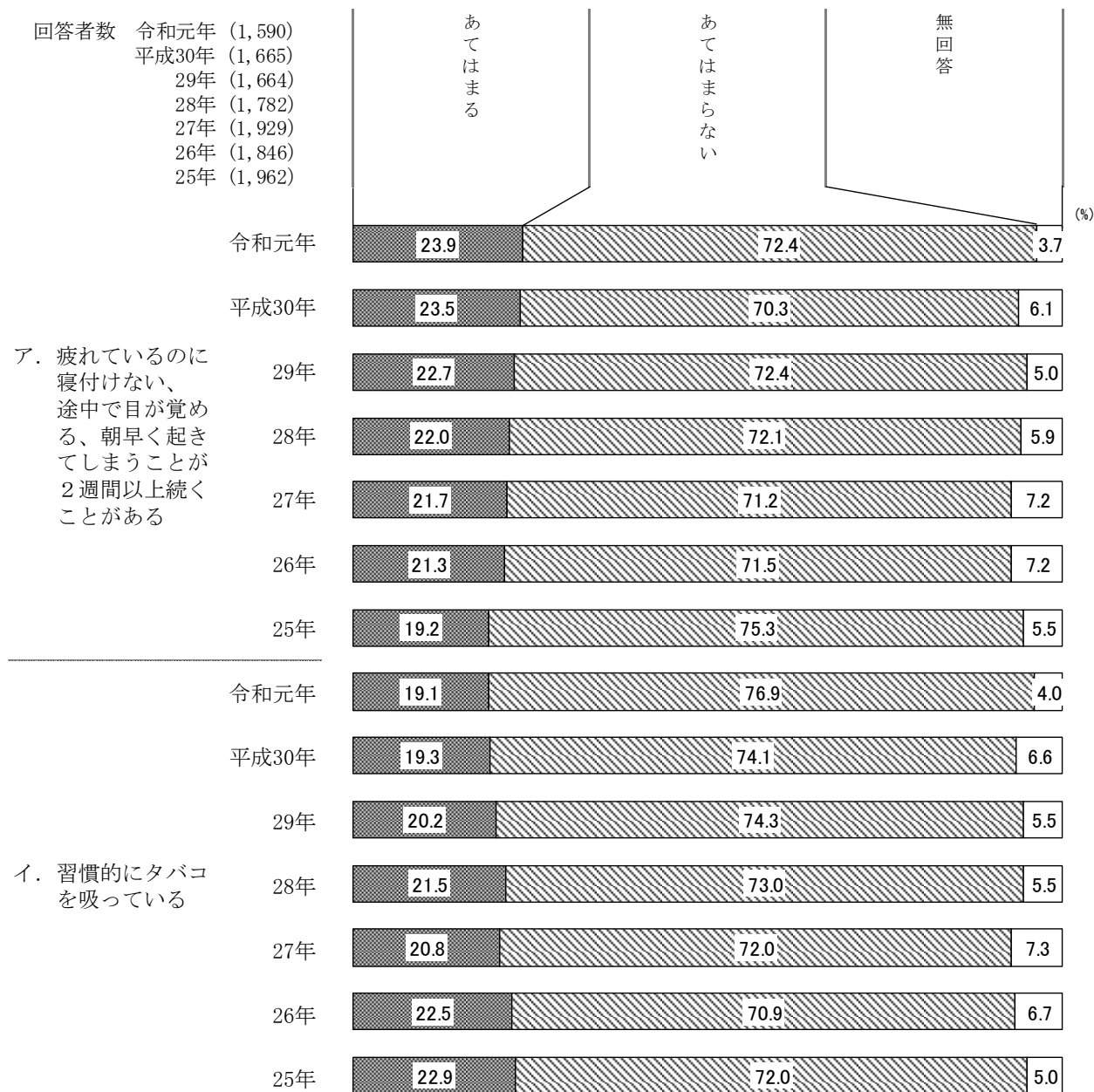
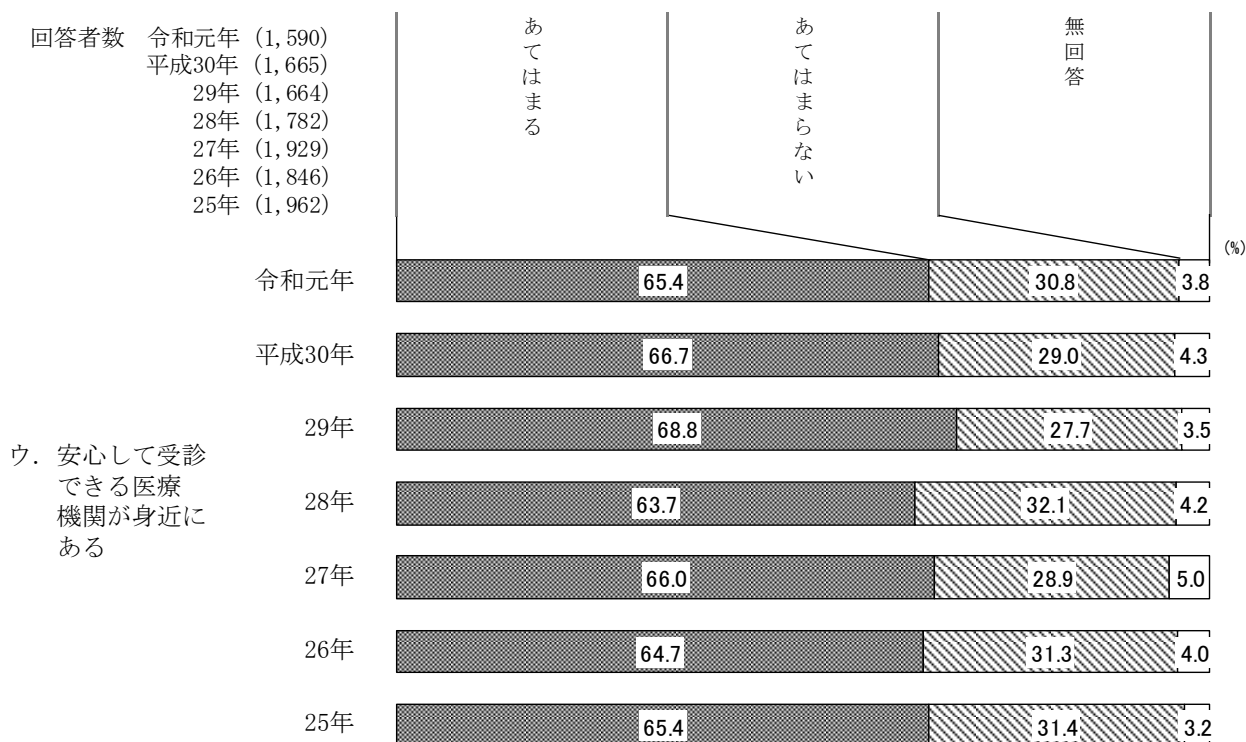


図5-5-1-② 経年比較／体調や習慣



体調や習慣に関する3項目について、「あてはまる」の割合をみると、〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉(65.4%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉と〈習慣的にタバコを吸っている〉は、「あてはまる」がそれぞれ23.9%、19.1%となっており、ともに「あてはまらない」が7割台を占めて多くなっている。

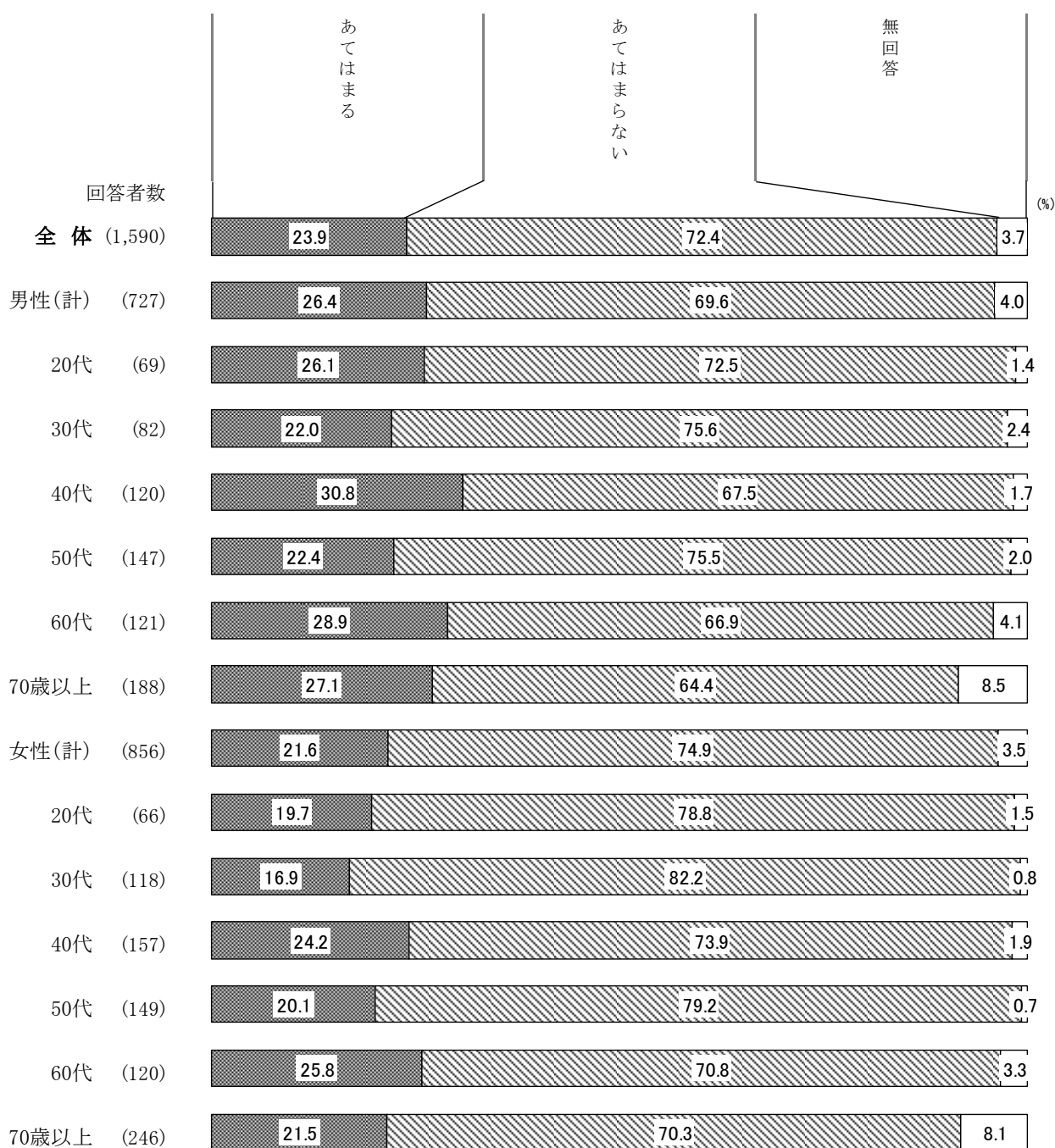
経年でみると、各項目とも、大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈健康〉

〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別で見ると、「あてはまる」は女性（21.6%）より男性（26.4%）の方が高くなっている。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性では、40代と60代で3割前後とやや高く、女性では40代と60代でともに2割台半ばとやや高くなっている。

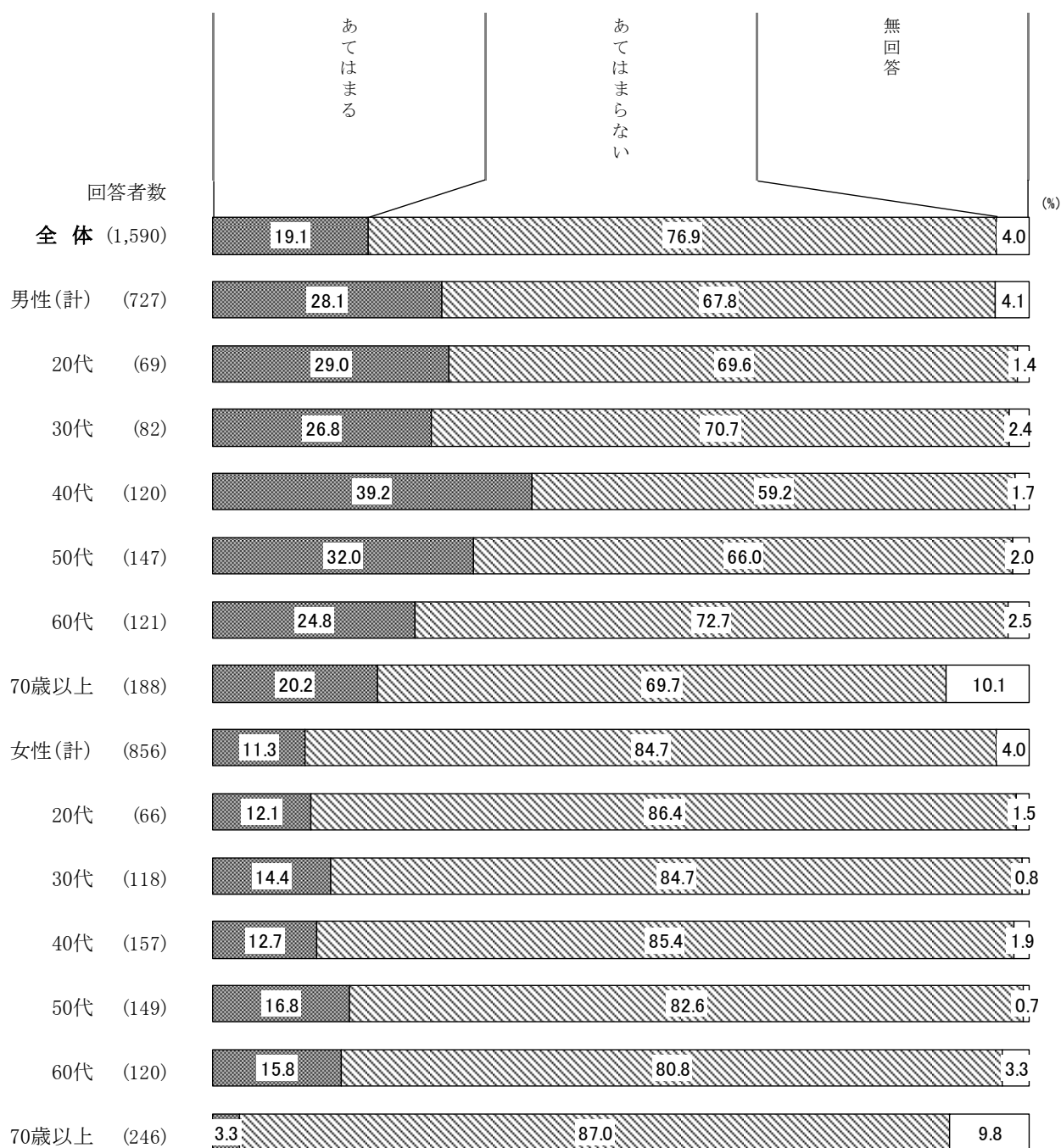
図5-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣  
／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある



〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別で見ると、「あてはまる」は男性28.1%、女性11.3%と、男性が女性を大きく上回って、性差が大きくなっている。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性では40代で39.2%と最も高く、50代から70歳以上にかけては、年代が高まるにつれて比率が低くなる傾向がみられる。女性では50代の16.8%を筆頭に、これに60代と30代を加えた3年代層が他の年代よりやや高くなっているが、70歳以上は3.3%と低い。

図5-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている

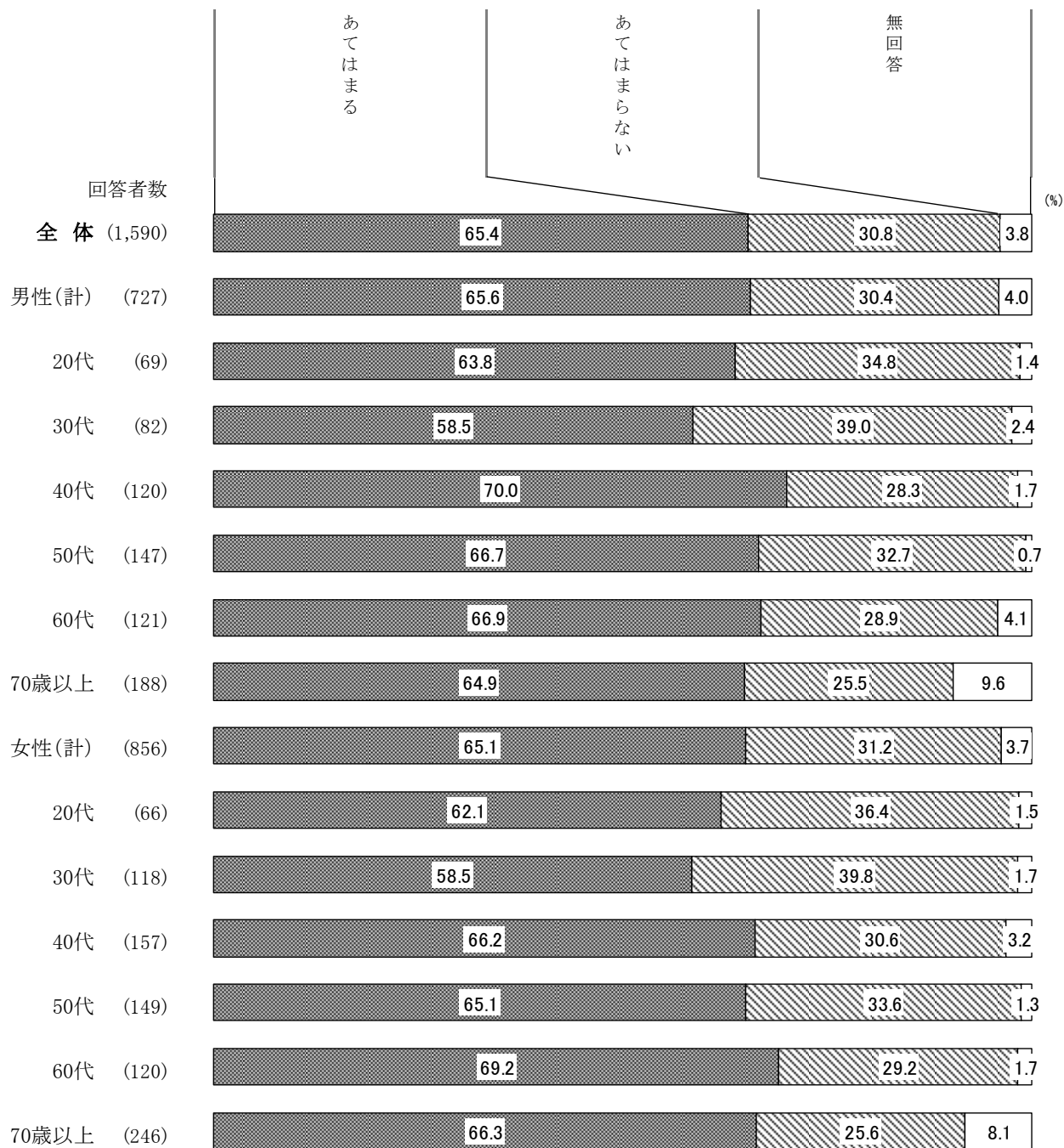


第3章 調査結果の分析 〈健康〉

〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別で見ると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は、男性では40代で、女性では60代で、それぞれ7割弱から7割でやや高くなっている一方で、30代は男女ともに6割に届かずにやや低くなっている。

図5-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある





(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

■ 「毎年健康診断を受けている」と「毎日朝ごはんを食べている」がともに6割台半ばで上位

問22 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（〇はあてはまるものすべて）。

図5-6-1-① 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの

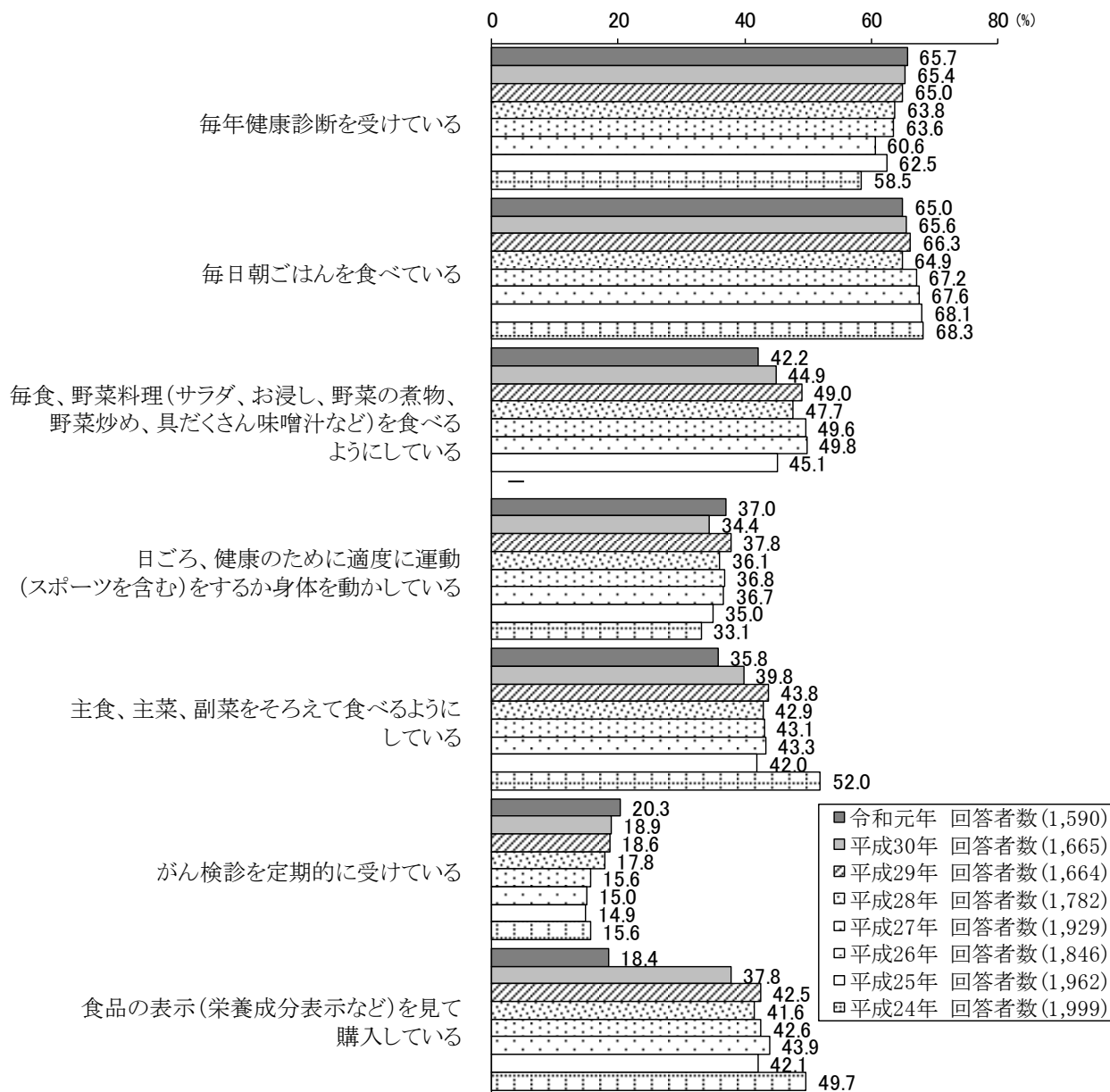
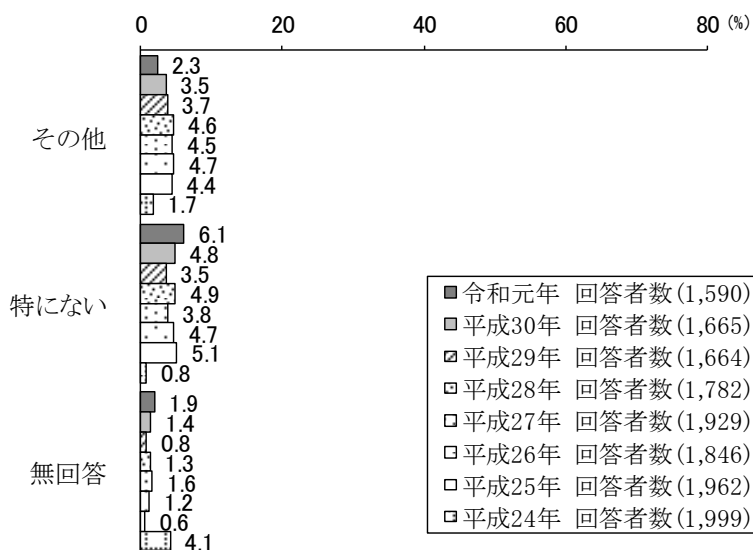


図5-6-1-② 経年比較／健康維持のために実行している、心がけているもの



- ※ 「毎食、野菜料理を食べるようにしている」は平成25年度～平成30年度までは「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」。なお、この項目は平成25年度新設。
- ※ 「日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている」は平成26年度～平成30年度は「健康のため仕事や家事以外で毎日30分は歩行する、またはそれと同等以上、身体を動かす習慣がある」、平成25年度では「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」。
- ※ 「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」は平成24年度～平成30年度までは「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」。
- ※ 「食品の表示（栄養成分表示など）を見て購入している」は平成24年度～平成30年度までは「食品の表示（添加物、消費期限など）を見て購入している」。

健康維持のために心がけていることとしては、「毎年健康診断を受けている」が65.7%で最も高く、僅差で「毎日朝ごはんを食べている」(65.0%)が続き、以下「毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など）を食べるようにしている」(42.2%)、「日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている」(37.0%)、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」(35.8%)の順となっている。

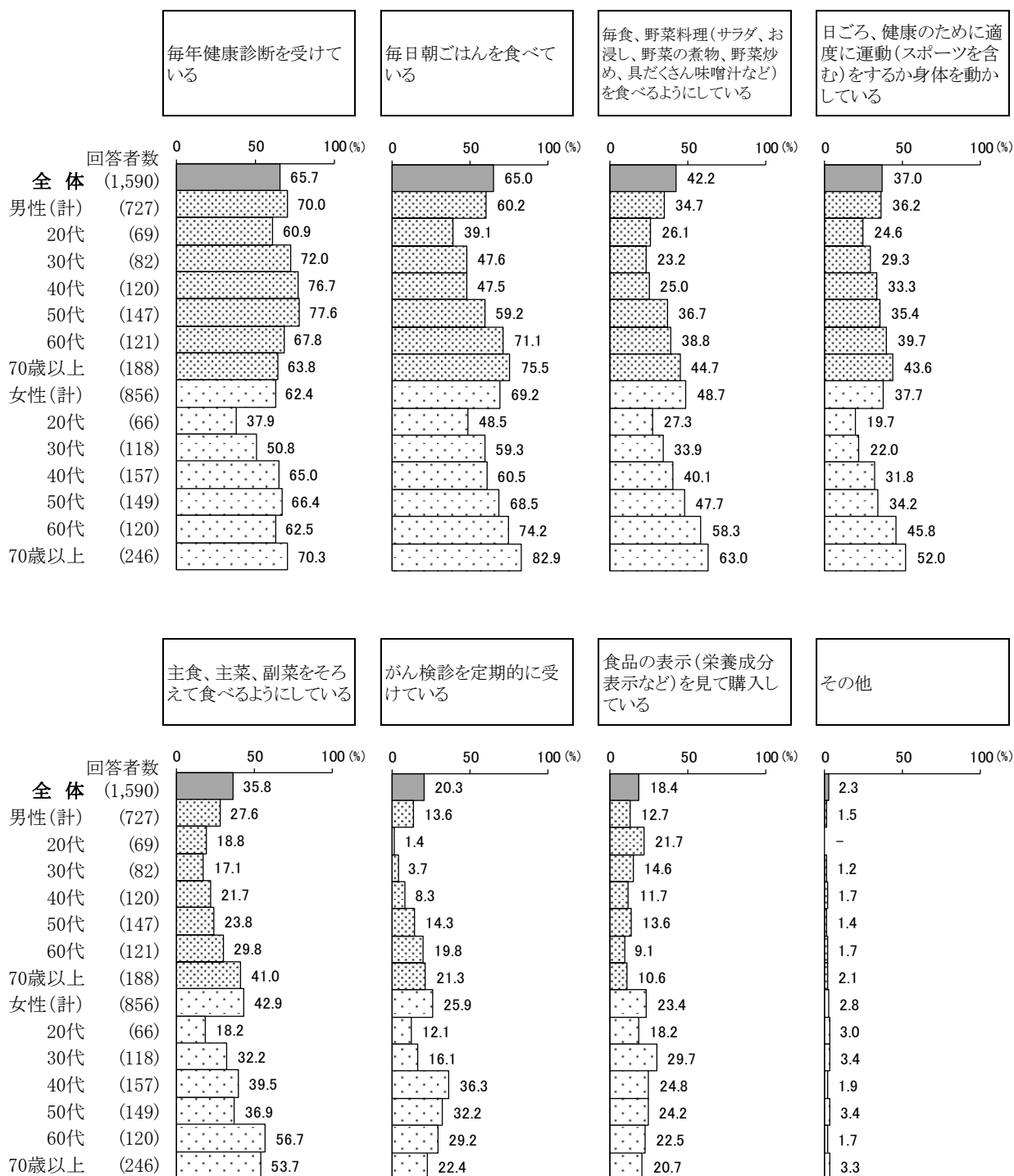
経年でみると、僅差で並ぶ上位2項目の順位が前回と変わっているが、全体としては、順位、数値に大きな変動はみられない。

性別でみると、僅差で最上位の「毎年健康診断を受けている」は男性70.0%、女性62.4%と女性より男性が高くなっているが、僅差で次点の「毎日朝ごはんを食べている」は男性60.2%で女性69.2%、「毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具だくさん味噌汁など）を食べるようにしている」は男性34.7%で女性48.7%、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている」は男性27.6%で女性42.9%などと、上位8項目中4項目で男性より女性が10ポイント程度高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「毎年健康診断を受けている」が40代と50代で7割台後半とやや高いのを除くと、「毎日朝ごはんを食べている」などの他の上位項目は、それぞれ70歳以上を筆頭に、年代が高くなるにつれて比率も高まる傾向がみられる。

女性では、「がん検診を定期的を受けている」が40代で最も高く、「食品の表示（栄養成分表示など）をみて購入している」が30代で最も高いのを除くと、他の上位項目については男性と同様に、それぞれ70歳以上を筆頭に、年代が高くなるにつれて比率も高まる傾向がみられる。

図5-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの

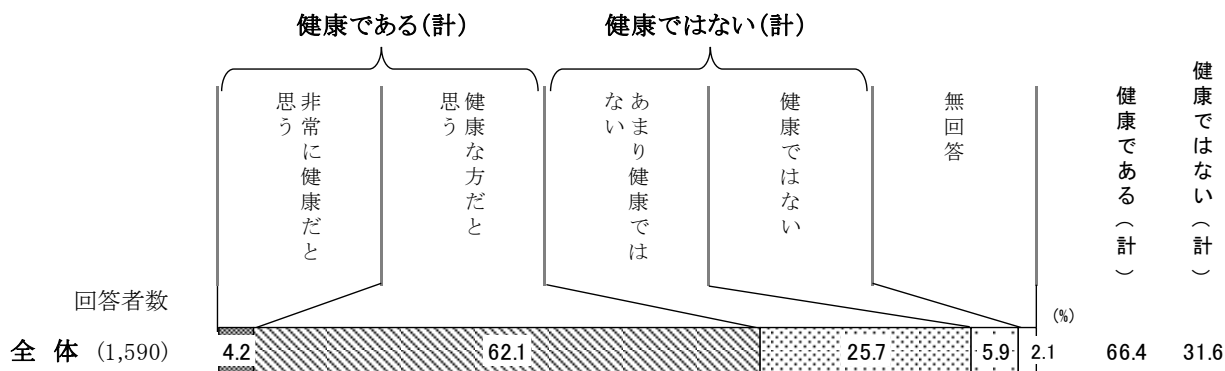


(7) 自身の健康状態について

■ 自分は【健康である】と自認している人は、3人に2人の割合

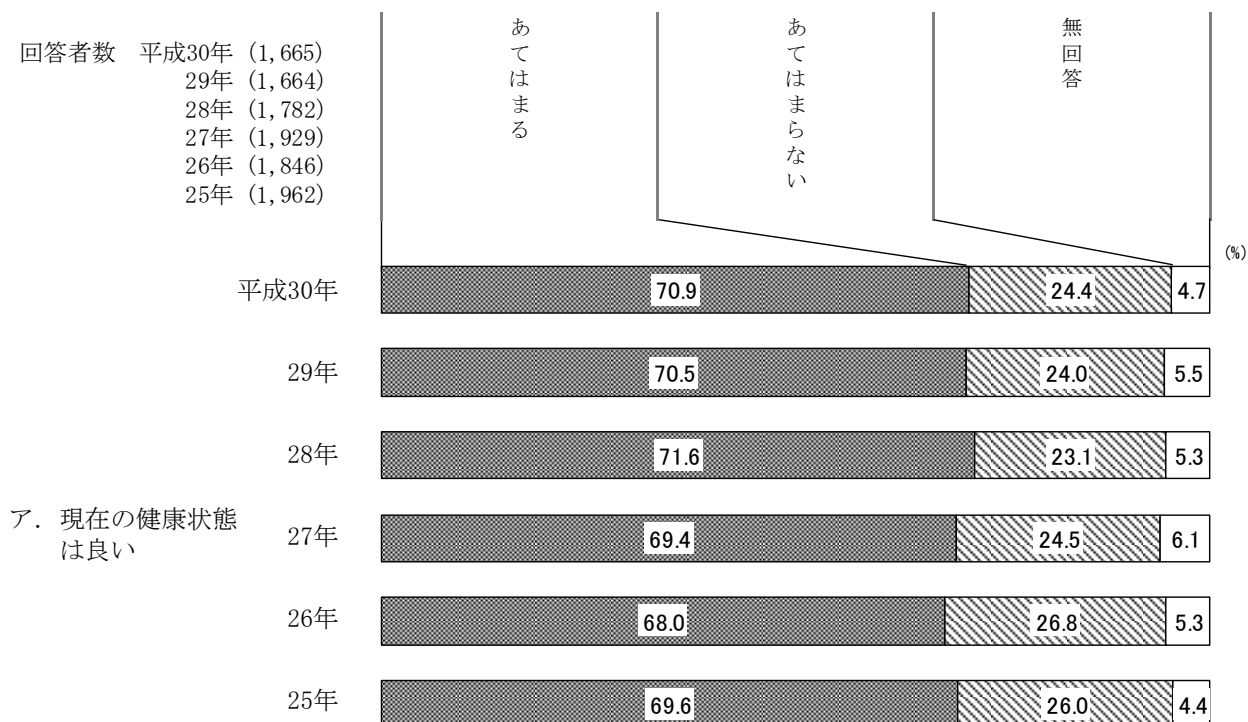
問23 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（○は1つだけ）。

図5-7-1 自身の健康状態について



参考/体調や習慣

問 あなたの体調などについてお答えください（○はそれぞれ1つずつ）。



※ 今回は独立設問として、4つの選択肢から選んでもらった「自身の健康状態」については、平成25～30年度では、「現在の健康状態はよい」という項目に対して「あてはまる」と「あてはまらない」の2択で聴取していた。

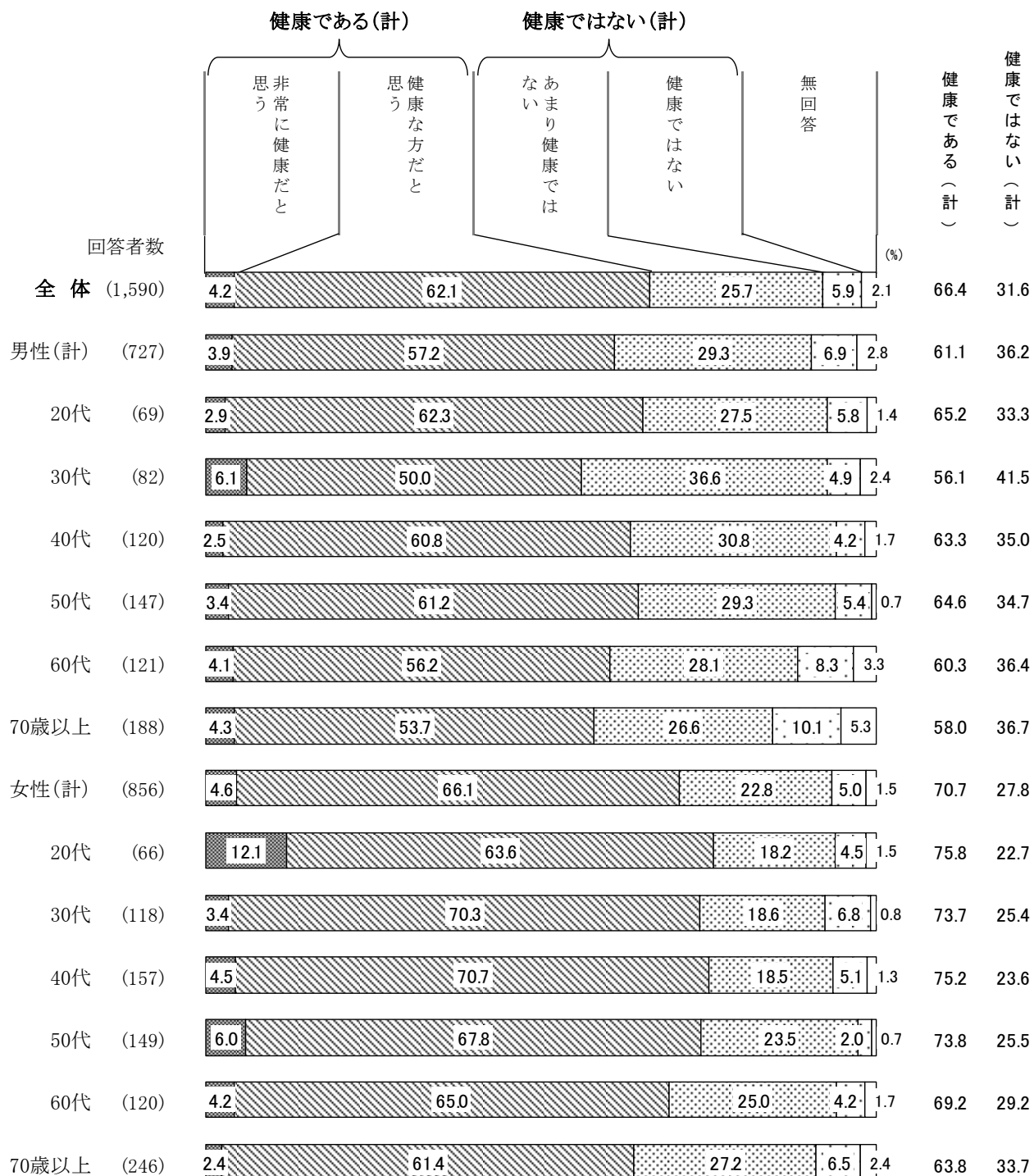
今回の令和元年度調査より、新たに4択で聴取することになった「自身の健康状態」についての結果をみると、「健康な方だと思う」が62.1%を占めて、これに「非常に健康だと思う」(4.2%)を合わせた【健康である】が66.4%となっている。一方、「あまり健康ではない」(25.7%)と「健康ではない」(5.9%)を合わせた【健康ではない】(31.6%)は3割強となっている。

この令和元年の結果を、参考までに、前回までの「現在の健康状態はよい」という項目で「あてはまる」と「あてはまらない」の2択で聴取していた結果と比較すると、今回の【健康である】(66.4%)の割合は、平成25年以降7割前後で推移していた【あてはまる】(68.0%~71.6%)の割合を僅かながら下回っている。

第3章 調査結果の分析〈健康〉

性別でみると、【健康である】は、男性 61.1%、女性 70.7%で、女性の方が 9.6 ポイント高い。  
 性・年代別でみると、【健康である】は、男性では、20代で65.2%、40代で63.3%、50代で64.6%と、この3年代層でやや高くなっているが、30代は56.1%で最も低くなっている。  
 女性では、【健康である】は20代で75.8%、40代で75.2%とこの2年代層でやや高く、70歳以上で63.8%と最も低くなっている。

図5-7-2 性別、性・年代別／自身の健康状態について

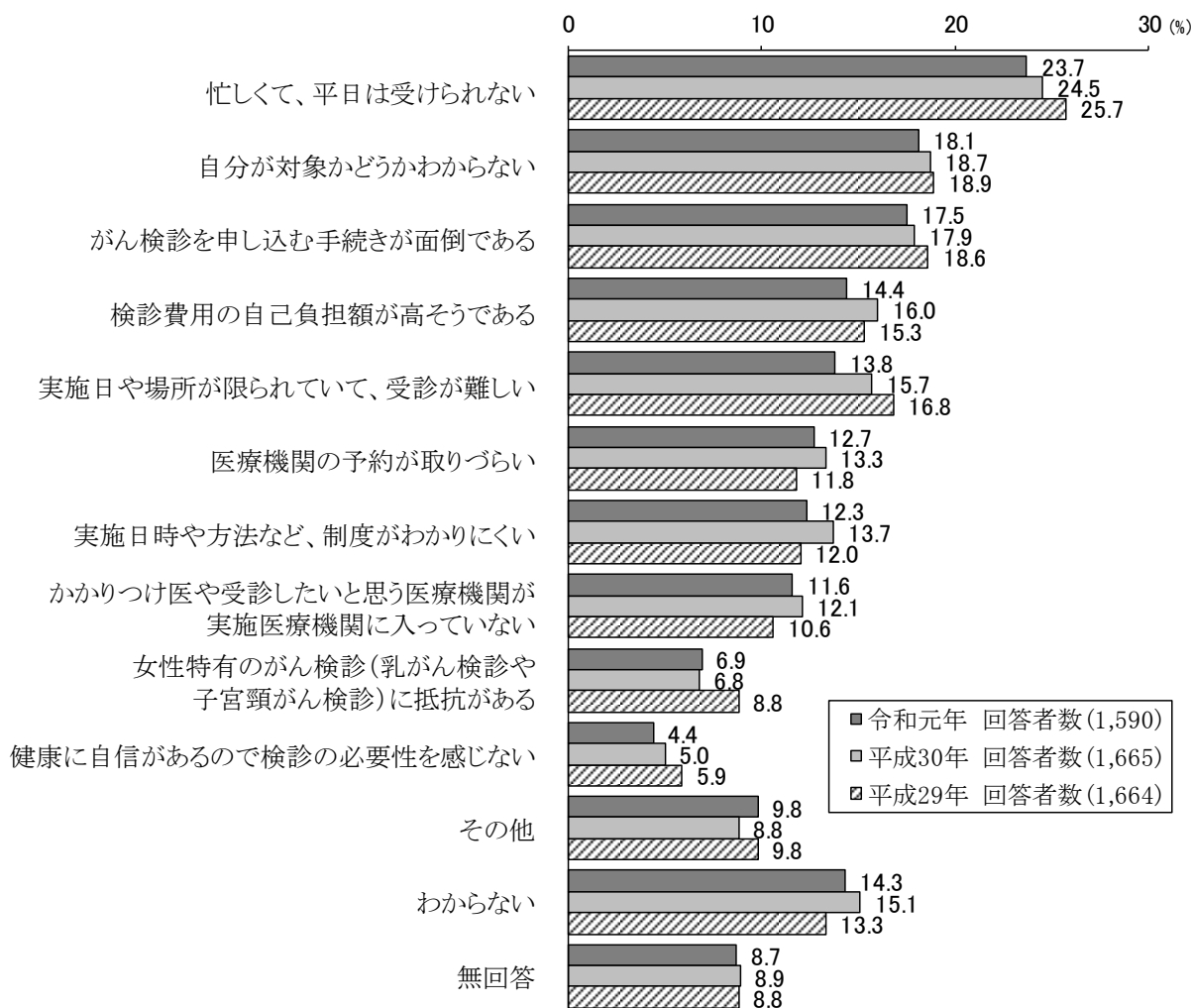


(8) がん検診制度の感想

■ 「忙しくて、平日は受けられない」が最多も、感想は多岐にわたる

問24 足立区では区民向けのがん検診を実施していますが、がん検診の制度について、どのように感じていますか（〇はあてはまるものすべて）。

図5-8-1 経年比較／がん検診制度の感想



区のがん検診の制度についての意識をみると、「忙しくて、平日は受けられない」が23.7%で最も高く、以下「自分が対象かどうかわからない」(18.1%)、「がん検診を申し込む手続きが面倒である」(17.5%)の順で続いている。

経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられないが、各項目の比率は前回は僅かずつ下回ってものが多い。

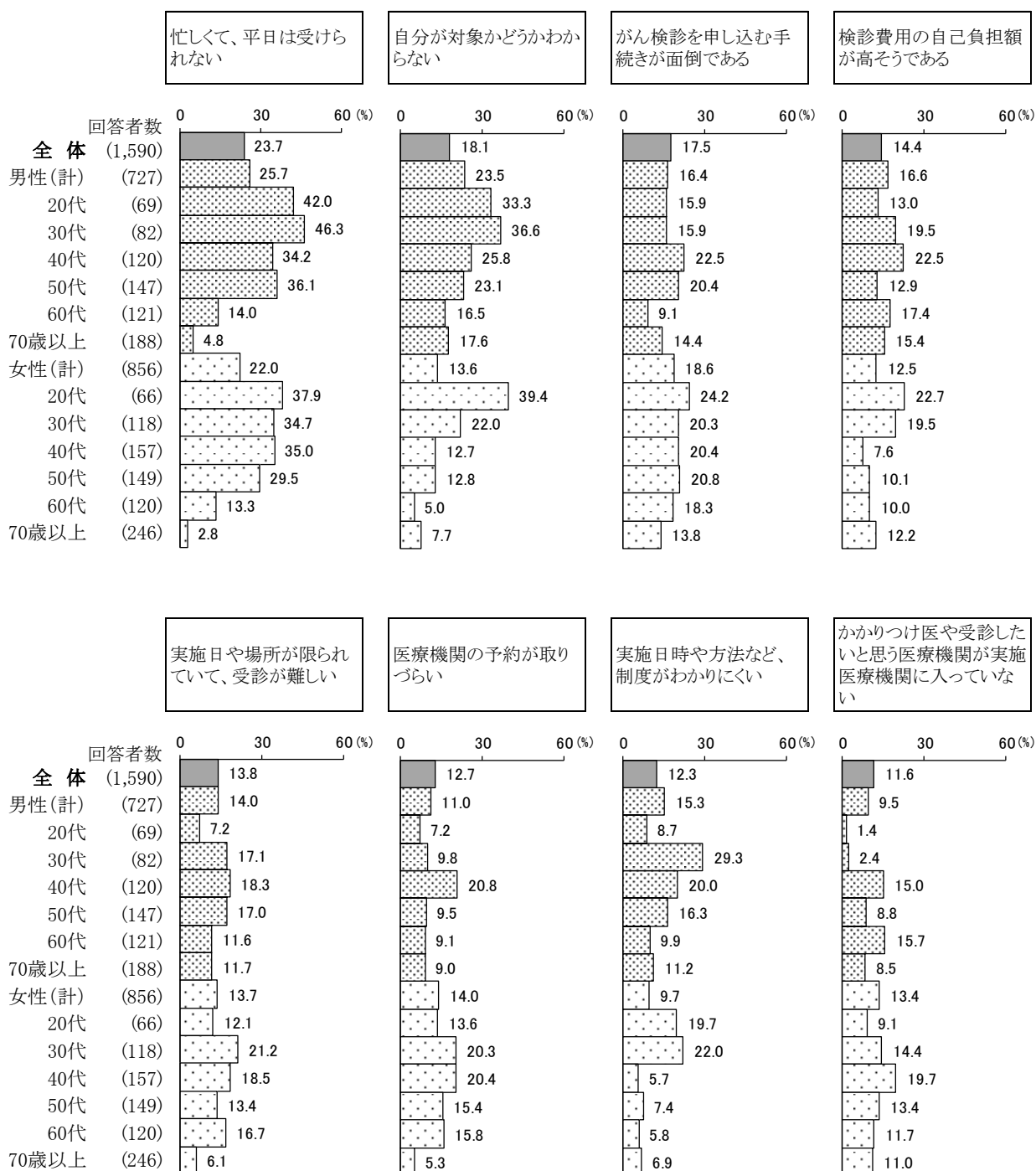
### 第3章 調査結果の分析 〈健康〉

性別でみると、男性では「自分が対象かどうかわからない」が23.5%と、女性（13.6%）を上回っており、他の項目にくらべると性差が大きい項目となっている。

性・年代別でみると、男性の場合、「忙しくて、平日は受けられない」は20代と30代でそれぞれ42.0%、46.3%と高く、「自分が対象かどうかわからない」は20代と30代でそれぞれ33.3%、36.6%と高くなっている。

女性の場合、20代では「自分が対象かどうかわからない」が39.4%ととくに高く、「忙しくて、平日は受けられない」や「がん検診を申し込む手続きが面倒である」、「検診費用の自己負担額が高そうである」なども他年代を上回り最も高くなっている。

図5-8-2 性別、性・年代別／がん検診制度の感想／上位8項目



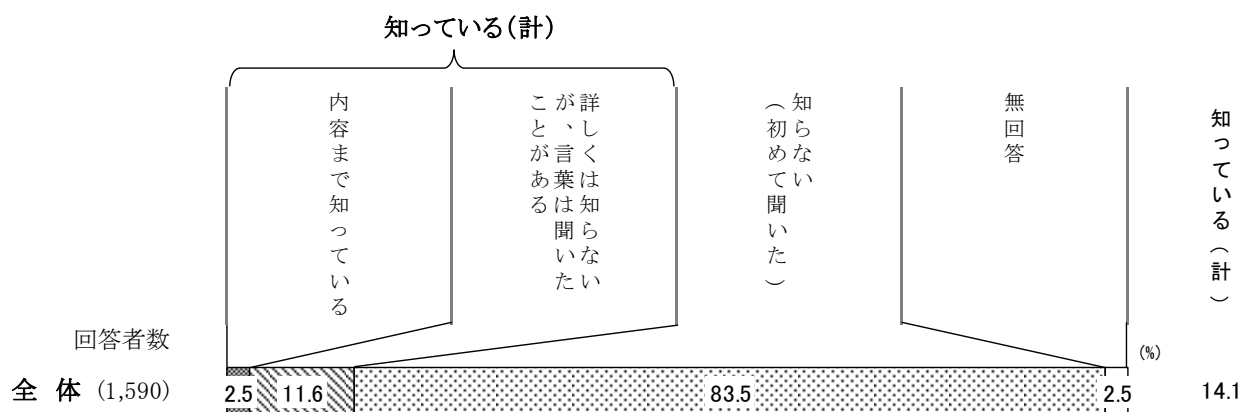


(9) 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

■ 【知っている】は1割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が8割台半ばを占める

問25 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。  
 ※ 「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

図5-9-1 「ゲートキーパー」という言葉の認知状況

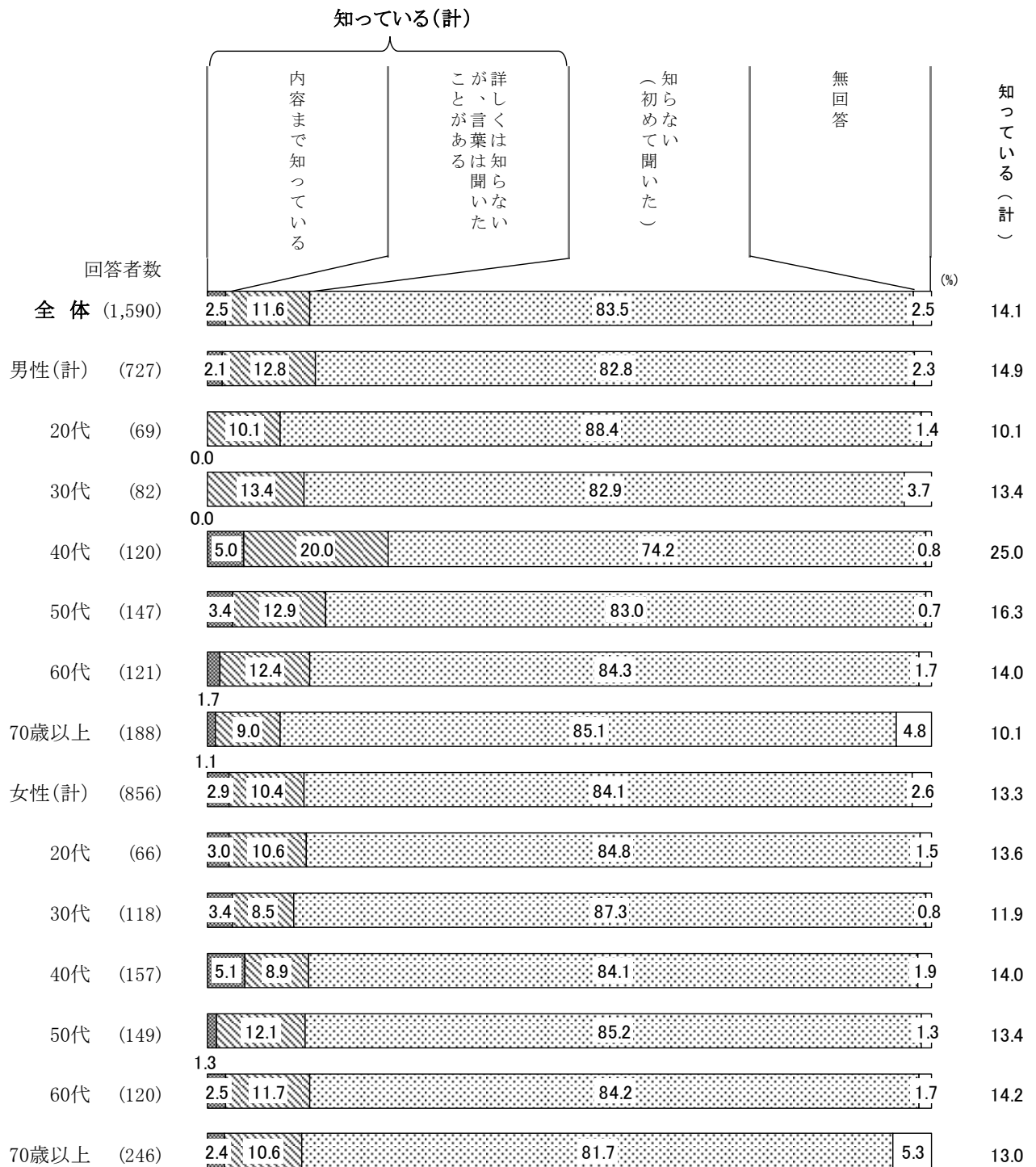


「ゲートキーパー」という言葉の認知は、「知らない（初めて聞いた）」が83.5%を占めて多く、「内容まで知っている」（2.5%）はかなり少ない。この「内容まで知っている」に「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（11.6%）を合わせた【知っている】は14.1%と1割台半ばとなっている。

性別で見ると、【知っている】は男性で14.9%、女性で13.3%と、男女別に大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、【知っている】は、男性では40代で25.0%で他の年代に比べて高くなっているが、女性では、各年代ともに1割強から1割前半で、ほとんど違いはみられない。

図5-9-2 性別、性・年代別／「ゲートキーパー」という言葉の認知状況



## 6 スポーツ

- 
- (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況
  - (2) 継続的に実施している運動・スポーツ
  - (3) 運動・スポーツを行っている場所
  - (4) 障がい者スポーツへの意識・行動
  - (5) スポーツボランティア活動への意識・行動
  - (6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること
  - (7) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無
  - (8) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動
  - (9) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ
  - (10) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識
-



## 6 スポーツ

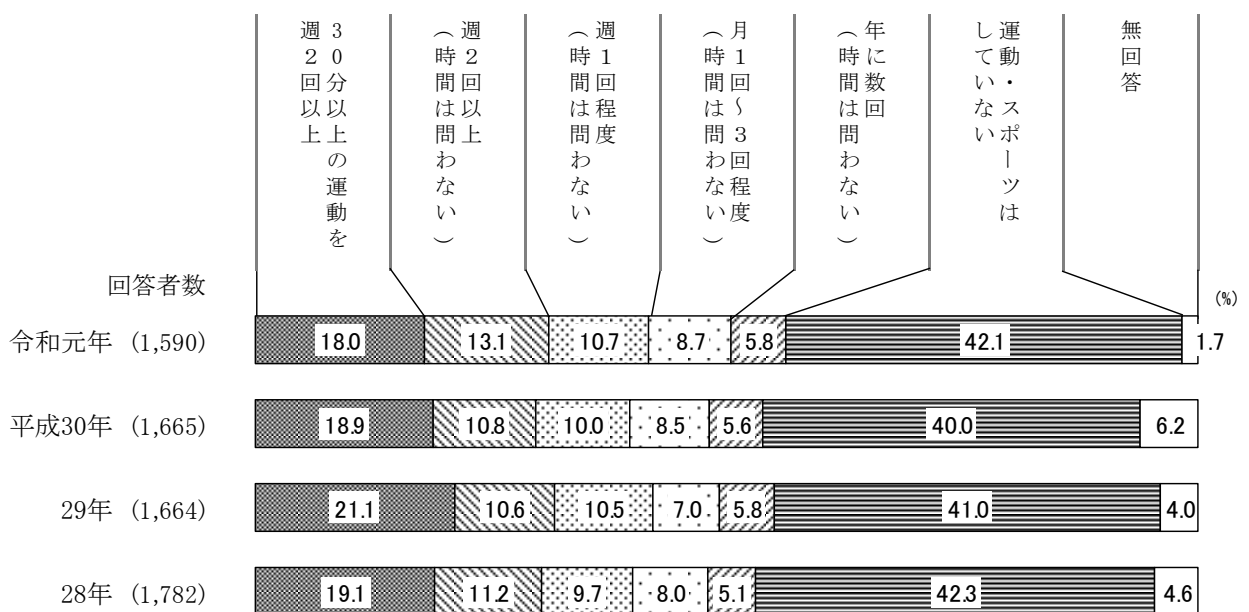
### (1) 日常的な運動・スポーツの実施状況

■ 「運動・スポーツはしていない」という人が4割強

問26 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

図6-1-1 経年比較／日常的な運動・スポーツの実施状況



日常的に行っている運動・スポーツについては、「30分以上の運動を週2回以上」が18.0%で最も多く、以下「週2回以上（時間は問わない）」（13.1%）、「週1回程度（時間は問わない）」（10.7%）の順で続いている。一方、「運動・スポーツはしていない」は42.1%を占めている。

経年でみると、各年の回答分布に大きな変化はみられない。

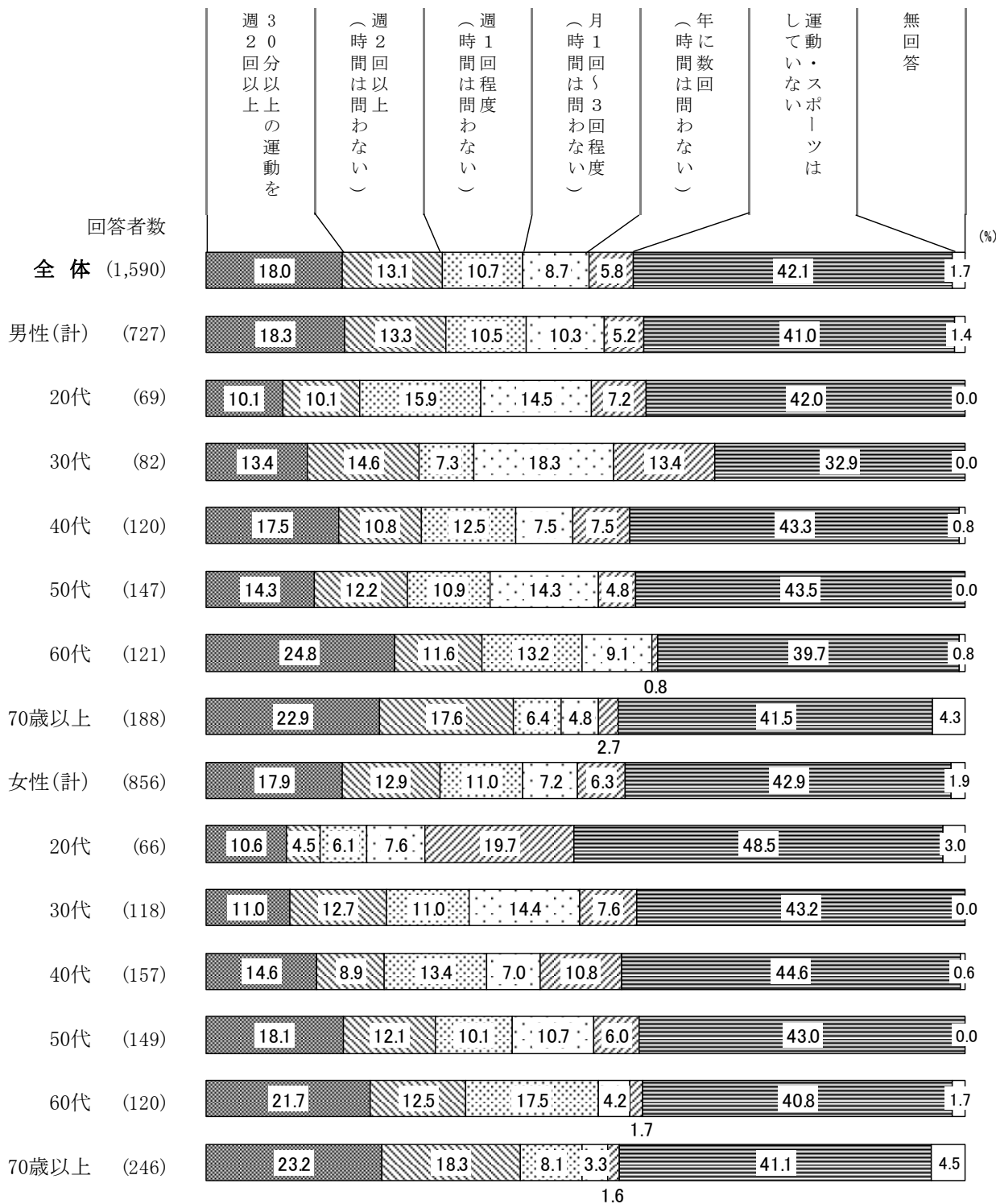
第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、60代と70歳以上で「30分以上の運動を週2回以上」がともに2割強から2割台半ばと他の年代より高くなっている。一方、30代では「運動・スポーツはしていない」が32.9%と他の年代に比べて低くなっている。

女性では、60代と70歳以上で「30分以上の運動を週2回以上」が2割を超えて高くなっている。一方、20代では「運動・スポーツはしていない」が5割弱を占めて高くなっている。

図6-1-2 性別、性・年代別／日常的な運動・スポーツの実施状況



(2) 継続的に実施している運動・スポーツ

■ 「ウォーキング」が4割台半ばで突出し、「健康体操」と「筋力トレーニング」も各2割強

問26で1～5のいずれかをお答えの方に

問26-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

図6-2-1-① 経年比較/継続的に実施している運動・スポーツ

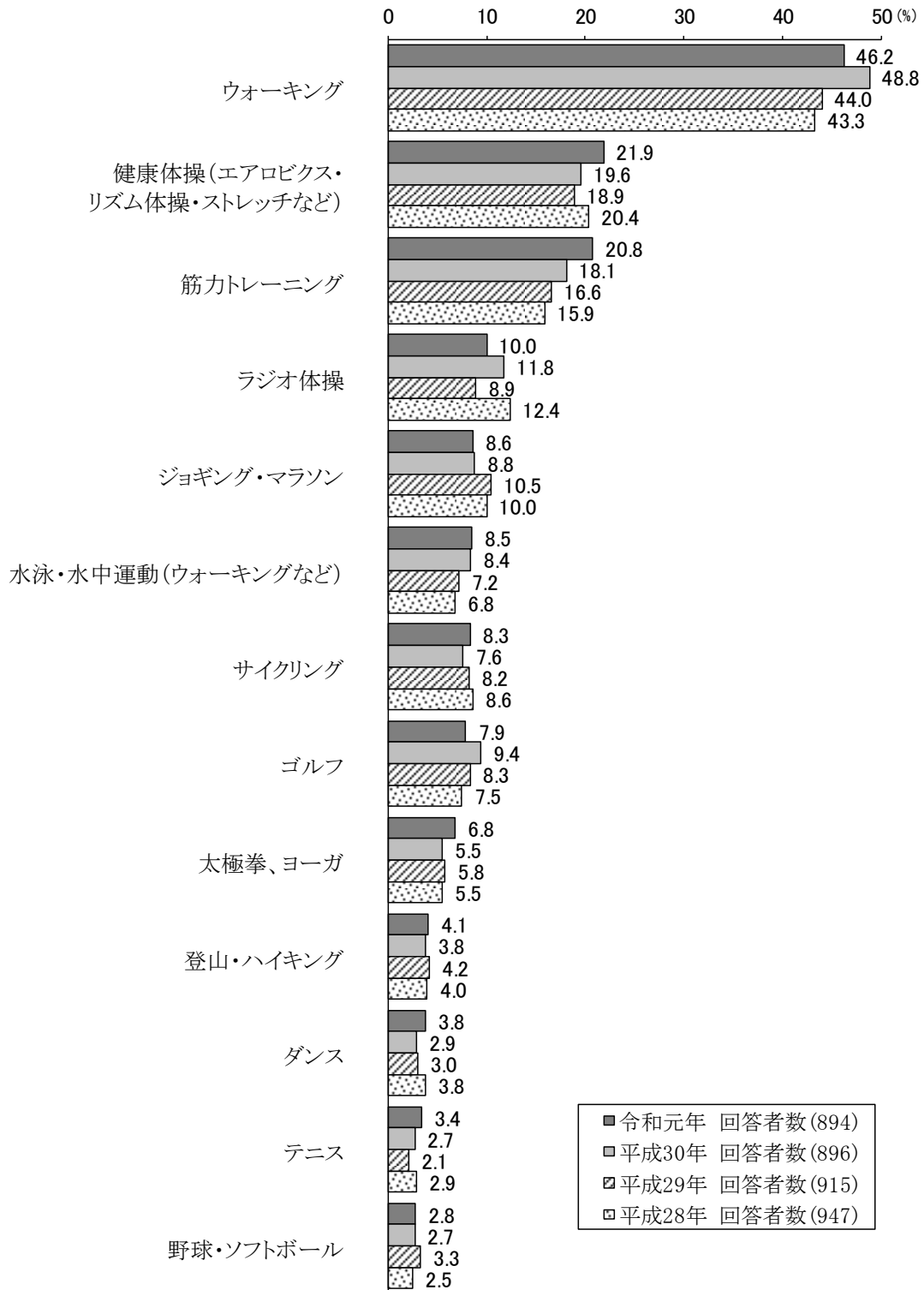
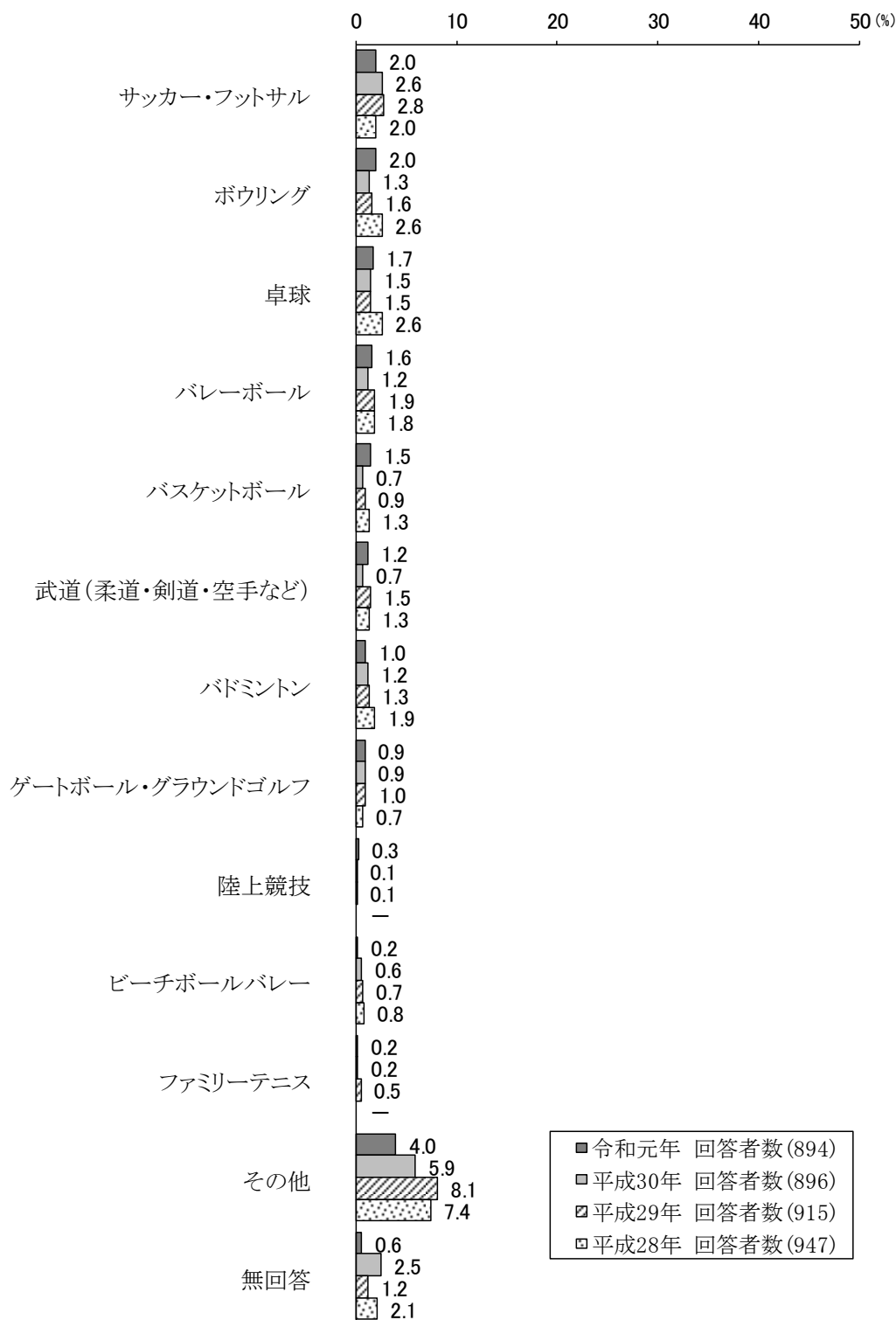


図6-2-1-② 経年比較／継続的に実施している運動・スポーツ



何らかの運動・スポーツを行っている人にその内容を聞いたところ、「ウォーキング」が46.2%で最も高く、以下「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」(21.9%)、「筋力トレーニング」(20.8%)の順で続いている。

経年でみると、上位3項目の順位は変わらないものの、1位の「ウォーキング」は平成30年より微減しているが、3位の「筋力トレーニング」3年続けて漸増傾向にある。

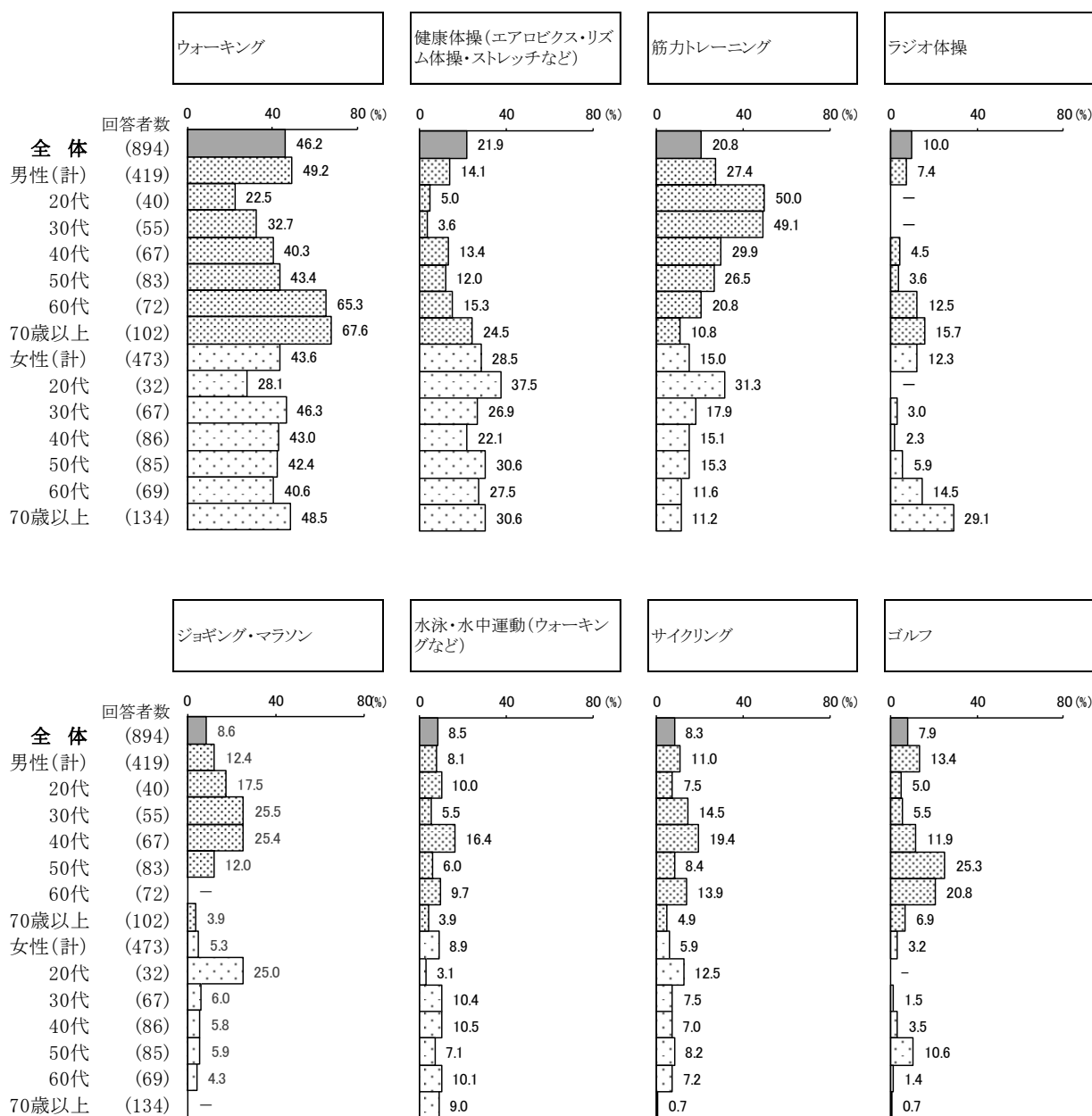


性別でみると、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」は女性が28.5%、男性が14.1%で女性の方が14.4ポイント高いが、「筋力トレーニング」と「ゴルフ」は男性の方が女性よりそれぞれ10ポイント以上高くなっており、この3項目で性差がやや大きい。

性・年代別でみると、男性では、60代と70歳以上の2年代層で「ウォーキング」が6割台半ば以上ととくに高く、「筋力トレーニング」は20代と30代でともに約5割ととくに高い。

女性では、20代で「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が4割弱で最も高く、20代は「筋力トレーニング」と「ジョギング・マラソン」もとくに高い。一方、「ラジオ体操」は70歳以上で29.1%ととくに高くなっている。

図6-2-2 性別、性・年代別／継続的に実施している運動・スポーツ／上位8項目



(3) 運動・スポーツを行っている場所

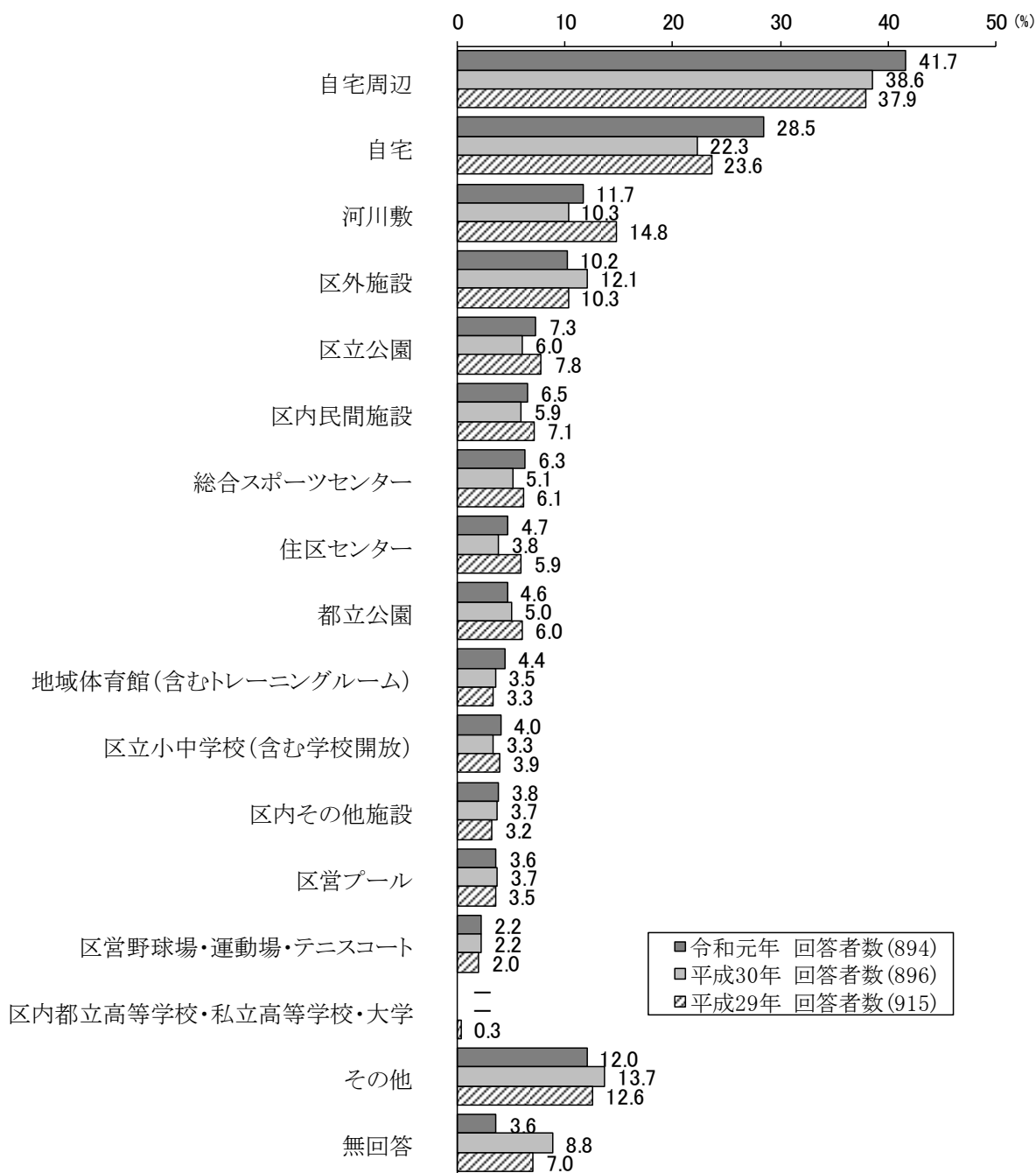
■ 「自宅周辺」が4割強、「自宅」が3割弱で上位

問26で1～5のいずれかをお答えの方に

問26-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか

(○はあてはまるものすべて)。

図6-3-1 経年比較/運動・スポーツを行っている場所



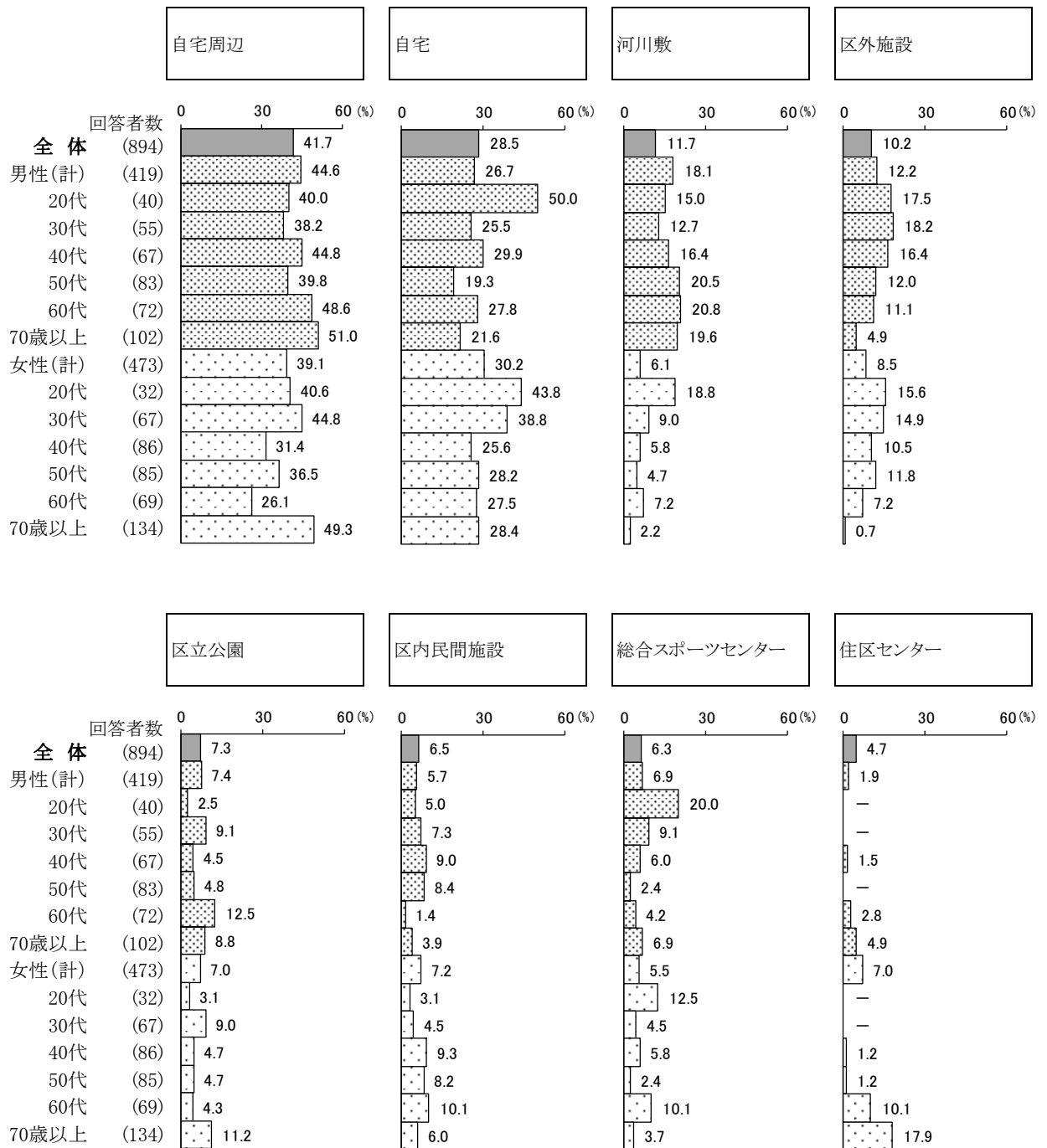
運動・スポーツの実施場所としては、「自宅周辺」が41.7%で最も高く、これに「自宅」(28.5%)が続いている。

経年でみると、上位の「自宅周辺」と「自宅」はともに前回より増加している。

性別でみると、上位4項目のうち、「河川敷」は男性が18.1%と女性（6.1%）より高く、「自宅周辺」と「区外施設」も男性の方がやや高い中で、「自宅」だけは女性が30.2%で男性（26.7%）よりやや高くなっている。

性・年代別でみると、「自宅周辺」は男女ともに70歳以上で最も高く、「自宅」は男女ともに20代で最も高くなっており、中でも男性20代では50.0%ととくに高い。

図6-3-2 性別、性・年代別／運動・スポーツを行っている場所／上位8項目

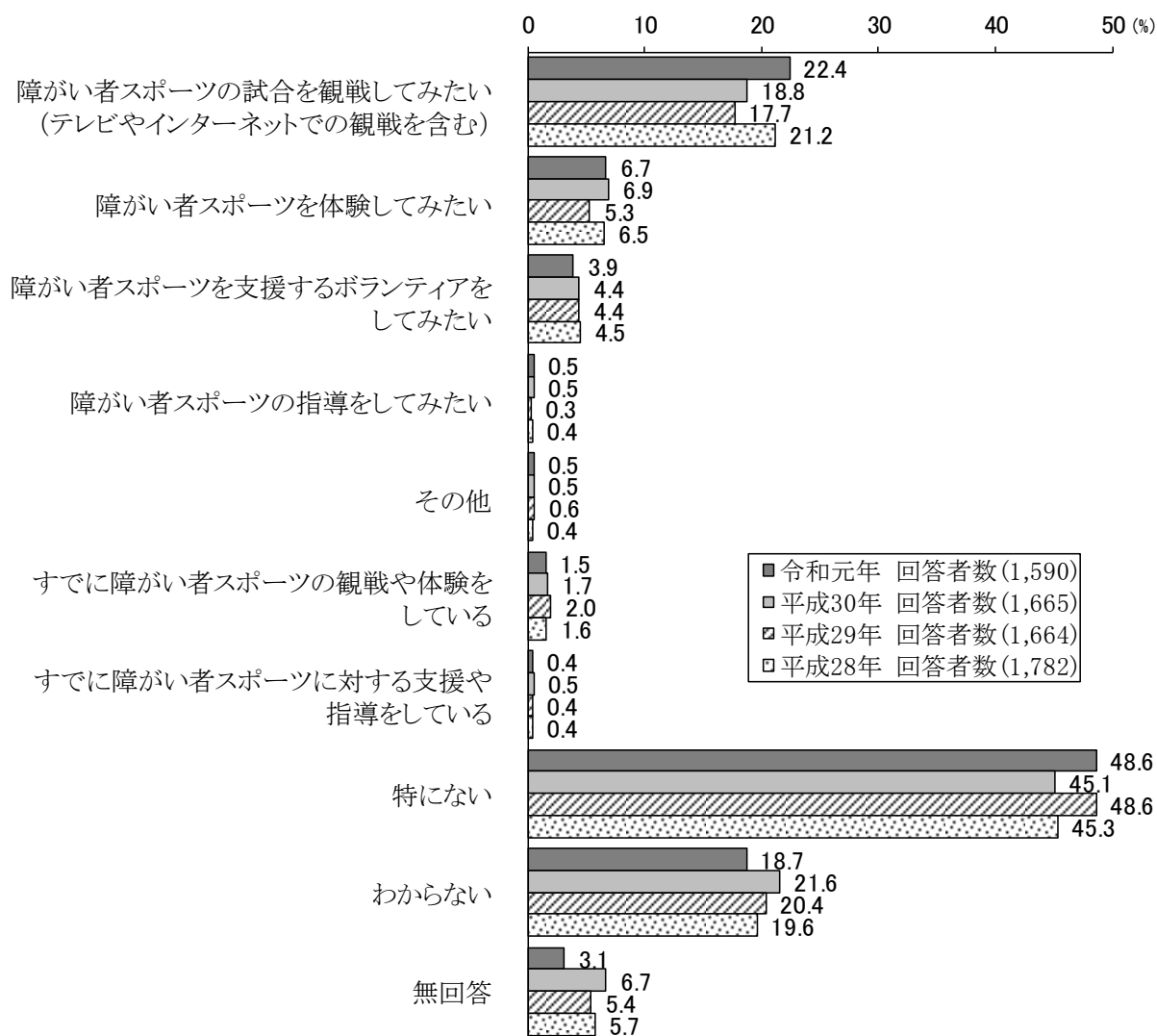


(4) 障がい者スポーツへの意識・行動

■ “観戦してみたい”が2割強ながら、「特にない」が5割弱

問27 あなたは、障がい者スポーツについて、どのようなことをしてみたいですか  
(〇はあてはまるものすべて)。

図6-4-1 経年比較/障がい者スポーツへの意識・行動



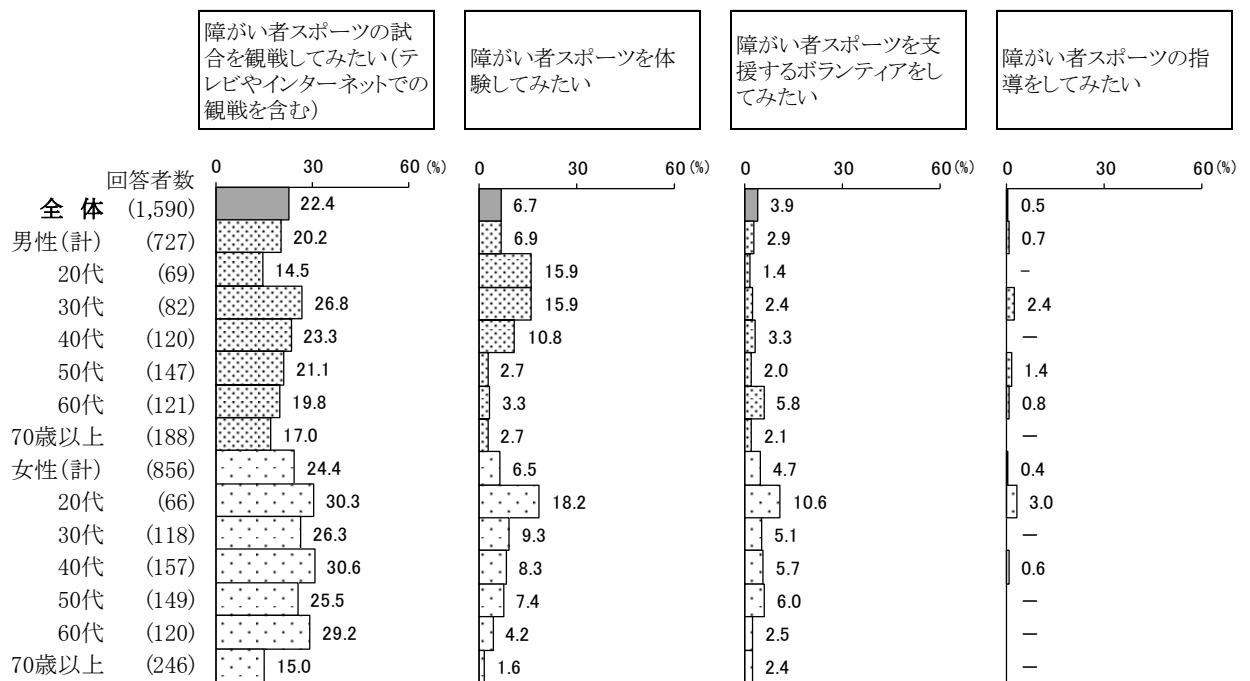
障がい者スポーツについての意識・行動では、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい (テレビやインターネットでの観戦を含む)」が22.4%で最も高く、以下「障がい者スポーツを体験してみたい」(6.7%)、「障がい者スポーツを支援するボランティアをしてみたい」(3.9%)の順で続いている。一方、「特にない」は48.6%となっている。

経年でみると、「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい (テレビやインターネットでの観戦を含む)」が、前回より3.6ポイント増加したものの、4年間に亘って2割前後で、大きな変化はみられない。

性別でみると、大きな男女差はみられないが、最上位の「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」は男性（20.2%）より女性（24.4%）の方がやや高い。

性・年代別でみると、最上位の「障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）」は、女性の20代、40代、60代の3年代層でそれぞれ3割前後と高く、男性では30代で2割台半ばとやや高くなっている。また、次点の「障がい者スポーツを体験してみたい」は、男女の20代と男性30代でそれぞれ1割台半ばから2割弱で高くなっており、中でも女性20代で18.2%と最も高くなっている。

図6-4-2 性別、性・年代別／障がい者スポーツへの意識・行動

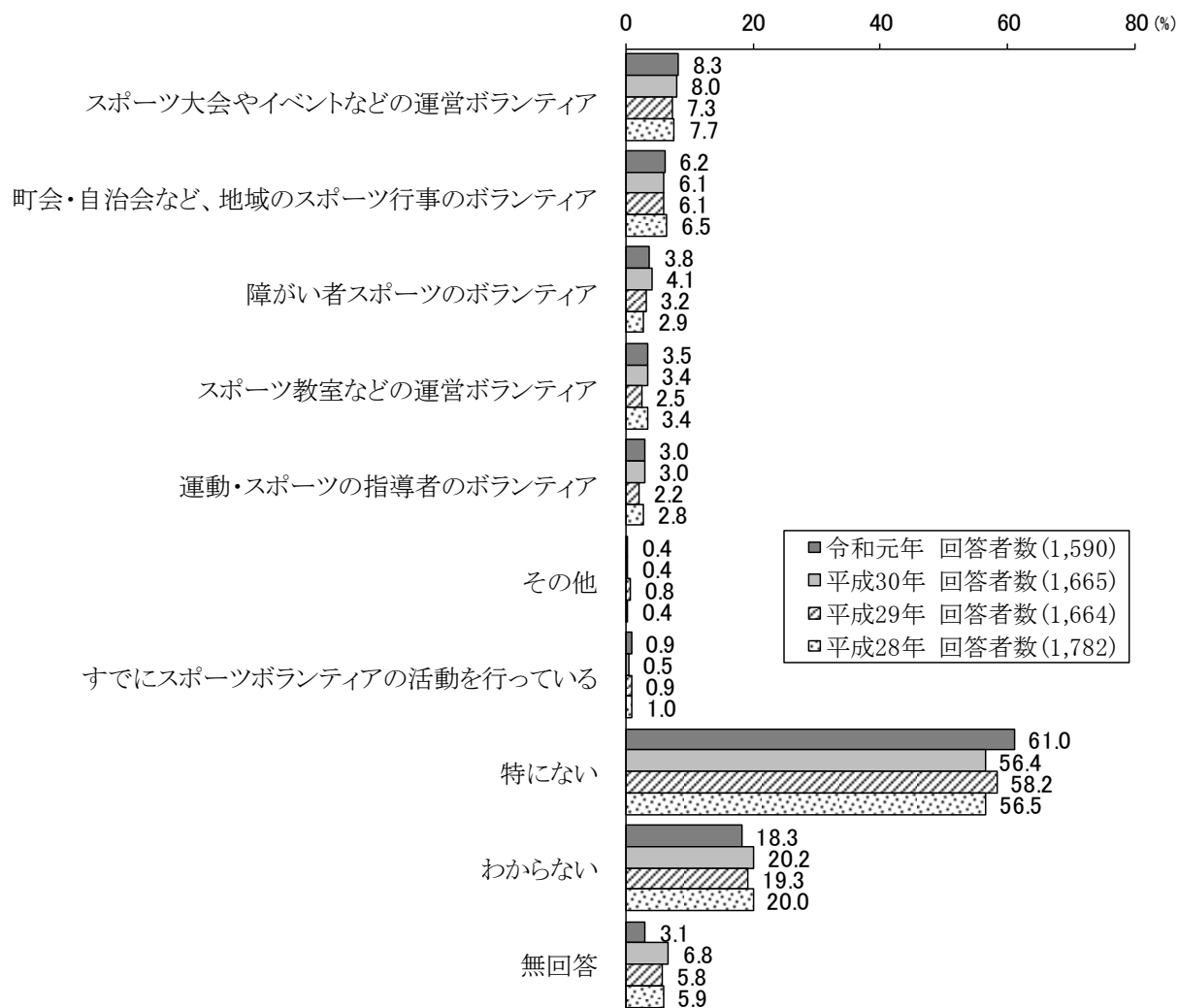


(5) スポーツボランティア活動への意識・行動

■ “運営ボランティア”と“スポーツ行事のボランティア”が上位も、ともに1割未満

問28 あなたは、スポーツボランティア活動について、どのようなことをしてみたいですか  
(〇はあてはまるものすべて)。

図6-5-1 経年比較/スポーツボランティア活動への意識・行動



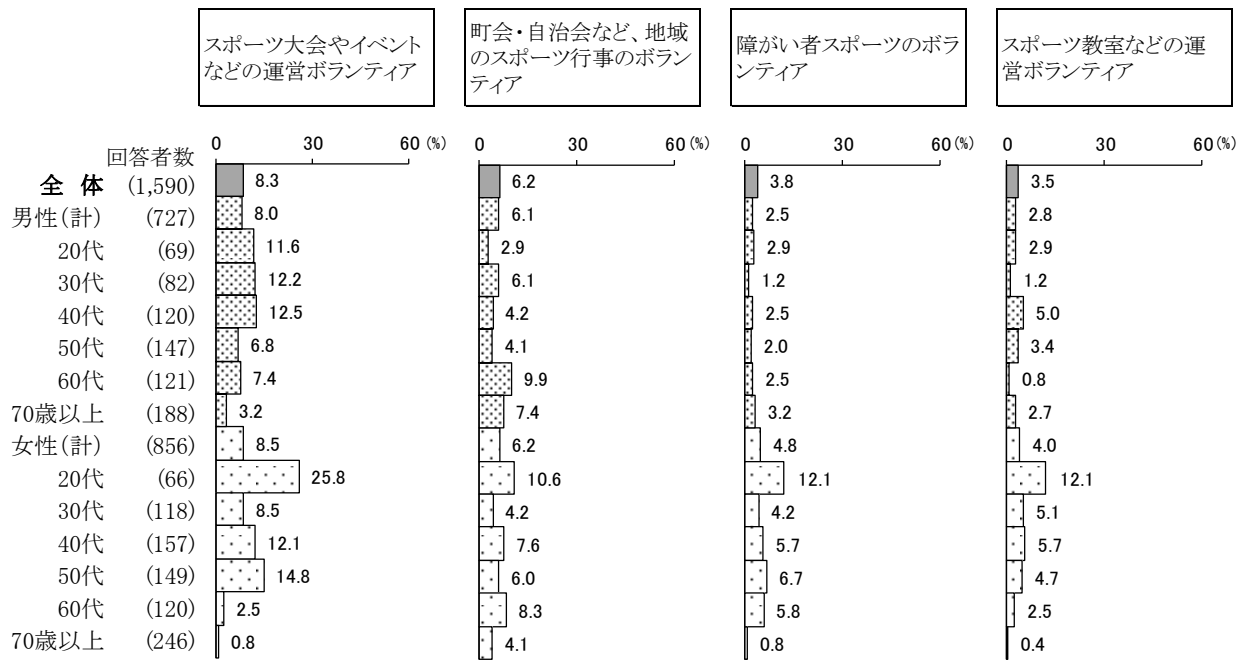
スポーツボランティア活動でしてみたいことについては、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」が8.3%で最も高く、以下「町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア」(6.2%)、「障がい者スポーツのボランティア」(3.8%)、「スポーツ教室などの運営ボランティア」(3.5%)の順が続いている。一方、「特にな

経年でみると、順位、比率に大きな変化はみられないが、「特にな

性別で見ると、大きな男女差はみられない。

性・年代別で見ると、「スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア」は、女性20代が25.8%で他の性・年代層を上回って最も高く、女性20代は他の上位3項目でもそれぞれ1割台に達して高くなっている。

図6-5-2 性別、性・年代別／スポーツボランティア活動への意識・行動／上位4項目

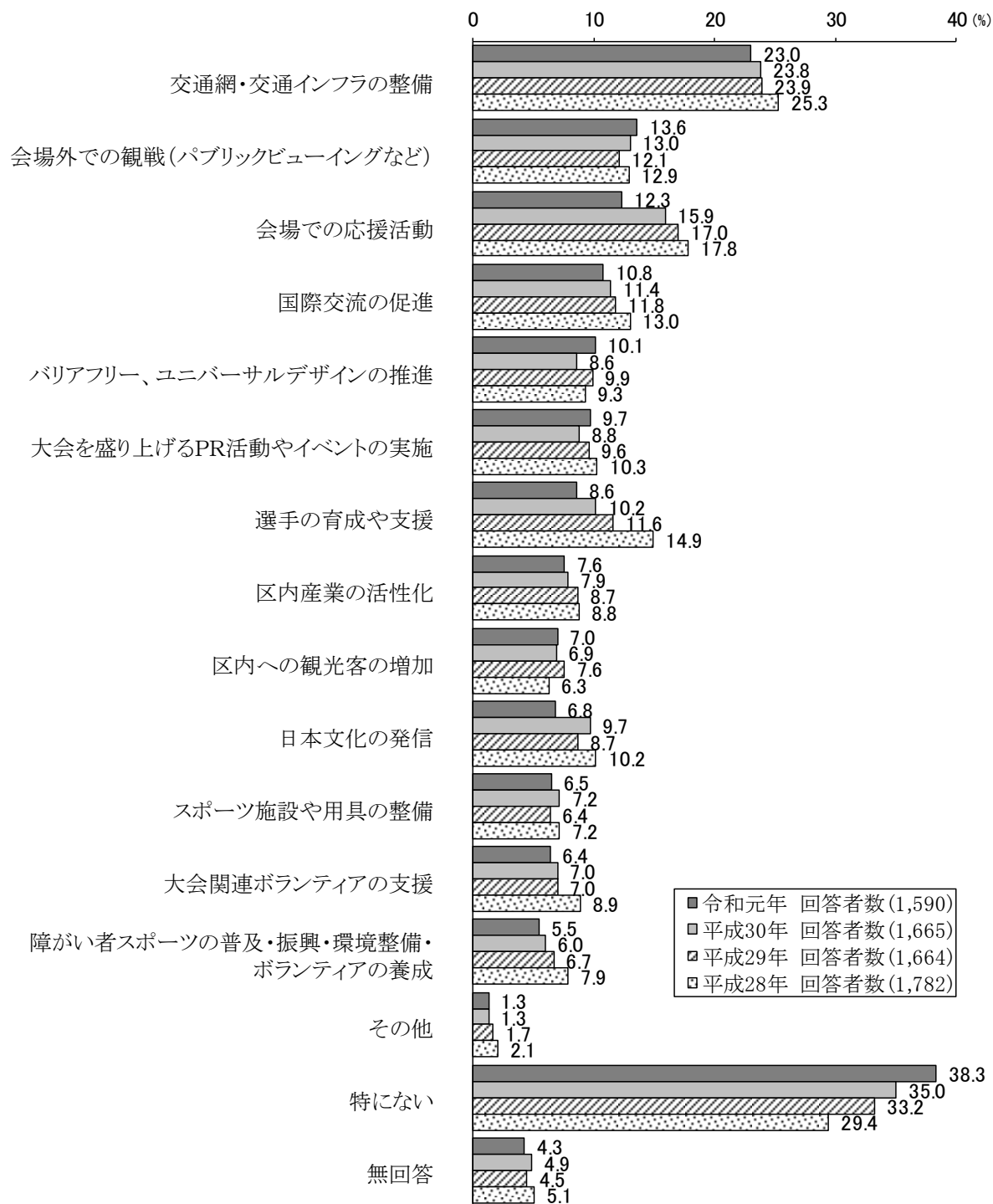


(6) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があること

■ 「交通網・交通インフラの整備」が2割強で最多も、「特にない」が4割弱に達する

問29 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みに関心があることは何ですか（〇は3つまで）。

図6-6-1 経年比較  
 ／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みに関心があること





2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みで関心のあることとしては、「交通網・交通インフラの整備」が23.0%で最も高く、以下「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」（13.6%）、「会場での応援活動」（12.3%）、「国際交流の促進」（10.8%）、「バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進」（10.1%）の順が続いている。一方、「特にない」が38.3%となっている。

経年でみると、順位や比率に大きな変化はみられないものの、今回の上位4項目の中で、次点の「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」以外の3項目は、最近3年間に亘って各年微減を続けて漸減傾向にあり、一方、「特にない」は3年続けて漸増傾向がみられる。

第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

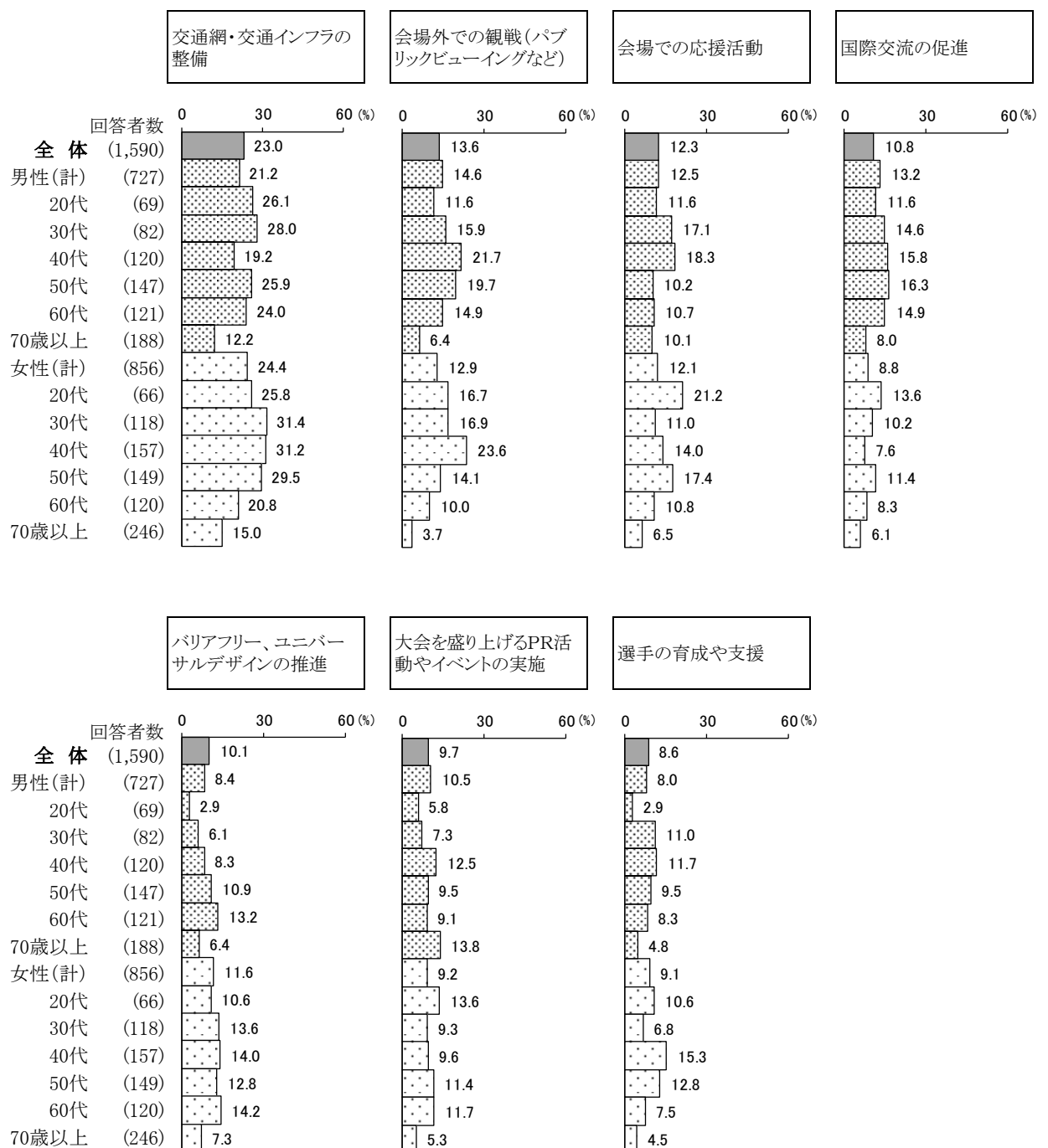
性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、男性では、「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」は40代と50代が2割前後で、「会場での応援活動」は30代と40代で2割弱と、それぞれ他の年代に比べてやや高くなっている。

女性では、「交通網・交通インフラの整備」は30代から50代の3年代層が3割前後で、「会場外での観戦（パブリックビューイングなど）」は40代が2割台半ばで、「会場での応援活動」は20代が2割強で、それぞれ他の年代に比べてやや高くなっている。

図6-6-2 性別、性・年代別

／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の取り組みで関心があること／上位7項目

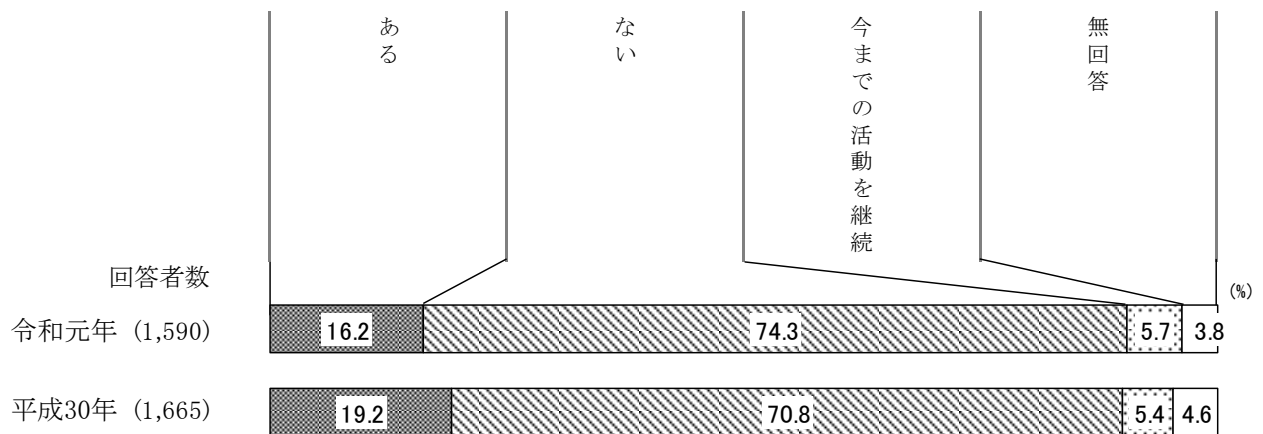


(7) 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無

■ 新たに始めたい活動がある人は1割台半ばみられるも、「ない」が7割台半ばと多数

問30 東京2020大会はスポーツ・文化の祭典です。さらに、ボランティアが活躍できる場でもあります。そこで、あなたが新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動などがありますか（○は1つだけ）。

図6-7-1 前回調査比較／新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無をみると、「ある」が16.2%、「ない」が74.3%、「今までの活動を継続」が5.7%となっている。

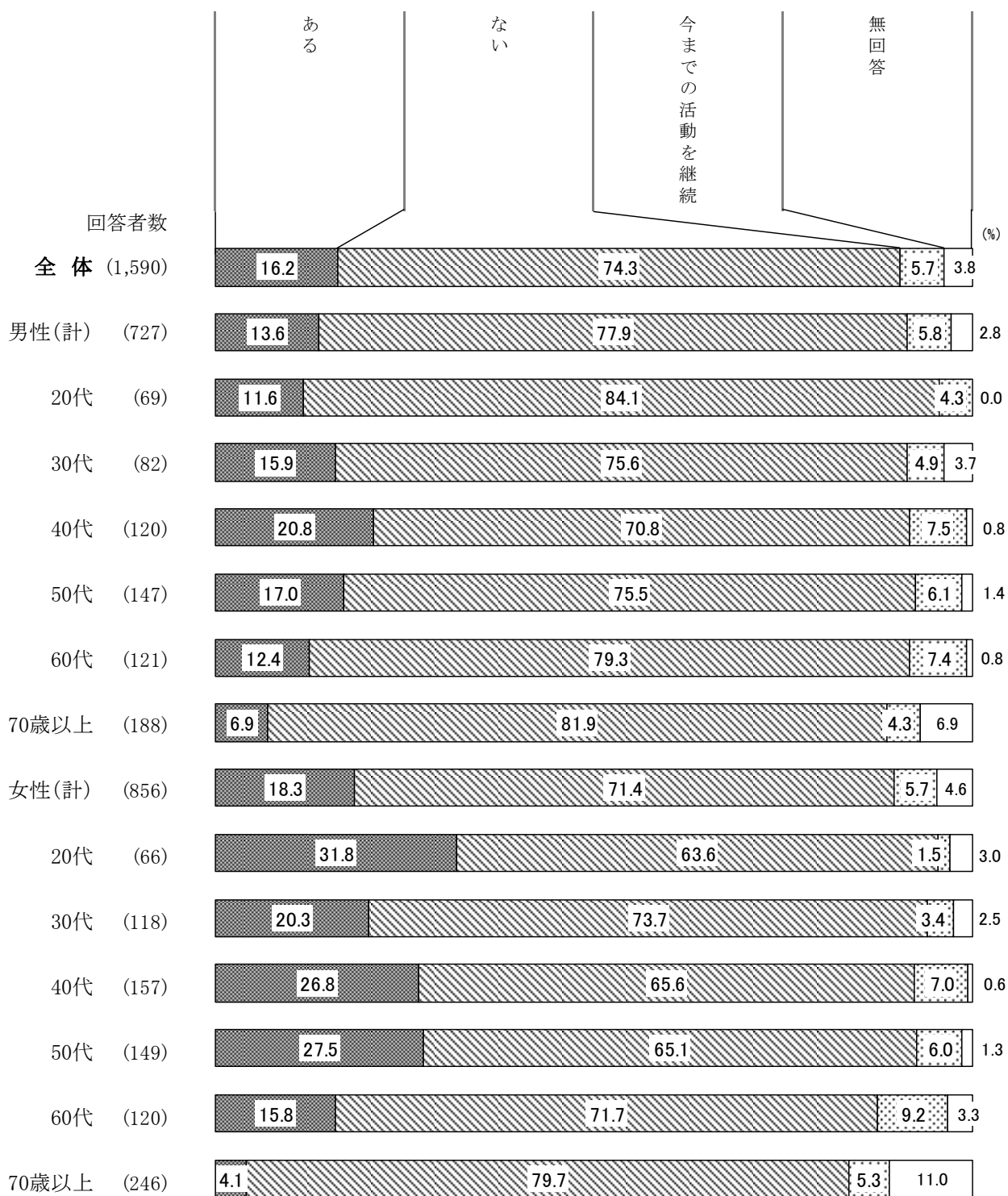
今回の結果を前回と比較すると、大きな変化はみられないものの、「ある」は3.0ポイント減少し、「ない」は3.5ポイント増加している。

### 第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、大きな違いはみられないが、「ある」は女性18.3%で、男性（13.6%）よりやや高くなっている。

性・年代別でみると、「ある」は、男性では40代の20.8%をピークに、若年や高年になるにつれてその比率は下がる傾向がみられるが、女性では20代が31.8%で最も高く、40代と50代が26.8%、27.5%で続いて、他の年代に比べて高くなっている。

図6-7-2 性別、性・年代別／新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無



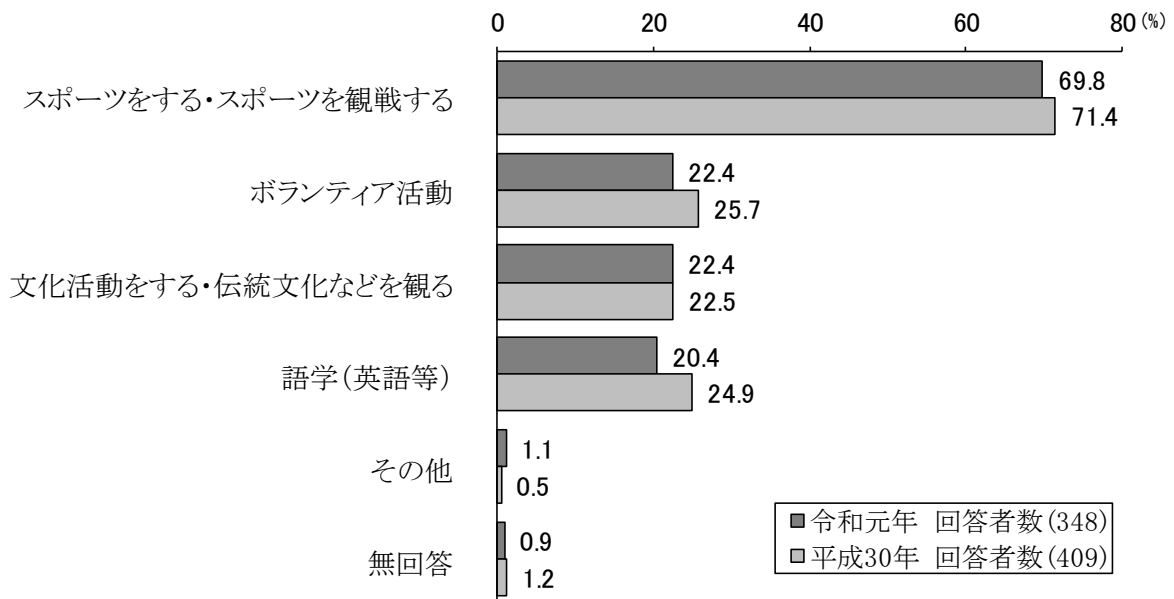
(8) 新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動

■ “スポーツをする・観戦する”が約7割

問30で「1. ある」、または「3. 今までの活動を継続」とお答えの方に

問30-1 それは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図6-8-1 前回調査比較／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動がある、または、今までの活動を継続と回答した人に対して、活動の内容を聞いたところ、「スポーツをする・スポーツを観戦する」が69.8%で最も高く、以下「ボランティア活動」と「文化活動をする・伝統文化などを観る」(各22.4%)、「語学(英語等)」(20.4%)の3項目が2割強で並んで続いている。

前回の結果と比較しても、「語学(英語等)」が前回より4.5ポイント減少しているのを除くと、比率や順位に大きな違いはみられない。

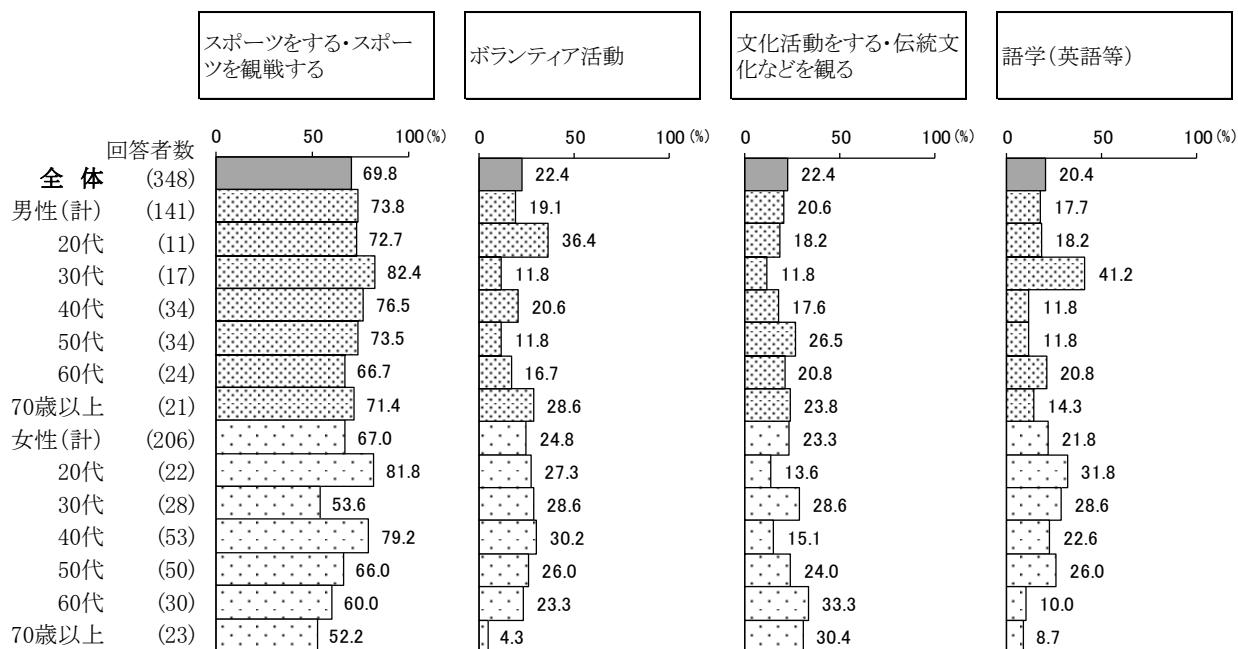
### 第3章 調査結果の分析 〈スポーツ〉

性別でみると、男女で大きな差はみられないが、男性の方がやや高い「スポーツをする・スポーツを観戦する」を除く他の3項目は、いずれも女性の方がやや高めとなっている。

性・年代別でみると、「スポーツをする・スポーツを観戦する」は、男性では30代で、女性では20代と40代で、それぞれ8割前後と高い。「ボランティア活動」は、男性では20代で高いが、女性では70歳以上を除いて年代差があまりみられない。「文化活動をする・伝統文化などを観る」は、女性の60代と70歳以上が33.3%、30.4%と高いが、男性では50代が26.5%で最も高くなっている。「語学(英語等)」は、男性30代が41.2%でとくに高く、女性では20代と30代が31.8%、28.6%と他の年代よりやや高くなっている。

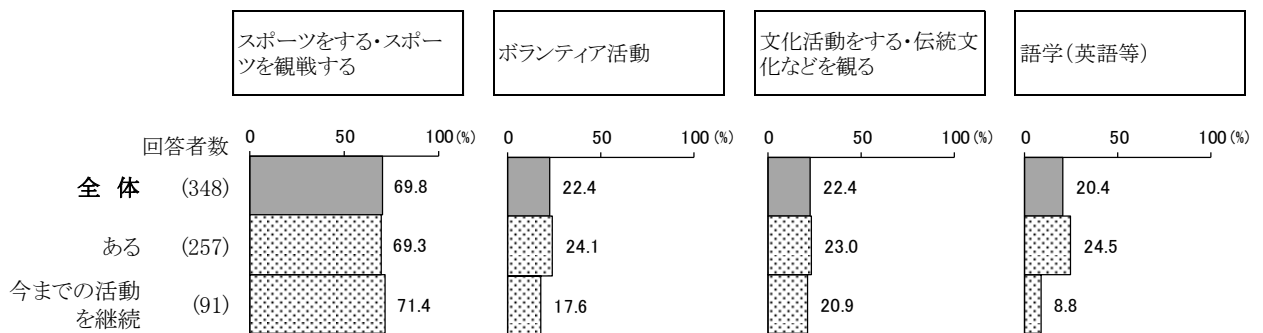
図6-8-2 性別、性・年代別

／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動／上位4項目



新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動があると回答した層、および、今までの活動を継続と回答した層別にみると、「語学（英語等）」を除く3項目については層別による大きな違いはみられないが、「語学（英語等）」は、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動があると回答した層で24.5%と高く、今までの活動を継続とした層の8.8%を大きく上回っている。

図6-8-3 新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無別  
 ／新たに始めたい、または活動を継続したいスポーツ、文化、ボランティア活動／上位4項目



(9) スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ

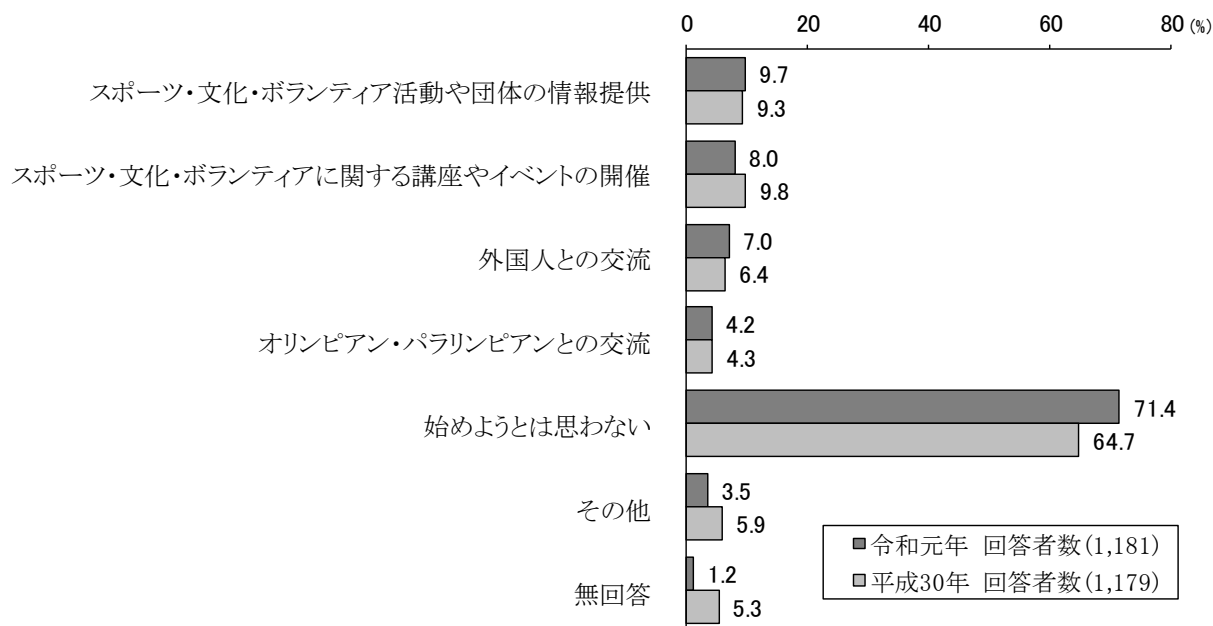
■ “情報提供”が約1割で最多も、「始めようとは思わない」が7割強に達する

問30で「2. ない」とお答えの方に

問30-2 どのようなきっかけがあれば始めてみようと思いますか

(○はあてはまるものすべて)。

図6-9-1 前回調査比較/スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動はないと回答した人に対して、どのようなきっかけがあれば始めてみようと思うかを聞いたところ、「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」が9.7%で最も高く、以下、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」(8.0%)、「外国人との交流」(7.0%)の順となっている。一方、「始めようとは思わない」は71.4%となって、7割を超えている。

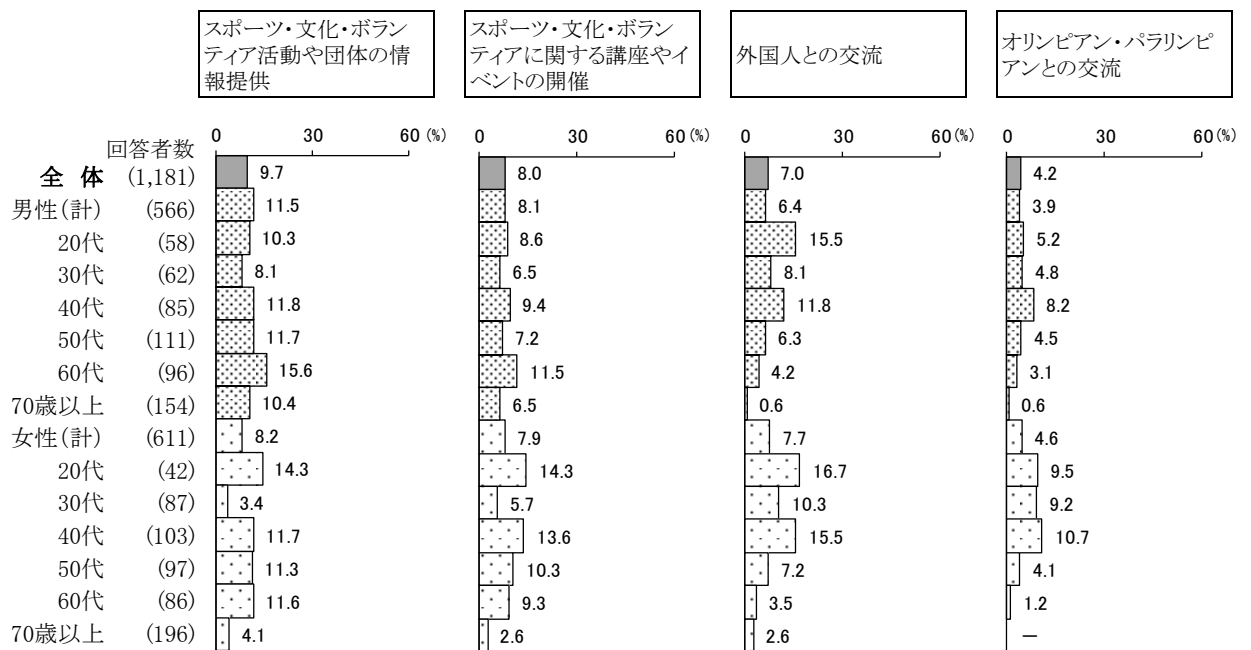
前回結果と比較すると、各項目の比率や順位に大きな変動はみられないが、上位2項目は僅差ながら順位が入れ替わり、「始めようとは思わない」は前回より6.7ポイント増加している。



性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、「スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供」は、男性では60代、女性では20代で、それぞれ1割台半ばとやや高くなっており、「スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催」は女性の20代と40代でやや高く、「外国人との交流」は男女の20代と女性の40代でやや高くなってきている。

図6-9-2 性別、性・年代別／スポーツ、文化、ボランティア活動を新たに始めるきっかけ／上位4項目

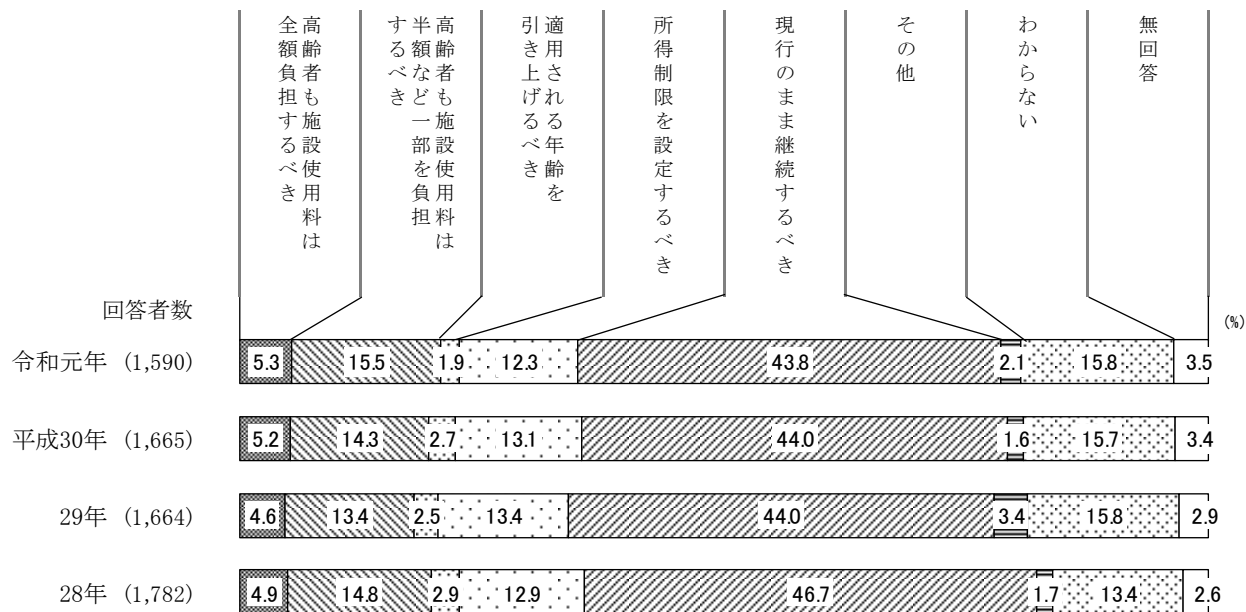


(10) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識

■ 「現行のまま継続するべき」が、これまで同様4割台半ばで主流

問31 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（○は1つだけ）。

図6-10-1 経年比較／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識



スポーツ施設における高齢者免除制度については、「現行のまま継続するべき」が43.8%で最も多く、以下「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担するべき」(15.5%)、「所得制限を設定するべき」(12.3%)の順で続いている。

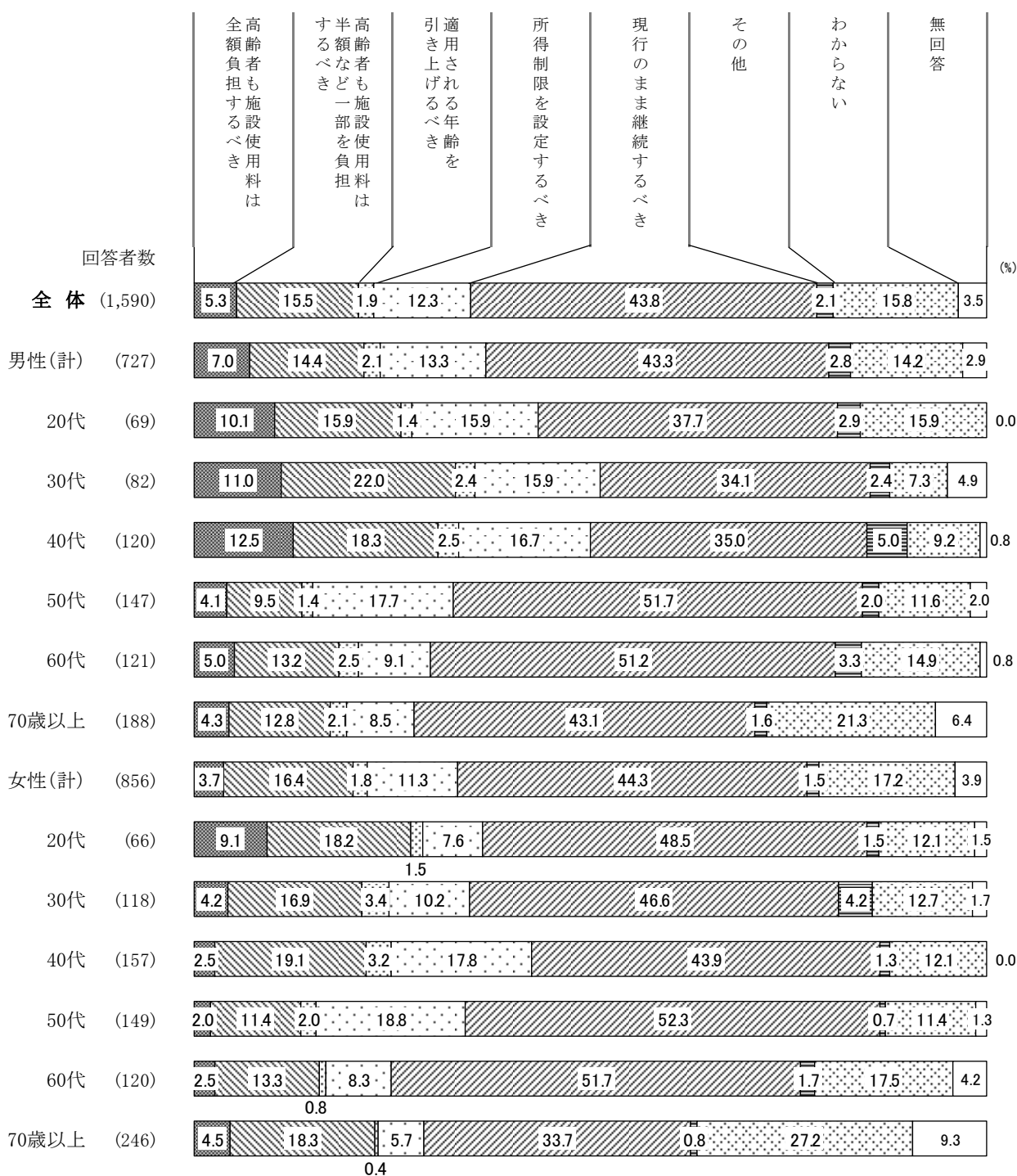
経年でみると、それぞれの回答分布に大きな変化はみられず、4年続けて似通った回答分布となっている。

性別でみると、「現行のまま継続すべき」は男性43.3%、女性44.3%で、他の選択肢の比率も含めて、男女の回答分布に大きな差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代と40代で「高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき」が22.0%、18.3%とやや高く、50代と60代では「現行のまま継続すべき」が51.7%、51.2%とともに5割強で高くなっている。

女性では、40代と50代で「所得制限を設定すべき」が17.8%、18.8%とともに2割弱で高くなっており、50代と60代で「現行のまま継続すべき」がともに5割強と高くなっている。

図6-10-2 性別、性・年代別／区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識





## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

- 
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
  - (2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み
  - (3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況
  - (4) 治安が改善していることの認知
  - (5) 居住地域の治安状況
  - (6) 区内の治安が良いと感じる点
  - (7) 区内の治安が悪いと感じる点
  - (8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと
  - (9) 駐車時の鍵かけ状況
-



## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

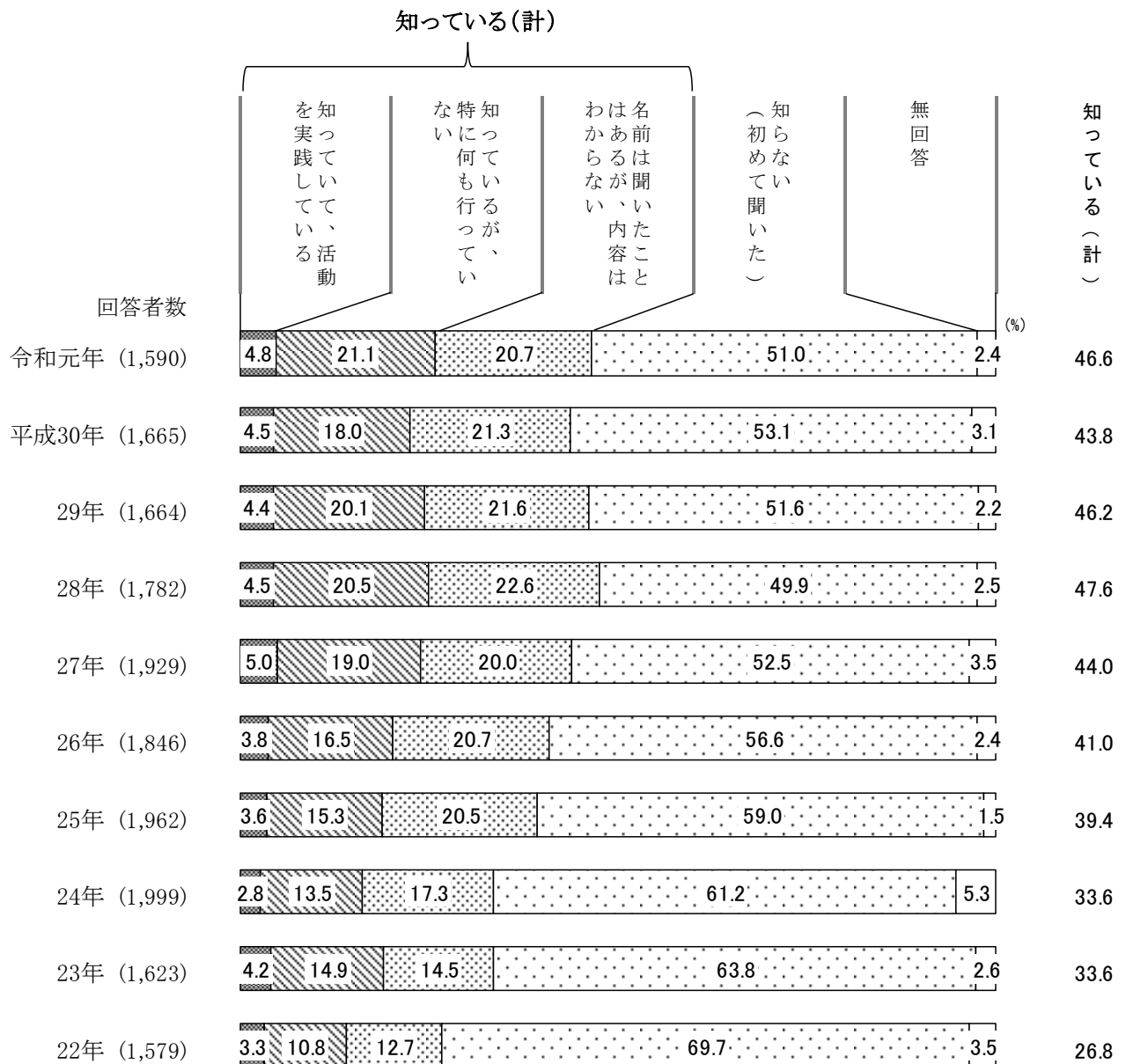
### (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

■ 【知っている】が半数近く

問32 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

図7-1-1 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



### 第3章 調査結果の分析〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

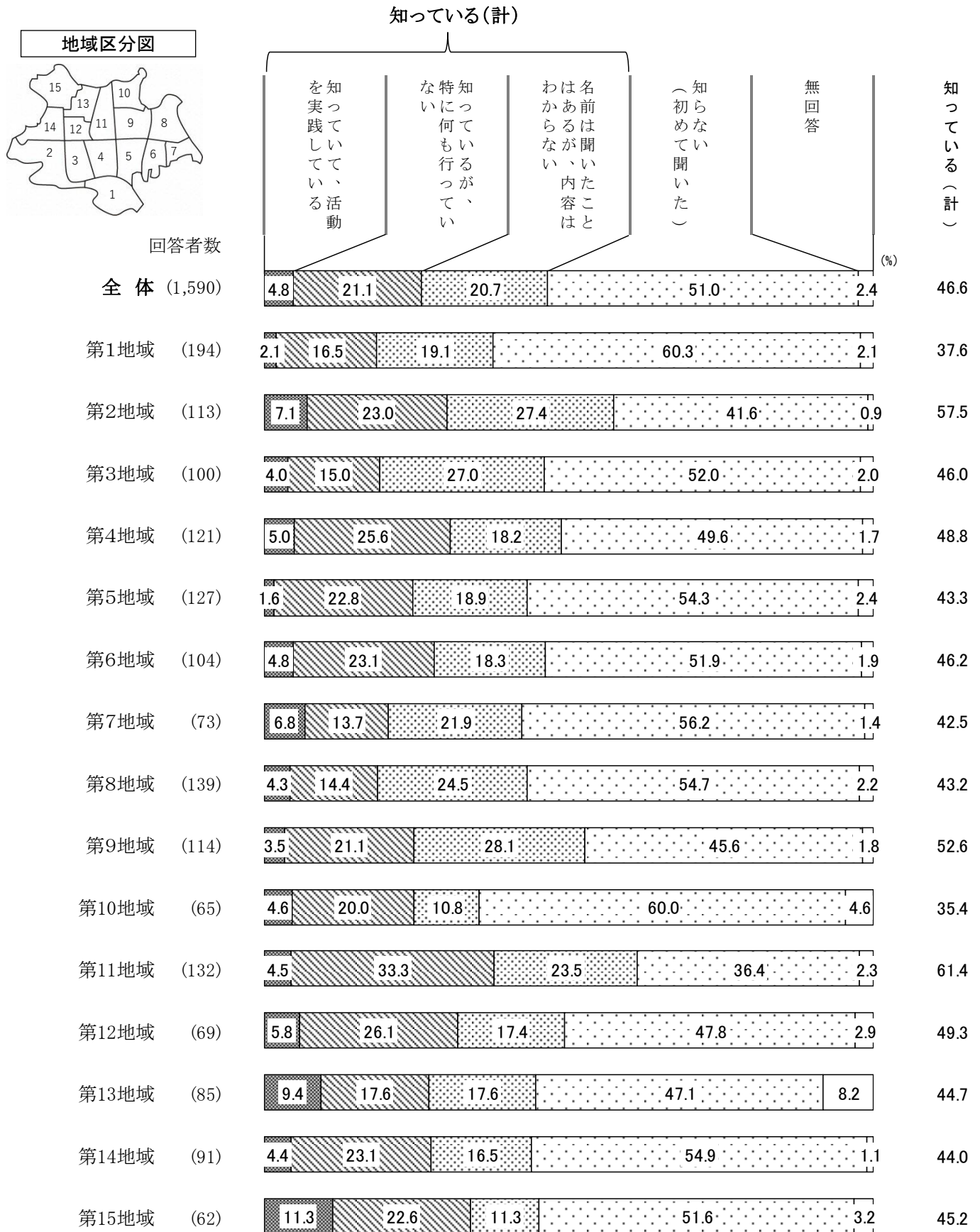
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っていて、活動を実践している」は4.8%で、これに「知っているが、特に何も行っていない」(21.1%)、「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(20.7%)を合わせた【知っている】は46.6%となっている。

経年でみると、【知っている】は、平成28年の47.6%を頂点として平成29年以降は2年続けて微減していたが、今回は46.6%と前回より2.8ポイント増加して平成29年と同水準となっている。



地域別でみると、【知っている】は第11地域で61.4%と最も高いほか、第2地域でも6割弱と高くなっている。

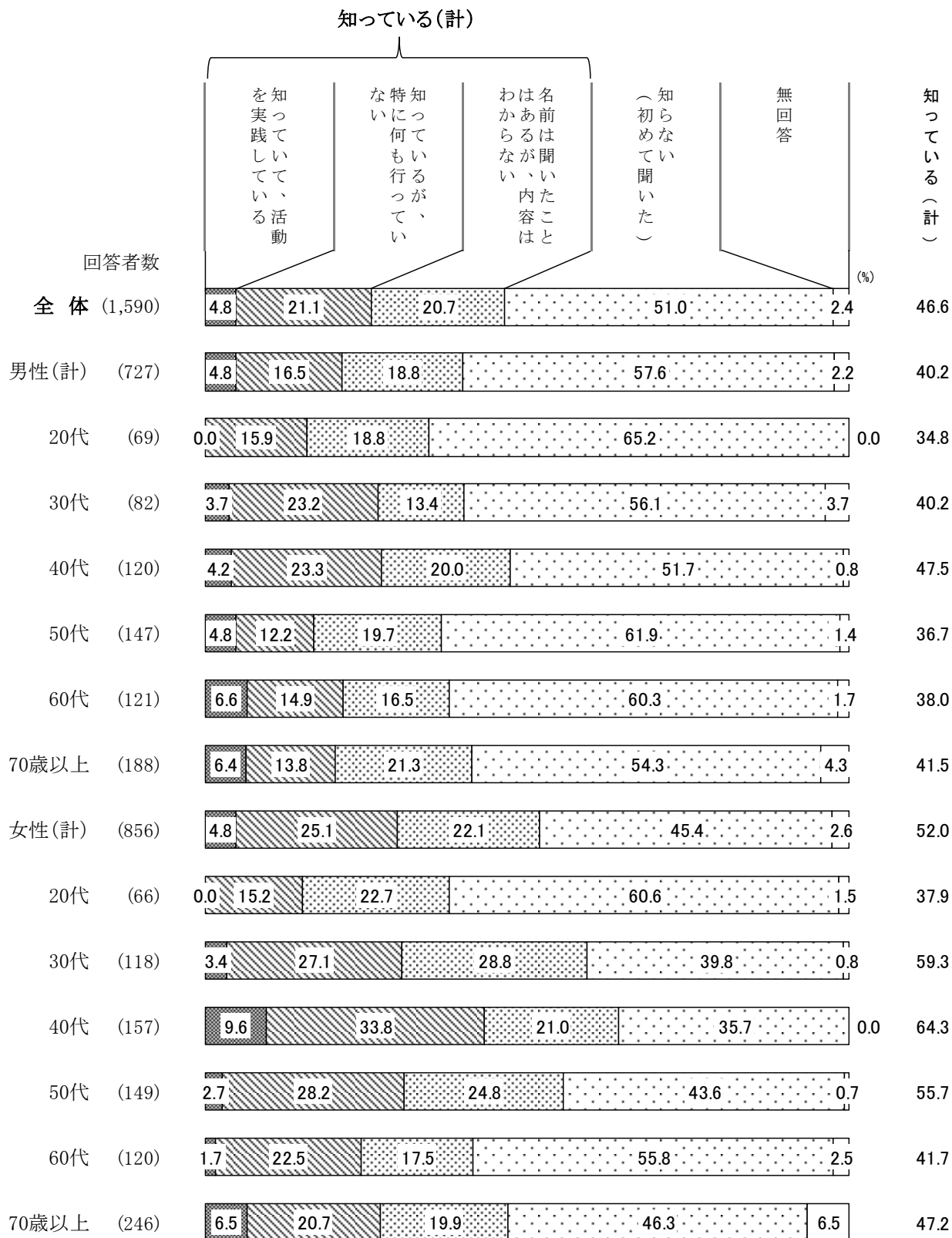
図7-1-2 地域別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、【知っている】は男性40.2%、女性52.0%と、男性より女性が高くなっている。  
 性・年代別でみると、男性では、【知っている】が40代で47.5%と最も高いほか、30代と70歳以上でも4割を超えている。  
 女性では、【知っている】が40代で64.3%と最も高いほか、30代と50代でも5割台後半と高くなっている。

図7-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



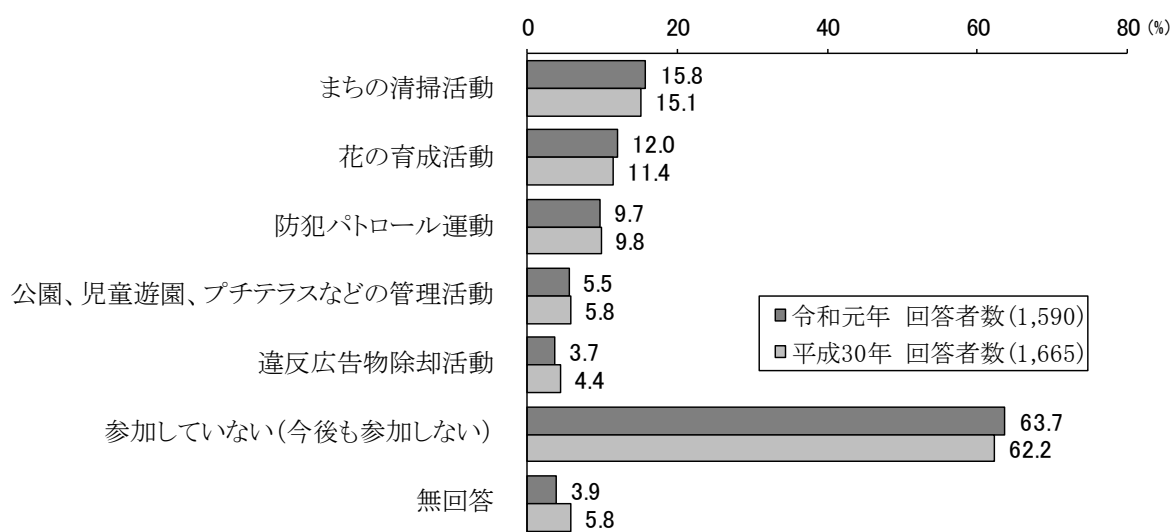
(2) 参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

■ 「まちの清掃活動」が1割台半ばと最多も、「参加していない(今後も参加しない)」が6割台半ばに達する

問33 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関連する取り組みのうち、あなたが現在参加している、もしくは今後参加したいものは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図7-2-1 前回調査比較／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



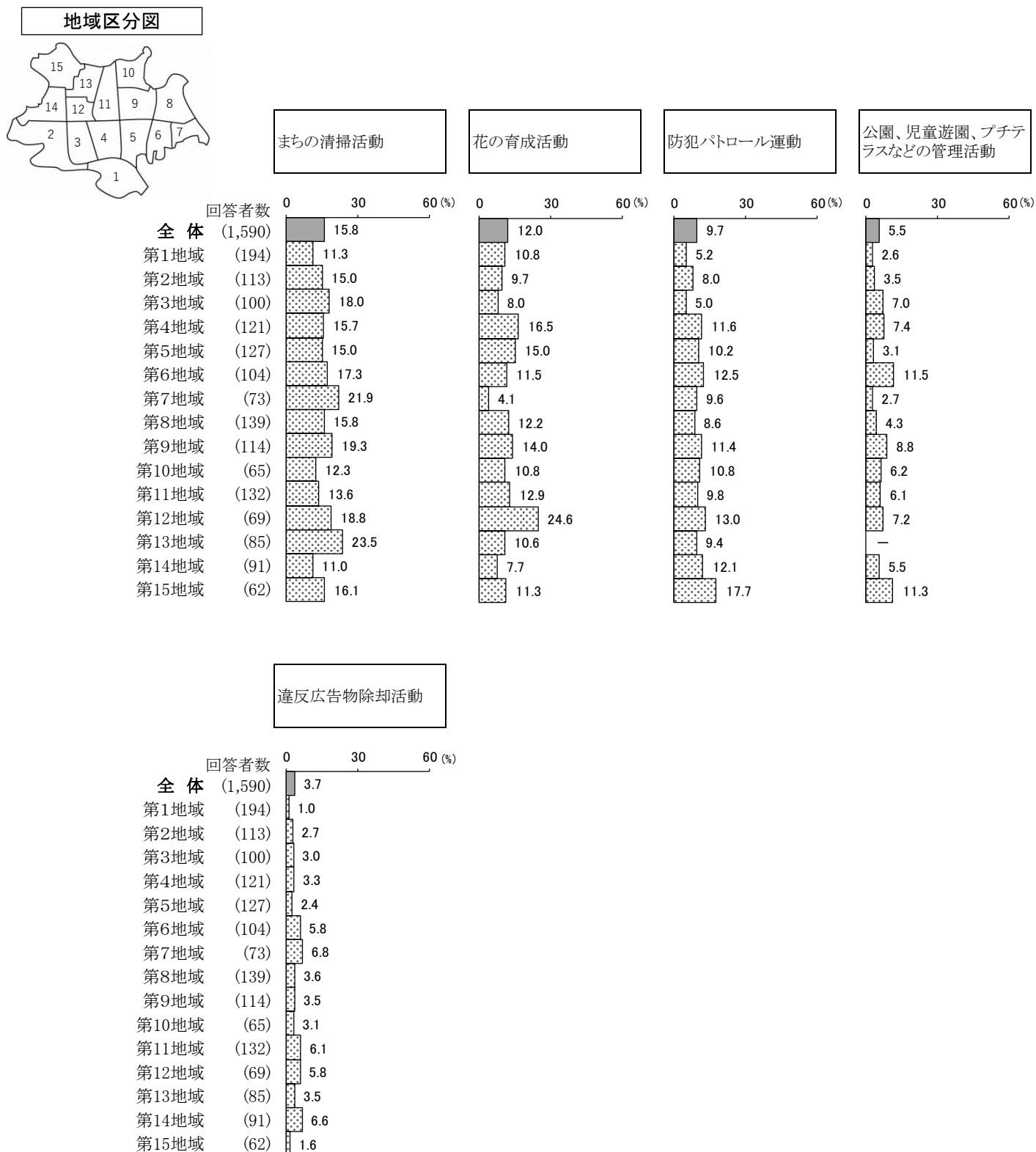
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関する取り組みのうち、現在参加している、もしくは今後参加したい取り組みを聞いたところ、「まちの清掃活動」が15.8%で最も高く、以下「花の育成活動」(12.0%)、「防犯パトロール運動」(9.7%)の順となっている。一方、「参加していない(今後も参加しない)」は63.7%となっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、「まちの清掃活動」は第13地域で23.5%と高くなっている。「花の育成活動」は第12地域で24.6%と高く、「防犯パトロール」は第15地域で17.7%と高くなっている。

図7-2-2 地域別／

参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み

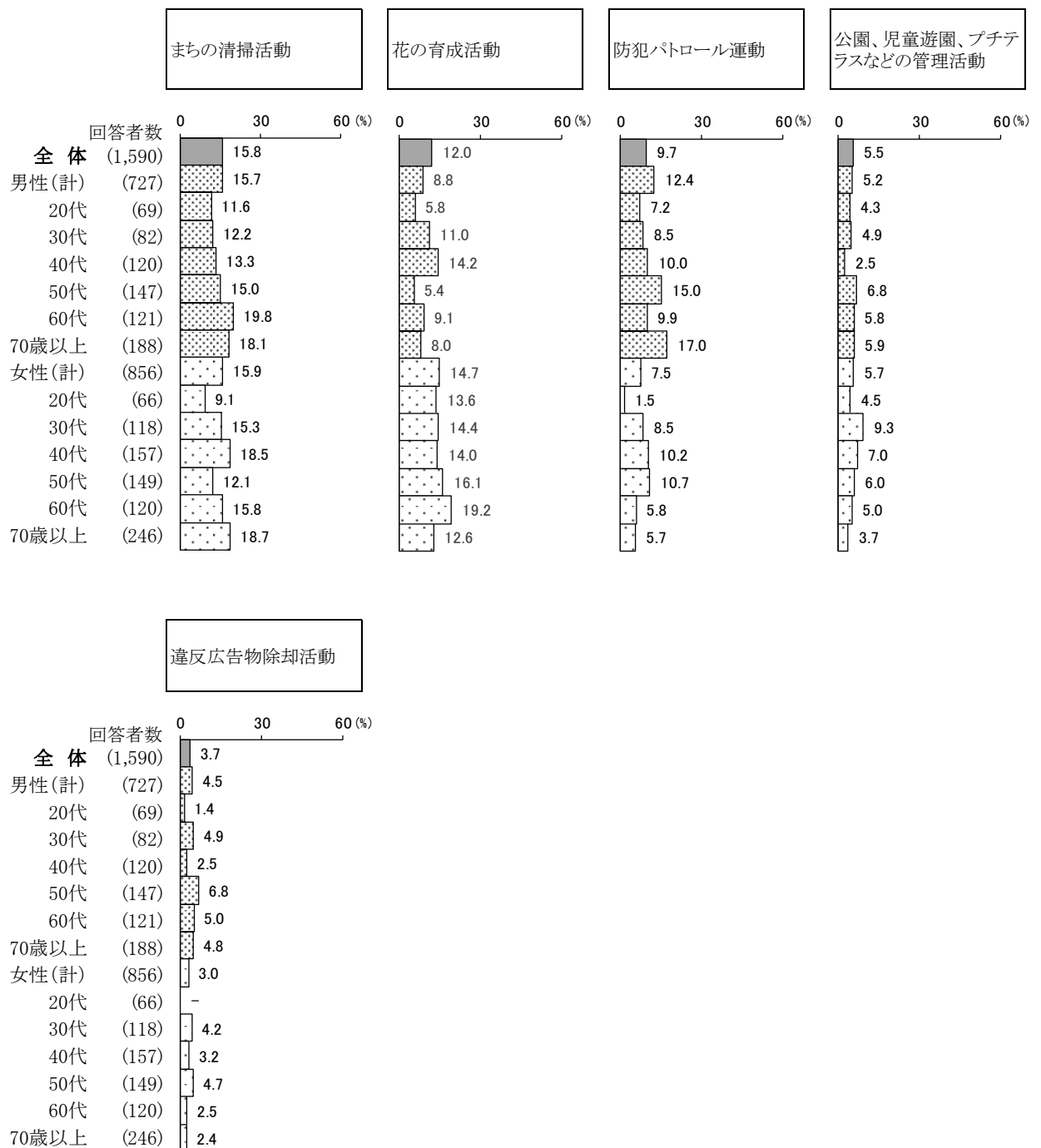


性別でみると、「まちの清掃活動」は男性が15.7%、女性が15.9%でほとんど違いはみられない。また、「花の育成活動」は女性が14.7%と男性（8.8%）を上回って高い。

性・年代別でみると、男性の50代と70歳以上の両層では「防犯パトロール運動」が1割台後半と高くなっている。

女性では、60代で「花の育成活動」（19.2%）が最も高くなっている。また、20代で「まちの清掃活動」が1割未満と低くなっている。

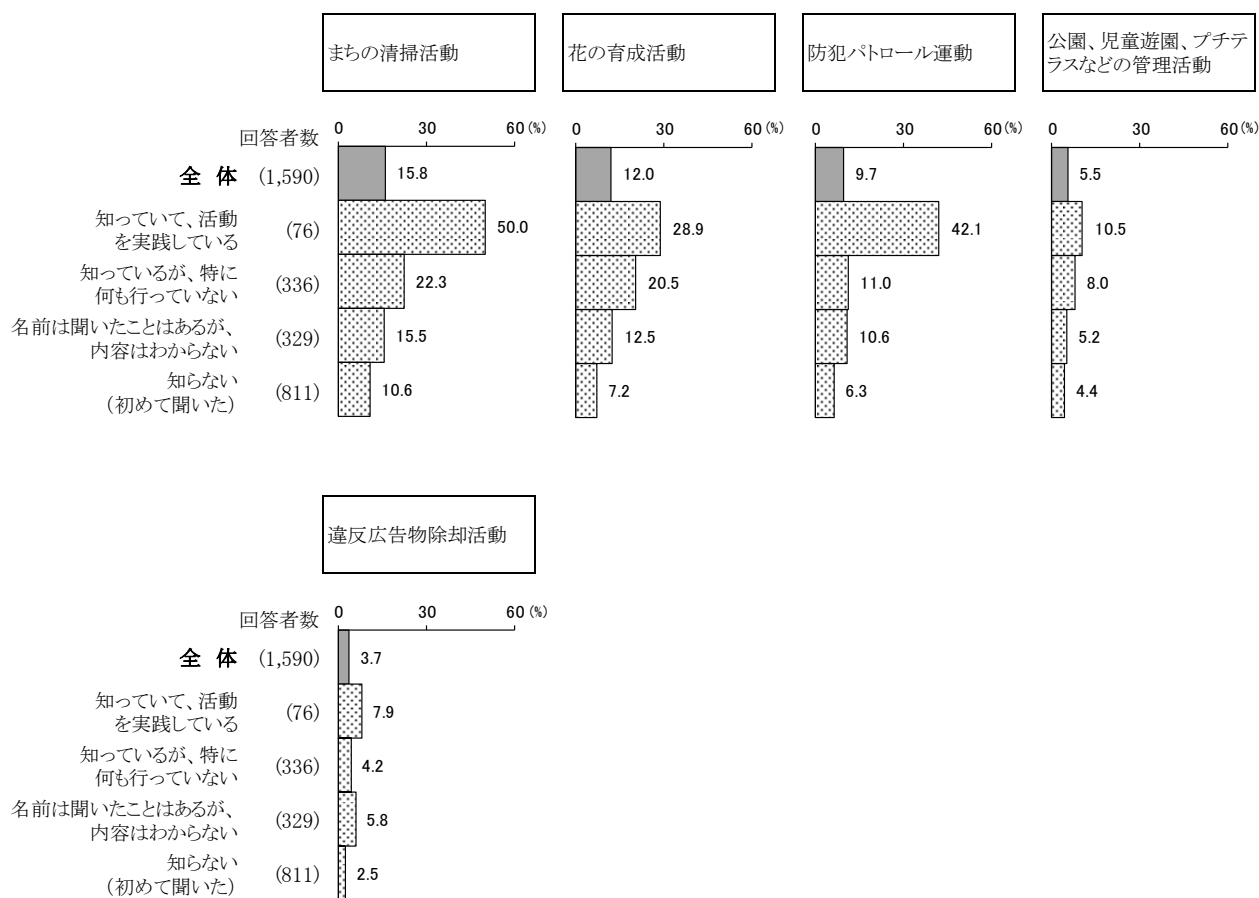
図7-2-3 性別、性・年代別／  
参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



### 第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別にみると、上位3項目については認知・実践レベルが高いほど、それぞれの取り組みに対する参加率、参加意向は高くなる傾向がみられ、その傾向は“知っている、活動を実践している”層でとくに顕著で、「まちの清掃活動」(50.0%)と「防犯パトロール運動」(42.1%)はそれぞれ全体に比べて30ポイント以上高くなっている。

図7-2-4 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況別／  
参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み



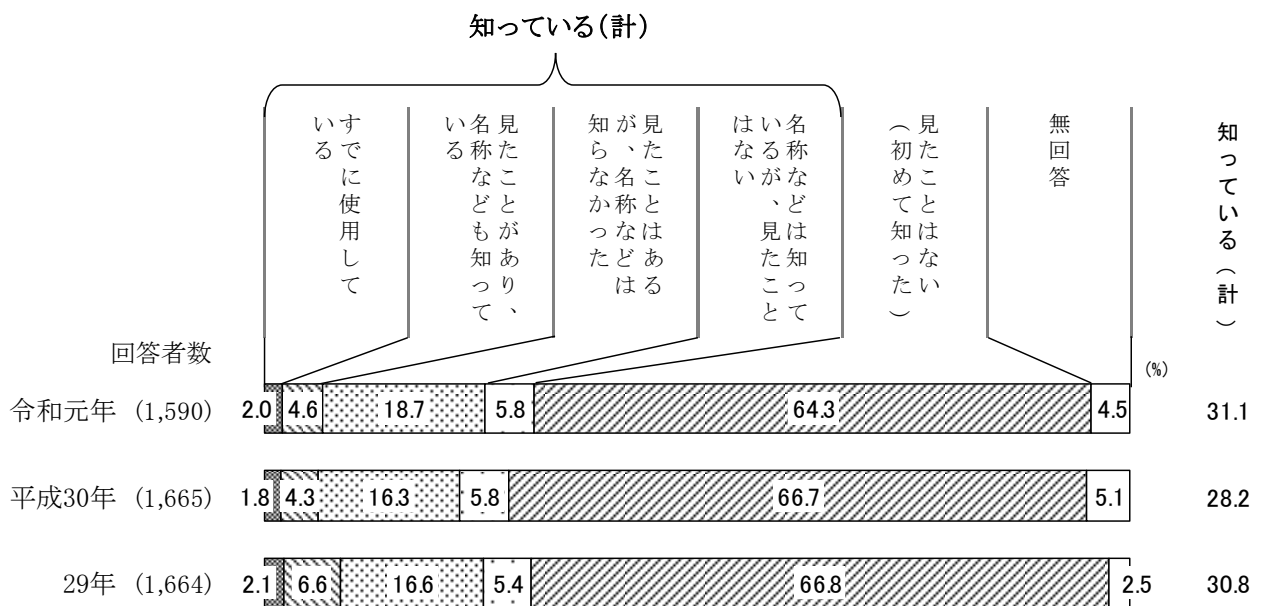
(3) 『花のビュー坊プレート』『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況

■ 「見たことはない（初めて知った）」が6割台半ば

問34 あなたの行動範囲で、「花のあるまちかど事業（※）」の『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』を見たことがありますか（○はそれぞれ1つずつ）。

※ 「花のあるまちかど事業」とは、玄関先や店先で鉢植えやプランターを飾ったり、公園や公共施設などの花壇で花を育てることにより、まちを彩ることと、花の手入れを行う際の人の目で犯罪を抑止しようとする事業です。植木鉢などに『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』をさして、事業をアピールしています。

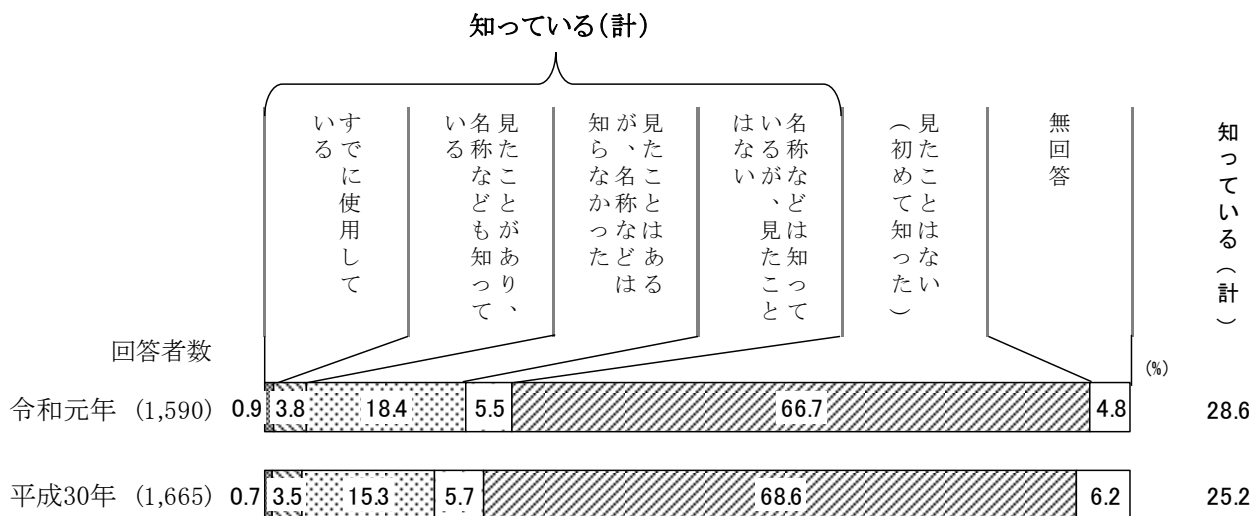
図7-3-1-① 経年比較／『花のビュー坊プレート』の認知状況



『花のビュー坊プレート』を「すでに使用している」は2.0%で、これに「見たことがあり、名称なども知っている」（4.6%）、「見たことはあるが、名称などは知らなかった」（18.7%）、「名称などは知っているが、見たことはない」（5.8%）を合わせた【知っている】は31.1%となっている。一方、「見たことはない（初めて知った）」は64.3%となっている。

経年でみると、今回は【知っている】が31.1%と、平成30年の28.2%から微増しており、これまでの3年の調査の中で最も高くなっている。

図7-3-1-② 前回調査比較／『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況



『ビュー坊のガーデンピック』を「すでに使用している」は0.9%で、これに「見たことがあり、名称なども知っている」(3.8%)、「見たことはあるが、名称などは知らなかった」(18.4%)、「名称などは知っているが、見たことはない」(5.5%)を合わせた【知っている】は28.6%となっている。一方、「見たことはない(初めて知った)」は66.7%となっている。

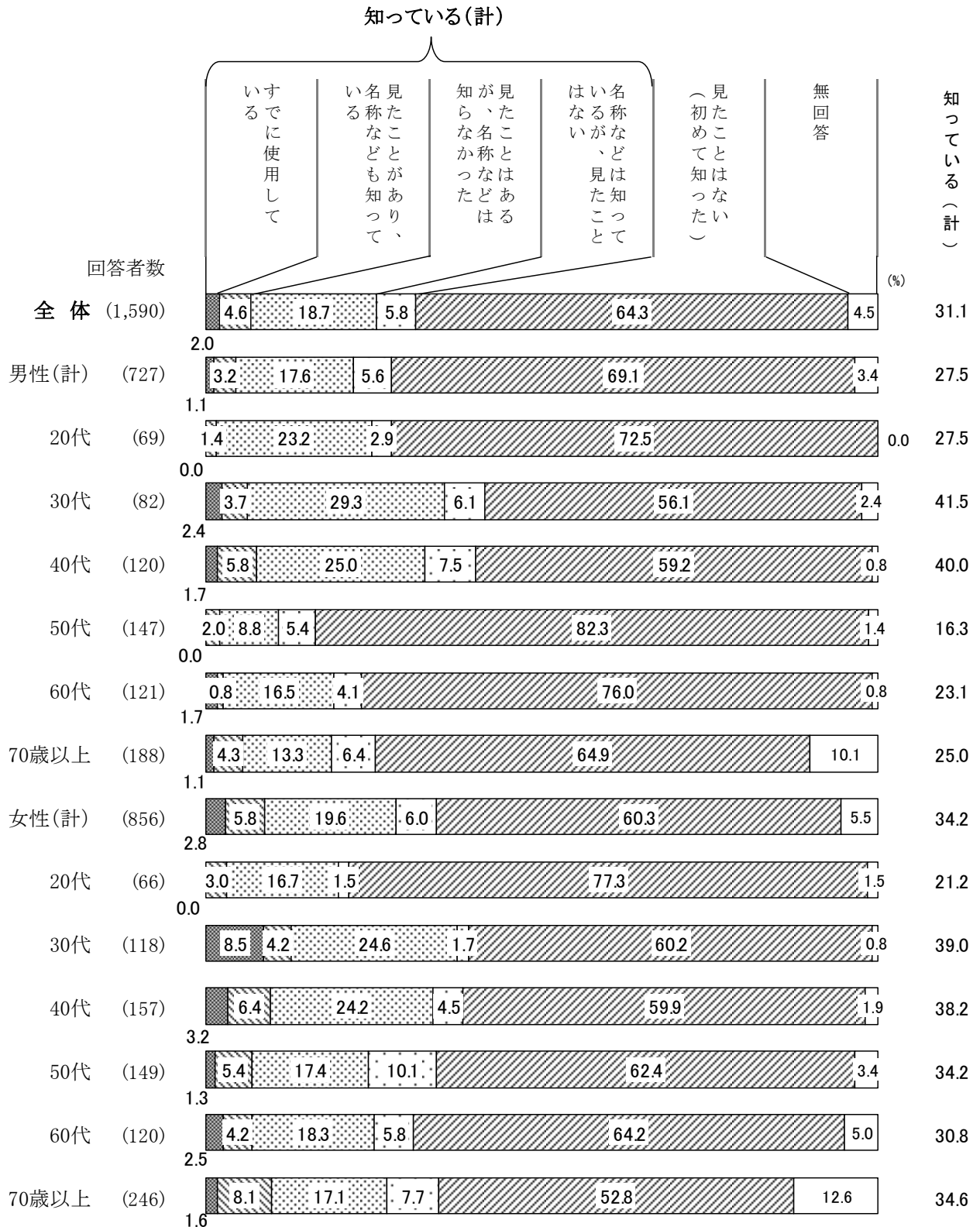
前回と比較すると、【知っている】は今回28.6%で、前回より3.4ポイント増加しており、中では「見たことはあるが、名称などは知らなかった」(平成30年15.3%→令和元年18.4%)で伸びが大きめとなっている。



『花のビュー坊プレート』の認知状況を性別でみると、【知っている】は男性27.5%、女性34.2%で女性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男女ともに30代と40代でそれぞれ4割前後と高くなっている。

図7-3-2-① 性別、性・年代別／『花のビュー坊プレート』の認知状況

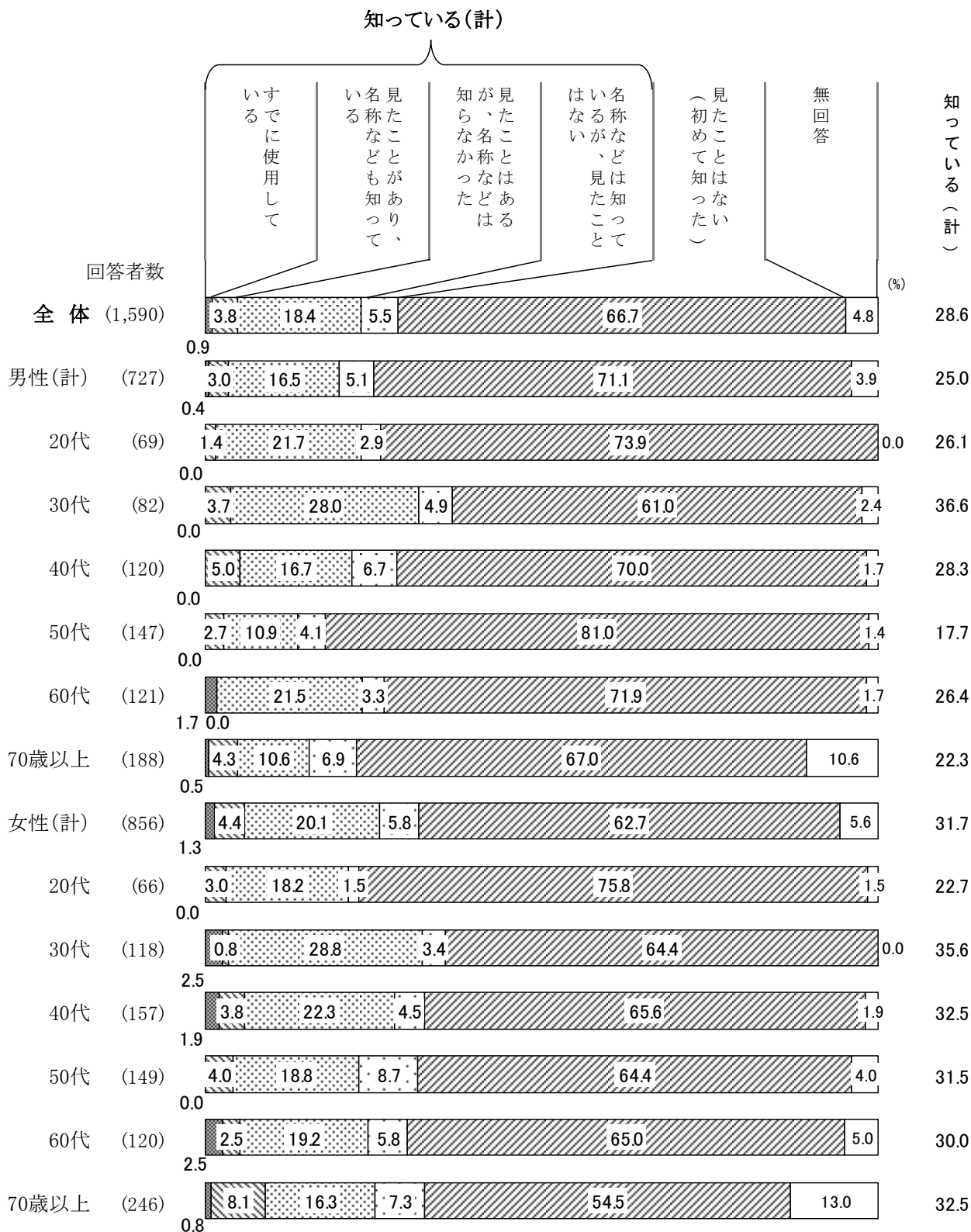


第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況を性別で見ると、【知っている】は、男性25.0%、女性31.7%で、女性の方がやや高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は、男女ともに30代で、それぞれ3割台後半で最も高くなっているが、男性の50代では2割に届かず低くなっている。

図7-3-2-② 性別、性・年代別／『ビュー坊のガーデンピック』の認知状況



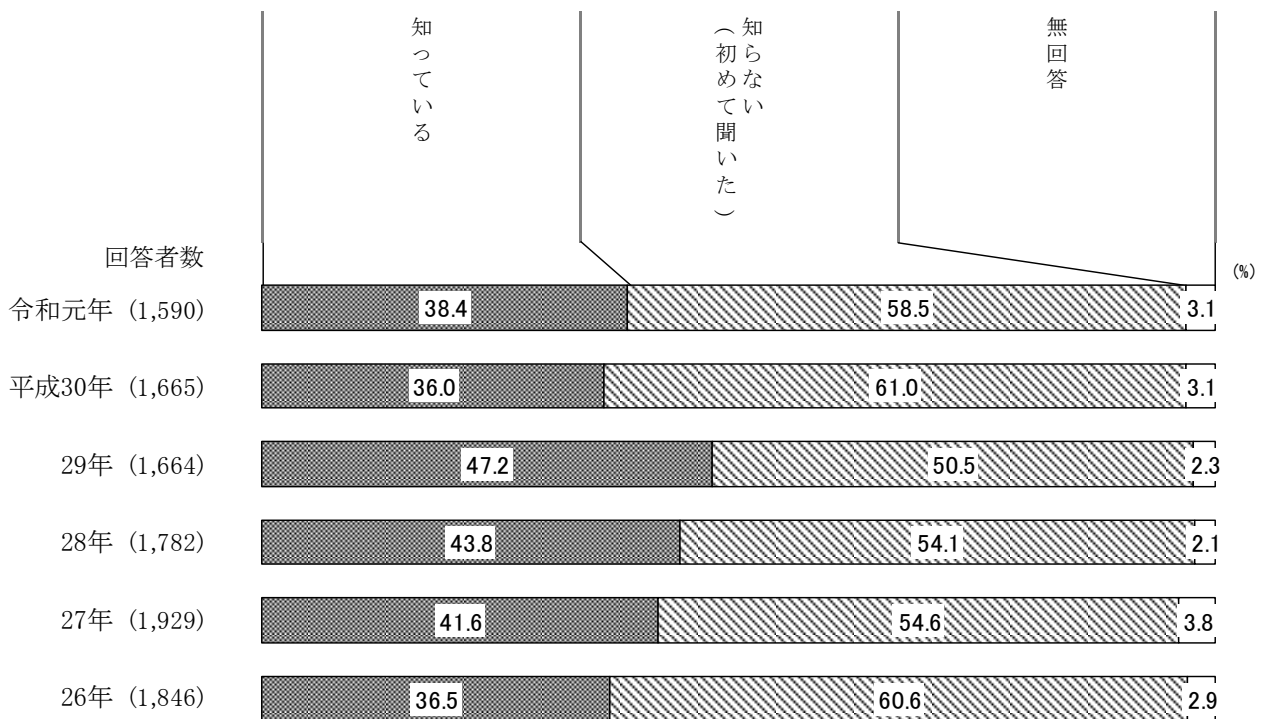
(4) 治安が改善していることの認知

■ 「知っている」が4割弱、「知らない(初めて聞いた)」が6割弱

問35 あなたは、足立区内の刑法犯認知件数(※)がピーク時から1万件以上、減少していることを知っていますか(○は1つだけ)。

※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。

図7-4-1 経年比較/治安が改善していることの認知



※ 平成29年度までの設問文は、「あなたは、平成〇年の足立区内の刑法犯認知件数(※)が減少し、治安が改善していることを知っていますか。※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。」

足立区内の刑法犯認知件数がピーク時から1万件以上、減少していることについて、「知っている」は38.4%である。一方、「知らない(初めて聞いた)」は58.5%となっている。

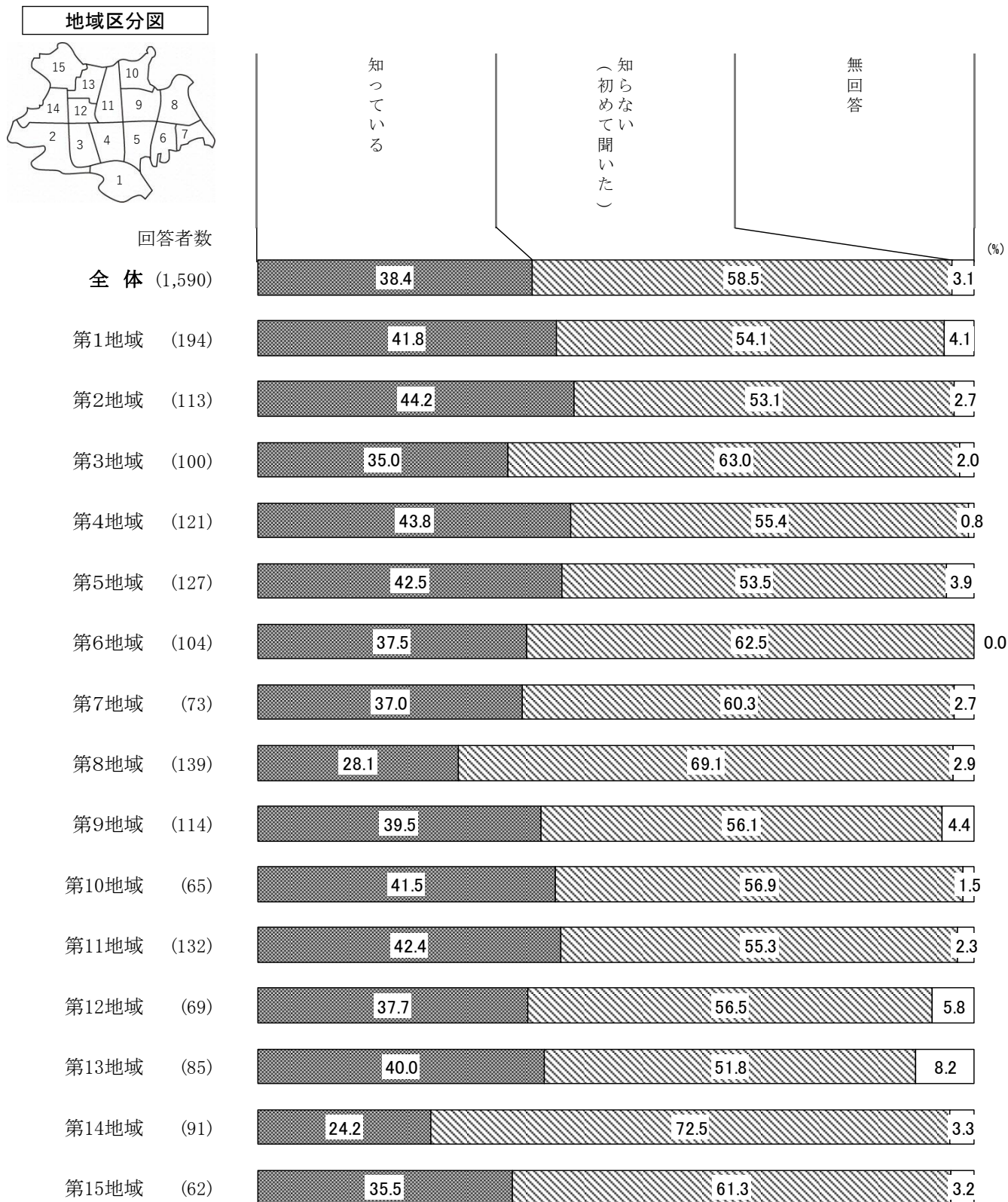
経年でみると、令和元年の「知っている」は38.4%で前回の36.0%から2.4ポイント増加している。

なお、平成26年から平成29年までの調査結果は、設問文が部分的に異なるため参考として掲載するが、単純に比較はできないためコメントはつけていない。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、「知っている」は第2地域で44.2%と最も高く、第1地域、第4地域、第5地域、第10地域、第11地域、第13地域でも4割台とやや高くなっている。一方、「知らない」は第14地域で72.5%と最も高く、第8地域でも7割弱と高くなっている。

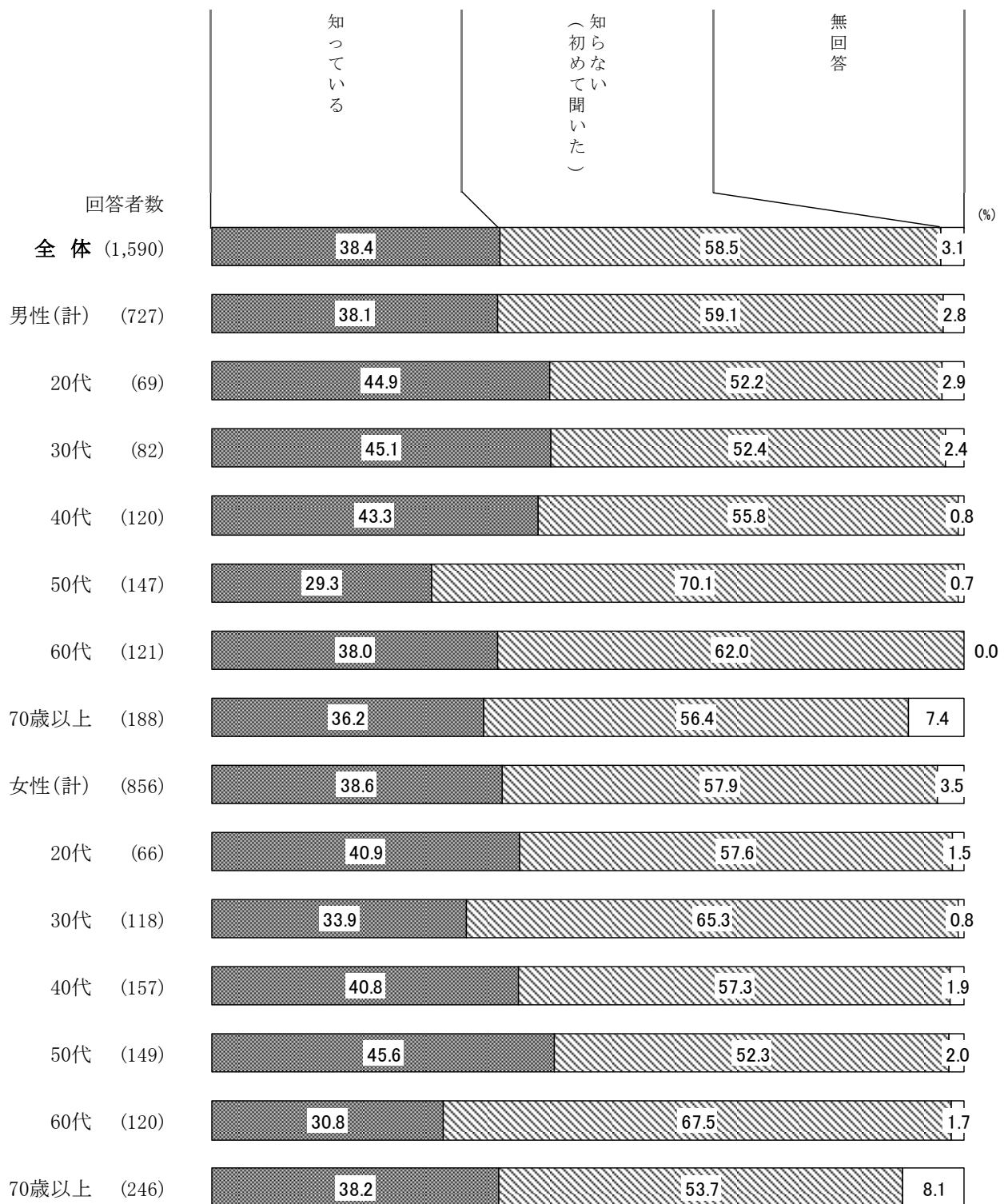
図7-4-2 地域別／治安が改善していることの認知



性別で見ると、「知っている」は男性38.1%、女性38.6%でほぼ同じとなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男性では20代と30代で、女性では50代で、それぞれ4割台半ばと高くなっている。一方、男性の50代と女性の60代では「知っている」がともに3割前後と低くなっている。

図7-4-3 性別、性・年代別／治安が改善していることの認知



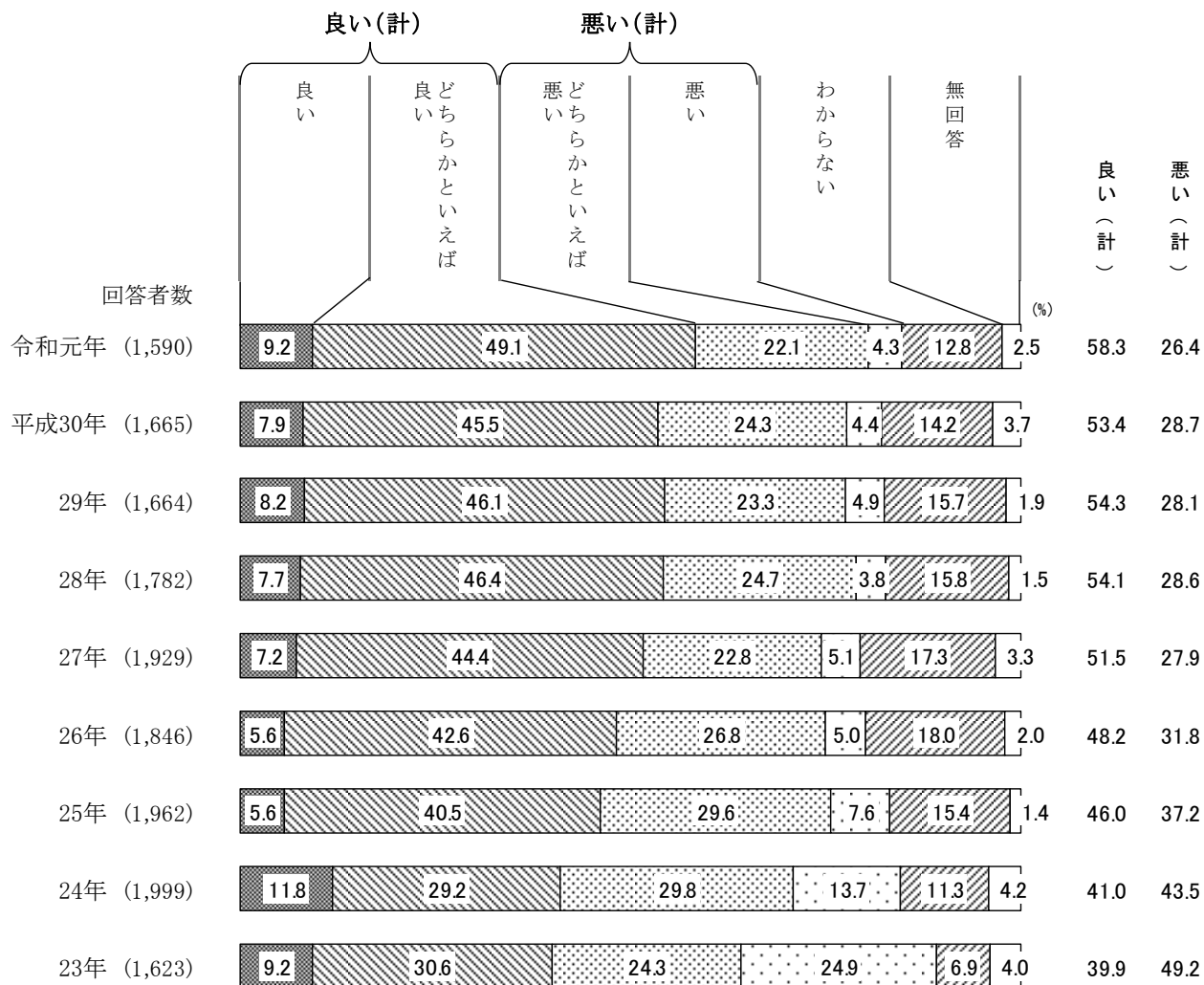
(5) 居住地域の治安状況

■ 【良い】は6割弱で、前回より約5ポイント増加し、平成23年以降の中で最も高い

問36 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか  
（○は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

図7-5-1 経年比較／居住地域の治安状況



住んでいる地域の治安について、「良い」が9.2%で、これに「どちらかといえば良い」の49.1%を合わせた【良い】は58.3%となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(22.1%)と「悪い」(4.3%)を合わせた【悪い】は26.4%である。

経年でみると、【良い】は平成28年以降、ほぼ横ばいの状態となっていたが、今回は58.3%と前回の53.4%から4.9ポイント増加して、初めて聴取した平成23年以降の9年間の中で最も高くなっている。

地域別でみると、【良い】は第1地域で68.0%と最も高く、僅差で第2地域（67.3%）が続き、この両地域で高くなっている。一方、【悪い】は第11地域で37.1%と他の地域に比べて高くなっている。

図7-5-2 地域別／居住地域の治安状況

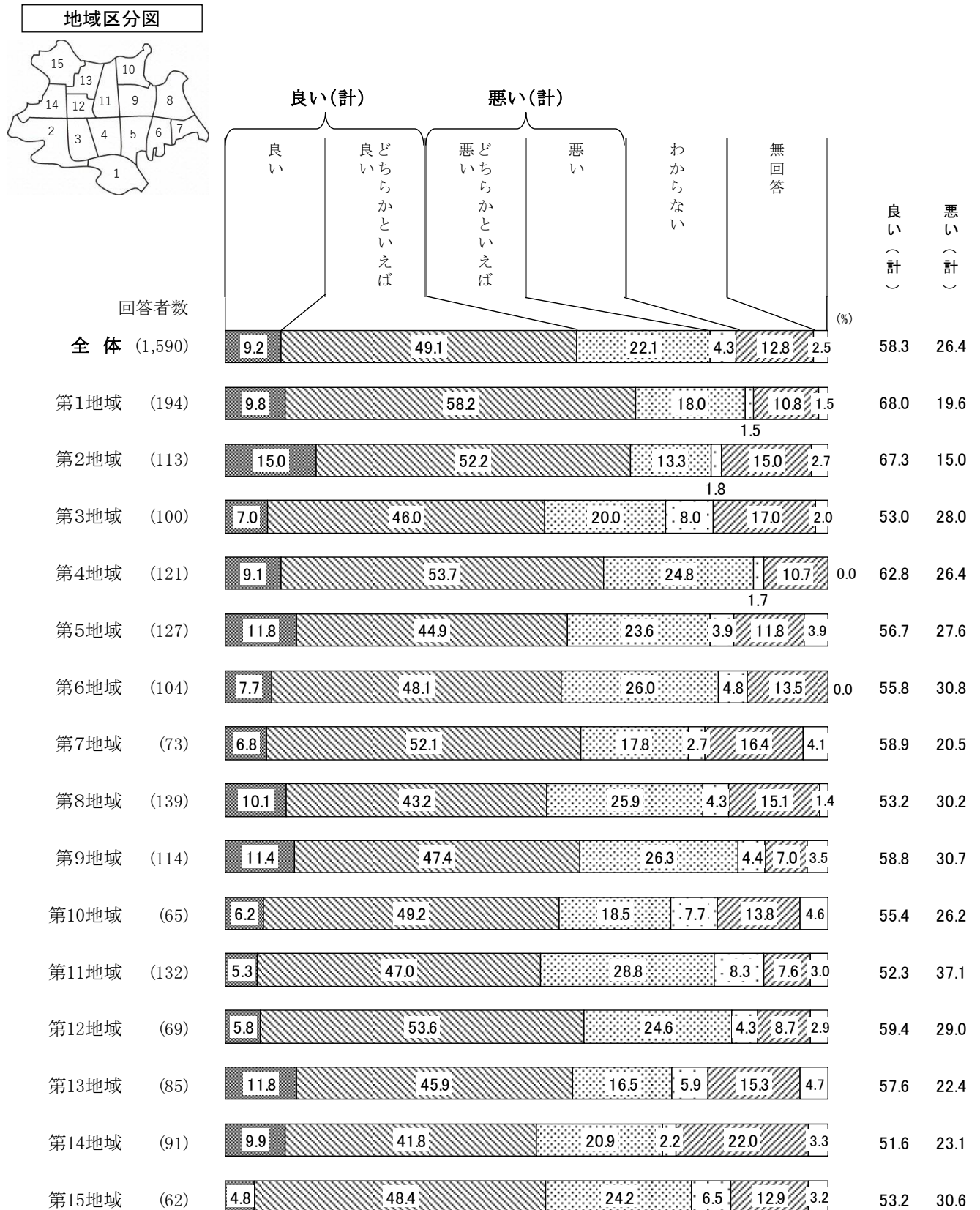
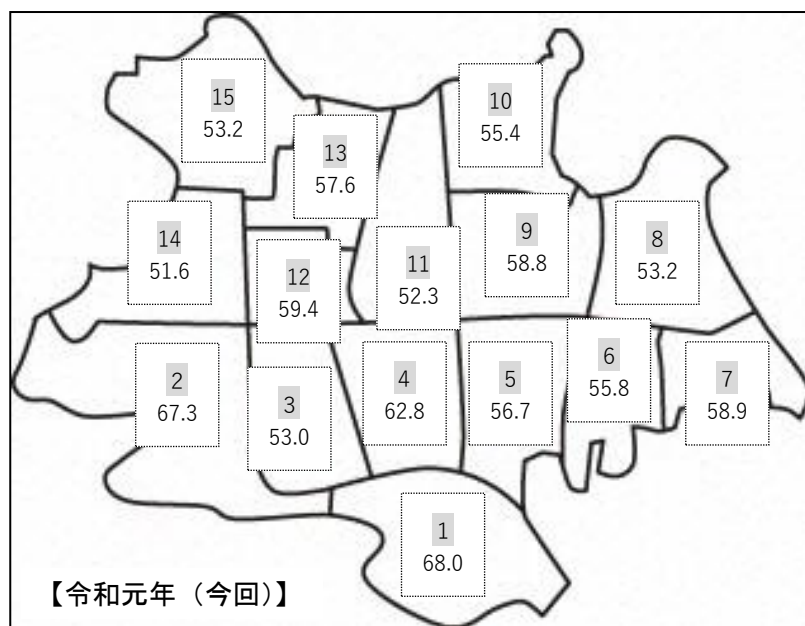
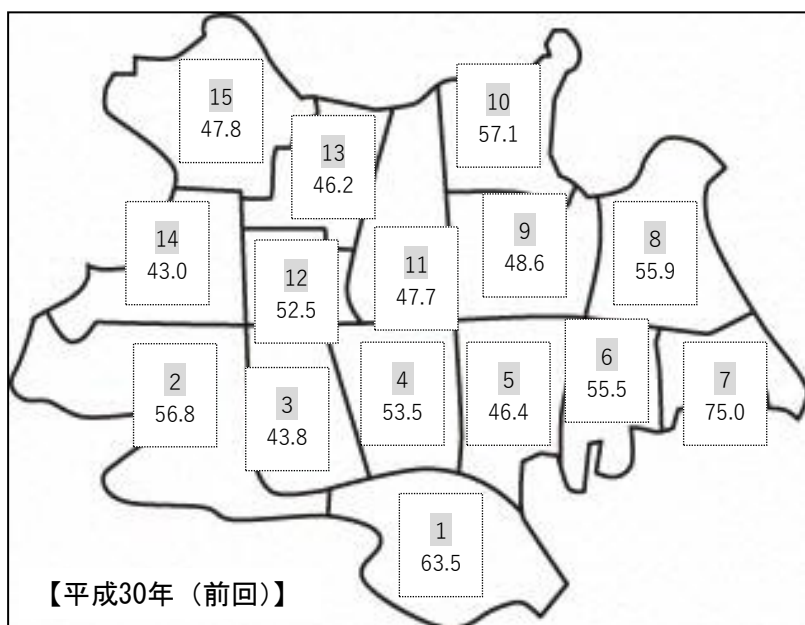


図7-5-3 地域区分図／居住地域の治安状況  
 (上段：地域番号、下段：治安が【良い】と答えた回答者の割合%)



【参考資料】地域区分図／居住地域の治安状況（平成30年世論調査）  
 (上段：地域番号、下段：治安が【良い】と答えた回答者の割合%)

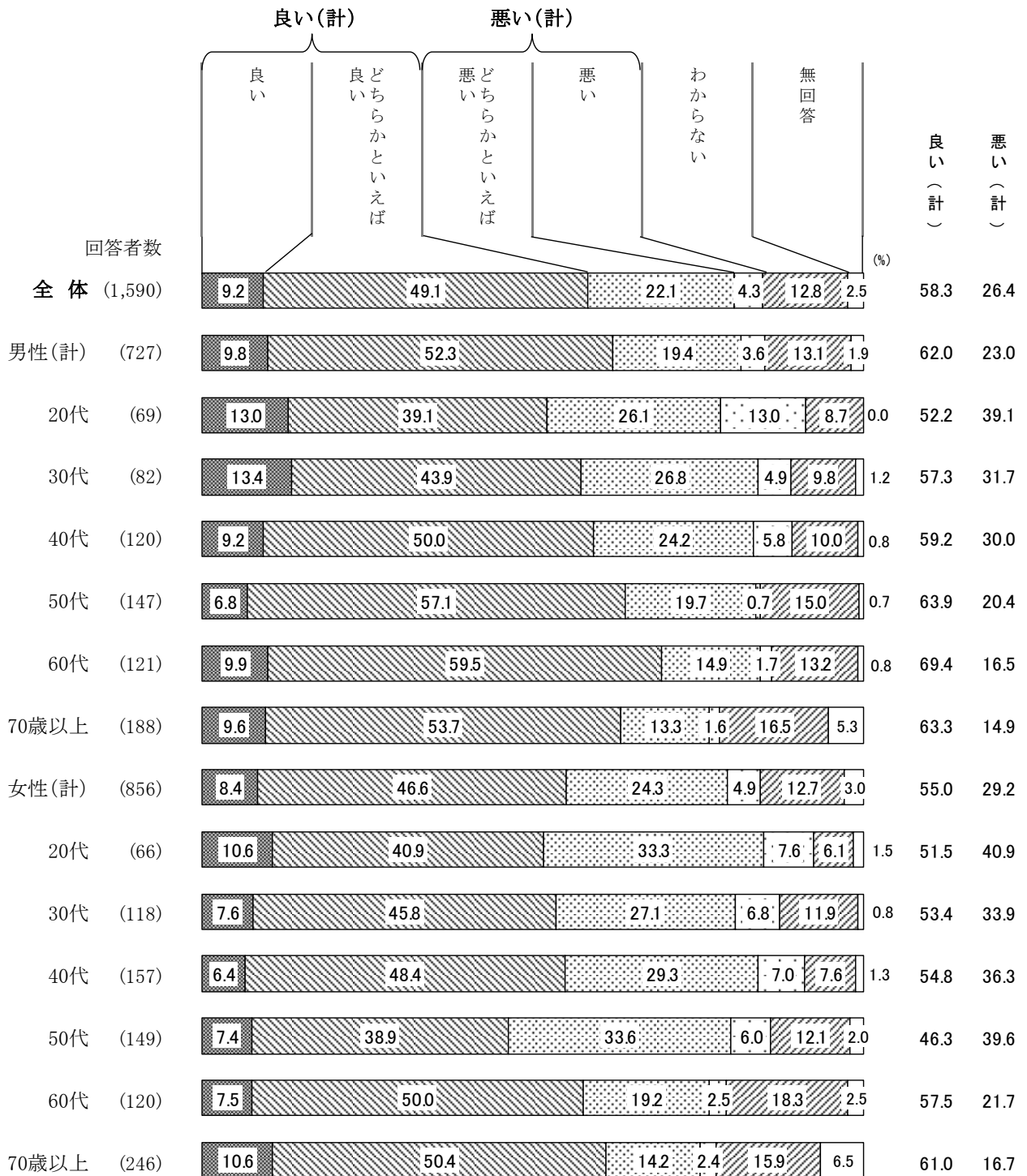




性別でみると、【良い】は男性62.0%、女性55.0%で男性の方が高い。

性・年代別でみると、【良い】は、男性では60代で69.4%と最も高く、50代と70歳以上でもそれぞれ63.9%、63.3%と高くなっている。女性では70歳以上で61.0%と最も高くなっている。一方、男女の20代と女性50代では【悪い】がそれぞれ4割前後と他の性・年代層に比べて高くなっている。

図7-5-4 性別、性・年代別／居住地域の治安状況



(6) 区内の治安が良いと感じる点

■ “犯罪に巻き込まれた人がいないから”が5割弱で最も高いが、各年漸減傾向にある

問36で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に

問36-1 どのような点で治安が良いと感じますか (〇は2つまで)。

図7-6-1-① 経年比較/区内の治安が良いと感じる点

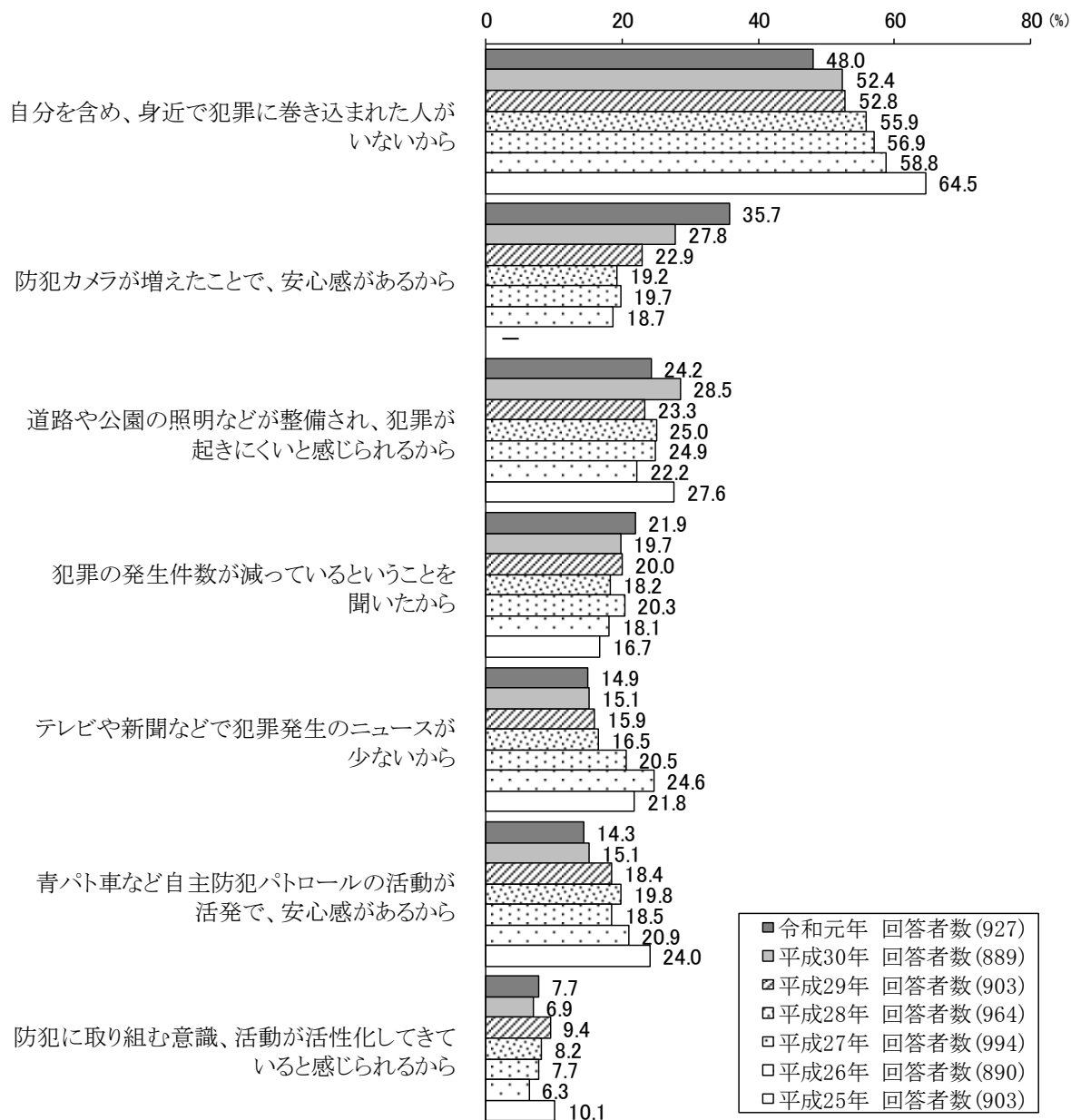
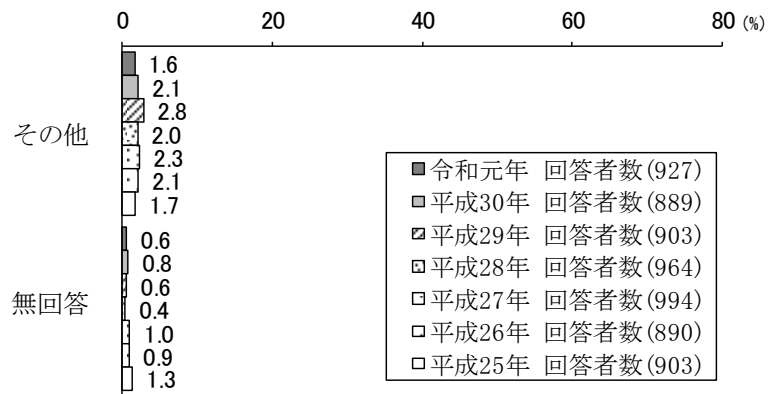


図7-6-1-② 経年比較／区内の治安が良いと感じる点



※ 「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は、平成26年度新設。

※ 「防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」は、平成25年度では「区全体の防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから」。

居住地域の治安を【良い】と評価した人に、その理由を聴くと、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が48.0%で最も高く、以下「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」(35.7%)、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」(24.2%)の順となっている。

経年でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は今回は48.0%で、平成30年の52.4%より4.4ポイント低くなっており、平成25年以降6年続けて漸減傾向を示している。一方、「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は平成30年から7.9ポイント増加しており、平成29年以降は3年続けて漸増傾向が明確となっている。

第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

地域別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は第11地域、第14地域でそれぞれ5割台半ばと高く、「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」は第1地域で43.2%と最も高く、第2地域、第3地域、第7地域、第10地域、第15地域でも4割弱とやや高くなっている。また、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」は第3地域で39.6%ととくに高くなっている。

地域区分図

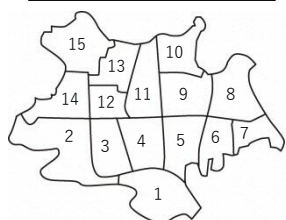
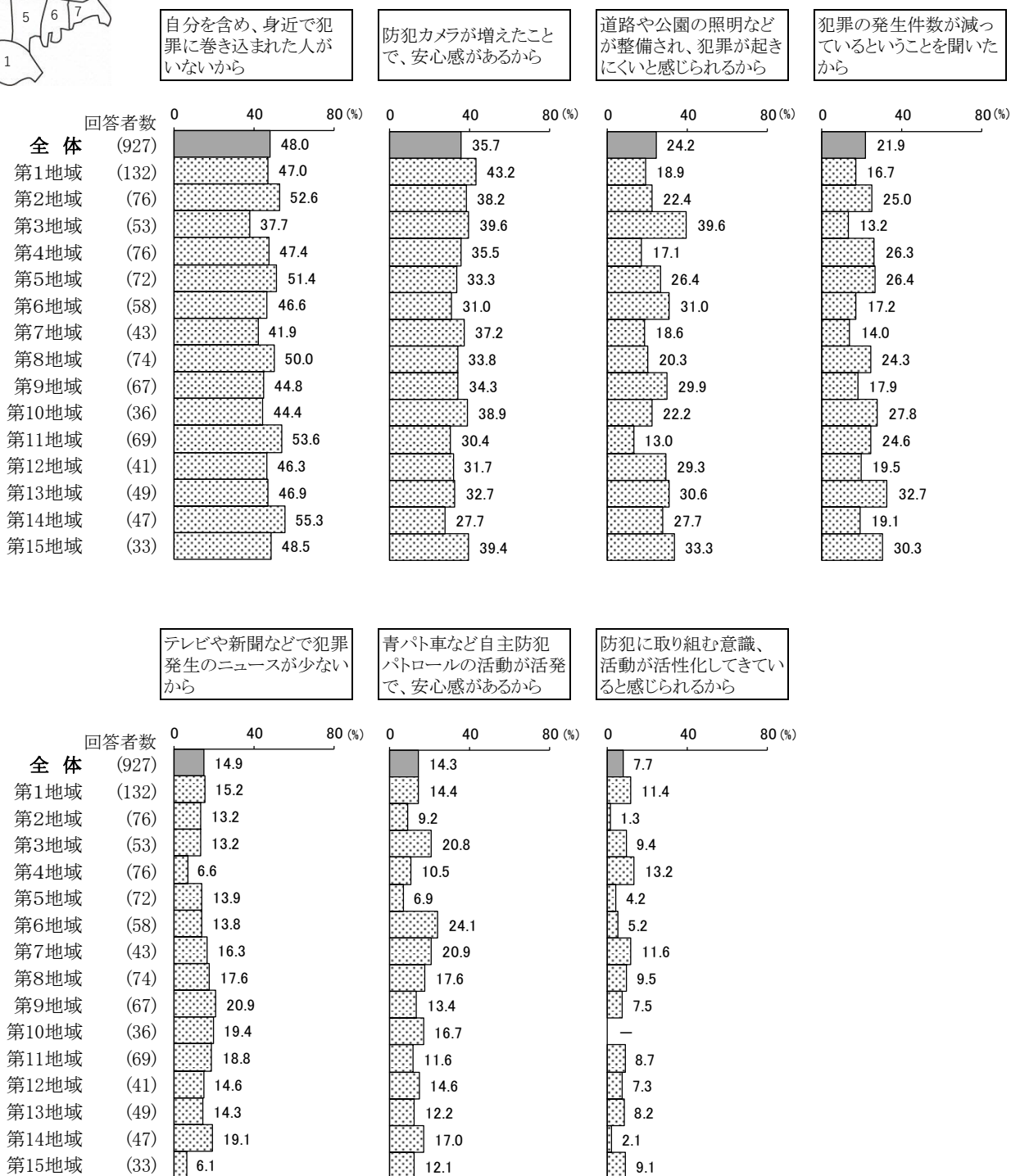


図7-6-2 地域別／区内の治安が良いと感じる点

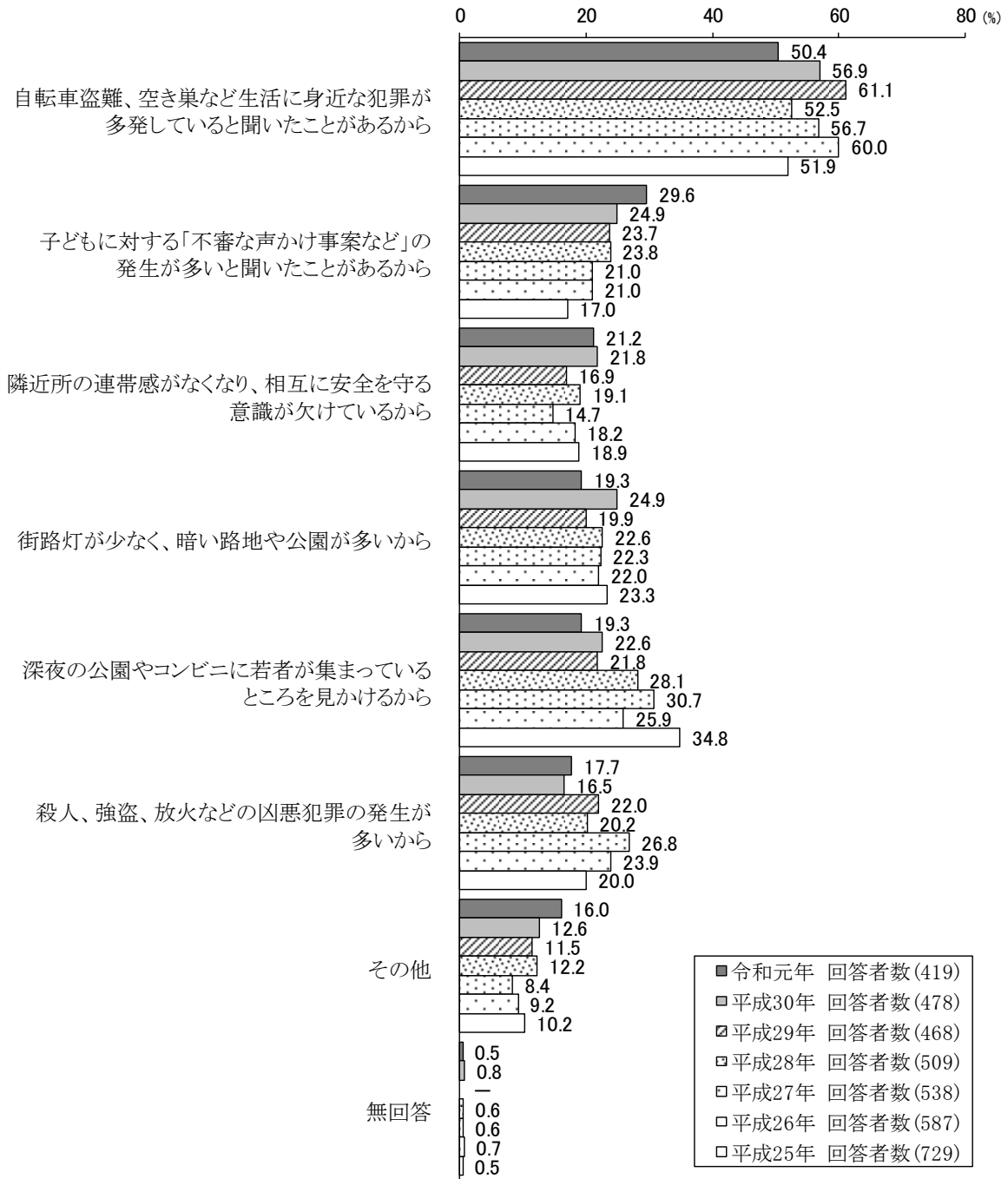


(7) 区内の治安が悪いと感じる点

■ “生活に身近な犯罪が多発していると聞いた”が5割を超えて突出

問36で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に  
 問36-2 どのような点で治安が悪いと感じますか (〇は2つまで)。

図7-7-1 経年比較/区内の治安が悪いと感じる点



### 第3章 調査結果の分析〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

- ※ 「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」は、平成25年度では「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」。
- ※ 「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は、平成25年度では「子どもに対する『不審な声かけ事案等』の発生が多いから」。

居住地の治安を【悪い】と評価した人に、その理由を聴くと、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」が50.4%で最も高く、以下、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」（29.6%）「隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから」（21.2%）、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」と「深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから」（各19.3%）の順となっている。

経年で上位項目をみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから」（50.4%）と「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」（19.3%）は平成30年よりともに6ポイント前後減少している。一方、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は平成30年の24.9%から今回29.6%へと4.7ポイント増加している。

地域別でみると、一部の地域で回答者数が少ないことに留意する必要があるが、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は第15地域（63.2%）と第6地域（62.5%）で6割強と高くなっている。「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多い」と聞いたことがあるから」は第2地域で47.1%と5割弱に達して最も高く、第9地域、第15地域でも4割強と高くなっている。また、「隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから」は第1地域で31.6%と最も高く、第2地域と第3地域でもともに3割弱と高くなっている。

地域区分図

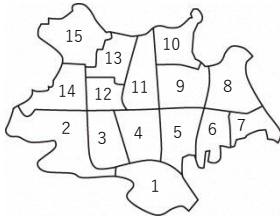
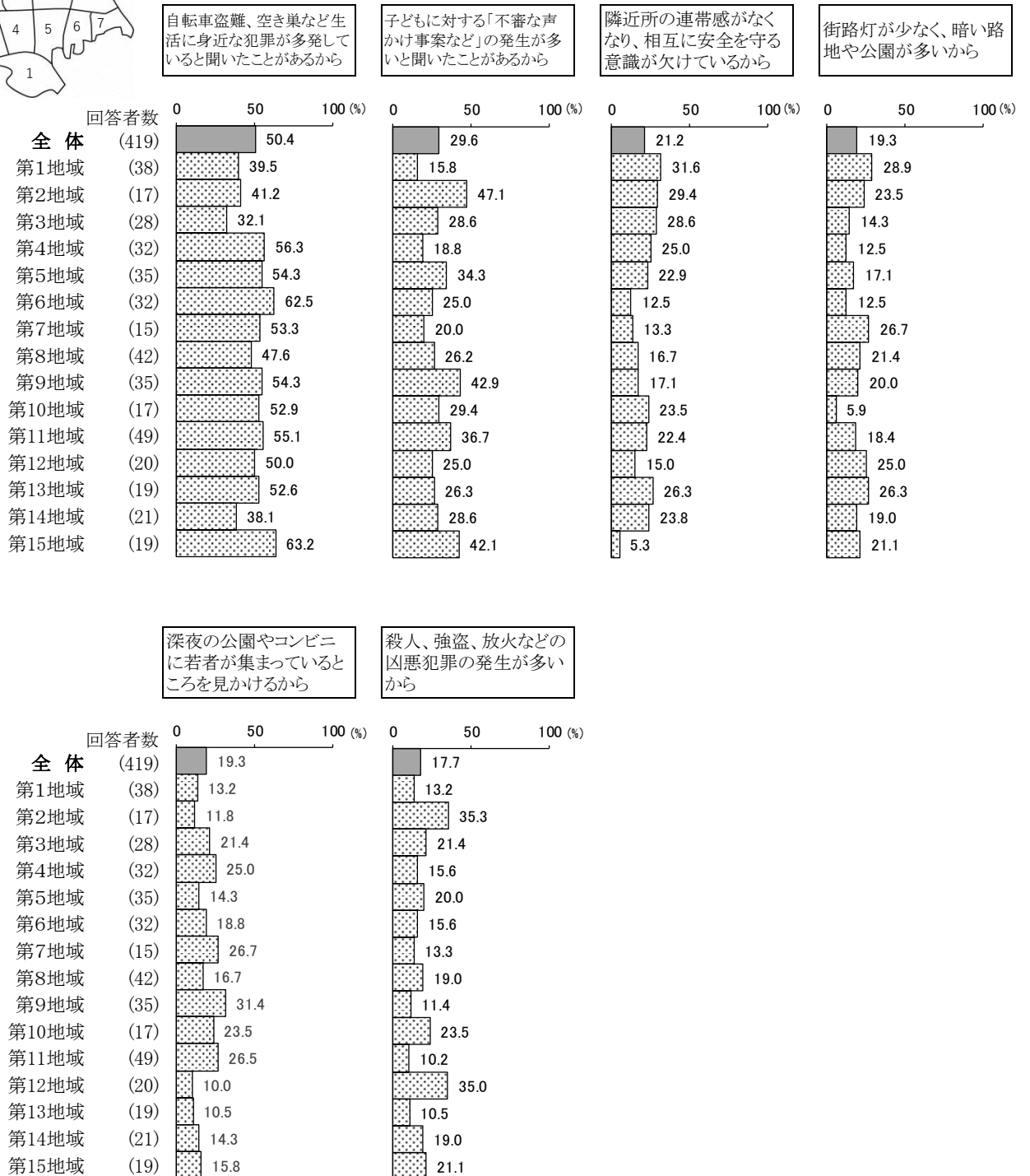


図7-7-2 地域別／区内の治安が悪いと感じる点

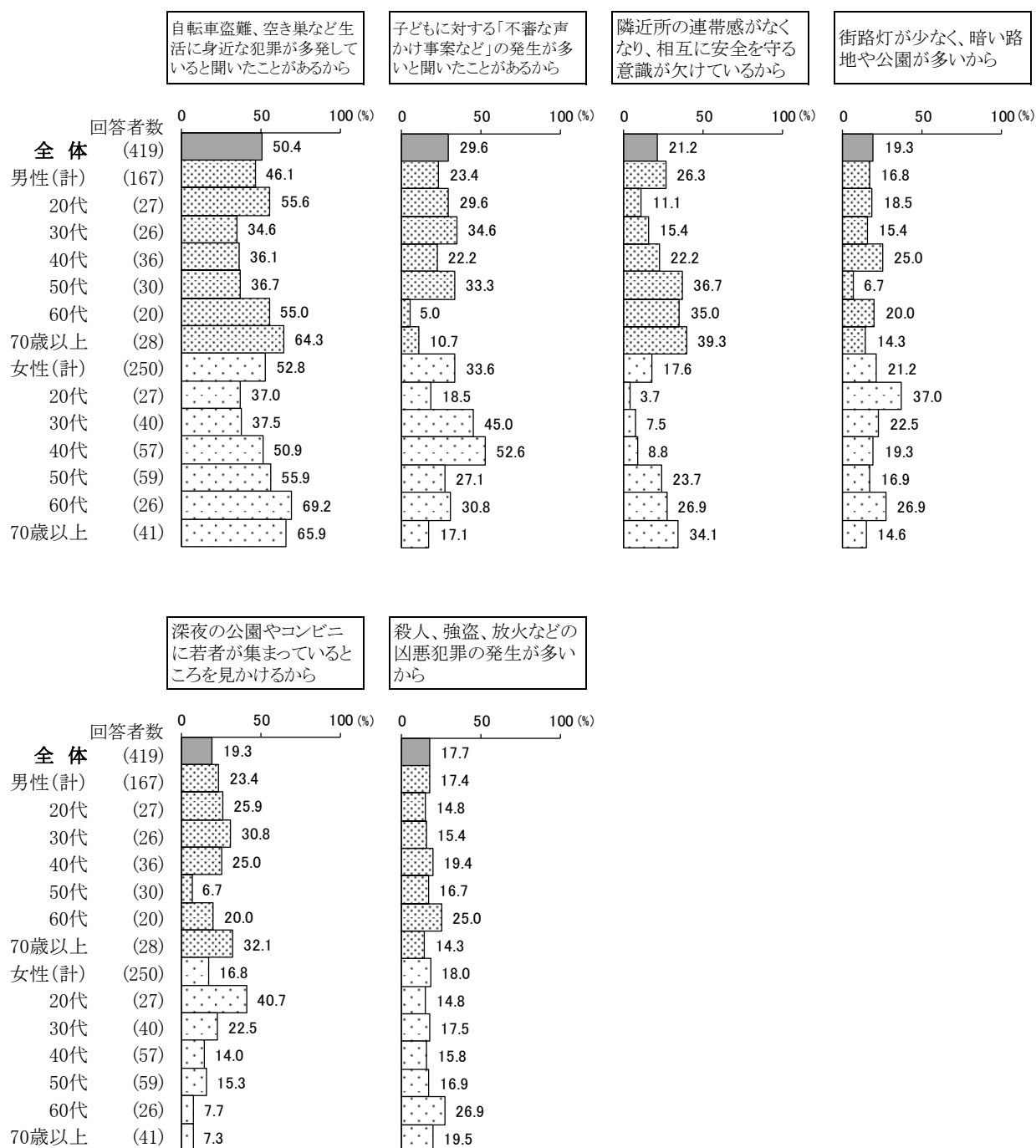


第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は男性23.4%、女性33.6%で女性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発している」と聞いたことがあるから」は、男性の70歳以上と女性の60代と70歳以上でそれぞれ6割台半ばと高くなっている。また、「子どもに対する『不審な声かけ事案など』の発生が多いと聞いたことがあるから」は女性の30代と40代で4割台半ばから5割強と高くなっている。

図7-7-3 性別、性・年代別／区内の治安が悪いと感じる点





(8) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

■ “防犯設備の設置に対する支援”が5割台半ば、“安全に配慮した道路、公園の整備”が4割強、“防犯パトロール”が4割弱で上位

問37 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか (〇は2つまで)。

図7-8-1-① 経年比較/治安対策として区に力を入れてほしいこと

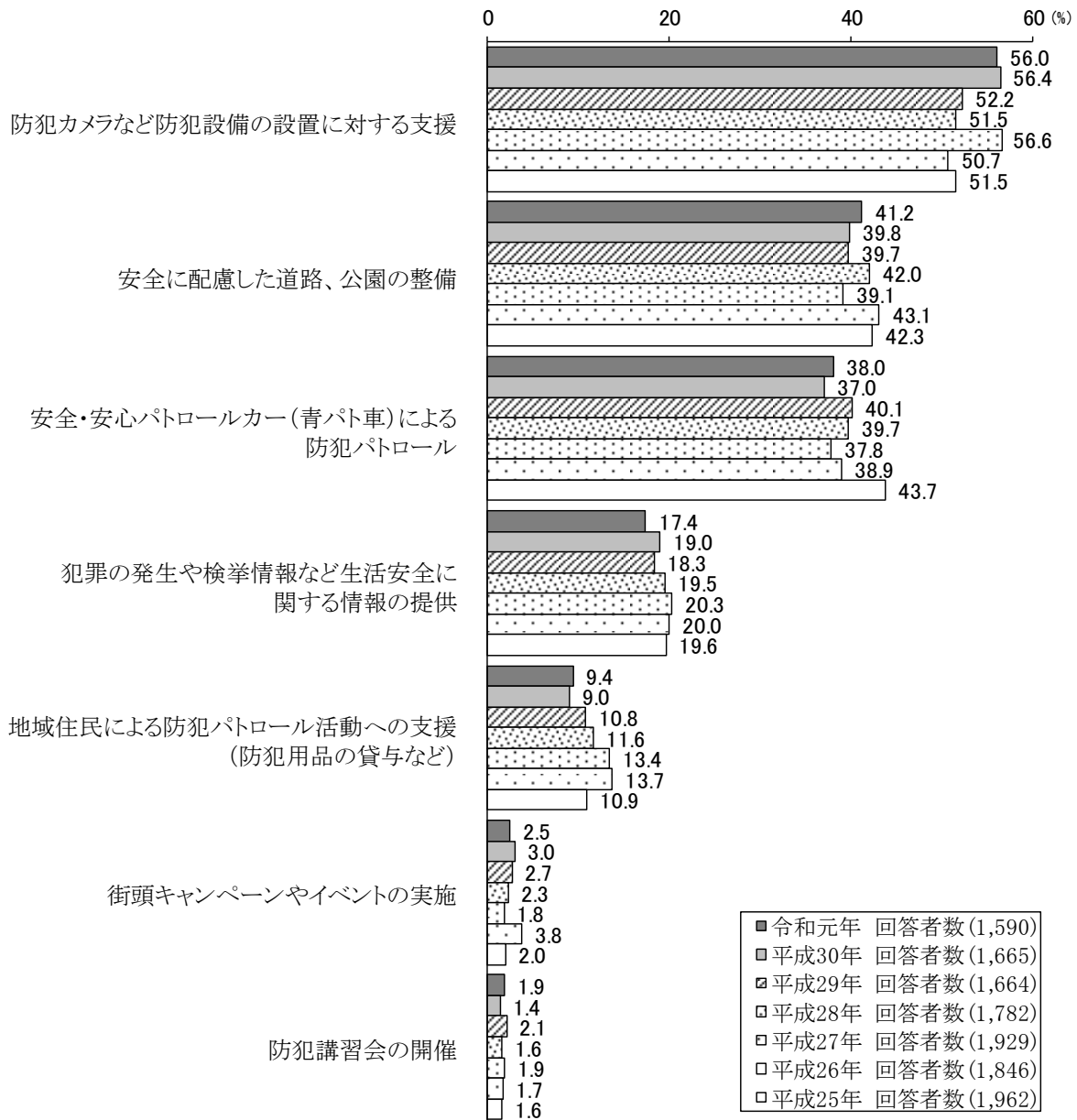
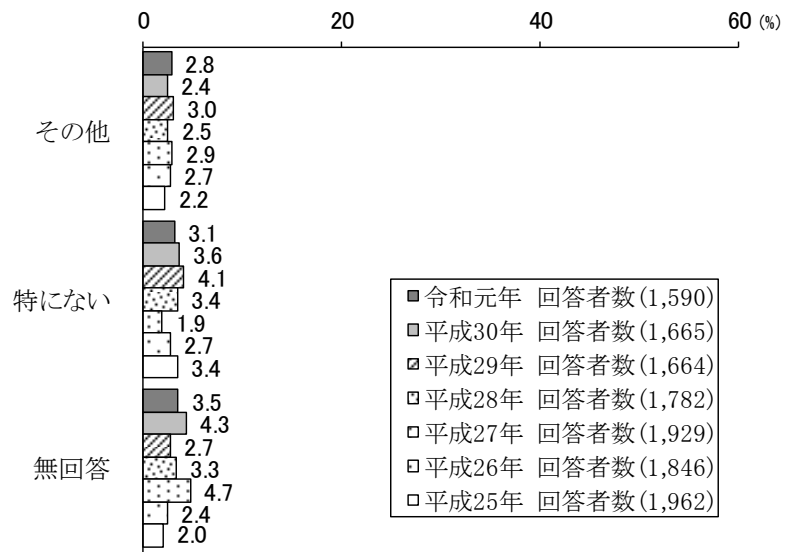


図7-8-1-② 経年比較／治安対策として区に力を入れてほしいこと



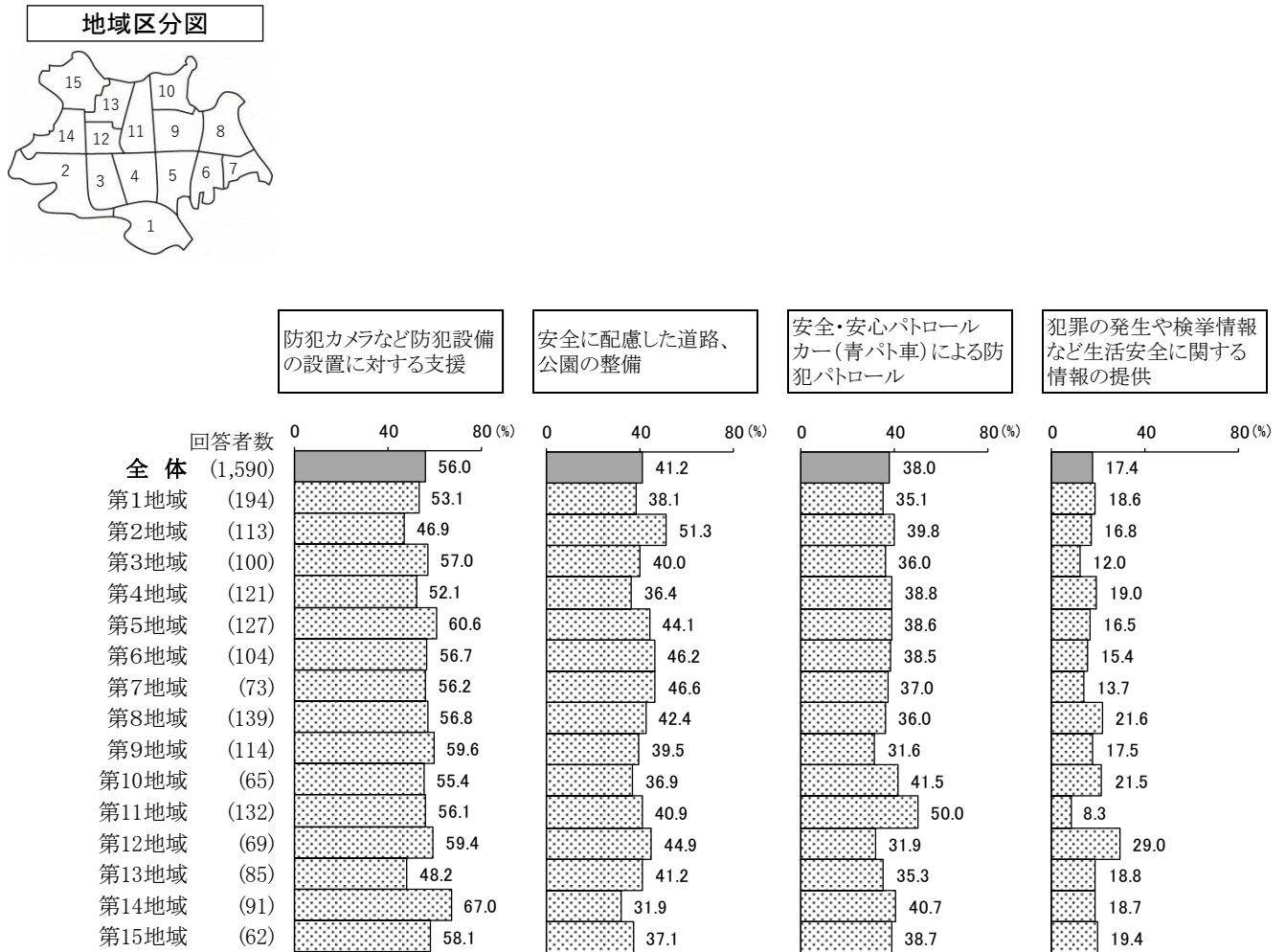
※ 「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は、平成28年度までは「防犯カメラなど防犯設備の設置などに対する支援」

治安対策として足立区に力を入れてほしいこととしては、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が56.0%で最も高く、以下「安全に配慮した道路、公園の整備」(41.2%)、「安全・安心パトロールカー(青パト車)による防犯パトロール」(38.0%)の順となっている。

経年でみると、上位項目について、順位、数値に大きな変化はみられない。

地域別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は第14地域で67.0%と最も高く、第5地域、第9地域、第12地域でも6割前後とやや高くなっている。また、「安全に配慮した道路、公園の整備」は第2地域で51.3%と最も高く、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は第11地域で50.0%と最も高くなっている。

図7-8-2 地域別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



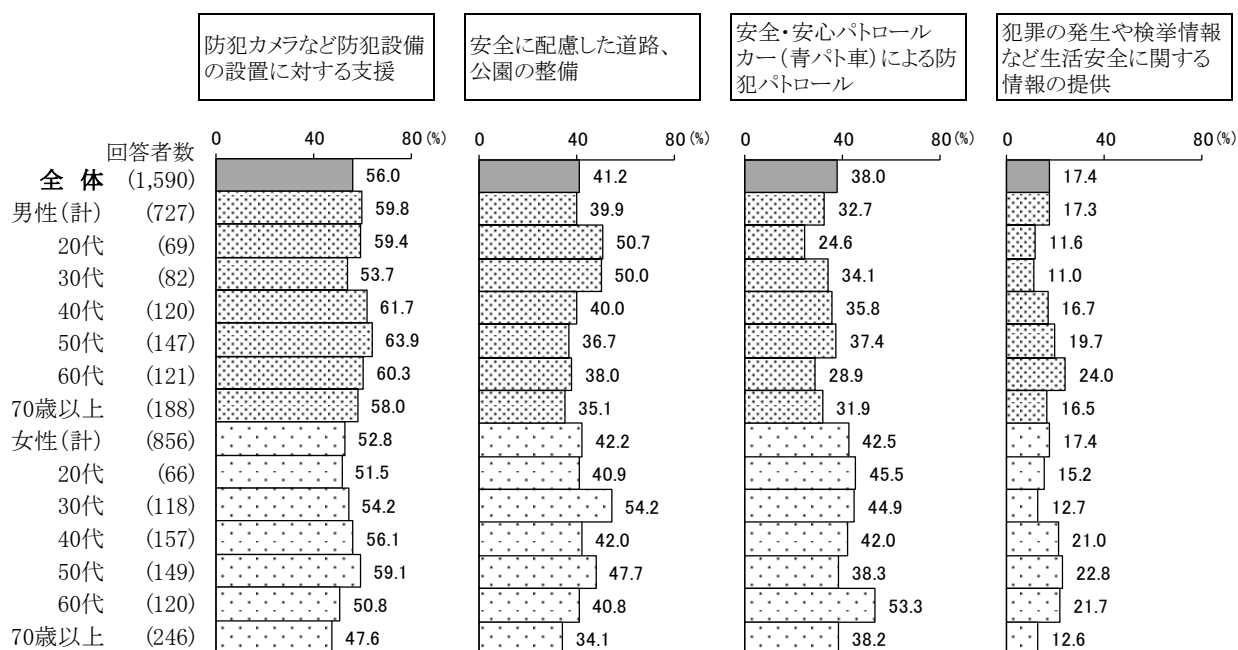
第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

性別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は男性59.8%、女性52.8%と男性の方がやや高く、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は男性32.7%、女性42.5%で女性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は50代で63.9%と最も高く、「安全に配慮した道路、公園の整備」は20代で50.7%と最も高く、30代でも50.0%と高くなっている。一方、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は20代で24.6%と低くなっている。

女性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」は50代で59.1%、「安全に配慮した道路、公園の整備」は30代で54.2%、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」は60代で53.3%と、それぞれ最も高くなっている。

図7-8-3 性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



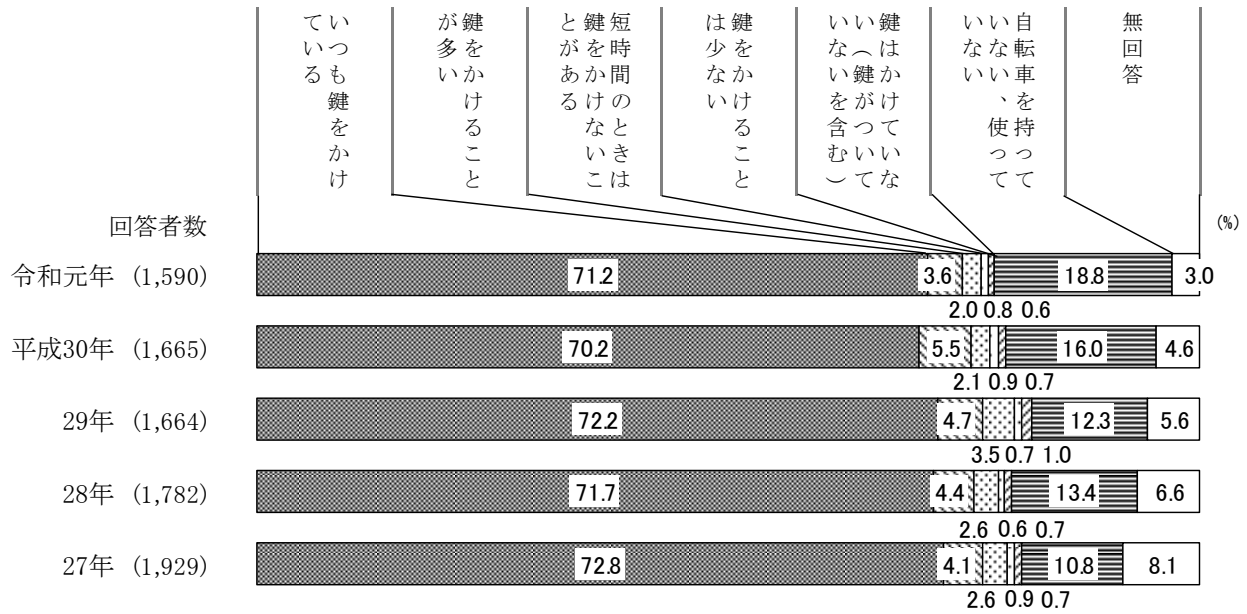
(9) 駐車時の鍵かけ状況

■ 「いつも鍵をかけている」は、外出先が7割強、敷地内が6割と、傾向は変わらず

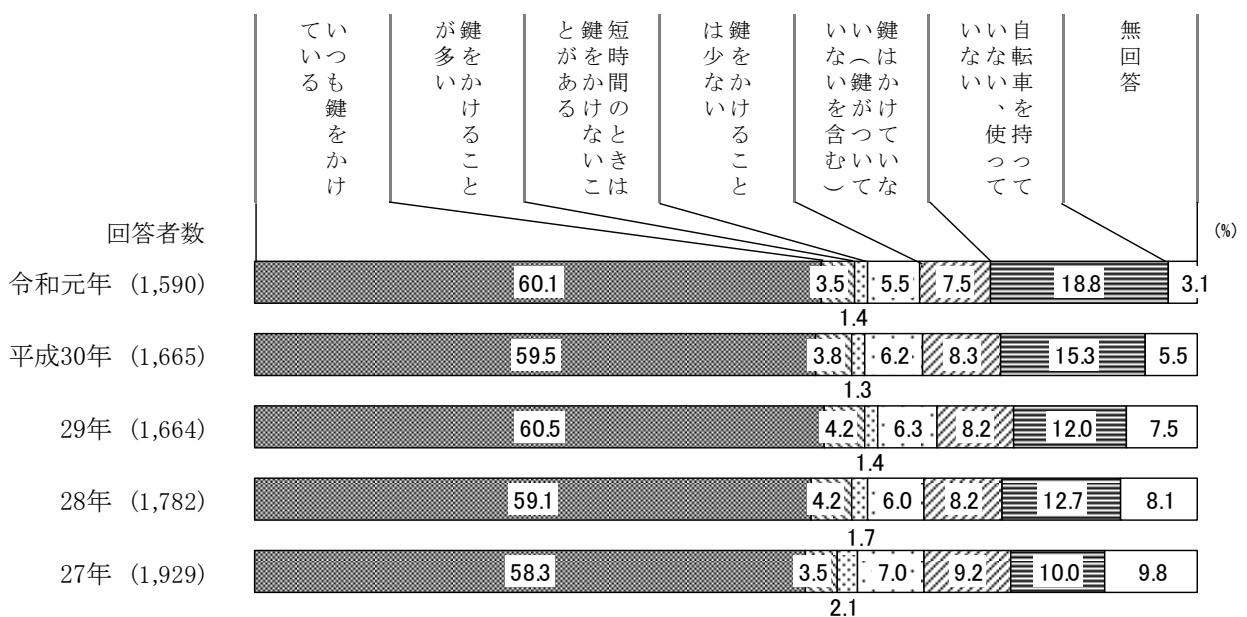
問38 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか  
(○はそれぞれ1つずつ)。

図7-9-1 経年比較／駐車時の鍵かけ状況

ア. 外出先で駐車するとき



イ. 自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき



### 第3章 調査結果の分析〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

外出先で自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているか、については、「いつも鍵をかけている」が71.2%を占めて最も多く、次いで「鍵をかけることが多い」(3.6%)となっている。一方、「短時間のときは鍵をかけないことがある」は2.0%、「鍵をかけることは少ない」は0.8%、「鍵はかけていない(鍵がついていないを含む)」は0.6%となっている。

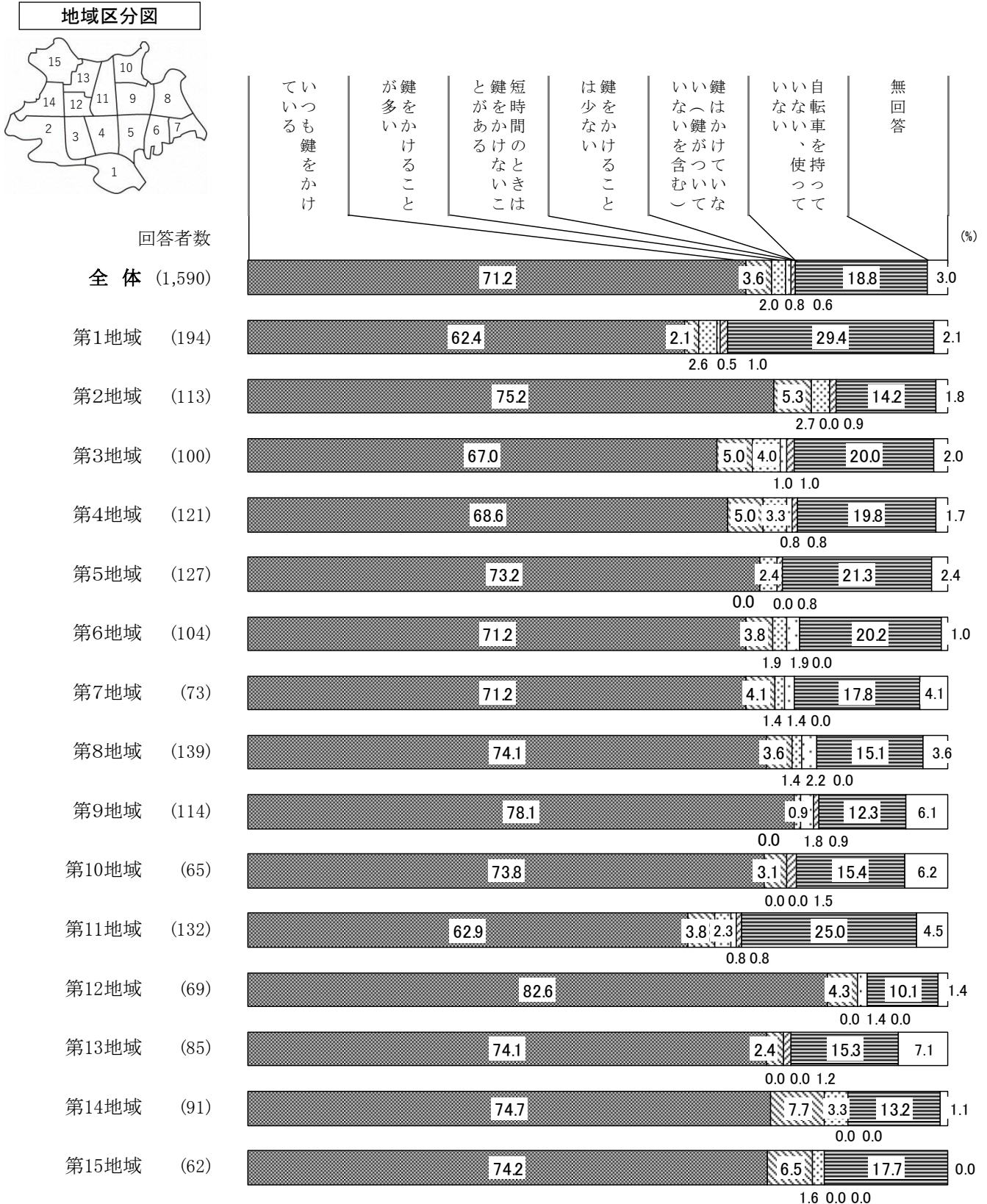
経年でみると、平成27年以降「いつも鍵をかけている」は各年7割強程度で、回答傾向に大きな変化はみられない。

自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているか、については、「いつも鍵をかけている」が60.1%で最も多く、「鍵をかけることが多い」は3.5%となっている。一方、「短時間のときは鍵をかけないことがある」は1.4%、「鍵をかけることは少ない」は5.5%、「鍵はかけていない(鍵がついていないを含む)」は7.5%となっており、外出先に比べると鍵をかけない割合が増える様子がみられる。

経年でみると、平成27年以降「いつも鍵をかけている」は各年6割前後で、外出先同様、回答傾向に大きな変化はみられない。

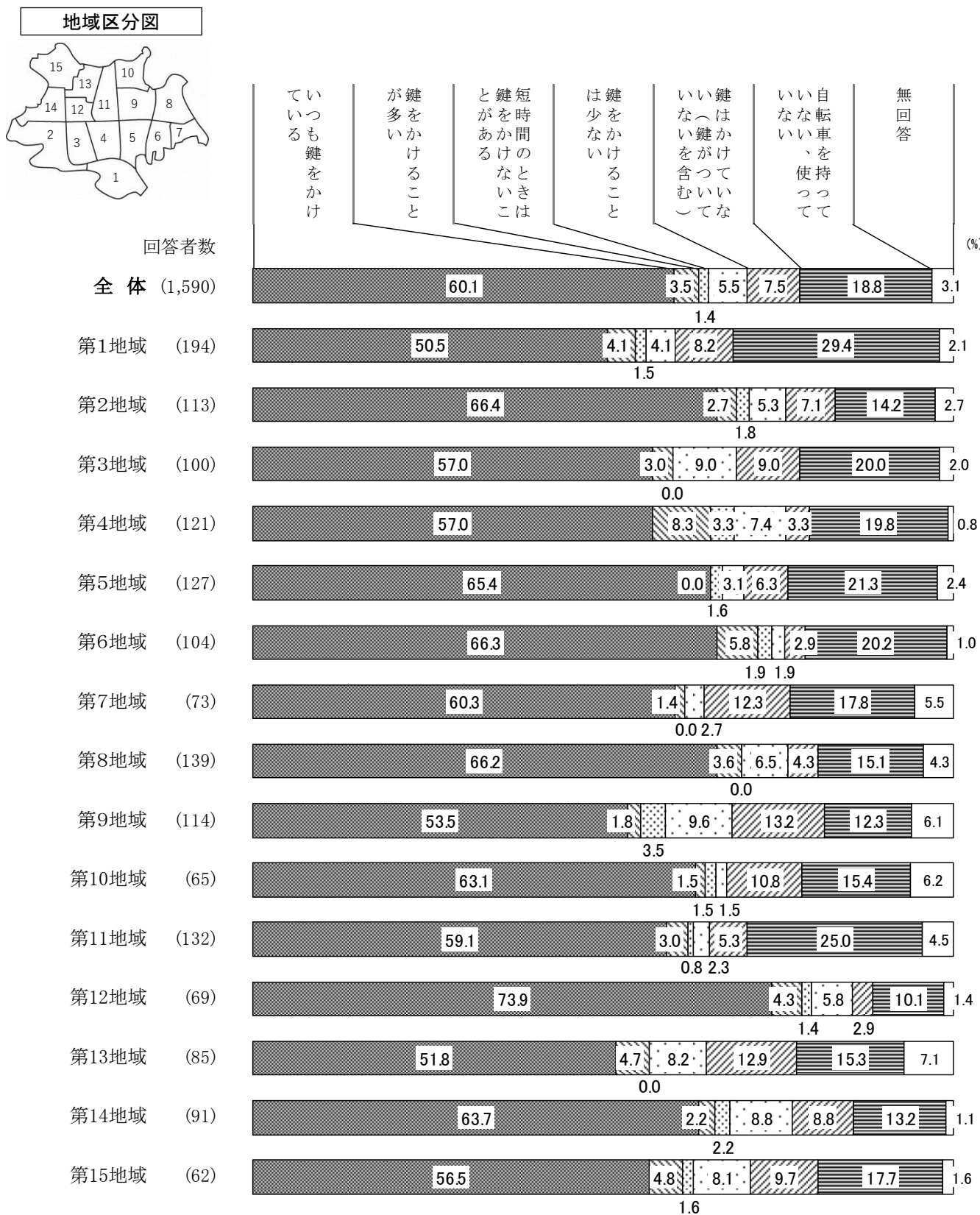
外出先で自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、地域別でみると、「いつも鍵をかけている」は第12地域が82.6%で最も高く、第9地域でも8割弱と高くなっている。

図7-9-2-① 地域別／駐車時の鍵かけ状況／外出先



自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、地域別でみると、「いつも鍵をかけている」は第12地域で73.9%と7割台半ばに達して高く、第2地域、第5地域、第6地域、第8地域、第14地域でも6割台半ばとやや高くなっている。

図7-9-2-② 地域別／駐車時の鍵かけ状況／敷地内

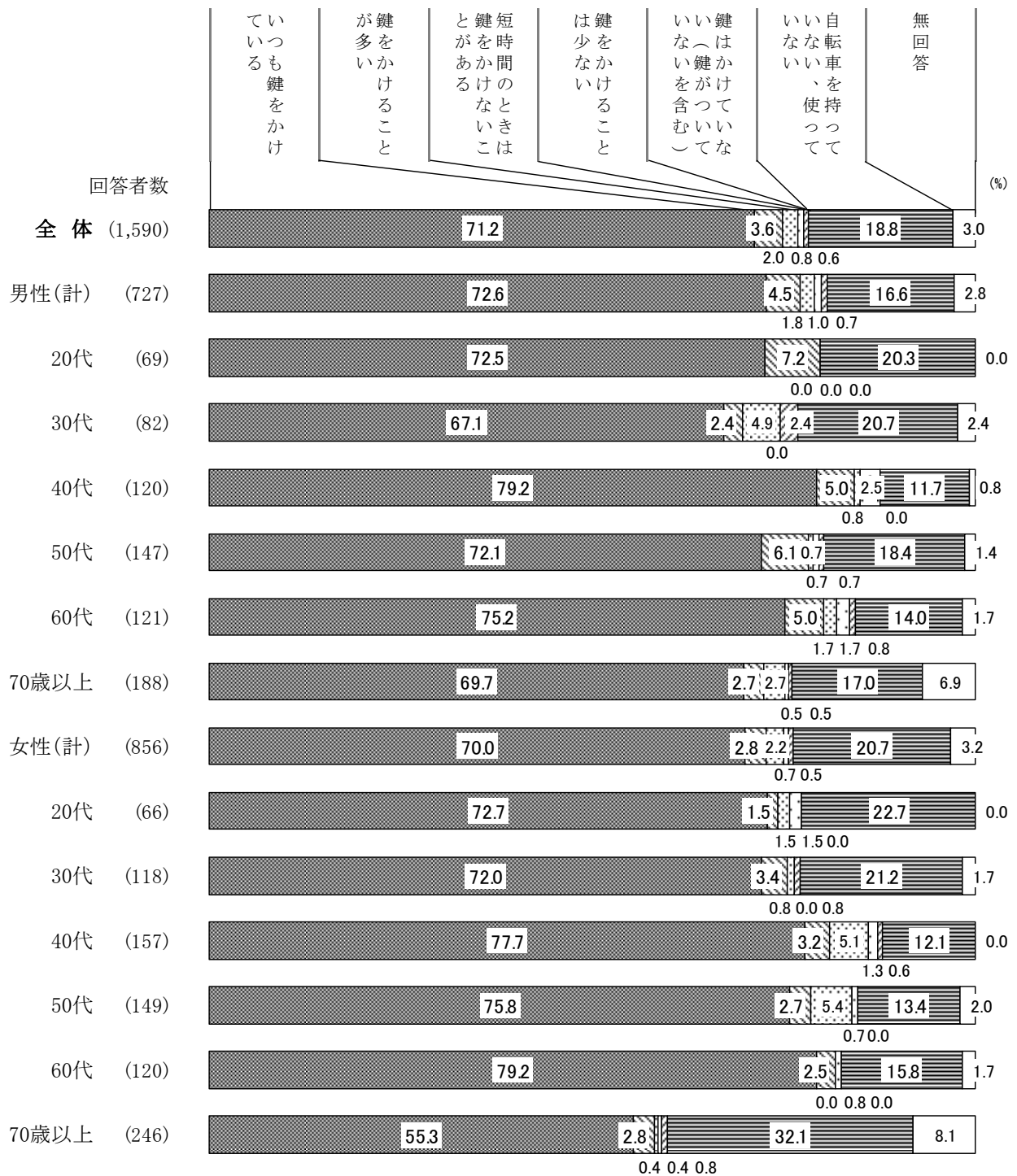




外出先で自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、性別でみると、「いつも鍵をかけている」は男性72.6%、女性70.0%となっており、大きな違いはみられない。

性・年代別でみると、「いつも鍵をかけている」は、男性では40代が、女性では40代と60代がいずれも8割弱と高くなっている。

図7-9-3-① 性別、性・年代別／駐車時の鍵かけ状況／外出先

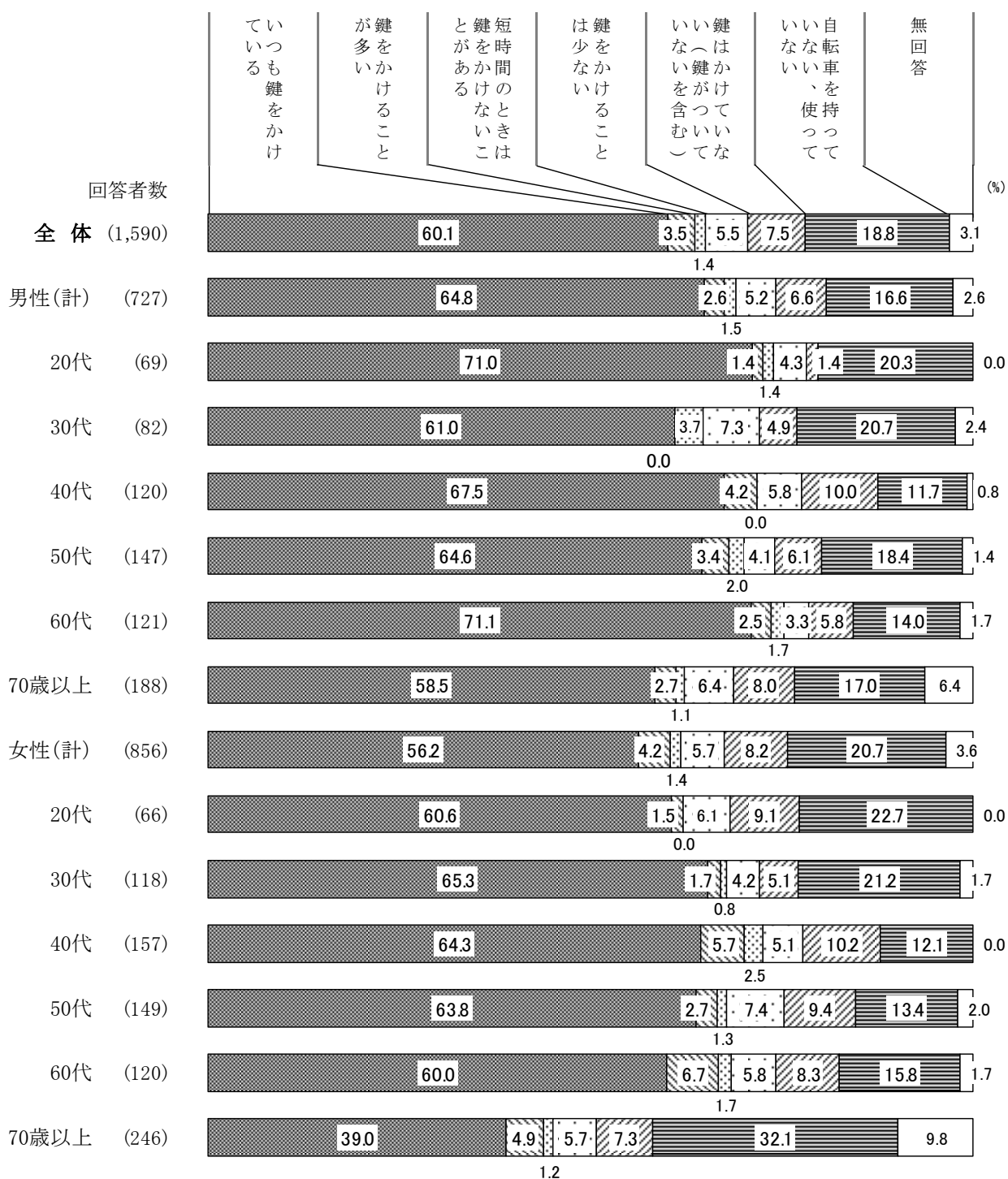


第3章 調査結果の分析 〈ビューティフル・ウィンドウズ運動〉

自宅・マンションなどの敷地内に自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについて、性別でみると、「いつも鍵をかけている」は男性が64.8%、女性が56.2%と男性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、「いつも鍵をかけている」は、男性では20代と60代で7割強と高く、40代でも7割弱と高くなっている。女性では30代、40代、50代の3年代層でそれぞれ6割台半ばとやや高くなっている。

図7-9-3-② 性別、性・年代別／駐車時の鍵かけ状況／敷地内



## 8 環境・地域活動

- 
- (1) 環境のために心がけていること
  - (2) 「食品ロス」という言葉の認知
  - (3) 食品ロス削減のために心がけていること
  - (4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向
-



## 8 環境・地域活動

### (1) 環境のために心がけていること

■ “ごみと資源の分別”が8割台半ば、“不要なレジ袋を断る”が5割台後半で、上位

問39 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図8-1-1-① 経年比較／環境のために心がけていること

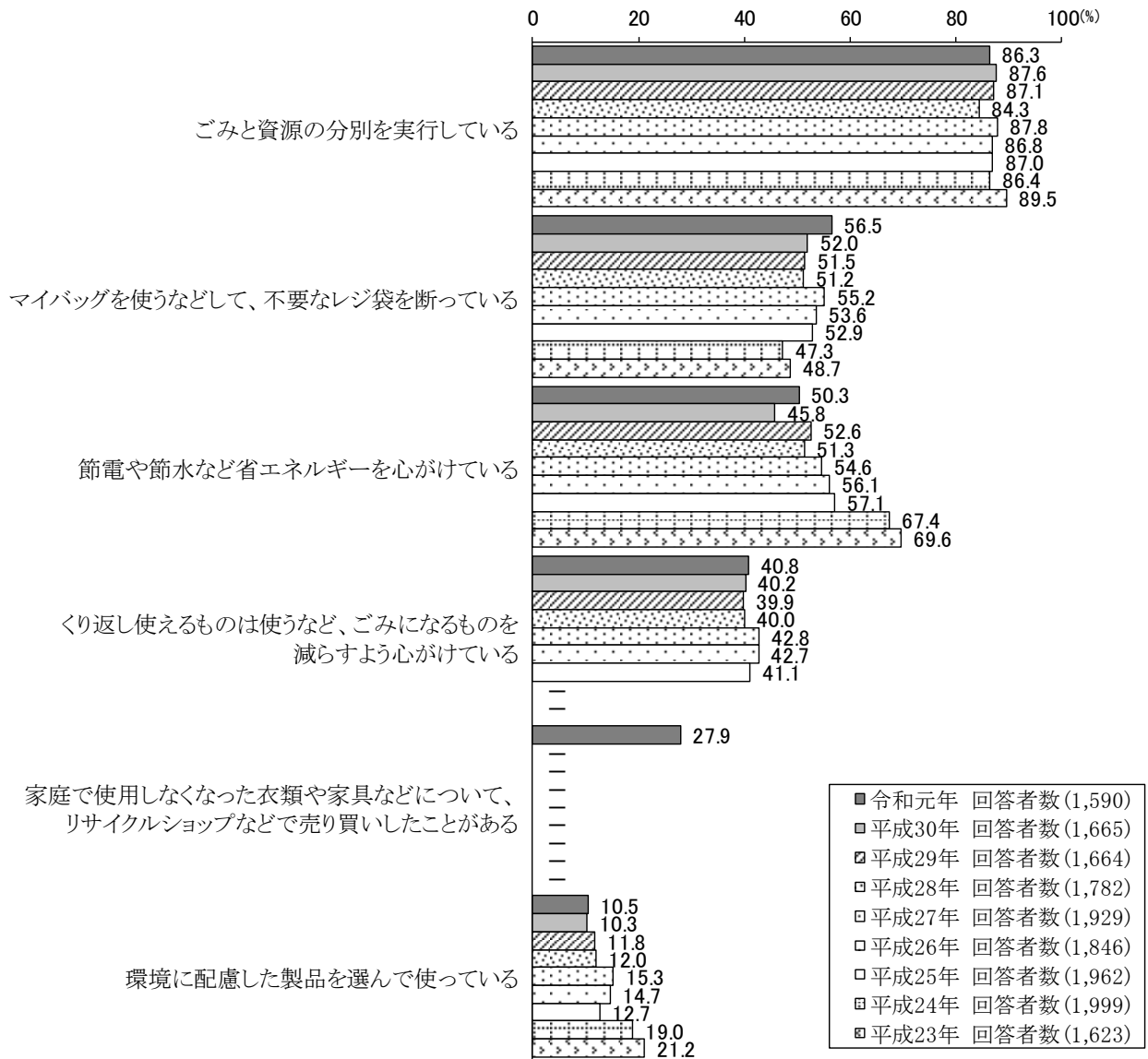
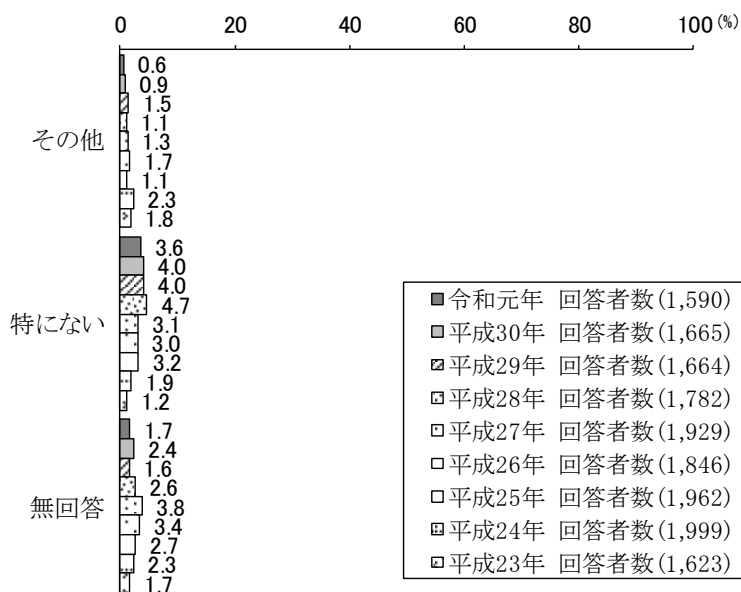


図8-1-1-② 経年比較／環境のために心がけていること



※ 「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」は、平成25年度新設。  
 ※ 「家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある」は令和元年度新設。

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が86.3%で最も高く、以下「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(56.5%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(50.3%)の順となっている。

なお、今回の令和元年新設の「家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある」は27.9%となっている。

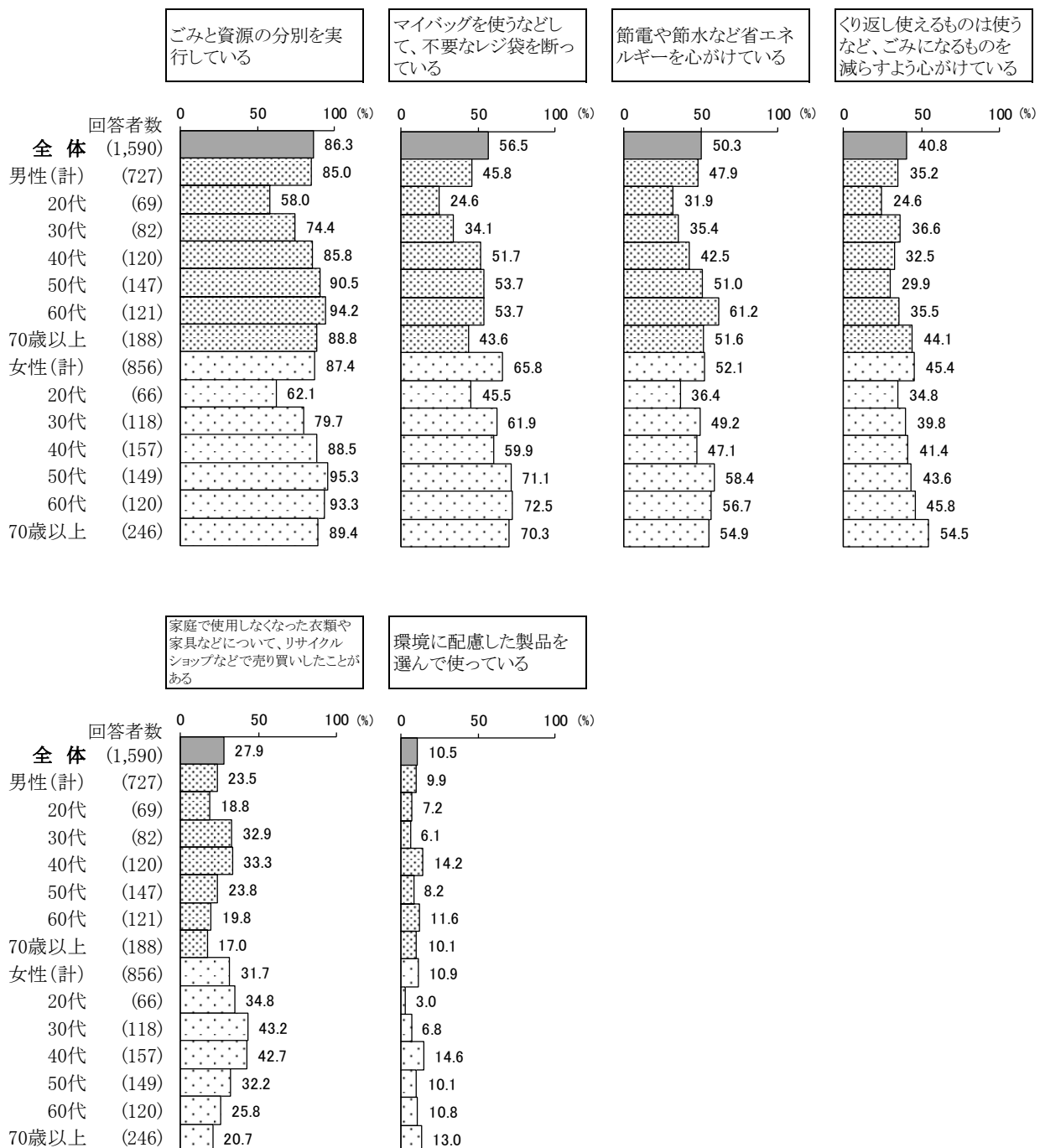
経年でみると、「ごみと資源の分別を実行している」は大きな経年変化はみられないが、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(56.5%)と「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(50.3%)は、平成30年に比べてともに4.5ポイント増加している。

性別でみると、女性は、すべての項目で男性より高くなっており、中でも「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（女性65.8%>男性45.8%）で性差が大きくなっている。

性・年代別でみると、男性では、「ごみと資源の分別を実行している」は60代で94.2%と最も高く、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」も60代で6割強と高い一方、20代では3割強と低くなっている。

女性では、「ごみと資源の分別を実行している」は50代と60代で9割強から9割台半ばと高く、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は50代以上の高齢層3層でそれぞれ7割を超えて高くなっている。

図8-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること

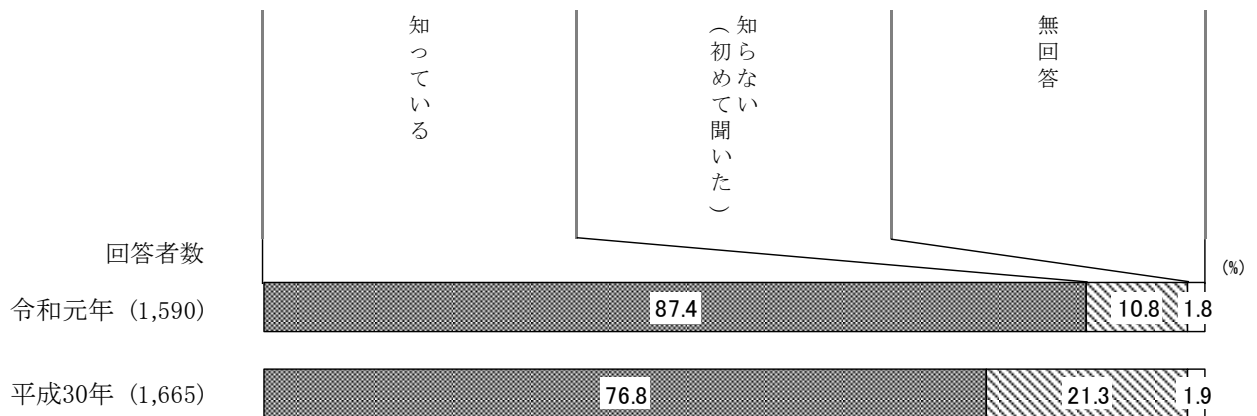


(2) 「食品ロス」という言葉の認知

■ 9割弱の人が「食品ロス」という言葉を知っており、認知率は前回より10ポイント以上伸長

問40 あなたは、「食品ロス」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

図8-2-1 前回調査比較／「食品ロス」という言葉の認知



「食品ロス」という言葉の認知は、「知っている」が87.4%を占めて多く、「知らない（初めて聞いた）」は10.8%。

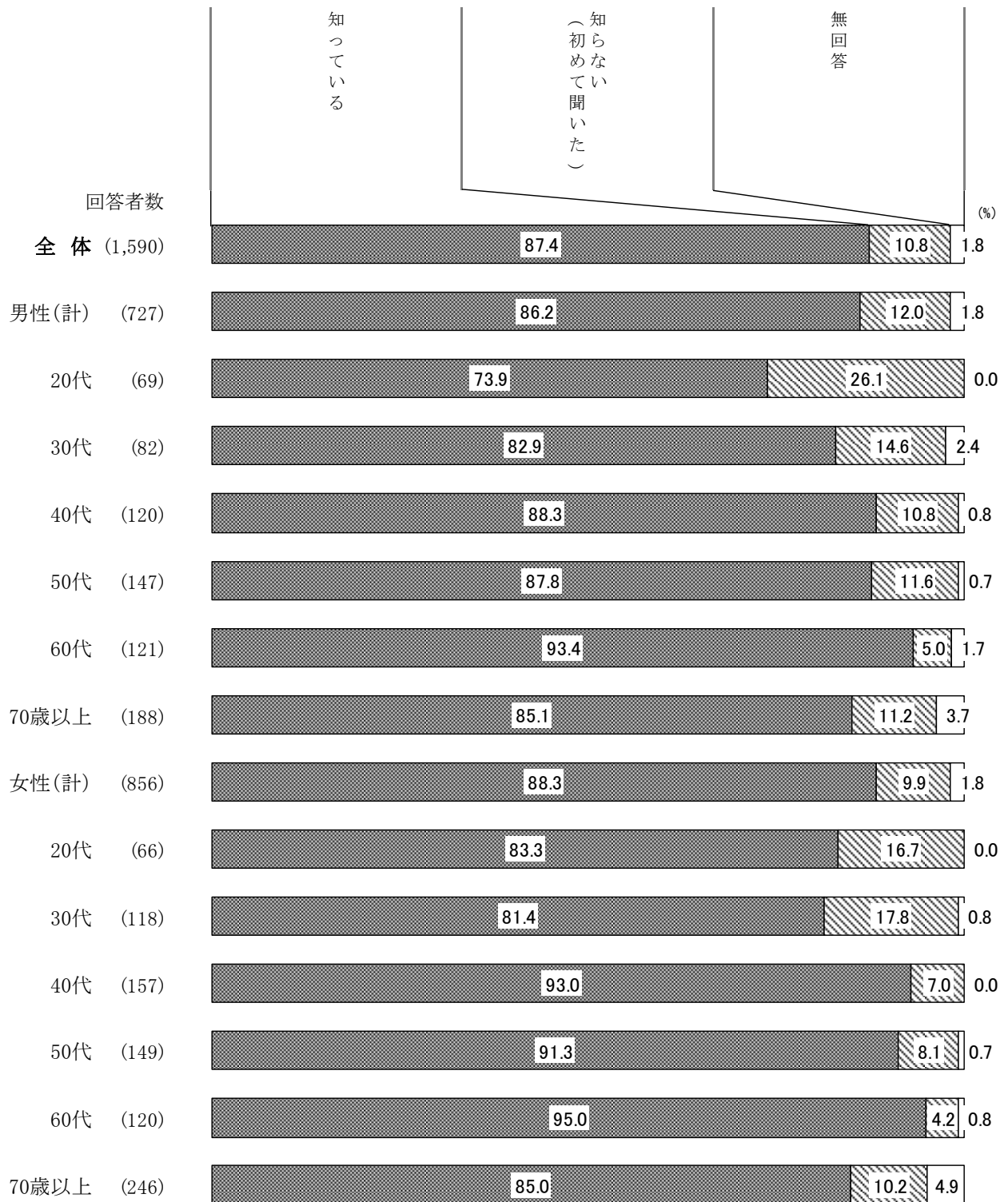
経年でみると、「知っている」は初めて聴取した前回平成30年の76.8%から今回の87.4%へと10.6ポイントも増加している。



性別でみると、「知っている」は男性86.2%、女性88.3%と大きな性差はみられない。

性・年代別でみると、「知っている」は、男性では60代で93.4%と最も高く、女性では60代で95.0%と最も高いが、40代と50代もそれぞれ9割強でやや高くなっている。一方、男性の20代では「知っている」が7割台半ばと他の性・年代層に比べて低くなっている。

図8-2-2 性別、性・年代別／「食品ロス」という言葉の認知



(3) 食品ロス削減のために心がけていること

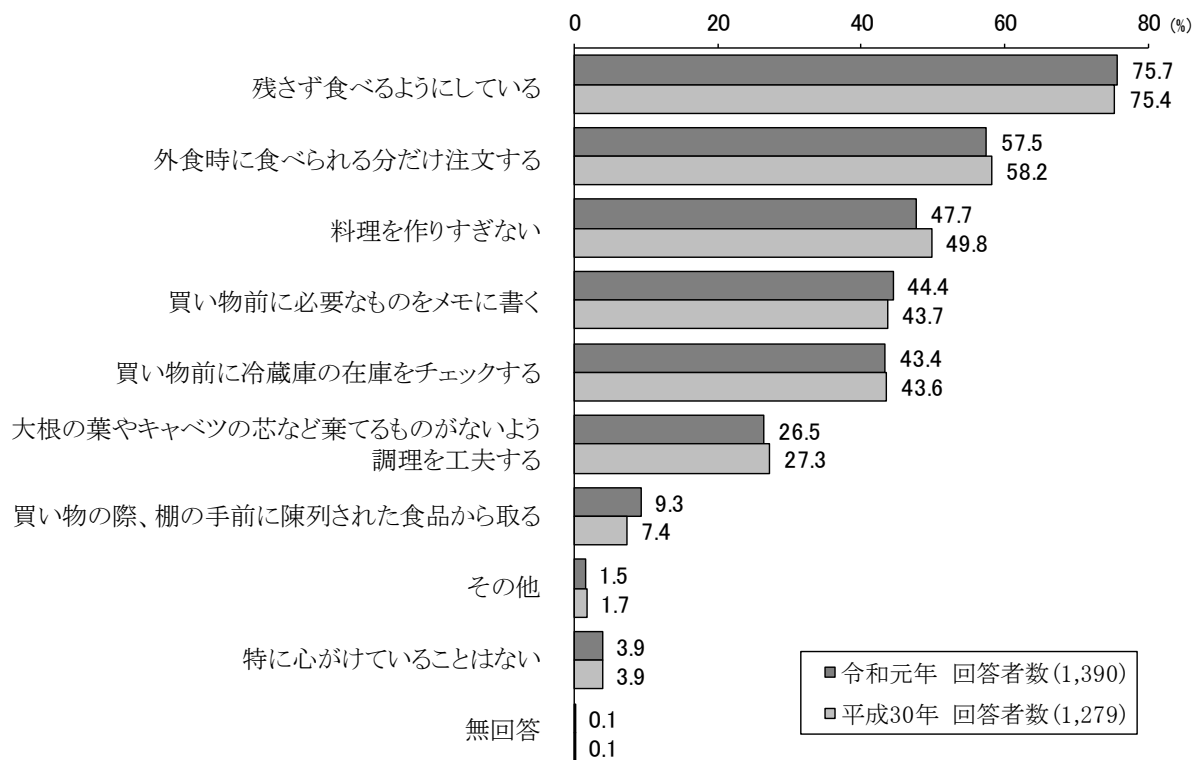
■ 「残さず食べるようにしている」が7割台半ば

問40で「1. 知っている」とお答えの方に

問40-1 あなたが、食品ロス削減のために心がけていることは何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

図8-3-1 前回調査比較／食品ロス削減のために心がけていること



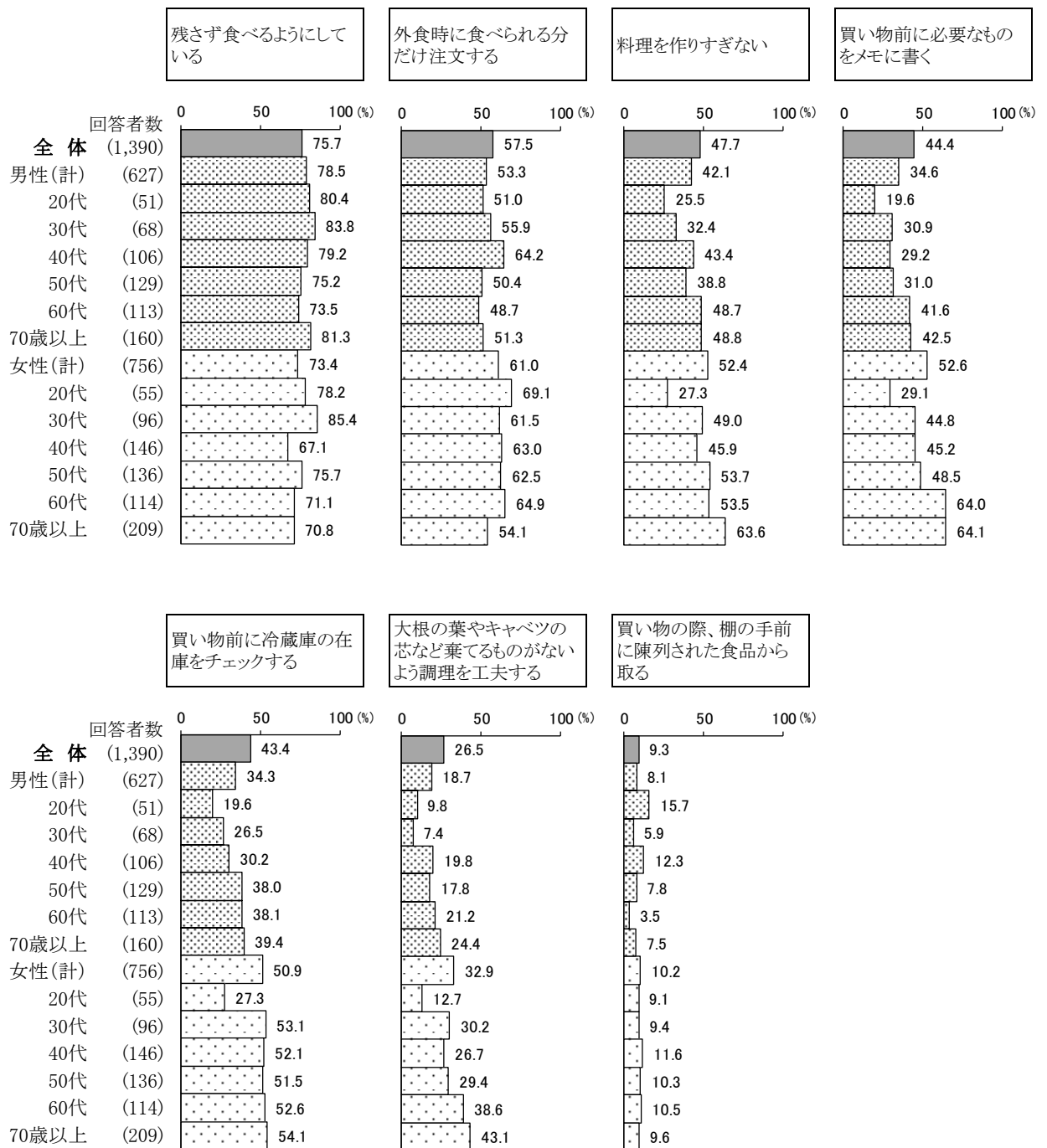
「食品ロス」という言葉を知っている人に、食品ロス削減に心がけていることを聞いた結果は、「残さず食べるようにしている」が75.7%で最も高く、以下「外食時に食べられる分だけ注文する」(57.5%)、「料理を作りすぎない」(47.7%)、「買い物前に必要なものをメモに書く」(44.4%)、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」(43.4%)の順となっている。

前回の結果と比較すると、各項目の比率にほとんど変動はみられない。

性別でみると、多くの項目で男性より女性の方が高くなっているが、最も高い「残さず食べるようにしている」だけは男性78.5%、女性73.4%で男性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、「残さず食べるようにしている」は、男性では20代と30代及び70歳以上で、女性では30代で、それぞれ8割台とやや高くなっている。次点の「外食時に食べられる分だけ注文する」は、男性では40代で、女性では20代でそれぞれ最も高く、そのほか「料理を作りすぎない」は女性の70歳以上で、「買い物前に必要なものをメモに書く」は女性の60代と70歳以上で、それぞれ6割台半ばと他の性・年代層より高くなっている。

図8-3-2 性別、性・年代別／食品ロス削減のために心がけていること



(4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向

■ 活動経験・参加意向とも“区が主催する各種のイベントや催し物”が2割前後で最多

問41 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

図8-4-1-① 経年比較／この1年間に参加した活動

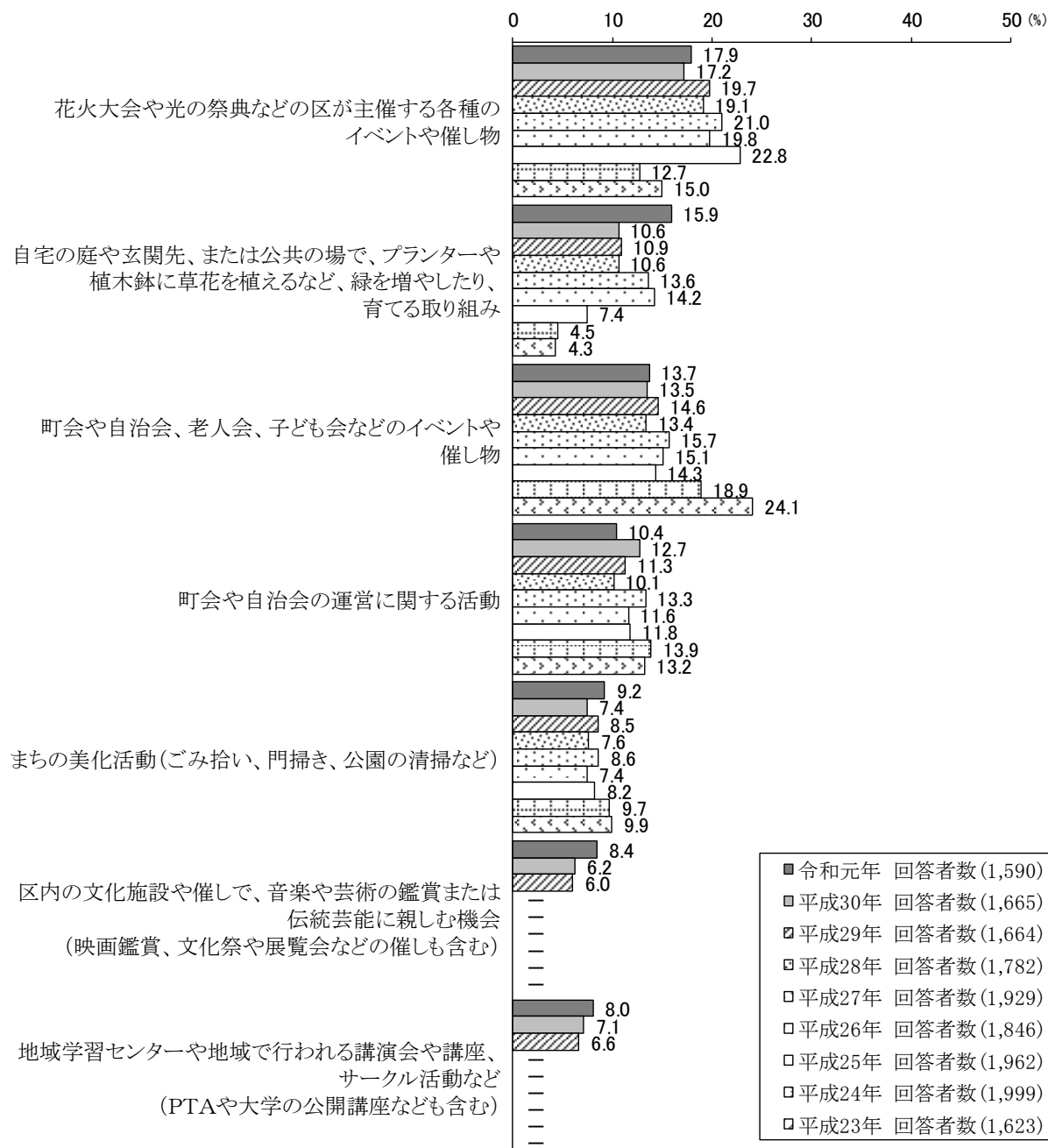


図8-4-1-② 経年比較／この1年間に参加した活動



- ※ 「自宅や店舗の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。
- ※ 「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」のカッコ内の（映画鑑賞～などの催しも含む）の部分は、令和元年度に新規追加。
- ※ 「地域学習センターや地域で行われる講演会や講座、サークル活動など」と「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」は、平成29年度新設。
- ※ 平成24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

この1年間で参加した活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が17.9%で最も高く、以下「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(15.9%)、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(13.7%)、「町会や自治会の運営に関する活動」(10.4%)の順で続いている。

経年でみると、項目文の一部を変更した「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(今回15.9%)が前回より5.3ポイント増加して、順位(前回4位→今回2位)も上げたのを除くと、そのほかの上位項目について、順位、数値に大きな変動はみられない。

図8-4-2-① 経年比較／今後の参加意向

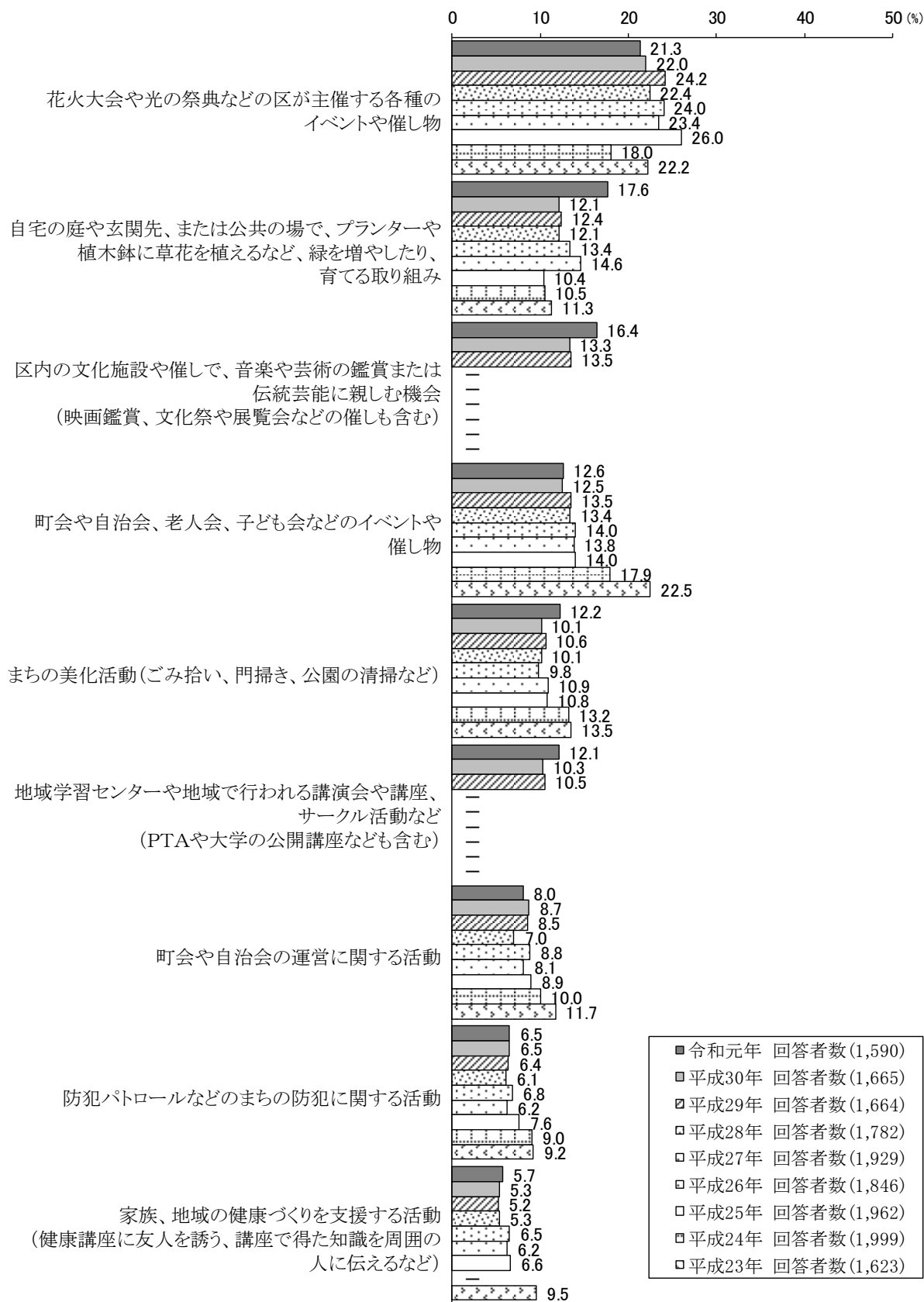
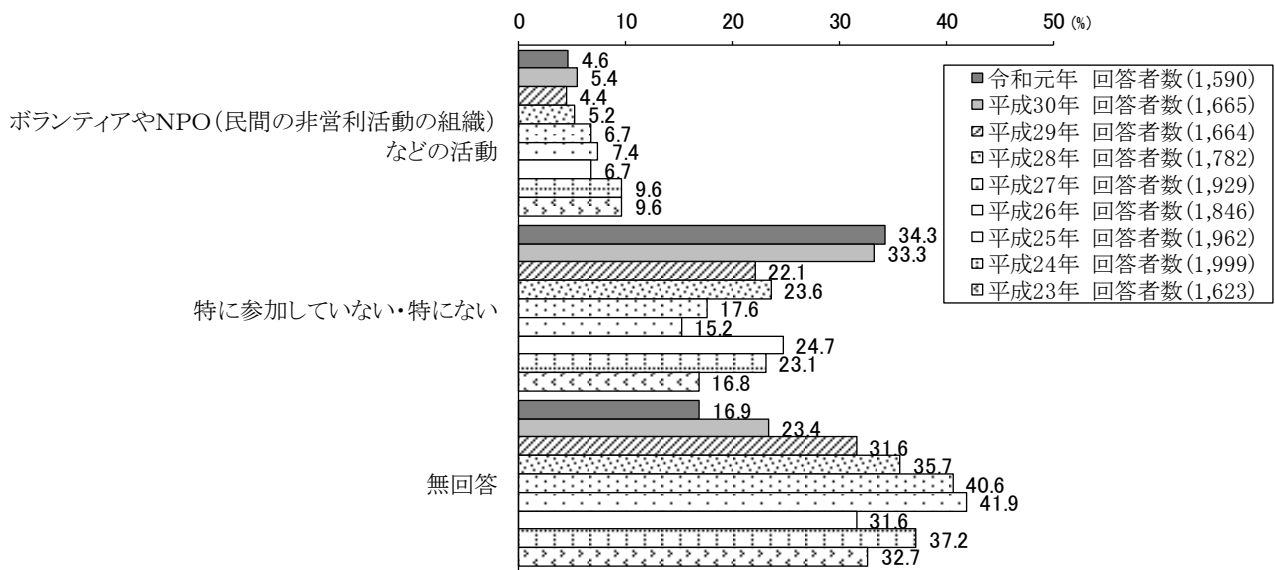


図8-4-2-② 経年比較／今後の参加意向



- ※ 「自宅や店舗の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。
- ※ 「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」のカッコ内の（映画鑑賞～などの催しも含む）の部分は、令和元年度に新規追加。
- ※ 「地域学習センターや地域で行われる講演会や講座、サークル活動など」と「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」は、平成29年度新設。
- ※ 平成24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

今後参加したい活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が21.3%で最も高く、以下「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」（17.6%）、「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」（16.4%）、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」（12.6%）、の順で続いている。

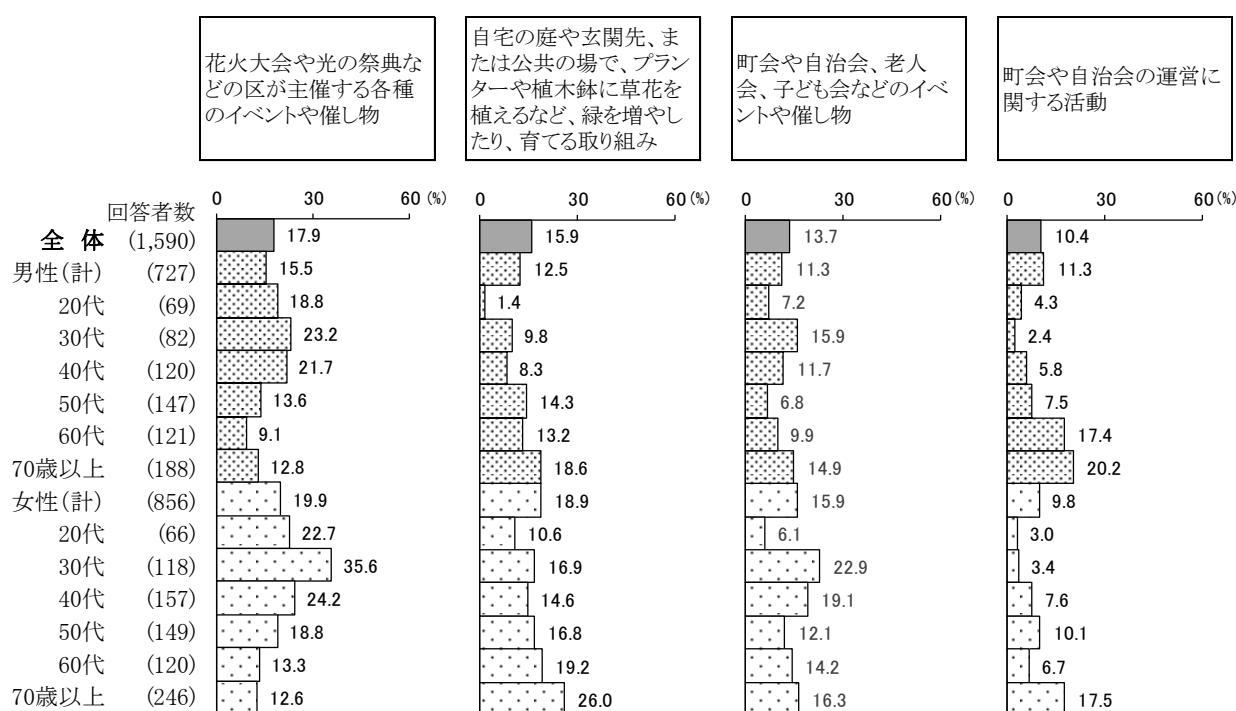
経年でみると、〈参加した活動〉と同様に、項目文の一部を変更した「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」（今回 17.6%）が前回より 5.5 ポイント増加して順位（前回 4 位→今回 2 位）も上げたことと、項目文巻末に（映画鑑賞、文化祭～も含む）の補足文を加えた「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」（今回 16.4%）が 3.1 ポイント増加（順位は 2 位→3 位）したのを除くと、そのほかの上位項目について、順位、数値に大きな変動はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈 環境・地域活動 〉

〈参加した活動〉の上位4項目について性別でみると、男性の方が僅かに高めの「町会や自治会の運営に関する活動」を除く上位3項目はいずれも女性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は女性の30代で3割台半ばととくに高く、そのほか「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は女性の30代と40代で、「町会や自治会の運営に関する活動」は男女の70歳以上と男性60代で、それぞれ2割前後とやや高くなっている。

図8-4-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動／上位4項目

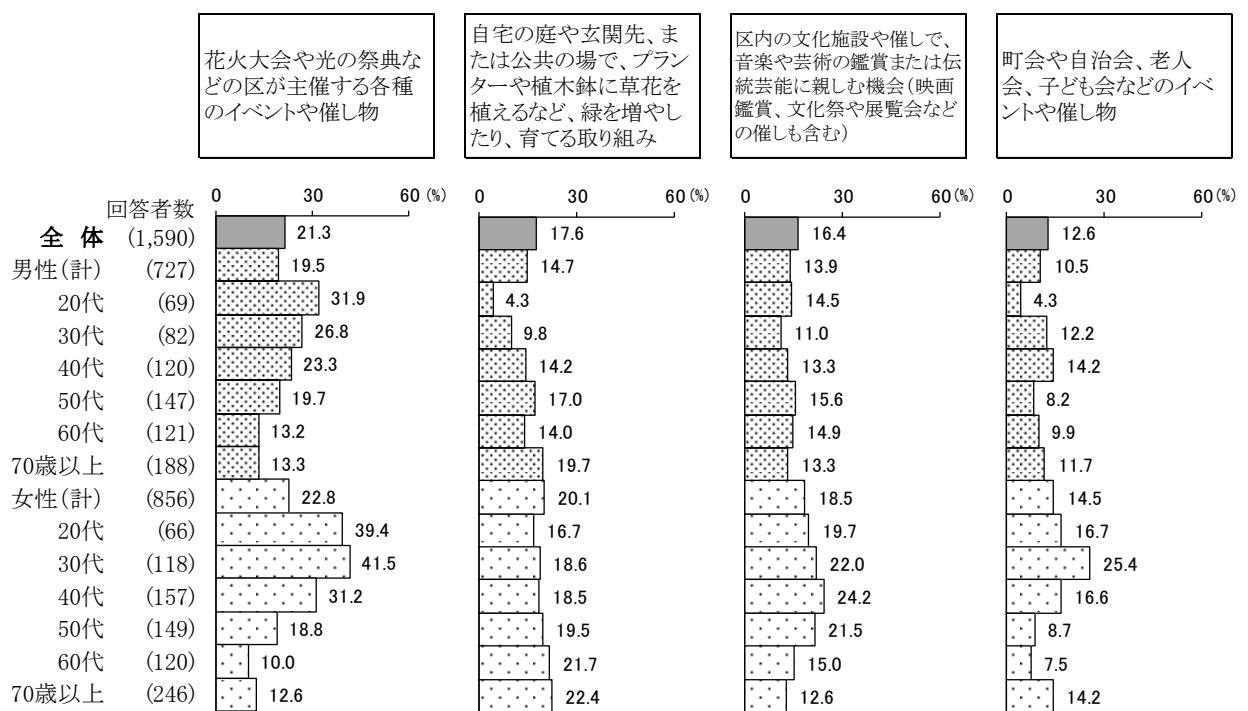




〈今後参加したい活動〉の上位4項目について性別でみると、4項目はいずれも女性の方が男性よりやや高くなっているが、大きな性差とはなっていない。

性・年代別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、男女ともに若い層ほど高めとなる傾向がみられ、年代による格差は男性より女性の方が強めとなっている。そのほか「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は女性の30代で2割台半ばと高くなっている。

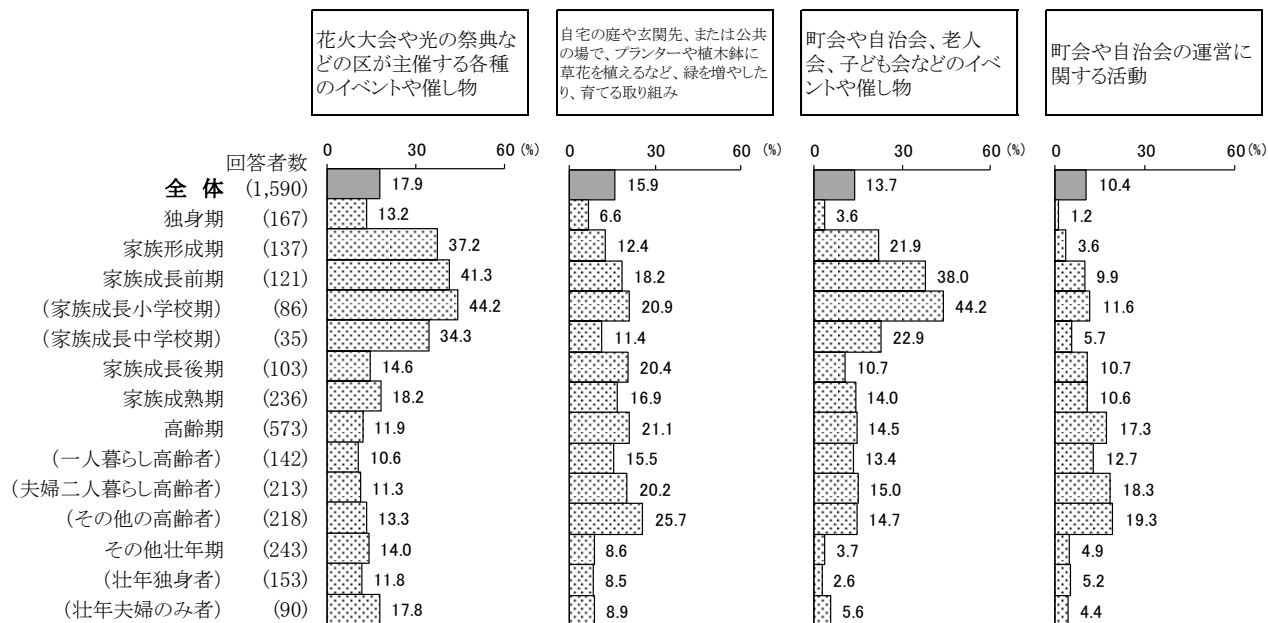
図8-4-4 性別、性・年代別／今後の参加意向／上位4項目



第3章 調査結果の分析 〈環境・地域活動〉

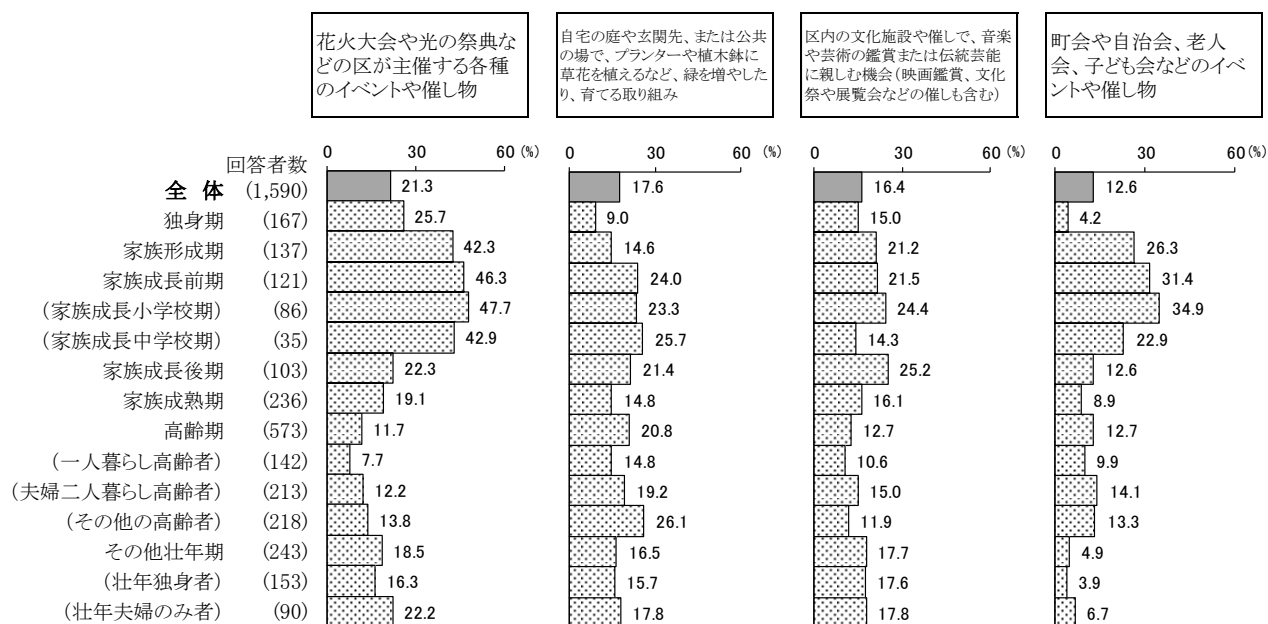
〈参加した活動〉についてライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は家族形成期と家族成長前期で4割前後とともに高く、家族成長前期は「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」も4割弱と高くなっている。

図8-4-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動／上位4項目



〈今後参加したい活動〉についてライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」と「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」の2項目は、家族形成期と家族成長前期でそれぞれ他の層より高くなっている。

図8-4-6 ライフステージ別／今後の参加意向／上位4項目



## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

- 
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
  - (2) 「地域包括支援センター」の認知状況
  - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
  - (4) 協力意向がある活動内容
  - (5) 「成年後見制度」の認知状況
-



## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

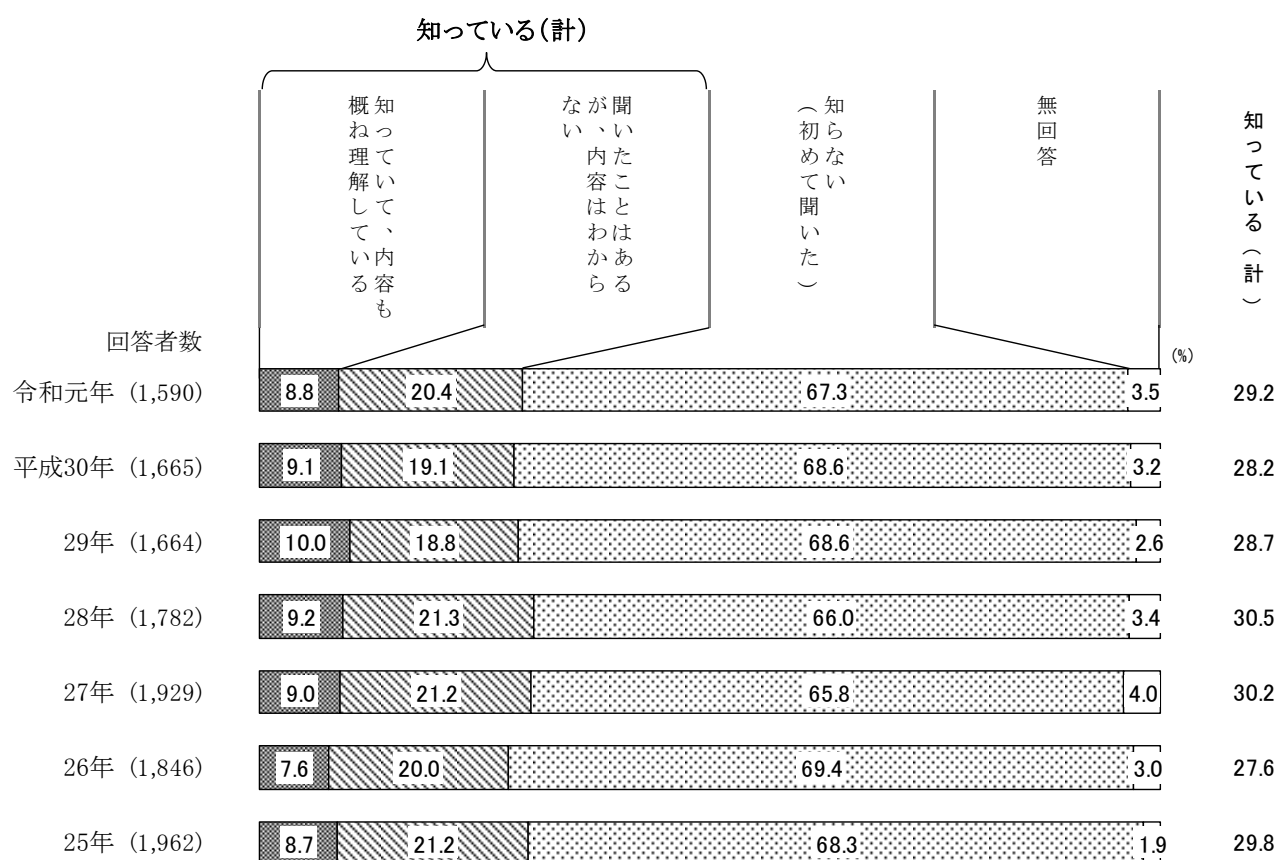
### (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

■ 【知っている】は3割弱で、「知らない（初めて聞いた）」が7割弱

問42 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか  
（○は1つだけ）。

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



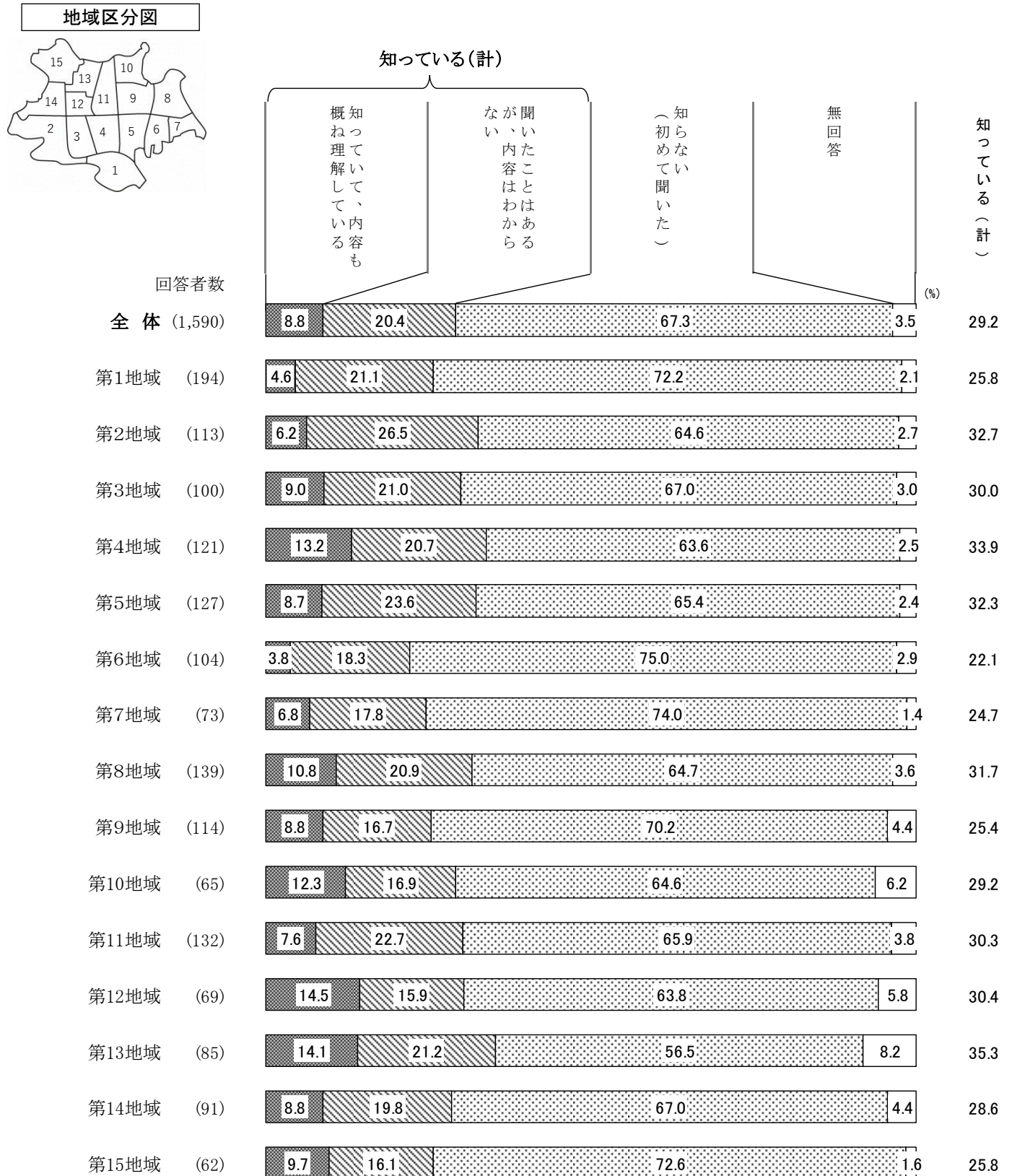
「孤立ゼロプロジェクト」について、「知っている、内容も概ね理解している」が8.8%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の20.4%を合わせた【知っている】は29.2%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は67.3%を占めている。

経年でみると、【知っている】は今回29.2%で、平成25年以降3割前後で推移しており、ほぼ横ばい状態となっている。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、【知っている】は第13地域で35.3%と最も高く、第4地域が33.9%で続き、この両地域でやや高くなっている。一方、第6地域では【知っている】が22.1%とやや低く、「知らない（初めて聞いた）」が7割台半ばを占めて最も高くなっている。

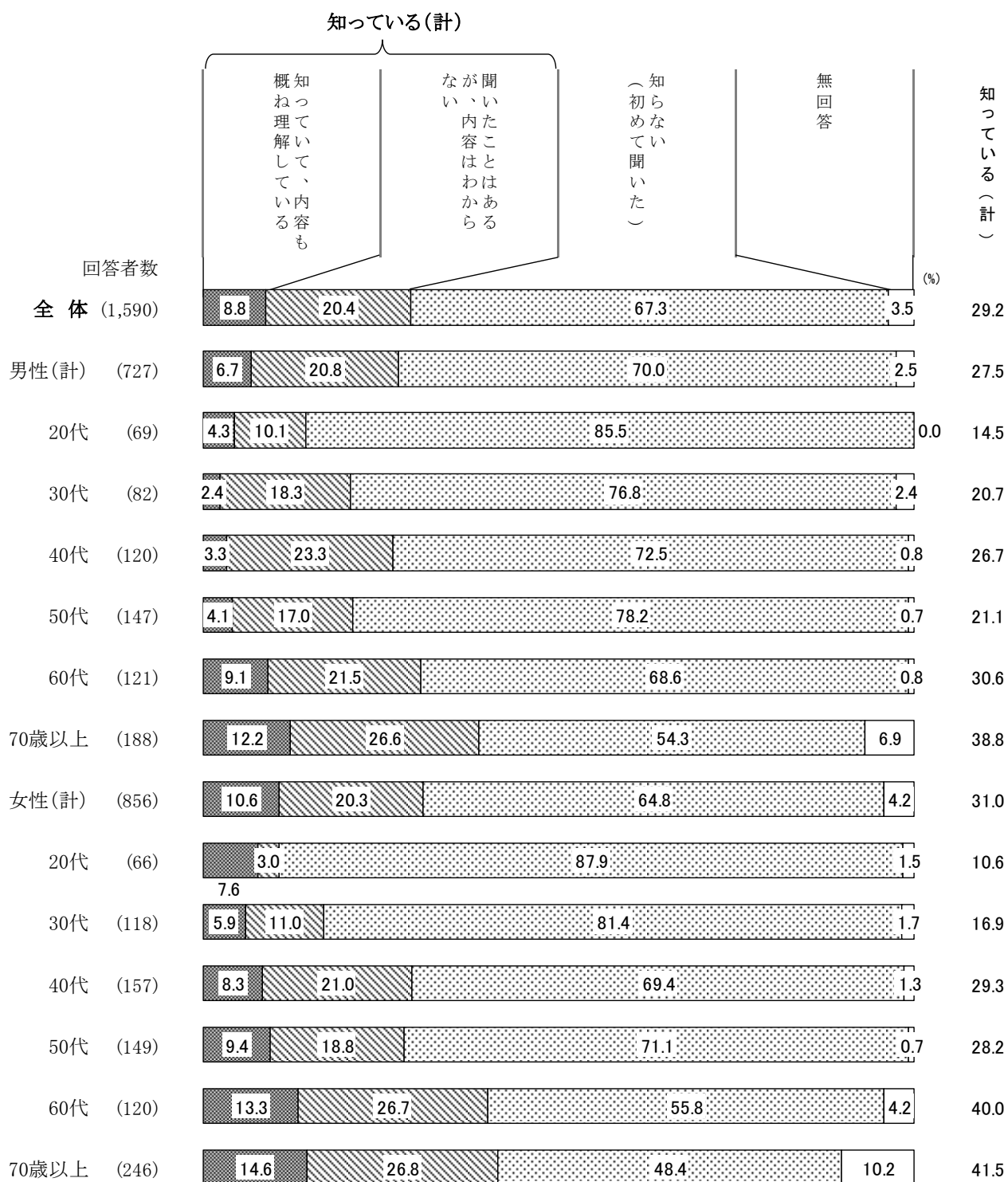
図9-1-2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



性別でみると、【知っている】は男性27.5%、女性31.0%と、女性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で、女性では60代と70歳以上で、それぞれ4割前後と高くなっているが、男女の20代と女性30代ではいずれも1割台と低く、男女ともに年代が高くなるにつれて認知率も高まる傾向がみられる。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



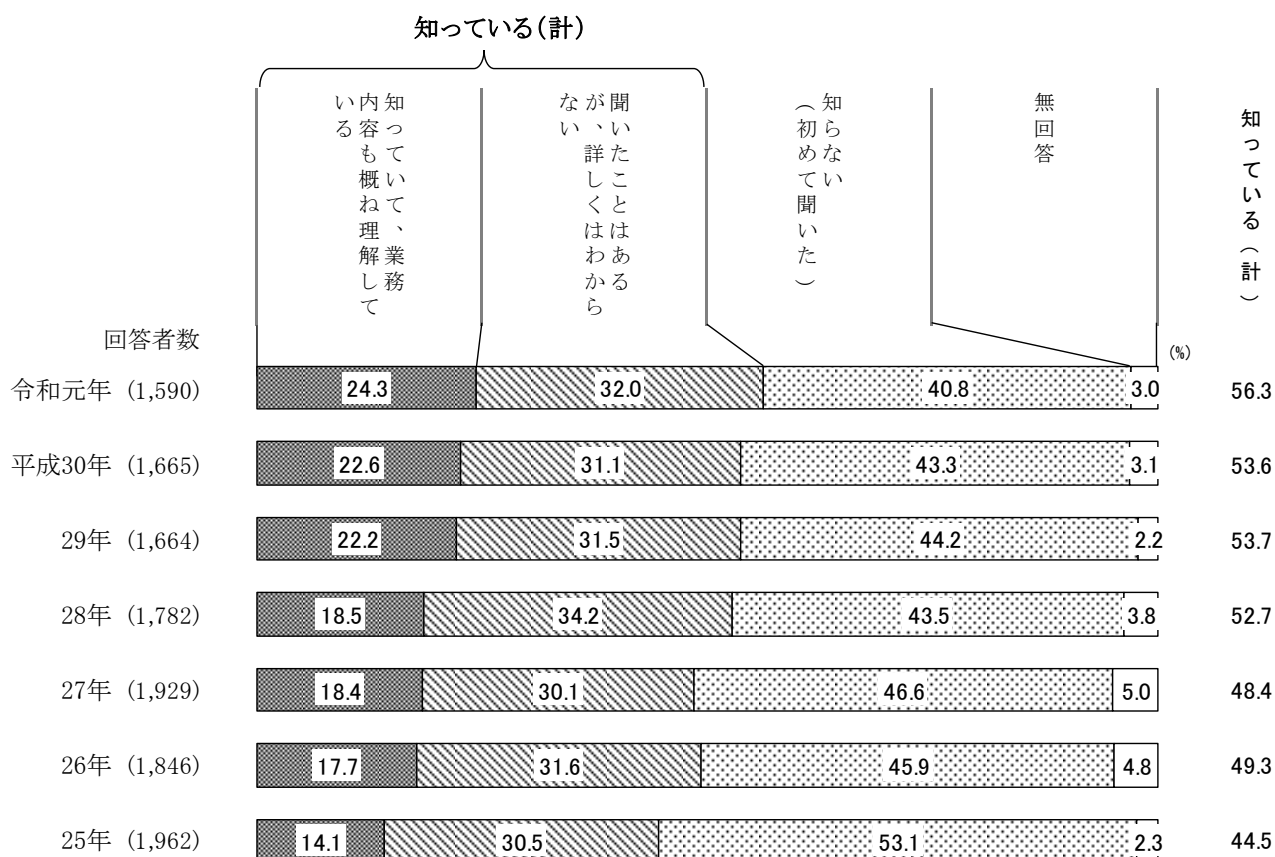
（2）「地域包括支援センター」の認知状況

■ 【知っている】が5割台半ば

問43 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※ 「地域包括支援センター」とは、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

図9-2-1 経年比較／「地域包括支援センター」の認知状況



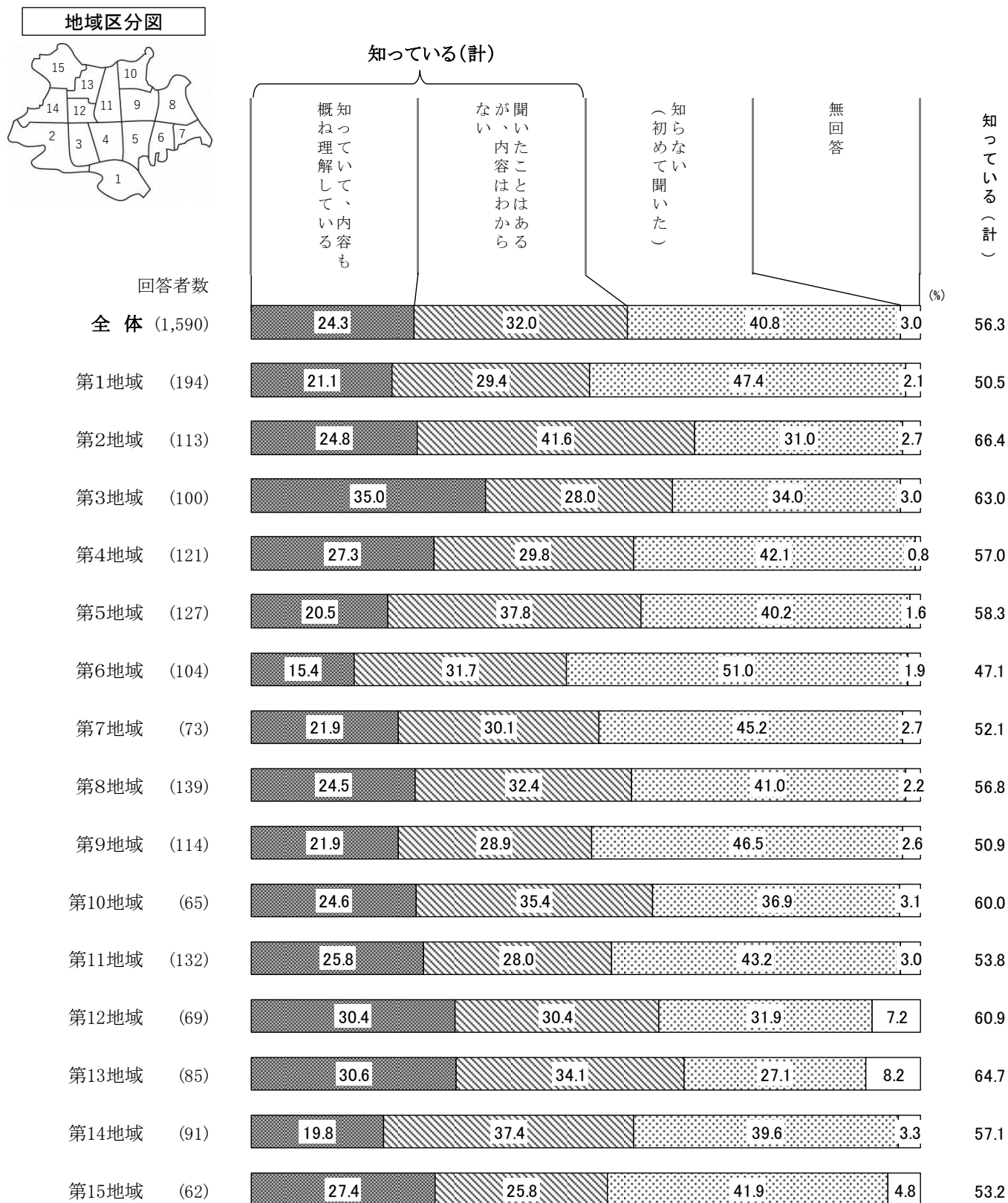
「地域包括支援センター」について、「知っている、業務内容も概ね理解している」が24.3%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」の32.0%を合わせた【知っている】は56.3%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は40.8%である。

経年でみると、【知っている】は今回56.3%で、前回より2.7ポイント増えており、平成25年の44.5%からみると10ポイント以上増加して漸増傾向にあり、「知っている、業務内容も概ね理解している」も今回24.3%で、平成25年以降6年間に亘って僅かずつながら各年微増を続けている。



地域別でみると、【知っている】は66.4%の第2地域で最も高く、第13地域が僅差で続き、第3地域、第10地域、第12地域もそれぞれ6割台と高くなっている。一方、第6地域では【知っている】が47.1%と低く、「知らない（初めて聞いた）」が過半数を占めて最も高くなっている。

図9-2-2 地域別／「地域包括支援センター」の認知状況

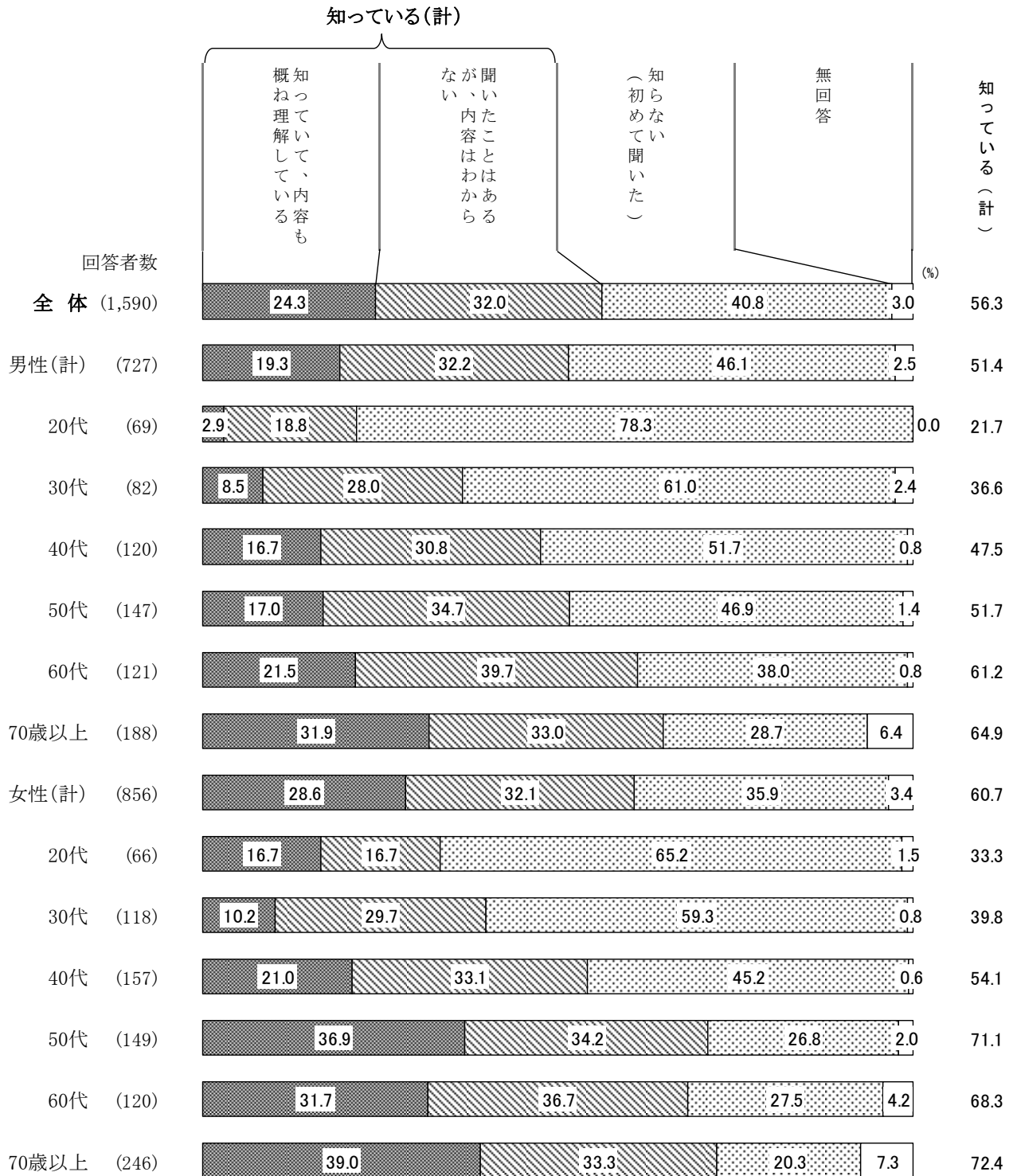


第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

性別でみると、【知っている】は男性51.4%、女性60.7%と、男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で6割台半ばと最も高く、女性では50代以上の3年代層で、それぞれ7割前後と高くなっており、男女ともに年代が高くなるにつれて認知率も高まる傾向がみられる。

図9-2-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況

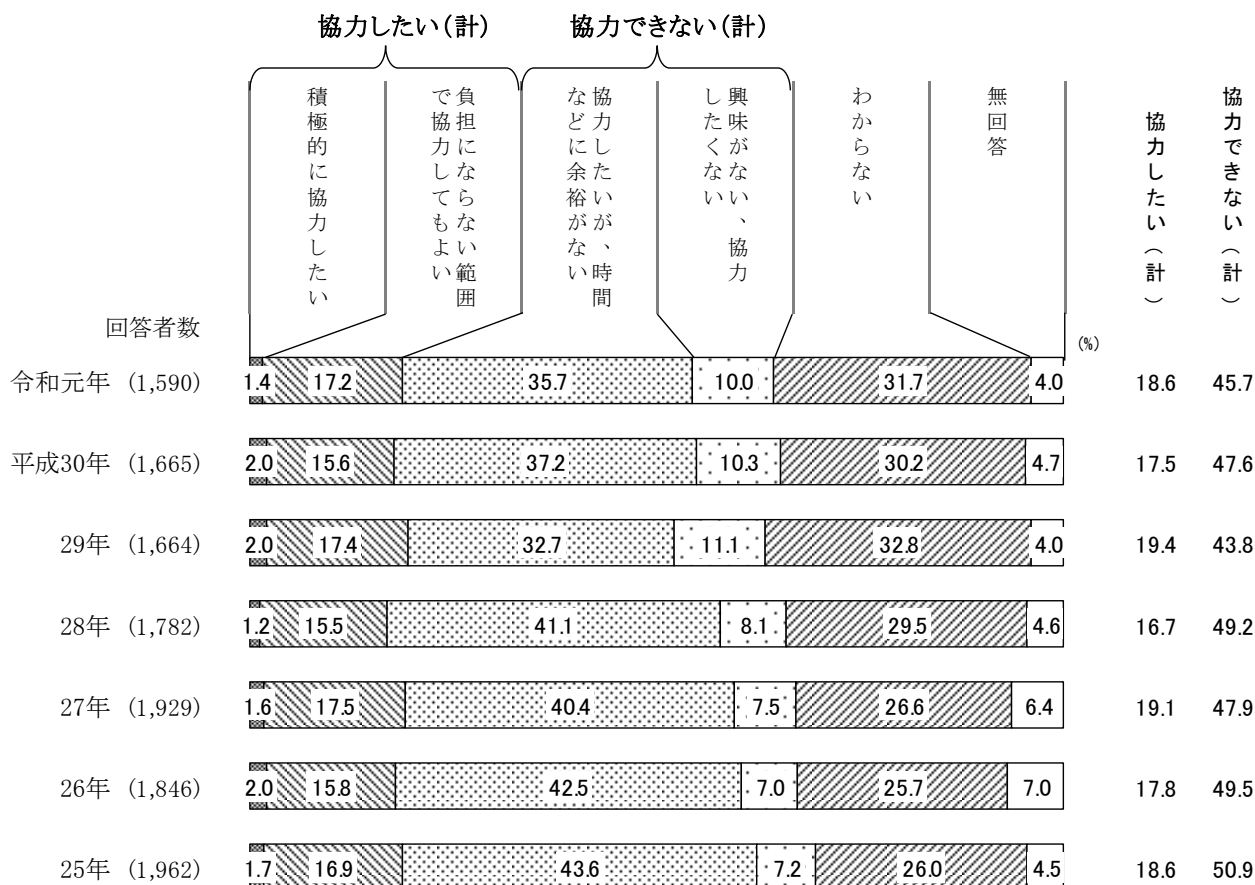


（3）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

■ 【協力したい】は2割弱で、前回よりやや増加も、大きな経年変化はみられず

問44 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



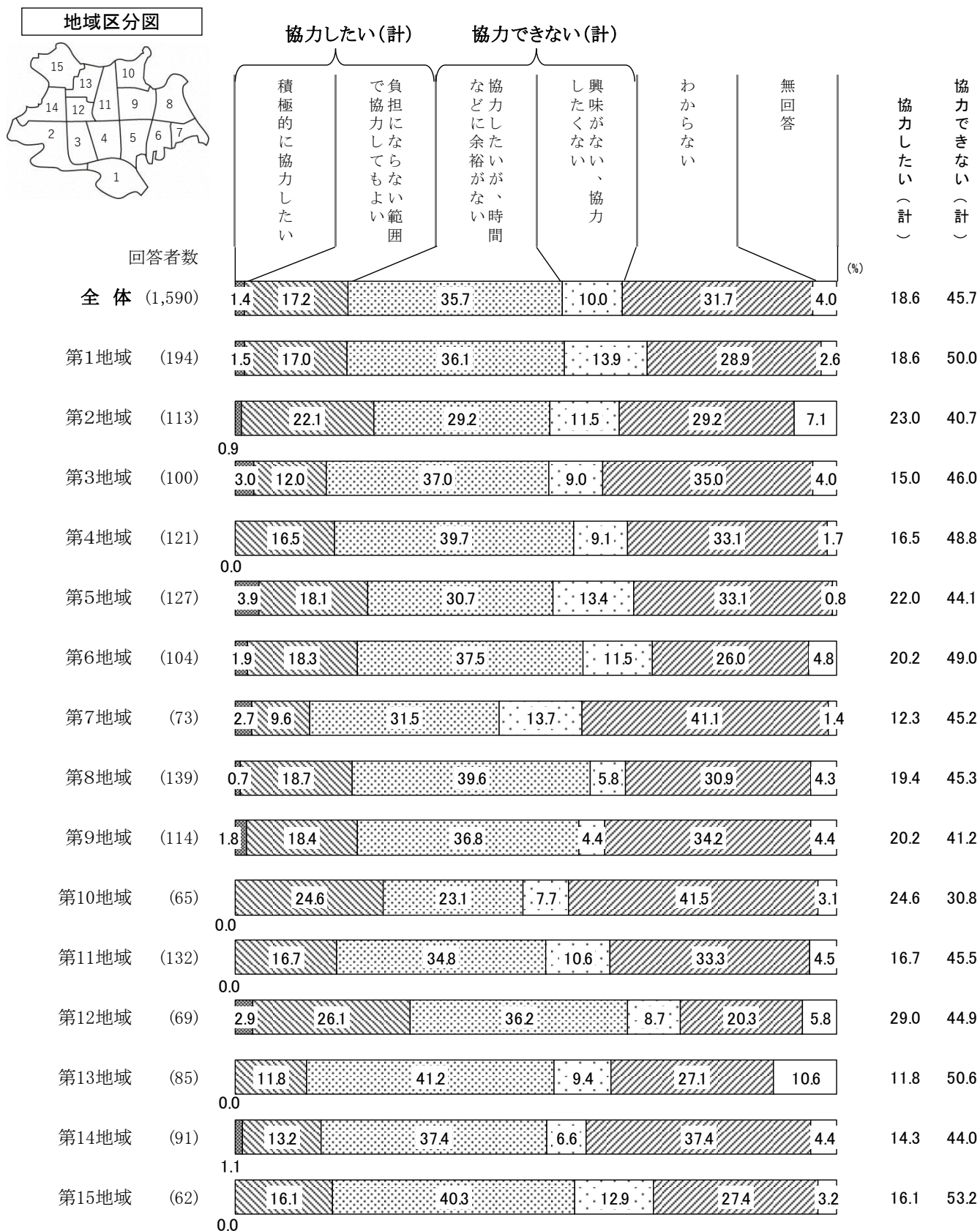
高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は1.4%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」の17.2%を合わせた【協力したい】は18.6%となっている。一方、「協力したいが、時間などに余裕がない」は35.7%、「興味がない、協力したくない」は10.0%となっており、この両層を合わせた【協力できない】は45.7%となる。

経年でみると、【協力したい】は今回18.6%と、前回の17.5%より1.1ポイント増加しているものの、平成25年以降各年2割弱のレベルで推移しており、大きな経年変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、【協力したい】は第12地域が29.0%で最も高く、第10地域が24.6%で続き、この両地域で高くなっている。一方、【協力できない】は第15地域が5割強で最も高くなっている。

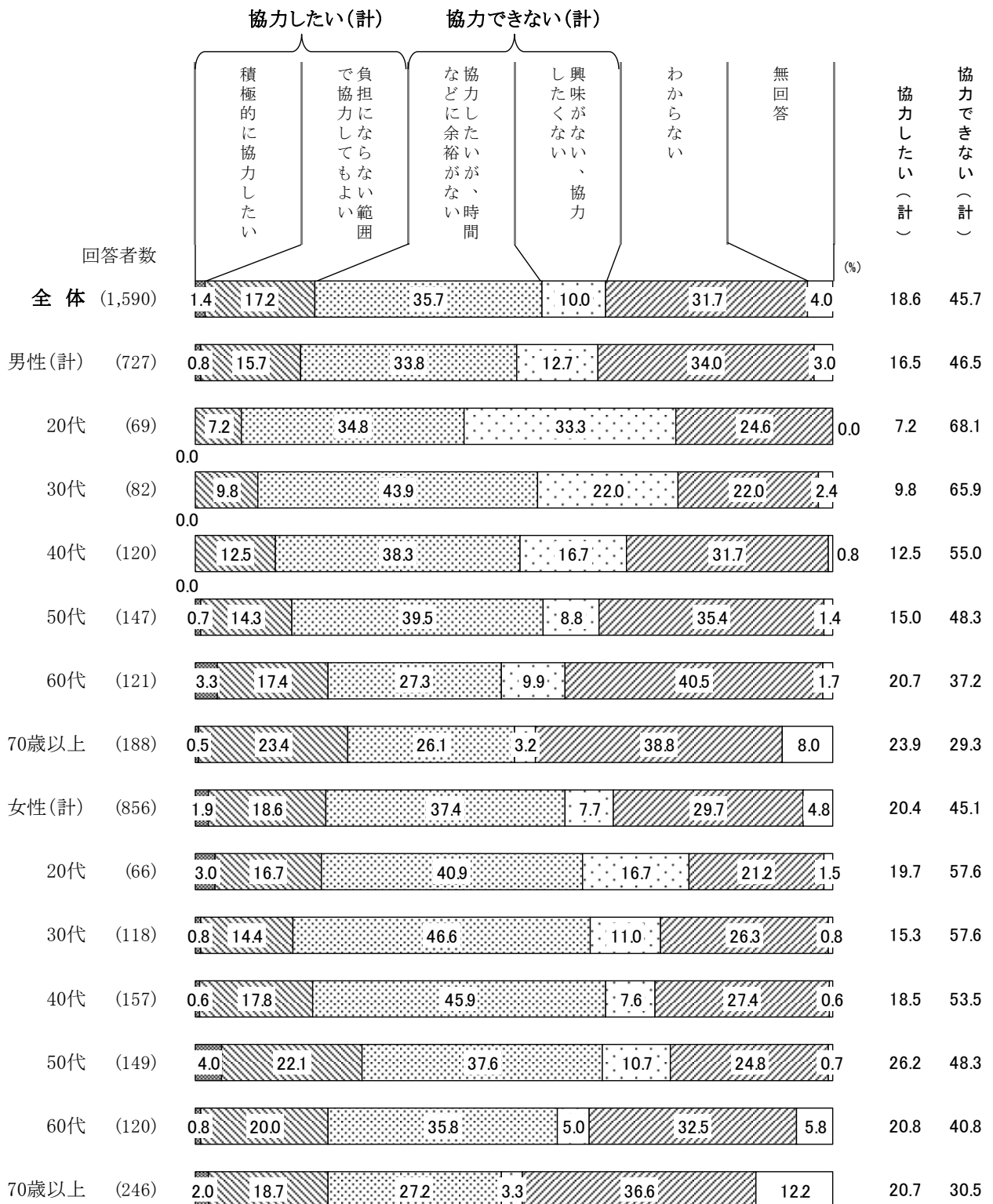
図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



性別でみると、【協力したい】は男性16.5%、女性20.4%となっている。

性・年代別でみると、【協力したい】は、男性では70歳以上で、女性では50代で、それぞれ2割台半ばとやや高くなっている。一方、男女の30代と女性40代では「協力したいが、時間などに余裕がない」がそれぞれ4割台半ばを占めて、他の性・年代層より高くなっている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

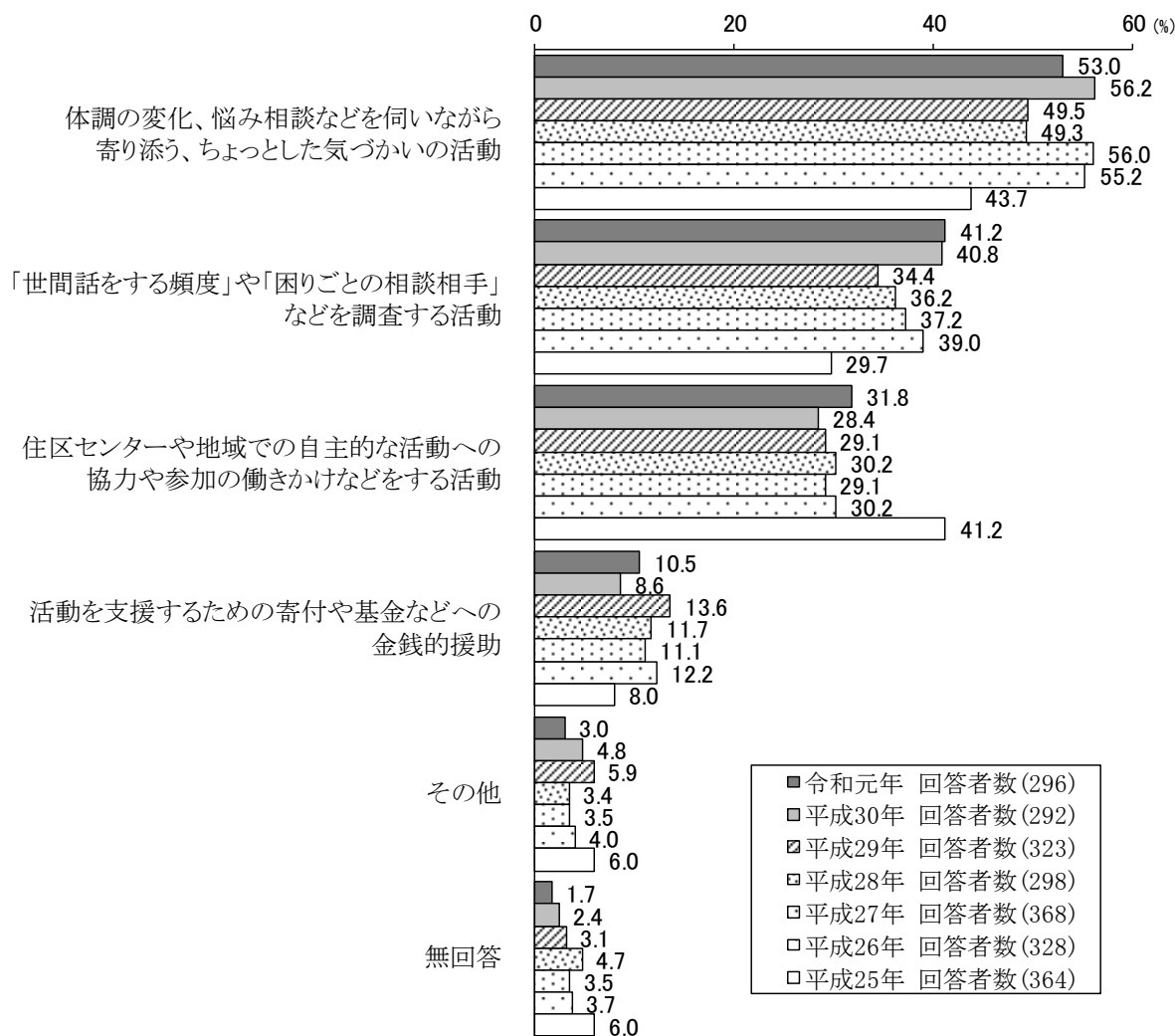


（4）協力意向がある活動内容

■ “ちょっとした気づかいの活動”が5割強、“調査する活動”が4割強

問44で「1. 積極的に協力～」、または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に  
問44-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

図9-4-1 経年比較／協力意向がある活動内容



平成25年度調査の選択肢について

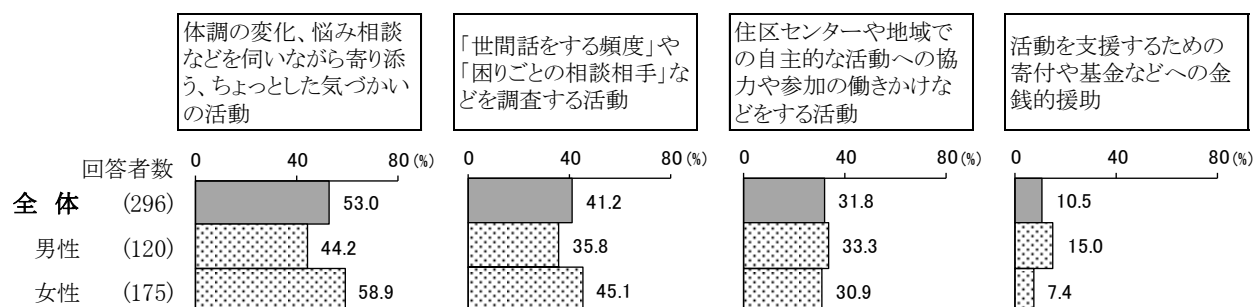
- 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動＝平成25年度調査：寄り添い支援活動
- 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動＝平成25年度調査：調査活動
- 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動＝平成25年度調査：居場所づくりや活動の場での協力
- 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助＝平成25年度調査：財政的協力

【協力したい】という人に、その活動内容を聴くと、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が53.0%で最も高く、以下「『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動」（41.2%）、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」（31.8%）の順で続いている。

経年でみると、上位項目の順位や比率に前回からの大きな変動はみられない。

性別でみると、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」は男性44.2%、女性58.9%で男性より女性が14.7ポイント高く、「『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動」（男性35.8%＜女性45.1%）も女性の方が高くなっている。

図9-4-2 性別／協力意向がある活動内容

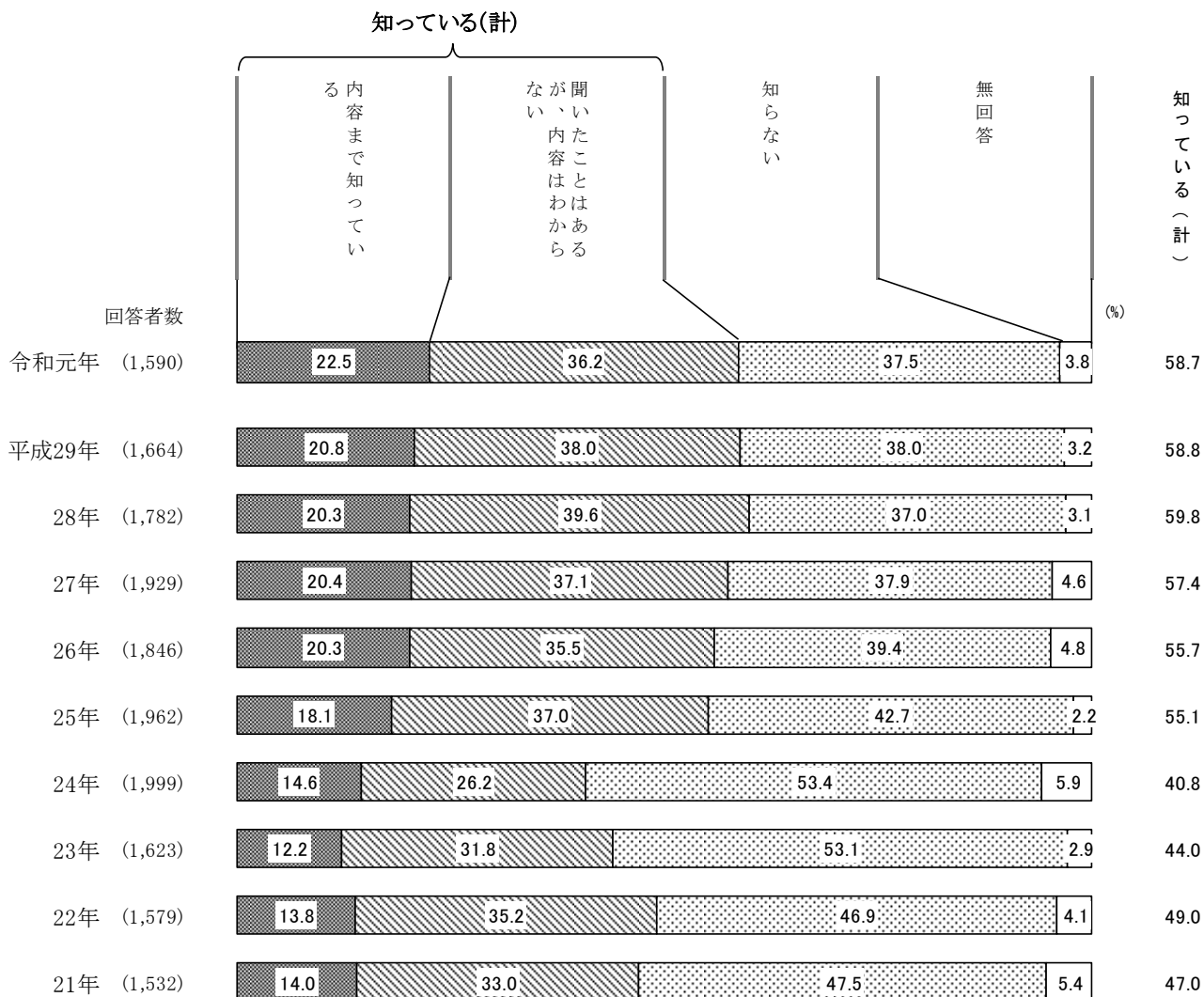


(5) 「成年後見制度」の認知状況

■ 【知っている】は6割弱で、そのうち“内容まで認知”が2割強で、ほぼ横ばいの結果

問45 あなたは、高齢者などの権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか（○は1つだけ）。

図9-5-1 「成年後見制度」の認知状況



※ 本設問は、平成21年度以降聴取しているが、平成30年度では聴取していない。

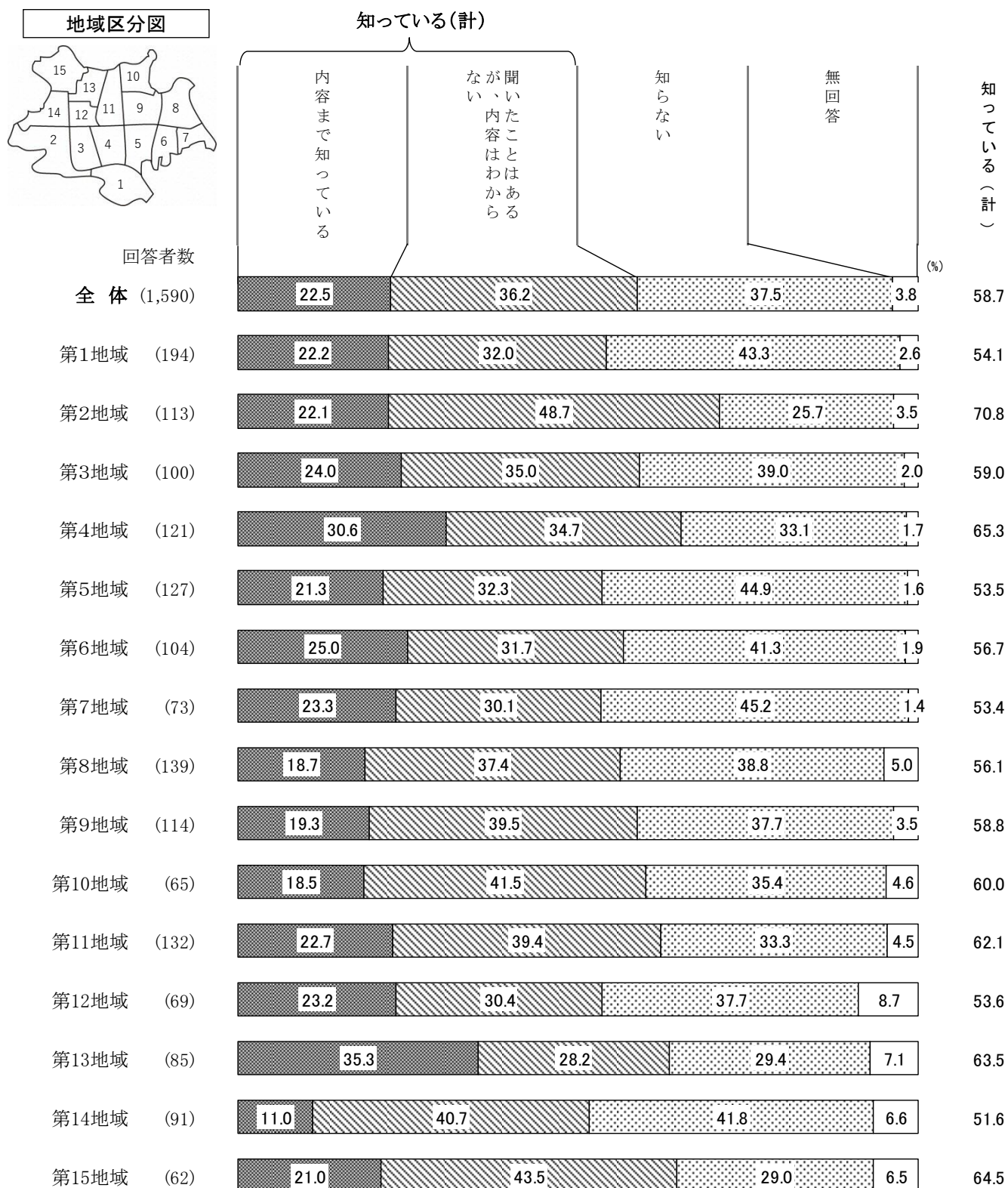
「成年後見制度」について、「内容まで知っている」が22.5%で、これに「聞いたことあるが、内容はわからない」の36.2%を合わせた【知っている】は58.7%で6割弱となっている。一方、「知らない」は37.5%となっている。

経年でみると、【知っている】は今回58.7%と、平成27年以降ほぼ横ばい状態となっている。



地域別でみると、【知っている】は第2地域が70.8%と7割を超えて最も高く、これに第4地域、第13地域、第15地域がそれぞれ6割台半ばで続き、これらの地域で高くなっている。

図9-5-2 地域別／「成年後見制度」の認知状況

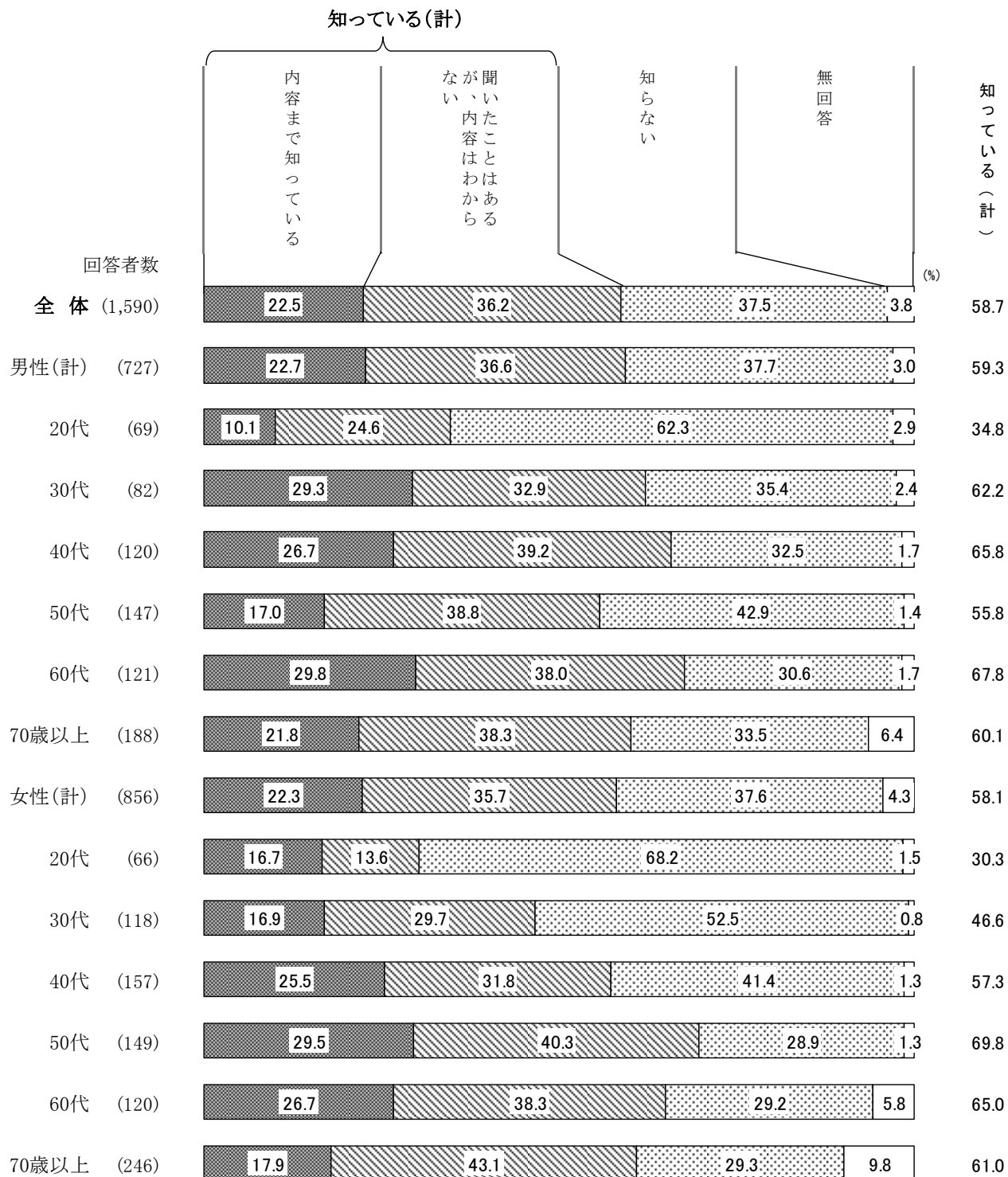


第3章 調査結果の分析（「孤立ゼロプロジェクト」など）

性別でみると、【知っている】は男性59.3%、女性58.1%でほとんど違いはみられない。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性の60代と女性の50代でそれぞれ7割弱と高く、これに男性の40代と女性の60代がともに6割台半ばで続き、他の性・年代層より高くなっている。

図9-5-3 性別、性・年代別／「成年後見制度」の認知状況



## 10 協働・協創

- 
- (1) 「協創」の認知
  - (2) 協働・協創の実践
  - (3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価
-



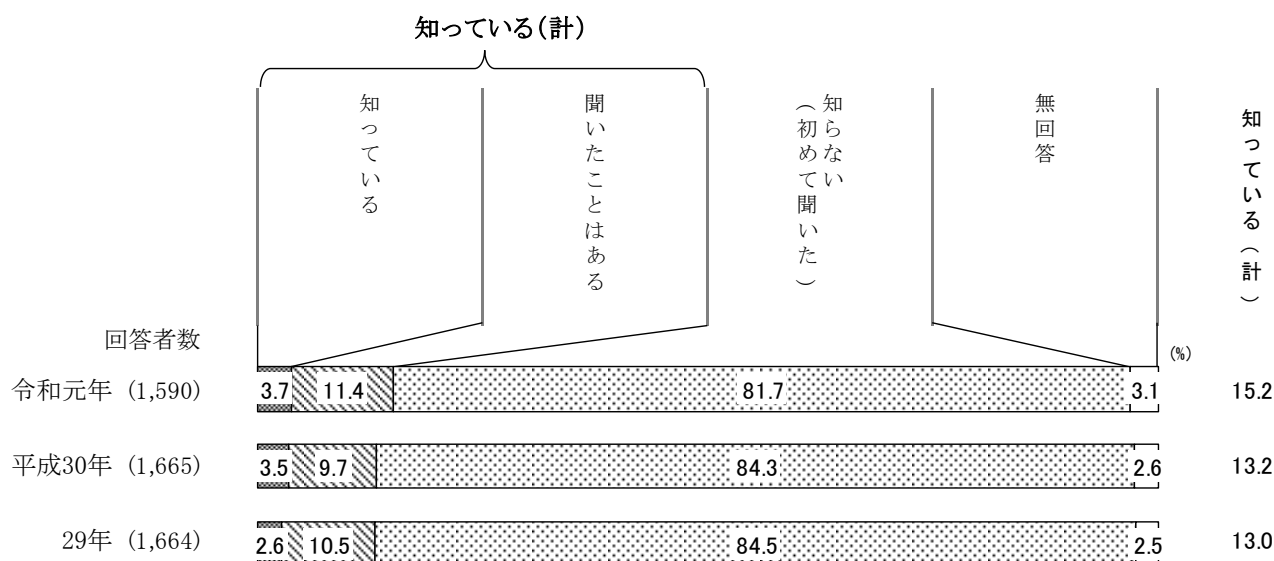
## 10 協働・協創

### (1) 「協創」の認知

■ 【知っている】は前年より微増したが、依然15%台にとどまる

問46 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。あなたは、この「協創」を知っていますか（○は1つだけ）。

図10-1-1 経年比較／「協創」の認知



「協創」について「知っている」が3.7%で、これに「聞いたことはある」(11.4%)を合わせた【知っている】は15.2%となっている。一方、「知らない」は81.7%を占めている。

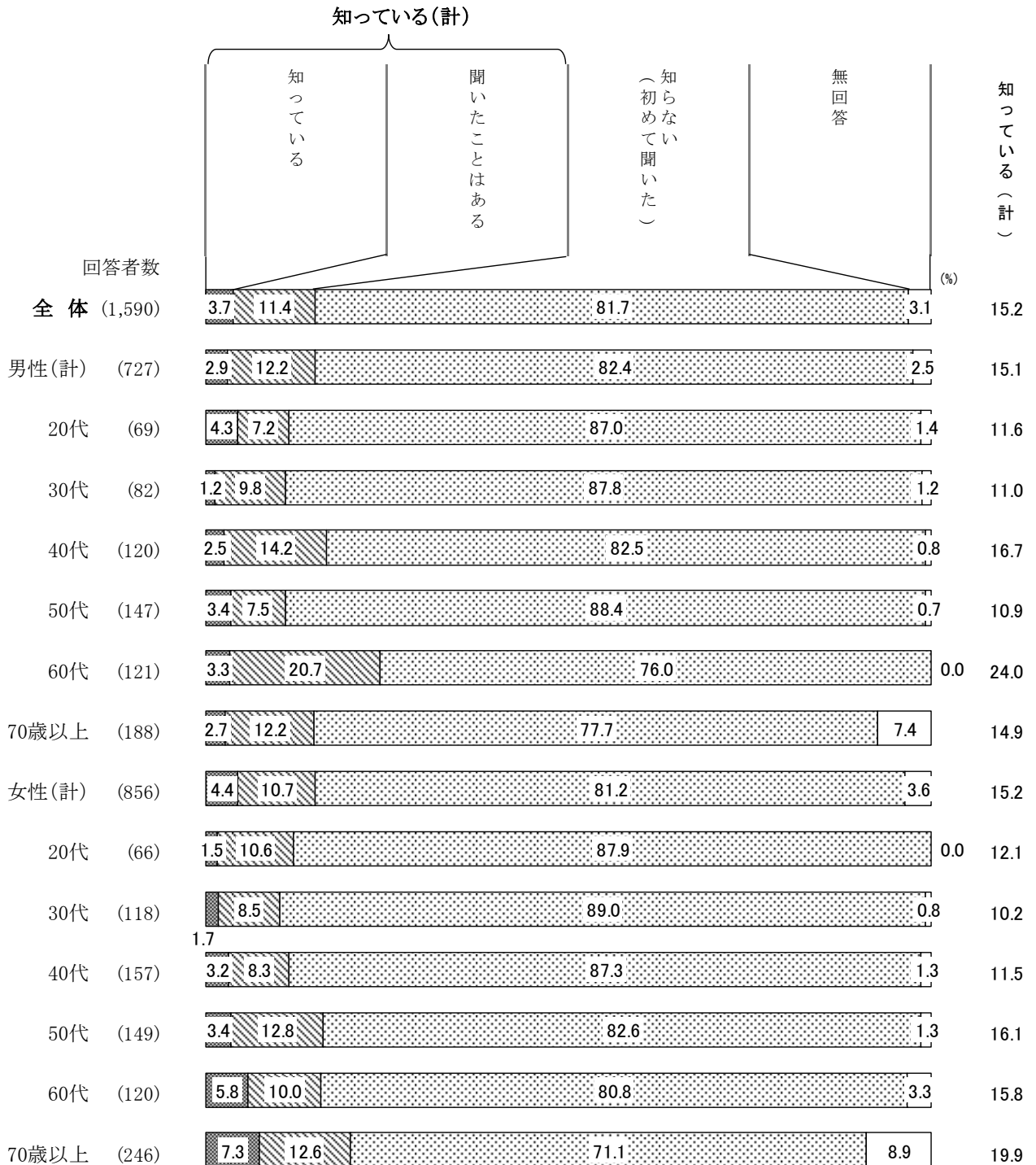
経年でみると、前回までと似通った回答分布ながら、今回の令和元年の【知っている】は15.2%で、前回の13.2%から2.0ポイントながら増加しており、逆に「知らない(初めて聞いた)」は前回より2.6ポイント減少している。

第3章 調査結果の分析〈協働・協創〉

性別で見ると、【知っている】は男性15.1%、女性15.2%で性差はみられない。

性・年代別で見ると、【知っている】は、男性では60代で2割台半ばで最も高く、女性では70歳以上でほぼ2割と高くなっている。

図10-1-2 性別、性・年代別／「協創」の認知

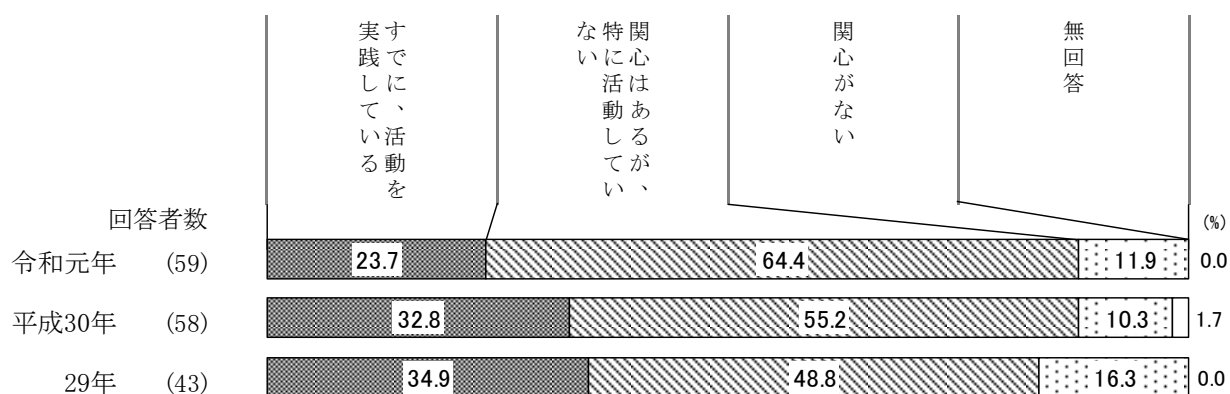


(2) 協働・協創の実践

■ 「関心はあるが、特に活動していない」が6割台半ば

問46で「1. 知っている」とお答えの方に  
 問46-1 あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など、区役所・区民・団体との協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか  
 （○は1つだけ）。

図10-2-1 経年比較／協働・協創の実践

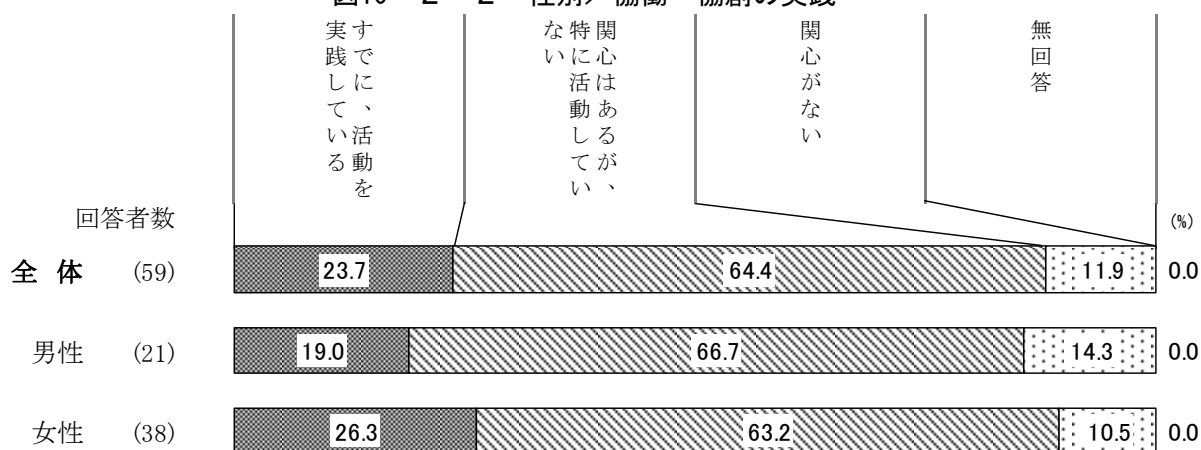


「協創」を「知っている」という人について、その実践状況をみると、「すでに、活動を実践している」が23.7%、「関心はあるが、特に活動していない」が64.4%となっている。一方、「関心がない」は11.9%となっている。

経年でみると、「関心はあるが特に活動していない」が前回の55.2%から9.2ポイント増加し、2年続けて増加の一方、「すでに、活動を実践している」は前回の32.8%から9.1ポイント減少している。

性別でみると、「すでに、活動を実践している」は男性（19.0%）より女性（26.3%）の方が高くなっている。

図10-2-2 性別／協働・協創の実践

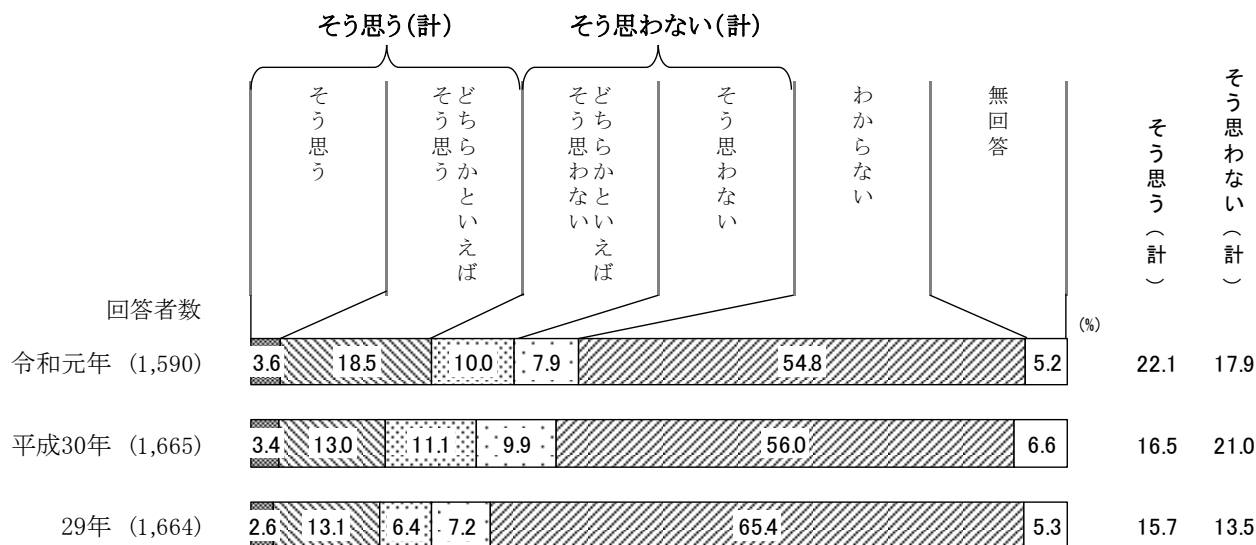


(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

■ 【そう思う】が初めて2割を超え、【そう思わない】を上回って多くなっている

問47 あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか  
 (○は1つだけ)。

図10-3-1 経年比較/区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



※ 平成30年度の設問文は、「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、今回の令和元年では設問文の一部の表現が変わった上に、「子どもの貧困対策」が追加挿入された

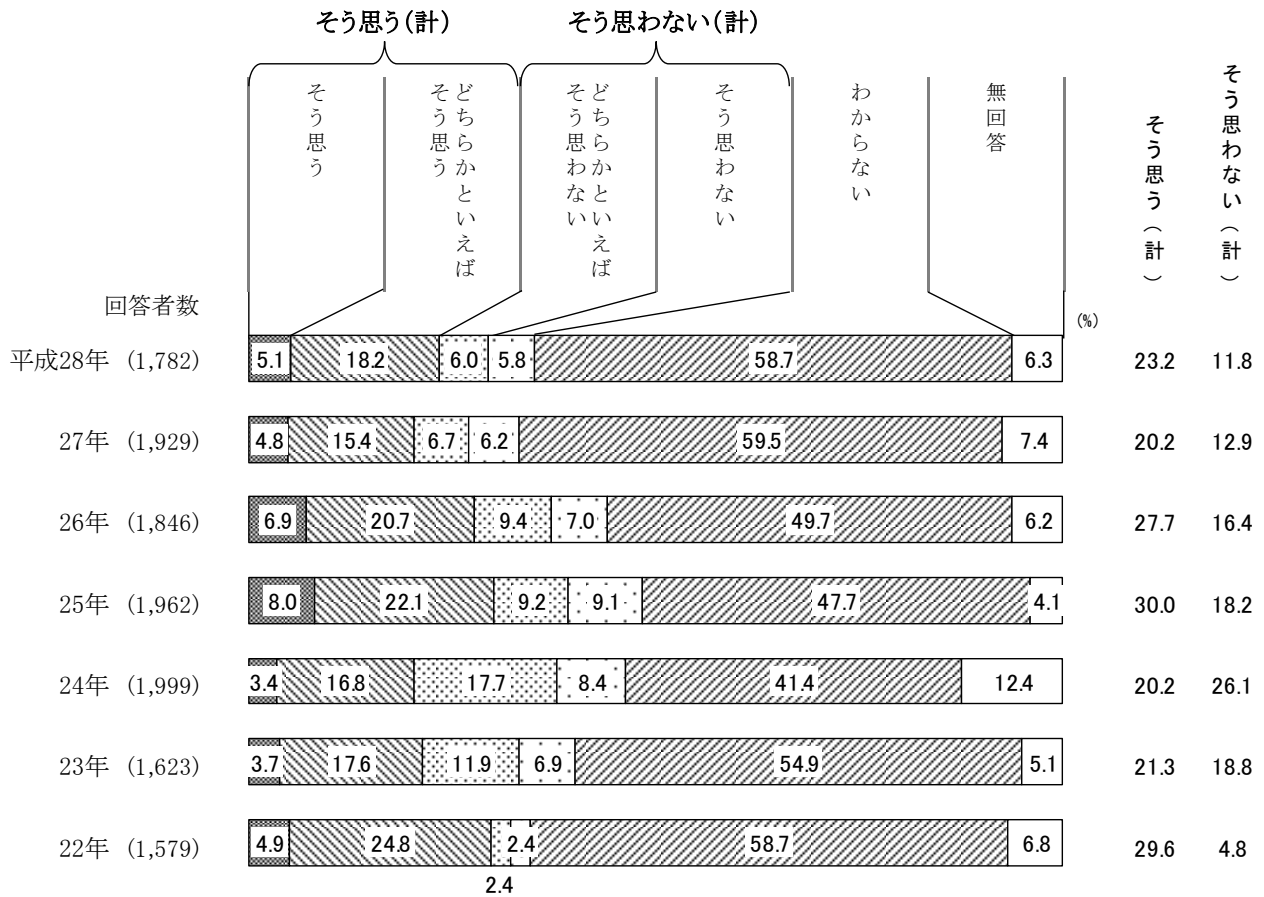
協働や協創による事業が進んでいると思うかについては、「そう思う」が3.6%で、これに「どちらかといえばそう思う」(18.5%)を合わせた【そう思う】は22.1%で2割強となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.0%)と「そう思わない」(7.9%)を合わせた【そう思わない】は17.9%で2割弱となっており、〈協働・協創〉評価の測定を始めて3回目の今回初めて【そう思う】が2割を超えて、2割弱の【そう思わない】を上回る結果となっている。一方、「わからない」は2年続けて漸減傾向にあるものの、依然として54.8%と過半数を占めて多くなっている。

今回の調査は、平成30年と設問文が部分的に異なるため、経年比較はあくまでも参考とすべきながら、【そう思う】という評価層が2割台に達して【そう思わない】という非評価層を上回ったことは注目に値すると思われる。



参考／区役所・区民・団体との協力・連携（協働）した事業推進の評価

問 あなたは、区役所が孤立ゼロプロジェクトやビューティフル・ウィンドウズ運動など区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか（○は1つだけ）。



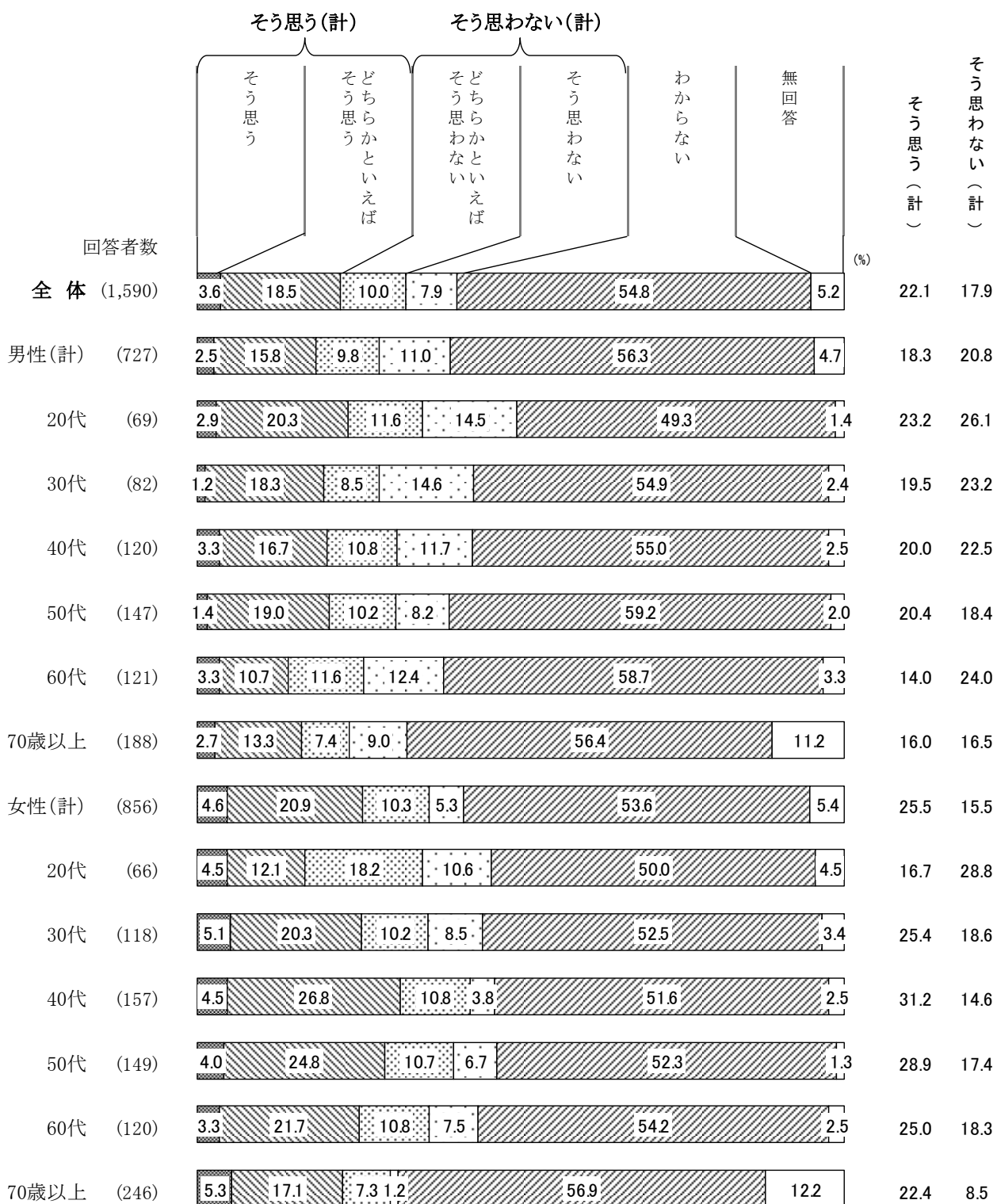
※ 平成28年度までは、「協創」の部分にふれておらず、設問文も違うため、結果を単純に比較することはできない。

第3章 調査結果の分析〈協働・協創〉

協働や協創による事業が進んでいると思うかについて性別でみると、【そう思う】は男性18.3%、女性25.5%で、女性の方が7.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「わからない」が多数を占める傾向は男女の各年代ともに共通しているが、【そう思う】の方が【そう思わない】を上回って多いのは、男性では50代に限られるのに対し、女性では20代だけを除く30代以上の5年代層となっている。

図10-3-2 性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



## 11 区の取り組み

- 
- (1) 満足度と重要度
  - (2) 区政への区民意見の反映度
  - (3) 区に対する気持ち
  - (4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）
  - (5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）
  - (6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度
-



## 11 区の取り組み

## (1) 満足度と重要度

■ 満足度は「資源環境対策」が、重要度は「治安対策」が、それぞれ最上位

問48 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、ア～ニの項目ごとに、最も近いものを選んでください

（○はいずれも、それぞれ1つずつ）。

選択肢（区の取り組み）	内 容
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ソ. 住環境対策	多様で良好な住宅供給、中古住宅市場の活性化、空き家利活用、公共住宅の再生など
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など
ニ. 区政全体として	

図11-1-1-① 経年比較／現状評価（満足度）

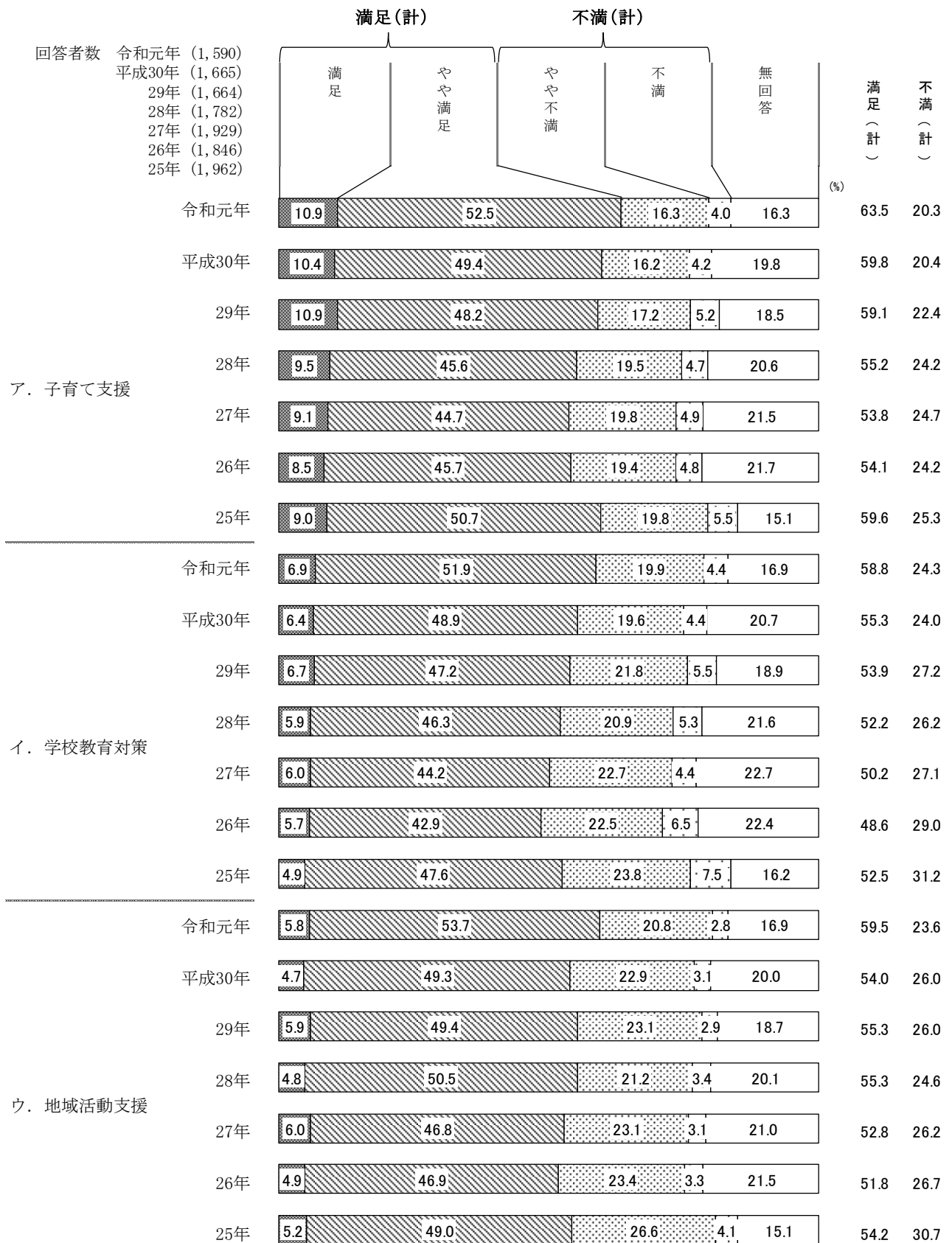


図11-1-1-② 経年比較/現状評価(満足度)

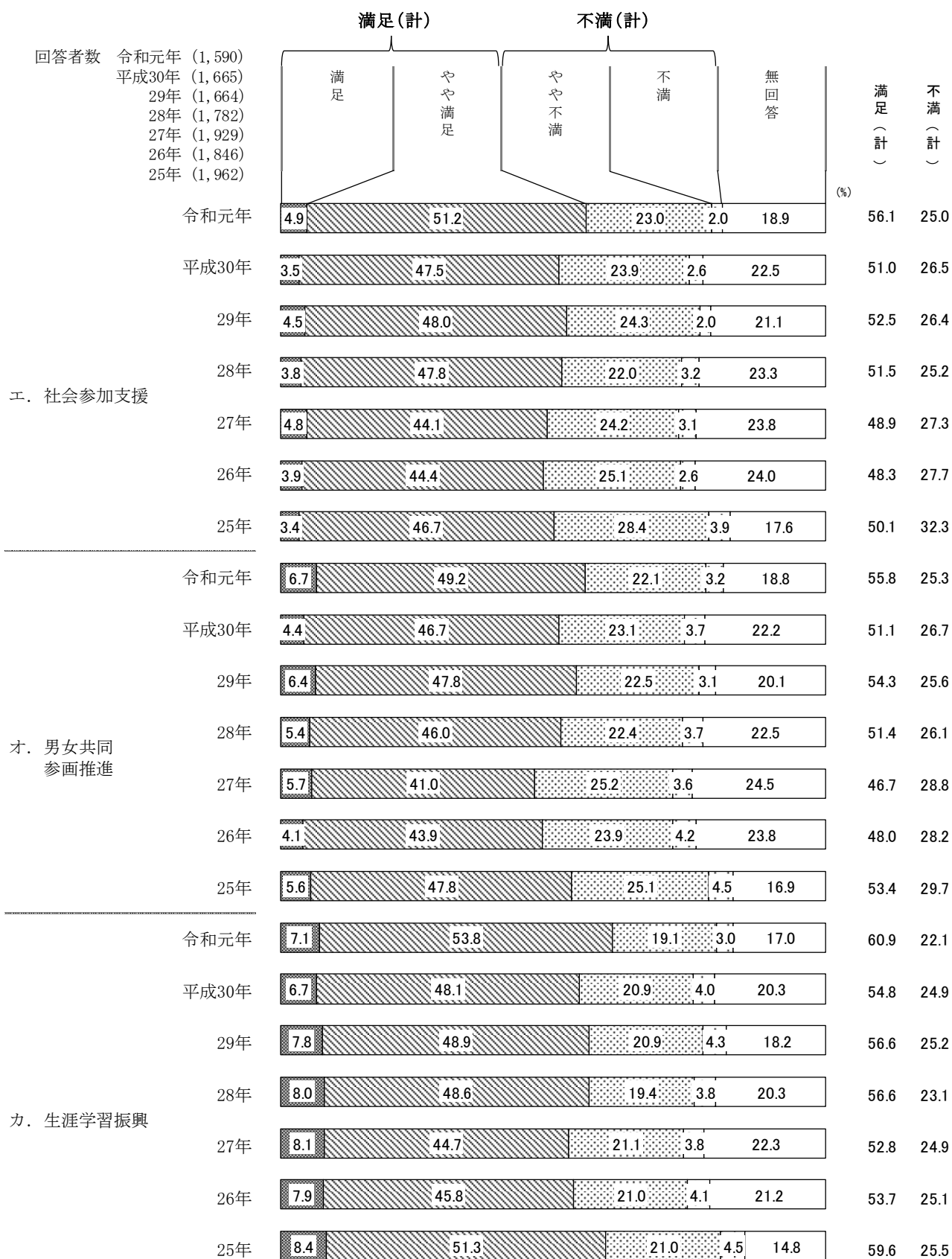


図11-1-1-③ 経年比較／現状評価（満足度）

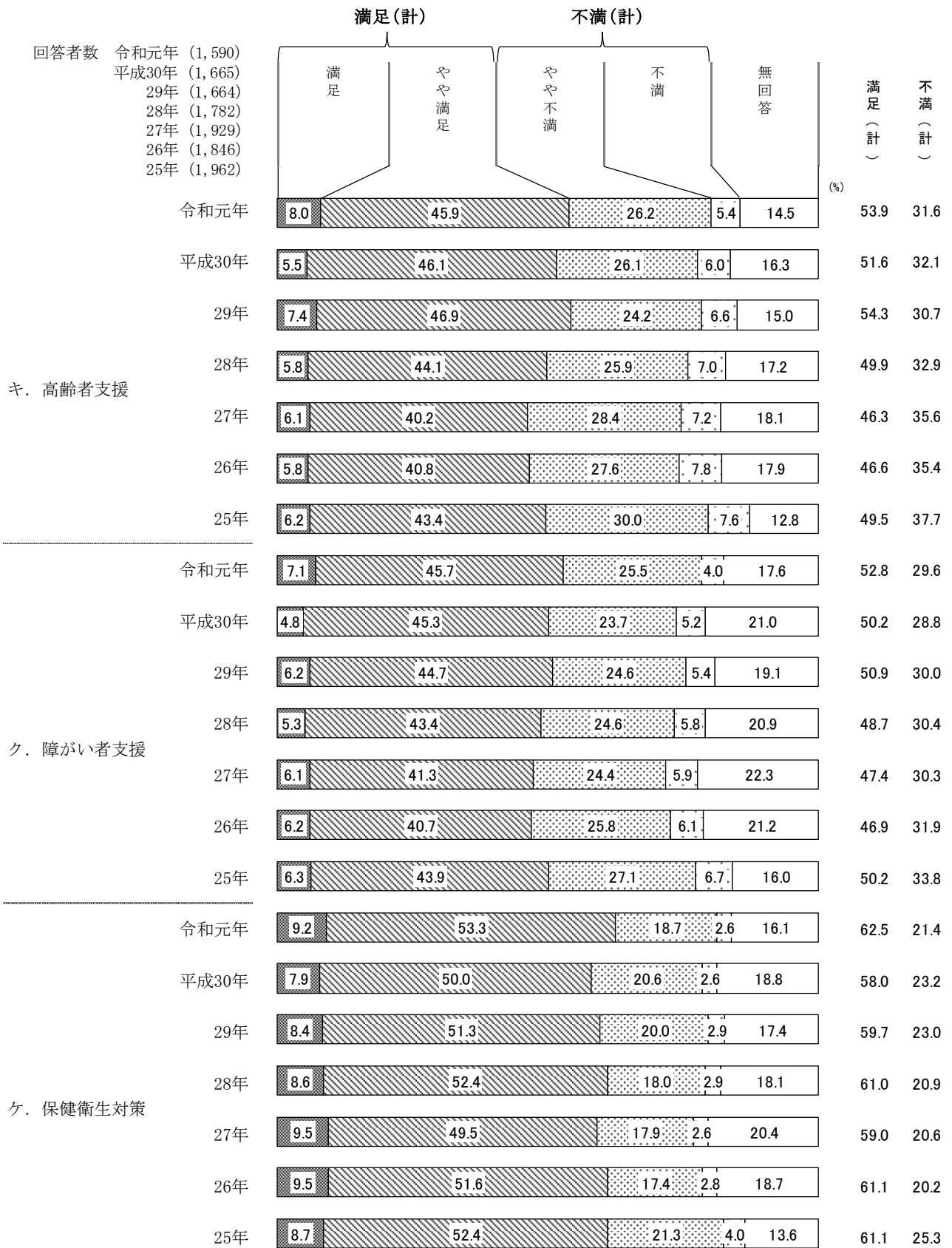
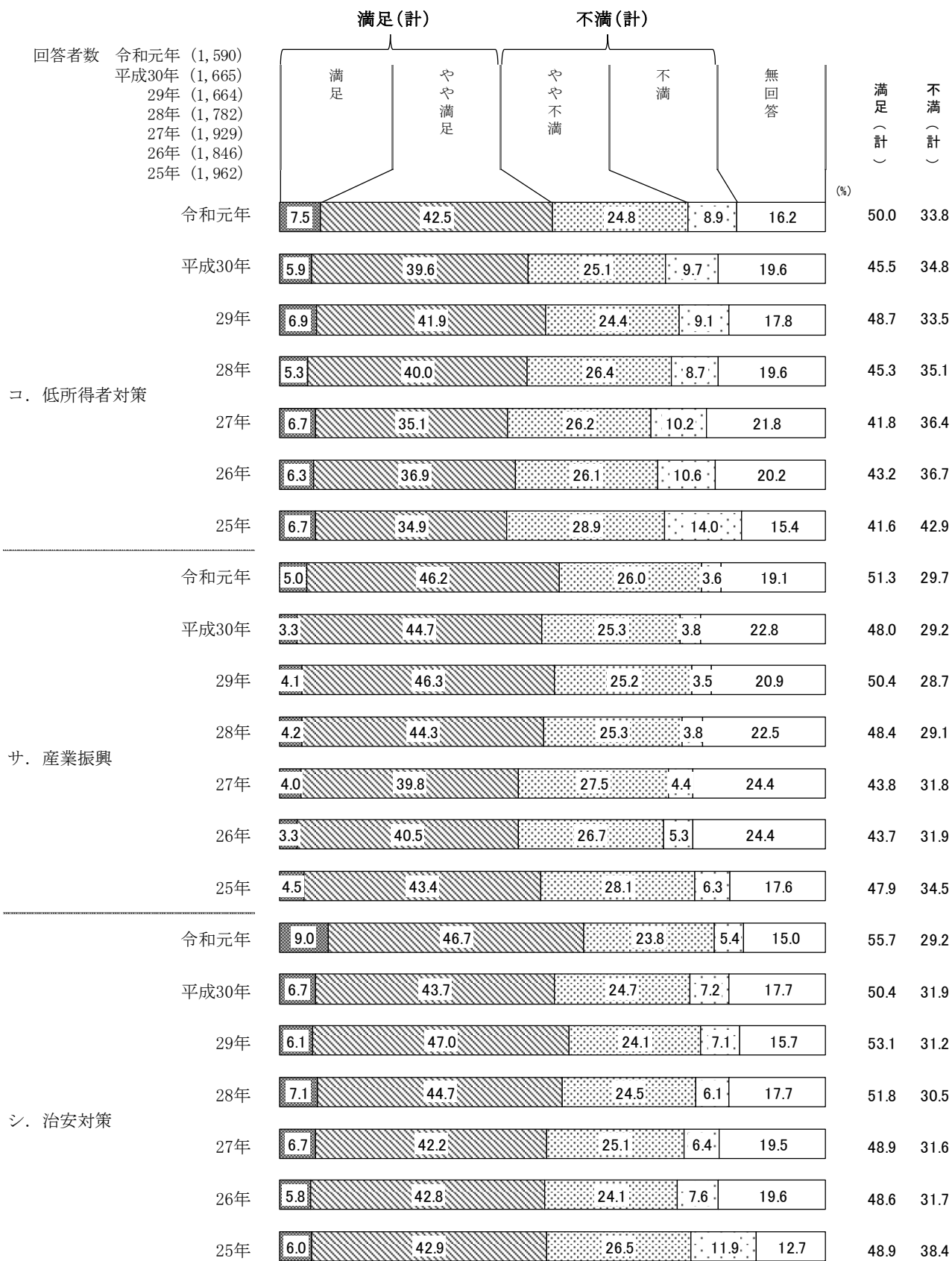


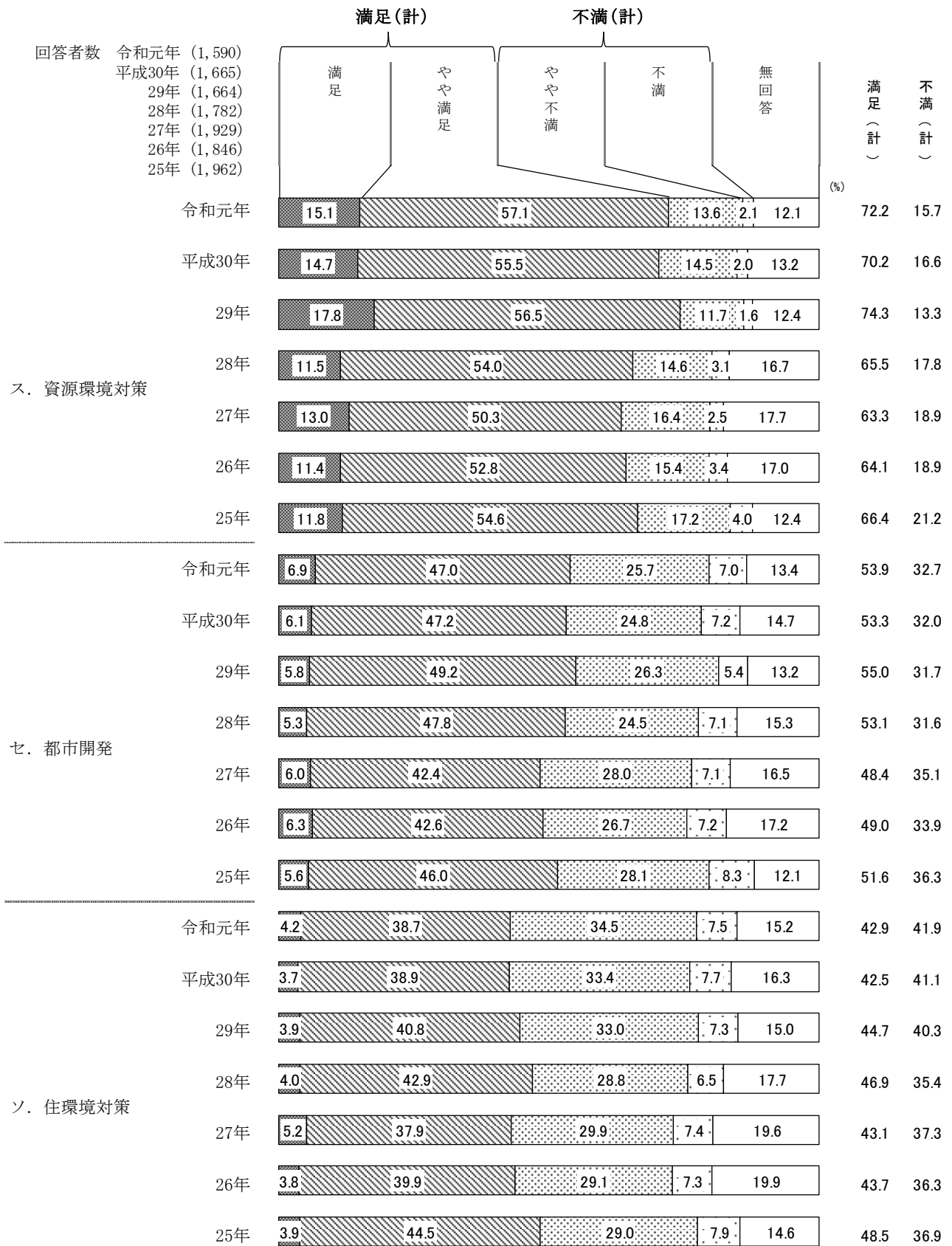


図11-1-1-④ 経年比較/現状評価(満足度)



第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

図11-1-1-⑤ 経年比較/現状評価(満足度)



※ 「ソ. 住環境対策」は、平成28年度までは「住宅対策」。

図11-1-1-⑥ 経年比較/現状評価(満足度)

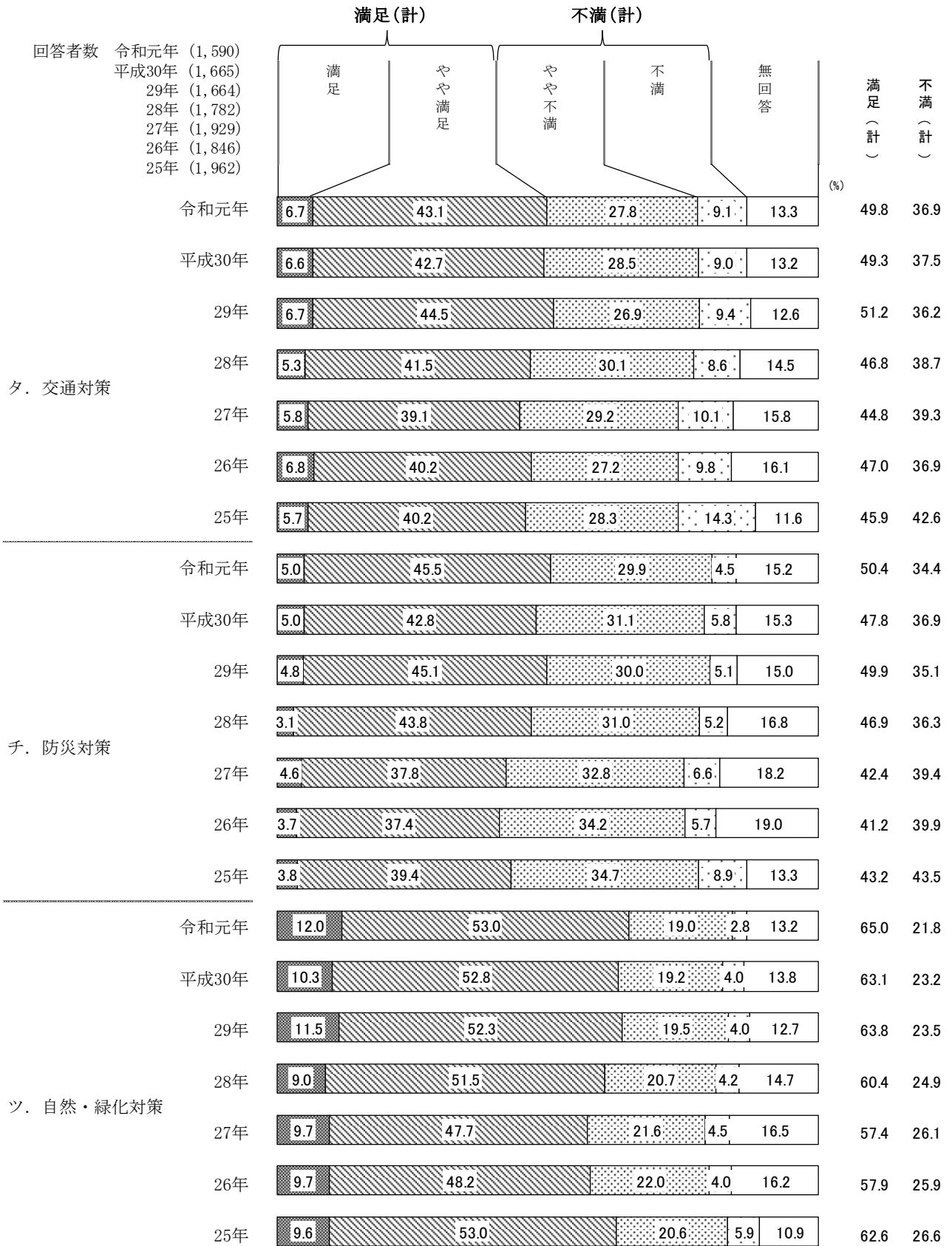


図11-1-1-⑦ 経年比較/現状評価(満足度)

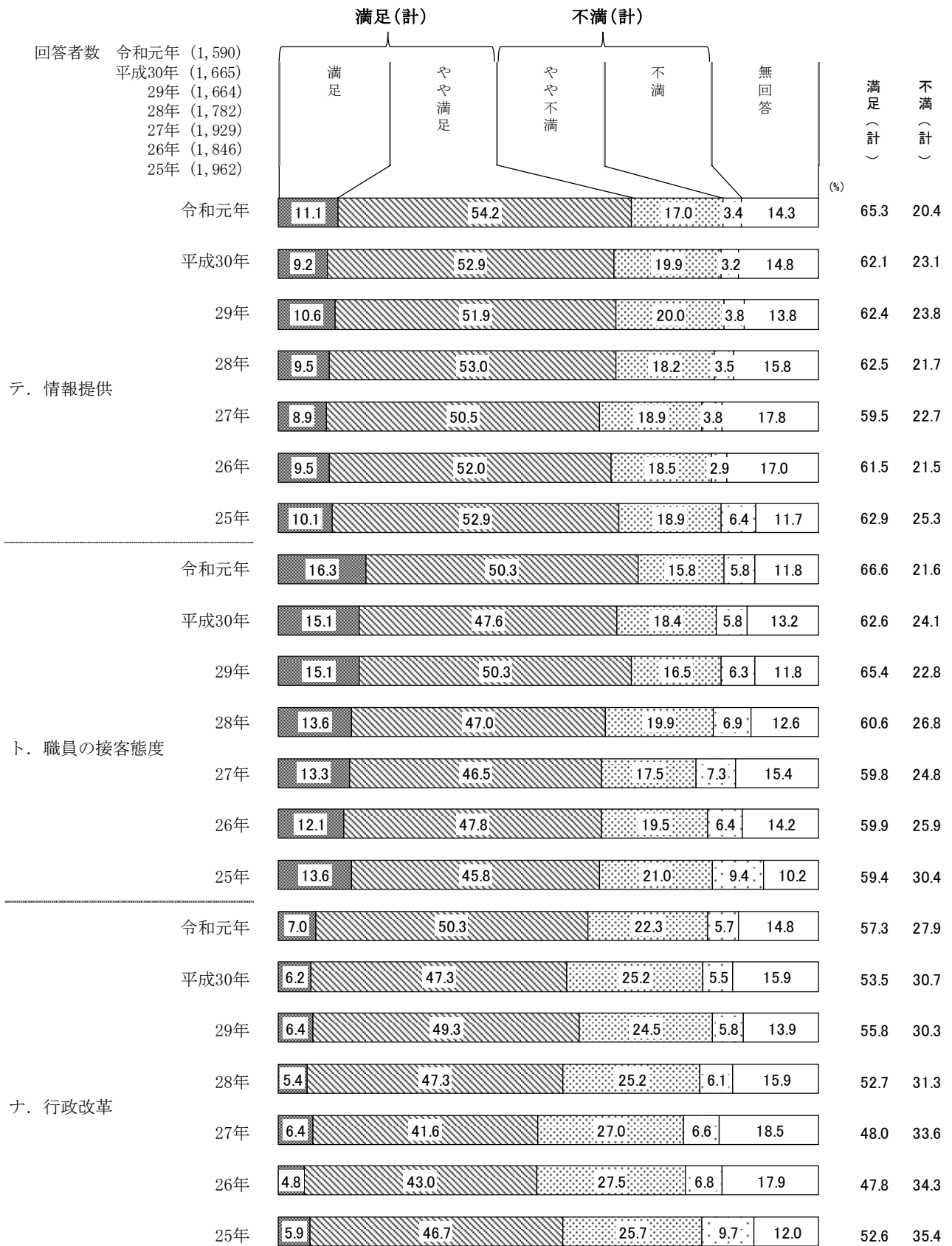
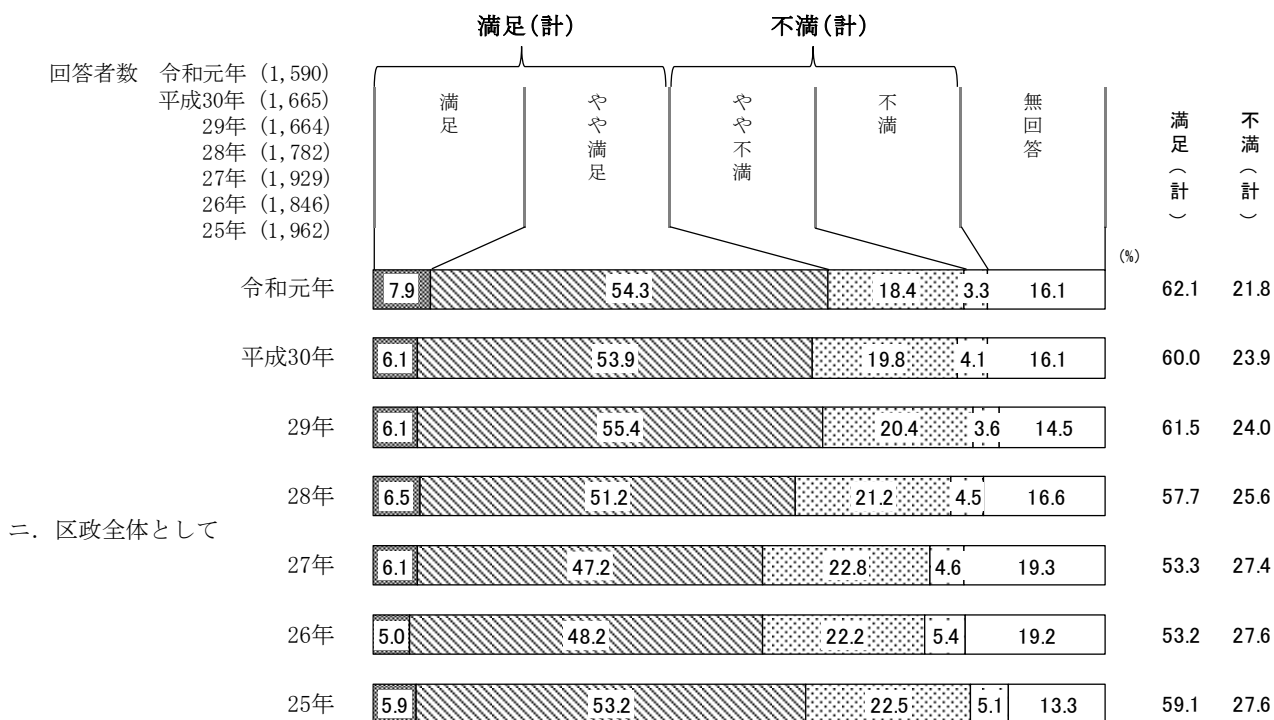


図11-1-1-⑧ 経年比較/現状評価(満足度)



区の取り組みについて、各分野に対する現状評価(満足度)を聴いた。【満足】(「満足」+「やや満足」)の高い順でみると、「資源環境対策」が72.2%で最も高く、以下「職員の接客態度」(66.6%)、「情報提供」(65.3%)、「自然・緑化対策」(65.0%)、「子育て支援」(63.5%)の順で続いている。

一方、【不満】(「やや不満」+「不満」)の高いものとしては、「住環境対策」(41.9%)、「交通対策」(36.9%)、「防災対策」(34.4%)、「低所得者対策」(33.8%)などがあげられる。

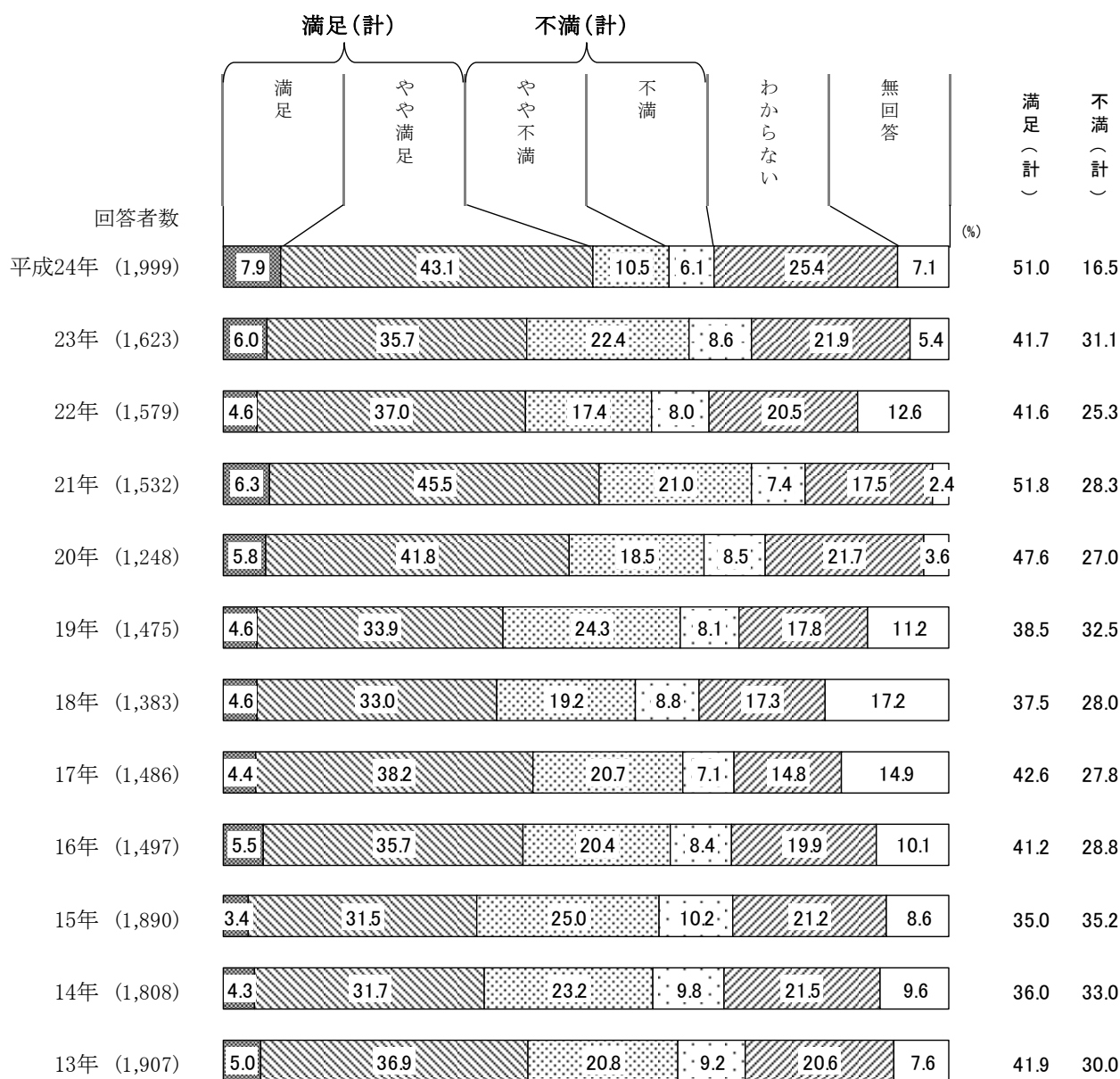
経年でみて、前回平成30年との比較では、【満足】で3.0ポイント以上の増加をしている項目が13項目に及び、中でも「生涯学習振興」(+6.1ポイント)、「地域活動支援」(+5.5ポイント)、「治安対策」(+5.3ポイント)、「社会参加支援」(+5.1ポイント)などで増加が大きくなっている。一方、【満足】での3.0ポイント以上の減少や【不満足】で±3.0ポイント以上の増減変化がみられる項目はひとつもみられない。

なお、平成25年と今回の結果を比較して【満足】が5.0ポイント以上増加している項目として「低所得者対策」(平成25年41.6%→今回50.0%)、「防災対策」(平成25年43.2%→今回50.4%)「職員の接客態度」(平成25年59.4%→今回66.6%)など全8項目があげられる。

一方、【不満】で平成25年と今回の結果を比較すると、「住環境対策」(平成25年36.9%→今回41.9%)以外のすべての項目で減少しており、とくに「治安対策」(平成25年38.4%→今回29.2%)「防災対策」(平成25年43.5%→今回34.4%)、「低所得者対策」(平成25年42.9%→今回33.8%)、「職員の接客態度」(平成25年30.4%→今回21.6%)などで減少幅が大きくなっている。

参考／区政に対する満足度

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか（○は1つだけ）。



※ 平成24年度までは「わからない」という選択肢があるため、結果を単純に比較することはできない。

図11-1-2-① 経年比較／重要度

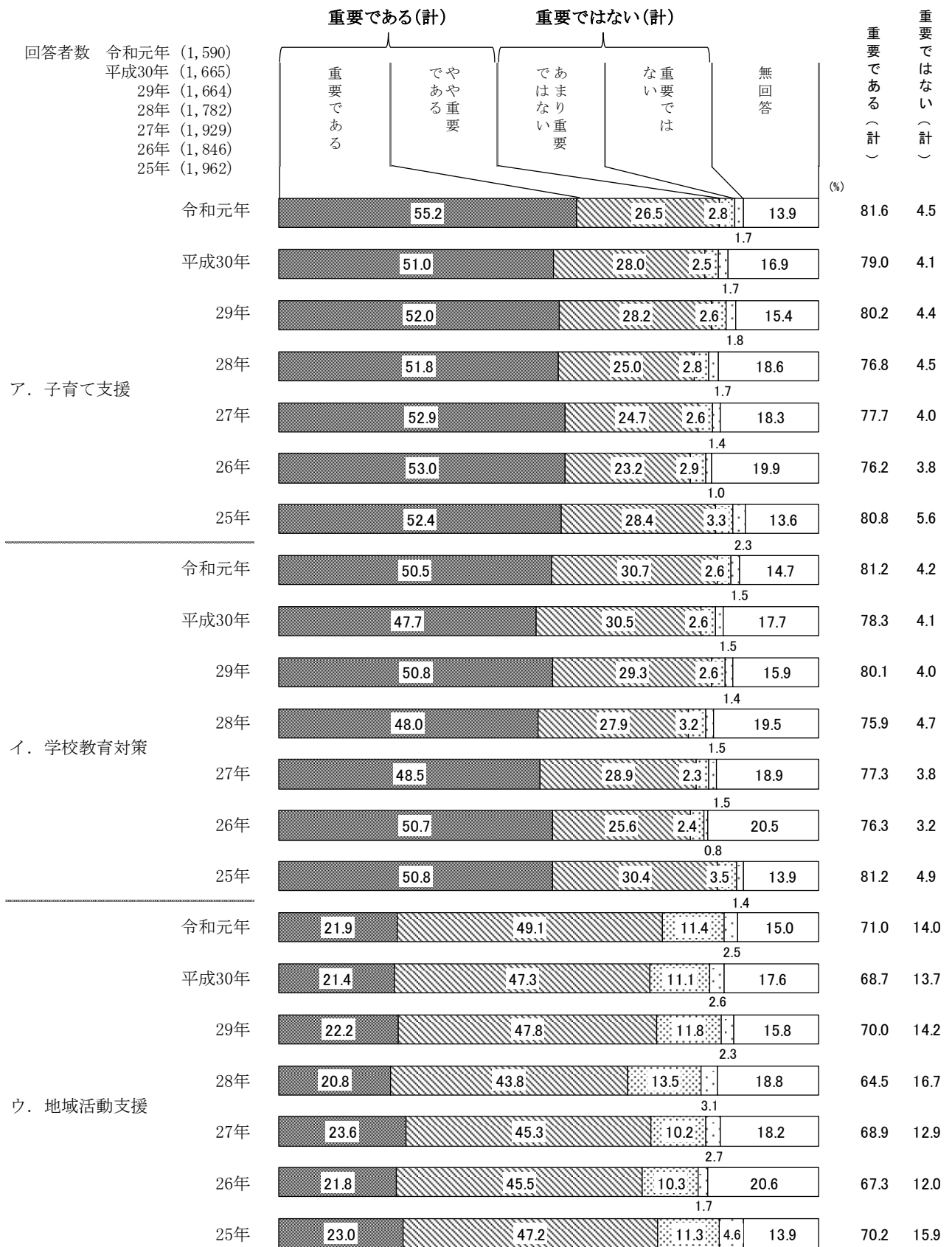


図11-1-2-② 経年比較／重要度

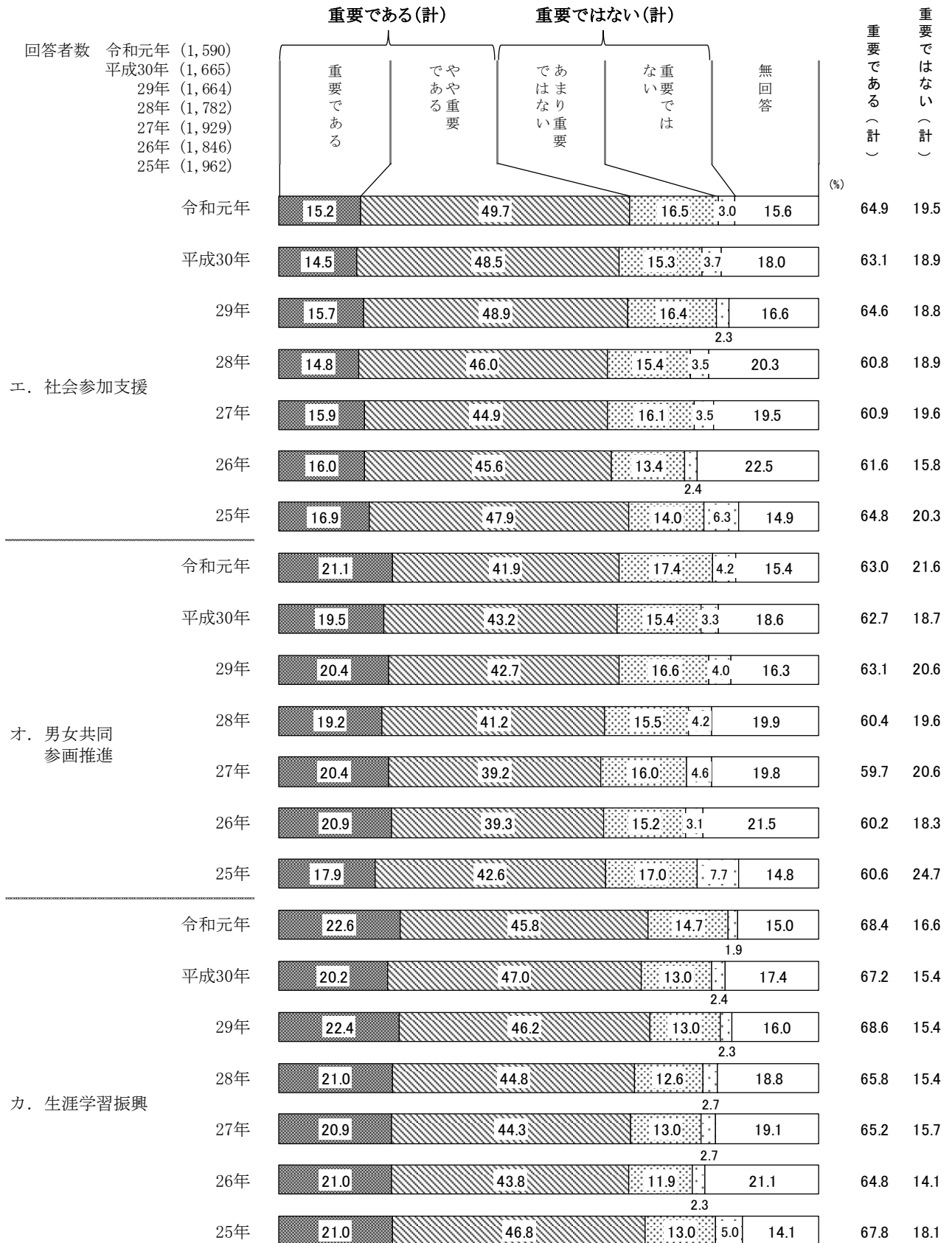




図11-1-2-③ 経年比較／重要度

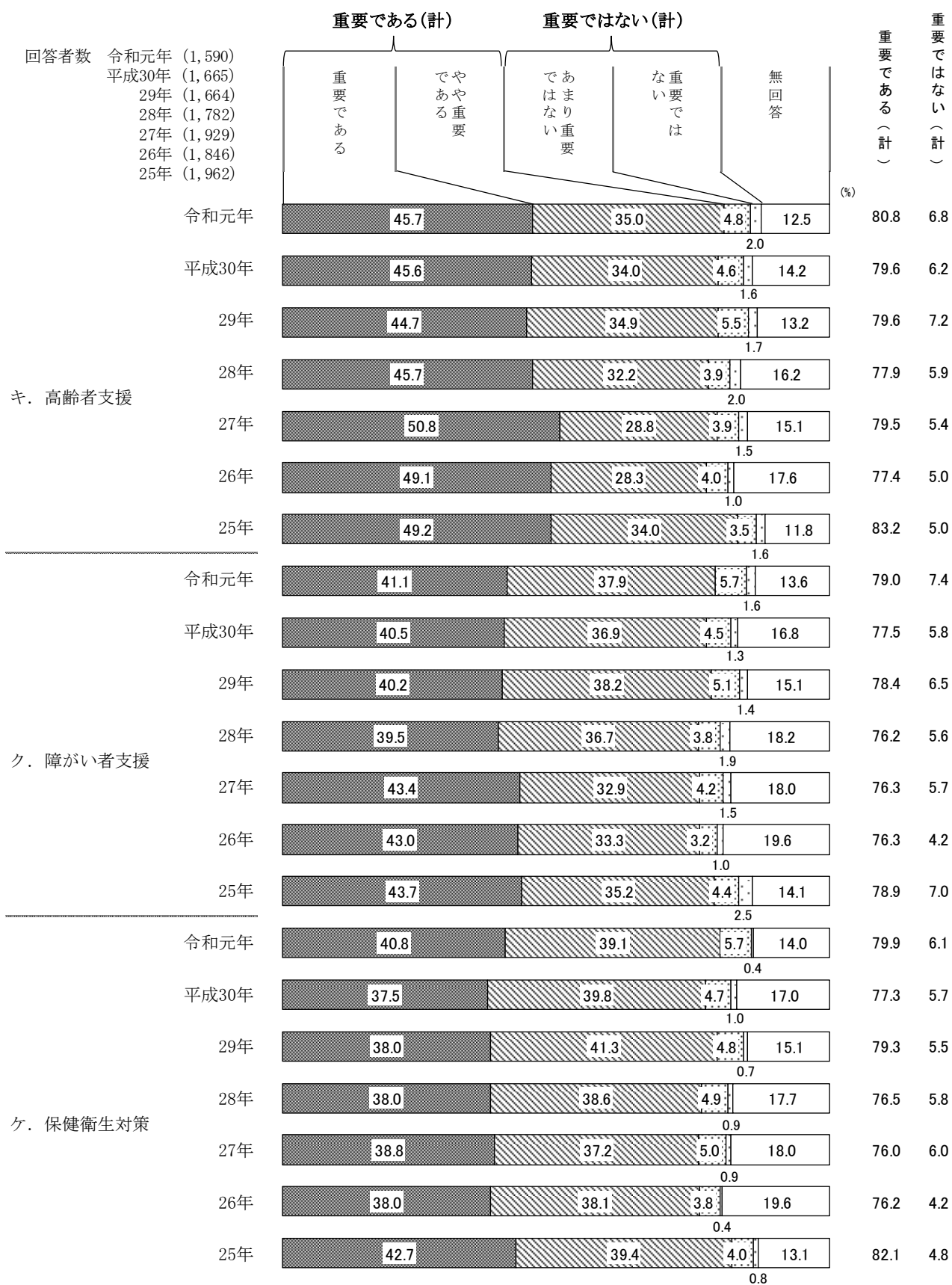


図11-1-2-④ 経年比較／重要度

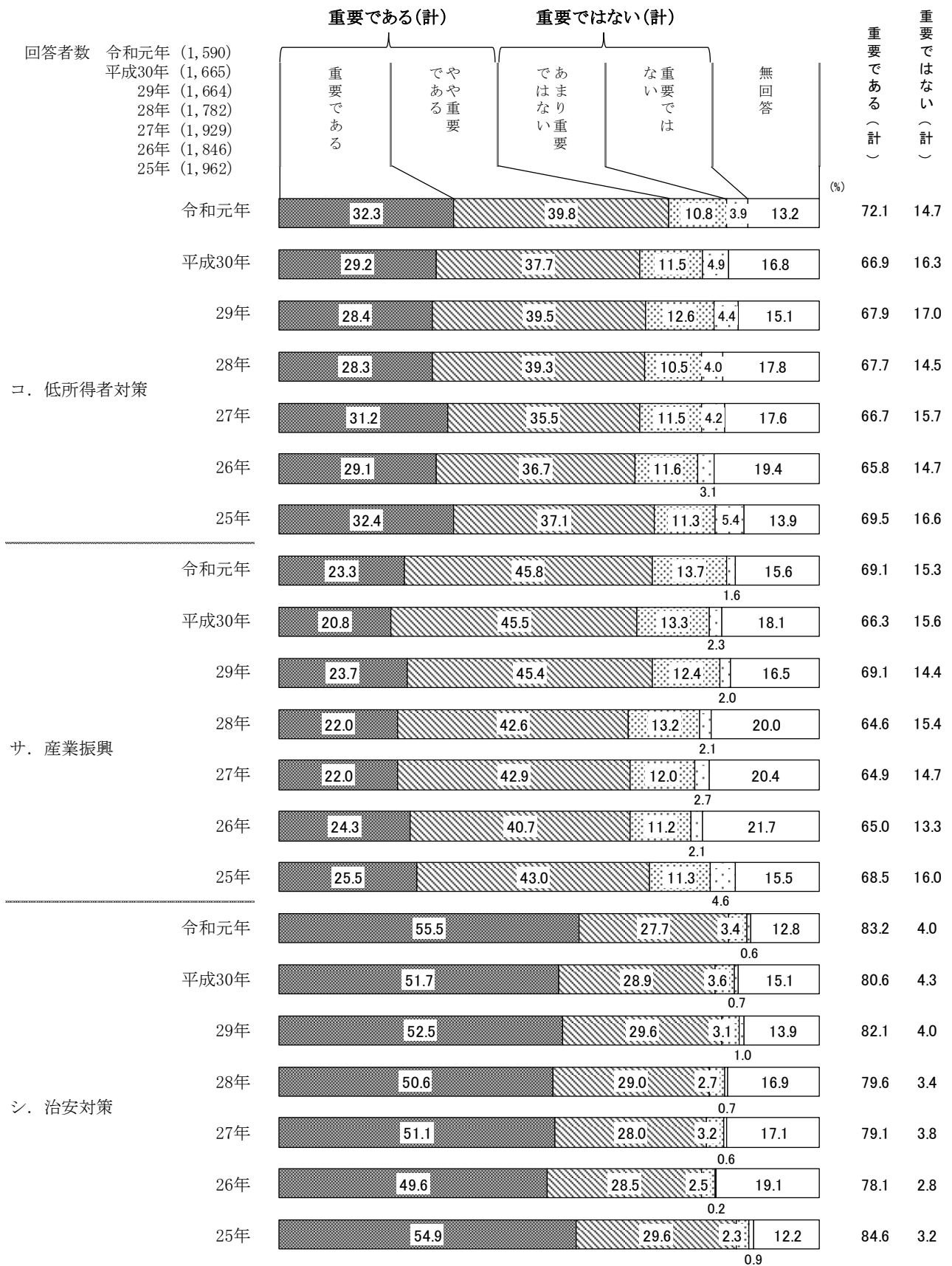
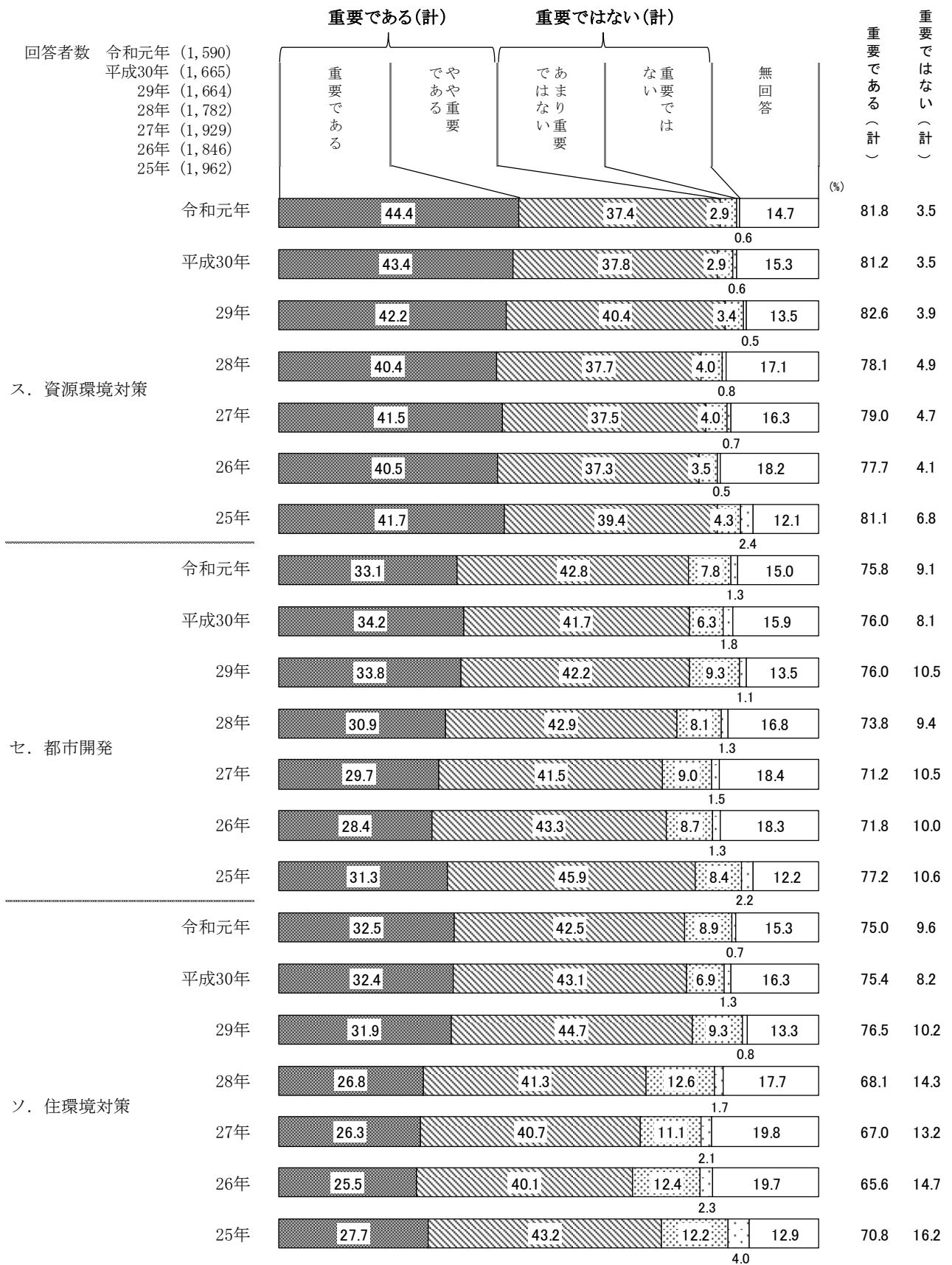


図11-1-2-⑤ 経年比較／重要度



※ 「ソ. 住環境対策」は、平成28年度までは「住宅対策」。

図11-1-2-⑥ 経年比較／重要度

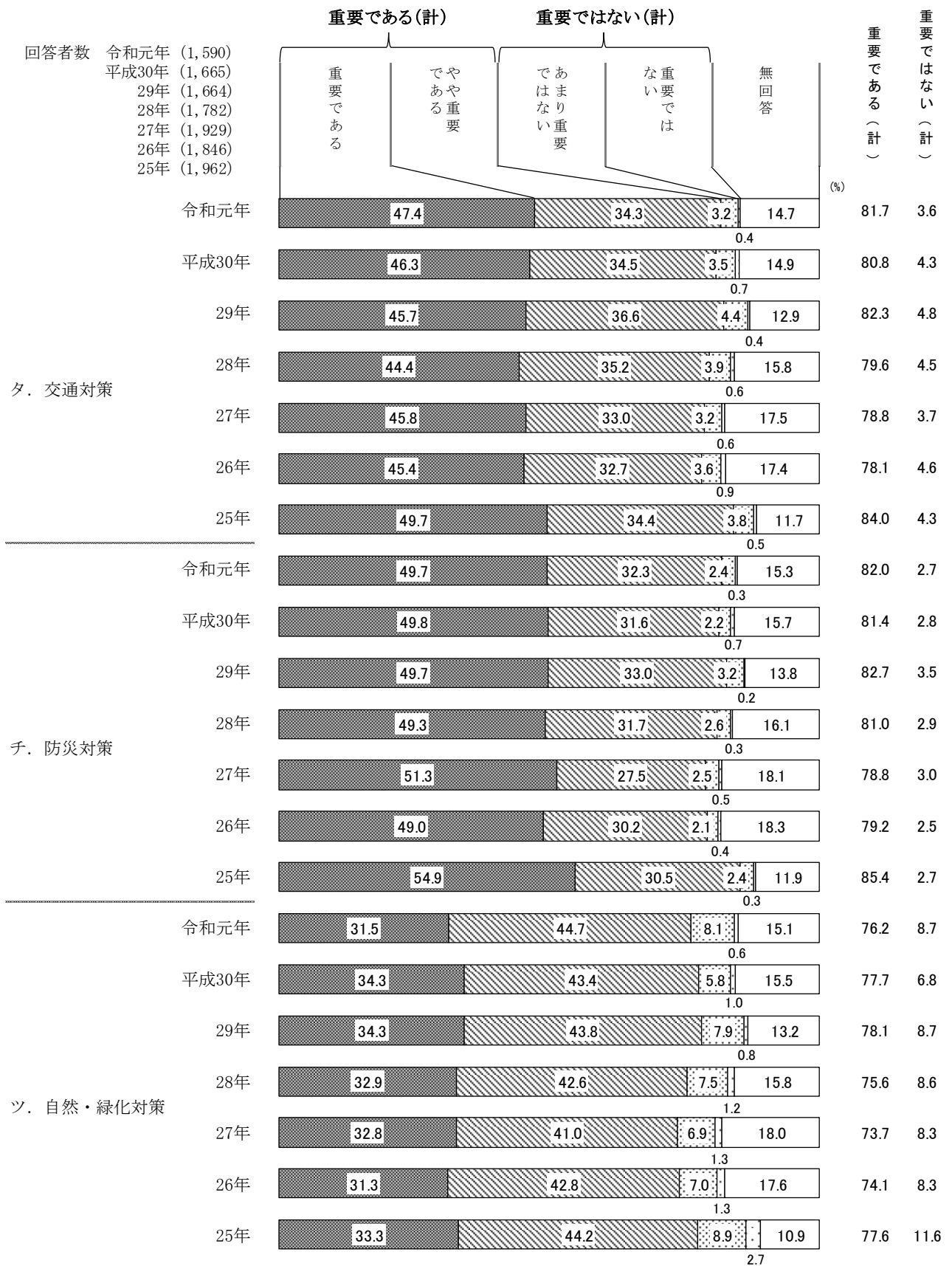
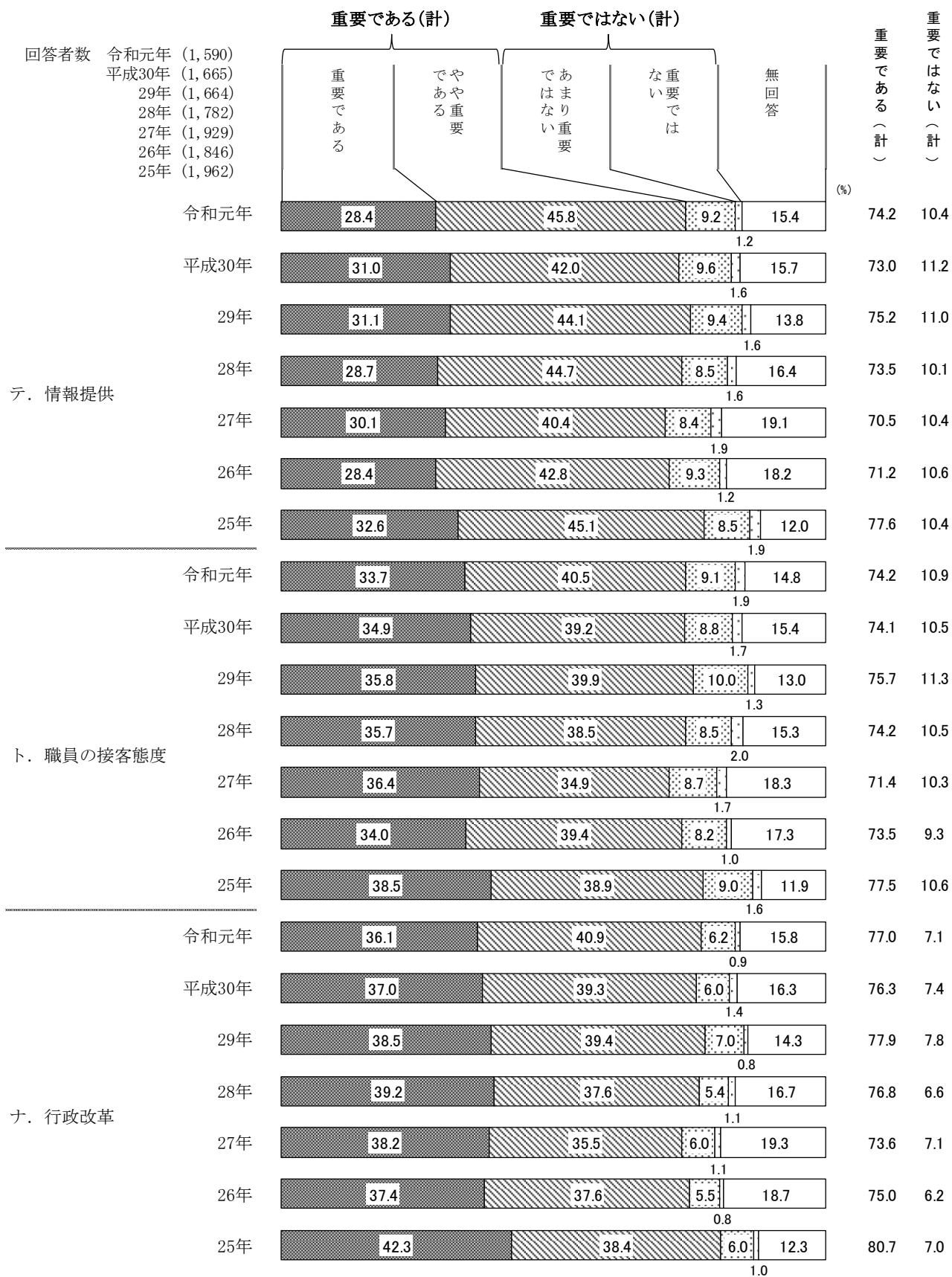


図11-1-2-⑦ 経年比較／重要度



### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

区の取り組みについて、各分野に対する重要度を聴いた。【重要である】（「重要である」＋「やや重要である」）の高い順でみると、「治安対策」が83.2％で最も高く、以下「防災対策」（82.0％）、「資源環境対策」（81.8％）、「交通対策」（81.7％）、「子育て支援」（81.6％）の順で続いている。

経年でみて、前回平成30年との比較では【重要である】と【重要ではない】ともに増減変化は小さい項目が多く、比率に3.0ポイント以上の大きな増減変化が見られるのは【重要である】が5.2ポイント増加した「低所得者対策」だけとなっている。

。なお、平成25年と今回の結果を比較して【重要である】が3.0ポイント以上高くなっている項目としては、唯一「住環境対策」（平成25年70.8％→今回75.0％）があげられる。一方、【重要でない】が3.0ポイント以上高くなっている項目はひとつもないが、3.0ポイント以上減少している項目には「住環境対策」（平成25年16.2％→今回9.6％）と「資源環境対策」（平成25年6.8％→今回3.5％）の“環境対策”関連の2項目と「男女共同参画推進」（平成25年24.7％→今回21.6％）の計3項目がある。

表11-1 満足度・重要度の上位5項目

満足度				重要度			
1	－	資源環境対策	72.2%	1	↑	治安対策	83.2%
2	↑	職員の接客態度	66.6	2	↓	防災対策	82.0
3	↑	情報提供	65.3	3	↓	資源環境対策	81.8
4	↓	自然・緑化対策	65.0	4	↓	交通対策	81.7
5	－	子育て支援	63.5	5	↑	子育て支援	81.6

※ 矢印は前回順位との比較

## 《 現状評価（満足度）、重要度について 》

## (1) 現状評価（満足度）、重要度の評価点について

各分野の取り組みへの現状評価（満足度）と重要度意識の各選択肢に得点をつけ、現状評価（満足度）、重要度の評価点を算出した。これによって、区民の現状評価（満足度）や重要度意識を明確に捉え、分析することができる。

なお、各選択肢への点数の配分は下記の表のとおりである。

## 〔 得点配分 〕

現状評価（満足度）	重要度	得点
満足	重要である	4
やや満足	やや重要である	2
やや不満	あまり重要ではない	-2
不満	重要ではない	-4

※「無回答」は、母数から除くためポイントをつけない。

## 〔 計算式 〕

$$\text{現状評価} = \frac{\text{「満足」} \times 4 + \text{「やや満足」} \times 2 + \text{「やや不満」} \times (-2) + \text{「不満」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

$$\text{重要度} = \frac{\text{「重要である」} \times 4 + \text{「やや重要である」} \times 2 + \text{「あまり重要ではない」} \times (-2) + \text{「重要ではない」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

## (2) 現状評価（満足度）について

21施策の現状評価（満足度）は、最も高い〈資源環境対策〉の1.58から、最も低い〈住環境対策〉の-0.05の間に分布している。

分野別で見ると、前回までと同様に、資源や自然・緑化等の環境面や情報提供、職員の接客態度、子育て支援等で評価が高く、住環境、交通、低所得者や高齢者、防災、都市開発や産業振興等については低くなっている。

## (3) 重要度について

21施策の重要度は、最も高い〈治安対策〉の3.07から、最も低い〈社会参加支援〉の1.36の間に分布している。

分野別で見ると、治安や防災、子育て支援、学校教育、交通対策等で重要度のポイントが高く、社会参加、男女共同参画、生涯学習、産業振興等で低くなっている。

第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

（4）現状評価（満足度）、重要度のプロット図

現状評価（満足度）を横軸に、重要度を縦軸にとって21項目を相対的に評価するため、平均値（満足度平均値0.80、重要度平均値2.36）を境として、4つの領域に分類した。

4つの領域の特性は、以下のとおりである。

**A 現状評価（満足度）が平均値より低く、重要度が平均値より高い項目**

グラフ左上のAゾーンに位置する項目は、施策の重要性が広く区民に認識され、とくに施策の推進や改善に対する区民のニーズが高い項目と考えられる。従来の取り組みの方向について検討を加え、改善していくことが求められる。

**B 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より高い項目**

グラフ右上のBゾーンに位置する項目は、施策の重要性が十分認識されているとともに、現在の取り組みにも満足している区民が多い項目と考えられる。今後も現在の水準を維持し、着実に取り組んでいくことが求められる。

現状評価（満足度）平均値（0.80）

≪重要度≫	<b>《Aゾーン》</b> 現状評価：平均値より低い 重要度：平均値より高い	<b>《Bゾーン》</b> 現状評価：平均値より高い 重要度：平均値より高い	重要度 平均値 (2.36)
	<b>《Cゾーン》</b> 現状評価：平均値より低い 重要度：平均値より低い	<b>《Dゾーン》</b> 現状評価：平均値より高い 重要度：平均値より低い	
≪ 現状評価（満足度）≫			

**C 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より低い項目**

グラフ左下のCゾーンに位置する項目は、取り組みの推進に対する期待は高いものの、他の施策と比較してその重要性の認識が低い項目と考えられる。施策の重要性に対する認知を高めるとともに、従来の取り組みの方向の改善を検討することが求められる。

**D 現状評価（満足度）が平均値より高く、重要度が平均値より低い項目**

グラフ右下のDゾーンに位置する項目は、他の施策と比較してその重要性の認識は低いものの、現状の取り組みには満足している項目と考えられる。今後も着実に取り組みの推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高めていくことが求められる。



表11-1-1-① 地域別／現状評価（満足度）

	区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア 子育て支援	1.20	0.94	0.92	0.96	1.06	1.38	1.22	1.56	1.10	1.49
イ 学校教育対策	0.89	1.10	0.55	0.96	0.75	1.08	0.80	1.09	0.65	0.96
ウ 地域活動支援	0.94	0.99	0.84	0.78	1.04	1.06	0.92	1.13	0.47	1.10
エ 社会参加支援	0.84	0.89	0.80	0.68	0.83	1.15	0.95	0.92	0.32	0.70
オ 男女共同参画推進	0.84	0.77	0.83	1.09	1.07	1.06	0.91	0.87	0.56	0.69
カ 生涯学習振興	1.03	0.80	0.83	1.23	1.17	1.33	1.21	1.30	0.55	1.30
キ 高齢者支援	0.58	0.66	0.30	0.54	0.50	0.99	0.51	1.16	0.45	0.86
ク 障がい者支援	0.64	0.55	0.40	0.58	0.56	0.95	0.79	0.90	0.44	0.77
ケ 保健衛生対策	1.14	1.04	0.88	1.03	1.38	1.23	0.70	1.44	0.95	1.48
コ 低所得者対策	0.35	0.28	-0.13	0.25	0.44	0.42	0.70	0.60	0.20	0.67
サ 産業振興	0.57	0.56	0.76	0.03	0.77	0.45	0.34	0.77	0.11	0.78
シ 治安対策	0.71	1.04	0.62	0.36	0.92	0.61	0.76	0.76	0.60	0.70
ス 資源環境対策	1.58	1.46	1.60	1.49	1.59	1.62	1.59	1.55	1.32	1.81
セ 都市開発	0.49	0.49	0.78	0.63	0.72	0.61	0.08	0.58	0.02	0.78
ソ 住環境対策	-0.05	-0.05	0.07	-0.18	-0.07	0.14	-0.15	0.23	-0.05	-0.16
タ 交通対策	0.24	0.54	-0.28	-0.05	0.48	0.10	0.81	0.43	-0.20	0.29
チ 防災対策	0.39	0.25	0.30	0.44	0.40	0.67	0.50	0.35	0.08	0.61
ツ 自然・緑化対策	1.21	1.09	1.57	1.08	1.24	1.23	1.59	1.65	0.34	1.27
テ 情報提供	1.23	0.98	1.11	0.89	1.28	1.15	1.28	1.20	1.05	1.53
ト 職員の接客態度	1.26	1.14	1.17	1.02	1.47	1.44	1.28	1.23	1.29	1.38
ナ 行政改革	0.72	0.65	0.60	0.63	0.93	0.61	0.71	0.78	0.84	0.87
ニ 区政全体として	1.07	1.15	1.05	1.15	1.12	1.19	1.03	1.15	0.68	1.09

※ 地域ごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

表11-1-1-② 地域別／現状評価（満足度）

	区全体	第10	第11	第12	第13	第14	第15
ア 子育て支援	1.20	1.55	1.20	1.53	1.35	1.12	1.25
イ 学校教育対策	0.89	1.04	0.68	1.16	0.98	0.97	0.69
ウ 地域活動支援	0.94	1.35	0.64	1.23	1.01	0.78	1.25
エ 社会参加支援	0.84	1.18	0.99	1.29	0.89	0.51	0.77
オ 男女共同参画推進	0.84	0.59	0.52	1.25	1.17	0.60	0.80
カ 生涯学習振興	1.03	1.08	0.77	1.02	1.20	0.87	1.42
キ 高齢者支援	0.58	0.47	0.12	0.69	0.65	0.40	0.53
ク 障がい者支援	0.64	0.78	0.30	0.75	0.58	0.64	1.08
ケ 保健衛生対策	1.14	0.81	1.10	1.51	1.34	1.04	1.43
コ 低所得者対策	0.35	0.49	0.00	0.70	0.45	0.19	0.44
サ 産業振興	0.57	1.15	0.38	1.27	0.75	0.25	0.79
シ 治安対策	0.71	0.49	0.63	1.08	0.85	0.44	0.44
ス 資源環境対策	1.58	1.75	1.62	1.72	1.66	1.34	2.07
セ 都市開発	0.49	0.56	0.52	0.67	0.09	0.35	0.50
ソ 住環境対策	-0.05	0.43	-0.32	0.29	-0.18	-0.33	-0.18
タ 交通対策	0.24	0.18	0.05	0.41	0.49	-0.13	0.69
チ 防災対策	0.39	0.51	-0.02	0.77	0.31	0.40	0.85
ツ 自然・緑化対策	1.21	1.27	1.04	1.38	1.22	1.28	1.56
テ 情報提供	1.23	1.71	1.06	1.54	1.79	1.16	1.49
ト 職員の接客態度	1.26	1.29	1.21	1.02	1.45	1.05	1.46
ナ 行政改革	0.72	0.78	0.40	1.07	0.62	0.61	1.02
ニ 区政全体として	1.07	1.17	0.81	1.38	1.24	1.00	1.15

※ 地域ごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表11-1-2-① 地域別／重要度

	区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア 子育て支援	3.03	3.17	3.15	3.14	2.90	2.69	2.95	3.08	3.20	3.12
イ 学校教育対策	2.95	2.92	3.07	2.96	2.96	2.63	2.92	2.94	2.84	3.11
ウ 地域活動支援	1.80	1.81	1.74	1.90	1.70	1.75	1.42	1.67	2.08	1.47
エ 社会参加支援	1.36	1.11	1.18	1.19	1.09	1.33	1.01	1.51	1.73	1.58
オ 男女共同参画推進	1.38	1.30	1.35	1.51	0.95	1.07	1.10	1.45	1.58	1.29
カ 生涯学習振興	1.71	1.64	1.62	1.28	1.61	1.95	1.56	1.83	1.50	1.88
キ 高齢者支援	2.69	2.47	2.56	2.56	2.59	2.66	2.47	2.51	2.72	2.94
ク 障がい者支援	2.57	2.35	2.51	2.32	2.62	2.58	2.20	2.42	2.48	2.96
ケ 保健衛生対策	2.65	2.43	2.64	2.49	2.75	2.88	2.66	2.71	2.60	3.04
コ 低所得者対策	1.98	1.96	1.81	2.02	1.69	2.05	1.48	1.93	2.03	2.38
サ 産業振興	1.79	1.87	1.40	1.90	1.94	1.75	1.81	1.81	1.54	2.18
シ 治安対策	3.07	2.94	3.13	2.98	2.94	3.18	3.25	3.30	3.11	3.31
ス 資源環境対策	2.86	2.71	2.94	2.90	2.69	2.81	2.57	2.98	2.79	2.95
セ 都市開発	2.32	2.08	2.32	2.05	2.17	2.77	2.45	2.18	2.35	2.56
ソ 住環境対策	2.30	2.39	2.36	2.29	2.13	2.50	2.33	2.09	2.33	2.40
タ 交通対策	2.93	2.70	3.04	3.12	2.53	3.23	2.95	2.92	2.89	3.19
チ 防災対策	3.04	3.06	3.13	3.09	2.84	3.33	2.84	3.00	3.10	3.17
ツ 自然・緑化対策	2.32	2.25	2.37	2.36	1.96	2.55	2.47	1.94	2.14	2.51
テ 情報提供	2.15	2.06	2.02	1.97	2.05	2.30	2.02	2.31	2.14	2.54
ト 職員の接客態度	2.23	2.02	2.22	2.56	1.80	2.37	1.98	2.50	2.18	2.61
ナ 行政改革	2.50	2.45	2.39	2.46	2.48	2.77	2.27	2.65	2.41	2.71

※ 地域ごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

表11-1-2-② 地域別／重要度

	区全体	第10	第11	第12	第13	第14	第15
ア 子育て支援	3.03	2.81	2.98	3.05	3.22	2.99	2.93
イ 学校教育対策	2.95	3.04	2.94	2.92	3.15	2.96	3.25
ウ 地域活動支援	1.80	1.88	1.95	1.83	2.03	1.89	1.96
エ 社会参加支援	1.36	1.21	1.53	1.76	1.61	1.38	1.56
オ 男女共同参画推進	1.38	1.69	1.73	1.55	1.37	1.56	1.56
カ 生涯学習振興	1.71	1.92	1.93	2.14	1.76	1.68	1.44
キ 高齢者支援	2.69	3.04	2.69	3.05	2.81	3.03	2.69
ク 障がい者支援	2.57	3.06	2.64	2.71	2.76	2.92	2.40
ケ 保健衛生対策	2.65	2.48	2.72	2.75	2.63	2.43	2.62
コ 低所得者対策	1.98	2.15	2.17	1.60	2.12	2.31	1.86
サ 産業振興	1.79	1.49	1.73	1.73	1.97	1.70	2.00
シ 治安対策	3.07	3.21	2.91	3.17	2.90	2.78	3.27
ス 資源環境対策	2.86	3.02	3.02	2.82	3.23	2.96	2.89
セ 都市開発	2.32	1.89	2.29	2.25	2.53	2.14	2.73
ソ 住環境対策	2.30	1.62	2.22	2.50	2.53	2.38	1.96
タ 交通対策	2.93	2.93	2.88	2.95	2.99	3.11	2.79
チ 防災対策	3.04	2.93	2.97	2.98	2.95	2.89	3.16
ツ 自然・緑化対策	2.32	2.42	2.19	2.50	2.64	2.33	2.44
テ 情報提供	2.15	2.15	2.31	2.14	2.42	1.74	2.11
ト 職員の接客態度	2.23	1.78	2.29	2.39	2.63	2.58	1.74
ナ 行政改革	2.50	2.45	2.46	2.67	2.67	2.32	2.42

※ 地域ごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

全21施策の現状評価（満足度）と重要度の関係をみた。《区全体》では、

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」「防災対策」「治安対策」などは、現状評価（満足度）が低く、重要度が高くなっている。また「高齢者支援」と「障がい者支援」などもここにあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」「子育て支援」「保健衛生対策」などは、現状評価（満足度）と重要度の両面で高くなっている。

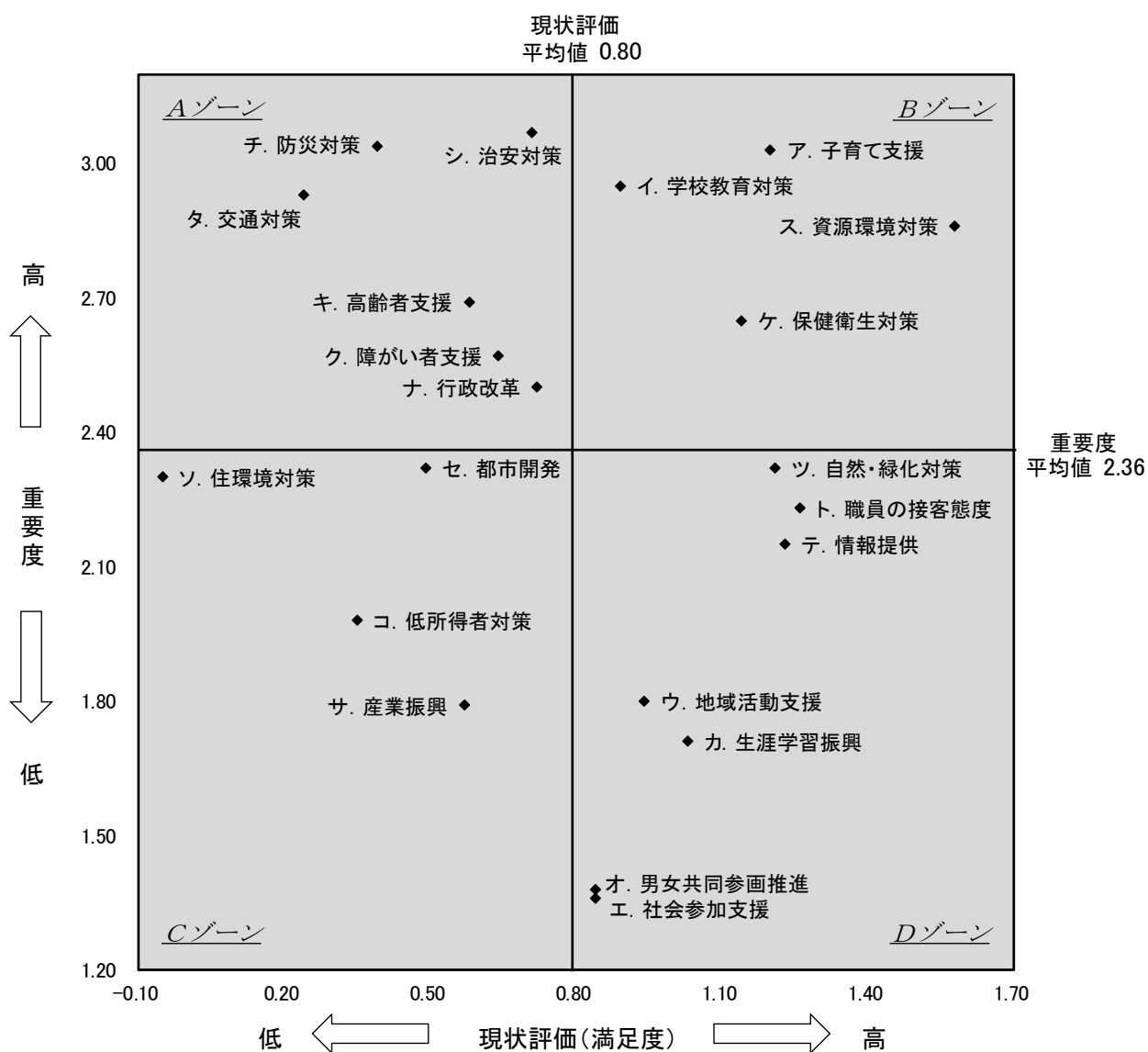
**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

「低所得者対策」と「産業振興」は、現状評価（満足度）と重要度の両面で低くなっている。また、「住環境対策」は、現状評価（満足度）がとくに低くなっている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「職員の接客態度」「情報提供」「自然・緑化対策」など計7項目があげられている。

図11-1-3 現状評価（満足度）と重要度の関係



第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

各地域の現状評価（満足度）と重要度の関係を見た。《第1地域》では、

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「防災対策」の満足度が低く、重要度は高くなっているほか、「住環境対策」や「交通対策」もあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」の満足度がとくに高く、「子育て支援」の重要度がとくに高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

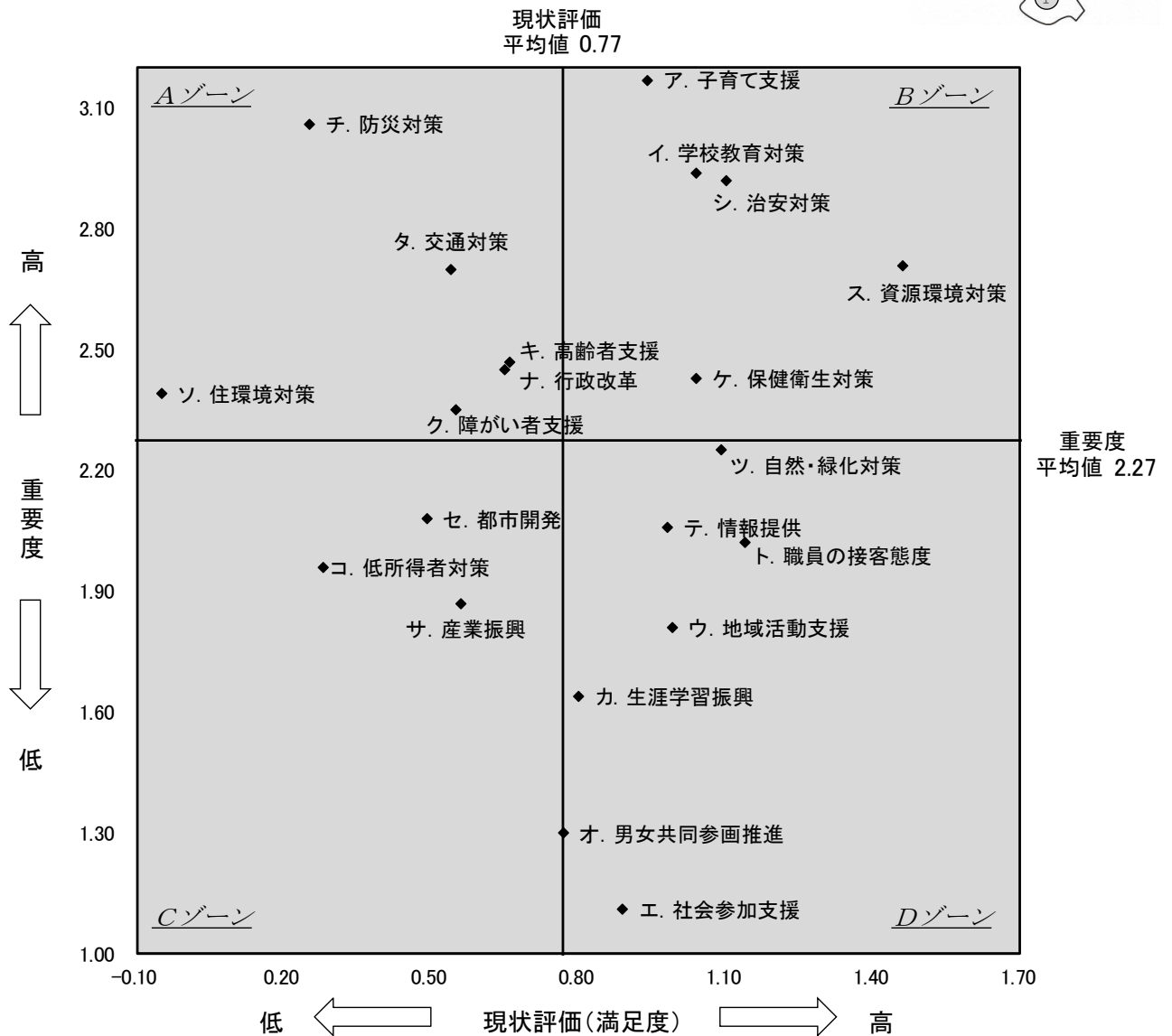
「低所得者対策」の満足度が低く、重要度も低くなっている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「職員の接客態度」「情報提供」「地域活動支援」などがあげられている。



図11-1-4-① 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第1地域



《第2地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」でとくに重要度が高く、満足度が低いほか、「防災対策」「治安対策」「学校教育対策」なども重要度が高くあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」「自然・緑化対策」で満足度が高く、「子育て支援」で重要度がとくに高い。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

「低所得者対策」だけがあげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「職員の接客態度」「情報提供」などがあげられている。

地域区分図

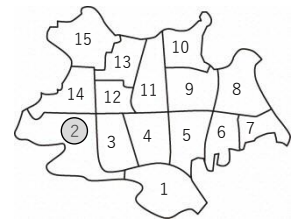
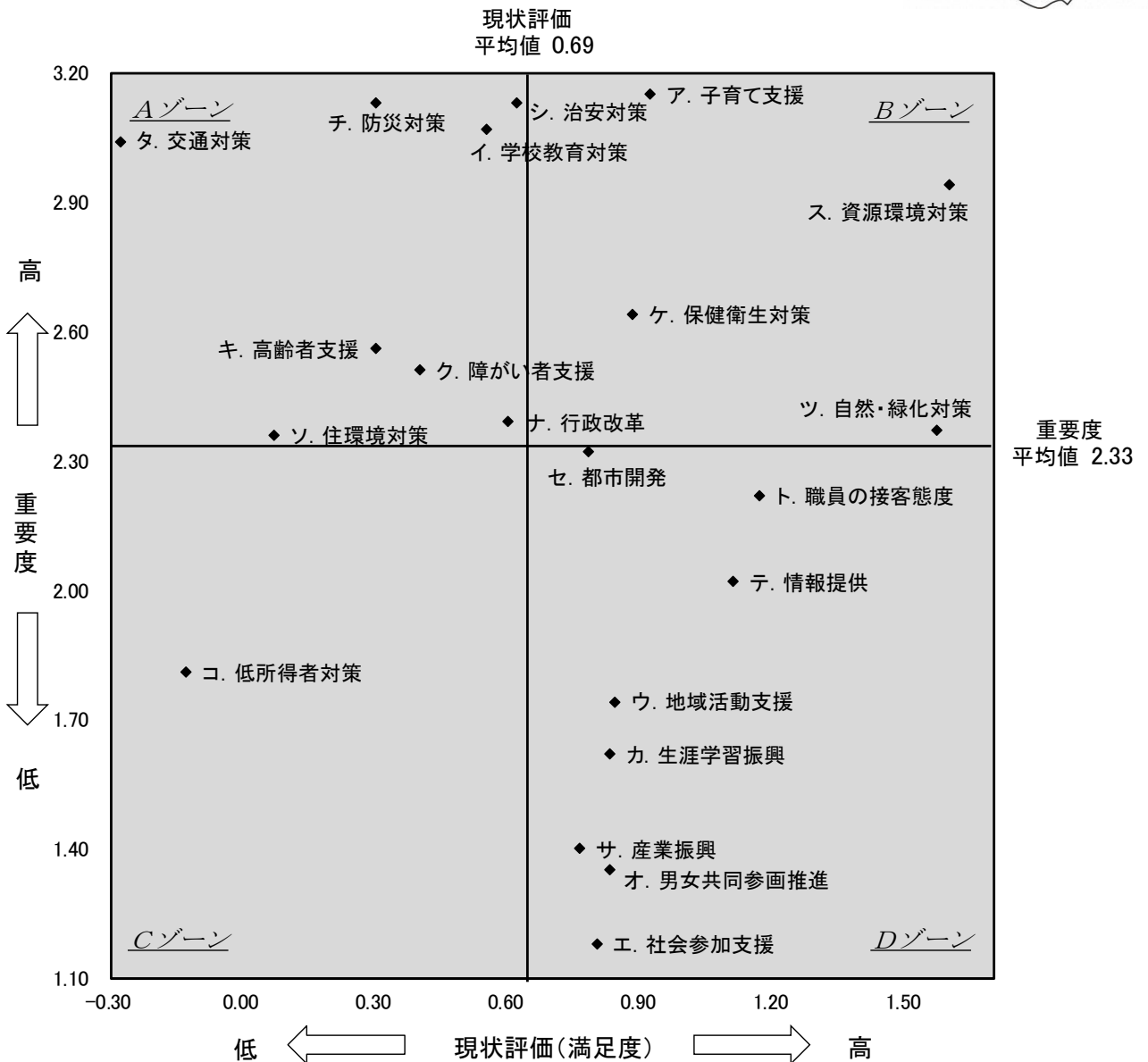


図11-1-4-② 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第2地域



《第3地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」でとくに重要度が高く、満足度が低く、「防災対策」「治安対策」など重要度が高くなっている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」の満足度が高く、「子育て支援」と「学校教育対策」の重要度が高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

「産業振興」「低所得者対策」などがあげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「生涯学習振興」「男女共同参画推進」などがあげられている。

地域区分図

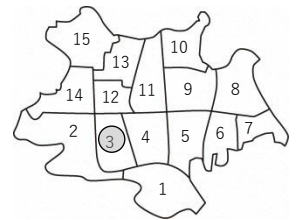
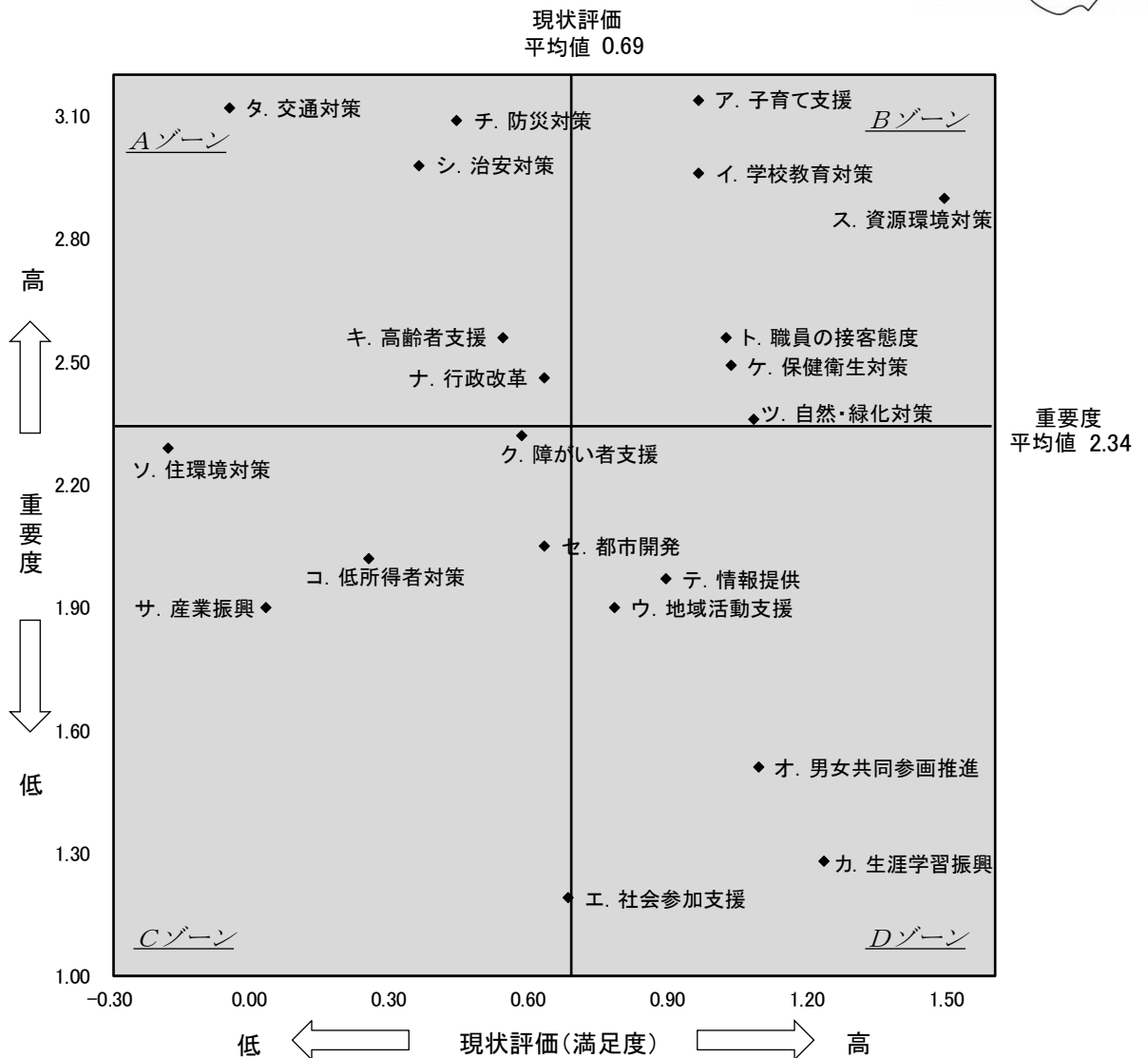


図11-1-4-③ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第3地域





《第4地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「防災対策」の重要度が高く、満足度が低く、「学校教育対策」の重要度がとくに高いほか、「高齢者支援」「障がい者支援」「交通対策」などもあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」と「保健衛生対策」の満足度が高く、「治安対策」と「子育て支援」は重要度が高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

「住環境対策」の満足度が低く、ほかに「低所得者対策」などがあげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「職員の接客態度」「情報提供」「自然・緑化対策」などがあげられている。

地域区分図

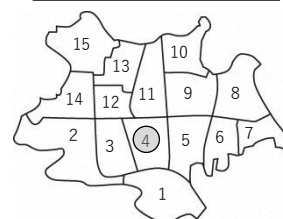
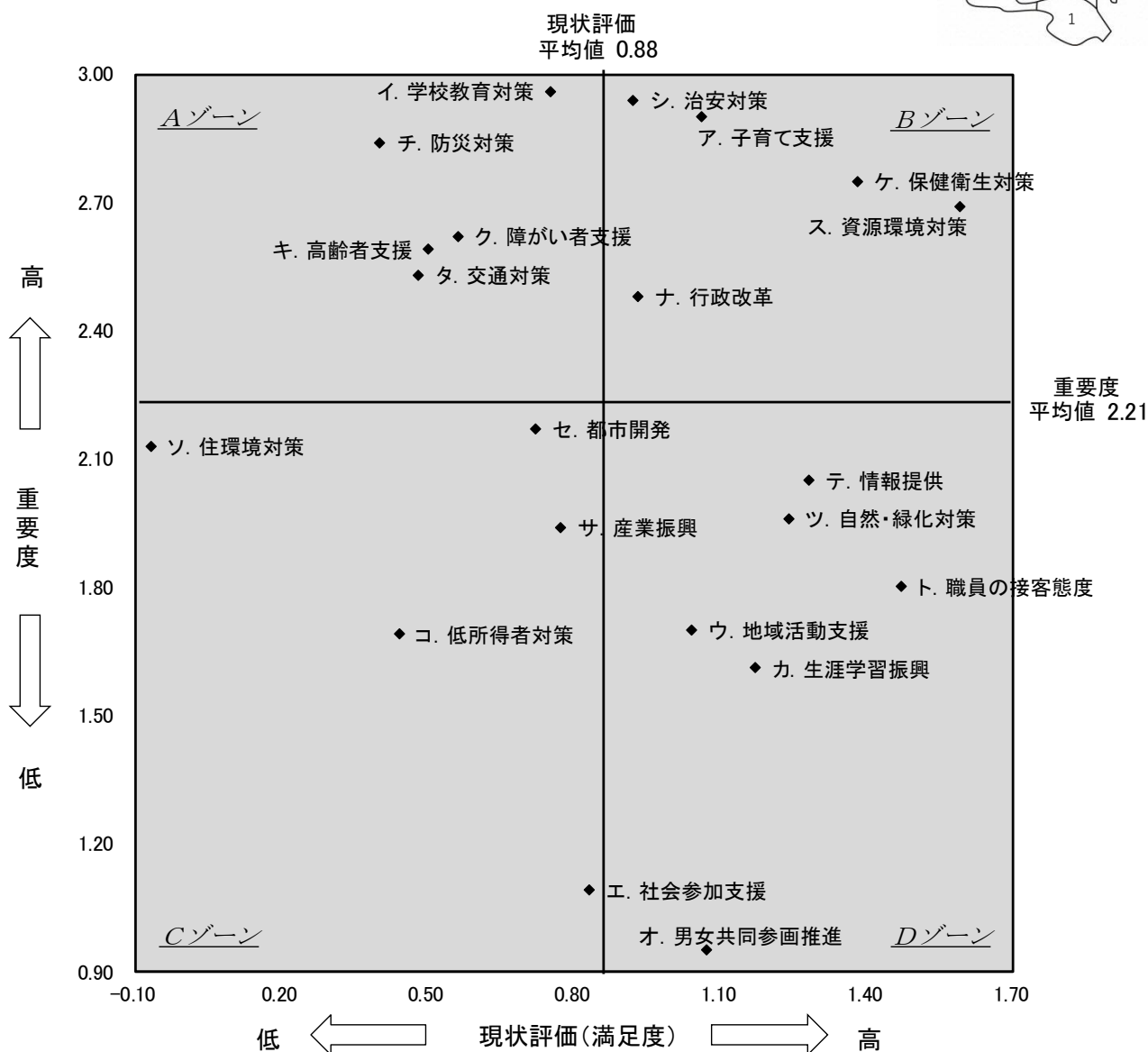


図11-1-4-④ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第4地域



《第5地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」で重要度が高く、とくに満足度が低いほか、「防災対策」「治安対策」の重要度が高く、「住環境対策」の満足度が低くなっている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」で満足度が高く、重要度は「保健衛生対策」で高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

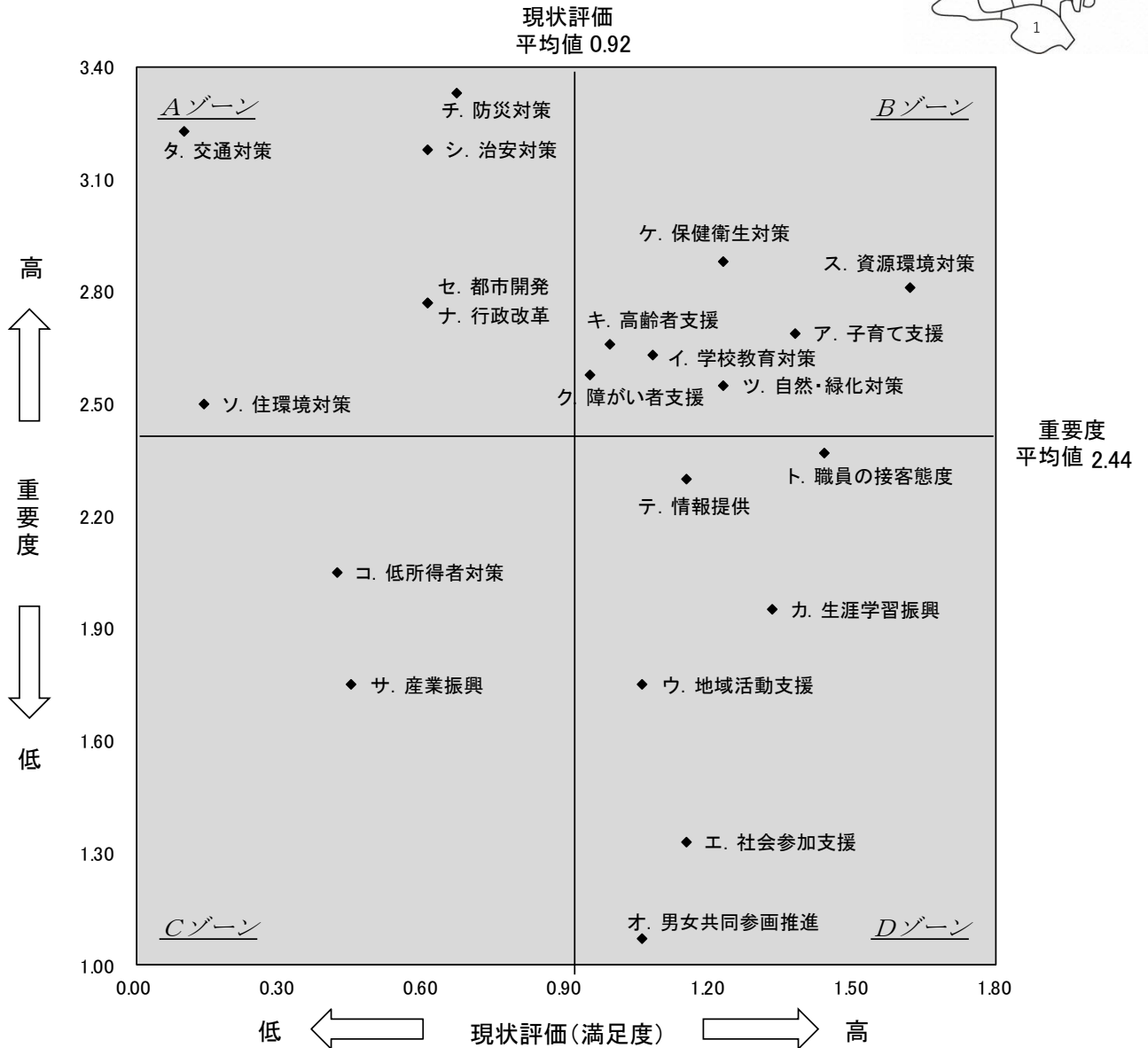
「産業振興」と「低所得者対策」があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「職員の接客態度」で満足度が高く、「生涯学習対策」「情報提供」などもあげられている。



図11-1-4-⑤ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第5地域



《第6地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「治安対策」「防災対策」「交通対策」「高齢者支援」など計9項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」と「自然・緑化対策」の満足度が高く、「子育て支援」の重要度が高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

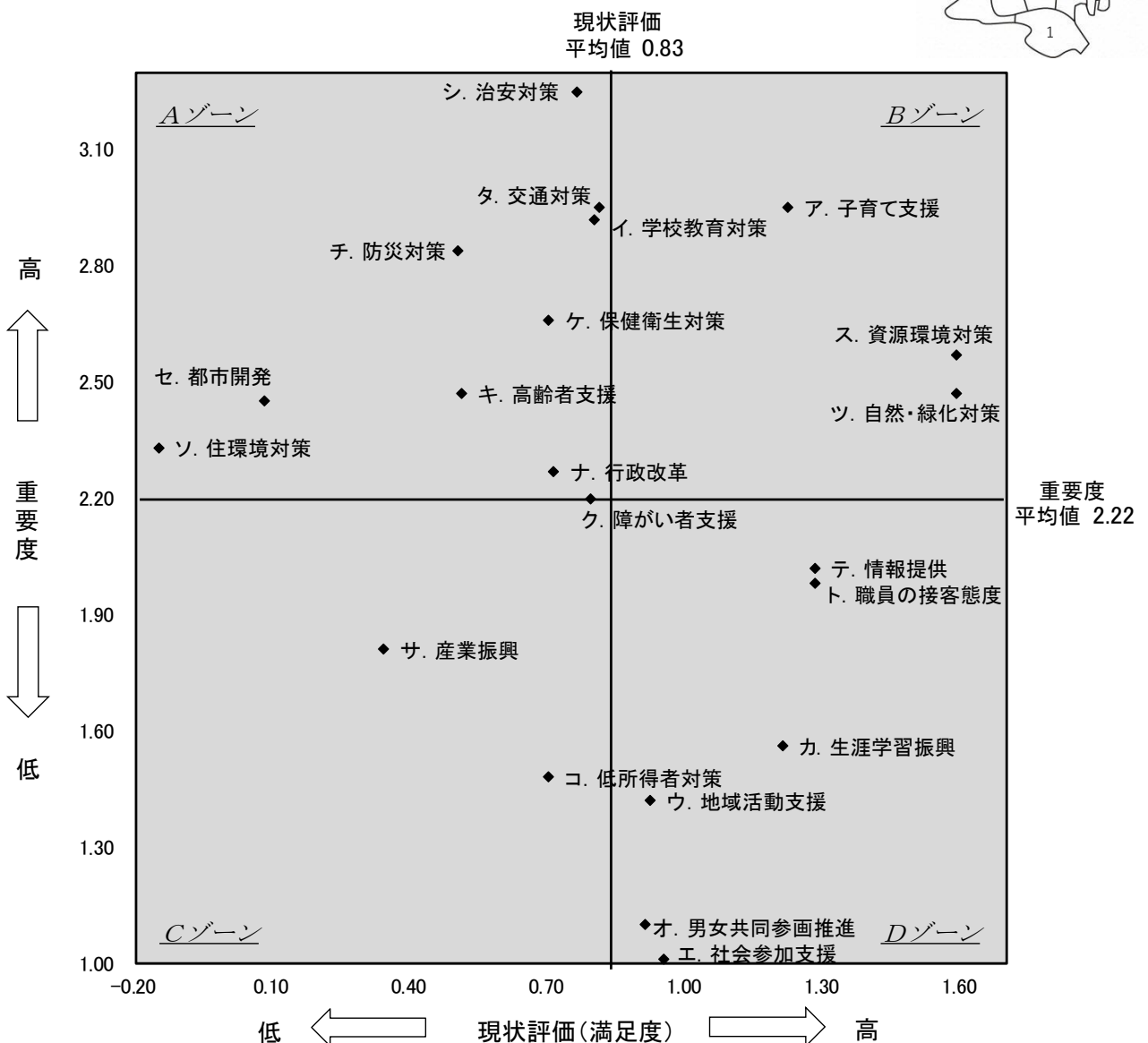
「低所得者対策」と「産業振興」の2項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「生涯学習振興」「情報提供」「職員の接客態度」などがあげられている。



図11-1-4-⑥ 地域別/現状評価（満足度）と重要度の関係/第6地域



《第7地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「治安対策」の重要度が高く、ほかに「防災対策」「交通対策」などがあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「子育て支援」と「資源環境対策」の満足度が高く、「子育て支援」は重要度も高く、ほかに「学校教育対策」「保健衛生対策」などもあげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

「住環境対策」の満足度が低く、ほかに「低所得者対策」「都市開発」「産業振興」などがあげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「自然・緑化対策」の満足度が高く、ほかに「生涯学習振興」「地域活動支援」などがあげられている。

地域区分図

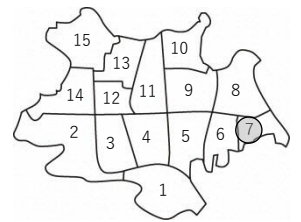
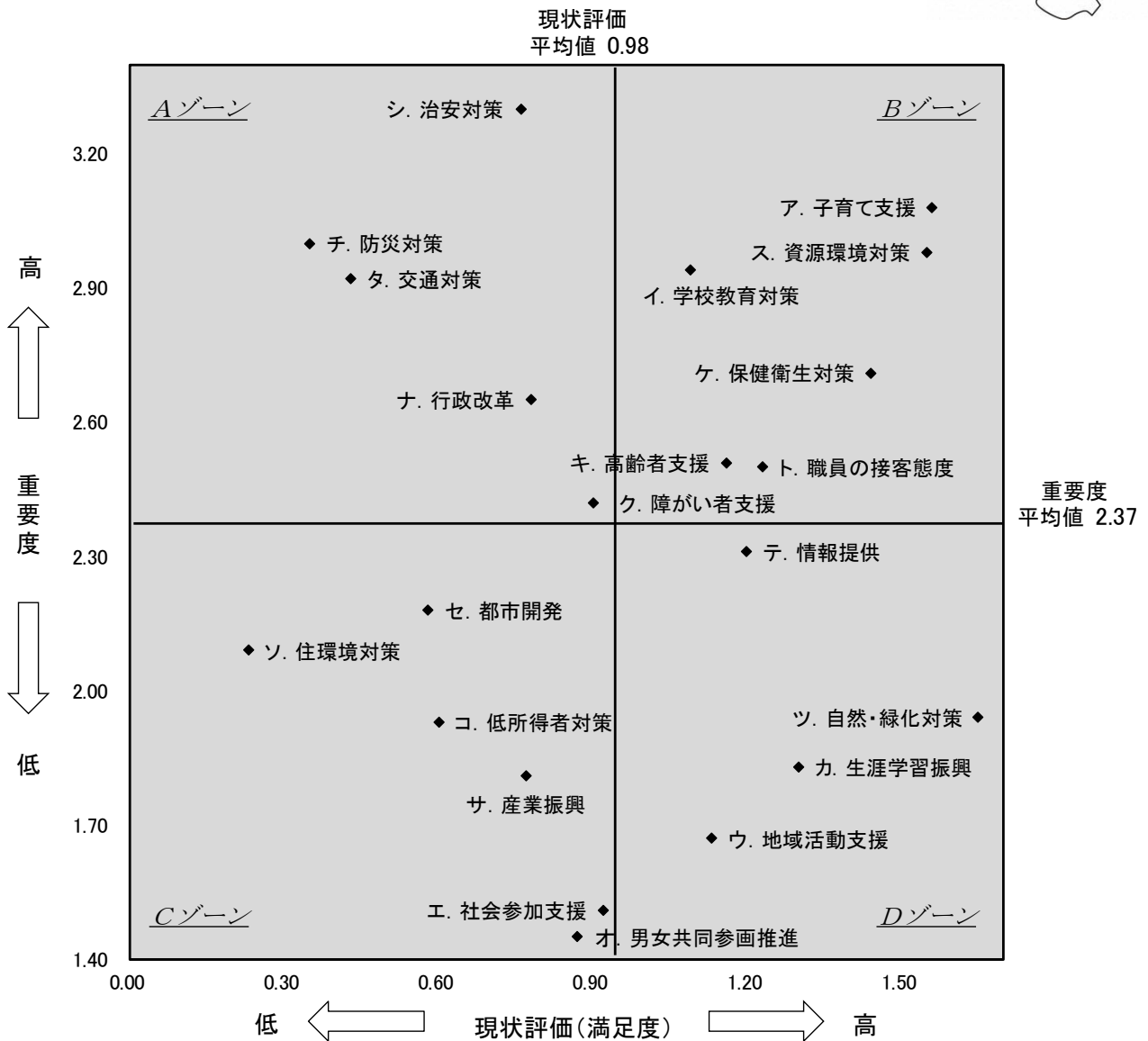


図11-1-4-⑦ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第7地域



《第8地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」で満足度が低く、重要度が高いほか、「防災対策」の重要度も高くなっており、ほかに「高齢者支援」と「障がい者支援」もあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」で満足度が高く、「子育て支援」と「治安対策」の重要度が高く、ほかに「学校教育対策」「保健衛生対策」などもあげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

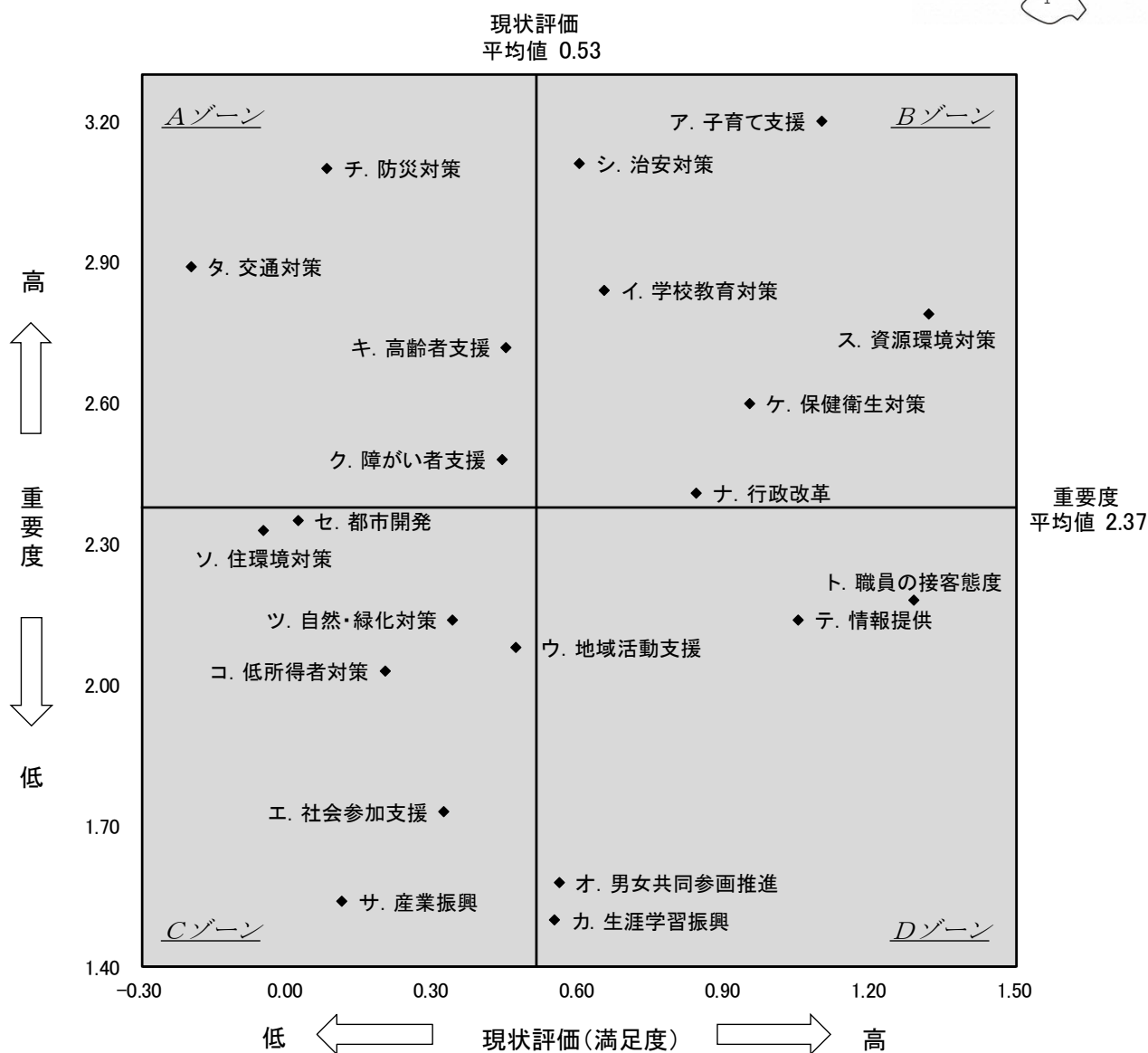
「低所得者対策」など計7項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「職員の接客態度」は満足度が高く、ほかに「情報提供」「生涯学習振興」「男女共同参画推進」があげられている。



図11-1-4-⑧ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第8地域



《第9地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」で満足度が低く、重要度が高いほか、「治安対策」「防災対策」「高齢者支援」「障がい者支援」などがあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」で満足度が高く、「子育て支援」で重要度が高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

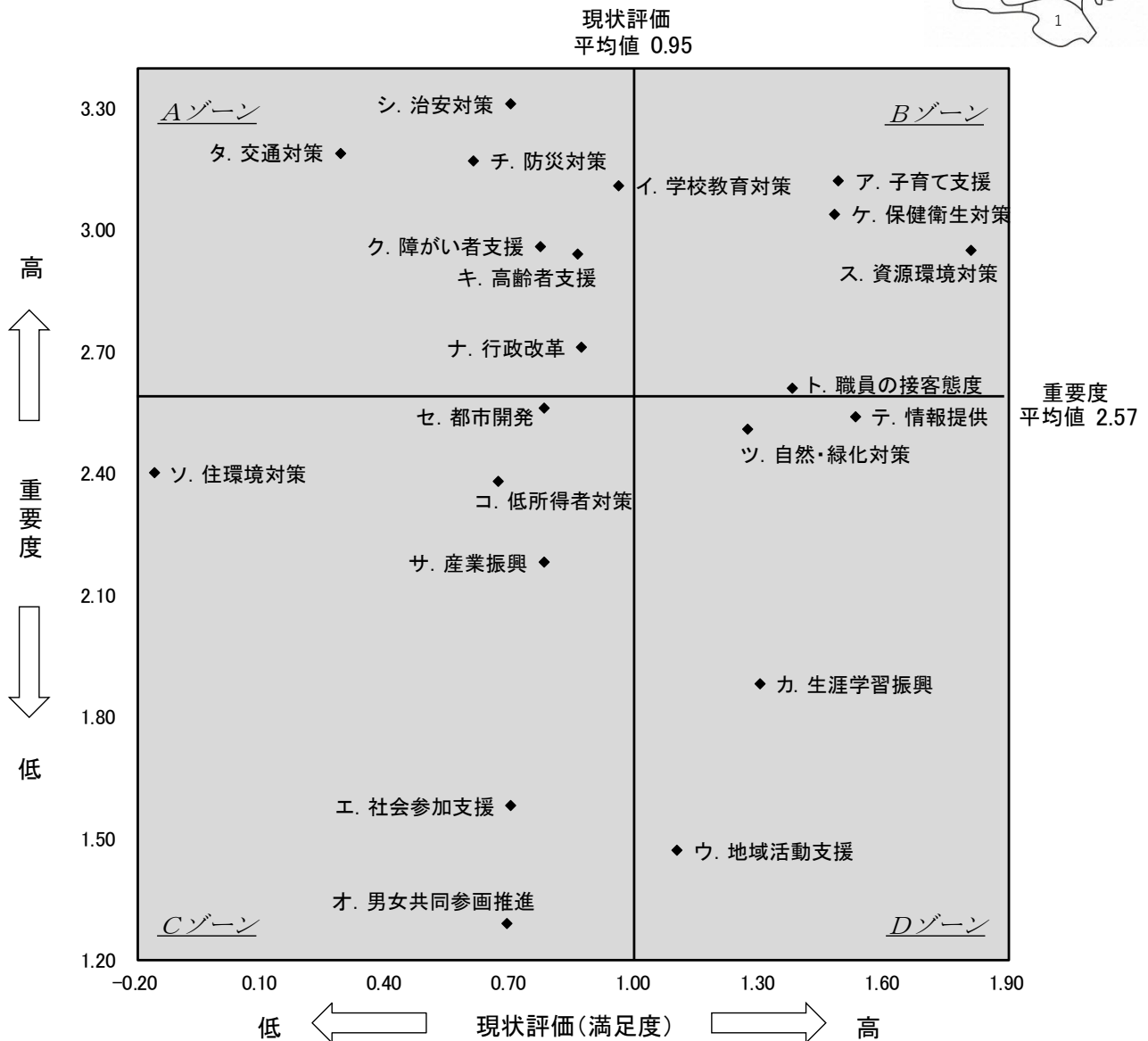
「住環境対策」で満足度がとくに低くなっているほか、「社会参加支援」「産業振興」「低所得者対策」などがあげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「情報提供」で満足度が高く、「地域活動支援」で重要度がとくに低くなっている。



図11-1-4-⑨ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第9地域



《第10地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」「高齢者支援」「治安対策」で満足度が低く、重要度が高いのに加えて、ほかに「防災対策」「障がい者支援」などがあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」で満足度と重要度がともに高いほか、「子育て支援」「学校教育対策」「自然・緑化対策」の計4項目があげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

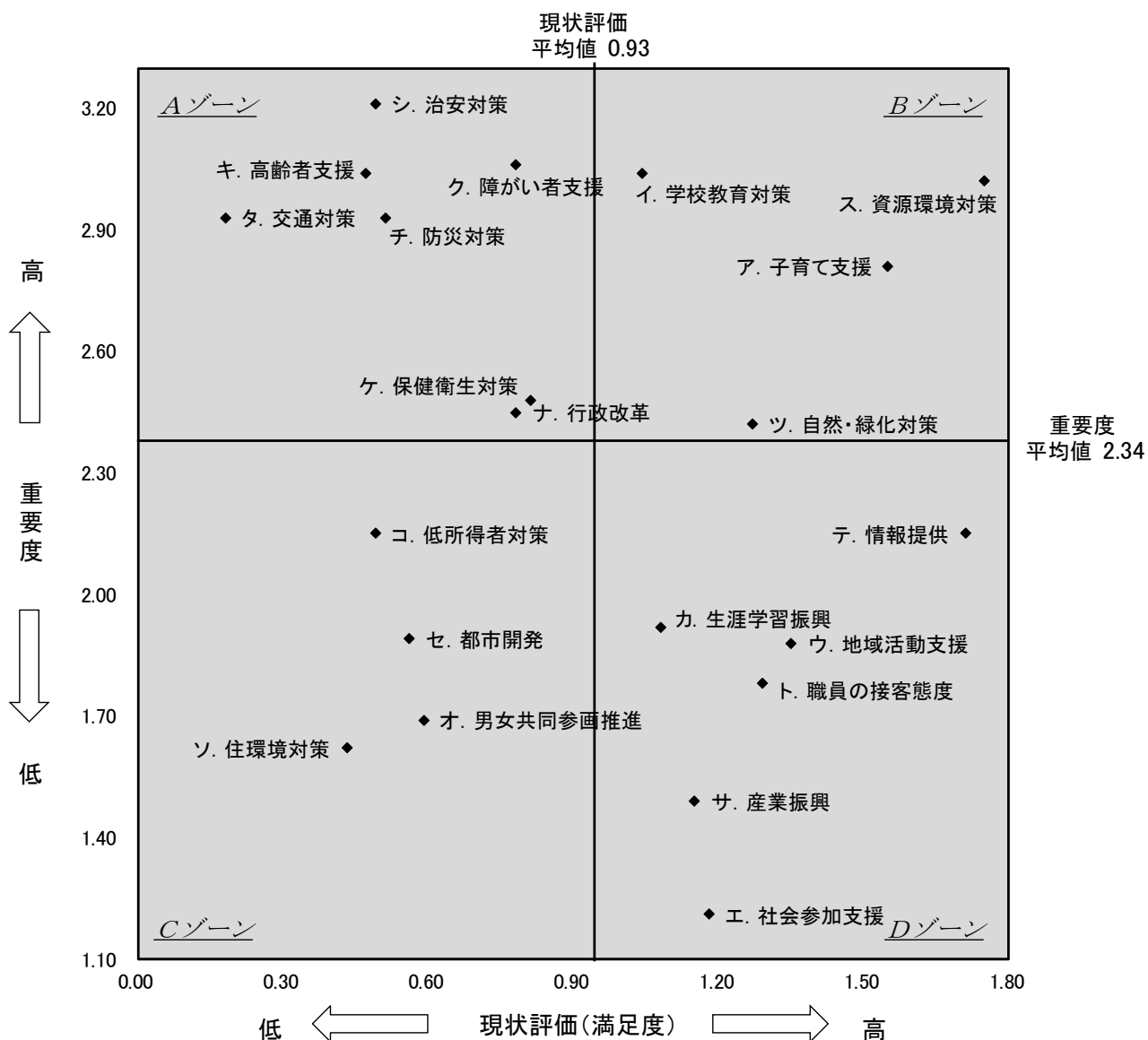
「住環境対策」の満足度がとくに低いほか、「低所得者対策」などがあげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「社会参加支援」の重要度がとくに低いほか、「産業振興」「情報提供」「職員の接客態度」など計6項目があげられている。



図11-1-4-⑩ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第10地域



《第11地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「防災対策」と「交通対策」で重要度が高く、満足度は低くなっているほか、「高齢者支援」「障がい者支援」などもあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」と「子育て支援」で満足度と重要度がともに高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

「住環境対策」の満足度が低く、ほかに「低所得者対策」「産業振興」など計6項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「社会参加支援」の重要度がとくに低いほか、「生涯学習振興」「職員の接客態度」などがあげられている。

地域区分図

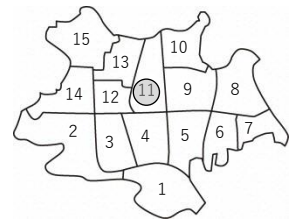
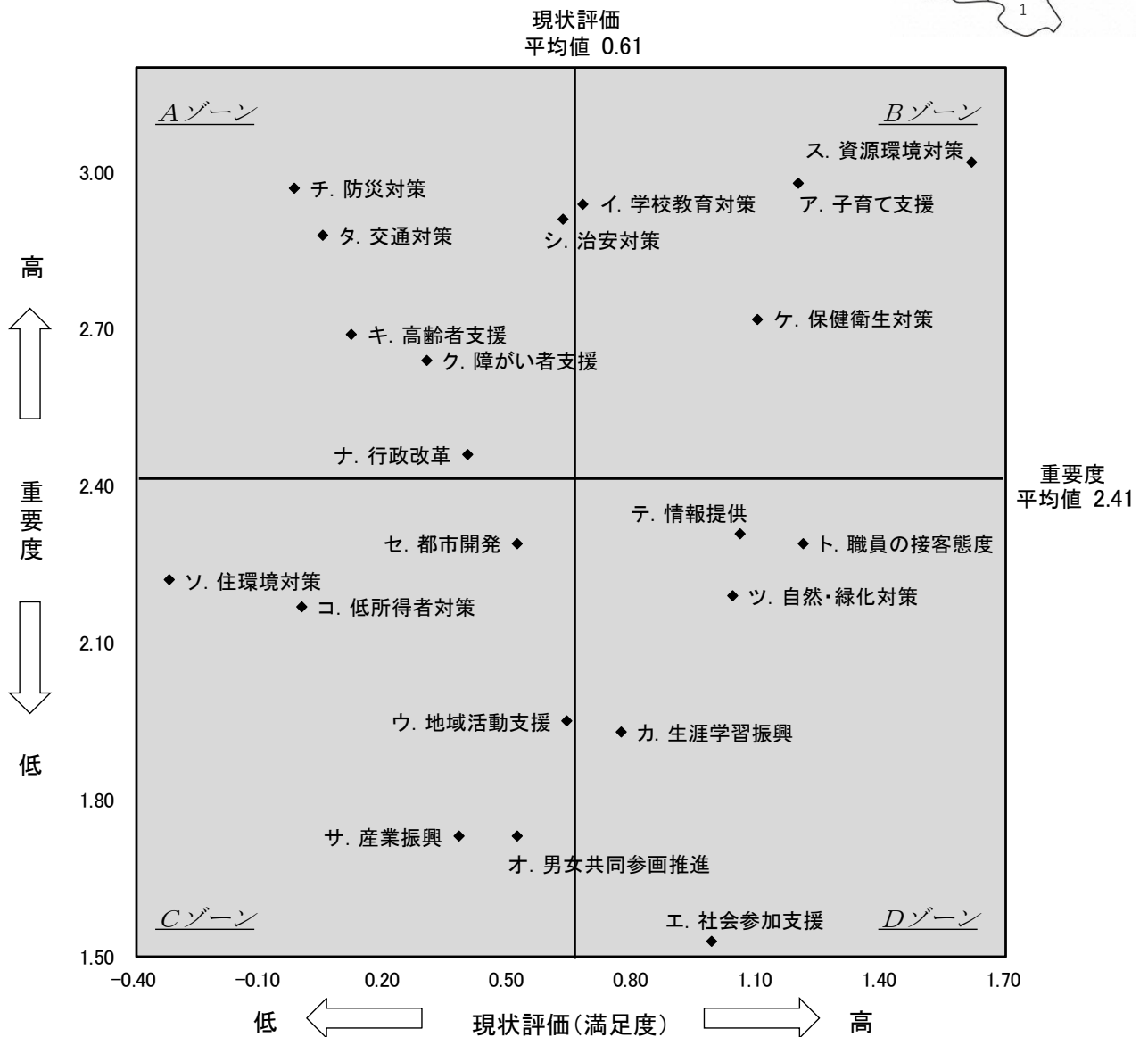


図11-1-4-⑪ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第11地域





《第12地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」で重要度が高く、満足度が低い上に、「住環境対策」の満足度も低い、ほかに「高齢者支援」「防災対策」「障がい者支援」もあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」と「子育て支援」「保健衛生対策」で満足度が高く、重要度は「治安対策」と「子育て支援」で高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

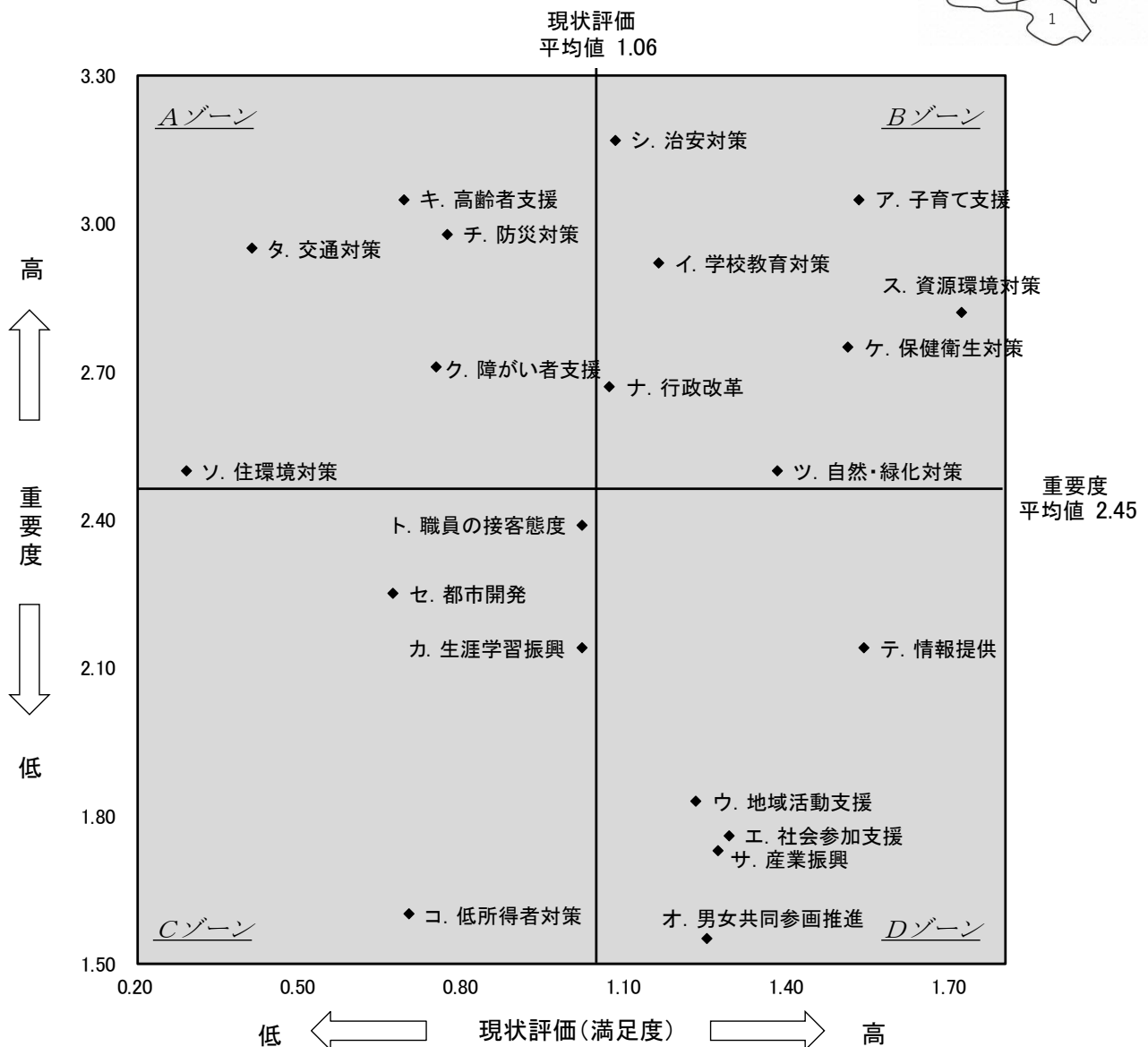
「低所得者対策」で重要度と満足度がともに低いほか、計4項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

満足度が高めな「情報提供」のほか、「男女共同参画推進」など計5項目があげられている。



図11-1-4-⑫ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第12地域



《第13地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

重要度が高めな「交通対策」「防災対策」「治安対策」のほか、満足度が低い「住環境対策」など計8項目があげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」で満足度と重要度がともに高いほか、「子育て支援」と「学校教育対策」も重要度が高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項**

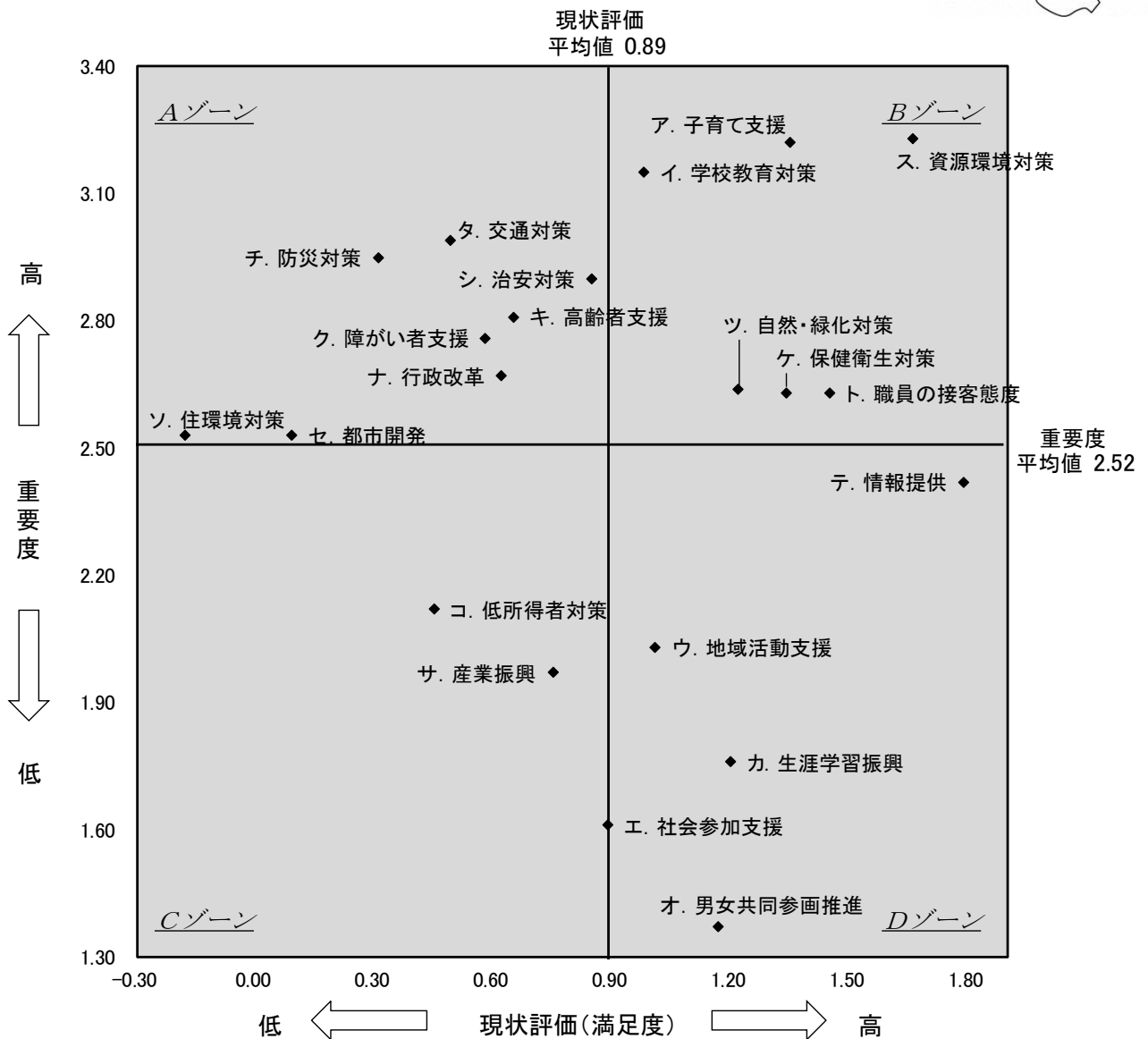
「低所得者対策」と「産業振興」があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

満足度の高い「情報提供」や重要度の低い「男女共同参画推進」などがあげられている。



図11-1-4-⑬ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第13地域



《第14地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「交通対策」でとくに重要度が高く、満足度が低いほか、「高齢者支援」「防災対策」「治安対策」などもあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」で満足度が高く、「資源環境対策」は「子育て支援」「学校教育対策」「障がい者支援」とともに重要度も高くなっている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

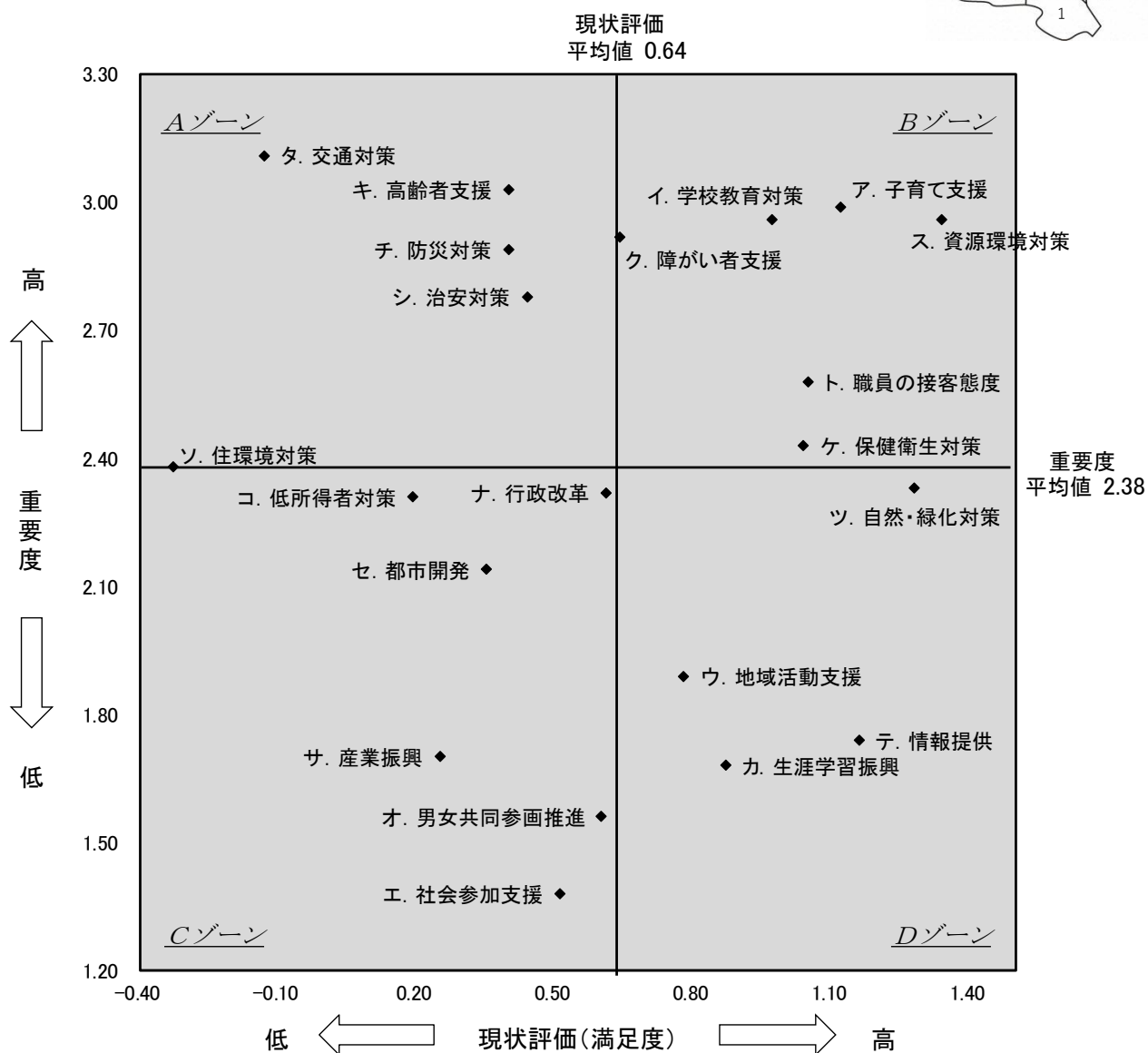
「産業振興」「都市開発」など計6項目があげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「情報提供」「生涯学習振興」など計4項目があげられている。



図11-1-4-⑭ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第14地域



《第15地域》

**A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目**

「治安対策」「学校教育対策」「防災対策」で重要度がとくに高く、ほかに「交通対策」「高齢者支援」などがあげられている。

**B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目**

「資源環境対策」で満足度と重要度がともに特に高いほか、「子育て支援」「保健衛生対策」などがあげられている。

**C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目**

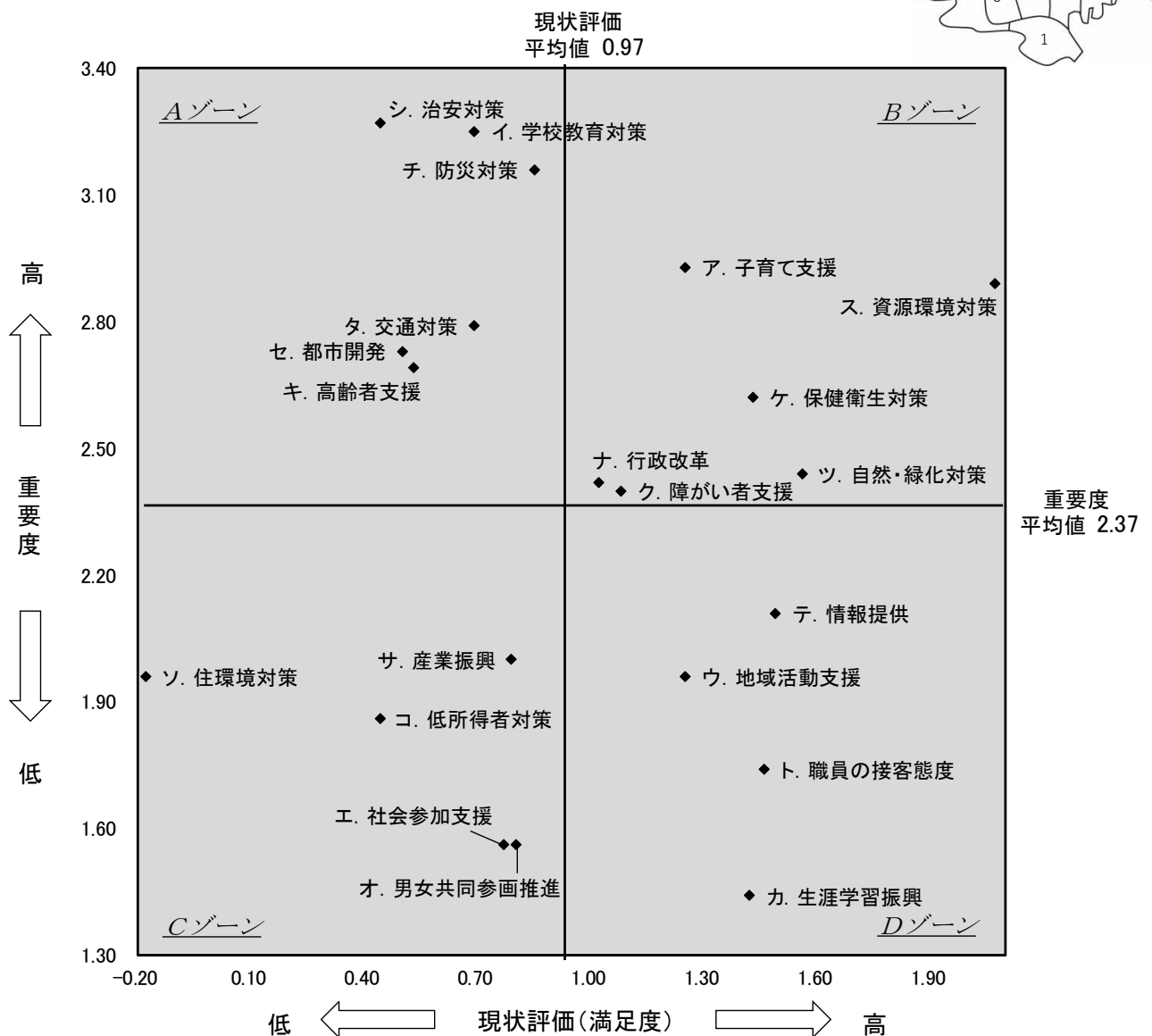
満足度がとくに低い「住環境対策」のほか「低所得者対策」などがあげられている。

**D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目**

「職員の接客態度」「情報提供」などがあげられている。



図11-1-4-⑮ 地域別／現状評価（満足度）と重要度の関係／第15地域

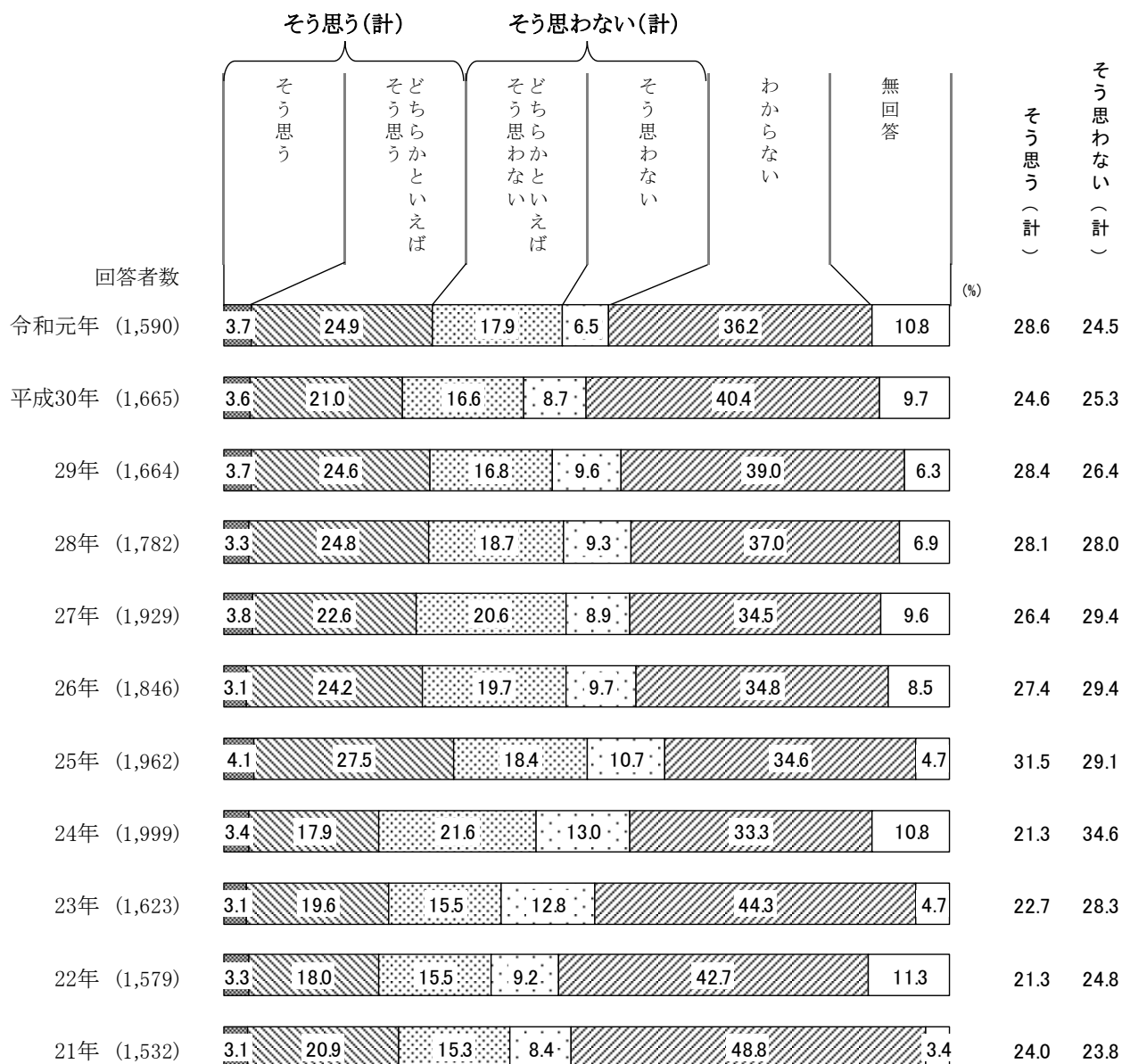


(2) 区政への区民意見の反映度

■ 【そう思う】は3割弱で、前年よりやや増加して【そう思わない】を上回っている

問49 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（○は1つだけ）。

図11-2-1 経年比較／区政への区民意見の反映度



区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は28.6%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】(24.5%)を4.1ポイントながら上回っている。

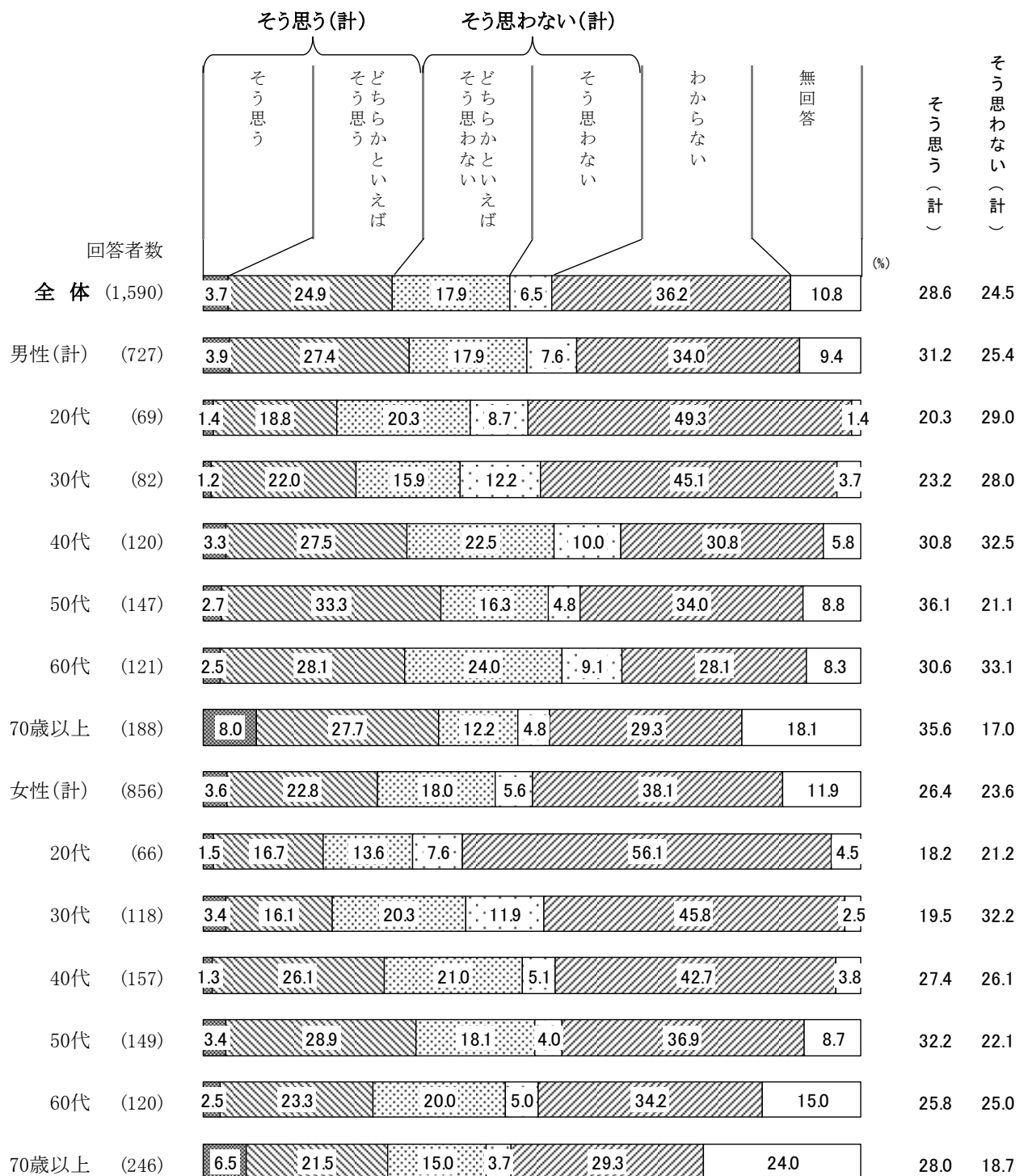
経年でみると、【そう思う】は今回28.6%と、平成30年の24.6%から4.0ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

性別でみると、【そう思う】は男性で31.2%と、女性（26.4%）よりやや高くなっている。

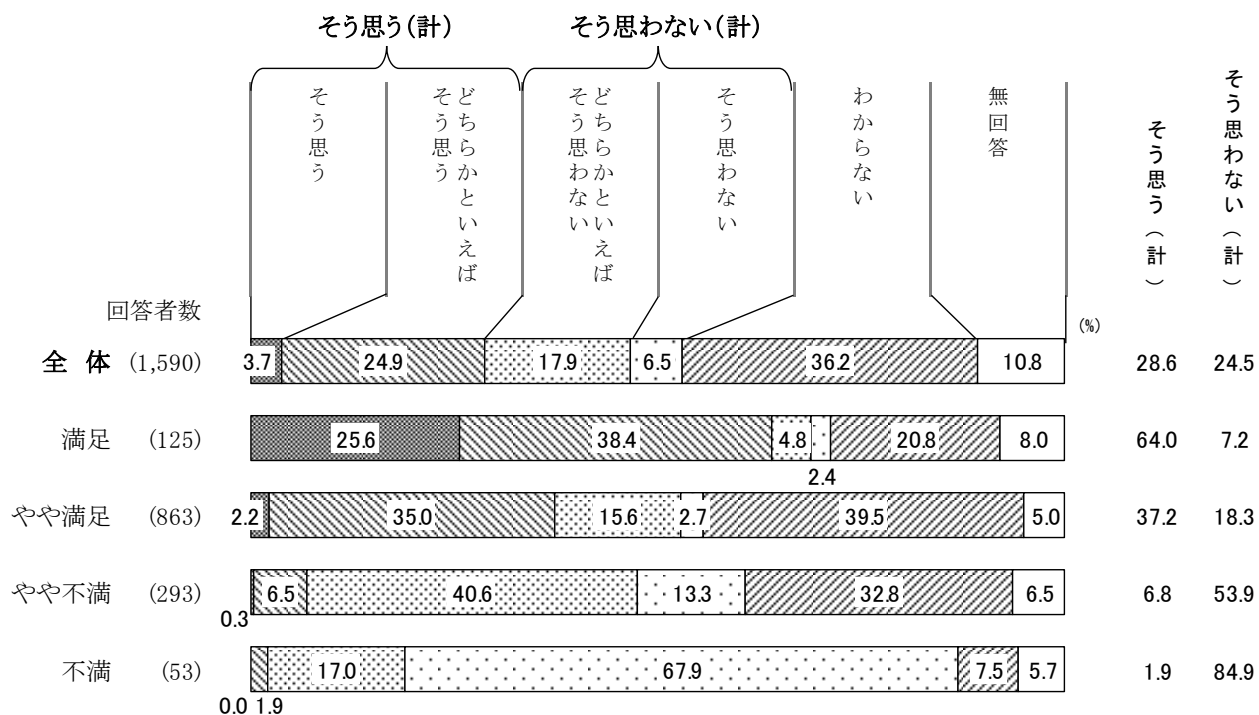
性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では50代と70歳以上で3割台半ばと高く、女性では50代と70歳以上で3割前後と高くなっており、この男女4層では【そう思わない】をそれぞれ10ポイント前後以上上回っているが、一方、【そう思わない】が【そう思う】を10ポイント前後上回って多い性・年代層には、男性の20代と女性の30代の2層となっている。

図11-2-2 性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度



区政満足度別で見ると、【そう思う】の割合は、区政への満足度が高くなるほど増加し、満足している層では64.0%で6割台半ばと高くなっている。

図11-2-3 区政満足度別／区政への区民意見の反映度



(3) 区に対する気持ち

■ “足立区に愛着”と“足立区を良いまちにする活動をしている人に共感”がともに7割台半ば

問50 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか（○はそれぞれ1つずつ）。

図11-3-1-① 経年比較/区に対する気持ち

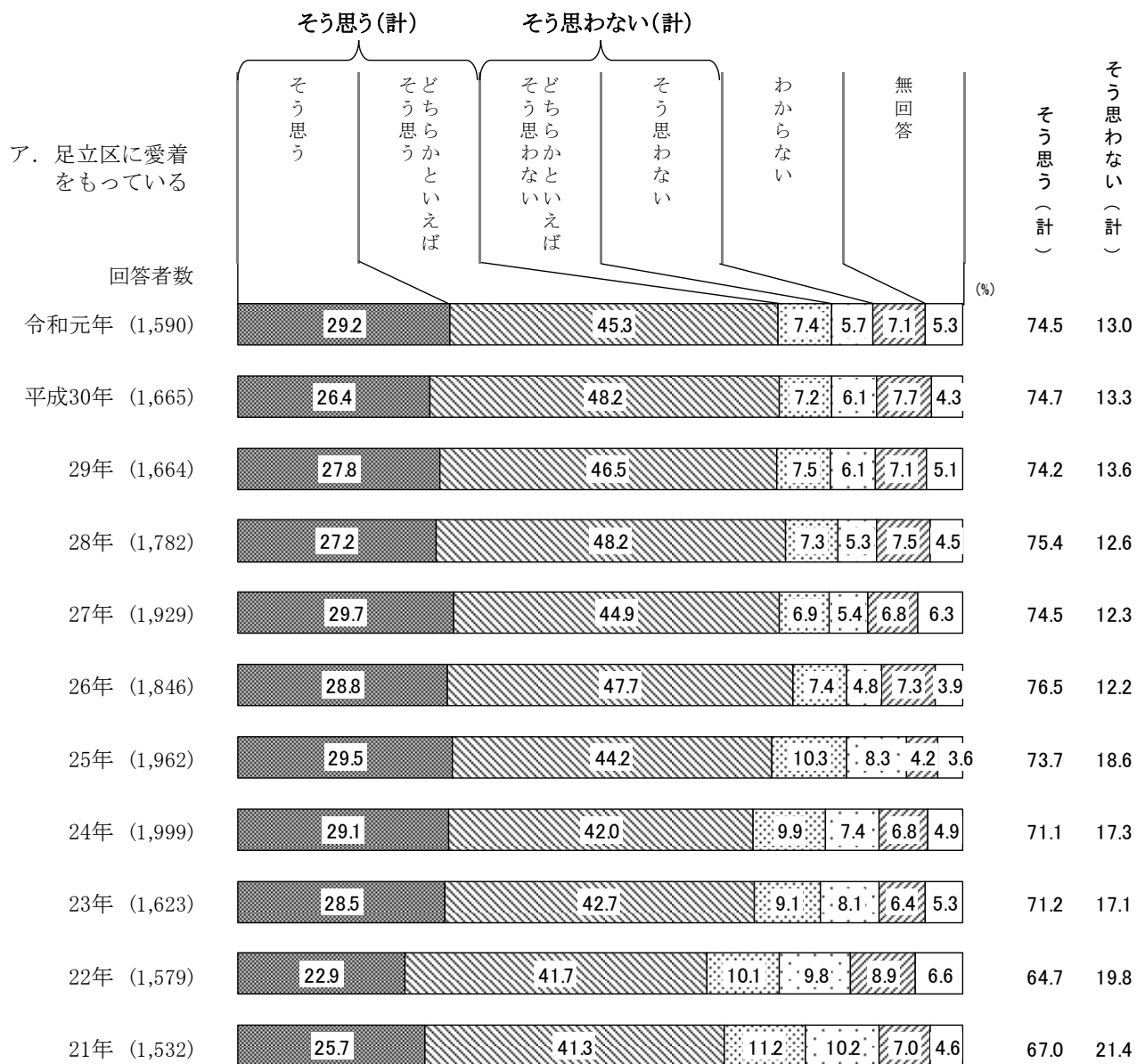




図11-3-1-② 経年比較/区に対する気持ち

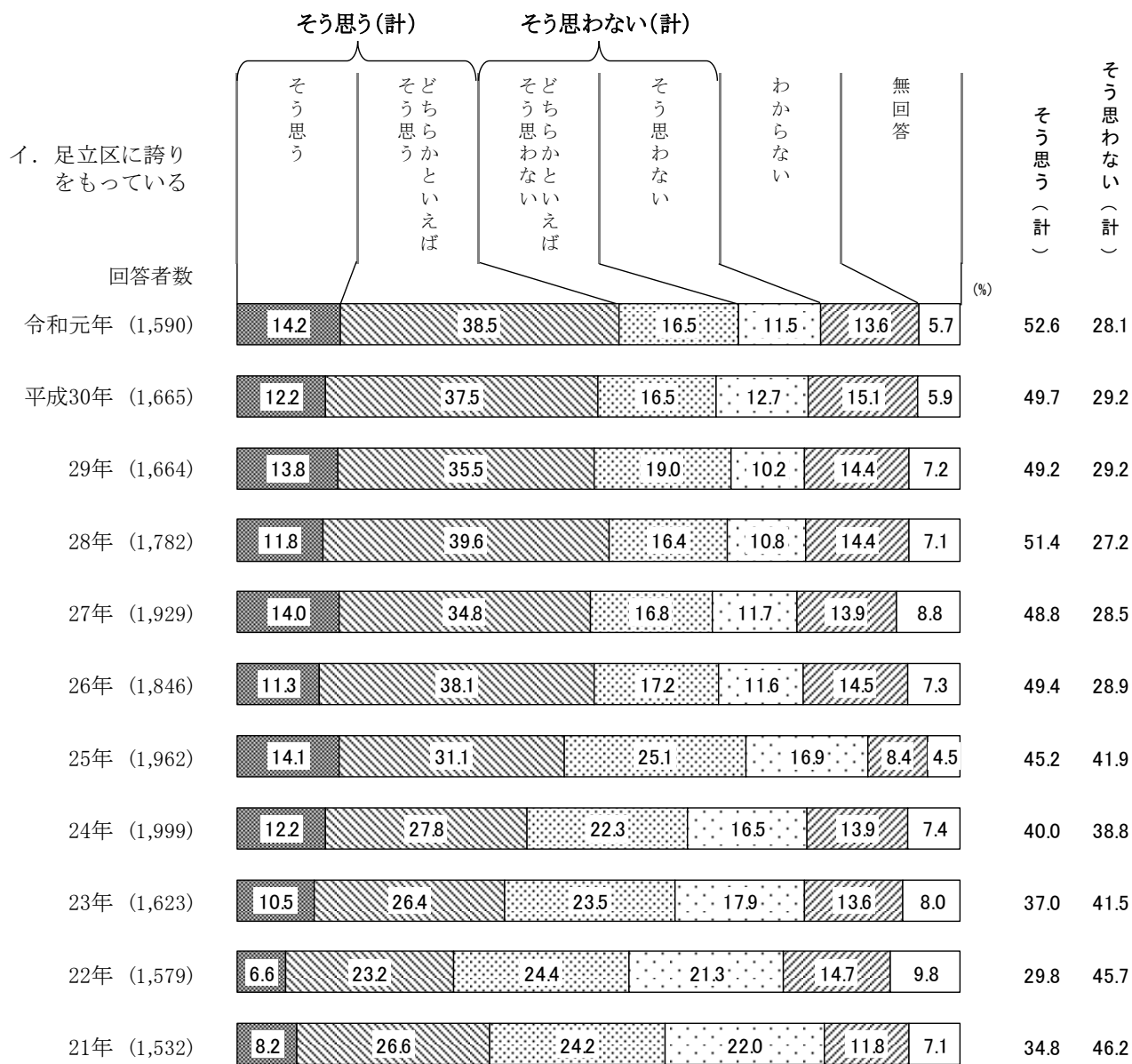


図11-3-1-③ 経年比較/区に対する気持ち

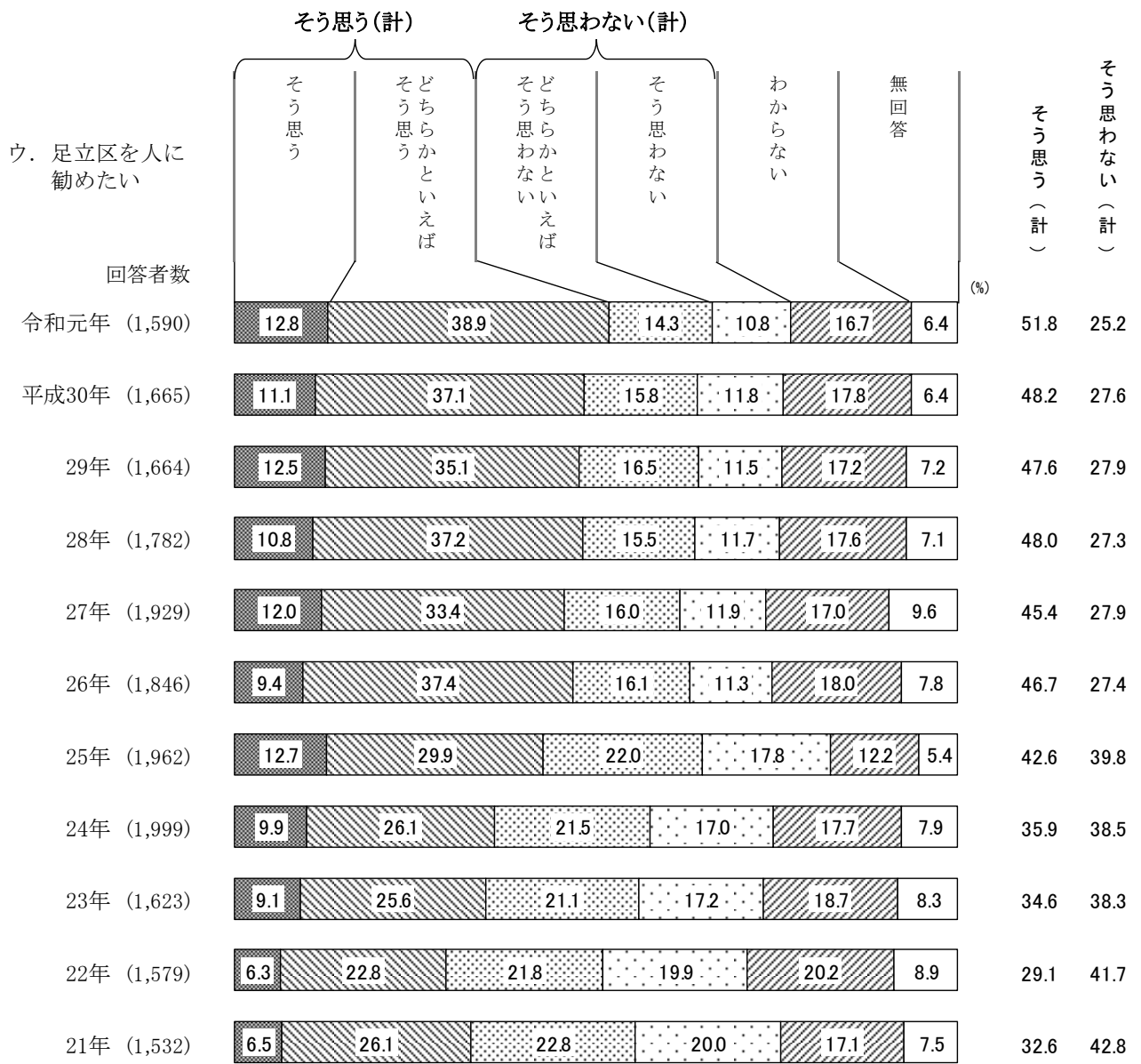
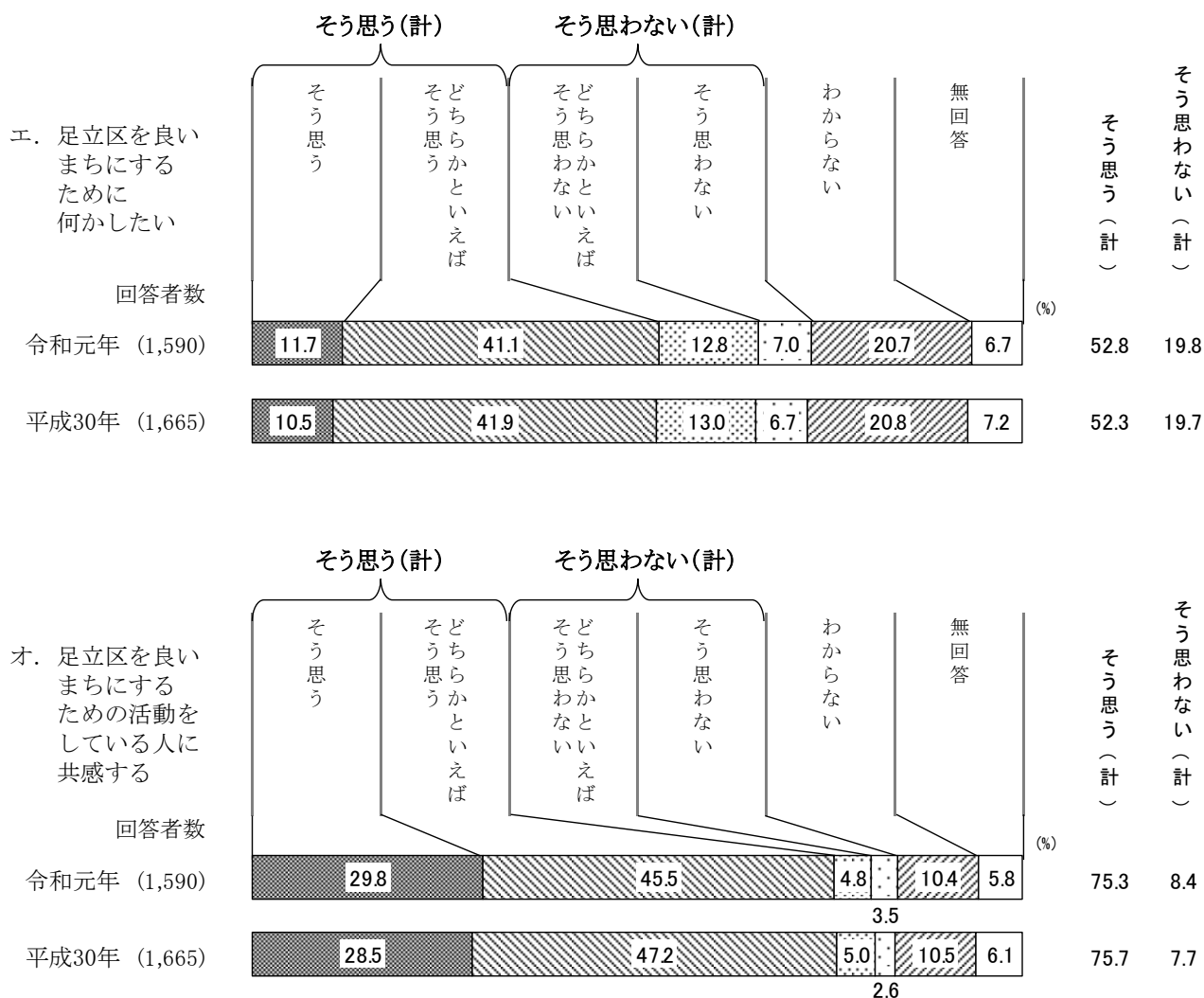


図11-3-1-④ 前回調査比較／区に対する気持ち



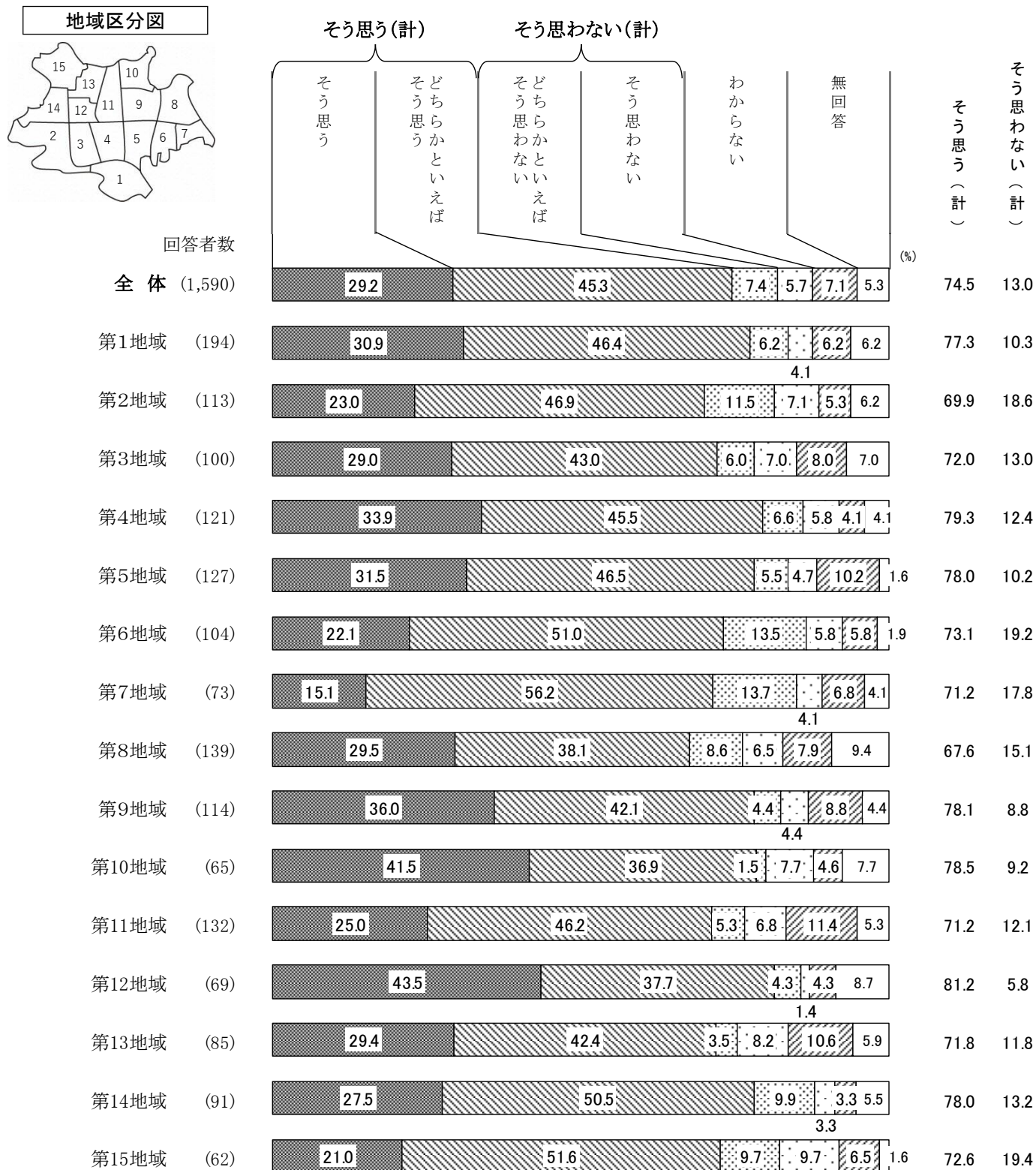
区に対する気持ちについて計5項目に亘って聴いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉が75.3%、〈足立区に愛着をもっている〉が74.5%で、この2項目が7割台半ばで並んで高く、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉が52.8%、〈足立区に誇りをもっている〉が52.6%、〈足立区を人に勧めたい〉が51.8%で、この3項目も5割強で並んで続く結果となっている。

平成21年から測定している3項目の【そう思う】の結果を経年でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は前回とほぼ同率で、ここ5年間ほどは各年7割台半ばで横ばい状態にあるが、〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉の2項目は、ともに前回より3ポイント前後増加して5割を超えており、〈足立区を人に勧めたい〉が5割を超えたのは平成21年以降初めてのこととなる。

第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

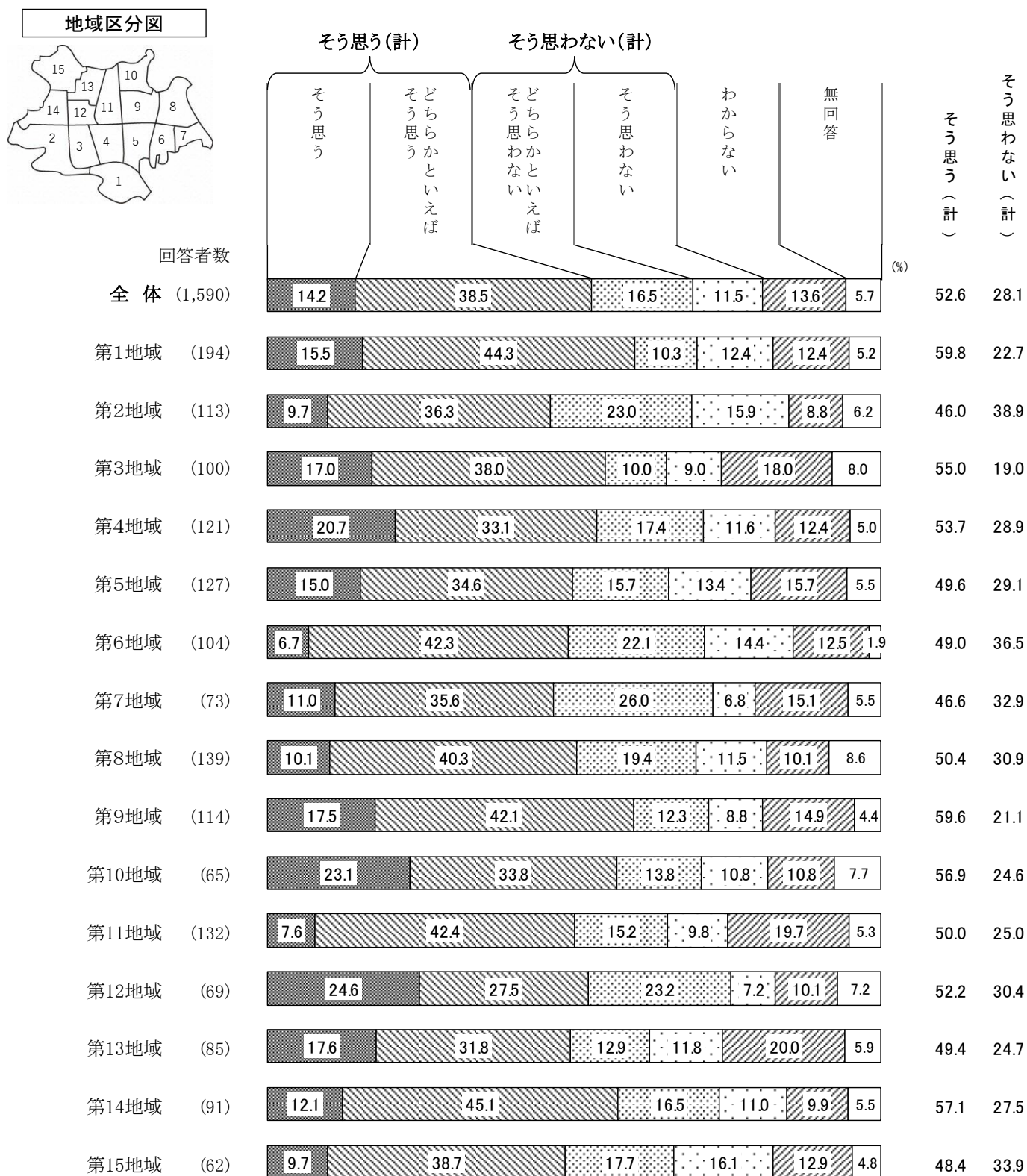
地域別でみると、〈足立区に愛着をもっている〉では、【そう思う】は第12地域で8割を超えて最も高く、以下、第4地域、第5地域、第9地域、第10地域、第14地域などがそれぞれ8割弱とやや高くなっている

図11-3-2-① 地域別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



地域別でみると、〈足立区に誇りをもっている〉では、【そう思う】が第1地域、第9地域、第10地域、第14地域でそれぞれ6割弱で、他の地域より高くなっている。

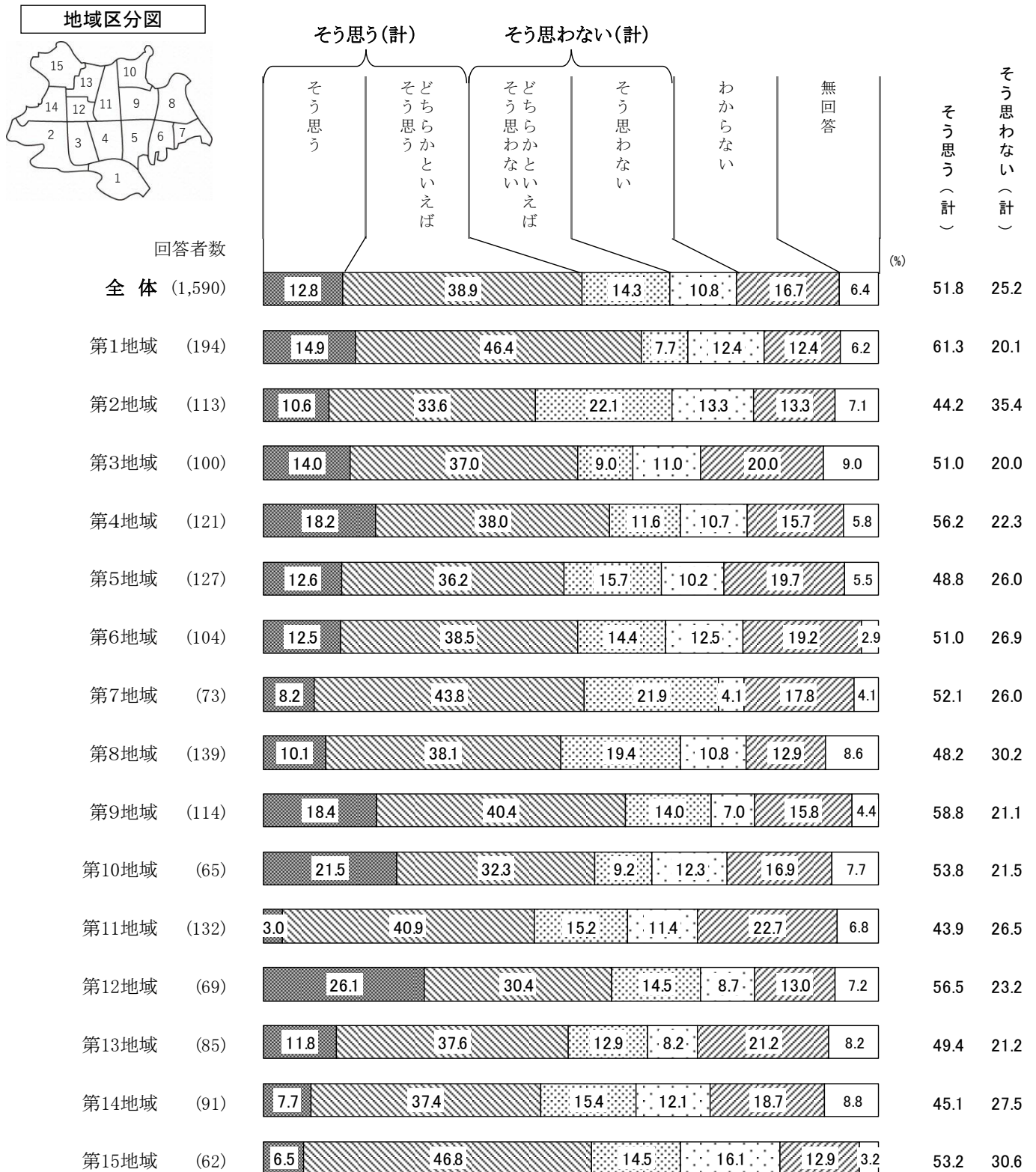
図11-3-2-② 地域別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

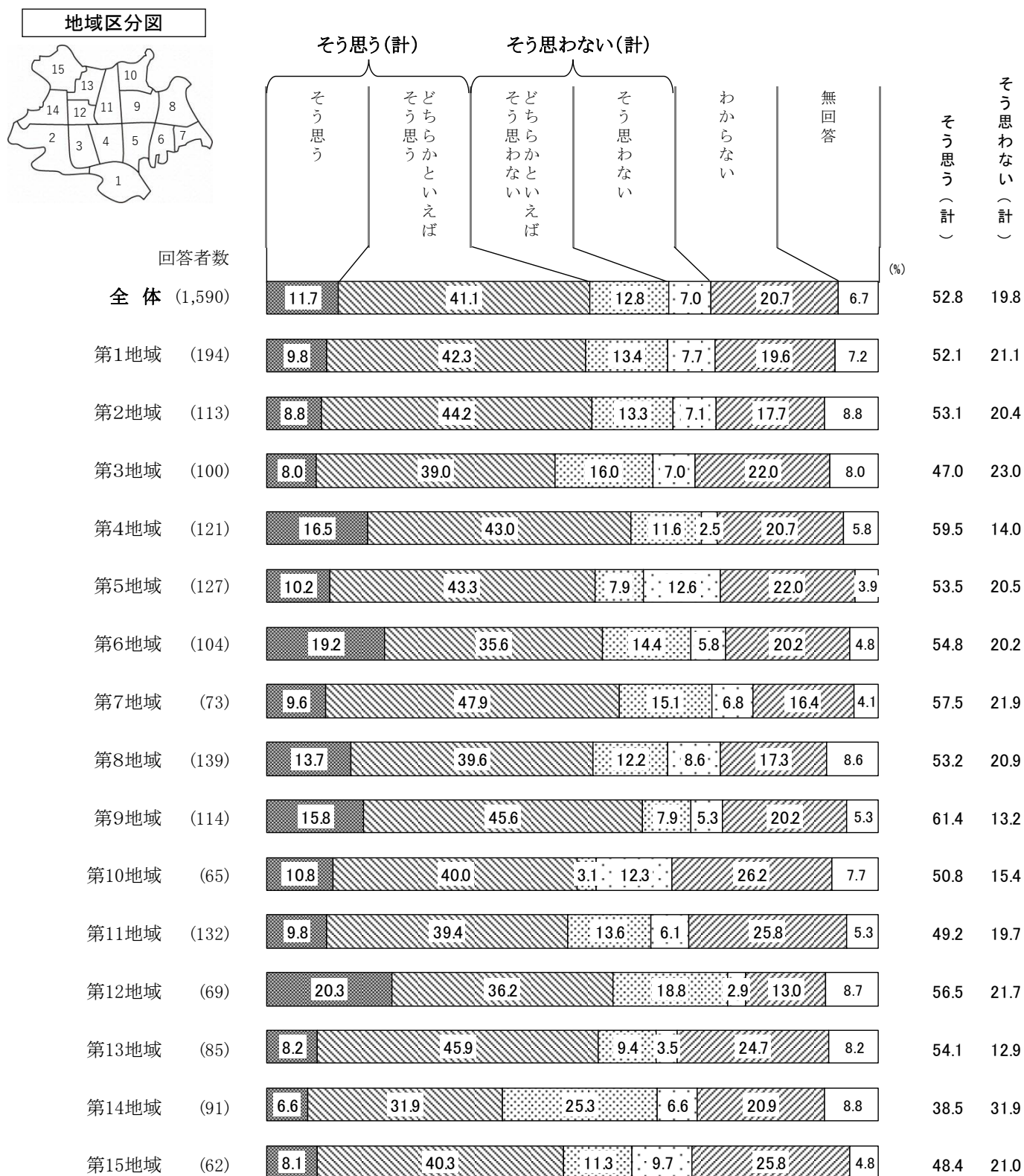
地域別でみると、〈足立区を人に勧めたい〉では、【そう思う】が第1地域で6割を超えて最も高く、第9地域が6割弱で続き、他の地域より高くなっている。

図11-3-2-③ 地域別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



地域別でみると、〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉では、【**そう思う**】が第9地域で6割強と最も高く、第4地域と第7地域が6割弱で続き、他の地域より高くなっている。

図11-3-2-④ 地域別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい

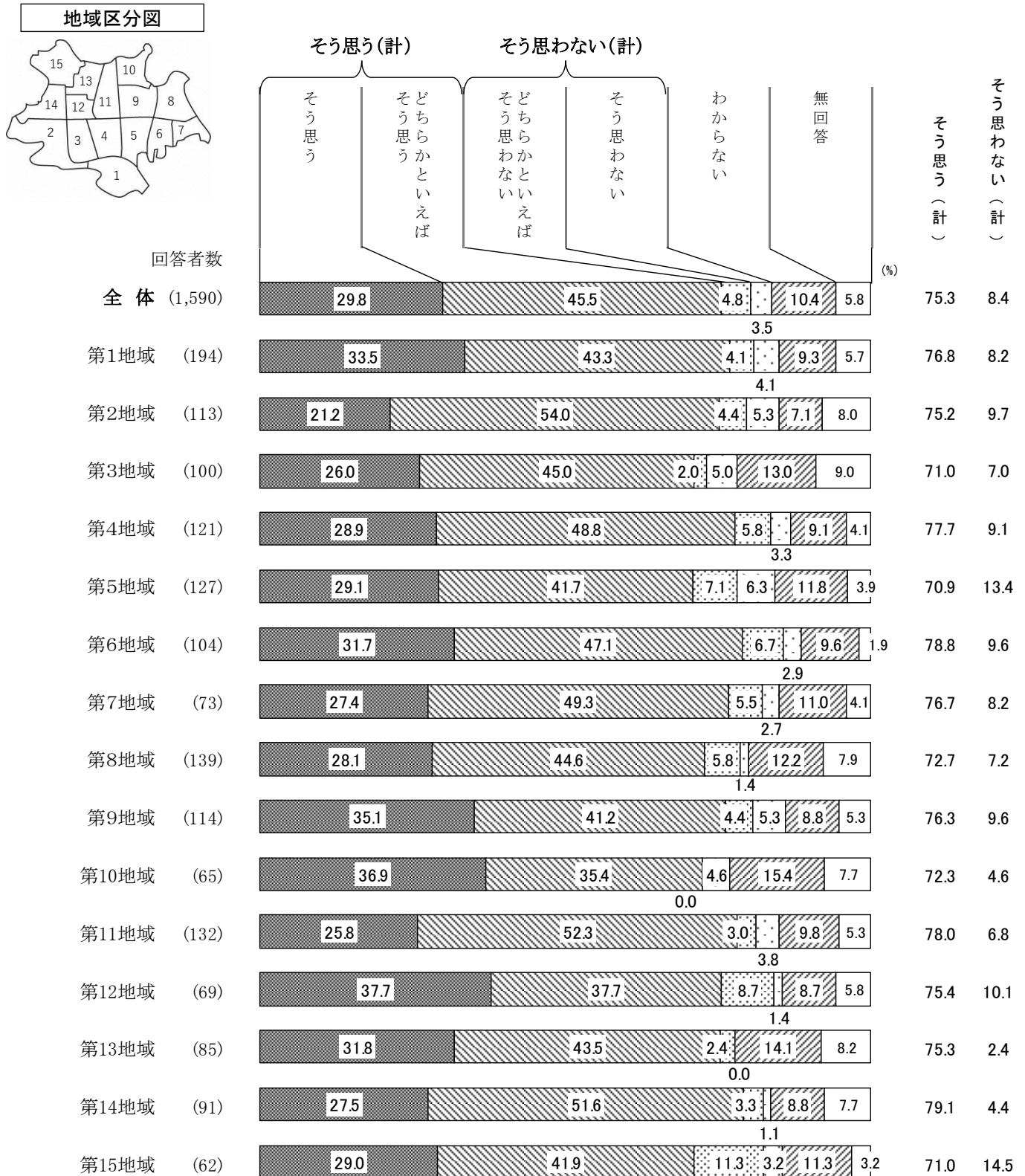




第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

地域別でみると、〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉では、【そう思う】が第4地域、第6地域、第11地域、第14地域などでともに8割弱と、その他の地域に比べてやや高くなっている。

図11-3-2-⑤ 地域別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

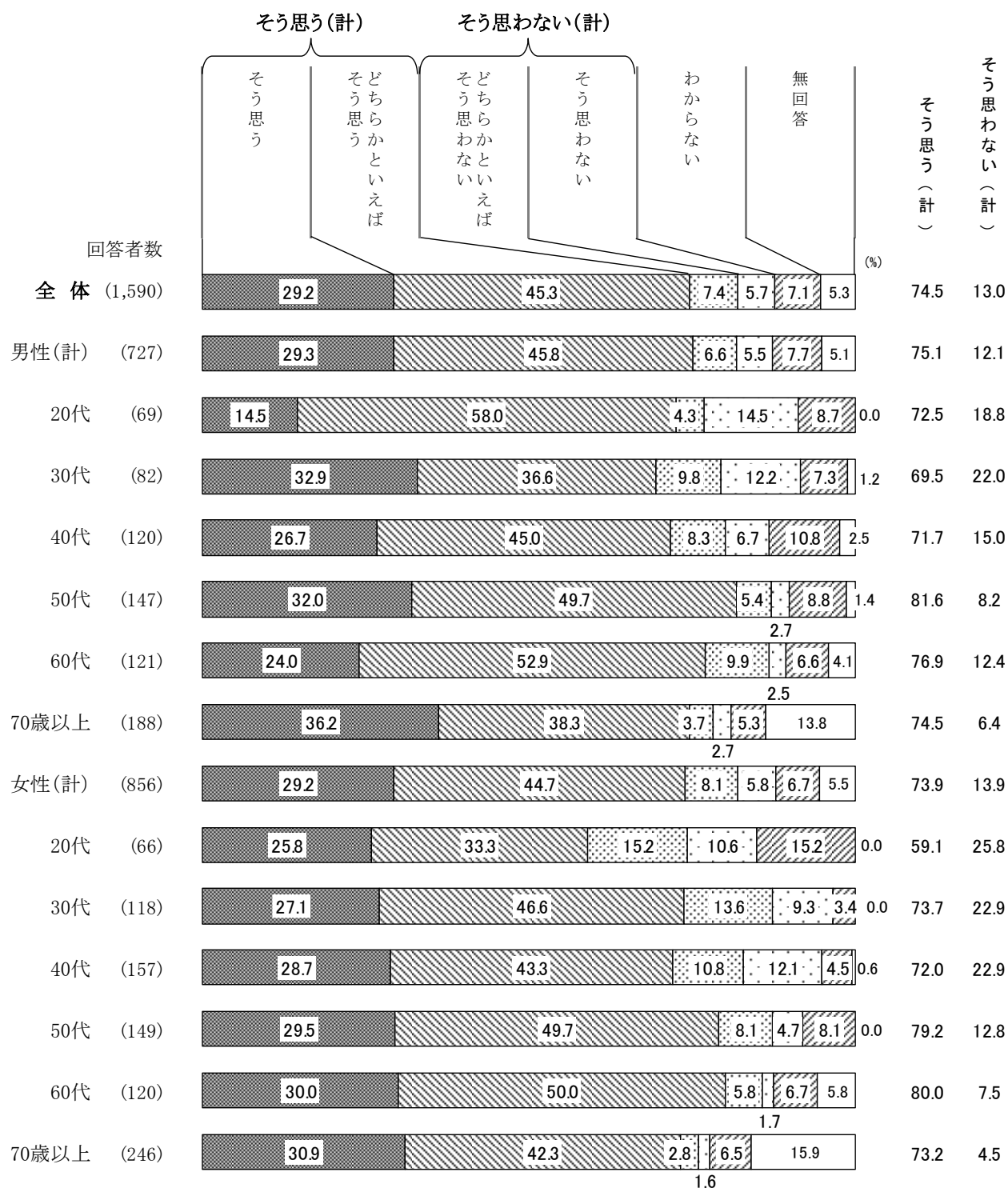




〈足立区に愛着をもっている〉について性別でみると、【そう思う】は男性75.1%、女性73.9%となっている。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では50代で、女性では50代と60代で、それぞれ8割前後と同性の他の年代に比べてやや高くなっている。

図11-3-3-① 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている

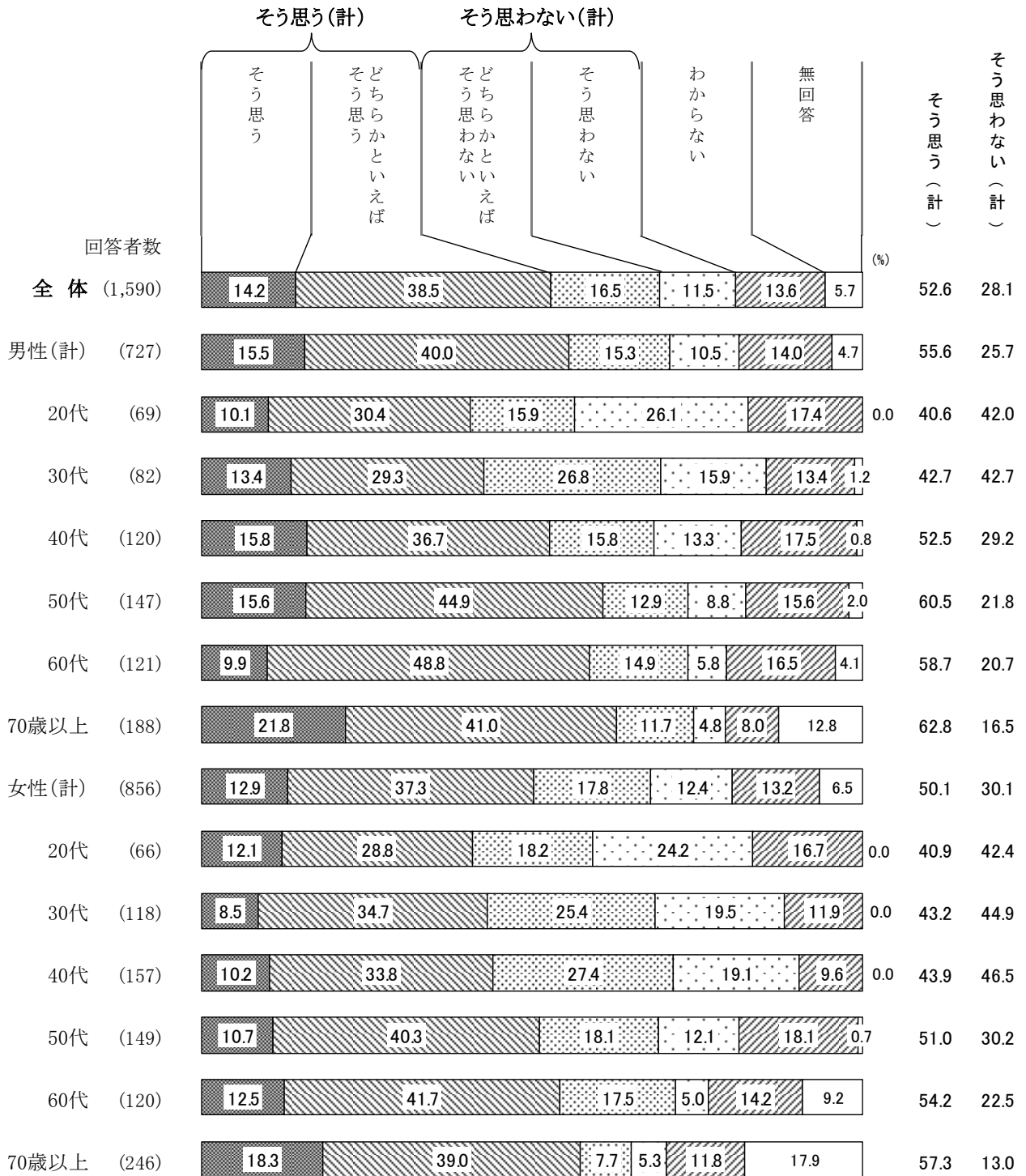


第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

〈足立区に誇りをもっている〉について性別でみると、【そう思う】は男性55.6%、女性50.1%となっており、男性の方がやや高い。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では50代以上の3年代層で、女性では70歳以上で、それぞれ6割前後と高くなっている。

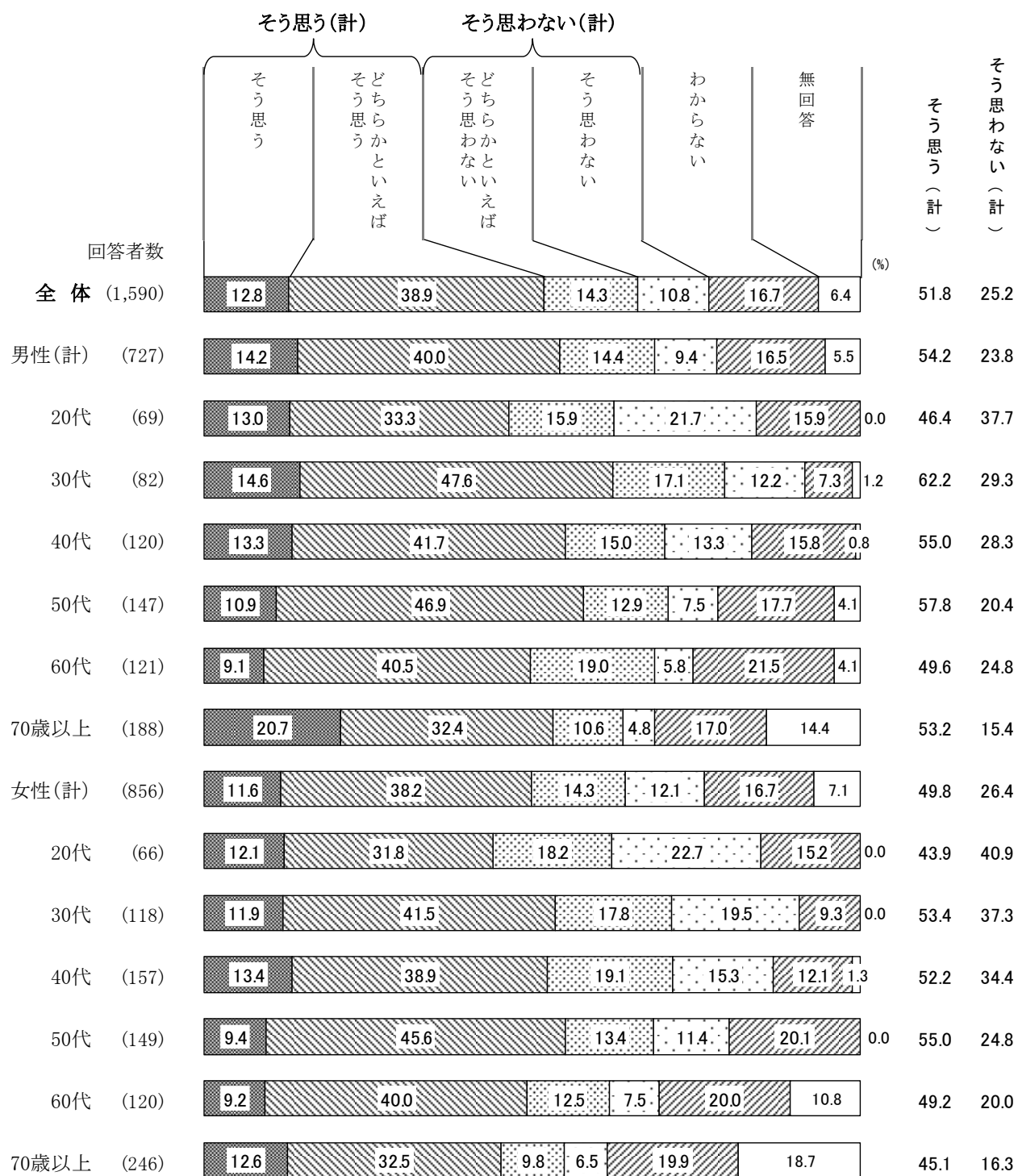
図11-3-3-② 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



〈足立区を人に勧めたい〉について性別でみると、【そう思う】は男性54.2%、女性49.8%で、男性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では30代で6割強と高く、50代も6割弱でやや高い。女性では50代で5割台半ばとやや高くなっている。

図11-3-3-③ 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい

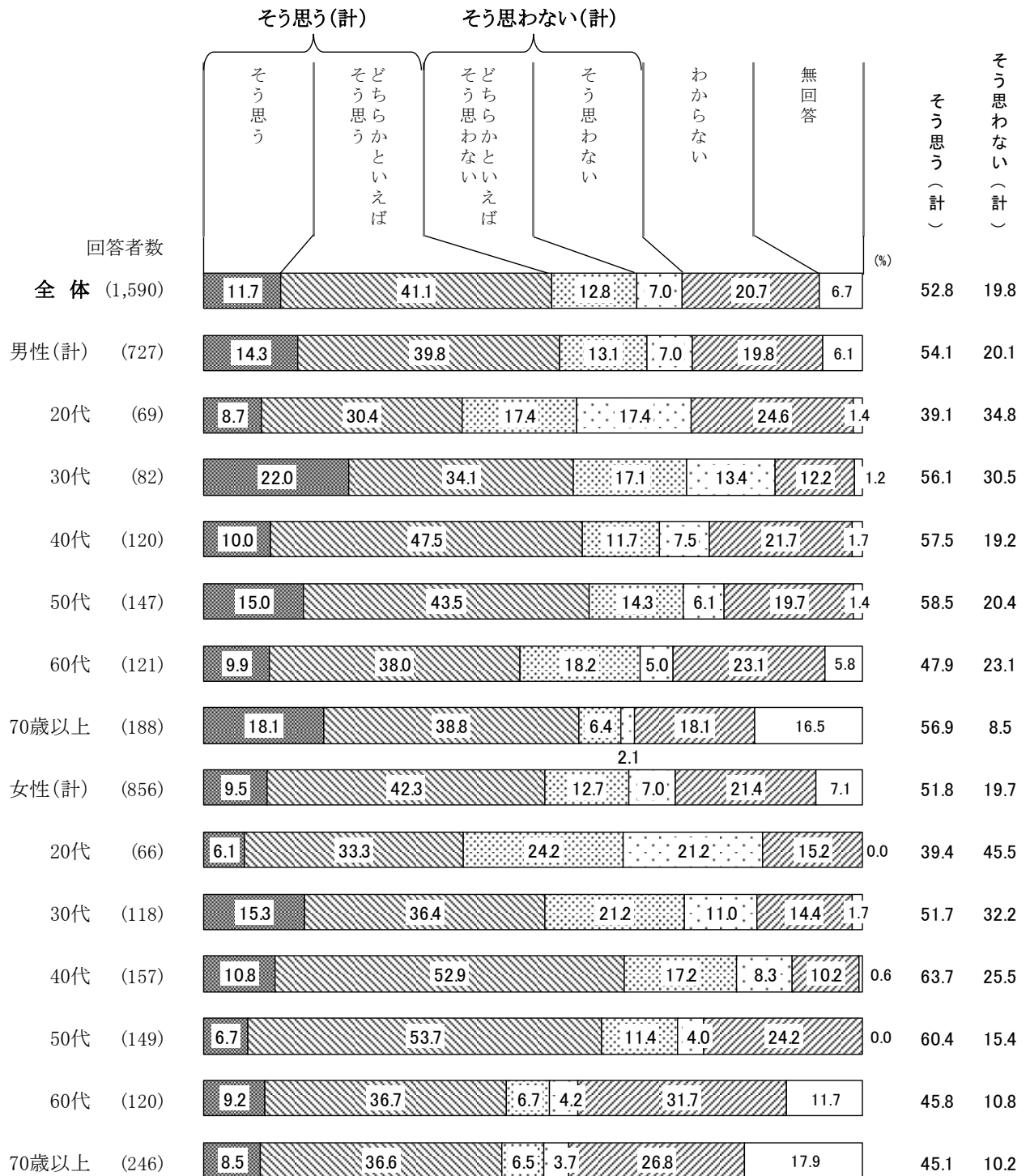


第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉について性別で見ると、【そう思う】は男性54.1%、女性51.8%となっている。

性・年代別で見ると、【そう思う】は、男性では40代と50代でそれぞれ6割弱とやや高く、女性では40代が6割台半ばで最も高く、50代も6割を超えて高くなっている。

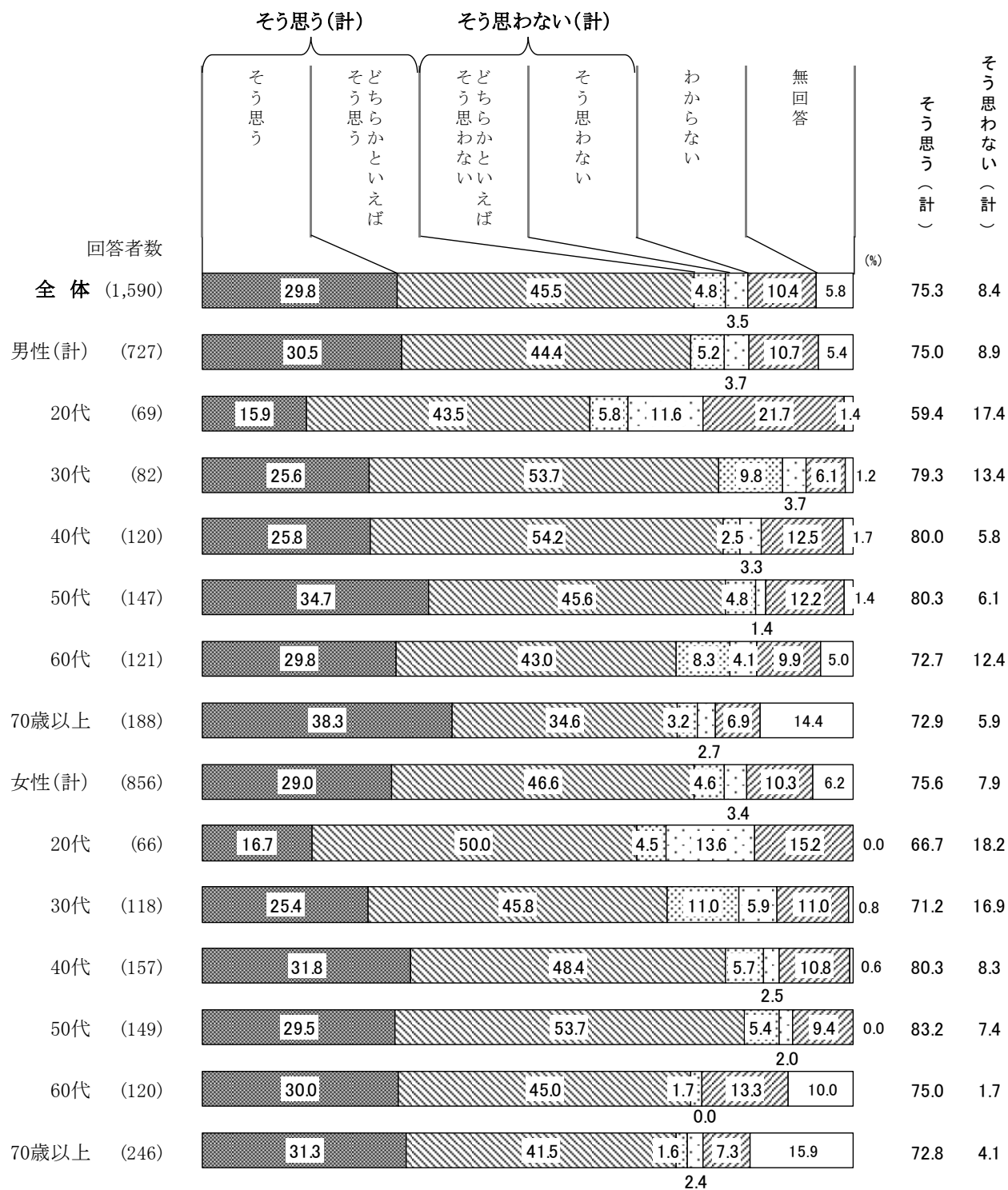
図11-3-3-④ 性別、性・年代別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするために何かしたい



〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉について性別で見ると、【**そう思う**】は男性75.0%、女性75.6%となっている。

性・年代別で見ると、【**そう思う**】は、男性では30代から50代の3年代層でそれぞれ8割前後とやや高く、女性では50代で8割強と最も高く、40代でも8割台とやや高くなっている。

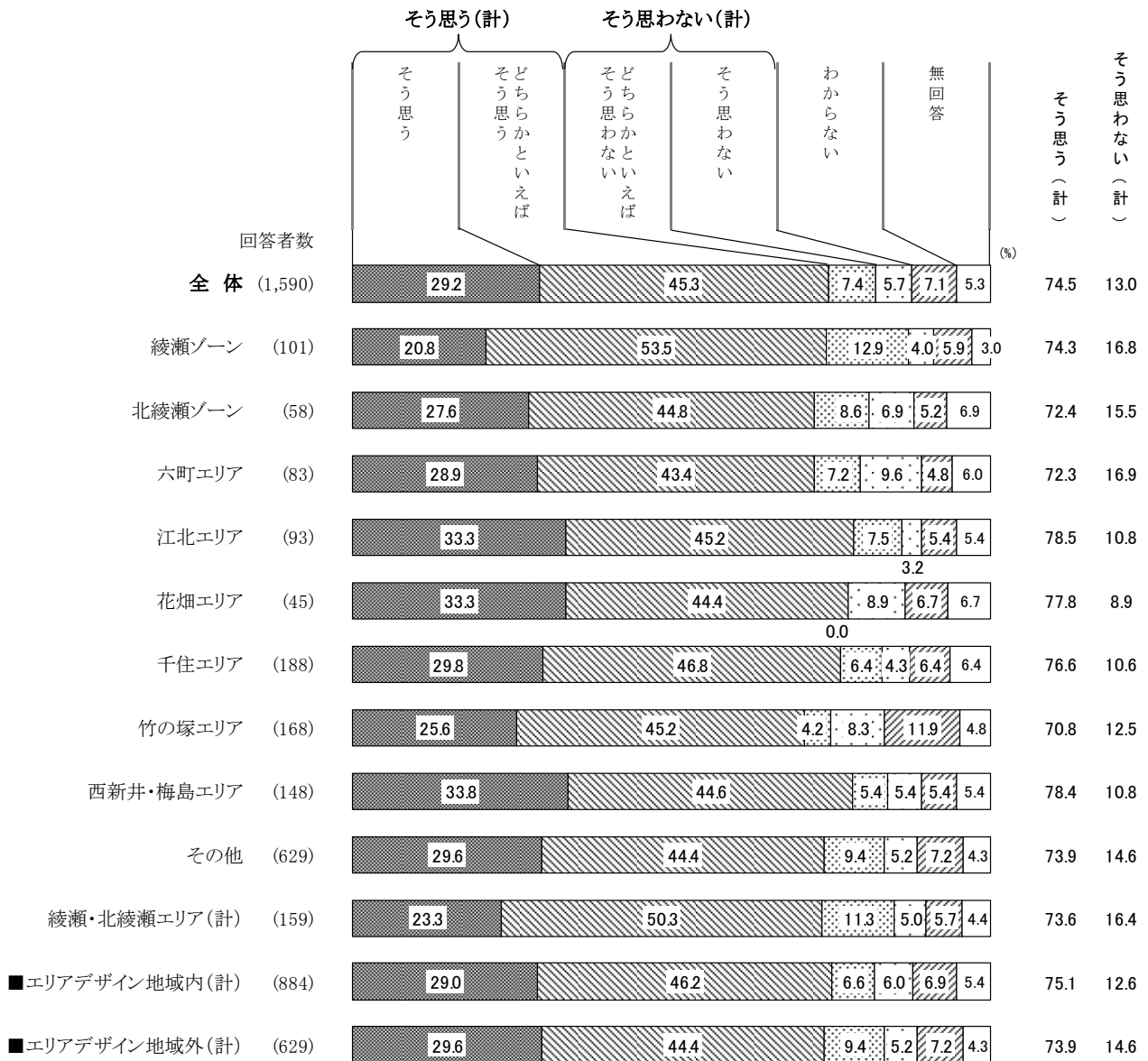
図11-3-3-⑤ 性別、性・年代別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

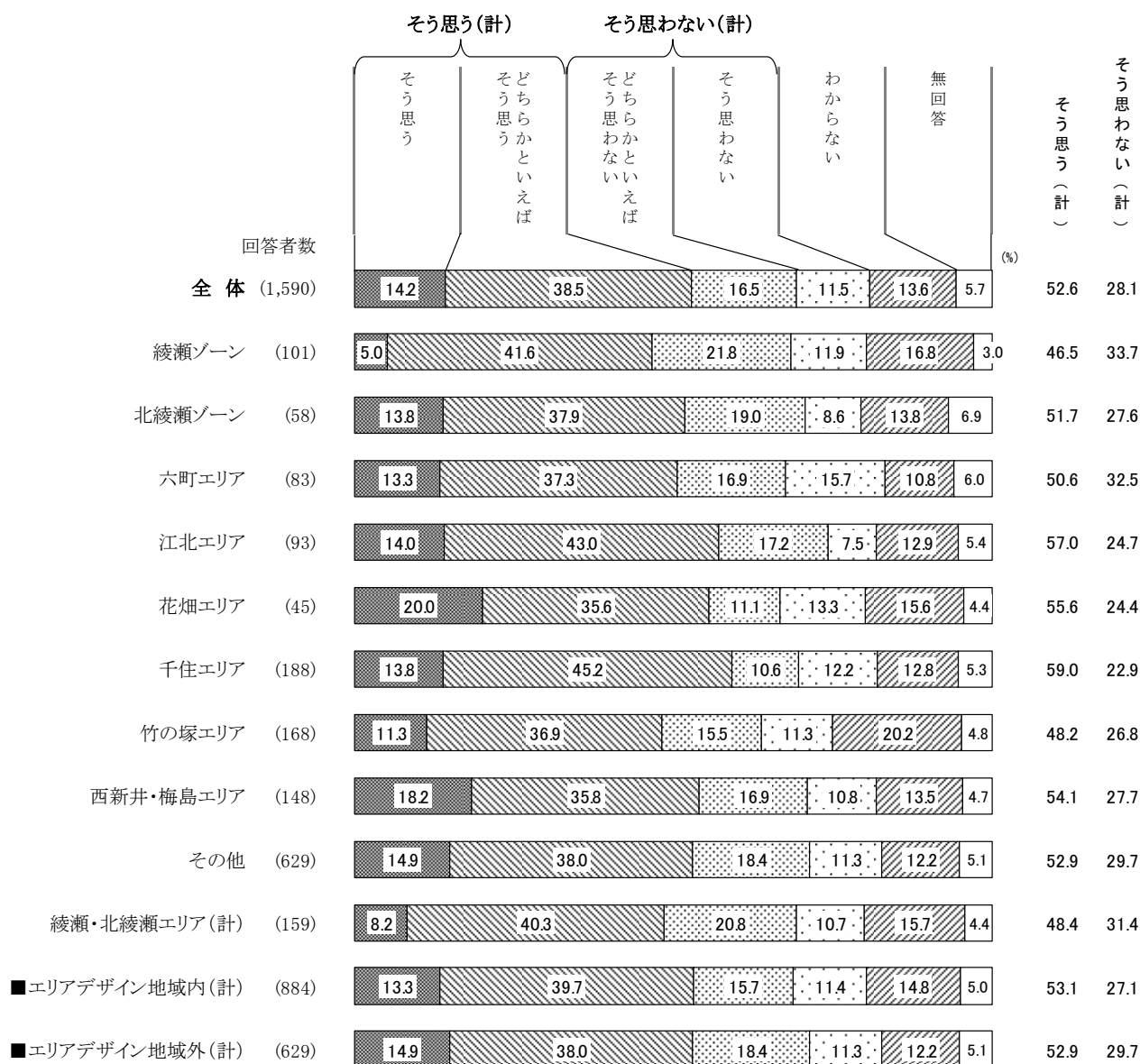
〈足立区に愛着をもっている〉をエリアデザイン別でみると、【そう思う】は、江北エリア、花畑エリア、西新井・梅島エリアがそれぞれ8割弱とやや高くなっている。また、エリアデザインの地域内（75.1%）と地域外（73.9%）にほとんど違いはみられない。

図11-3-4-① エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉をエリアデザイン別で見ると、【そう思う】は、江北エリアと千住エリアがそれぞれ6割弱とやや高くなっている。また、エリアデザインの地域内（53.1%）と地域外（52.9%）にほとんど違いはみられない。一方、【そう思わない】は、綾瀬ゾーンが3割台半ばで最も高い。

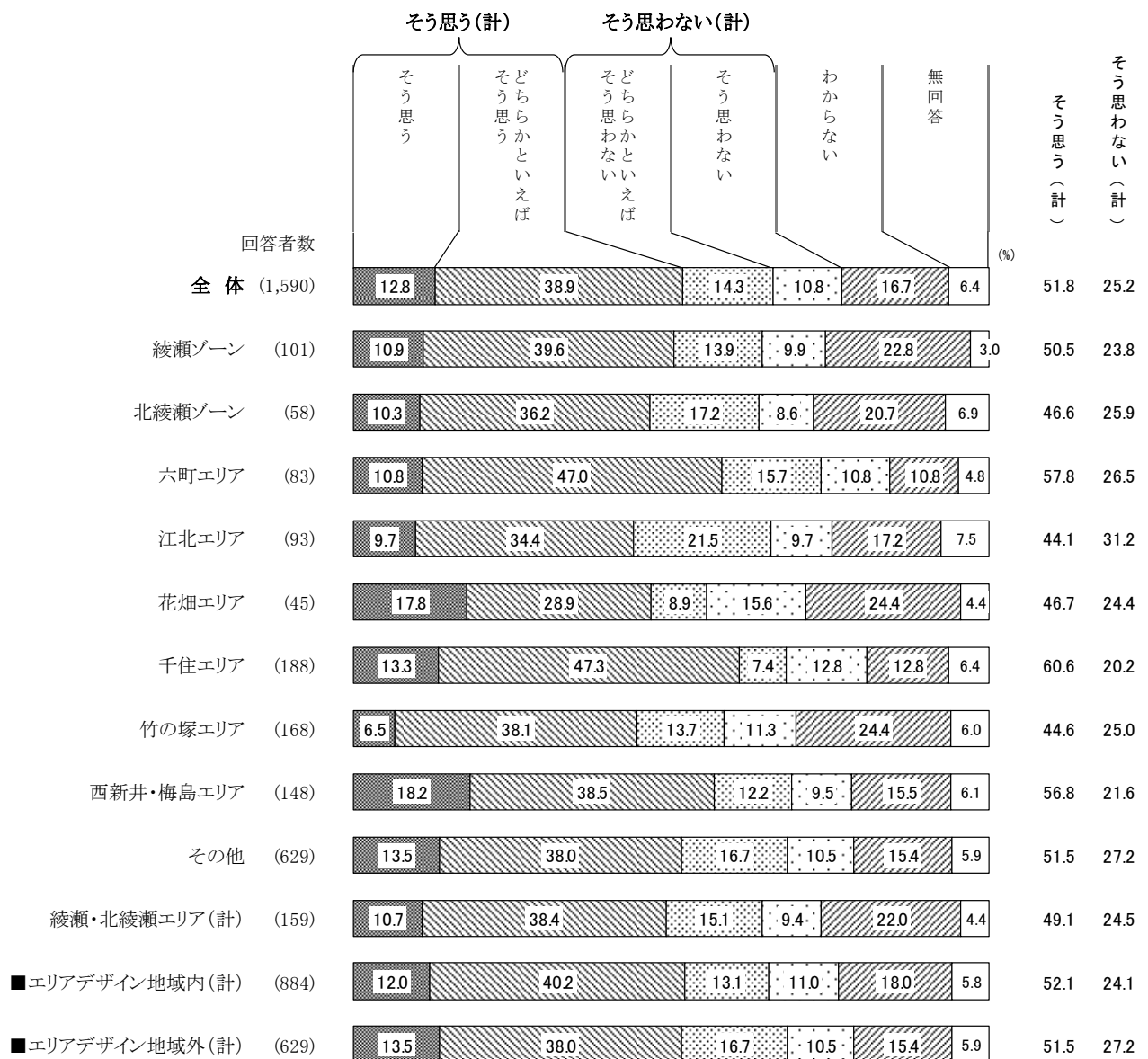
図11-3-4-② エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区に誇りをもっている



第3章 調査結果の分析 〈 区 の 取 り 組 み 〉

〈足立区を人に勧めたい〉をエリアデザイン別でみると、【**そう思う**】は、六町エリア、千住エリア、西新井・梅島エリアがそれぞれ6割前後と高くなっている。また、エリアデザインの地域内(52.1%)と地域外(51.5%)にほとんど違いはみられない。一方、【**そう思わない**】は、江北エリアが3割強で高くなっている。

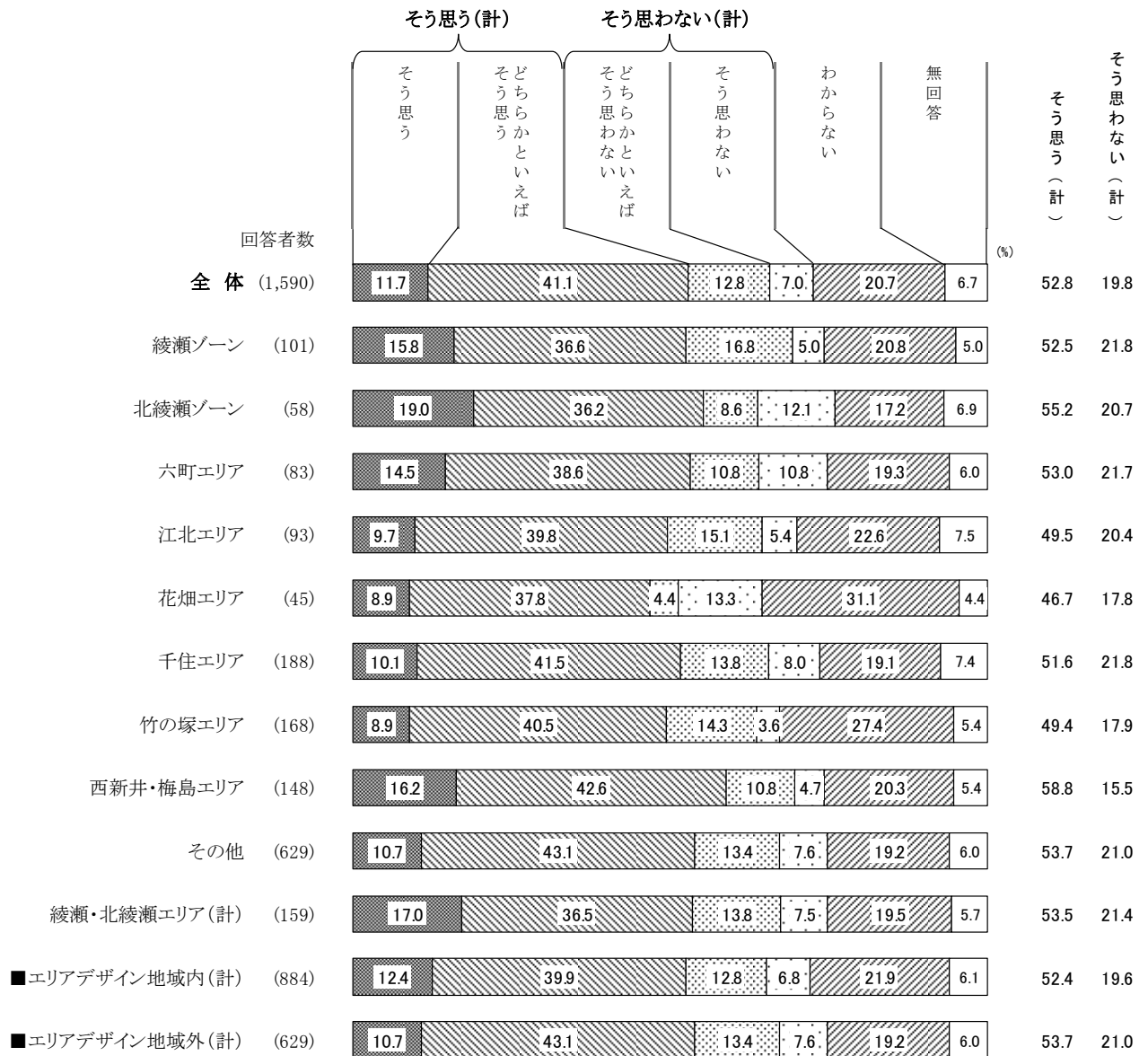
図11-3-4-③ エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区を人に勧めたい





〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉をエリアデザイン別で見ると、【そう思う】は、西新井・梅島エリアが6割弱と高くなっている。また、エリアデザインの地域内（52.4%）と地域外（53.7%）にほとんど違いはみられない。

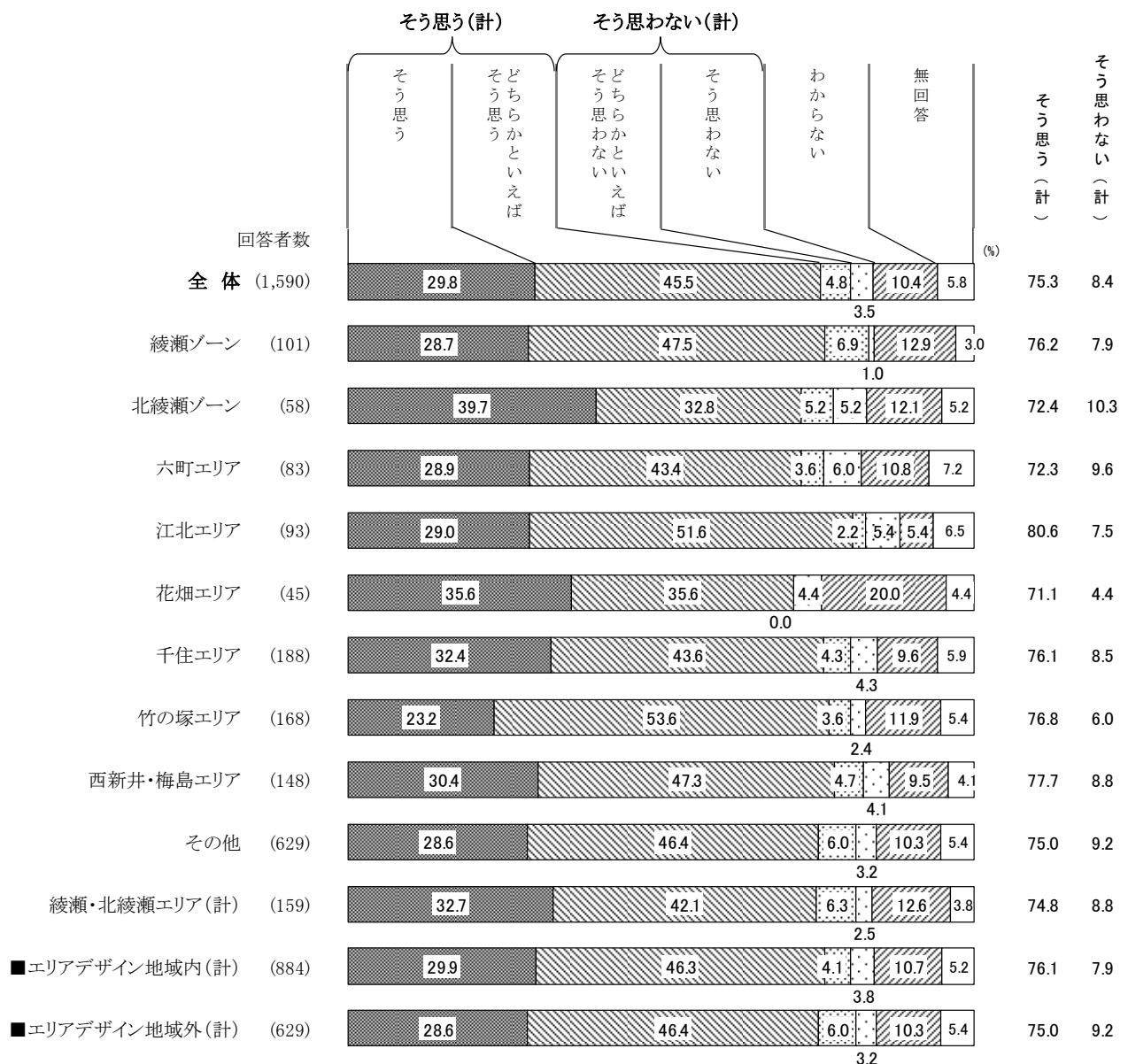
図11-3-4-④ エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするために何かしたい



第3章 調査結果の分析 〈 区 の 取 り 組 み 〉

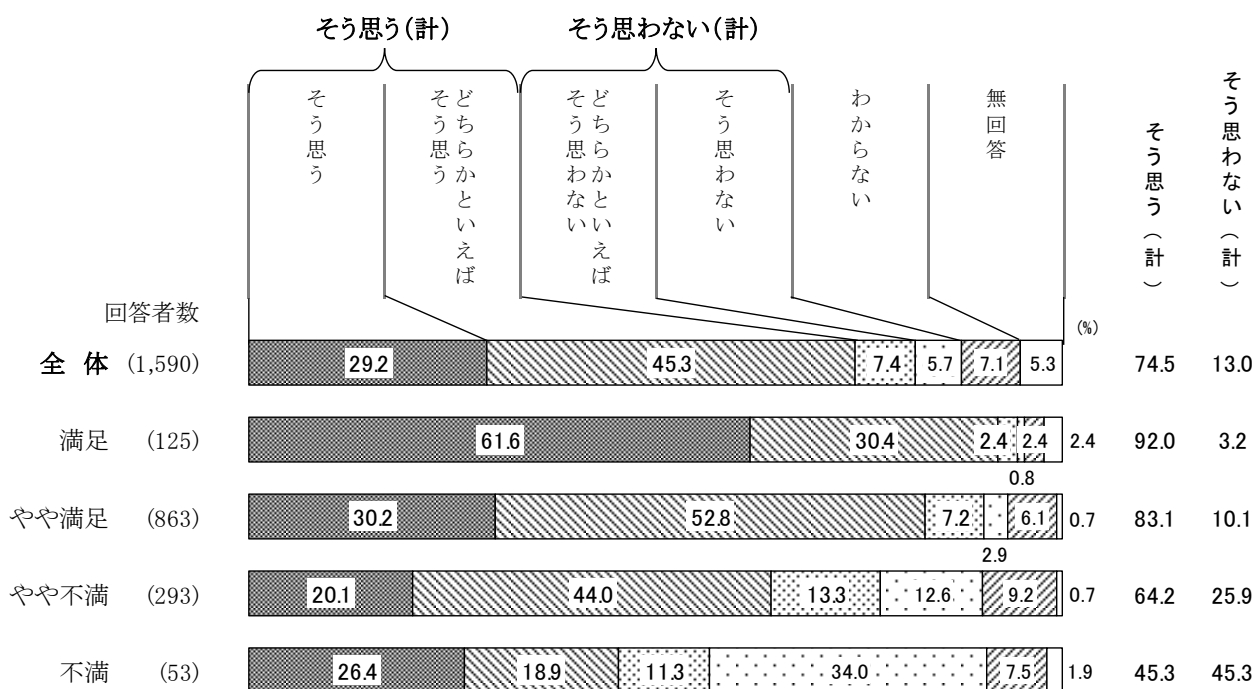
〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉をエリアデザイン別でみると、【**そう思う**】は、江北エリアが8割を超えて最も高く、西新井・梅島エリアが8割弱で続いて、やや高くなっている。また、エリアデザインの地域内(76.1%)と地域外(75.0%)にほとんど違いはみられない。

図11-3-4-⑤ エリアデザイン別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する



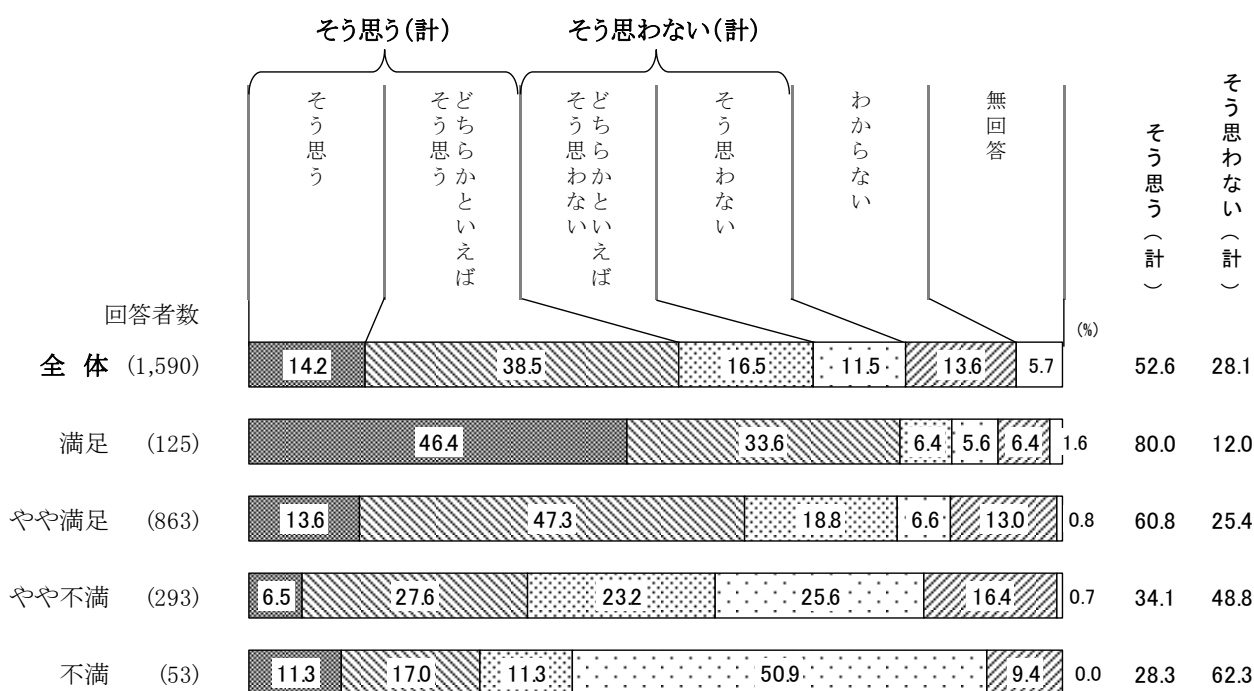
〈足立区に愛着をもっている〉について区政満足度別でみると、満足している層では【そう思う】が92.0%と9割を超えている。

図11-3-5-① 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉について区政満足度別でみると、満足している層では【そう思う】が80.0%と8割に達している。

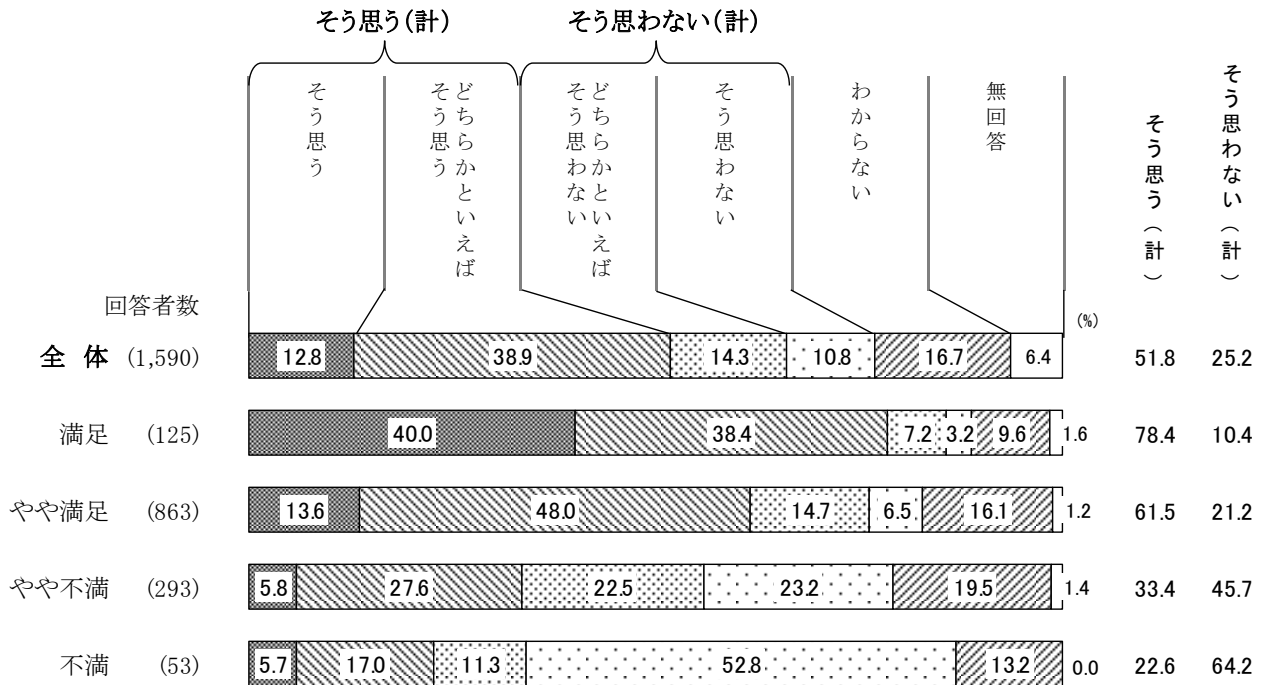
図11-3-5-② 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

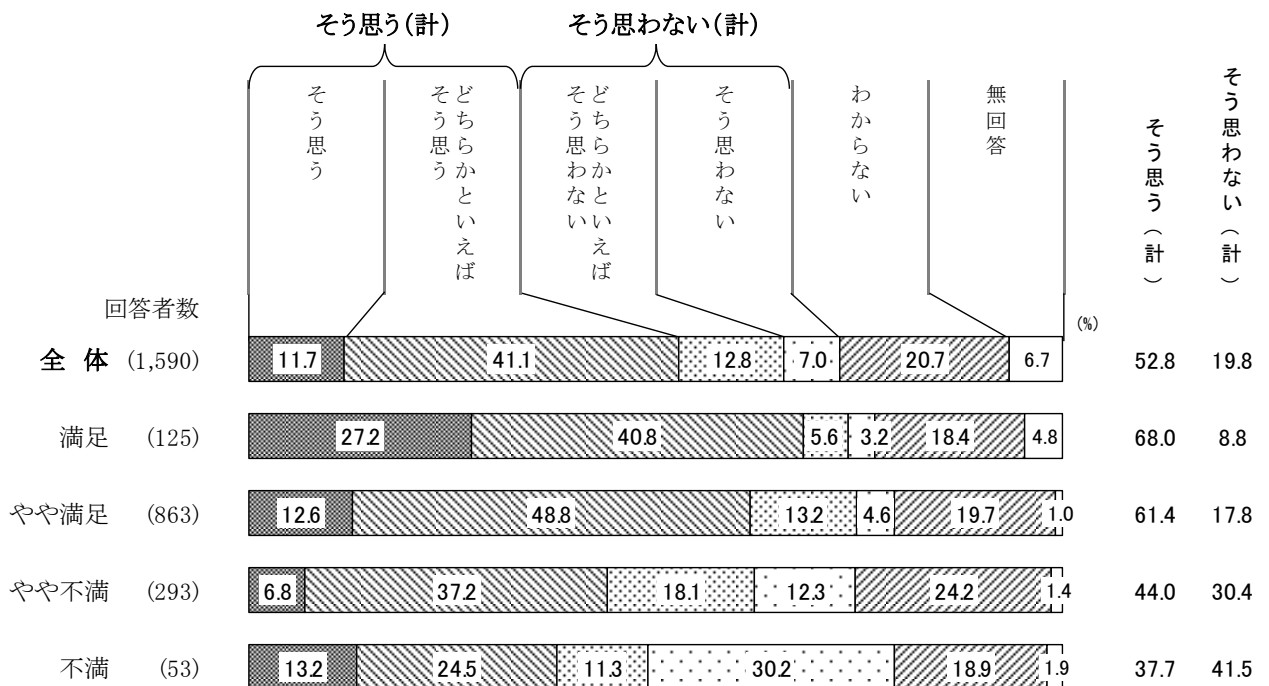
〈足立区を人に勧めたい〉について区政満足度別で見ると、満足している層では【そう思う】が78.4%で8割弱と高くなっている。

図11-3-5-③ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



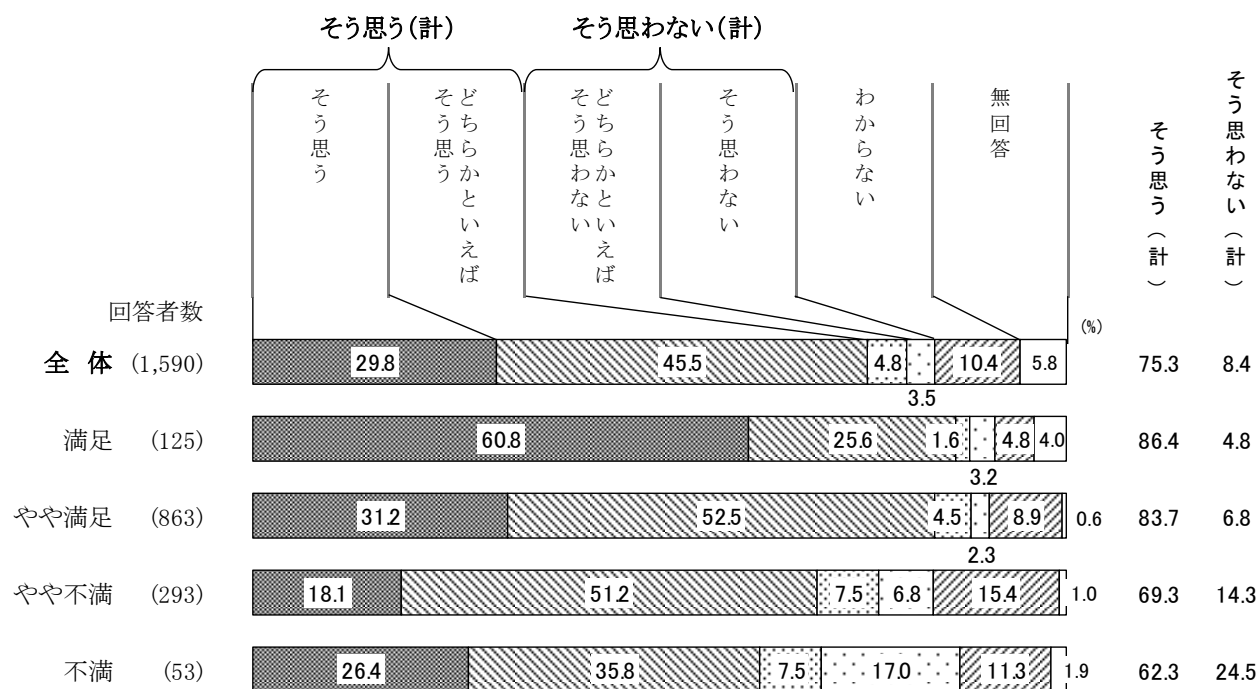
〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉について区政満足度別で見ると、【そう思う】は、満足している層で68.0%、やや満足している層で61.4%と、ともに6割台と高くなっている。

図11-3-5-④ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を良いまちにするために何かしたい



〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉について区政満足度別でみると、【**そう思う**】は、満足している層で86.4%、やや満足している層で83.7%と、ともに8割台半ばと高くなっている。

図11-3-5-⑤ 区政満足度別／区に対する気持ち  
／足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

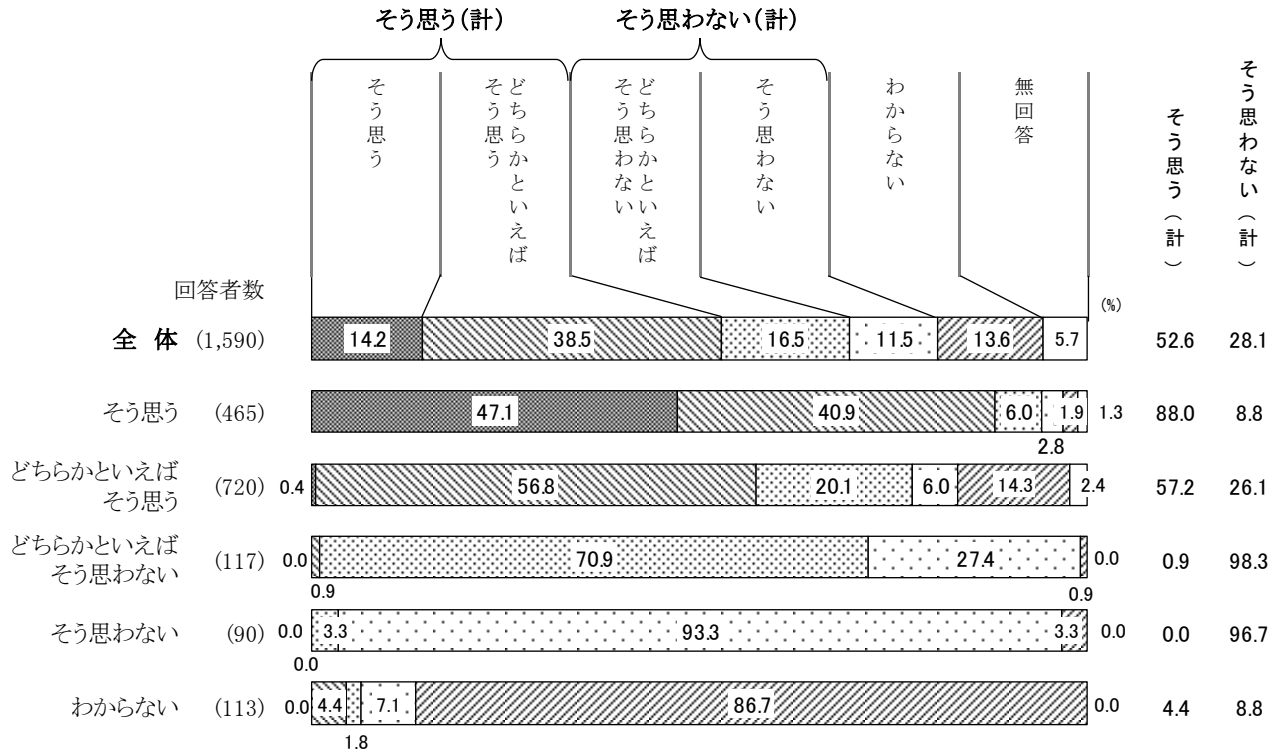


区に対する気持ちの全5項目をそれぞれ区政満足度別にみた結果、全5項目ともに“区政への満足度が高い層ほど、足立区に対する前向きな意識が高まる”という『正の相関関係』があることが窺えたが、満足層と不満層で【**そう思う**】の比率に格差が大きいのは、ともに50ポイント以上の格差がみられる〈足立区を人に勧めたい〉(両層の格差：55.8P)と〈足立区に誇りをもっている〉(両層の格差：51.7P)の2項目となっている。

第3章 調査結果の分析（区の取り組み）

次に、区への愛着度別に区への誇りをみると、愛着が強まるにつれて【**そう思う**】割合は増加し、『区に愛着をもっている』に〈**そう思う**〉と回答した層では88.0%と9割弱に達している。

図11-3-6 区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



(4) 区に愛着や誇りをもてない、区を人に勧めたくないと思う理由（自由回答）

問50の項目のア．イ．ウ．のいずれかで、「3. どちらかといえばそう思わない」、または「4. そう思わない」に○のついた方に

問50-1 足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思うのは、どうしてですか。理由をお書きください。

足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思う回答した人に、そう思う理由を記述していただいたところ、427名から延べ582件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

■ 足立区のイメージ (103件)

- ・ 足立区は治安が良くないイメージがあり、事件などのニュースがあるたびにそれを実感するので、誇りを持つとか、他の人に積極的に勧めるには抵抗がある。
- ・ いまだに足立区のイメージが悪く、足立区出身と分かったとたん、バカにされたりする。
- ・ 住んでみると良いと感じるが、人に勧める時に足立区の自慢できる所、良さが分からない。治安が悪いというイメージが定着している為、人に勧めるのは考えてしまう。
- ・ 千住の住みたい町ランキングのランクインなどで、少しはイメージが良くなってきてはいると思うが、まだ負のイメージが強すぎる。
- ・ 区外の人からは、やはり「犯罪の多い街」のようなイメージがある。
- ・ とても良い区だと思いますが、他の区からのイメージが悪すぎる。
- ・ 23区の中でも、治安が悪い、低所得者が多いというイメージが根強くある。
- ・ 住んでみると住み心地も良く満足しているが、やはりイメージは悪い。
- ・ まだまだ足立区は治安が悪いというイメージが強く、他地区に住んでいる人に言われる事も多く、自信をもって勧める事はできない。

■ 治安・防犯 (95件)

- ・ 住んでいる町がうす暗い。へんな人がうろついている。
- ・ 犯罪が多く、全国的に知られている。Aメールでは子どもに対する不審者情報が多い。
- ・ 治安が悪く、昼の公園でも、お酒に酔って子どもに話しかけることなどがあり、マナーも悪い。
- ・ 区外の方に足立区だと話しをすると、治安の悪さを言われる。
- ・ 治安も前よりは良くなってきたが、自転車盗難や万引きなども他の区に比べまだ多い。
- ・ 自転車、バイク、車のいたずらや盗難が非常に多い。
- ・ 軽犯罪が多く、治安の面で誇りに思えない。
- ・ 昔から変質者が多く、小中学生の被害が目にする。
- ・ 治安が悪く、防犯対策ができていない。

### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

#### ■ 道路・交通（53件）

- ・ 舍人ライナーの朝の混雑、交通が不便、またライナーの運賃が高い。
- ・ 足立区は交通機関に問題があります。駅から遠い所が多く、外出はバス利用が必要なので、出勤者や通学者にはお勧めできません。バスの増便を都バスなどで検討して頂けたらと願っています。
- ・ 混みいった町並み、せまい道が多い、車がないと不便。
- ・ 道が狭く信号待ちの危険地帯がある。
- ・ 区民の足となる交通網の整備が遅れている。
- ・ バスに乗らないと、電車に乗れない。バスの時間は朝（始発）が遅く、夜は終バスが早く終わる。

#### ■ マナー（52件）

- ・ 歩行者、自転車利用者のマナーが悪い。たばこのポイ捨てが減らない。
- ・ 自転車で左側を走らない人やごみ捨てのルールを守れていない人が多い。歩きタバコ、ポイ捨て、公園内での喫煙。タバコのマナーができていない。いずれも高齢者が多い。
- ・ 犬のフンの後始末、タバコのポイ捨て、自転車のルールを守らない。高齢者が横断歩道を使わず道路を横切る。スマートフォンを見ながら歩く。
- ・ 自転車用の青い道路が出来ても駐車していて通れない。マナーを守らない人が多い。
- ・ マナーの悪い人が多い（若い方だけでなく高齢の方も）、歩きタバコ、ポイ捨て、交通マナー、子どもや女性に対する威圧的な対応など。
- ・ 公園での喫煙者が全く減らない。タバコのポイ捨てが多すぎる。
- ・ 外国の人が増えたこともあり、不法投棄やゴミ捨てのルール違反が目立つ。

#### ■ 住民の質や意識面（44件）

- ・ 人柄や言葉使いが悪い方や常識が無い人が多い。
- ・ 区民の中の意識（道德観、公共性、社会性等）レベルが低い。
- ・ 他の地域から来た人との壁がありすぎる。自己中心的な考え方の地域の人が多い。
- ・ 下町風情があるわけでもなし、住んでいる人達の品がない。

#### ■ 環境・衛生・公園（25件）

- ・ 公園が良く整備されていない。排ガスで空気が悪い。
- ・ 緑が少ない。
- ・ 子育てをする世帯にとっては公園があまり内容が良くないのですすめにくい。
- ・ 駅前の外観をどうにかして欲しい。団地が汚らしくてみすぼらしい。
- ・ 公園などを作っても歩道などが破損してもそのまま、歩いていて危なく、転ぶ。作りましたの後は管理なしの状態の公園が多い。
- ・ 都市開発や住環境の整備が、他の区より遅れていると感じる。



■ 学校・教育 (24件)

- ・ 大学進学率が低いなど依然として負の要素が多い。
- ・ 23区の中では低所得、低学力の統計がでている。
- ・ 教育水準が低い。良い中学、高校が区内にない。
- ・ 小学校の学習のすすめ方も最低レベルのことしか授業で習わず、宿題も少なく、授業態度も悪い。学校も教材にお金をかけていない。

■ 所得や収入の低さ (21件)

- ・ 区民平均所得が23区最下位。
- ・ 生活保護の受給率が高い。
- ・ 低所得者、生活保護が多い。

■ 飲食店やお店が少ない (14件)

- ・ スーパーマーケットが少なく、カフェも少ない。
- ・ お酒を飲むお店ばかり増えてお昼に楽しめる場所がない。昔ながらのお店がどんどん減っていく。
- ・ 早く閉店してしまうお店が多く、不便。
- ・ 食品以外は地域外、だいたい区外へ行かなくてはならない。
- ・ 商店街などがなく、スーパー1つだけで買い物がしづらい。近くに飲食店もない。

■ 足立区以外に良い区がある (12件)

- ・ もともと東京都内でも神奈川寄りに住んでいたこともあり、都内なら西側のほうが住みやすく、治安なども良かったような気がする。
- ・ 行政はよく頑張ってくれているので足立区は悪くはないが、他より優れている“持ち味”みたいなものが無い。
- ・ 交通の便や治安が悪く、子育てするにはもっと良い区がある。

■ 区の見どころ・観光・文化・施設 (12件)

- ・ 以前に比べ犯罪率が減少し、街の景観も着実に良くなってきているが、千住地区以外で“足立区に住む、遊びに行く”ことを友人・知人に勧めたいほど、アトラクションとなる所が沢山ない。
- ・ 医療機関が少なすぎる。
- ・ 質の良い病院が少ない。
- ・ 大学もできて良い方向に向ってはいるが、まだ美術館、博物館など文化的なものが少ない。
- ・ 観光施設や商業施設が多いとは思えない。大規模イベントが花火大会しか無い。

### 第3章 調査結果の分析〈区を取り組み〉

#### ■ その他 (127件)

- ・ 肩ひじ張らずに色んな人が安心して住める街だから、「良い意味で誇りを持たない」が良いと思う。
- ・ 年配者には厚遇された町だが、比較的転居が多い若年層には魅力を感じない都市計画だから。
- ・ もうすこし子どもや老人（福祉等）に対して住みやすい区にして欲しい。
- ・ 居住者の事をまず一番に考えた住まいづくり町づくりをしていないと思う。
- ・ 役所の人間は自分の事だけ、もっと働いて欲しい。税金で給料をもらっているのだから。
- ・ 住みやすいし、愛着は持っているが、「誇り」までは持っていない。「誇り」を持てる位、良い街になっていたらいいなと思う。
- ・ 綾瀬駅の雑然としたイメージと活気のなさや、地域の診療所と区内大手病院の連携の悪さも気掛かり。
- ・ 足立区、住みやすいです。外部からのうわさほど、悪くありません。ただ、外へのアピール足らず、もったいないと思います。もっと良いところアピールしていくべきだと思います。
- ・ 地域によって住みやすさに差があるので、自分の住む「町」なら勧めたいが、区全体ではない。
- ・ 北千住以外、努力している場所が見当たらない。五反野はパチンコ店が多すぎる。

## (5) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）

問51 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、488人から延べ653件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見・ご要望を掲載いたします。

■ 区政全般（109件）

- ・ 北千住ばかりを発展させないで他の地区にも力を入れて欲しい。北千住の盛り上がりは荒川に分断されて、隣の小菅地区まで入って来ない。それよりも地理的に足立区の中心地である西新井周辺をもっと発展させ、交通、経済の中心にすべき。
- ・ 現在の区政は、子どもおよび高齢者のバランスが良いと思うので、現在の区政方針を続けて下さい。
- ・ エリアデザイン対象外地区に住んでいるため、税金の使われ方に格差を感じています。解消策を要望致します。
- ・ 足立区には相当の余剰金があると聞いているので、そのお金を生活に困っている人や医療、その他にどんどん使ってもらいたいです。そうしないとやがて区民から不満が出てくると思います。
- ・ 高齢者や住民税非課税世帯ばかり優遇され、ちゃんと働いて納税している現役世代にメリットが少ない。本来は、税金を納めている世帯こそ恩恵を受けるべきではないか。
- ・ 北千住付近に大学を呼び、若い人が増えて活性化したのはすばらしい。
- ・ 大学の誘致、総合病院の誘致は特に評価される。区政に区民の意見（交通網の整備）が反映されていると思う。あと防災対策について市民の関心に温度差があるので、いま一度正確な情報を再発信お願いしたい。
- ・ とにかく「住みたい」と思える人が定着したくなる環境整備に取り組んで欲しいです。
- ・ 外国人が急速に増加しているので、外国人、日本人ともに足立区で快適に仲良く暮らせるような取り組みを希望します。
- ・ 古い体質が悪い意味で残っているので、改革して欲しい。地主、権力者のなあなあで政治をしないで欲しい。

■ 交通機関・道路の整備（59件）

- ・ 高齢者が車を運転しなくてもいいように区のバスの本数を増やす、回る地域を増やすなどをしてもらいたい。
- ・ 子どもが多い区だと思うが、道路の整備が不十分で歩道がない所も多く、危険と感じる。是非今以上の安全対策をお願いします。
- ・ 道路（歩道）に樹木を植えるのは良いのですが道幅が狭すぎて雨などの時、傘などさす時、すれちがう時など、全体に道幅が（歩道）狭いのを何とかならないかと以前からずっと思っています。まずは、人が歩く事を考えて欲しい。
- ・ 綾瀬、北綾瀬の駅周辺開発とメトロ8号線誘致の早期実現をよろしくお願いします。
- ・ コミバスについて（はるかぜ）はとても便利になったが、時刻改訂のたび、本数が減って困る。せめて、1時間に2本ぐらいいは走らせて欲しい。
- ・ 舎人ライナーの席を見直して欲しい。一部の車両は改善されたがBOXシートや1人がけの席は必要ない。JRの席の様に1列の長い物で良い。ラッシュの時間はあの席構成では乗り切れない。

■ 環境対策・公園（48件）

- ・ 親水公園や舎人公園は緑があって素晴らしいです。人が住む環境として安全でキレイで便利な

### 第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

足立区（舎人）の実現と続行を期待致します。

- ・ 魅力ある公園を整備して欲しい。公園の数は多いが、子どもが遊べる遊具がかなりおそまつな状態で危険です。公園の数を増やすとかではなく中身の充実を願っています。
- ・ ビューティフル・ウィンドウズで街がきれいになっている。
- ・ 青空喫煙所はやめて、囲って機械で処理して下さい。臭気すごいです。区民として恥ずかしい。
- ・ 子どもの遊び場が少なく、可哀想です。これからの足立区を背負って行く子どもたちがのびのび過ごせるよう、今ある資源を活用しながら、環境を整えてもらいたいです。

#### ■ 治安対策（38件）

- ・ 夜暗い場所が多い為、街灯等をふやして夜間でも安心な街にしてもらいたい。
- ・ 悪質な客引きが相変わらず多いので、パトロールを強化して欲しい。
- ・ 防災や犯罪について、これからもより対策をして欲しいです。
- ・ 防犯カメラをもっと増やしていただけたら安心なので、ぜひお願いしたいです。
- ・ もう少し夜が明るい街にして欲しい。“明るい”だけで治安も少し良くなると思います。
- ・ 徹底的に治安対策を強化して欲しい。

#### ■ 広報・情報公開（33件）

- ・ サービス向上の裏には、区職員の皆様のご苦勞があると思います。区民も職員の方も幸せに暮らせるよう、バランスを考えて欲しいと感じます。区長さんからのメールは楽しく読めて、区民の視点での情報をいただけるのが良いです（区長のあだちな毎日）。
- ・ 何を頑張っているのか全然分からない。区民が自発的に見に行かなければ分からないような状態ではなく、嫌でも目に付くような仕掛けを考えて頂きたい。
- ・ 防災放送がハウリングして聞きづらい。
- ・ 区の広報、町内の回覧板、地域イベント等で、足立区政が目指す方向性をもっと周知して欲しい。
- ・ 忙しい人でも普通にしていって自然に区の活動などの情報が入ってくるようにして欲しい。自分から調べたり興味を持たないと何をしているかわからない。

#### ■ 都市開発（33件）

- ・ 西新井駅ビルを早く改修し、使い易い環境にして欲しい。
- ・ 足立区を中心部ばかりでは無く、県境にも目を向けて活性化して欲しい。
- ・ 綾瀬駅東口前の広大な更地を早く有効活用して欲しいです。以前のような商業施設を望みます。
- ・ 近所にスーパーが無く自転車で片道20分以上かかるので、買い物がとても大変です。スーパーマーケットを増やしてください。

■ マナー (29件)

- ・ いつも気になるのは若者のマナーについてです。自転車の一時停止や歩きスマホ、自転車スマホ、また歩きタバコ等、意識の改革が必要と感じています。
- ・ 海外の人や高齢者が増えている。しかし、どちらも新しい交通ルールやマナーを教える場所がなく、自分流のやり方で生活しているから、人数の少ない働く世代が生活しづらい。ルールやマナーを守る高齢者や外国人の多い地域にして欲しい。
- ・ 歩きタバコをまだよく見かける事が多く、ちょうど子どもの視線なので見ていて不安になる。もう少し取り締まりや分かり易い禁止事項を掲げて欲しい。交通マナーもたまに悪い人がいるので、パトロール等して欲しい。車だけではなく、自転車の方が悪質な運転をしていて危険だと思う。
- ・ 他区と比べとても自転車のマナーが悪いと感じる。幼児がいるので気を付けてはいるが、自転車の逆走、スマホ操作、夜間の無灯火をよく見かけるので、ヒヤヒヤすることが多い。

■ この調査について (29件)

- ・ ネットで回答できたらよかったです。ボールペンいれてくれてありがとうございました。
- ・ アンケート問48に「わからない」の項目を増やしていただけるとよいと思います。子育てとか学校教育など受けたことのないサービスの情報はあいまいとなるためです。
- ・ 回答するにあたり区政について考えるいい機会になりました。大好きな足立区がより良い街になることを願っています。
- ・ このアンケートを回答したことによって、初めて足立区として力を入れている活動、今後力を入れたいと考えている事業について理解することができました。このアンケート結果を公表することによって、アンケートを答えていない人でも足立区の状況を把握できると思いました。

■ 医療・福祉 (26件)

- ・ 介護保険料、国民健康保険料が高すぎる。
- ・ 弱者の多いところだと思いますので、福祉の充実をさらに進めて頂きたいです。
- ・ 健康診断は他区並みに検診項目をふやし、無料か低額で受けられるようにして欲しい。
- ・ 他の区では東京都の不妊治療助成金以外に区の独自の助成金などの制度があるところが多く、他の区が羨ましいです。足立区でもそのような制度を早急をお願いします。

■ 高齢者支援・介護 (24件)

- ・ 独り暮らしの高齢者も多く、区でも孤立させないように対策がとられているが、地域の居場所がより多くあると良い。高齢者自身が担い手になれるよう人材育成、集まれる場所の呼びかけ、情報提供を区が主体で行うと、より活性化すると思う。
- ・ 介護保険が高すぎる。年金生活者は苦しい現実。
- ・ 区営住宅ならびにケアハウスの様な建物を充実させて欲しい。高齢者の運動やリハビリなどの施設が欲しいのと、その為の補助を充実させて欲しい。

### 第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

#### ■ 職員の対応 (23件)

- ・ 区役所に行っても昔と同じで聞いても返事を待たされます。電話をしても時間がかかります。
- ・ 区職員の接客態度を教育してもらいたい。感じのいい方もいるが、電話の対応も不満に思うとよく耳にする(周囲から)。職員やパート等採用時、採用後は考慮して欲しい。特に若い子育てに悩む人や高齢者はどうしていいかわからないから相談するので、対応を親切にお願いしたいと思う。
- ・ 以前の区役所と違い、職員がとても優しく、丁寧に教えて下さるので、行きやすくなりました。
- ・ 区民サービスの住民票発行など、多い時の対応を見直して欲しい。

#### ■ 子育て支援 (22件)

- ・ 保育園、幼稚園、学校給食、修学旅行積立金、教材、高校授業料(都立)など、0～18歳まで無料(足立区に住民票のある世帯に限る)。子どもは国の宝です。どんな家庭に生まれても食べること、教育を受けることはとても大事なことです。教育は全ての子どもにとって平等であって欲しい。
- ・ 子育て支援の充実をお願いしたいです。まだ子どもはいませんが、もし足立区が他区に比べて“子育てしやすい区”ならここで子どもを育てたいです。
- ・ 子どもはお金をかけないと遊ぶ所へ行けない。管理された場所で老人達の目を窺いながら遊んでいる。土手などで集まり話をしていても、子どもだけでは注意され追い出される様な所が多過ぎる。
- ・ 一時保育がもっと利用しやすいと良いと思います。やっている保育園が少ない。補助金が欲しい。
- ・ 足立区の教育水準を上げて欲しいです。また、教育機関の充実を含めて、子育てしやすい区として欲しいです。

#### ■ 生活保護・低所得 (22件)

- ・ 生活保護の方で裕福な暮らしをされている人がいるようなので、きちんと調べて欲しい。私達足立区民の税金で暮らしているのだから。
- ・ 年金生活をしている人に団地を提供して欲しい。年金所得が低いので家賃が大変です。
- ・ 足立区は生活保護受給者が多いと聞いています。なぜ多いのかをもっと分析し、区民バランスを整えて欲しいです。
- ・ 税金のつかい方。足立区は貧乏区とずっと言われていたが、何と1600億円もためこんだ金があると知り、驚いている。その金を区民の生活につかって欲しい。
- ・ 自営業者でも生活が苦しいことがあるので、個人事業主へ何か生活への支援等があるとありがたい。

■ 学校教育（20件）

- ・ 教育のレベルが低い（芸術・スポーツ含む）。ここをもっと引き上げていかないと、若い世代の流入は伸びないと思う。
- ・ 教育レベルをあげ、教師の質を見極めることをして欲しい。親への教育への関心を深めることを取り組んで欲しい。子どもは社会の宝、健常児、障がい児ともに教育の場の充実を掘り下げて現状を見て、改善に努めて欲しい。
- ・ 中、小学校の教員に対する物理的、心理的支援を、足立区が先頭に立って行って欲しい。
- ・ 物価や家賃の安さから多くの子育て世帯が入ってきていると思うので、もっと「子育て・教育」に力を入れたら、足立の魅力が高まると思います。
- ・ 大学等の誘致は良いのですが、小、中学校の能力が低すぎる様なので、高校入試等の偏差値を上げる努力が必要。
- ・ アンケートF9のその他のゾーン・エリアに対して、他のエリアよりも学校や公共施設に目をむけてくれないように思う。

■ 議員・職員（19件）

- ・ 区民の意見や思いは人を通じ（議員さん等）ないと動かない。もっと簡単に動いて欲しい。
- ・ 役所や区長さん、議員さん、足立区の役人さんは本当に足立区のことをよくしたいとがんばっていると思えます。
- ・ 区政に携わるすべての職員に、もっと親身に仕事をして欲しい。与えられた職責を気持ちを入れて遂行して欲しいと思っている。
- ・ 区政について区議会報告などを見る限り、まさにルーティンワークそのもので、議会の中身に知恵も工夫も意欲も感じられないという印象を受ける。
- ・ 選挙も必ず参加し投票へ行きますが、報告を見て何をしたくて区議をしているのかがよく分からない人が多いです。

■ 防災対策（15件）

- ・ ガラケーユーザーなど時代に遅れた人にも情報が（災害時などに）得られるようにして頂きたい。
- ・ 避難場所があったとしても、遠い場合、近くの会社のビルやマンション（高い）などに解放許可などをあらかじめ得ておいてもらいたい。
- ・ 大型再開発よりも木造密集地域の防災性向上や、内水氾濫対策に力を入れて欲しい。
- ・ 狭い道路が多く、災害時に重大な被害が発生すると予想される。細い道路を広くする等、早急に整備する必要がある。
- ・ 川口市と葛飾区では電柱に荒川が氾濫した時の為に何メートルまで水が来ますと表示してあります。足立区にはそれすらない。

■ 税金（13件）

- ・ 格差、貧困の解消の為、高所得の家から高い税を取って欲しい。
- ・ 足立区はため込み金がたくさんあるのにそのお金を有効に使っていない。トポス跡地に住宅を建てるのに、40億も区民の税金を使うのはおかしい。
- ・ アンケートF9で、エリアデザインというのを初めて知りましたが、うちはエリア外で、恩恵

### 第3章 調査結果の分析〈区取り組み〉

は受けておりません。その分の住民税を返して欲しい。

- ・ 税金はどこへ？働けば働く程、税金が高く、苦しい生活に。きれい事ばかりじゃなく、もっと一般人の事を考えて欲しい。

#### ■ 資源環境・ゴミ対策 (11件)

- ・ 資源ゴミの持ち去りがずっと続いています（車と自転車での持ち去り）。子どもたちの通学時間帯はとくに危険だし、車の出し入れの際は迷惑をしているので、これはもっと厳しく罰して欲しい。
- ・ ビューティフル・ウィンドウズで街がきれいになっている。ゴミは戸別回収の方が良い（当番がづらい、運ぶのがづらい）。
- ・ ゴミの出し方が道路や歩道に大きくはみ出して、自転車などで急ぐ人が多くて危ない。
- ・ 近隣のゴミ捨て場にカラスが集まるようになり、ひどいので対策をして欲しい。ゴミ出しのネットだけでは不十分。

#### ■ その他 (80件)

- ・ 長年住んでいて、最近の区政のさまざまな面が良くなり、行政に携わっている方々に感謝している。
- ・ 東京都で一番の住みやすい町にして、人に勧めたい。
- ・ 「足立の花火」のような催し物がもっとたくさんあればいいかなと思う。
- ・ 毎年花火大会の際に、交通の面や会場最寄りの混雑、汚れに迷惑を感じているので、この予算をより良いものに使えないのか、区民のどれほどが必要としているのかという事をつくづく思う。
- ・ 足立区を住みよくするための区の努力に感謝している。犯罪件数減はその成果だと思う。
- ・ 区政に限らず、住民が意見を言う場が無い。
- ・ バリアフリーをもっと使う立場の人の事を考えて作って欲しい。エレベーターの場所は遠くとても大変。



(6) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

■ 本調査を有効な内容だと思う人は6割強

問52 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。  
 今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか  
 (〇は1つだけ)。

図11-6-1 経年比較／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



本調査の質問内容が、区民ニーズや意識を把握するうえで有効かを聞いたところ、「そう思う」が28.1%で、これに「どちらかといえばそう思う」(34.1%)を合わせた【そう思う】は62.1%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」は9.1%、「そう思わない」は3.8%で両者を合わせた【そう思わない】は12.8%となっている。

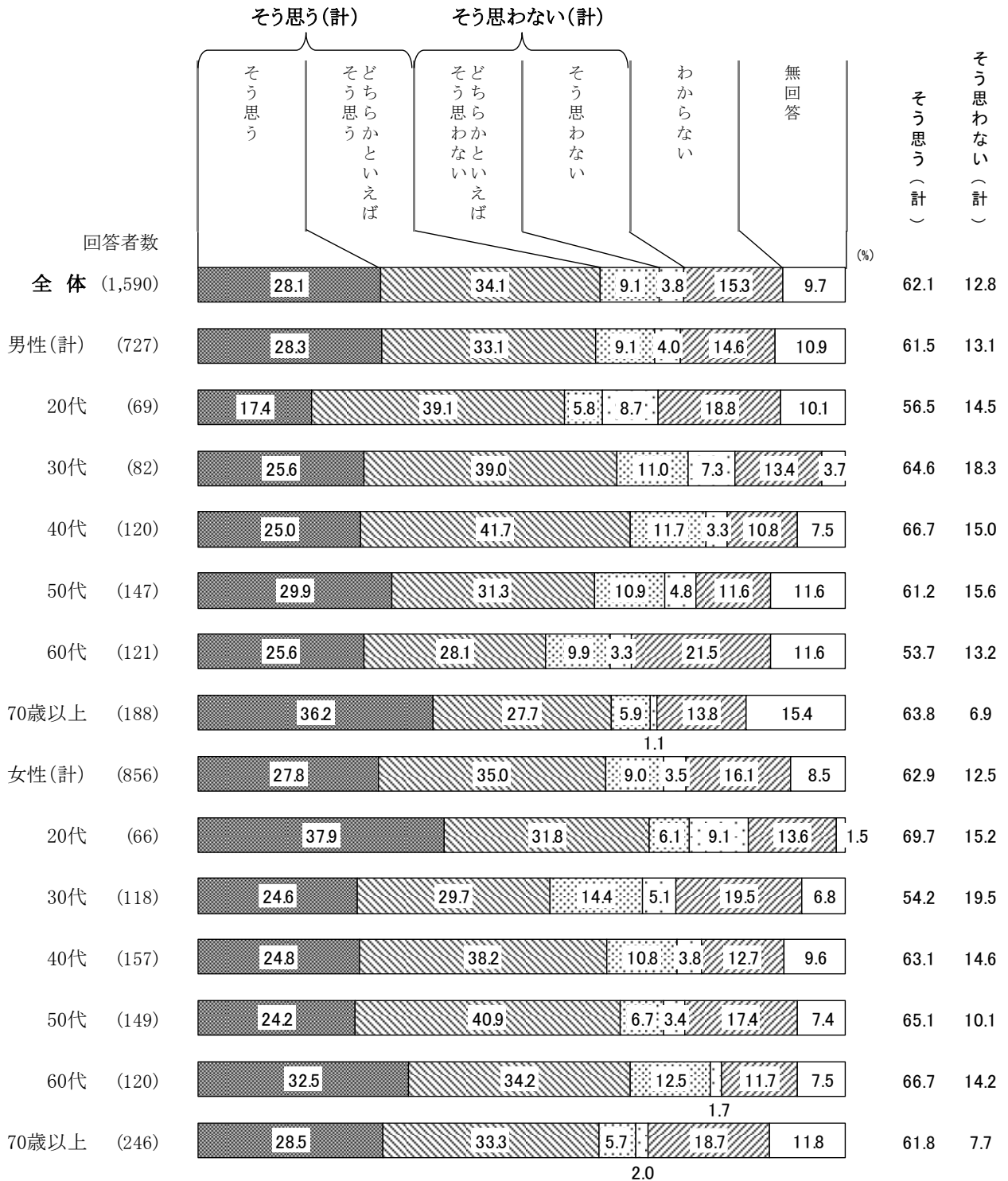
経年でみると、【そう思う】は前回より1.3ポイント増、【そう思わない】前回より0.6ポイント減と、平成30年から大きな変化はみられないものの、平成25年からみると【そう思う】は67.7%から今回62.1%へとやや漸減傾向がみられる。

第3章 調査結果の分析〈区の取り組み〉

性別でみると、【そう思う】は男性61.5%、女性62.9%で大きな性差はみられない。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性では30代、40代、70歳以上の3年代層で6割台半ばとやや高く、女性では20代がほぼ7割で最も高く、60代も7割弱とやや高くなっている。

図11-6-2 性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



## 第4章 使用した調査票



## 令和元年度（第48回）足立区政に関する世論調査

### ご回答にあたって

1. 調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
3. お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。
4. 質問によっては、回答していただく方や○をつける数を指定しておりますので、（ ）内のことわり書きをよくお読みください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容をご記入ください。
6. この調査票は、無記名式となっています。調査票と返信用封筒には、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありませんので、記入なさらないようお願いします。
7. このページの右上の「地域No.」は、区内を15の地域に分けて分析する際の区別のために用いるもので、これによってお名前やご住所が判明するということはありません。
8. お聞かせいただいたご意見は、すべて個人が特定できないよう統計的に処理します。お名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

### ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、**8月26日（月）**までにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

なお、調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、下記までご連絡ください。



[調査主体] 足立区 政策経営部 広報室 区政情報課  
区政情報係

足立区中央本町1-17-1

[お問合せ先] お問い合わせコール あだち

03-3880-0039

(受付時間：午前8時～午後8時／1月1日から3日を除く毎日)

[調査受託機関] 株式会社 マーケティング・サービス

※ 調査票内の集計母数について

特にサンプル数表記のない設問は、全数ベース（回答者数1,590）で集計しており、母数の記載を割愛した。一部の該当設問については、設問ごとに回答者数を表記した。

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1. 男性	45.7%	2. 女性	53.8	3. その他	0.1	無回答	0.4
-------	-------	-------	------	--------	-----	-----	-----

F 2 あなたは、何歳ですか（○は1つだけ）。

1. 20～24歳	4.2%	5. 40～44歳	7.2	9. 60～64歳	6.4
2. 25～29歳	4.3	6. 45～49歳	10.3	10. 65～69歳	8.7
3. 30～34歳	5.6	7. 50～54歳	9.1	11. 70～79歳	18.9
4. 35～39歳	7.0	8. 55～59歳	9.5	12. 80歳以上	8.4
				無回答	0.4

F 3 あなたは、足立区に住んで何年になりますか（○は1つだけ）。

1. 1年未満	2.4%	3. 3～5年未満	5.5	5. 10～20年未満	13.5
2. 1～3年未満	5.2	4. 5～10年未満	6.9	6. 20年以上	65.8
				無回答	0.7

F 4 あなたのお住まい（住居）は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1. 一戸建て持家	43.8%	6. 社宅・公務員住宅・寮	0.9
2. 一戸建て借家	2.1	7. 間借り・住み込み	0.3
3. 分譲マンション	20.6	8. その他	0.6
4. 賃貸マンション・アパート	19.7	無回答	0.8
5. 都市再生機構（旧公団）・公社 ・都営住宅・区営住宅	11.0		

F 5 あなたの職業は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

1. 自営業・事業主	9.4%	5. 主に家事に従事（専業主婦など）	11.4
2. 自由業（開業医、弁護士、芸術家など）	0.9	6. 学生	1.5
3. 会社員・公務員	35.3	7. 無職（年金生活を含む）	24.9
4. パート・アルバイト	15.3	8. その他	0.4
		無回答	0.8

(F5で「1」～「4」、または「6」か「8」とお答えの方に)

F6 あなたの就労場所（就学場所）は、次のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

回答者数 1,000

1. 自宅	8.2%	4. 23区以外の東京	2.9
2. 足立区内	28.3	5. 茨城、神奈川、埼玉、千葉	8.1
3. 足立区外の東京22区	48.4	6. その他	2.0
		無回答	2.1

F7 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか（○はあてはまるものすべて）。

1. ひとり暮らし	16.3%	4. 祖父・祖母	1.0	7. 兄弟・姉妹	7.2
2. 配偶者	59.6	5. 子ども	41.3	8. その他	2.6
3. 父・母	18.0	6. 孫	3.4	無回答	0.7

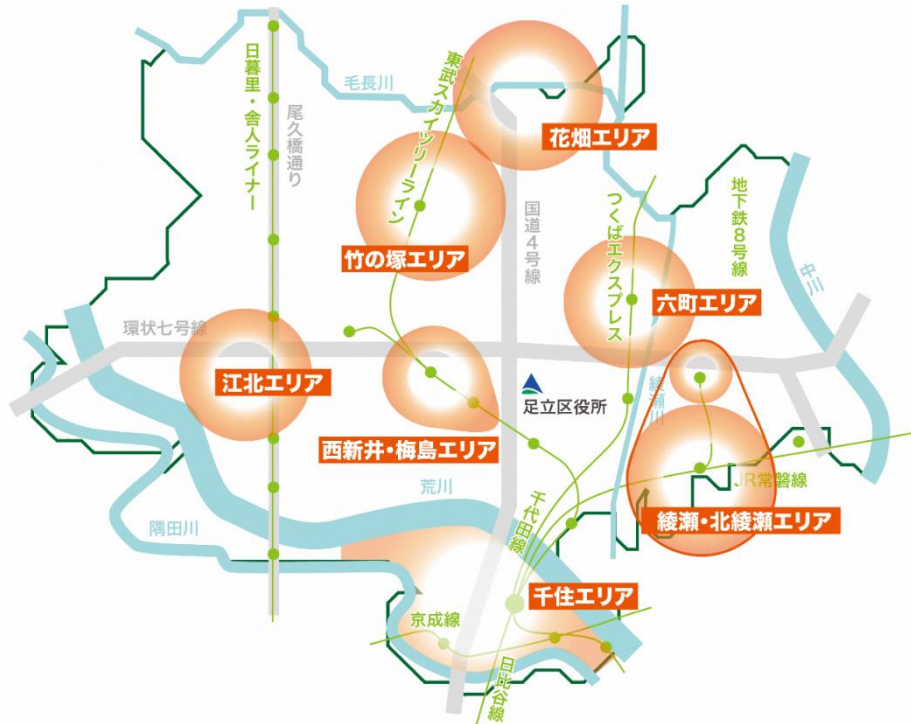
F8 あなたご自身は、次の1から12のどれにあたりますか（○は1つだけ）。

※「子ども」は同居・別居を問いません。

◎ 独身で子どもがいない	.....	1	24.3%
◎ 離別・死別などにより配偶者はいないが子どもがいる			
┌ 一番上の子どもが小学校入学前	.....	2	0.3
├ 一番上の子どもが小学生	.....	3	0.3
├ 一番上の子どもが中学生	.....	4	0.3
├ 一番上の子どもが高校・大学生	.....	5	0.8
└ 一番上の子どもが学校卒業	.....	6	12.8
◎ 配偶者がいて子どもがいない	.....	7	10.7
◎ 配偶者がいて子どもがいる			
┌ 一番上の子どもが小学校入学前	.....	8	5.7
├ 一番上の子どもが小学生	.....	9	5.1
├ 一番上の子どもが中学生	.....	10	1.9
├ 一番上の子どもが高校・大学生	.....	11	6.0
└ 一番上の子どもが学校卒業	.....	12	30.8
無回答			1.1

F9 足立区では、「綾瀬・北綾瀬」「六町」「江北」「花畑」「千住」「西新井・梅島」「竹の塚」の7つのエリアにおいて、まちづくりを進めるため、まちの特徴・魅力や求めるべき将来像などをデザインしています。あなたのお住まいは、下段枠内の1～9の選択肢のうち、どの範囲（エリアデザイン全域図参考）に入っていますか（○は1つだけ）。

※お住いの町丁が1～8のゾーン・エリア以外の場合は「9. その他」を選んでください。



1. 綾瀬ゾーン	（綾瀬1～7、東和1・3、東綾瀬1～3）	6.4%
2. 北綾瀬ゾーン	（加平1～3、谷中1～4、大谷田4、東和5）	3.6
3. 六町エリア	（西加平1～2、一ツ家2～4、六町1～4、保塚町、南花畑1～3、加平町、神明南1）	5.2
4. 江北エリア	（江北1～7、椿1～2、堀之内1～2、西新井7、西新井本町2、扇3）	5.8
5. 花畑エリア	（花畑1～7、保木間4～5）	2.8
6. 千住エリア	（千住関屋町、千住曙町、千住東1～2、千住旭町、柳原1～2、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町1～3、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木1～2、千住1～5、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町）	11.8
7. 竹の塚エリア	（竹の塚1～7、西竹の塚1～2、六月1～3、栗原2・4、西保木間1～4、伊興1～5、伊興本町1～2、東伊興1～4）	10.6
8. 西新井・梅島エリア	（梅島1～3、梅田5～8、西新井栄1～2、関原3、島根3、栗原1・3）	9.3
9. その他	（上記の1～8のゾーン・エリアに含まれない町丁）	39.6
無回答		4.8



お住まいの地域について、おうかがいします

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い	無回答
ア. 通勤や通学などの交通の便が良い	34.3%	35.7	11.4	12.8	2.1	3.8
イ. 子育て環境（保育所、学童クラブなど） が整っている	14.7	37.2	11.0	5.2	26.7	5.2
ウ. 地域の施設は、高齢者や障がいのある 方なども利用しやすいよう配慮されている	8.0	32.4	18.3	9.4	26.9	5.0
エ. よく行く、または行きたい公園がある	18.4	27.7	16.9	18.7	13.7	4.7
オ. 普段の買い物が便利である	40.4	34.7	11.5	9.7	0.9	2.8
カ. 自転車利用者の交通ルール、 走行マナーが良いと感じる	5.5	18.1	28.2	41.1	4.0	3.1
キ. 快適で安全なまちである	9.3	44.1	23.3	16.0	3.9	3.3
ク. 景観・街並みが良好である	7.5	37.2	28.6	18.3	4.5	4.0
ケ. 地域の人々が、日常生活で高齢者や障が いのある方などに配慮している	5.5	28.9	26.0	13.1	23.3	3.3
コ. 男女が対等な立場で意思表示や活動がで き、また責任も分かちあっている	3.5	25.4	20.6	10.3	36.4	3.8

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以  
前

と比べてどのように感じていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

	減少 ←		→ 増加		わからない	無回答	
	明らかに 減っている	どちらか といえば 減っている	以前と変わ らない	どちらか といえば 増えている			明らかに 増えている
ア. ごみやタバコのポイ捨て	13.4%	39.4	31.0	4.2	3.2	6.1	2.7
イ. ペットのふん	13.5	34.6	30.1	7.4	3.4	8.4	2.6
ウ. まちなかの花や緑	2.7	8.7	50.1	23.3	4.5	8.0	2.7
エ. 防犯パトロール	2.1	8.4	48.7	18.0	3.8	16.7	2.4

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（〇は1つだけ）。

1. 暮らしやすい	27.2%	3. どちらかといえば暮らしにくい	14.4
2. どちらかといえば暮らしやすい	54.7	4. 暮らしにくい	1.9
		無回答	1.8

（問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に）  
問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか（〇は3つまで）。 回答者数 260

1. 自然が少ないこと	13.5%
2. 公共施設や介護・医療施設が不十分なこと	21.5
3. 交通の便が悪いこと	45.8
4. 買い物がしにくいこと	32.7
5. 子育て環境が悪いこと	7.3
6. 教育環境が整っていないこと	4.2
7. 住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと	38.8
8. 職場や学校から遠いこと	8.1
9. 災害対策が不十分なこと	9.2
10. 治安が良くないこと	21.5
11. 家の広さなどの居住環境が悪いこと	13.1
12. 地域の間人関係が希薄なこと	12.7
13. 行政のサービスが良くないこと	13.8
14. その他	8.1
無回答	1.5

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（〇は1つだけ）。

1. ずっと住み続けたい	35.8%	3. 区外に転出したい	7.2
2. 当分は住み続けたい	43.0	4. わからない	12.7
		無回答	1.3

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいします

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

1. 災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している	20.3%
2. 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	46.0
3. 特に用意していない ⇒次ページの間6へお進みください	31.9
無回答	1.8

（問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に）

問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

（○はあてはまるものすべて）。 回答者数 1,055

1. 水	88.1%	10. 消火器	25.9
2. 食料（缶詰、アルファーム、インスタント食品など）	80.1	11. ペット対策用品（ケージ、エサなど）	10.3
3. あかり（ろうそく、懐中電灯など）	76.8	12. 水の確保用品（ポリタンク、水袋など）	26.5
4. 情報収集手段（携帯ラジオなど）	47.0	13. 救助用工具（バール、ハンマーなど）	9.0
5. 医薬品（常備薬を含む）	41.6	14. ヘルメット	16.0
6. 衣類	24.2	15. 救急セット	23.2
7. 生理用品	16.8	16. 避難ロープ	6.3
8. 簡易トイレ	26.8	17. 防災袋（非常用持出袋）	32.6
9. 電池・予備バッテリー	51.0	18. その他	2.3
		無回答	0.6

（問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に）

問5-1-1 あなたのご家庭では、「水」と「食料」の備蓄の量はどれくらいありますか。「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（○はそれぞれ1つずつ）。

ア. 水 回答者数 929 / イ. 食料 回答者数 845

	1週間分以上	3日分以上 1週間分未満	1日分以上 3日分未満	1日分程度	1日分未満	無回答
ア. 水	12.1%	32.5	43.2	9.9	1.3	1.1
イ. 食料	7.8	28.9	49.1	11.8	1.5	0.8

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

《 問7へお進みください 》

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか（○は1つだけ）。

回答者数 507

1. 町会・自治会からもらう	7.5%	5. 通常どおりスーパーなどで購入する	21.1
2. 知人、親戚からもらう	2.2	6. その他	5.1
3. 区役所からもらう	2.4	7. 考えていない	39.6
4. 避難所でもらう	21.5	無回答	0.6

ここから再び、すべての方におうかがいします

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は1つだけ）。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

1. すべての家具類に対策を行っている	2.9%	3. 対策をしている家具類は少ない	33.8
2. 対策をしている家具類が多い	23.8	4. 対策を行っていない	36.4
		無回答	3.1

（問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方に）

問7-1 どのような理由からですか（○はあてはまるものすべて）。 回答者数 1,116

1. 方法がわからない	13.6%
2. 金具などが高価である	8.7
3. 家具にキズをつけたくない	7.9
4. 建物の壁にキズをつけたくない	23.7
5. 建物に取り付ける場所がない	14.5
6. 室内に危険性のある家具類がないため不要である	25.4
7. 面倒である	28.9
8. 手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない	13.8
9. 地震で家具が倒れたり移動するとは思わない	7.2
10. (賃貸のため)勝手に取り付けられない	20.3
11. その他	3.3
無回答	1.3

問8 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は1つだけ）。

1. 知っている	54.0%	2. なんとなく見当がつく	33.0	3. 知らない	11.8
				無回答	1.3

（問8で「1. 知っている」とお答えの方に）

問8-1 避難場所をどのように知りましたか（○はあてはまるものすべて）。 回答者数 858

1. あだち広報	38.8%
2. タウンページ内の行政情報（旧 わたしの便利帳）	14.3
3. インターネット（区のホームページ、A-メール、ツイッター、フェイスブック）	8.5
4. 足立区防災ナビ	25.4
5. あだち防災マップ&ガイド	46.6
6. 区公式アプリ「アダチさん」	1.2
7. ポスター、チラシ	4.0
8. 区が配布した資料	24.5
9. 町会・自治会の掲示板・回覧板	26.9
10. 新聞（区内紙）	1.6
11. J:COM足立（ケーブルテレビ）	1.9
12. 防災訓練	16.0
13. 人から聞いた	8.0
14. その他	2.3
15. 覚えていない	3.4
無回答	0.1

問9 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

1. 避難所	54.7%	4. 車や公園など	6.0
2. 別居している家族や親戚の家	21.4	5. その他	2.2
3. 友人・知人などの家	1.9	6. 考えていない	12.3
		無回答	1.4

問10 あなたが、大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

1. 町会・自治会などへの地域の防災力向上に係る支援	22.3%
2. 子どもへの防災教育の充実	9.1
3. 講演会などによる普及啓発や区主催の訓練	1.9
4. 耐震診断・耐震改修事業などの促進	15.2
5. 木造密集地域など災害危険箇所の解消	13.7
6. ライフラインやエネルギーの確保	58.1
7. 関係機関・他自治体などとの応援体制の充実	11.2
8. 災害に関する情報提供体制の充実	18.6
9. 災害時医療体制の充実	42.7
10. 帰宅困難者対策	19.4
11. 避難所の管理運営体制の充実	19.0
12. 避難所施設の設備などの充実	42.5
13. 災害時における要配慮者（※）対策の充実	13.1
14. 女性の視点に立った防災対策	14.8
15. 災害時のペット対策	11.1
16. 水・食料の備蓄の充実	59.7
17. 非常用トイレの確保など衛生対策の充実	63.3
18. その他	1.2
19. 特にない	1.1
無回答	1.4

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

## 洪水対策について、おうかがいします

足立区は低地で平らな土地であるため、台風などの大雨により河川がはん濫すると、最大で5mの浸水被害が起こる可能性があります。

問11 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

1. 見て、自宅周辺の状況を理解した	37.2%	3. そのような地図は見たことがない	17.3
2. 見たが、内容までは覚えていない	41.3	無回答	4.2

問12 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか

（○はそれぞれ1つずつ）。

	避難する	避難しない	わからない	無回答
ア. 足立区に大雨・洪水警報が出されたとき	22.4%	54.2	17.9	5.5
イ. 自宅付近が浸水したとき	52.4	26.4	15.6	5.6
ウ. 近所の人が避難をしているのを見たとき	55.7	17.8	20.6	6.0
エ. 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき	33.6	40.1	20.3	5.9
オ. 区から避難勧告・指示が発令されたとき	77.9	7.2	10.5	4.4

問13 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されま

す。そのとき、あなたは最初にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

1. 自宅の高層階（3階以上）	25.1%	6. 区外の浸水しない高台など	2.1
2. 近くの高い建物	17.3	7. 自宅が高層階にあるため避難はしない	16.6
3. 近くの学校や公共施設	26.7	8. その他	1.1
4. 区内の親戚や知人の家	1.5	9. わからない	5.9
5. 区外の親戚や知人の家	2.1	無回答	1.6

区の情報発信のあり方について、おうかがいします

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム(A-メール)などで区の情報発信するほか、平成25年度からはツイッターやフェイスブック、平成28年度からはスマートフォン用アプリ(アダチさん)による情報発信も開始しました。

問14 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか

(○はあてはまるものすべて)。

1. あだち広報	71.1%	7. 町会・自治会の掲示板・回覧板	30.4
2. ときめき	31.9	8. 新聞(区内紙、一般紙)	13.4
3. タウンページ内の行政情報 (旧 わたしの便利帳)	9.2	9. テレビ、ラジオ	21.9
4. インターネット (区のホームページ、A-メール、 ツイッター、フェイスブック)	33.4	10. J:COM足立(ケーブルテレビ)	7.6
5. ポスター、チラシ	12.6	11. 人から聞く	10.6
6. 区民事務所などの窓口	5.5	12. 防災無線	10.4
		13. その他	0.4
		14. 特に入手していない	8.2
		無回答	1.3

問15 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか(○はあてはまるものすべて)。

1. 財政状況や予算などに関する情報	27.4%
2. 国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報	50.9
3. 健診や生活支援など健康や福祉に関する情報	62.5
4. 出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報	23.5
5. イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報	27.7
6. 災害や気象に関する情報	59.8
7. 光化学スモッグや大気測定などの測定値情報	22.6
8. ごみ・リサイクルなど環境に関する情報	47.9
9. その他	1.7
10. 特になし	5.9
無回答	1.6



問16 あなたは、必要なときに必要とする区の情報を得られていますか（〇は1つだけ）。

1. 十分に得られている	4.0%	3. 得られないことが多い	10.0	5. 必要と思ったことがない	8.9
2. ある程度得られている	68.0	4. まったく得られない	1.7	6. 区の情報に関心がない	4.1
				無回答	3.3

↓  
問16-1、2へお進みください

※問16で、選択肢の「1」「2」「5」「6」のいずれかに〇のついた方は、

次ページの「健康について」にお進みください。

（問16で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に）

問16-1 主にどのような理由からですか（〇は1つだけ）。

回答者数 186

1. 情報が探しにくい	30.6%	4. 情報の内容がわかりにくい	15.1
2. 情報の探し方がわからない	28.0	5. 情報量が少ない	14.0
3. 情報伝達が遅い	2.2	6. その他	2.2
		無回答	8.1

（同様に、問16で「3. 得られないことが多い」、または「4. まったく得られない」とお答えの方に）

問16-2 問16-1の回答のように思われるのは、どうしてですか。理由をお書きください。

あだち広報	
区ホームページ	
その他	

健康について、おうかがいします

足立区では、患者数が多く、重症になると生活の質が低下してしまう糖尿病対策に、重点的に取り組んでいます。

問17 あなたは、「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～（※）」  
 を知っていますか（○は1つだけ）。



1. 内容まで知っている	11.3%	3. 知らない（初めて聞いた）	59.2
2. 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	26.7	無回答	2.8

※ 糖尿病予防や糖尿病の悪化防止のために「野菜から食べる」「野菜をよくかんで食べる」ことを推進する足立区のキャッチフレーズです。

問18 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか（○はあてはまるものすべて）。

1. 神経障がい（手足のしびれ）	30.3%	5. 脳梗塞 <sup>こうそく</sup>	27.9	9. 失明	65.2
2. 網膜症	28.4	6. 心筋梗塞 <sup>こうそく</sup>	30.3	10. 足の壊疽 <sup>えそ</sup>	64.9
3. 白内障	18.9	7. 口の渇き	45.8	11. その他	0.6
4. 腎不全	38.9	8. 人工透析	44.3	12. わからない	7.6
				無回答	2.8

問19 野菜から食べることは、糖尿病予防に効果がありますが、あなたは、野菜から食べていますか（○は1つだけ）。

1. 食べている	67.2%	2. 食べていない	23.5	3. わからない	7.2	無回答	2.0
----------	-------	-----------	------	----------	-----	-----	-----

※糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜をよくかんで食べるのが効果的です。

問20 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか（○は1つだけ）。

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

1. できている	9.7%	3. あまりできていない	37.6	5. わからない	4.8
2. だいたいできている	32.7	4. できていない	13.1	無回答	2.1

問21 あなたの体調や習慣、身近な医療機関についてお答えください（〇はそれぞれ1つずつ）。

	あてはまる	あてはまらない	無回答
ア. 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	23.9%	72.4	3.7
イ. 習慣的にタバコを吸っている	19.1	76.9	4.0
ウ. 安心して受診できる医療機関が身近にある	65.4	30.8	3.8

問22 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください（〇はあてはまるものすべて）。

1. 毎年健康診断を受けている	65.7%
2. がん検診を定期的を受けている	20.3
3. 毎日朝ごはんを食べている	65.0
4. 毎食、野菜料理（サラダ、お浸し、野菜の煮物、野菜炒め、具たくさん味噌汁など）を食べるようにしている	42.2
5. 主食、主菜、副菜をそろえて食べるようにしている	35.8
6. 食品の表示（栄養成分表示など）を見て購入している	18.4
7. 日ごろ、健康のために適度に運動（スポーツを含む）をするか身体を動かしている	37.0
8. その他	2.3
9. 特にない	6.1
無回答	1.9

問23 あなたは普段、ご自分のことを健康だと感じていますか（〇は1つだけ）。

1. 非常に健康だと思う	4.2%	3. あまり健康ではない	25.7
2. 健康な方だと思う	62.1	4. 健康ではない	5.9
		無回答	2.1

問24 足立区では区民向けのがん検診を実施していますが、がん検診の制度について、どのよう  
に感じていますか（〇はあてはまるものすべて）。

1. がん検診を申し込む手続きが面倒である	17.5%
2. 医療機関の予約が取りづらい	12.7
3. かかりつけ医や受診したいと思う医療機関が実施医療機関に入っていない	11.6
4. 実施日や場所が限られていて、受診が難しい	13.8
5. 忙しくて、平日は受けられない	23.7
6. 実施日時や方法など、制度がわかりにくい	12.3
7. 自分が対象かどうかわからない	18.1
8. 検診費用の自己負担額が高そうである	14.4
9. 女性特有のがん検診（乳がん検診や子宮頸がん検診）に抵抗がある	6.9
10. 健康に自信があるので検診の必要性を感じない	4.4
11. その他	9.8
12. わからない	14.3
無回答	8.7

問25 あなたは、「ゲートキーパー（※）」という言葉を知っていますか（〇は1つだけ）。

1. 内容まで知っている	2.5%	3. 知らない	
2. 詳しくは知らないが、 言葉は聞いたことがある	11.6	(初めて聞いた)	83.5
		無回答	2.5

※「ゲートキーパー」とは、自殺のサインに気づき、適切な相談機関へつなぐ「いのちの門番」のことです。

## スポーツについて おうかがいします

問26 あなたは日常的に、どの程度運動・スポーツを行っていますか（○は1つだけ）。

※ ルールにもとづいて勝敗や記録を競うスポーツだけでなく、健康づくりのためのウォーキングや気分転換に行う軽い体操、自然に親しむハイキング、介護予防のためのトレーニングなど、目的をもった身体活動の全てを含みます。

1. 30分以上の運動を週2回以上	18.0%	6. 運動・スポーツはしていない	42.1
2. 週2回以上（時間は問わない）	13.1	⇒ 問27へお進みください	
3. 週1回程度（時間は問わない）	10.7	無回答	1.7
4. 月1回～3回程度（時間は問わない）	8.7		
5. 年に数回（時間は問わない）	5.8		

（問26で1～5のいずれかをお答えの方に）

問26-1 あなたが最近、継続的に行っている運動・スポーツは何ですか

（○はあてはまるものすべて）。 回答者数 894

1. 野球・ソフトボール	2.8%	14. 健康体操（エアロビクス	21.9
2. サッカー・フットサル	2.0	・リズム体操・ストレッチな	
3. バasketボール	1.5	ど）	10.0
4. バレーボール	1.6	15. ラジオ体操	1.2
5. ビーチボールバレー	0.2	16. 武道（柔道・剣道・空手な	3.8
6. テニス	3.4	ど）	
7. ファミリーテニス	0.2	17. ダンス	8.5
8. バドミントン	1.0	18. 水泳・水中運動	4.1
9. 卓球	1.7	（ウォーキングなど）	0.3
10. ゴルフ	7.9	19. 登山・ハイキング	46.2
11. ゲートボール		20. 陸上競技	8.6
・グラウンドゴルフ	0.9	21. ウォーキング	8.3
12. ボウリング	2.0	22. ジョギング・マラソン	6.8
13. 筋力トレーニング	20.8	23. サイクリング	4.0
		24. 太極拳、ヨーガ	0.6
		25. その他	
		無回答	

(同様に、問26で1～5のいずれかをお答えの方に)

問26-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか

(〇はあてはまるものすべて)。 回答者数 894

1. 自宅	28.5%	9. 河川敷	11.7
2. 自宅周辺	41.7	10. 区営野球場・運動場 ・テニスコート	2.2
3. 区立小中学校（含む学校開放）	4.0	11. 区立公園	7.3
4. 区内都立高等学校 ・私立高等学校・大学	0.0 4.4	12. 都立公園	4.6
5. 地域体育館 （含むトレーニングルーム）	3.6	13. 区内民間施設	6.5
6. 区営プール	4.7	14. 区内その他施設	3.8
7. 住区センター	6.3	15. 区外施設	10.2
8. 総合スポーツセンター		16. その他	12.0
		無回答	3.6

**※問27からは、再び、すべての方におうかがいします。**

問27 あなたは、障がい者スポーツについて、どのようなことをしてみたいですか

(〇はあてはまるものすべて)。

1. 障がい者スポーツの試合を観戦してみたい（テレビやインターネットでの観戦を含む）	22.4%
2. 障がい者スポーツを体験してみたい	6.7
3. 障がい者スポーツを支援するボランティアをしてみたい	3.9
4. 障がい者スポーツの指導をしてみたい	0.5
5. その他	0.5
6. すでに障がい者スポーツの観戦や体験をしている	1.5
7. すでに障がい者スポーツに対する支援や指導をしている	0.4
8. 特にない	48.6
9. わからない	18.7
無回答	3.1

問28 あなたは、スポーツボランティア活動について、どのようなことをしてみたいですか

(〇はあてはまるものすべて)。

1. 運動・スポーツの指導者のボランティア	3.0%
2. スポーツ大会やイベントなどの運営ボランティア	8.3
3. スポーツ教室などの運営ボランティア	3.5
4. 障がい者スポーツのボランティア	3.8
5. 町会・自治会など、地域のスポーツ行事のボランティア	6.2
6. その他	0.4
7. すでにスポーツボランティアの活動を行っている	0.9
8. 特にない	61.0
9. わからない	18.3
無回答	3.1

問29 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区の取り組みで関心があることは何ですか（〇は3つまで）。

1. 会場での応援活動	12.3%
2. 会場外での観戦（パブリックビューイングなど）	13.6
3. 大会を盛り上げるPR活動やイベントの実施	9.7
4. 選手の育成や支援	8.6
5. 大会関連ボランティアの支援	6.4
6. 障がい者スポーツの普及・振興・環境整備・ボランティアの養成	5.5
7. バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	10.1
8. 国際交流の促進	10.8
9. 日本文化の発信	6.8
10. 交通網・交通インフラの整備	23.0
11. スポーツ施設や用具の整備	6.5
12. 区内への観光客の増加	7.0
13. 区内産業の活性化	7.6
14. その他	1.3
15. 特にない	38.3
無回答	4.3

問30 東京2020大会はスポーツ・文化の祭典です。さらに、ボランティアが活躍できる場でもあります。そこで、あなたが新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動などはありますか（〇は1つだけ）。

1. ある	16.2%	3. 今までの活動を継続	5.7
2. ない	74.3	無回答	3.8

（問30で「1. ある」、または「3. 今までの活動を継続」とお答えの方に）

問30-1 それは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。 回答者数 348

1. スポーツをする・スポーツを観戦する	69.8%	4. ボランティア活動	22.4
2. 文化活動をする（※）・伝統文化などを観る	22.4	5. その他	1.1
3. 語学（英語等）	20.4	無回答	0.9

※ 文化活動とは、華道、茶道、書道などの日本文化や音楽、美術、写真、舞踊などのスポーツ以外の習い事や趣味的な活動とお考えください。

（問30で「2. ない」とお答えの方に） ←

問30-2 どのようなきっかけがあれば始めてみようと思いますか

（〇はあてはまるものすべて）。回答者数 1,181

1. スポーツ・文化・ボランティアに関する講座やイベントの開催	8.0%	4. スポーツ・文化・ボランティア活動や団体の情報提供	9.7
2. オリンピアン・パラリンピアンとの交流	4.2	5. 始めようとは思わない	71.4
3. 外国人との交流	7.0	6. その他	3.5
		無回答	1.2

問31 足立区の温水プールは65歳以上、その他のスポーツ施設は70歳以上の区民（高齢者）は無料で使用できます。

この高齢者免除制度について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（〇は1つだけ）。

1. 高齢者も施設使用料は全額負担すべき	5.3%
2. 高齢者も施設使用料は半額など一部を負担すべき	15.5
3. 適用される年齢を引き上げるべき	1.9
4. 所得制限を設定すべき	12.3
5. 現行のまま継続すべき	43.8
6. その他	2.1
7. わからない	15.8
無回答	3.5

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、おうかがいします

問32 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか（〇は1つだけ）。

※「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。



イメージキャラクター「ビュー坊」

1. 知っていて、活動を実践している	4.8%	3. 名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	20.7
2. 知っているが、特に何も行っていない	21.1	4. 知らない（初めて聞いた）	51.0
		無回答	2.4

問33 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」に関連する取り組みのうち、あなたが現在参加している、もしくは今後参加したいものは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

1. 防犯パトロール運動	9.7%	4. 公園、児童遊園、プチテラスなどの管理活動	5.5
2. 花の育成活動	12.0	5. 違反広告物除却活動	3.7
3. まちの清掃活動	15.8	6. 参加していない（今後も参加しない）	63.7
		無回答	3.9



問34 あなたの行動範囲で、「花のあるまちかど事業（※）」の『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』を見たことがありますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

※「花のあるまちかど事業」とは、玄関先や店先で鉢植えやプランターを飾ったり、公園や公共施設などの花壇で花を育てることにより、まちを彩ることと、花の手入れを行う際の人々の目で犯罪を抑止しようとする事業です。植木鉢などに『花のビュー坊プレート』や『ビュー坊のガーデンピック』をさして、事業をアピールしています。



プレート

ピック

	すでに使用している	見たことがあり、名称なども知っている	見たことはあるが、名称などは知らなかった	名称などは知っているが、見たことはない	見たことはない（初めて知った）	無回答
ア. 花のビュー坊プレート	2.0%	4.6	18.7	5.8	64.3	4.5
イ. ビュー坊のガーデンピック	0.9	3.8	18.4	5.5	66.7	4.8

問35 あなたは、足立区内の刑法犯認知件数（※）が、ピーク時から1万件以上、減少していることを知っていますか（〇は1つだけ）。

※ 警察が犯罪について、被害の届出などによりその発生を確認した件数。ただし、交通違反などを除きます。

1. 知っている	38.4%	2. 知らない（初めて聞いた）	58.5	無回答	3.1
----------	-------	-----------------	------	-----	-----

問36 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか  
（〇は1つだけ）。

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

1. 良い	9.2%	3. どちらかといえば悪い	22.1	5. わからない	12.8
2. どちらかといえば良い	49.1	4. 悪い	4.3	無回答	2.5

（問36で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に）

問36-1 どのような点で治安が良いと感じますか（〇は2つまで）。 回答者数 927

1. 防犯カメラが増えたことで、安心感があるから	35.7%
2. テレビや新聞などで犯罪発生ニュースが少ないから	14.9
3. 犯罪の発生件数が減っているということを知ったから	21.9
4. 自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから	48.0
5. 青パト車など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから	14.3
6. 道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから	24.2
7. 防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから	7.7
8. その他	1.6
無回答	0.6

（問36で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に） ←

問36-2 どのような点で治安が悪いと感じますか（〇は2つまで）。 回答者数 419

1. 殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから	17.7%
2. 自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発していると聞いたことがあるから	50.4
3. 子どもに対する「不審な声かけ事案など」の発生が多いと聞いたことがあるから	29.6
4. 街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから	19.3
5. 深夜の公園やコンビニに若者が集まっているところを見かけるから	19.3
6. 隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから	21.2
7. その他	16.0
無回答	0.5

ここから再び、すべての方におうかがいします

問37 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか  
(〇は2つまで)。

1. 犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供	17.4%
2. 防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援	56.0
3. 地域住民による防犯パトロール活動への支援（防犯用品の貸与など）	9.4
4. 防犯講習会の開催	1.9
5. 街頭キャンペーンやイベントの実施	2.5
6. 安全に配慮した道路、公園の整備	41.2
7. 安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール	38.0
8. その他	2.8
9. 特にない	3.1
無回答	3.5

問38 あなたは、自転車を駐車するときには、自転車に鍵をかけていますか  
(〇はそれぞれ1つずつ)。

	いつも鍵をかけている	鍵をかけることが多い	短時間のときは鍵をかけないことがある	鍵をかけることは少ない	鍵はかけていない (鍵がついていないを含む)	自転車を 持っていない、使っていない	無回答
ア. 外出先で駐車するとき	71.2%	3.6	2.0	0.8	0.6	18.8	3.0
イ. 自宅・マンションなどの敷地内に駐車するとき	60.1	3.5	1.4	5.5	7.5	18.8	3.1

環境・地域活動について、おうかがいします

問39 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（〇はあてはまるものすべて）。

1. ごみと資源の分別を実行している	86.3%
2. 節電や節水など省エネルギーを心がけている	50.3
3. くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている	40.8
4. マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	56.5
5. 環境に配慮した製品を選んで使っている	10.5
6. 家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある	27.9
7. その他	0.6
8. 特にない	3.6
無回答	1.7

問40 あなたは、「食品ロス」という言葉を知っていますか（〇は1つだけ）。

1. 知っている	87.4%	2. 知らない（初めて聞いた）	10.8	無回答	1.8
----------	-------	-----------------	------	-----	-----

（問40で「1. 知っている」とお答えの方に）

問40-1 あなたが、食品ロス削減のために心がけていることは何ですか

（〇はあてはまるものすべて）。 回答者数 1,390

1. 残さず食べるようにしている	75.7%
2. 料理を作りすぎない	47.7
3. 大根の葉やキャベツの芯など棄てるものがないよう調理を工夫する	26.5
4. 買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする	43.4
5. 買い物前に必要なものをメモに書く	44.4
6. 買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る	9.3
7. 外食時に食べられる分だけ注文する	57.5
8. その他	1.5
9. 特に心がけていることはない	3.9
無回答	0.1

問41 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

内 容	この1年間に 参加された活動	引き続き、また は今後参加した いと思う活動
1. 町会や自治会の運営に関する活動	10.4%	8.0%
2. 町会や自治会、老人会、子ども会などの イベントや催し物	13.7	12.6
3. 花火大会や光の祭典などの区が主催する 各種のイベントや催し物	17.9	21.3
4. ボランティアやNPO（民間の非営利 活動の組織）などの活動	2.8	4.6
5. まちの美化活動（ごみ拾い、門掃き、 公園の清掃など）	9.2	12.2
6. 自宅の庭や玄関先、または公共の場 で、 プランターや植木鉢に草花を植えるな ど、緑を増やしたり、育てる取り組み	15.9	17.6
7. 防犯パトロールなどのまちの防犯に 関する活動	5.4	6.5
8. 区内の文化施設や催しで、音楽や芸術 の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会 （映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催 しも含む）	8.4	16.4
9. 地域学習センターや地域で行われる 講演会や講座、サークル活動など （PTAや大学の公開講座なども含む）	8.0	12.1
10. 家族、地域の健康づくりを支援する活 動（健康講座に友人を誘う、講座で得 た知識を周囲の人に伝えるなど）	2.6	5.7
11. 特に参加していない・特にない	45.5	34.3
無回答	11.3	16.9

「孤立ゼロプロジェクト」などについて、おうかがいします

問42 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか  
（○は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

1. 知っていて、内容も概ね理解している	8.8%	3. 知らない（初めて聞いた）	67.3
2. 聞いたことはあるが、内容はわからない	20.4	無回答	3.5

問43 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」とは、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

1. 知っていて、業務内容も概ね理解している	24.3%	3. 知らない（初めて聞いた）	40.8
2. 聞いたことはあるが、詳しくはわからない	32.0	無回答	3.0

問44 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

1. 積極的に協力したい	1.4%	4. 興味がない、協力したくない	10.0
2. 負担にならない範囲で協力してもよい	17.2	5. わからない	31.7
3. 協力したいが、時間などに余裕がない	35.7	無回答	4.0

（問44で「1. 積極的に協力～」、または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に）  
問44-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。回答者数 296

1. 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動	41.2%
2. 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動	53.0
3. 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動	31.8
4. 活動を支援するための寄付や基金などへの金銭的援助	10.5
5. その他	3.0
無回答	1.7

問45 あなたは、高齢者などの権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか

(〇は1つだけ)。

1. 内容まで知っている	22.5%	3. 知らない	37.5
2. 聞いたことはあるが、内容はわからない	36.2	無回答	3.8

協働・協創について、おうかがいします

問46 「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。

あなたは、この「協創」を知っていますか (〇は1つだけ)。

1. 知っている	3.7%	2. 聞いたことはある	11.4	3. 知らない (初めて聞いた)	81.7	無回答	3.1
----------	------	-------------	------	---------------------	------	-----	-----

(問46で「1. 知っている」とお答えの方に)

問46-1 あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など、区役所・区民・団体との協力・連携(協働)や自主的な取り組み・活動(協創)を実践していますか

(〇は1つだけ)。 回答者数 59

1. すでに、活動を実践している	23.7%	3. 関心がない	11.9
2. 関心はあるが、特に活動していない	64.4	無回答	0.0

問47 あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など、区役所・区民・団体の協力・連携(協働)や自主的な取り組み・活動(協創)による事業が進んでいると感じていますか (〇は1つだけ)。

1. そう思う	3.6%	3. どちらかといえばそう思わない	10.0	5. わからない	54.8
2. どちらかといえばそう思う	18.5	4. そう思わない	7.9	無回答	5.2

足立区の取り組みについて、おうかがいします

問48 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、ア～シの項目ごとに、最も近いものを選んでください

（〇はいずれも、それぞれ1つずつ）。

区の取り組み	内 容	現状評価 (満足度)				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	10.9%	52.5	16.3	4.0	16.3
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	6.9	51.9	19.9	4.4	16.9
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	5.8	53.7	20.8	2.8	16.9
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	4.9	51.2	23.0	2.0	18.9
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	6.7	49.2	22.1	3.2	18.8
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	7.1	53.8	19.1	3.0	17.0
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	8.0	45.9	26.2	5.4	14.5
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	7.1	45.7	25.5	4.0	17.6
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	9.2	53.3	18.7	2.6	16.1
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	7.5	42.5	24.8	8.9	16.2
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	5.0	46.2	26.0	3.6	19.1
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	9.0	46.7	23.8	5.4	15.0

次ページへ続く



区の取り組み	内 容	現状評価 (満足度)				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	15.1%	57.1	13.6	2.1	12.1
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	6.9	47.0	25.7	7.0	13.4
ソ. 住環境対策	多様で良好な住宅供給、中古住宅市場の活性化、空き家利活用、公共住宅の再生など	4.2	38.7	34.5	7.5	15.2
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	6.7	43.1	27.8	9.1	13.3
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	5.0	45.5	29.9	4.5	15.2
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	12.0	53.0	19.0	2.8	13.2
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	11.1	54.2	17.0	3.4	14.3
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	16.3	50.3	15.8	5.8	11.8
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など	7.0	50.3	22.3	5.7	14.8
ニ. 区政全体として		7.9	54.3	18.4	3.3	16.1

区の取り組み	内 容	重要度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	55.2%	26.5	2.8	1.7	13.9
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	50.5	30.7	2.6	1.5	14.7
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	21.9	49.1	11.4	2.5	15.0
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	15.2	49.7	16.5	3.0	15.6
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	21.1	41.9	17.4	4.2	15.4
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	22.6	45.8	14.7	1.9	15.0
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	45.7	35.0	4.8	2.0	12.5
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	41.1	37.9	5.7	1.6	13.6
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	40.8	39.1	5.7	0.4	14.0
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	32.3	39.8	10.8	3.9	13.2
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	23.3	45.8	13.7	1.6	15.6
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	55.5	27.7	3.4	0.6	12.8

次ページへ続く

区の取り組み	内 容	重要度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	44.4%	37.4	2.9	0.6	14.7
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	33.1	42.8	7.8	1.3	15.0
ソ. 住環境対策	多様で良好な住宅供給、中古住宅市場の活性化、空き家利活用、公共住宅の再生など	32.5	42.5	8.9	0.7	15.3
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	47.4	34.3	3.2	0.4	14.7
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	49.7	32.3	2.4	0.3	15.3
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	31.5	44.7	8.1	0.6	15.1
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	28.4	45.8	9.2	1.2	15.4
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	33.7	40.5	9.1	1.9	14.8
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など	36.1	40.9	6.2	0.9	15.8

問49 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか（〇は1つだけ）。

1. そう思う	3.7%	4. そう思わない	6.5
2. どちらかといえばそう思う	24.9	5. わからない	36.2
3. どちらかといえばそう思わない	17.9	無回答	10.8

問50 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にそれぞれどの程度あてはまりますか  
(〇はそれぞれ1つずつ)。

	そう思う	どちらか といえは そう思う	どちらか といえは そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い	無回答
ア. 足立区に愛着をもっている	29.2%	45.3	7.4	5.7	7.1	5.3
イ. 足立区に誇りをもっている	14.2	38.5	16.5	11.5	13.6	5.7
ウ. 足立区を人に勧めたい	12.8	38.9	14.3	10.8	16.7	6.4
エ. 足立区を良いまちにするために何かしたい	11.7	41.1	12.8	7.0	20.7	6.7
オ. 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する	29.8	45.5	4.8	3.5	10.4	5.8

(問50の項目のア. イ. ウ. のいずれかで、

「3. どちらかといえはそう思わない」、または「4. そう思わない」に〇のついた方に)

問50-1 足立区に愛着をもてない、誇りをもてない、足立区を人に勧めたくないと思うのは、どうしてですか。理由をお書きください。

-----
-----

問51 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

-----
-----
-----

⇒次ページにある最後の質問(問52)にもお答えください。

問52 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいします。今回の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか  
(○は1つだけ)。

1. そう思う	28.1%	4. そう思わない	3.8
2. どちらかといえばそう思う	34.1	5. わからない	15.3
3. どちらかといえばそう思わない	9.1	無回答	9.7

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、返信用封筒に入れて 8月26日(月)までにご投函ください。





---

## 第48回 足立区政に関する世論調査

2020年2月発行

発行 足立区

編集 足立区 政策経営部 広報室 区政情報課  
東京都足立区中央本町1-17-1  
電話 03-3880-5111 (代表)

実施 (株) マーケティング・サービス  
東京都中野区中央1-13-8  
電話 03-3363-3111 (代表)

---



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。

ホームページアドレス<http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区 政策経営部 広報室 区政情報課